太宰府市の文化財第 131 集

# 大宰府条坊跡 47

－第 34・53・54・74・173・305・308 次調査－

平成 29(2017) 年

太宰府市教育委員会

# 序

本書は、太宰府市通古賀で実施した発掘調査の報告書です。

調査地は、榎社南方に位置し、かつては通古賀集落の後背地として畑地が広がっていました。

今回報告の調査のうち、第 34 次調査は、大宰府条坊跡において太宰府市が本格的に実施した初期の発掘調査のひとつで、幾度も掘り直された南北道路の側溝が見つかり、古代大宰府にも規格性のある条坊が存在したことが明らかとなった記念すべき現場となりました。また、イスラム陶器の破片も出土し、アジアとの交流を考える上で貴重な成果が得られています。

本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用され、ひいては文化財愛護の精神が高揚することを心より願っております。

結びになりましたが、本調査に対しご理解ご協力いただきました、関係各位ならびに諸機関の方々に心からお礼申し上げます。

平成 29 年 3 月
太宰府市教育委員会
教育長　木村　甚治

# 例　言

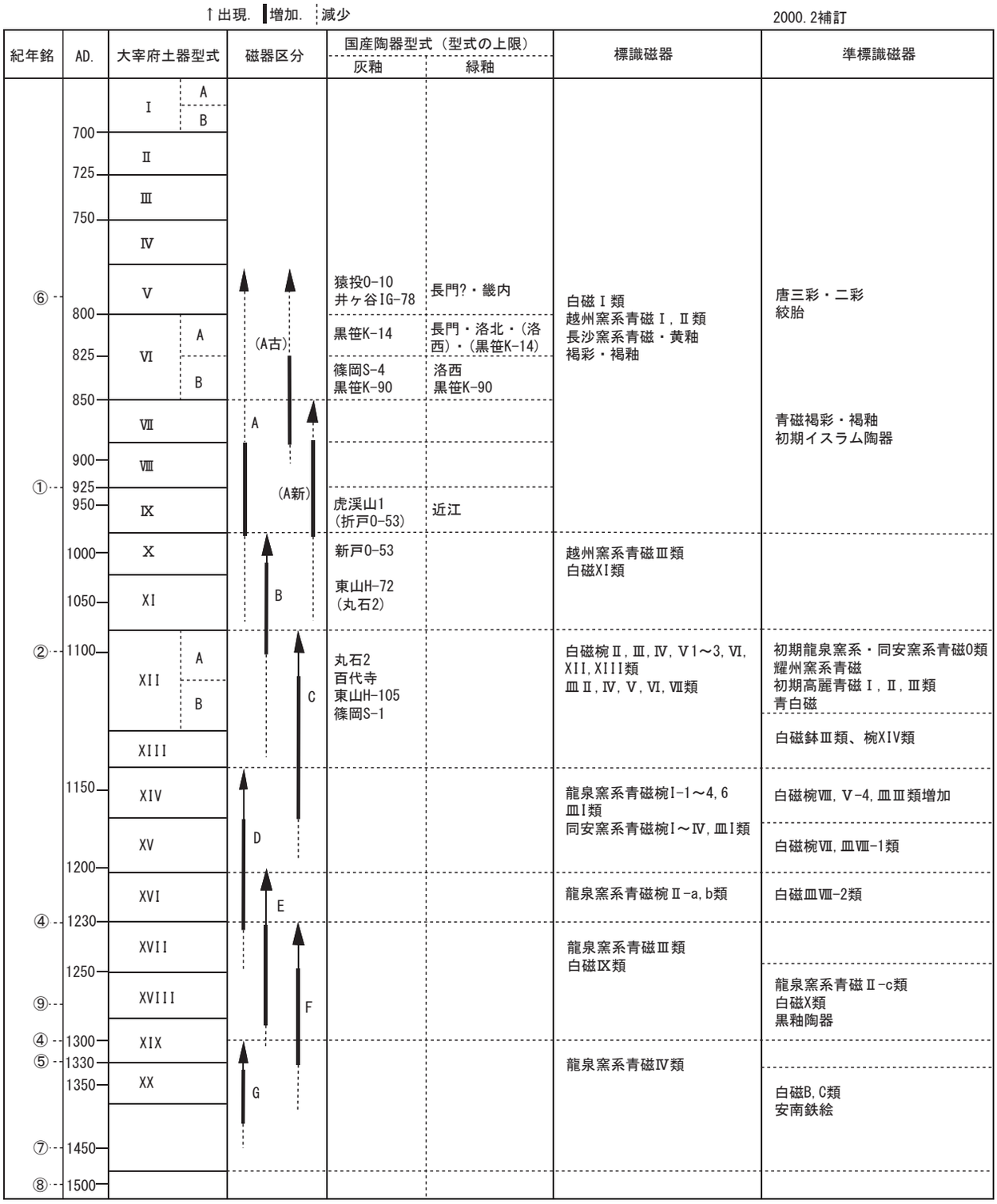
1. 本書は太宰府市通古賀で行われた大宰府条坊跡の発掘調査報告書である。
2. 遺構の実測には、国土調査法第Ⅱ座標系 ( 日本測地系 ) を利用した。したがって本書に示される方位は特に注記のない限り G.N.( 座標北 ) を示し、本文中に記される遺構の角度もこれを基準としたものである。
3. 遺構の実測及び写真撮影は山本、狭川、緒方、髙橋、宮崎が行った。
4. 遺構の空中写真撮影は、空中写真稲冨、㈲空中写真企画が行った。
5. 出土した鉄製品の保存処理は㈱タクトなどが行った。
6. 遺物の実測は、第 34 次調査を山本信夫、狭川真一、緒方俊輔、中島恒次郎、田中克子、森田レイ子、古賀里恵子、大坪聖子が行い、それ以外を山本麻里子、福井円、吉富千春、今岡一恵、宮崎が行った。
7. 表入力・写真整理は、担当者のほか瀬戸口みな子、市川晴美、吉村有紀などが行った。
8. 遺物の整理接合・復元作業は、馬場由美、住山景子、末永亜由子などが行った。
9. 遺物の写真撮影は㈲システム・レコ ( 代表 仲村定美 ) が行った。
10. 図の浄書は、山本麻里子、福井円、吉富千春、今岡一恵、宮崎が行った。
11. 本書に用いた分類は以下のとおり。
    須恵器・・・『宮ノ本遺跡Ⅱ　－窯跡篇－』（太宰府市の文化財第 10 集）1992
    土器・・・・『大宰府条坊跡Ⅱ』（太宰府市の文化財第７集）1983
    陶磁器・・・『大宰府条坊跡 XV- 陶磁器分類 -』（太宰府市の文化財第 49 集）2000
12. 執筆は第 34 次を山本信夫（山本文化財研究所）が行い、一部宮崎が加筆修正している。それ以外の調査の執筆は宮崎が担当した。
13. 編集は宮崎が担当した。

# 目　次


Ⅰ．遺跡の位置と歴史 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
Ⅱ．調査体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
Ⅲ．調査および整理方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
Ⅳ．調査報告
　1．第 34 次調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
　　(1) 調査と報告に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
　　(2) 基本土層 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
　　(3) 検出遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
　　(4) 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
　　(5) 小結 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92
　　◯遺構の考察
　　　[1] 条坊制の検証 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92
　　　[2] 右郭 - 坊路 SF280 について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92
　　　[3] 都市の展開と条坊路面の踏襲 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
　　　[4] 9 世紀前半の祭祀関連土坑 SK010 について ・・・・・・・・・・・・ 96
　　◯遺物の考察
　　　[1] 出土遺物の国際色と畿内との交流 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 96
　　　[2] 初期イスラム陶器について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96
　　　[3] 国産緑釉・灰釉施釉陶器の出土傾向 ・・・・・・・・・・・・・・・100
　　　[4] 墨書土器について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・103
　　　[5] 金銅製眉刷毛の珍しい出土例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・105
　　　[6] 9 世紀土器の傾向分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・106
　　　[7] 貿易陶磁の検討 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・109
　　　[8] 貿易陶磁と階層性について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・110
　　　[9] 黒色土器 B 類の塗布例について ・・・・・・・・・・・・・・・・・111
　　　[10] 白色土器と緑釉陶器素地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・112
　2．第 53 次調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・136
　　(1) 調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・136
　　(2) 基本層位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・136
　　(3) 検出遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・138
　　(4) 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・138
　　(5) 小結 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・159
　3．第 54 次調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・164
　　(1) 調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・164
　　(2) 基本層位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・164
　　(3) 検出遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・164
　　(4) 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・168

(5) 小結 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・196
4．第 74-1 次調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・208
(1) 調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・208
(2) 基本層位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・208
(3) 検出遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・208
(4) 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・208
(5) 小結 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・209
5．第 74-2 次調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・211
(1) 調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・211
(2) 基本層位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・211
(3) 検出遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・211
(4) 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・212
(5) 小結 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・215
6．第 173 次調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・217
(1) 調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・217
(2) 基本層位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・217
(3) 検出遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・217
(4) 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・217
(5) 小結 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・219
7．第 305 次調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・220
(1) 調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・220
(2) 層位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・220
(3) 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・220
(4) 小結 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・222
8．第 308 次調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・223
(1) 調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・223
(2) 基本層位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・224
(3) 検出遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・225
(4) 出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・226
(5) 小結 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・246
Ⅴ．調査まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・251

写真図版・・・主な遺構および遺物写真
附録 CD・・・遺構および遺物写真




紀年銘資料

①A.D.927　延長5年,大宰府74次SD205A溝
②A.D.1091 寛治5年,平安京左京4条1坊SE8井戸
③A.D.1224 貞応3年,大宰府33次SD605溝
④A.D.1304 嘉元2年,大宰府109.111次SD3200溝
⑤A.D.1330 元徳2年,大宰府45次SX1200池
⑥A.D.784　延暦3年,長岡京102次SD10201溝
⑦A.D.1459･1465 長禄3･寛正5年,福岡市井相田CII･SG16池
⑧A.D.1501 文亀元年,大宰府70次SD1805溝
⑨A.D.1265 文永2年,博多62次713土壙

文献

①九州歴史資料館　「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
②田辺昭三･吉川義彦　「平安京跡発掘調査報告左京四条一坊」1975 平安京調査会
③九州歴史資料館「大宰府史跡昭和49年度発掘調査概報」1975
④九州歴史資料館「大宰府史跡昭和63年度発掘調査概報」1989
⑤九州歴史資料館「大宰府史跡昭和52年度発掘調査概報」1978
⑥長岡京市埋蔵文化財センター「長岡京市埋蔵文化財調査報告書第1集」1988
⑦福岡市教育委員会「井相田C遺跡II」「福岡市埋蔵文化財調査報告書179」1988
⑧九州歴史資料館「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
⑨福岡市教育委員会「博多48」「福岡市埋蔵文化財調査報告書397」1995

図 1 大宰府土器型式と国産陶器・貿易陶磁編年

1.大野城跡
2.岩屋城跡
3.陣ノ尾一号墳
4.筑前国分寺跡
5.辻遺跡
6.国分松本遺跡
7.筑前国分尼寺跡
8.国分千足町遺跡
9.御笠団印出土地
10.水城跡
11.大宰府政庁跡
12.観世音寺
13.遠賀団印出土地
14.大宰府条坊跡(方形破線内)
15.君畑遺跡
16.般若寺跡
17.市ノ上遺跡
18.神ノ前窯跡
19.原口遺跡
20.篠振遺跡
21.前田遺跡
22.宮ノ本遺跡
23.雛川遺跡
24.フケ遺跡
25.尾崎遺跡
26.脇道遺跡
27.殿城戸遺跡
28.剣塚遺跡
29.唐人塚遺跡
30.峯・峯畑遺跡(●は峯火葬墓)
31.太宰府天満宮(安楽寺跡)
32.浦城跡
33.原遺跡
34.京ノ尾遺跡
35.カヤノ遺跡
36.報告地点

Fig.1　太宰府市とその周辺の遺跡（1/30,000）

Fig.2　調査地と周辺調査地点（1/5000）

## Ⅰ．遺跡の位置と歴史

太宰府市は、北に四王寺山、北東に宝満山、南に脊振山地東端の天拝山に囲まれ、さながら盆地的な様相を示している。これらの山々が途切れている北西に福岡平野が、南東に筑後平野が広がっている。市役所から博多湾まで直線距離で 15km、筑後川まで 20km の位置関係である。

旧石器時代や縄文時代の遺物が市内各所の調査で散見されるが、集落などは確認されていない。弥生時代になると、市内の周縁部の平地や微高地に集落が営まれ、弥生中期には高雄地区吉ケ浦遺跡や国分地区松本遺跡で甕棺墓群が見つかっている。古墳時代には前期から中期にかけて、割竹形木棺を内部主体とする円墳 ( 菖蒲浦、下高尾、宮ノ本 ) が築造されている。宮ノ本 12 号墳では、獣帯鏡が副葬され、菖蒲浦古墳では中心主体部に割竹形木棺という畿内型古墳の内部主体を導入しながらも、周囲には箱式石棺や土坑墓を有し、「特定個人 + 特定近親者集団墓」という弥生時代からの在地型の墓制が継続していたことが認められる。また、5 世紀中頃には行政区こそ太宰府市であるが、福岡平野を見渡す丘陵に帆立貝形前方後円墳の成屋形古墳が築造されている。6 世紀になって、四王寺山や高尾山の裾部に円墳が僅かに築造されるが、群集墳と呼べる状況を示していない。

7 世紀になると大宰府政庁が置かれ、博多側には四王寺山と吉松丘陵を塞ぐ水城跡の土塁が築造されたほか、周囲に山々には大野城・基肄城・阿志岐城などの古代山城が築造された。2016 年には筑紫野市前畑遺跡で丘陵上に築造された土塁が発見され、周囲の古代山城と合わせ、羅城を形成していた可能性を示すものとして注目された。

四王寺山の南麓には大宰府政庁、観世音寺、学校院のほかに官衙が並び、その政庁を北辺中央に置いた南側一帯にはいわゆる大宰府条坊と呼ばれる都市が整備された。大宰府条坊はその規模は南北 22 条、東西 12 坊の約 2km 四方におよぶものと推定され、南辺部は筑紫野市まで広がり、『続日本紀』神護景雲 3(769) 年 10 月甲辰の条に「此府人物殷繁、天下之一都会也」と記され、同じく『続日本紀』宝亀元 (770) 年 3 月甲申の条には「大宰管内大風、壊官舎百姓并廬舎一千卅餘口」と記され、都市であったことが理解できる。そして、政庁の正面からは、道幅 36m（奈良時代）の中央大路（推定朱雀大路）が造られていたことが発掘調査からわかっている。

条坊の存在については、鏡山猛氏が『観世音寺文書』や『八幡宇佐宮御神領大鏡』等に記述されている文言や地割から分析し、一区画 1 町四方とした条坊の復元案を提示したことに始まる。当初は発掘調査が少なかったため、その存在については疑問視する声もあったが、大宰府条坊跡第 34 次調査を発端に、御笠川以南で発掘調査が増大すると共に条坊痕跡が多く発見され、近年ではその成果を基に一区画 90m 四方とする条坊復元案が井上信正氏により提示されている。五条 2 丁目で行われた第 217･224 調査では、平安時代中期と 12 世紀埋没の南北道路側溝が検出され、約 90m の区割りでみる条坊案では左郭 12 坊推定ライン上にあたる。『宇佐大鏡』久安４（1148）年条の記述から、12 坊路を「京極大路」とするという見解が鏡山猛氏以来支持されてきたが、その「京極大路」の遺構である可能性が十分考えられる。また、12 坊路に取り付く平安時代後期の道路も明らかになり、平安時代後期の時点で、平安時代中期以降急速に栄えていった安楽寺天満宮周辺の街区と大宰府条坊が接していたことを示すものと考えられている。筑紫野市塔原東 1 丁目（第 258 次調査）では、8 世紀後半埋没の平行する東西溝が検出され、井上信正条坊案の 22 条と合致し、条坊の南限である可能性が指摘されている。条坊外に続く条里の存在も指摘されており、鷺田川西岸一帯には小字「市ノ上」があり、以前から古代の市場の存在が推定されている。その一画である都府楼南 2 丁目の第 222 次調査では広大な面積が調査された。ここは政庁Ⅱ期に条坊外の条里が広がっていた土地で、平安時代後期になり土地開発が

行われたと推測されている。条坊と条里の関係を知る貴重な所見を得ることが出来ている。条坊の中心を南北に走る中央大路 ( 推定朱雀大路 ) 沿いでは、南北に並ぶ大型掘立柱建物が見つかり、一帯からは佐波理の匙や加盤をはじめ、高級食器類が出土し、大宰府に来た外国使節を安置する客館跡と推定されている。また、客館跡近くにある榎社は、菅原道真が謫居されていたと伝えられている場所であるが、2016 年には境内の発掘調査で同時期の掘立柱建物跡や土器埋納遺構が確認された。

そして、条坊周辺では、条坊の南西側の宮ノ本丘陵一帯で、100 基を越える奈良･平安期の墳墓があり、買地券をはじめ鏡や陶磁器類を副葬され、古代大宰府の官人墓地を推測されている。2012 年には条坊の南方にあたる筑紫野市堀池遺跡で、平安前期の越州窯系青磁の唾壺を副葬する木炭槨木棺墓などが見つかり、古代大宰府南辺部の土地利用や官人墓地のあり方を考える上で重要な発見であった。

また、条坊の北西には、筑前国分寺や国分尼寺が建立され、現在でも国分寺の塔心礎などが残されているが、2012 年には、近くの国分松本遺跡で、7 世紀後半の戸籍計帳関係木簡が出土し、大宝律令以前に戸籍・計帳が存在したことを示す資料として注目を浴びている。

## Ⅱ．調査体制

(昭和 57 ／ 1982 年度)・・・第 34 次調査

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 総括 | 教育長 | 陶山直次郎 | | | |
| 庶務 | 社会教育課長 | 西山義則 | | | |
| | 文化財係長 | 黒板　力 | | 主事 | 岡部大治 |
| 調査 | 技師 | 山本信夫 | | | |

(昭和 60 ／ 1985 年度)・・・第 53･54 次調査

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 総括 | 教育長 | 藤　寿人 | | | |
| 庶務 | 社会教育課長 | 花田勝彦 | | | |
| | 文化財係長 | 黒板　力 | | 主事 | 岡部大治 |
| 調査 | 技師 | 山本信夫 | 狭川真一 | | |

(昭和 63 ／ 1988 年度)・・・第 74-1 次調査

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 総括 | 教育長 | 藤　寿人 | | | | |
| 庶務 | 社会教育課長 | 花田勝彦 | | | | |
| | 文化財係長 | 鬼木冨士夫 | | 主事 | 白水伸司 | 川原和典 |
| 調査 | 技師 | 山本信夫 | 狭川真一 | | 緒方俊輔 | |
| | 技師（嘱託） | 山村信榮 | | | | |

(平成元／ 1989 年度)・・・第 74-2 次調査

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総括 | 教育長 | 藤　壽人 | | | | | |
| 庶務 | 教育部長 | 西山義則 | | | | | |
| | 社会教育課長 | 関岡　勉 | | | | | |
| | 文化財係長 | 鬼木冨士夫 | | 主事 | 岡部大治 | 白水伸司 | |
| 調査 | 技師 | 山本信夫 | 狭川真一 | | 城戸康利 | 緒方俊輔 | 山村信榮 |
| | 技師（嘱託） | 中島恒次郎 | | | | | |

(平成 7 ／ 1995 年度)・・・第 173 次調査

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 総括 | 教育長 | 長野治己 | | | | |
| 庶務 | 教育部長 | 白木三男 | | | | |
| | 文化課長 | 花田勝彦 | | | | |
| | 文化財保護係長 | 和田敏信 | | | | |
| | 文化振興係長 | 大田重信 | | | | |
| | 主任主事 | 岡部大治 | 川谷　豊 | | 主事 | 今村江利子 |
| 調査 | 技術主査 | 山本信夫 | | | | |
| | 主任技師 | 狭川真一 | 城戸康利 | 山村信榮 | 中島恒次郎 | |
| | 技師 | 井上信正 | 髙橋　学 | | | |
| | 技師（嘱託） | 下川可容子 | | | | |

（平成 26 ／ 2014 年度）・・・第 305・308 次調査

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 総括 | 教育長 | 木村甚治 | | |
| 庶務 | 教育部長 | 堀田徹 | | |
| | 文化財課長 | 菊武良一 | | |
| | 文化財副課長 | 城戸康利 | | |
| | 保護活用係長 | 友添浩一 | | |
| | 調査係長 | 山村信榮 | | |
| | 事務主査 | 廣見京子 | | |
| | 主事 | 有田ゆきな | 久木原駿史 | |
| 調査 | 主任主査 | 井上信正 | 髙橋　学 | 宮崎亮一 |
| | 主任技師 | 遠藤　茜 | | |
| | 技師 | 沖田正大 | 中村茂央 | |
| （文化財課事務取扱） | | 中島恒次郎（景観・歴史のまち推進係長） | | |

（平成 28 ／ 2016 年度）・・・報告書発行

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 総括 | 教育長 | 木村甚治 | | |
| 庶務 | 教育部長 | 緒方扶美 | | |
| | 文化財課長 | 城戸康利 | | |
| | 保護活用係長 | 江坂研治 | | |
| | 調査係長 | 山村信榮 | | |
| | 事務主査 | 廣見京子 | | |
| | 主事 | 有田ゆきな | 久木原駿史 | |
| 調査 | 主任主査 | 井上信正 | 髙橋　学 | 宮崎亮一 |
| | 主任技師 | 遠藤　茜 | 沖田正大 | 中村茂央 |
| （文化財課事務取扱） | | 中島恒次郎（景観・歴史のまち推進係長） | | |

## Ⅲ．調査および整理方法

調査および整理方法については、『佐野地区遺跡群 I』（太宰府市の文化財第 14 集 1989）、『太宰府市における埋蔵文化財調査指針』（太宰府市教育委員会 2001 年 9 月改訂）に基づいている。

調査では、表土剥ぎをバックホーによって行った。遺構図や土層図は適時 1/10、1/20 等で記録し、遺構全体図は人力によって 1/20 の縮尺で実測を行った。

整理に際し、時期が特定できそうな遺物については、実測作業を行っている。しかし、規格性の強い輸入陶磁器については『大宰府条坊跡 XV- 陶磁器分類 -』を元に分類し、出土遺物一覧表に分類と破片数を掲載し、基本的に実測は行っていない。よって、遺構時期の検証等については、出土遺物一覧表も同時に確認して頂きたい。しかし、第 34 次調査については、『大宰府条坊跡Ⅳ』（太宰府市の文化財第 9 集）として、刊行予定で整理が進められていたため、陶磁器類はそのまま掲載している。なお、その報告書については未刊行のまま現在に至ってしまい、今回ここで第 34 次調査を報告することとなったため、『大宰府条坊跡Ⅳ』（太宰府市の文化財第 9 集）は正式に欠番となった。

これらの調査で得られた出土遺物や実測図等は太宰府市文化ふれあい館に保管している。

# Ⅳ．調査報告

## 1．第 34 次調査

### （1）調査と報告に至る経緯

第 34 次調査地は、太宰府市大字通古賀字鶴畑 1088-1 で、鏡山猛条坊案の右郭十一・十二条一・二坊推定地に位置する。この地は、菅原道真の左遷に伴う謫居地との伝承がある榎社の南方の平坦地にあたる。1982（昭和 57）年、当地は民間宅地造成が計画され緊急調査を実施した。当初は手作業による部分的な試掘を行った結果、遺構密度が高く面的な調査に切り替えた。調査期間は 1982（昭和 57）年 5 月 19 日～ 9 月 9 日で、対象面積は 935 ㎡、調査面積は 570 ㎡である。発掘調査は山本信夫が担当し、岡部大治が補佐した。

大宰府政庁・学校院・観世音寺などの特別史跡大宰府跡は、主として福岡県九州歴史資料館・文化課が遺跡の解明や整備などを進めてきた。当時、この重点地区に関しては文化財保護と発掘調査について一定の進展を上げる事ができたが、条坊地域の広域地については急激な開発に対して調査対応は十分ではなかった。いくつかの条坊地域の緊急調査は上記機関で実施されたが、条件に制約された点もあり、発掘範囲は限られた部分に止まった調査例が多い。多発する小規模な宅地開発などでは、必ずしも調査力を集中する事は困難な状態であった。条坊地域で実施されたいくつかの緊急調査では条坊遺構推定に関する報告も出されたが、確実な奈良時代条坊に直結する遺構が皆無であった事から、専門家においても条坊施工に否定的意見が生じていた。昭和 56 年度には当時の太宰府町に文化財調査係が創設され、ようやく史跡指定地外の広域に広がる条坊地域の開発に町自体で対応できる事となった。農地を宅地など開発地に変更する場合には、各自治体開発窓口に農地転用・建築確認届などの提出が制度化されている。ここに文化財係を経由させて、行政内で開発情報を把握するチェック体制を早く手掛けた事で埋蔵文化財に対する一般の認識にも効果は出てきた。今日、条坊地域調査例は 300 次を超えるが、次々と発掘される条坊の内容は『続日本紀』に「天下の一都会也」とされた大宰府の実相に迫る貴重な成果を加えている。さらに近年では条坊域の一部遺跡は国指定を受け、市を超えた国民の歴史遺産と位置づけられたが、ここに到る前段階の役目を一つ担ったという事は幸いである。

今回報告の第 34 次調査は、奈良時代条坊路の確認初例となった調査で、緊急とは言え大宰府条坊跡の確たる手掛かりが得られ、学術的な観点からも条坊解明の第一歩となった。

現在はこの周辺の調査件数も増えたが、第 34 次調査以前に行われた発掘調査は少ない。以前には榎社周辺で九州大学・鏡山猛氏の調査が行われているが、本格的な調査は太宰府市が実施した第 16 次調査が最初となる（註 1）。第 16 次調査（右郭十三条二坊推定地）地点は、第 34 次調査位置から南方 150m の連続した平地である。ここでは 9 世紀末～ 10 世紀前半頃の大量土器廃棄土坑や 11 世紀後半頃の南北溝などが検出されており、部分的ながら条坊内の中軸周辺部における都市生活遺跡の実態が把握された。また近接地の左郭十三条一坊内では、釣堀をつくる掘削工事の際、11・12 世紀の土器を大量に含む層が出ていたという（註 2）。こうした状況から周辺地には濃密な平安時代遺構の存在が予想されていた。

第 34 次調査では、平安時代前期の遺構の一つからはごく小さなイスラム陶器破片が出土した。当時は、9 ～ 10 世紀とされる古いイスラム陶器が日本にまで運ばれたという例はなく、この事実は国際的なイスラム陶器研究者である三上次男博士（故人）によって確認されるに至り、新聞にも大きく報道された（註 3）。三上博士は発掘に基づく学術的確実さを常に重視していたが、この 1 小片の出土事実はとくに印象深く、後に病床にありながら大宰府出土品について最後の著書の一文にこれを記す（註 4）。

Fig.3　第 34 次調査全体図（1/150）

この点も記憶に留めておきたい。

発掘調査から早い段階で、『大宰府条坊跡Ⅳ』として報告される予定もあったが、整理報告作業が滞り未完のまま欠番となってしまった。しかし、この間に出土品の検討など、地域を越えた各専門家のご指導、助言、討議を経た点も多く、34 年を経て完結することとなった本報告は、畿内、とくに平安京周辺との年代や交流の接点を求める上で基礎資料をなすことも追記しておく。

なお、調査直後の整理作業において、以下の方々に指導・助言を頂いた。記して感謝いたします。

（敬称略、所属は当時）

三上次男（青山学院大学教授、イスラム陶器）、中野政樹（東京芸術大学教授、金属製品）
佐々木達夫（金沢大学教授、イスラム陶器）、岡野智彦（中近東文化センター、イスラム陶器）
阿久井長則、弓場紀知、金沢陽（出光美術館）、西谷正（九州大学教授）
平尾良光（東京国立文化財研究所）、横田義章（九州歴史資料館、金属製品保存処理）
山崎純男、池崎譲二（福岡市教育委員会）、近澤康治、富永直樹（久留米市教育委員会）
水野邦彦（奈良オリエント博物館）、森達也（愛知県陶磁資料館、イスラム陶器）
英国ビクトリア&アルバート博物館 Dr.O・ワトソン（イスラム陶器）
以下は国産施釉陶器ほか（所属は当時）
百瀬正恒（京都市埋蔵文化財研究所）、平尾政幸（京都市埋蔵文化財研究所）、堀内明博（古代学協会）
前川要（富山大学）、高橋照彦（奈良国立博物館）、森隆（富山県埋蔵文化財センター）
尾野善裕（京都国立博物館）、斎藤孝正（文化庁美術工芸課）、井上喜久男（愛知県陶磁資料館）
柴垣勇夫（愛知県陶磁資料館）、森田稔（文化庁美術工芸課）、藤澤良祐（瀬戸市教育委員会）
橋本久和（高槻市教育委員会）

### （2）基本土層（Fig.4）

土層は上から①表土、②茶灰色土、③暗茶灰色土、④黄灰色土（整地）、⑤黄褐色土、粘質（地山）に大別され、比較的単純な堆積状態を示す。①～②までは新期の耕作土で、下の③は暗色となり遺跡荒廃後の荒地となっていたか、旧耕作土と見られる。③までの層に遺構面はない。③を除去すると④の一部整地および⑤地山に達し遺構面となる。遺構面は直上に古期の包含層となる覆土もなく、やや削平を受けたと見られる。地山面では奈良時代から最新遺構では14世紀前半までの遺構が検出される。④は部分的な整地で発掘区の南西隅に限られており、この部分の層位関係では④は奈良時代の溝肩の上面を一部覆うため、④は溝よりも後となる。また④の上面から切る遺構としてはⅨ期・10世紀中頃の土坑SK180・200、SD170と、Ⅶ期・9世紀第3四半期下限の可能性もあるピットSX194・269がある。この事から④の整地時期は長くみれば10世紀中頃までの間、短くみれば9世紀第3四半期までには行われたと考えられる。④の整地出土遺物は多くはない。11世紀の土師器、C期白磁など新期の混入品がごく少数あるが、7世紀を一部、8世紀の土器が主体で、9世紀（ⅥB期～Ⅶ期）下限と見られる土師器坏a破片1点がある。陶磁器はA期の白磁椀I類、長沙窯系青磁椀と、国産陶器は山城（京都）産洛北型緑釉があり、遺物の組合せにおいても9世紀前半～下限第3四半期と見るのが妥当である。

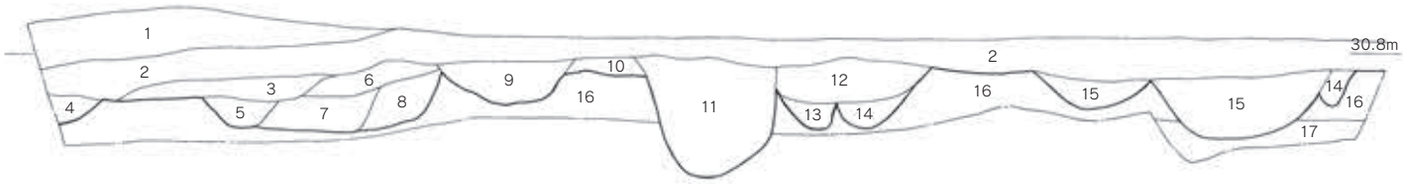
### （3）検出遺構

#### ［1］遺構説明・凡例

各遺構の説明は次の順とする。

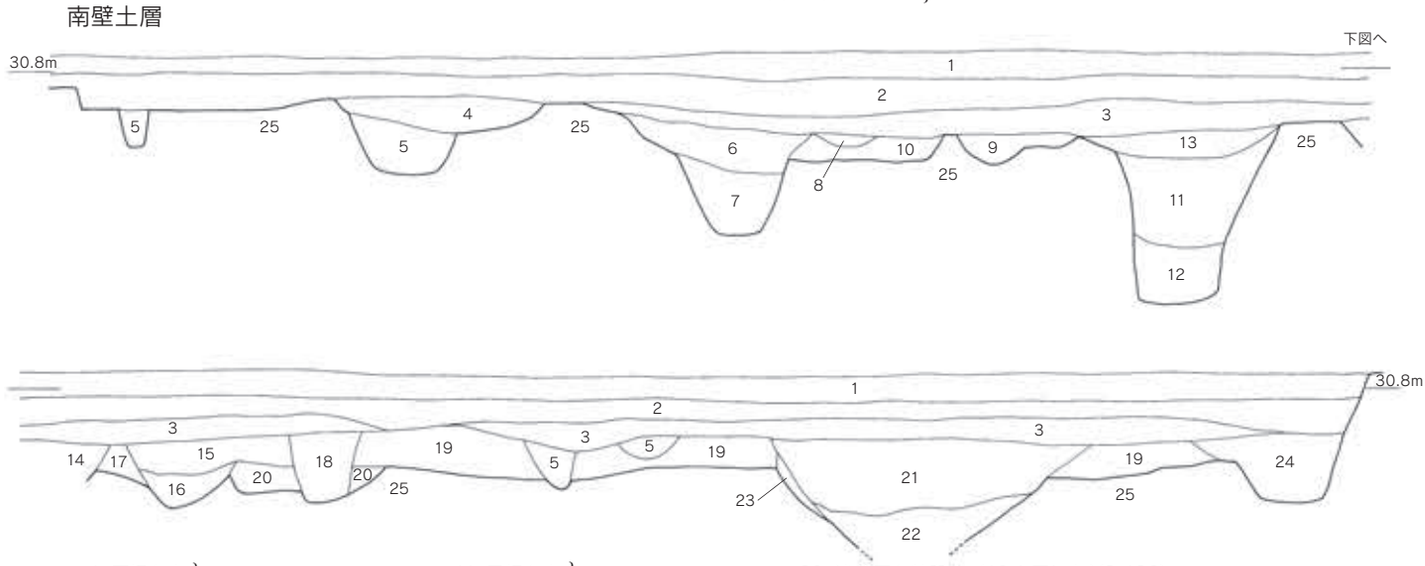
①層位関係、重複関係、その他の関連事項、特記事項を含む。遺構の重複関係では「新旧（古）」の用語は使用しない。切合はあっても出土土器編年型式における時期差のない例も多く見られ、この場合に「新しい」、「古い」を使うと時代差があるという意味に誤解される。したがって切合の前後の事実を主と

北壁土層




1. 灰褐色土
2. 茶色味を帯びる灰褐色土 } 表土
3. 暗茶灰色土
4. 暗茶灰色土
5. 暗灰褐色粘質土 (S-83)
6. 茶褐色土 (S-80 上層 ?)
7. 淡茶褐色粘質土 (S-80)
8. 茶褐色粘質土 (S-85=S-80 の下層埋土 )
9. 暗茶褐色土 (S-82)
10. 黄灰色土
11. 茶斑黒褐色土 (S-78)
12. 暗茶褐色土 (9 と同じ )(S-71)
13. 暗灰色土 (S-71 下層 )
14. 灰色土 ( ピット )
15. 黒褐色土 ( ピット )
16. 黄褐色土
17. 茶灰色砂 } 地山

南壁土層




1. 灰褐色土 } 表土
2. 茶灰色土
3. 暗茶灰色土…遺構面覆土
4. 茶灰褐色土 (S-231)
5. 茶褐色土 ( ピット )
6. 暗灰色土 (S-225)
7. 黒灰色土 (S-225)
8. 暗灰褐色土 (S-228)
9. 黒褐色土 (S-229)
10. 淡黄灰色粘質土 (S-80)
11. 黒褐色土 } 赤色斑 (S-220)
12. 黒灰色土
13. 暗茶褐色土 (S-231)
14. 黄斑黒褐色土 (S-232)
15. 黒灰色土 (S-210)
16. 暗褐色土 (S-210 深い部分)
17. 灰褐色砂質土 (S-235)
18. 灰色砂質土 ( ピット )
19. 黄灰色土 ( 整地 )
20. 淡黄灰色粘質土 （10 と同じ土 )(S-130)
21.18 と同じ } (S-179)
22. 暗灰色砂質土
23. 暗黄色土 ( 他のピット ?)
24. 暗褐色土 (S-184)
25. 黄褐色土 ( 地山 )

0 2m

調査地土層概念図

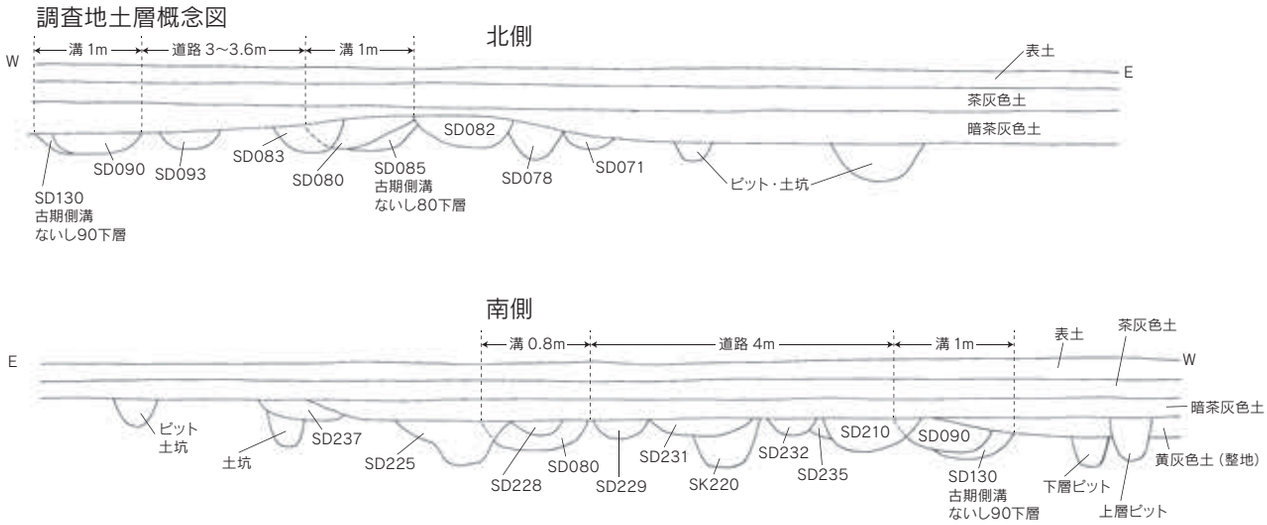



Fig.4　第 34 次調査土層実測図（1/50）

して記述しており、この場合「前である」「後に切る」の語句に統一している。完掘後の遺構図とは別に、略図（Fig.54、115 頁）では遺構検出時の重複関係を分けている。実線は後に切る遺構、破線はその前の遺構線を示す。

②掘方上面形・規模、長軸（軸の略方向南北など）、短軸（軸方向東西など）。深さは検出遺構面からで各数値は m 単位とする。

③年代（または推定根拠となる大宰府土器編年型式）などは適宜必要な場合に記入するが、有効な年代基準資料である場合は、付表（表 10、116 ～ 119 頁）の遺構番号一覧の土器編年型式に●印を付けている。無印の場合は出土土器の最新型式を示すが、出土資料が少数か破片に過ぎず良好な年代を示唆するとは言えない。遺構の年代推定は、こうした出土資料の安定性ランクを設け、将来的にも追跡検証が可能な方式とする。

④検出グリッド地区名位置

遺構密度が高く、遺構位置の追認は容易ではないため各遺構の文尾に検出グリッドを示す。グリッド軸方向は政庁基準軸に準じるが各点表記は現地の任意記号である。グリッド交点は 3m ごと、東西ラインは A ～ Z、南北ラインは数字 1… を使用する。

各グリッドは 3m 方眼で、今回は南東角の座標数値をグリッド名としたが、これは推定条坊の右郭にあたるための便宜的方法である。グリッド名は遺物取り上げ時のラベル表記となる。

史跡指定地と異なり、開発地域では個々に分断された発掘となり、条坊全域に統一記号を付ける必要性はない。統一記号にする場合、記号文字数が多くなるばかりで、実際には発掘不可能なグリッド空間が多くでき、実用的ではない。遺物へのラベル表記の字数を極力少なくする意味もあり、各調査区内で帰結する単位記号としている。

なお注意すべき点として、当時までは遺構記録について（1）政庁中軸線を基準とした座標値で条坊内の遺構記録を行っていたが、後には汎用の（2）国土地理座標基準を使用しており、両者は共通の数値や方位ではない。上のグリッドは（1）であり（2）と偏差がある。現在は（2）での遺構記録が主となっており、過去調査の座標値は（2）へ変換統合する事となっている。今回の遺構図ではこのため（1）（2）の両方を記している。グリッド軸が（2）軸線と合わないのはこうした理由による。（1）の座標値は（x,y）、（2）の座標値は（X,Y）で表示する。

**［2］大宰府調査基準・記録化の補足点、とくに出土遺物ラベル表記について**

条坊北側の史跡指定地区の記号化は、旧・奈良国立文化財研究所作成の平城宮・京調査基準に準じている。指定地区は大きく政庁地区 6AYT、学校院地区 6ZGK、観世音寺地区 6KKZ と分け、各地区は田の畦畔や土地境界線に応じてさらに A ～ Z まで小地区に細分される。記号は 6= 時代（6 は奈良期を指す）、A= 遺跡性格・官衙、次の 2 文字は遺跡名略号をさす。これは上記基準の応用で、国内の考古学資料について遺跡の時代、性格、名称また遺構、遺物など一つの体系的記号法となるが、これは各機関の基準でよい。遺物の表記では第 1 行に各調査地点名の 6AYT-A など、第 2 行に調査区内に設定された 3m グリッド名を使う。また調査次数は上の政庁から観世音寺全域に対して実施順に付す。遺物には調査次数は直接表記しないため、地区記号と次数、地図の対照表が別に必要となる。直接遺物から調査位置を調べる場合は、まずこの対照表を見る事になる。上の指定地内は連続し、発掘調査は隣接した土地を計画的に実施する事が可能なため、特に手間もない。

一方南側の条坊地域は広域で開発の契機毎に行われる調査となる。民有地には住宅が多くさらに境界は変更も多い。発掘位置は点在的で、広域の調査は大規模開発事業でもない限り未定となる。大・小地区名方式は条坊地域にもすでに記号化されていたが、実際の運用にあたって数字・英字の記号化は特に

効果的ではなく、遺物表記の第 1 行目は遺跡 + 調査次数に変更している。太宰府市調査報告書『大宰府条坊跡Ⅲ』にはこれ以前に行った地区名表示と変更名の次数対照表をつけている。これにより直接遺物表記から出土地点は調査地図のみで確認可能となる。

**[3] 遺構の所見**

**溝（Fig.3・5・54、表 1）**

検出された溝は殆どが南北方向であり、これらの位置は地区の 5・6・7 ラインにあたる東西幅約 8m 内に集中している。この範囲は奈良時代の坊路があり、以後 12 世紀まで溝の掘り直しが行われている。また一部は 14 世紀まで下る。連続していない溝状遺構もここに含まれるが、各期の溝の切り合いのため、図上でも判別が容易ではなく溝の位置についてはグリッドを表記した。

**34SD071**

南側の延長部は不明。現存幅約 1m。Ⅻ期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭 )。H ～ K5 区。

**34SD078**

SD071 と一部重複し接線上の重複のため前後関係は明確ではない。土師器小皿 1 点のみ糸切りを含む事からみれば SD078 の方が新しいと見られる。南側の延長部は不明。現存幅約 0.9m。Ⅻ･ⅩⅢ期 (11 世紀後半～ 12 世紀前半 )。H ～ K5 区。

**34SD080A・B**

SD083よりも前である。検出した溝のうちで最も古期に属し一・二坊の坊路の東側溝である。この周囲は別時期の溝が多数重複して各肩部の掘削・消失も多く、溝肩の区別のため切合や層位の前後がある場合には別番号を付している。便宜的にこの遺構番号はそのまま使う。溝の外側東肩部分では先行する肩線があり、溝掘削初期のA期の肩線と見られる。北側（SD085）、南側（SD245）がこれにあたる。SD085・245の間は消失する。B期（SD080）は南北に連続し、溝埋没時、または掘り直しの肩線と思われる。溝底面は南側へ低くなるがその差は0.1m程度で、全体の勾配は3/1000程となる（表1、94頁）。Bの出土土器はⅤ期(8世紀後半)が主で、後出的な一部の土器はⅤ期・ⅥA期の区別はできない。よって溝の下限は9世紀初頭までの年代幅は考慮されるが、Ⅴ期でも良い。A（SD085・245）の遺物は少数で8世紀後半。A期肩までを取ると溝の現存幅約1m前後となる。調査区外に延長する。C～L6区。

**34SD082**

SD078 より後に切る。現存幅約 0.9m。南側に延長部は確認されない。龍泉窯系青磁椀Ⅰ類が出土し検出溝のうち新期となる一つである。上限は 12 世紀中・後半であるが、中国陶器片は 13 世紀に下る可能性がある。K・L5 区。

**34SD083**

下記 SD084 と一連の溝となる可能性もあるが、接点の食い違いがあり、一応別番号とした。現存幅約 0.5m。11 世紀か。K6 区。

**34SD084・SD240**

南側で検出したSD240と一連の可能性がある。現存幅約0.9m。Ⅺ～Ⅻ期（11世紀中頃～12世紀初頭）。E～K6区。

**34SD090A・B**

SK100 よりも前である。検出した溝のうち最も古期に属し、SD080 と対をなす一・二坊の坊路の西側溝である。溝外側の西に先行する肩線（SD130）があり、SD080 と同様に A・B の前後に分けられる、A に相当する SD130 は南・北側は残るがこの中間部は消失する。B 期の SD090 出土土器はⅤ期 (8 世紀後半 ) が主である。A 期（SD130）は土器が少なくⅤ期の範囲である。A 期肩までを取ると

溝の現存幅約 1m 前後。溝底面は南側へ低くなるがその差は 0.2m 程度で、全体の勾配は 1/100 程となる（表 1）。これも調査区外に延長する。A ～ I7 区。

**34SD091**

SD084 よりも前である。Ⅻ期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭 )。J6 区。

**34SD093**

現存幅約 0.9m。SD082 と対をなすものか。SD231 に繋がっていた可能性がある。出土土師器片に糸切りが少数あり中世と見られるが、他の遺物は 12 世紀までのものである。E ～ J7 区。

**34SD096**

SD091 より前である。短い小溝。現存幅約 0.3m。平安期。I6 区。

**34SD097**

SD080 よりも後に切る。短い小溝。現存幅約 0.3m。H ～ I5 区。

**34SD098**

短い小溝。現存幅約 0.4m。H5 区。

**34SD099**

小溝。上記の SD097・SD098 を含め、これらの小溝は。SD080 の東側に接近しており、出土遺物は少なく 8 世紀のものに限られる。現存幅約 0.3m。I ～ K5 区。

**34SD101**

小溝。現存幅約 0.8m。Ⅻ期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭 )。G・H5 区。

**34SD102**

小溝、SD078 と埋土の違いで分けたが SD078 と同一遺構かもしれない。現存幅約 0.7m。Ⅻ、ⅩⅢ期 (11 世紀後半～ 12 世紀前半 )。G・H5 区。

**34SD110**

切合は SD110 から SK120、及び SD110 から SK095、次に SD102 の順に後となるがすべてⅩⅡ期に属する。南側の SD228 に連なる位置にあるが、二つ溝の間は後に切る土坑 SK120 で寸断されていて直接連続したかは疑問がある。出土土器は SD228 よりも後のⅩⅡ期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭 ) で、SD110 の方が新となる。また SD110 にはⅪ期 (11 世紀中頃 ) の土器を含む事から、SD110 は SD228 の上に掘り直された溝の可能性がある。現存幅約 0.4m。F ～ H5 区。

**34SD113**

SD099 より前である。小溝。8 世紀か。G ～ I5 区。

**34SD121**

SD101 より前か。幅広の溝状をなす。現存幅約 1.2m。Ⅻ期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭 )。F･G5 区。

**34SD125**

土坑 SK127 より後に切る。L 字形の小溝。Ⅻ期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭 )。F7 区。

**34SD130**

坊路西側溝 SD090 の西側肩に接しており、SD090 よりも前の堆積である。SD090 の古期の肩と見ている。坊路東側溝 SD080 東肩の古期堆積 SD085 と同様な状態を示す。8 世紀。A ～ H7 区。

**34SD138**

東西方向の小溝。SD121 よりも前、SX155 より後である。現存幅約 0.4m。切り合い関係からみて 11 世紀中頃前後か。G3・4 区。

**34SD178**

東西方向の小溝。SK180 より前である。現存幅約 0.4m。Ⅸ期 (10 世紀中頃 )。B8・9 区。

**34SD210**

調査区南側では溝が多数重複し各溝の前後の関係は溝SD090→SD210→SD232の順に後となる。SD210の北側への延長は検出されていない。現存幅約1.2m。ⅥA～ⅥB期下限(9世紀前半)。A～E7区。

**34SD225**

西側は SD110（SD228）の肩と接していて前後関係は明確ではないが、出土土器から判断すると SD228 よりも後である。時期はⅫ期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭 )。北側延長部は土坑群の重複により寸断されているが、SD071・SD121 と同一ライン上となるのでこの 3 つは本来一連の溝であった可能性があり、時期も同様である。現存幅約 1m。A ～ D5 区。

**34SD228**

SK120 よりも前である。SD110 の南延長部に位置するが、二つ溝の間は後に切る土坑 SK120 で寸断されていて直接連続するかは疑問がある。また出土土器は SD110 よりも前のⅪ期 (11 世紀中頃 ) であり、SD110 よりも前の溝と見られる。現存幅約 0.6m。A ～ E5 区。

**34SD229**

調査区北側には延長しない。現存幅約 1.2m。Ⅻ期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭 )。A ～ E6 区。

**34SD231**

西側の SD232 より後に切る。現存幅約 1m。北側延長部はややずれた位置に SD093 があり、一連の可能性もある。SD231 からは龍泉窯系青磁椀Ⅱ類、Ⅳ類が出土し、Ⅳ類から 14 世紀前半埋没となる。溝は最新期となる。A ～ E6 区。

**34SD232**

SD231 よりも前である。北側には同一ライン上に SD240 があるが連続しない。現存幅約 0.9m。Ⅻ期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭 )。A ～ C6 区。

**34SD237**

A～C･5 ライン。SD225 より後に切る。溝の北側は浅くなり不明。現存幅約 1.3m。12 世紀。A･B4 区。

**34SD238**

小溝。北側は SK241 と重複するが前後関係は不明。現存幅約 0.4m。Ⅻ期（11 世紀後半～ 12 世紀初頭）。C ～ D5 区。

**34SD245**

SD110 (228)･SD229 よりも前である。浅い段の肩部のみで溝 SD080 の古期 A の掘方と見ている。出土遺物はⅤ期（8 世紀後半）のみである。C ～ E5 区。

**坊路（Fig.3・5・54）**

**34SF280**

上記の東側溝 34SD080、西側溝 34SD090 の古期肩線 A は当初の側溝計画線と見られ、これによって復元される溝は直線的に通した事が示される。2 本の溝の間は 8 世紀後半～ 9 世紀初頭には全く遺構はなく路面とみられる。路面上部は幾分か後世削平がある。硬化面などは遺存しない。道路幅は溝内側肩の間となり 3 ～ 3.5m である。

[A] 右郭一坊路の継続・廃絶

34SD090 の溝埋没後、その直後からの坊間路の状態を見ると右往左往しつつ、平安末期まで南北の溝がこの一定場所に集中する。この空間には建物など施設はなく、長期間、道や空地となる。同一箇所で長期間に及ぶ土地とくに道路の利用過程がわかる例としてもはじめての検出例となった。以後の調査

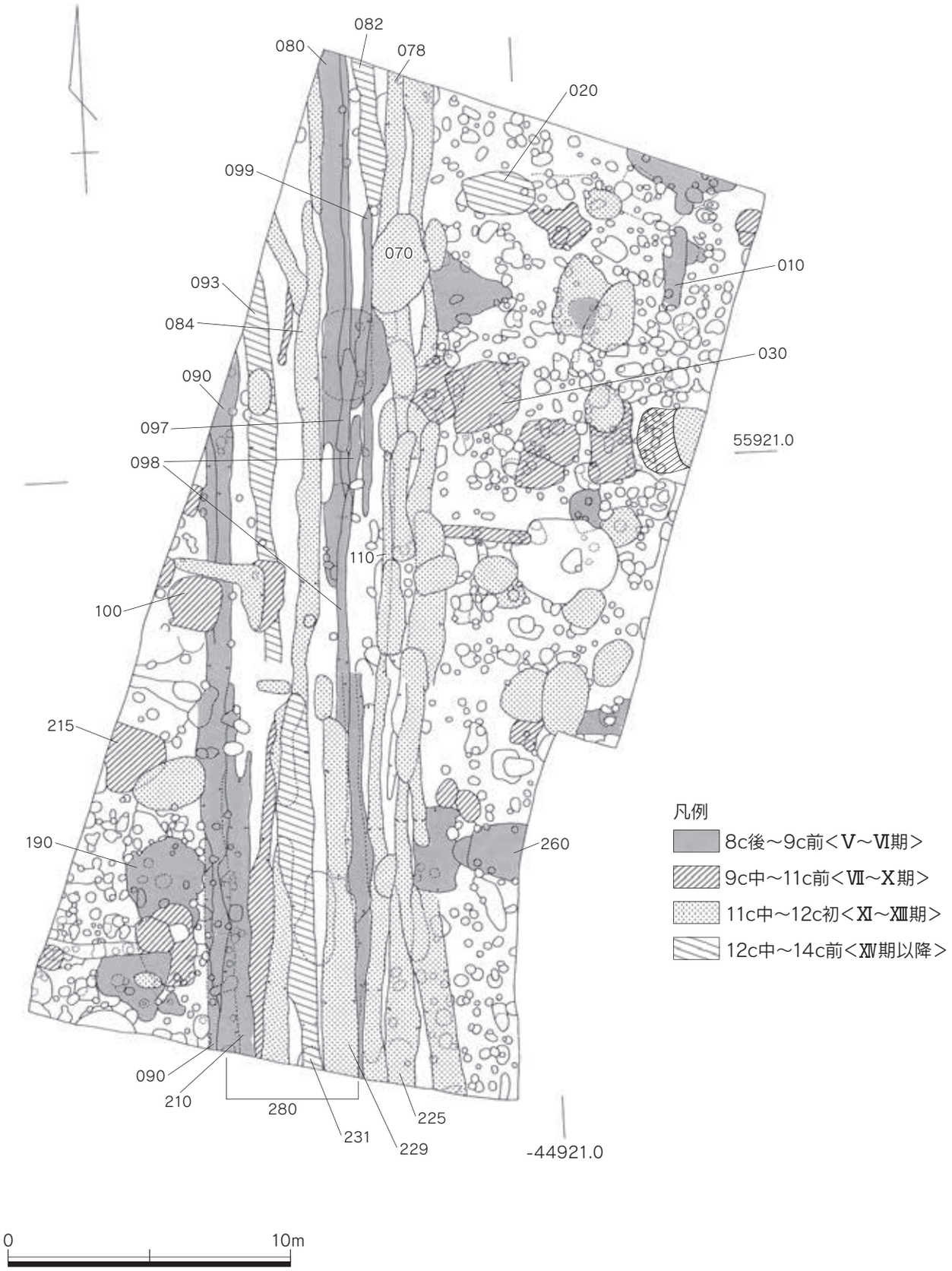



Fig.5　第 34 次調査時期別遺構配置図（1/200）

では同様な傾向を示す地点が多く確認された。奈良時代の土地規制が以後の平安末までの都市区画に影響したという一面を示している。(註 5)。

[B]　平安前半

34SD090 の溝埋没後、34SK100（Ⅶ期）が溝を切るが、再度同じ位置に側溝を掘った形跡はなく、Ⅶ期に開鑿されたと見られる溝は、やや東にづれた以下の遺構である。

34SD080 北側の東肩では南北方向に 34SD097・098・099 の小溝が重複し、34SD090 南側の東肩にも南北の 34SD210 が重複する。いずれも調査区全域に及ばず部分的な残存にとどまる。これらの層位的関係は 34SD080・090 よりも後である。34SK100（Ⅶ期）は 34SD090 より後の土坑であり、Ⅶ期以前には 34SD090 は埋没している。34SK100 は 34SD210 と直接的切合はない。溝 34SD210 の方向は 34SD090 よりも僅かに東へ偏しており、34SD210 の西肩線を北へ延長すると 34SK100（Ⅶ期）とは切り合う位置関係になく、34SK100 は推定溝延長部よりも西側となる。34SD210 は東側へわずかに移動した新期の坊路西側溝とする事もでき、これに応じて 34SD097・098・099 は 34SD210 と対をなす東側溝（の一部）とする事は可能である。この場合、溝間の空間にこの時期の顕著な遺構もない点が補足される。なおこれらの新期溝の出土遺物はⅤ・Ⅵ期までの範囲でⅦ期とする根拠は得られない。

以上はⅦ期の条坊継続案を積極的に肯定した場合だが、これに別案もあげる。初期条坊側溝は浅いが長く直線的で、遠くまでの施工基準を意図したと思われる。Ⅶ期からの溝にはこうした点はなく、初期道路側溝に掘られた土坑 34SK100 は公道という厳格性が希薄となった一面を示すのかもしれない。

[C]　34SF280 の以後の状況

平安後半

Ⅻ期（11 世紀後半～ 12 世紀前半）の溝は、古期路面 34SF280 上やさらに東側へ寄って多数見られ、短い期間内で繰り返し掘削されたと見られる。やや蛇行し直線的な肩のものはない。溝は複数回に及ぶので 2 条一対としてその間を道路として復元する事は可能だが、遺構面は後世多少掘削されたためか硬化面の検出はない。次に路地景観と異なる点としては、溝位置に重複して南北に長い土坑が多数掘られる。溝との前後関係はそれぞれ前・後の両方があり一定してはいない。とくに居住空間外に土坑は多数掘られ、概して土器などは少なく、生活内のゴミ処理や、一部は排泄物処理場なども推定されるかもしれない。溝の東・西側空間には柱穴と見られる小ピットが密集し、溝、土坑の掘り直しと同様に、短期間内における建物の改築頻度が高かった点を示すと見られる。古期路面には柱穴は殆どなく、古期条坊の区画境が 11 世紀まで踏襲されたとみられるが、8 世紀後半と比較すると、溝や土坑のあり方には一定の計画性を見ることは難しく、集落単位の促成的、限定的な周縁部維持を示すものとも思われる。なお溝の一部にはⅪ期の土器を含むため、11 世紀中頃に開始期を見る事もできる。

[D]　平安末期以降

12 世紀中頃以降にも 34SD082・093・231 の溝が掘削され、今回の調査では最新期に属する。34SD093・231 は一連のものとも見られ、34SD082 は部分的な残存であるが、これらが東西の一対の側溝ならば、中世前期に下る道路と見てもよい。ただし 34SD231 の時期が 14 世紀前半であり時期的に開きがあるため、平安後半の区画をさらに踏襲したものか明確ではない。この時期に属する確実な遺構は 34SD082 の溝外に検出された土坑 34SK020 のみであり、前時代に比べてきわめて閑散とした状況になったと推される。

なお、遺構外の表土出土陶磁を見ても、ⅩⅣ・ⅩⅤ期に並行する陶磁 D 期標識の白磁椀 V-4・Ⅷ、ⅢⅢ類、龍泉窯系青磁椀 I 類は極めて少なく、12 世紀中頃から急激に生活痕跡が途絶えた状況を示す。また 13 世紀中頃～ 14 世紀初頭の標識陶磁 F 期に相当する龍泉窯系青磁Ⅲ類や白磁 IX 類は、全体で 7 片しか

なく、この時期遺物を出す遺構も検出されていない点では上記の遺跡の実態に合うところが大きい。

以上は遺構の考察で再度とりあげるがこの前提部分となる。

**土坑**

各土坑の軸線はおおよその方位を示す。遺構の深さは中心部を基準とする。

**34SK005（Fig.6）**

楕円形。底部東側は一段深い。長軸（東西）1.35m、短軸（南北）0.95m、深さ 0.2m。XII期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭 )。K2・3 区。

**34SK010（Fig.6）**

南北に長く浅い。北東側では一段深いピット SX010A・B と重なる。これらの前後関係は SX010A・B が前で SK010 が後となる。SK010 はまとまった墨書土器、緑釉陶器を出しており、祭祀関連遺構と見られる。SX010A・B、SK010 の出土土器について見れば年代差はなく 9 世紀第 1 四半期である。SK010 の南北長 3.06m、東西幅 0.8m、深さ 0.1 ～ 0.2m。J2・3 区。

**34SK015（Fig.6）**

長方形、上辺の一部は発掘区外にかかる。長軸（南北）0.9m、短軸（東西）0.65m、深さ 0.35m。VII期 (9 世紀第 3 四半期 )。K1・J1 区。

**34SK020（Fig.6）**

不整楕円形。底面西側は一段深い。長軸(東西)2.45m、短軸(南北)1.55m、深さ 0.82m。XIII～XIV期 (12 世紀前半～中頃 )。K4 区。

**34SK025**

SX035 より前である。不整形。長軸(南北)2.6m、短軸(東西)1.5m、深さ 0.2m。XI期 (11 世紀中頃 )。J2・I2 区。

**34SK030（Fig.6）**

不整方形。長軸（南北）2.34m、短軸（東西）2.2m、深さ0.36m。VIB～VII期(9世紀第2・3四半期)。I4区。

**34SK032**

楕円形。長軸（南北）1m、短軸（東西）0.8m、深さ 0.4m。J2 区。

**34SK045**

ピット群 SX034・046 よりも前である。不整形の凹み。8 世紀後半か。J4 区。

**34SK050（Fig.6）**

楕円形。長軸（東西）2.3m、短軸（南北）2.0m、深さ 0.14m。VI～VII期 (9 世紀前半～後半 )。H3 区。

**34SK055**

西側に重複する SK066 よりも後に切る。隅丸方形とみられる。東側は発掘区外のため未確認。軸の長短は不明で（南北）1.7m、(東西）1m 以上、深さ 1.8m。井戸の可能性もある。X～XI期（またはXII期）か。H2 区。

**34SK060（Fig.6）**

SK065 より後に切る。円形。長軸（東西）1.8m、短軸（南北）1.68m、深さ 1.6m。XII期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭 )。H2 区、

**34SK065**

SK060 よりも前である。長方形。長軸(南北)2.7m、短軸(東西)1.4m、深さ 0.1m。VI～VII期。H2 区。

**34SK066（Fig.6）**

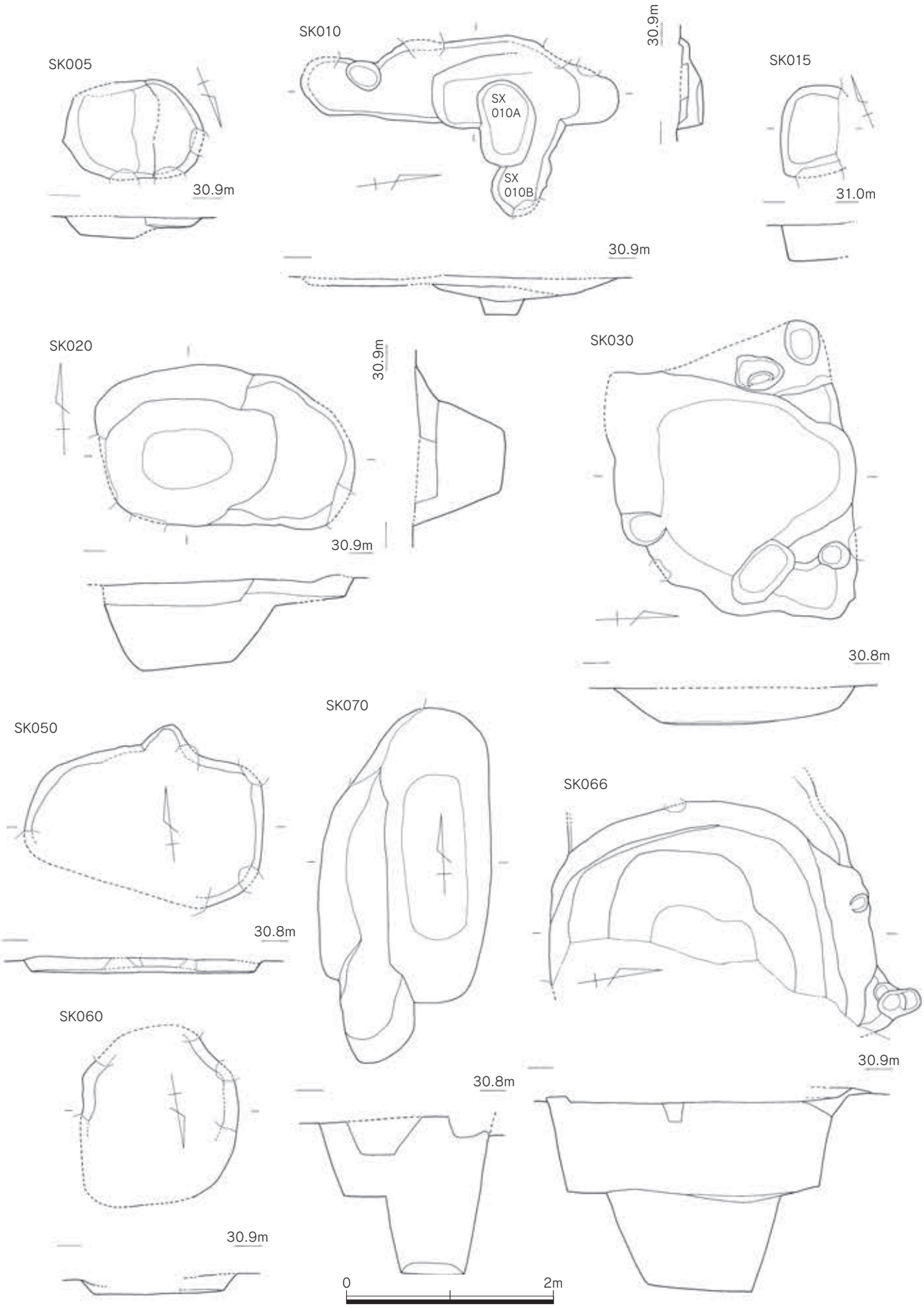



Fig.6　第 34 次調査土坑実測図①（1/50）

SK055・ピット群 SX064 よりも前である。軸の長短は不明で（南北）3.65m、（東西）2.3m 以上、深さ 0.9m。10 世紀か。H2 区。

**34SK070・070B（Fig.6）**

長楕円形。周囲は溝 SD071 および数基の長楕円形土坑の重複など前後の切り合いが多い。SK070 も結果的には 2 基の土坑が接近して切り合ったものと見られ、西側の一段浅い土坑は SK070B とする。切り合いの前後は不明である。東側では重複する溝 SD071 は前で、次に SK075 がつくられ SK070 が後となる。これらの遺構はすべてⅫ期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭 )。SK070 は長軸（南北）2.85m、短軸（東西）1.05m、深さ 1.5m。SK070B は長軸（南北）2.76m、短軸（東西）0.9m 前後、深さ 0.72m。J5 区。

**34SK075（Fig.7）**

SD071、SK070 との重複関係は上記参照。長楕円形。長軸（南北）1.8m、短軸（東西）0.8m、深さ 0.75m。J5 区。

**34SK095（Fig.7）**

不整形。周辺遺構との切り合いが多く、SK095 →小溝 SD101、SK095 →溝 SD078 →小溝 SD102 の順に後となる。長軸 (東西) 2.3m、短軸 (南北) 2.0m、深さ 0.44m。Ⅻ期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭 )。H5 区。

**34SK100（Fig.7）**

円形または隅丸方形で他の土坑に比べて形状は整っている。井戸の可能性もある。地山一層下の硬い砂質土まで切り込むが、現状ではこの層は湧水層ではない。溝 SD090 より後に切る。SD090 は推定 1 坊の西側溝であるが、SK100 は溝埋没後となる。SK100 はⅦ期 (9 世紀第 3 四半期 ) である。出土遺物には化粧道具の金銅製品（眉刷毛）、イスラム陶器など優位な階級の持物とみられるものがある点で注意される。長軸（東西）1.9m、短軸（南北）1.6m、深さ 1.5m。 F7 区。

**34SK105（Fig.7）**

SD078 よりも前である。長楕円形。長軸（南北）2.45m、短軸（東西）1.0m、深さ 1.5m。Ⅻ期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭 )。I5 区。

**34SK106**

SK070、SD078 よりも前である。SD078 の底面で検出した。不整楕円形。Ⅻ期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭 )。I5 区。

**34SK108**

SD071・078、SK030・095 よりも前である。9 世紀か。I5 区。

**34SK114**

SD121 より後に切る。長楕円形。Ⅻ期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭 )。E5 区。

**34SK115**

SD101 より後に切る。楕円形。長軸（東西）約 1.7m、短軸（南北）約 1.1m、深さ 0.1m。Ⅻ期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭)。F4 区。

**34SK120**

SD110 より後に切る。長楕円形。長軸（南北）約 3.5m、短軸（東西）0.9m、深さ約 0.5m。Ⅻ期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭 )。F5 区。

**34SK140（Fig.7）**

SD085 よりも前である。長方形。長軸（南北）3.0m、短軸（東西）1.88m、深さ 0.28m。条坊東側溝より前で 8 世紀と見られる。H5 区。

**34SK145（Fig.7）**

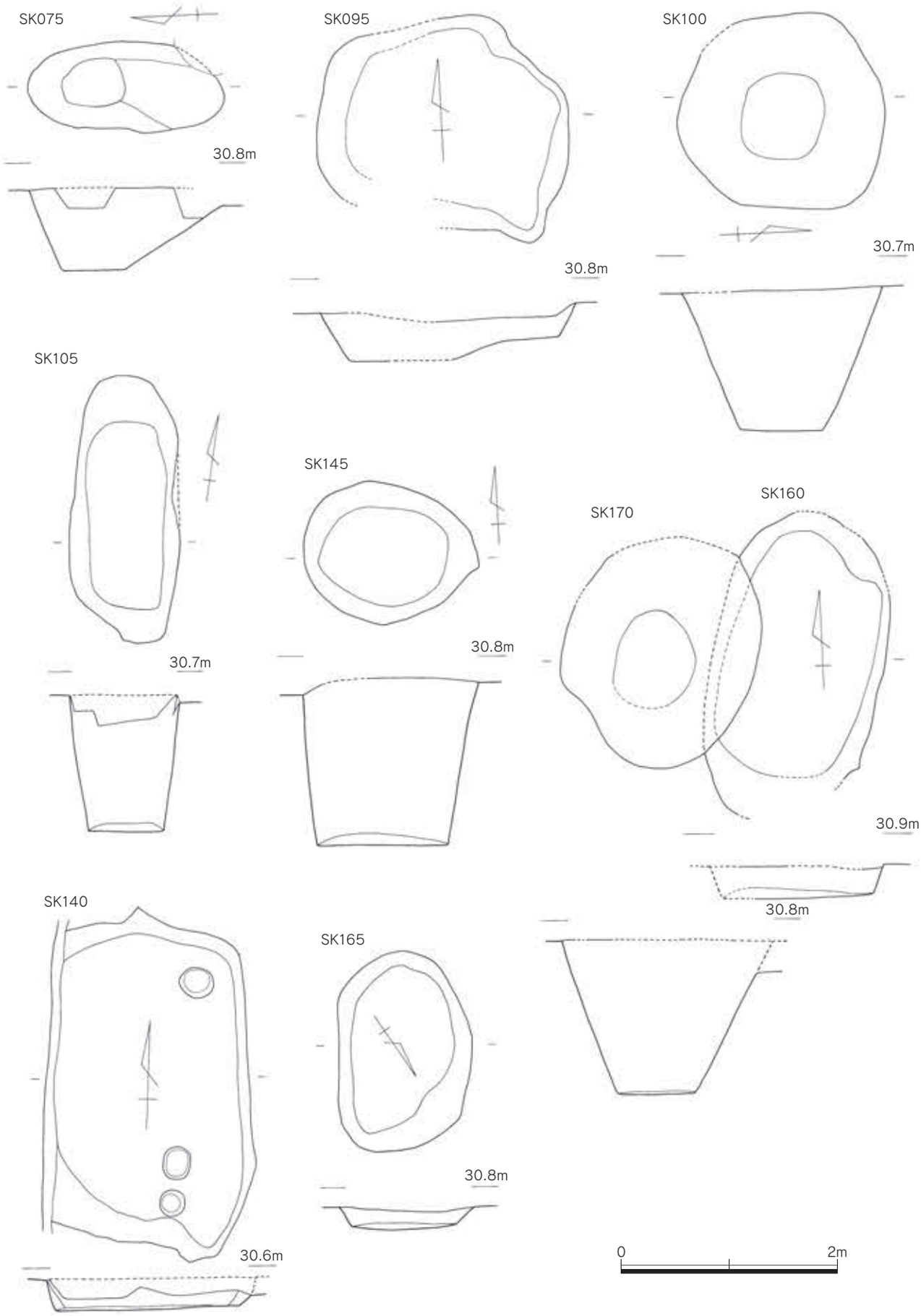



Fig.7　第 34 次調査土坑実測図②（1/50）

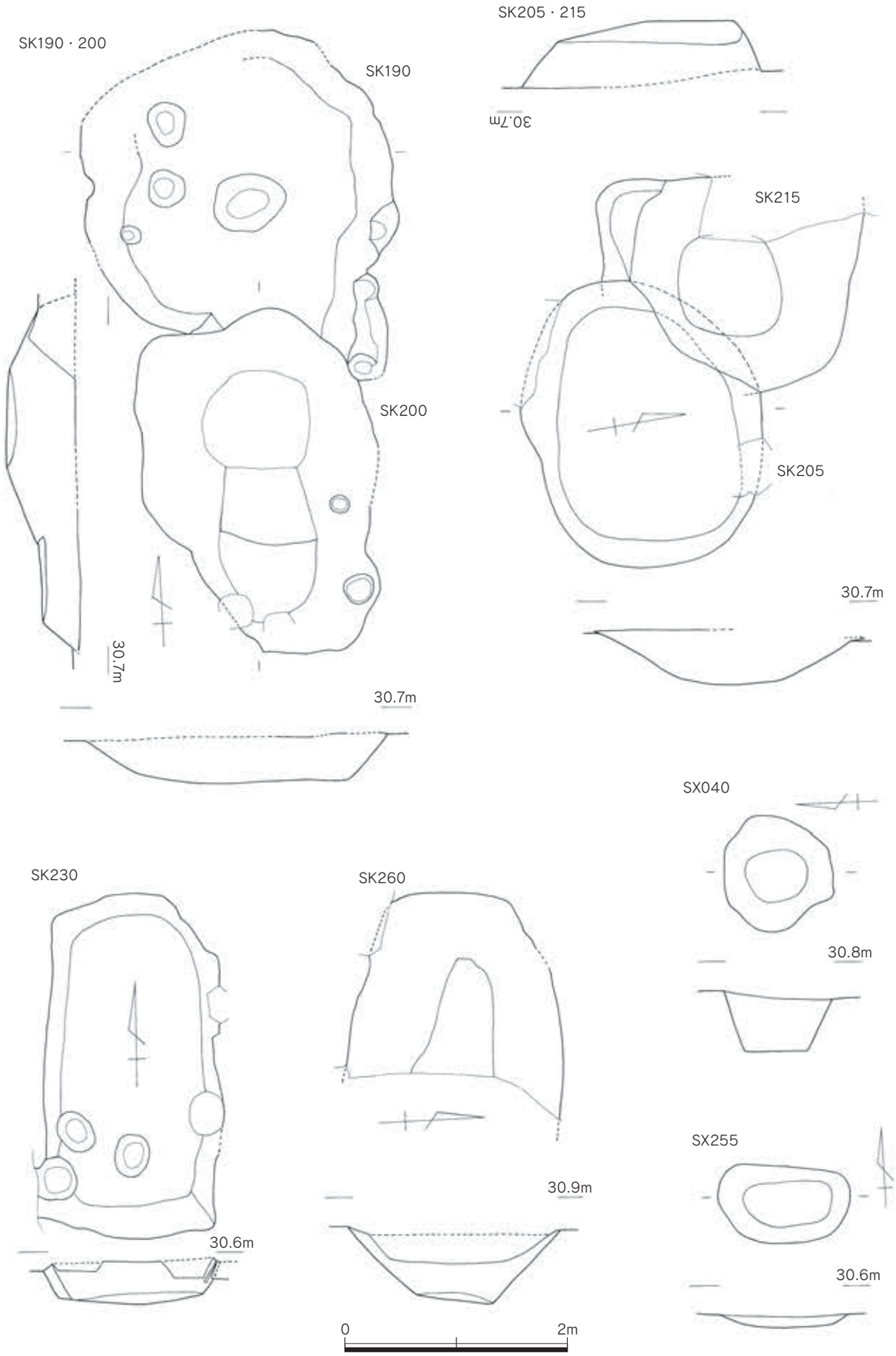



Fig.8　第 34 次調査土坑③・その他の遺構実測図（1/50）

円形。長軸（東西）1.6m、短軸（南北）1.3m、深さ 1.5m。Ⅻ期（11 世紀後半～ 12 世紀初頭）。F4 区。

**34SK160（Fig.7）**

SK170 より後に切る。楕円形。長軸（南北）2.9m 前後、短軸（東西）1.58m、深さ 0.3m。Ⅻ期（11 世紀後半～ 12 世紀初頭）。E3 区。

**34SK165（Fig.7）**

楕円形。長軸（南北）1.85m、短軸（東西）1.2m、深さ 0.2m。Ⅻ期（11 世紀後半～ 12 世紀初頭）。E2 区。

**34SK170（Fig.7）**

SK160 よりも前である。ぼぼ円形。長軸（南北）2.12m、短軸（東西）1.8m、深さ 1.42m。Ⅻ～ⅩⅢ期（11 世紀後半～ 12 世紀前半）。E3 区。

**34SK173**

長方形。8 世紀後半か。G2 区

**34SK180**

SK200 よりも後と見られる。楕円形で浅い。長軸（東西）1.5m、短軸（南北）1.2m。Ⅸ期（10 世紀中頃か）。B8 区。

**34SK190（Fig.8）**

SK200よりも前である。不整楕円形。長軸（東西）2.75m、短軸（南北）2.5m、深さ0.38m。Ⅴ期～ⅥA期下限（8世紀末～9世紀初頭）。C8区。一部SK190より後のピットやSK200からの混入品がある。

**34SK200（Fig.8）**

SK190 よりも後に切る。不整円形。長軸（南北）3.1m、短軸（東西）2.1m、深さ 0.6m。Ⅸ～Ⅹ期（10 世紀中頃～ 11 世紀初頭）。B8 区。

**34SK205（Fig.8）**

SK215 より後に切る。不整円形。長軸（東西）2.58m、短軸（南北）2.0m、深さ 0.55m。Ⅻ期（11 世紀後半～ 12 世紀初頭）。D8 区。

**34SK215（Fig.8）**

SK205 よりも前である。不整方形。長軸（南北）2.2m、短軸（東西）1.6m、深さ 0.48m。Ⅷ - Ⅸ期（9 世紀末～ 10 世紀中頃）。D8 区。

**34SK230（Fig.8）**

SD238よりも前である。長軸（南北）3.1m、短軸（東西）1.6m、深さ0.35m。ⅥA期（9世紀第1四半期）。C4区。

**34SK234**

SD229・231 よりも前である。Ⅻ期（11 世紀後半～ 12 世紀初頭）。B・C6 区。

**34SK242**

SK225 よりも前である。Ⅻ期（11 世紀後半～ 12 世紀初頭）。B5 区。

**34SK260（Fig.8）**

不整楕円形とみられる。東側は発掘区外で未調査。ピット群SX256よりも前で、SK230の後に切る。長軸（東西）2.0m以上、短軸（南北）1.6m、深さ0.65m。ⅥA期（9世紀1第四半期）。C4区。

以上の土坑の中で、Ⅻ期（11世紀後半～12世紀初頭）に属する長手の土坑群は注意しておく。これらは溝方向と同様に南北を軸とし、同時期の南北溝が集中する位置に溝と重複して多数設けられる。上記以外にもSK094（I7区）、236（C5区）、246（E6区）、SX220（A6区）がこれに相当する。

**ピット・その他の遺構**

**34SX002**

大半は発掘区外のため形状、規模は不明。7 世紀後半～ 8 世紀後半。K1・2 区。

**34SX010A・B（Fig.6）**

同一のピットである可能がある。SK010よりも前である。遺物は少なく須恵器・土師器片の他、SX010Aから緑釉陶器片2、灰釉陶器片1、SX010Bに緑釉陶器片1が出土している。土器はⅥA期までの範囲の破片少数で、施釉陶器で見ると年代差はなく、SK010と同じ9世紀第1四半期としてよい。J2・3区。

**34SX035**

SK025よりも後である。不整形。長軸（南北）2.9m、短軸（東西）2m前後、深さ0.18m。Ⅻ期。J3区。

**34SX040（Fig.8）**

円形。SX035 の前であり、SK035 底部で検出された。径 1m、深さ 0.5m。8 世紀後半。J3 区。

**34SX043**

不整形。東西 2.2m 前後。9 世紀か。J3 区。

**34SX155**

広い円形の窪みで SD138・SK157 よりも前である。10 ～ 11 世紀前半か。G3 区。

**34SX209**

SX208・SK215 より前である。浅く不整形の窪みで、掘り上げ後の輪郭を残さない。部分的な整地などの際に破壊されたとも思われる。坊路西側溝 SD090 の西側に近接するがこれとの重複はない。今回検出した中でややまとまりのある土器群としては最も古期にあたり、Ⅲ期（8 世紀中頃）を中心とする。E7 区。

**34SX235**

東西には溝が重複しSD210およびSD232・240の前である。5cm程度の浅い段状の凹みで遺構か不明。坊路SF280の部分的整地の可能性がある。遺物は少なく土器はⅥA期（9世紀前半）まで、陶磁器は越州窯系青磁椀I-1a類（A期古）がある。A～E6区。

**34SX255（Fig.8）**

東西に長いピットである。Ⅻ期 (11 世紀後半～ 12 世紀初頭 )。古期坊間路の中央に位置し、この時期には古期坊間路の道路幅そのままに使用されていない事を示す一例であろう。SX255 はⅫ期溝の最も西に位置する SD084・240 よりもさらに西側位置にある事からⅫ期の道路外とも見られる。E6 区。

**34SX274**

黄灰色土下の地山面で検出した下層のピット群である。黄灰色土は調査区南西端の狭い範囲に限られるため、層位的に下層として区別できるピットはこれら一部である。遺物は全く出土していない。9 世紀前半までの遺構と思われる。A・B-8・9 区。

南北溝列の東・西側は土坑以外に多数の小ピットがあり、Ⅻ期を前後する時期のピット埋土は黒褐色のものが多い。大半のピットはこの時期に属すると見られる。密度も高いため方位に拘らなければ建物のプランはどのようにも可能となる。柱穴掘方には一つの建物柱のまとまりを示す形状や大きさなど特色を示すものがない。Ⅻ期（11 世紀後半～ 12 世紀初頭）に至っても溝方向は 8 世紀段階の方向と近い事から、東西・南北の柱穴列を基準とした建物配置が想定される。

**（4）出土遺物**

平安時代の土師器型式同定についての注意点を上げておく。

小皿 a は完形品の多い土坑など遺構一括性の高い例では、法量統計により Ⅹ ～ⅪⅠ期とⅫ～ⅩⅢ期の区別は可能となるが、溝出土品などの破片では同時性が確実でなく、上記型式の混在もあり得る。両者の器

形の差は小さく個々の区別では線引きの難しい場合がある。一応目安としては、XII～XIII期では小形化、若干扁平化が見られる。法量から見て口径 10 ～ 11cm、器高 1.5 ～ 1.7cm 前後であればX～XI期の可能性があり、口径 9cm 代、器高 1.3cm 前後ではXII～XIII期に帰属すると見ておけばよい。口径については前後のばらつきはあり、個々の法量よりも平均値、統計値で判断する。個々の法量については表 12 に示す。以下の小皿ａの記述ではこの点について細かく触れないが、必要な場合には記述している。

坏ａが最も小形化するのはIX期で、次のX期にはこれがさらに小形化・扁平化して上記の小皿ａとなる。IX期坏ａとX期小皿ａの区別も一括資料以外では難しい点があるが、X期には一段大きくなった坏ａが復活しており、体部中位が屈曲する点でIX期と区別可能である。

上の点を含む 7 世紀第 3 四半期から 14 世紀中頃に至る大宰府土器型式Ｉ～XX期編年の詳細についてはここでは割愛する（註 6）。

12 世紀前半以前の貿易陶磁器（以下陶磁器）は遺構に伴うものも多い割に、破片が主で図示できるものは少なく、表 11 の遺構別出土遺物一覧表に補足した。陶磁器分類は『大宰府条坊跡XV分類編』と同一記号である。高麗青磁、高麗無釉陶器、北宋前半の白磁なども含まれる。表には畿内各地からの搬入土器その他も含まれており、東播須恵質土器（須恵器）の椀・鉢、楠葉産の瓦器などがある。

**溝**

**34SD071 出土遺物（Fig.9）**

土師器

小皿ａ（1 ～ 4）　底部はヘラ切りで、口径 10.0 ～ 11.0cm、器高 1.0 ～ 1.5cm。

丸底坏ａ（5、6）　底部ヘラ切り。法量は近似し、5 は口径 15.1cm、器高 4.2cm、6 の法量は口径 15.2cm、器高 4.1cm である。

小椀ａ（7）　胎土は淡黄褐色で 1mm 程の砂粒と角閃石を多く含み、器表は淡赤褐色を呈する。赤色顔料塗布か。体部下位から底部外面は手持ちヘラケズリ、他は横ナデで調整する。他の土器とは胎土・手法とも異なり他地域からの搬入品で、7 世紀後半～ 8 世紀初頭の古期混入品とみられる。

鉢（8）　底径 20.8cm。淡黄白色で砂粒が多く混入し、きめが粗い。体部外面をナデ、内面を工具ナデで調整する。

黒色土器

椀（9）　Ａ類。内面から口縁外面にかけて細かくミガキｃを施す。体部外面に指頭圧痕が残る。

緑釉陶器

小椀（10）　胎土は土師質だが硬い。横ナデ後、全体に施釉する。釉色は濃緑色、明緑色などムラがある。防長または近江型。

**34SD078 出土遺物（Fig.9、Pla.8）**

土師器

小皿ａ（11 ～ 20）　底部はヘラ切りで口径 9.4 ～ 10.3cm、器高 1.4 ～ 1.8cm。図化していないが、他に底部糸切りのものが 1 点ある。17 は底部に穿孔がある。焼成前の穿孔で、外面から穿孔した後、内面をナデ調整する。

中丸底坏ａ（21）　底部はヘラ切りされる。口径 12.6cm。

丸底坏ａ（22 ～ 27）　底部はヘラ切りされる。内面ミガキｂで、コテ当て痕が残る。口径 15.0 ～ 16.0cm、器高 3.5 ～ 3.8cm。23 は高台の付く可能性がある。

鉢（28）　内外面横ナデ。内面の一部には工具ナデが見られる。体部外面に煤が付着する。

黒色土器

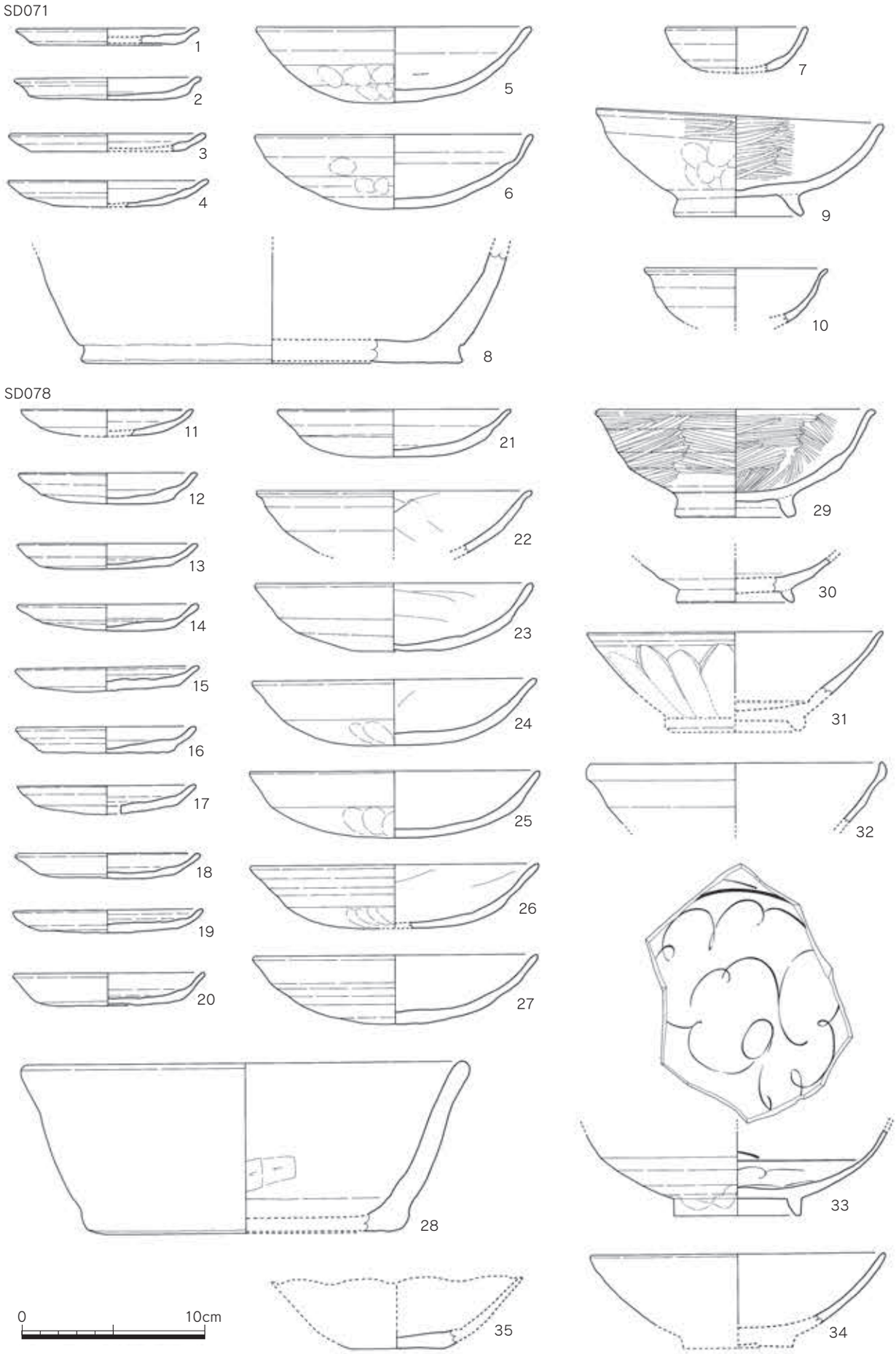



Fig.9　34SD071・078 出土遺物実測図（1/3）

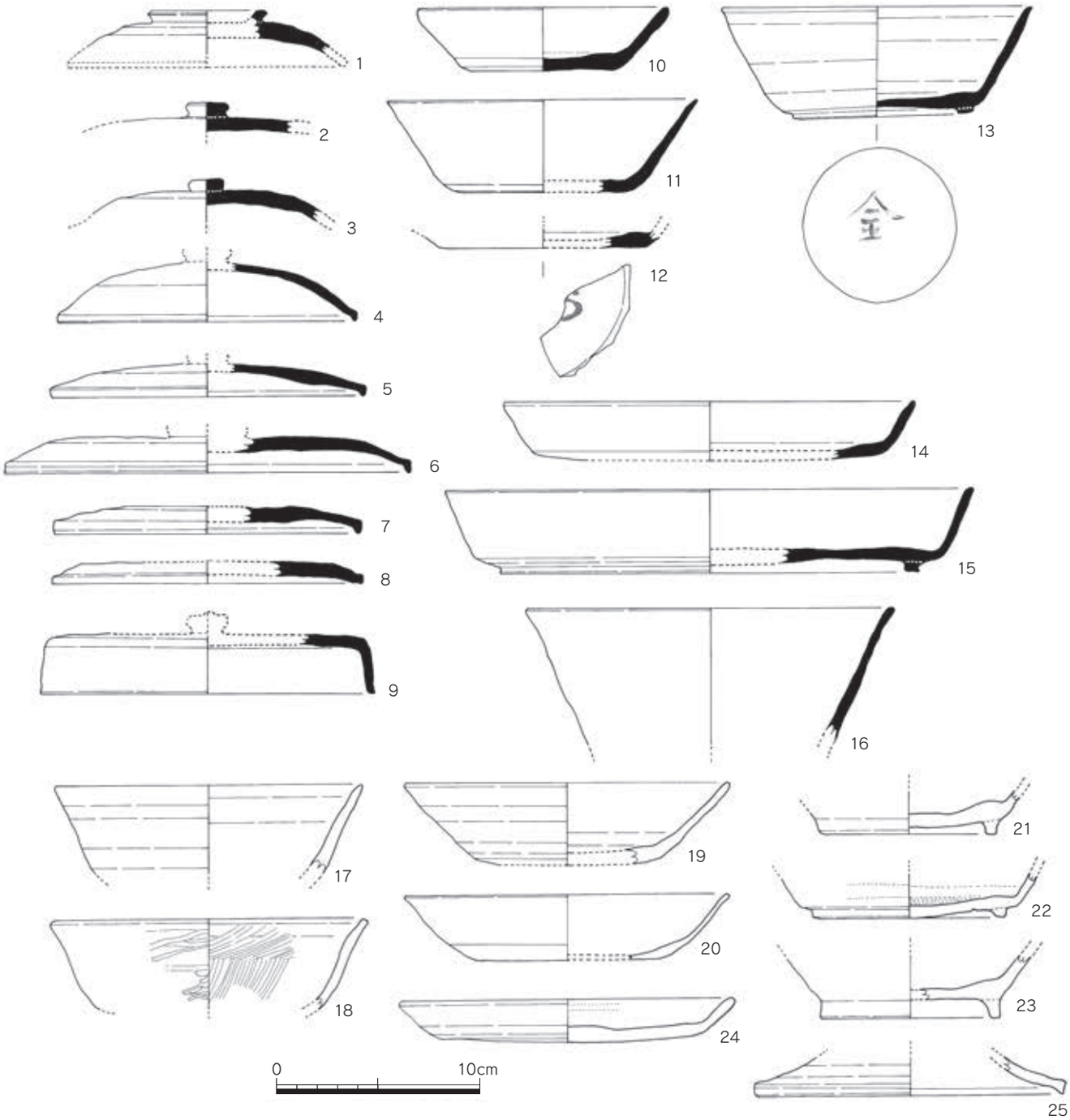



Fig.10　34SD080 出土遺物実測図（1/3）

椀ｃ（29）　Ｂ類。内面から外面下位までミガキｃを施す。体部外面中位に塗料らしい塗り分け境が見られ、境線から上部にかけて黒色または透明物質を塗布している。塗布した上部は器面に光沢を持つが下方にはこれがない。黒色土器にこうした明瞭な塗布例はこれまで見かけないが、黒色土器の器面に光沢を出す一つの手法として注意される。口縁部は外反し高台が高めで古相を呈している。

灰釉陶器

椀（30）　貼付高台で体部内外面のみ施釉。釉は灰白色に発色する。

白磁

椀（31～33）　31はⅪ-4類。外面に陽刻蓮弁文をもつ。胎土は明白色、釉は淡青緑色味に発色する。同類の典型例に比べ、やや粗製である。32はⅣ類。33はⅩⅢ-1b類。

越州窯系青磁

椀（34）　内湾気味の体部をもつ。I-3 類。復元口径 16.2cm。

坏（35）　I 類。外面は施釉後に底部端の釉を掻き取り、その部分に目跡が付く。

その他に東播系とみられる須恵質の椀があり底部は糸切りされる。

**34SD080 出土遺物（Fig.10、Pla.8）**

須恵器

蓋 b（1）　環状のつまみを持ち、天井部はヘラ削りされる。

蓋 c（2、3）　扁平なボタン状のつまみを貼付する。天井部外面はヘラ切り。

蓋 c3（4 ～ 6）　つまみの痕跡が残り、端部を断面三角形状につくる。天井部外面はヘラ切り。

蓋 3（7､8）　8 の口縁内端は浅い凹線状になっており､退化傾向が見られる。天井部外面はヘラ切り。

壺蓋（9）　壺の蓋で宝珠形のつまみを持つと思われる。天井部はヘラ削りされる。

坏 a（10 ～ 12）　底部はヘラ切り後未調整。12 は底部外面に墨痕が残る。

坏 c（13）　高台は低い。底部はヘラ切り後、中央部にハケ状工具による不定方向の条痕がみられる。外底部に「金」墨書銘がある。

皿 a（14）　底部はヘラ切り後未調整。

大皿 c（15）　高台は低く底部外周はヘラ削りされる。

鉢 b（16）口径 18.1cm。

土師器

坏（17、18）　18 は都城系の坏で外面にミガキ c、内面に 2 段の暗文を持つ。胎土は精良。7 世紀後半～ 8 世紀前半の古期のものである。

坏 a（19、20）　底部ヘラ切り後未調整。

坏 c（21、22）　22 は底部外面を除きミガキ a を施す。底部ヘラ切り後未調整。

椀 c（23）体部の形状は直線的である。底部ヘラ切り後未調整。

皿 a（24）内面はミガキ a､外面は横ナデ､体部下位は､ヘラケズリされる。底部はヘラ切り後未調整。

高坏（25）脚部で内外面横ナデ。

SD080出土土師器・須恵器は多くはなく破片が殆どである。7世紀後半のものが少数あり、これは古期混入品と見られる。またII・Ⅲ期（8世紀前半～中頃）に上限を上げても良い須恵器坏cもあるが、これも多くはない。抽出した中にはⅥA期（9世紀第1四半期）とできるものがあるが、まだ多器種構成傾向も残るためⅤ期（8世紀第4四半期）でも無理はない。

**34SD084 出土遺物（Fig.11、Pla.10）**

土師器

小皿 a（1 ～ 13）　底部はヘラ切りされる。口径 9.4 ～ 10.9cm、器高 1.1 ～ 1.85cm。13 は口径 10.4cm、器高 1.8cm。やや古くⅩ～Ⅺ期のものである。10 は粘土紐の継ぎ目が空洞となり内外面の対称位置に残る。これは仕上げの横ナデ調整が不十分なためとみられ、一種の不良品である。皿の内面を上から見ると粘土紐は左巻きであり、下に轆轤や敷板を使用したならばこの台は逆の右回りとなる。通常では各種の仕上げ調整により、器面に成形の第一次痕跡を残す例は殆ど無いが、本例は土器制作手法の復元には格好の資料となる。すなわち 11・12 世紀においても依然として粘土紐による成形が主流であった点を示すものであろう。

小皿 a2（14、15）　底部はヘラ切りされる。15 は小片のため径がやや不正確である。Ⅹ―Ⅺ期に多いタイプである。

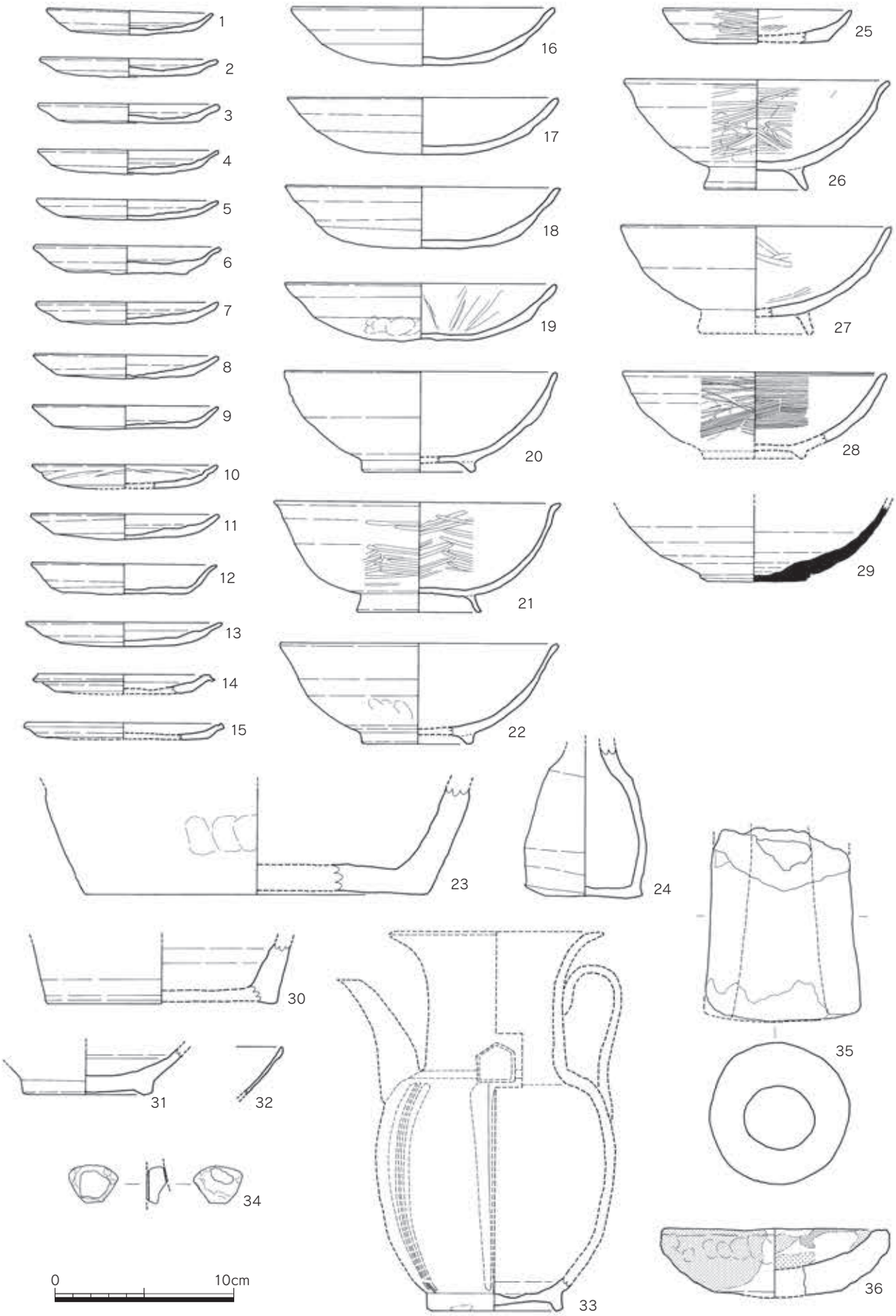



Fig.11　34SD084 出土遺物実測図（1/3）

丸底坏ａ（16 ～ 19）　底部はヘラ切りされる。口径 15.0 ～ 15.6cm。

椀ｃ（20 ～ 22）　20・22 は体部外面中位に鈍い屈曲があり、この部分以下は内側から平底を押出して内湾形とする。押出し方の限度もあり、体部下位の丸味は弱くなだらかとなる。これに対して 21 は上の画一的手法とは異なる。下位に丸味があり、器肉が薄く口縁はやや外反する。高台は貼付で細く平坦な端部をなす。体部内外面はミガキｂの後、入念にミガキｃで調整されて凹凸がない。一部亀裂があるが通常の土師器椀に比べて精製された感がある。また、胎土は淡灰白色で底部外面のみは橙白色だが、器面全体は白色味に近い。形態から見れば古相を呈しＸ期に近いが、通常の土師器とは差別化される特徴から白色土器（または緑釉陶器素地）と見る事ができる。風化磨滅も少なく完形に近い事から古期混入品ではなく、本遺構時期に伴うとみられ、上限はXI期、下限はXII期となる。土師器型式よりも防長型緑釉陶器の新期に近い特徴と見るべき点がある。

鉢（23）　黄白色味の胎土で底部外面をナデ、他を工具ナデで調整する。

小壺（24）　底部はヘラ切り後未調整、体部外面は横ナデ調整する。

黒色土器

小皿ａ（25）　Ｂ類。内面はミガキｂの後、ミガキｃを行う。

椀ｃ（26、27）　Ｂ類。26 は丁寧に調整され、内面はミガキｂの後にミガキｃを加える。27 は磨耗のため不明瞭だが内面ミガキｃ、外面はヨコナデと思われる。26・27 の口縁部は外反し高台が高めで古相を呈しておりXI期に属する。

瓦器

椀（28）　口縁内に凹線があり内面のミガキは極めて密である。畿内楠葉産。

須恵質土器

椀（29）　底部は糸切りと思われ、不定方向のケズリを加える。灰白色を呈す。東播系。

緑釉陶器

壺（30）　胎土は明灰白色で土師質。外面全体をヘラケズリする。内面は露胎、外面全体に明黄緑色の釉が掛かる。

白磁

椀（31、32）　31はIV-1a類。32はII-5類で胎土はやや灰色味、釉は緑色味を帯びる。

越州窯系青磁

水注（33）　Ⅲ類の底部で他の出土例から全体を復原した。胎土は明茶灰色で釉は暗緑色に発色する。内面は露胎、外面は全面施釉後、畳付の釉を掻き取る。畳付に目跡が付く。この手法はⅢ類よりもⅠ類に通有なものであり、例外的である。体部外面６ヶ所に２条単位の箆縦線を入れるが２条単位のⅠ類の例はない。

イスラム陶器（34）

小片で、胎土は軟質で黄白色を呈する。釉は厚く、暗青緑色に発色する。内面は濁化した水色に発色し、一部は暗銅色を呈する。一端が厚いため胴部下位の破片と思われる。傾き不明で、現状図化とする。

土製品

鞴羽口（35）　やや大型の鞴羽口である。表面の一部が淡灰色に変色している。

坩堝（36）　内外面に赤紫色と黒色の物質が厚く溶着し、内面底部には淡灰緑色の物質が薄く付着する。銅の溶解用と見られる。

**34SD085 出土遺物（Fig.12）**

須恵器

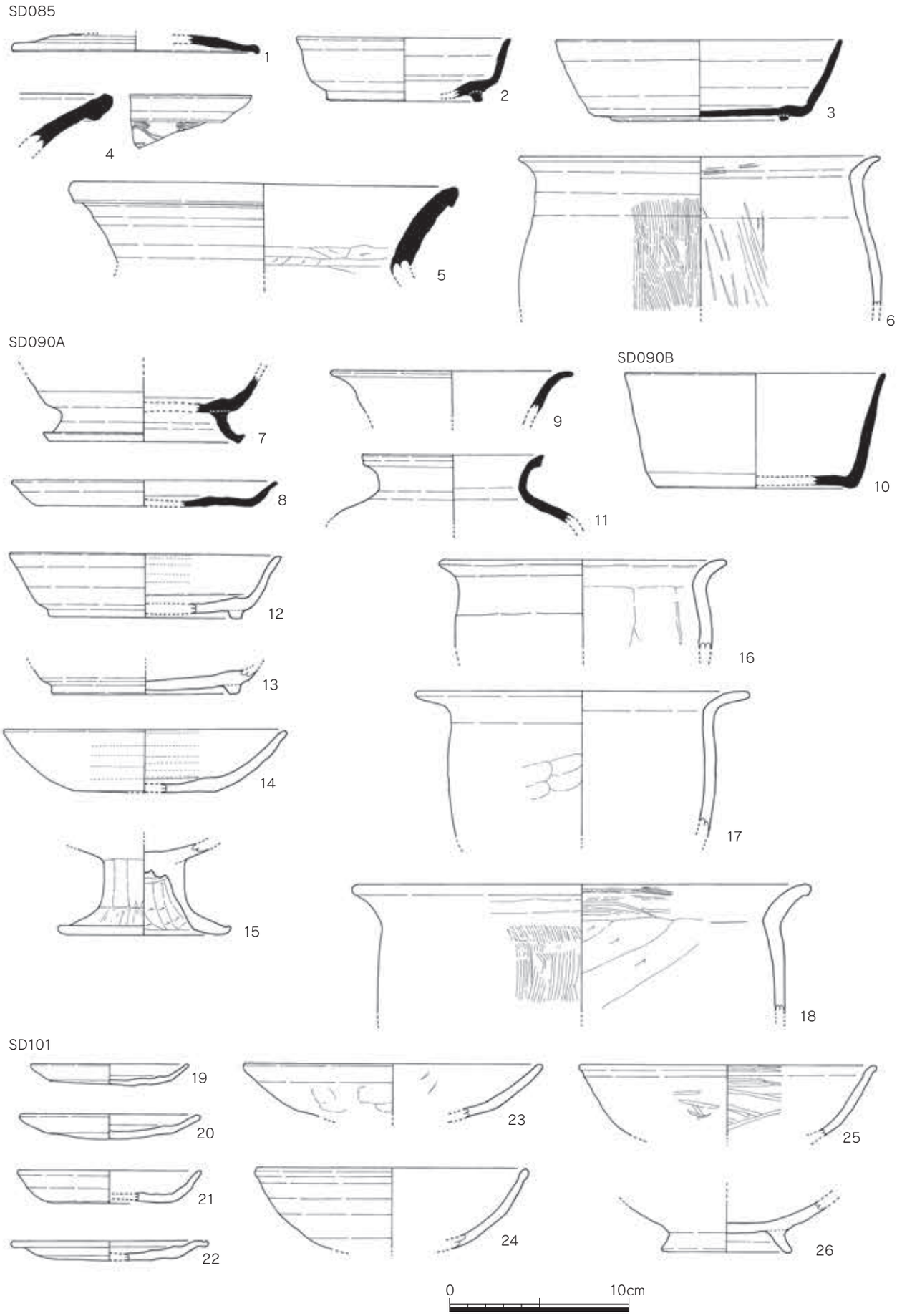



Fig.12　34SD085・090・101 出土遺物実測図（1/3）

蓋4（1）　口縁端部は断面三角形状にならず、丸くおさめる。天井部外面はヘラ切り後未調整。出土遺物中では最新様相を示す1点であるがⅤ・ⅥA期共通のものでもある。

坏c(2､3)　3は高台がかなり低く､底部外面はヘラ切り後未調整｡内面に明確なナデの痕跡は見られない。

甕（4、5）　4は外面に櫛波状文を有する。5は口径21.7cm。

土師器

中甕a（6）　外面はハケ、内面はケズリ調整する。

**34SD090 出土遺物**

**SD090A（SD130）出土遺物（Fig.12）**

SD090の古期Aの溝（SD130）の出土である。

須恵器

坏c（7）　高台が高く、端部をはねあげる。体部下位は回転ケズリされる。7世紀中～後半の古期混入品である。

皿a（8）　底部ヘラ切り後未調整。

長頸壺（9）　長頸壺の口縁部と思われる。

**34SD090B 出土遺物（Fig.12）**

須恵器

坏a（10）　深形のもの。外面の体部下位から底部は回転ヘラケズリされる。

小甕（11）　小片のため径はやや不正確である。

土師器

坏c（12、13）　底部はヘラ切り後未調整。13の内面はミガキa、外面は不明。

坏d（14）　底部はヘラ切り後未調整。体部内外面はミガキaで調整する。

高坏（15）　脚部外面を面取りする。7世紀中～後半の古期混入品である。

甕（16～18）　16・17は小甕a。18は甕aで外面を縦ハケ、内面をケズリで調整する。16・17はⅥA期まで下がる可能性がある。

**34SD101 出土遺物（Fig.12）**

土師器

小皿a（19～21）　底部はヘラ切りされる。19・20は口径8.9～10.1cm。器高1.3～1.4cm。21は口径10.2cm、器高1.8cm。体部中位で屈曲し、Ⅺ期の坏aとした方が適切か。

小皿a2（22）　底部はヘラ切りされる。口径11.0cm、器高1.1cm。Ⅹ・Ⅺ期に多いタイプである。

丸底坏（23、24）　高台のつく可能性もある。口径16.3～16.7cm。

椀（25）　口縁はわずかに外反する。内面をミガキb後にミガキc、外面は粗いミガキcで調整する。

黒色土器

椀c（26）　B類。内面にはミガキの痕跡があり、赤色顔料が付着する。高台が高めでⅺ期に属する。

**34SD102 出土遺物（Fig.13）**

土師器

小皿a(1～10)　口径9.0～10.2cm､器高1.0～1.7cm。9は底部を糸切りするが､他はヘラ切り。

丸底坏a（11～19）　底部はヘラ切りされる。11は口径13.0cmの中丸底坏aである。

丸底坏cまたは椀c（20）　口径14.6～16.4cm。

灰釉陶器

壺（21）　外面に叩き痕が残る。器表は内外面共に灰色から暗灰緑色を呈す。

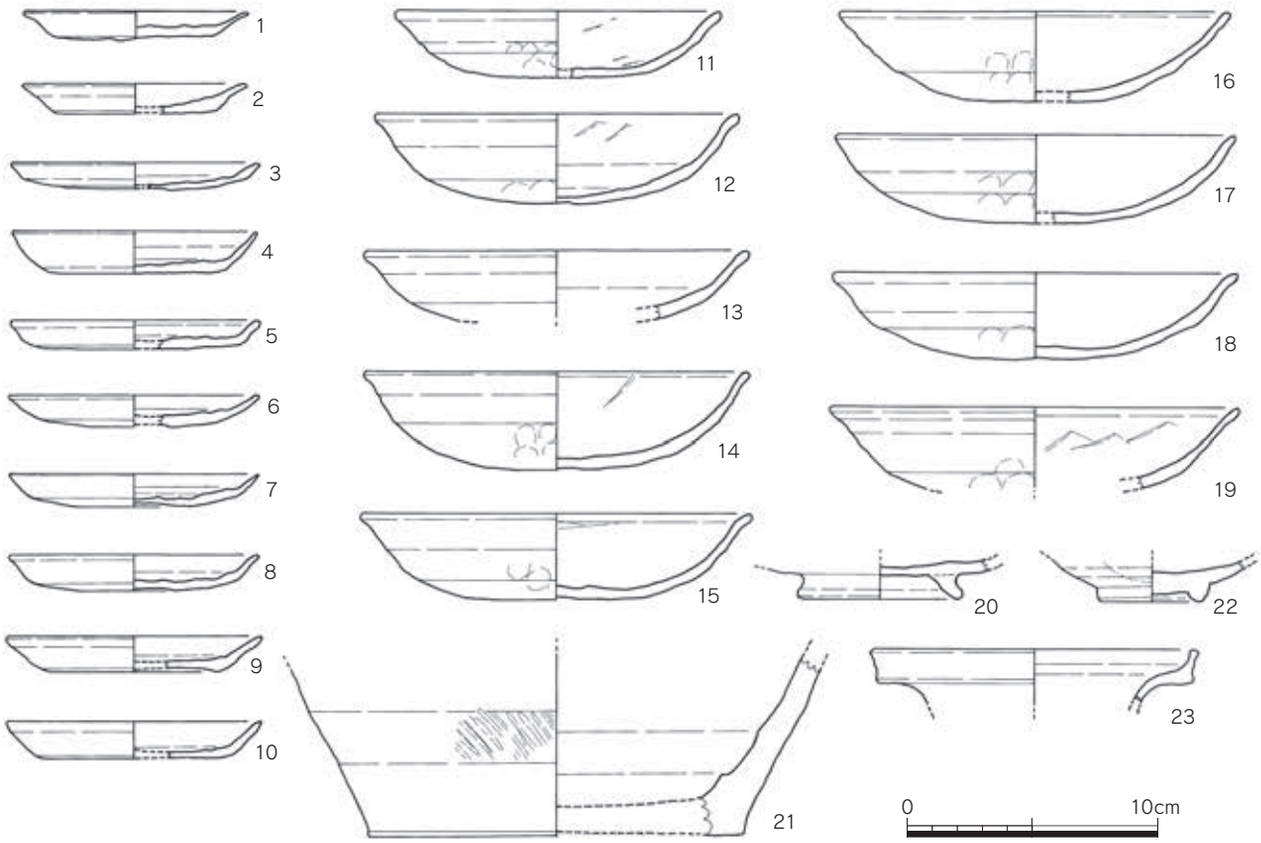



Fig.13　34SD102 出土遺物実測図（1/3）

白磁

皿（22）　Ⅲ-2類。高台の削り出しはかなり雑である。

高麗無釉陶器

壺（23）　胎土は茶褐色で緻密。外面は黒灰色、内面は灰色を呈す。

**34SD110 出土遺物（Fig.14）**

土師器

小皿 a（1 ～ 5）　底部はヘラ切りされる。口径 9.5 ～ 10.6cm、器高 1.0 ～ 1.9cm。4・5 は器高が高めで、一段階前のⅪ期に属する。

小皿 a2（6）　底部はヘラ切りされる。口径 11.2cm、器高 0.9cm。Ⅹ・Ⅺ期に多いタイプである。

坏 a（7）　口径 11.8cm、器高 2.0cm。一段階前のⅪ期に属する。

丸底坏 a（8 ～ 16）　底部はヘラ切りされる。8 は中丸底坏 a で口径 11.3cm、小形例は少ない。他は口径 14.5 ～ 15.9cm。14 の口縁部は外反し古相を帯びており、一段階前のⅪ期に属する。

小壺（17）　底部はヘラ切りされる。体部外面は横ナデ調整、内面は頸部に絞り痕が残り、上部をヘラケズリする。

黒色土器

椀 c（18、19）　A 類。18 はやや外反する口縁を持ち、内面から外面中位までミガキ c を施す。古相を呈しておりⅪ期に属する。19 は内面から外面下位までミガキ c。共に外面に指頭圧痕あり。

甕（20）　A 類。内面ミガキ C。外面に黒褐色の炭化物が付着する。

灰釉陶器

椀（21）　胎土は明灰白色で、全体に薄く施釉される。釉は外面が明灰色、内面は白色～緑白色の斑状となる。H105×S-1 型式。

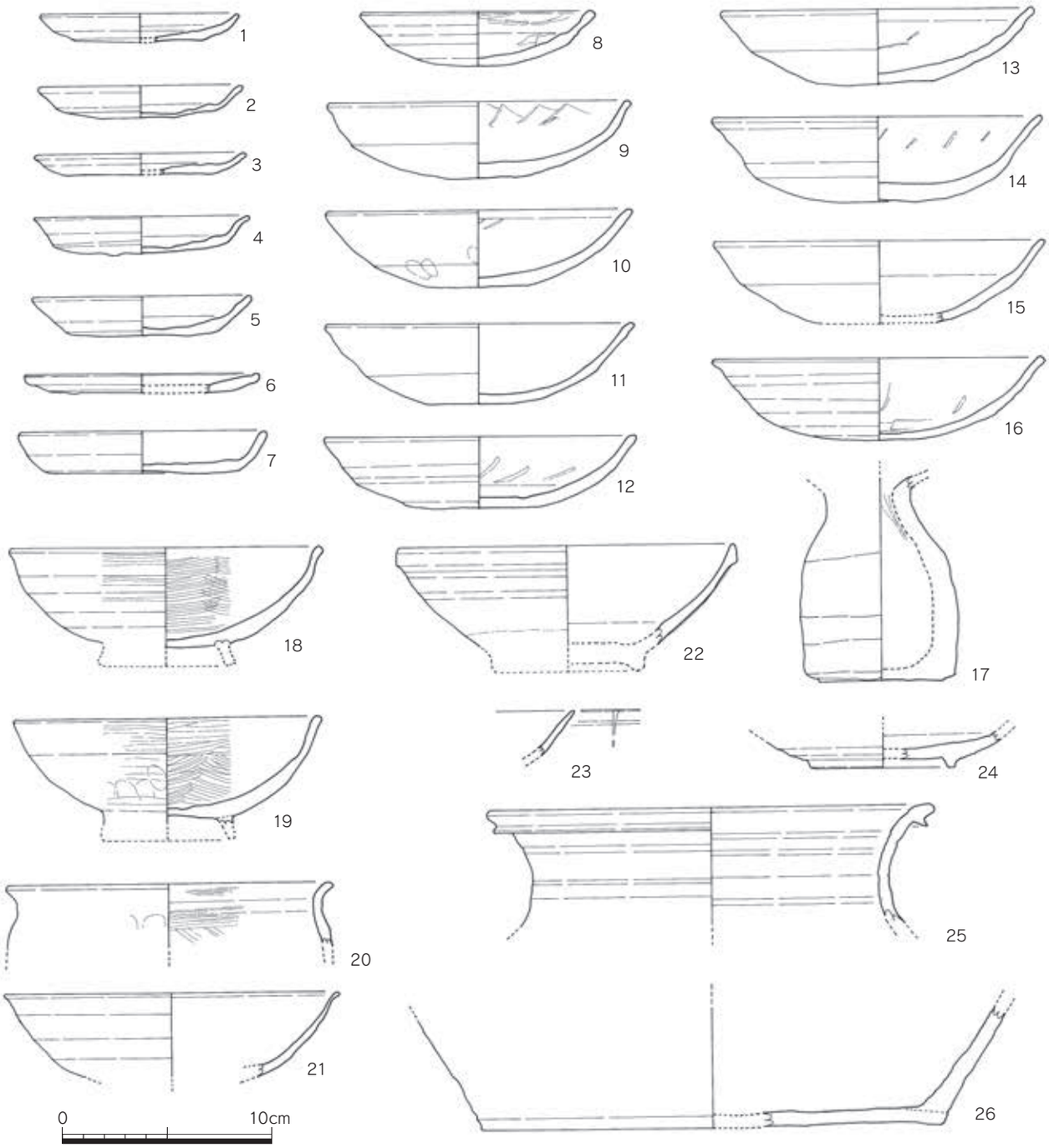



Fig.14　34SD110 出土遺物実測図（1/3）

白磁

椀（22）　椀Ⅳ-1b類。

皿（23）　Ⅺ類。

越州窯系青磁

皿（24）　I-1 類もしくは I-2 類。胎土は灰褐色、釉は淡黄緑色を呈する。全面施釉後、畳付の釉を掻き取る。畳付と内面見込みに目跡が付く。

高麗無釉陶器

甕（25、26）　胎土は緻密で赤茶色を呈す。回転ナデ痕は凹凸が顕著である。25 は外面暗青灰色、内面暗灰色。26 は体部外面が黒灰色、他は暗青灰色である。

**34SD121 出土遺物（Fig.15）**

土師器

小皿ａ（1 ～ 4）　底部はヘラ切りされる。口径 9.6 ～ 11.2cm、器高 1.2 ～ 1.5cm。

小皿 a2（5）　底部はヘラ切りされる。口径 11.2cm、器高 0.8cm。

丸底坏ａ（6 ～ 10）　底部はヘラ切りされる。口径 14.0 ～ 16.3cm。

椀ｃ（11、12）　11 は口縁端部が外反する。内外面ミガキｃだが、外面のミガキは粗い。古相を呈しておりⅪ期に属する。12 は内面ミガキｃ。

甕ｂ（13、14）　13 は外面にタタキ痕が残る。14 の最終調整は内外面横ナデ。

黒色土器

小皿ａ（15）　B 類。底部はヘラ切りされる。内面～外面体部をミガキｃで調整する。

白磁

椀（16～20）　16・17は椀Ⅳ-1a類。18はⅣ類。19はⅪ-5類。20はⅫ類か。

**34SD125 出土遺物（Fig.15）**

土師器

小皿ａ（21、22）　底部はヘラ切りされる。口径 9.8 ～ 10.2cm、器高 1.4cm。

坏ａまたは椀ａ（23）　底部はヘラ切りと思われる。Ⅷ～Ⅺ期の混入品。

丸底坏ａ（24、25）　底部はヘラ切りされる。口径 14.0 ～ 14.4cm。

製塩土器

甕（26）　胎土は粗く、0.5 ～ 4mm 程の砂粒を多量に含む。外面に格子叩き、内面に条線状の当て具痕が残る。淡茶褐色を呈す。

**34SD138 出土遺物（Fig.15）**

土師器

坏ａ（27）　底部ヘラ切りか。淡茶灰色を呈す。口径 12.9cm、器高 3.9cm。Ⅶ期混入品とみられる。

**34SD178 出土遺物（Fig.15、Pla.8）**

土師器

中椀ｃ（28）　口径 12.2cm。口縁端部に浅い沈線が入る。内面底部と外面体部下位に煤のような炭化物が付着する。Ⅸ期。

皿ａ（29）　口径 12.8cm、器高 1.7cm。底部はヘラ切り後ナデ。内面の底部から口縁の一部に煤のような炭化物が付着する。Ⅶ期。

越州窯系青磁

坏（30）　I-2A 類。全面施釉後、外面底部端の釉を掻き取り、その部分に目跡が残る。内底にも目跡あり。口縁部を 2 枚一組の 5 弁花につくる。体部外面に 5 本のヘラ押圧縦線を入れ、花弁を区切る。胎土は明茶灰色で、釉は淡緑灰色に発色する。

**34SD210 出土遺物（Fig.16）**

須恵器

壺（1）　頸部内面をナデ、他を横ナデ調整する。

土師器

坏ａ（2 ～ 5）　3 は底部外面から体部下位を回転ヘラケズリするが、他は底部ヘラ切り後未調整。

皿ａ（6）　底部はヘラ切り後未調整。

中甕ａ（7、8）　7 は体部外面に煤が付着する。

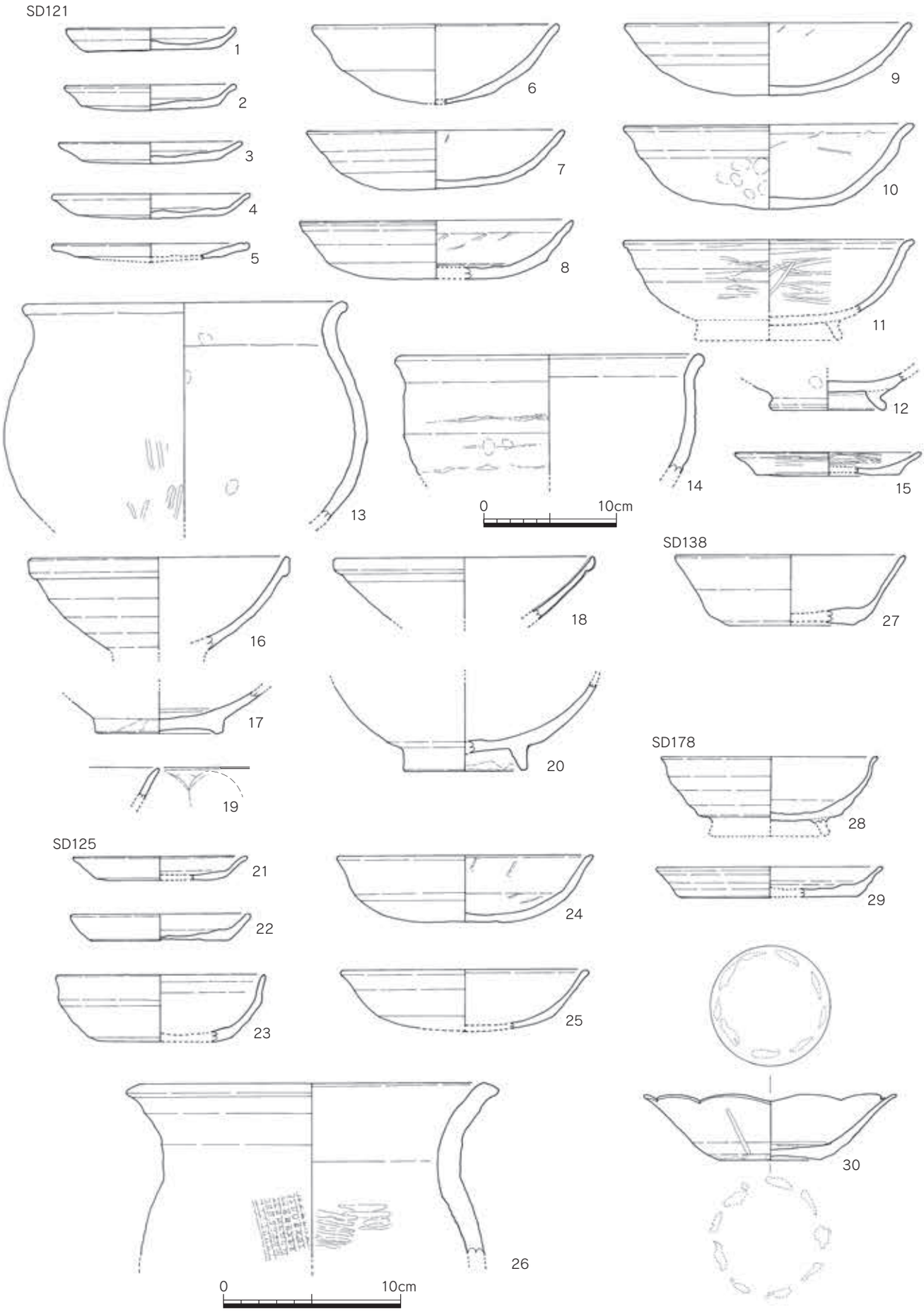



Fig.15　34SD121・125・138・178 出土遺物実測図（1/3、13・14 は 1/4）

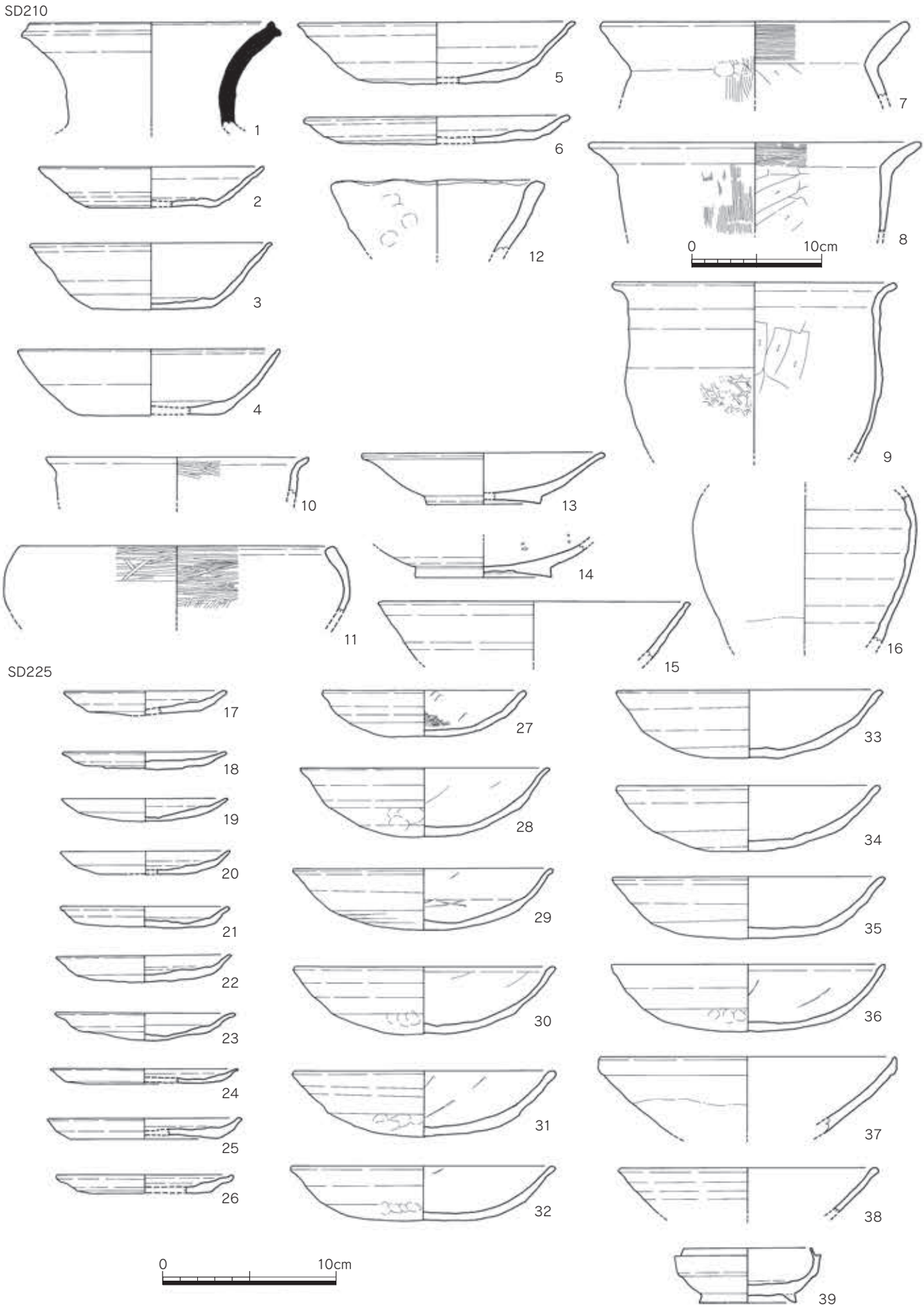



Fig.16　34SD210・225 出土遺物実測図（1/3、7 ～ 9 は 1/4）

中甕ｂ（9）外面は格子叩き、内面はヘラケズリで調整する。外面に煤が付着する。

黒色土器

小甕（10）　Ａ類。内面にミガキｃを施す。燻しは悪く内面が明茶褐色、外面は橙茶灰色を呈す。

鉢（11）　Ａ類。全体にミガキｃを施す。

製塩土器

壺（12）　内面ナデ調整か。

緑釉陶器

皿（13、14）　13 の胎土は明茶色で硬質。全面にミガキを施す。全面施釉で釉は淡緑白色に発色する。山城産（洛西型）で SK145 ＜Ⅻ期＞出土片と接合した。14 の胎土は須恵質で暗茶褐色を呈す。蛇ノ目高台で内面及び外面体部にミガキを行い、釉を掛けていない素地である。山城産（洛西型または洛北型妙満寺窯）とみられ、畿内から遠い消費地に素地が出る例も珍しい。

その他施釉陶器では他の遺構出土と接合したものがある。灰釉陶器では硯片（1）[透かし、原始灰釉SD230＜ⅥA期＞接合]。緑釉陶器では坏[1][防長産、SX192・SX201接合、Fig.38参照]。

越州窯系青磁

椀（15）　Ｉ類。胎土は灰褐色で黒斑を含む。釉は淡黄緑色に発色する。初期高麗青磁と区別がつかないが、時期的に見て越州窯系と見られる。

長沙窯系褐釉陶器

壺（16）　9 世紀では青磁・白磁に比べて出土例はきわめて少ない。化粧土はなく暗茶褐色の釉が胴部外面にかかり、下位および内面には施釉しない。灰黄色味の素地に白色斑点を含む。

SD210の土器は全体的にはⅥA期が多いが、土師器甕bは後出するためⅥB期と見ておく。

**34SD225 出土遺物（Fig.16、Pla.8）**

土師器

小皿ａ（17 ～ 25）　不明瞭なものもあるが、全て底部ヘラ切りと思われる。口径 9.1 ～ 11.2cm、器高 1.1 ～ 1.6cm。

小皿 a2（26）　底部ヘラ切り。口径 10.2cm、器高 1.1cm。口縁内の屈曲が鈍くⅫ期に属する。

丸底坏ａ（27 ～ 36）　底部ヘラ切り。27 は小型で口径 11.9cm。内面をミガキｂで調整する。他は口径 14.4 ～ 16.0cm。

白磁

椀（37）　Ⅳ類。小片のため径はやや不正確。

初期高麗青磁

椀（38）　Ｉ類。胎土は褐色味の淡灰色で黒色粒を含む。釉は不透明で、明緑灰色に発色する。

越州窯系青磁

合子（39）　Ⅲ類。胎土は明灰色及び明茶灰色で、黒色粒を多く含む。釉は濃緑色。全面施釉で、受け部と高台内に目跡がある。

**34SD228 出土遺物（Fig.17）**

土師器

小皿 a2（1）　底部ヘラ切り。口径 11.4cm、器高 0.8cm。

丸底坏ａ(2)　底部ヘラ切り。やや深い器形で、口縁部は外反気味である。口径 15.4cm、器高 4.4cm。

椀ｃ（3）　細く高い高台を持つ。外面体部下位に指頭圧痕が見られる。

白磁

皿（4）　良質で青白磁に近い。胎土は白色で硬質。釉はやや青味を帯びた乳白色を呈する。底部内面は饅頭形の小さな凸部をつくり、これを中心として体部内５方向に櫛刀による隆線帯を引く。小品ながら入念な装飾法である。Ⅺ類に属する。

SD228 の土器は少ないがⅪ期 (11 世紀中頃 ) に属する。

**34SD229 出土遺物（Fig.17、Pla.8）**

土師器

小皿ａ(5 ～ 10)　5 は不明確だが他は底部がヘラ切りされる。口径 9.0 ～ 9.9cm、器高 1.3 ～ 1.5cm。

丸底坏ａ（11 ～ 20）　13 は不明確だが他は底部がヘラ切りされる。口径 14.3 ～ 15.8cm。

小甕ａ（21）　内面をヘラケズリ、外面体部をハケで調整する。8 世紀の混入品。

須恵質土器

椀（22）　東播系。底部は糸切りされる。

鉢（23）　東播系か。口縁端部は上方へ引き出される。

緑釉陶器

皿（24）　円盤高台。胎土は明黄白色で軟質。体部外面にミガキがあるが、他の部分は不明である。全面施釉で釉は淡緑色を呈す。洛北型。

白磁

椀（25～29）　25・26はⅣ-1a類。27はⅣ-1b類。28はⅣ類。29はⅫ-1b類。

越州窯系青磁

椀（30、31）　30 は I-2 ア類。胎土は茶灰褐色、釉は茶黄緑色でやや光沢がある。内面に細い目跡が付く。SK215 ＜Ⅷ - Ⅸ期＞出土品と接合した。31 は I-2 ウ類。底部外面に目跡が残る。

陶器

硯（32、33）　32 は二面硯で、胎土は須恵質に近く色調は淡灰褐色である。ヘラケズリで成形し、凹部をナデ調整する。33 は須恵器の甕破片を転用した猿面硯である。

他に中国産陶器として大形の耳壺Ⅲ類の底部がある。

**34SD231 出土遺物（Fig.17）**

龍泉窯系青磁

椀（34）　Ⅳ類で口縁部は外反し、口縁部外面に櫛横線と縦割線の文様を入れる。雷文帯の一種とされる事が多い。高台は欠損するが典型的な元様式に属する。1323 年に沈んだと見られる韓国新安沖沈没船積載品に類例がある（註 7）。

**34SD232 出土遺物（Fig.18）**

土師器

小皿ａ（1 ～ 8）　底部はヘラ切りされる。口径 10.1 ～ 10.9cm、器高 1.3 ～ 2.0cm。

丸底坏ａ（9、10）　底部はヘラ切りされる。口径 16.5cm 前後。

製塩土器

壺（11）　II-b類。

越州窯系青磁

椀（12）　I-5 類。体部外面下位以下は露胎である。底部内外面に目跡が残る。

**34SD235 出土遺物（Fig.18）**

土師器

皿ａ（13）　底部はヘラ切後未調整。

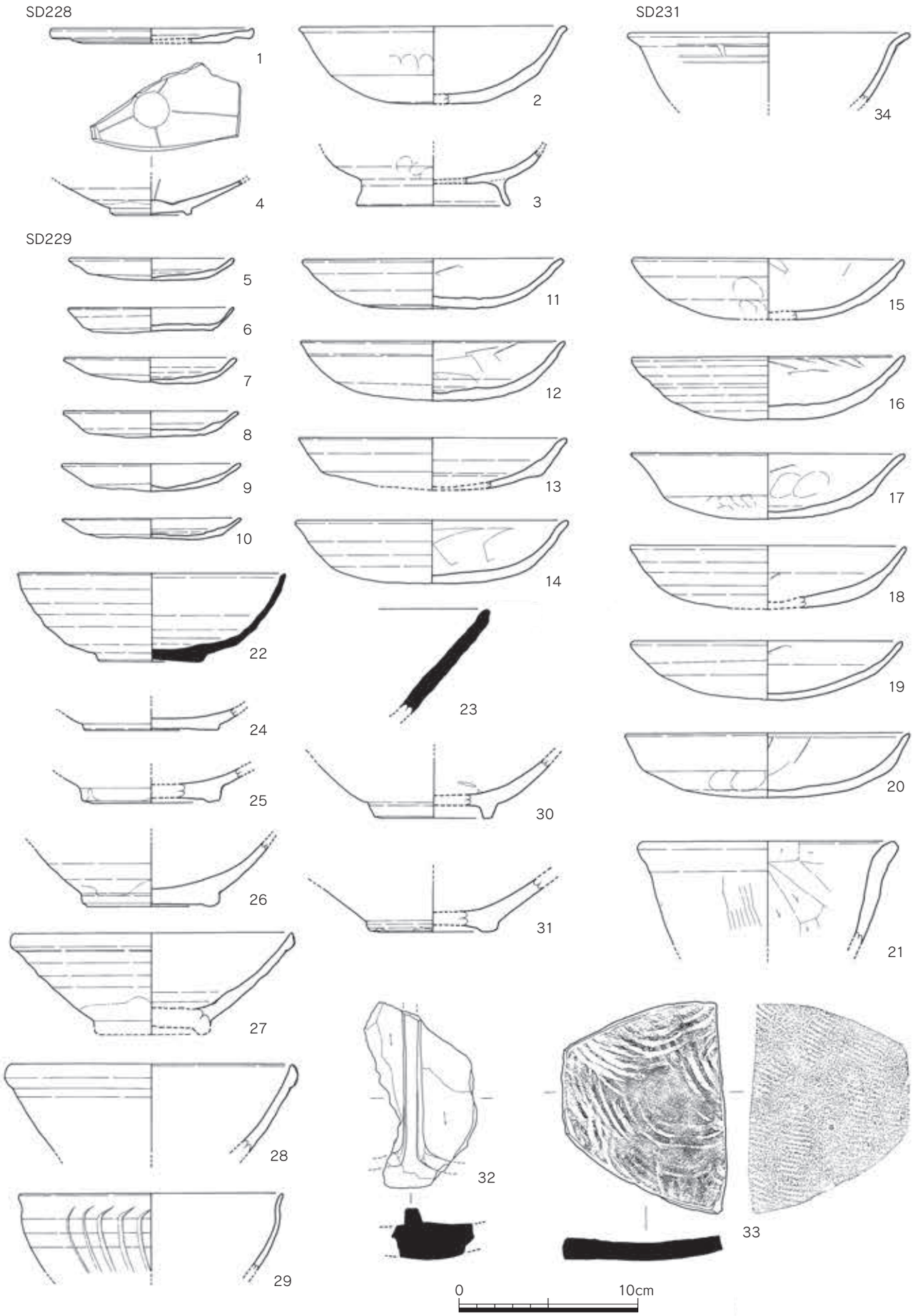



Fig.17　34SD228・229・231 出土遺物実測図（1/3）

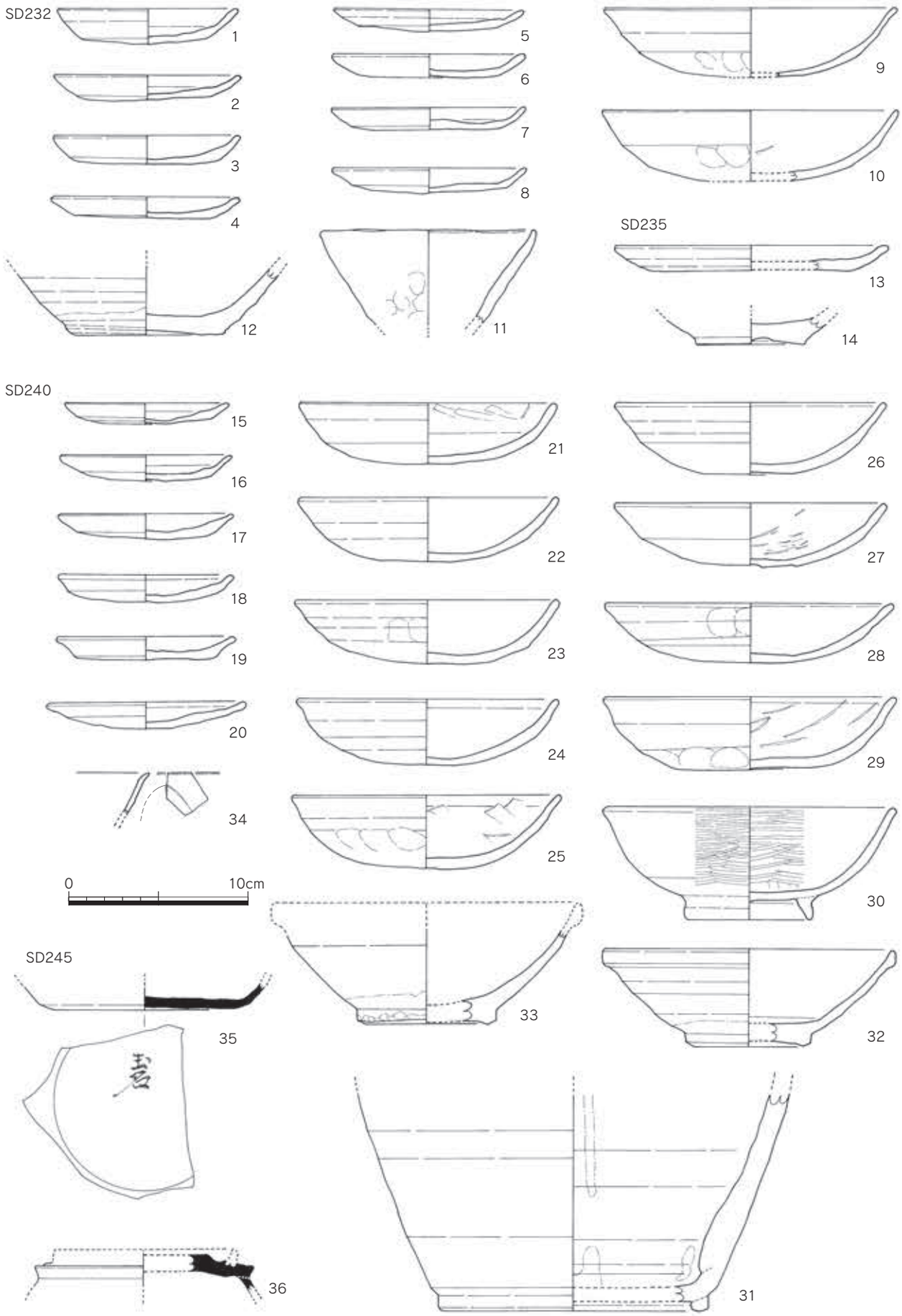



Fig.18　34SD232・235・240・245 出土遺物実測図（1/3）

越州窯系青磁

椀（14） I-1a 類。全面施釉で釉は淡黄緑色に発色する。畳付に 5 個の目跡がある。

**34SD240 出土遺物（Fig.18）**

土師器

小皿 a（15 ～ 20） 底部はヘラ切りされる。口径 9.15 ～ 11.1cm、器高 1.2 ～ 1.5cm。

丸底坏 a（21 ～ 29） 底部はヘラ切りされる。口径 14.4 ～ 16.4cm。25 は外面底部と口縁の一部に油煤が付着する。

黒色土器

椀 c（30） B 類。外面のミガキは密だが内面はやや疎らである。

灰釉陶器

瓶（31） 広口瓶の底部と思われる。胎土は灰白色で外面に淡緑灰色の釉が薄くかかる。外面を回転ヘラケズリ、内面を回転ナデで調整する。

白磁

椀（32～34） 32はⅣ-1a類、33はⅣ-1b類。34はⅪ-4類。

**34SD245 出土遺物 （Fig.18、Pla.8）**

須恵器

皿 a（35） 底部はヘラ切りされる。底部外面に墨書があり「玉名」と読める。

円面硯（36） 色調は黒灰色で焼成は堅緻である。脚部に透かしが入る。

**土坑**

**34SK005 出土遺物（Fig.19、Pla.8）**

土師器

丸底坏 a(1) 底部はヘラ切りされる。内面にミガキ b を施すが､底部及び体部の凹んだ部分には到っていない。

長沙窯系青磁（青釉）椀（2） 口縁部の小片が出土している。SK066 下層、SK260 より出土したものと同一個体の可能性がある。胎土は緻密で灰褐色を呈する。淡黄緑色の半透明釉が内外面にかかる。ごく細かい貫入が見られる。

土製品

権（3） 瓦を再加工したものである。白色味の強い淡褐色を呈す。全面を研磨しており、上部に両側からの穿孔がある。

**34SK010 出土遺物（Fig.19、Pla.8・9）**

土師器

坏 a（4 ～ 15） 底部はヘラ切りされる。口径 12.5 ～ 15.0cm、器高 3.3 ～ 4.4cm。5・9 ～ 13 は底部外面に墨書がある。12 ～ 15 は「嵒」である。5・9 は底部 1/2 程の破片で、字の右半分を欠落し不鮮明であるが字体や記入位置からみて「嵒」と見られる。11 は「道司」と読める。「嵒」の文字は底面中央に大きく記され、「道司」とも筆跡は似ている。10 は不明である。

皿 a（16） 底部はヘラ切り後未調整である。

土師器はⅥA 期・9 世紀第 1 四半期の単一型式で、すべて底部はヘラ切りされ、体部外面下位の削りやミガキ a はなく、単純化された土器群となる。このタイプはⅤ期に少数現れ、形態、法量、赤味を呈する色調（茶褐から暗橙色系、橙黄色等）の点はⅤ期同様だが、8 世紀代に通有な削りやミガキ手法を持つ他の器種は淘汰される。遺構は地鎮などの祭祀遺構であり、短期・一過的に使用された土器群

としても良好な資料である。遺構は浅く後世の掘削や調査時の表土除去の際に被害を受けており、本来、土器は大半完器であったと思われる。

近似する土師器としては宮ノ本遺跡２号墓の木炭郭墓出土例がある（註８）。

他に須恵器坏ａ、坏ｃ、高坏、甕、土師器甕ａなどが出土したがいずれも砕片で８世紀の古期混入品である。

緑釉陶器

椀と皿が出土している。皿はほぼ完形で、土師器とともに一括埋納されたと見られる。

椀（17、18）　口縁部・体部の破片。17 の口縁はやや外反し胎土は明黄灰色で軟質。口縁端部から内面にかけてミガキを施す。釉は明緑色を呈す。18 の口縁はほぼ直口し、胎土は明黄灰色で軟質。釉はほとんど剥落しているが淡緑色とみられる。17 は山城産（洛北型）か防長産か判別困難で後者の可能性もあり、18 は胎土がやや砂味を帯び洛北型と見られる。

皿（19、20）　２点とも同一形態をなしほぼ完形である。口縁部は外反し底部は円盤状高台をなす。共に胎土は黄灰色で軟質。釉は淡緑色で内外に施釉されるが底部外面は一部のみ釉が残る。底部外面はやや擦れており釉が剥落した感もある。体部内外面にミガキを施す。山城産（洛北型）の典型的な資料である。内外面には径２～3mm 前後の多数の円形窪みがある。上記の椀 17 の外面、18 の内外面にもやや疎らに似たような痕跡があるが、皿 19・20 の窪みは多い。特に 19 の底部外面は極端な数であり、自然風化とも思えない点がある。

他に緑釉陶器の細片５点があり、胎土は軟質で山城産（洛北型）または防長産である。

**34SK015 出土遺物（Fig.19）**

土師器

坏ａ（21、22）　底部はヘラ切りされる。21 は口縁の一部が灰黒色に変色している。Ⅶ期・９世紀第３四半期。

**34SK020 出土遺物（Fig.20）**

土師器

小皿ａ（1 ～ 4）　1・2 は底部ヘラ切り、3・4 は糸切りされる。3 は口径 8.4cm、器高 1.4cm で、この１点が遺構の年代を示すとみれば時期的には 13 世紀に下降する可能性がある。

越州窯系青磁

椀（5、6）　5 は I-2a エ類。胎土は灰褐色で緻密。全面施釉後、畳付の釉を掻き取る。釉は灰緑茶色に発色し、畳付と内面見込みに目跡が残る。6 はⅢ類であるが高台畳付は細くならず断面は角に近い。胎土は灰白色で硬質。全面施釉で釉は淡黄緑色に発色する。高台内際に目跡が残る。

土製品

紡錘車（7、8）　土師器の底部付近を転用したものか。周囲を打ち欠き中央に穿孔する。

**34SK025 出土遺物（Fig.20）**

須恵器

壺（9）　双耳壺と思われる。小片のため径はやや不正確である。

土師器

小皿ａ（10 ～ 13）　底部はヘラ切りで口径は 9.6 ～ 10.5cm、器高 1.1 ～ 1.5cm。

丸底坏ａ（14 ～ 17）　底部はヘラ切りで、口縁部は外反し体部上位は直立に近くⅫ期よりも深形の形状でⅪ期の特長を示す。口径は 14.8 ～ 15.8cm。

丸底坏ｃ（18）　口縁は外反し、体部形態は丸底坏ａと共通する。内面をミガキｂで調整する。口径 15.9cm。

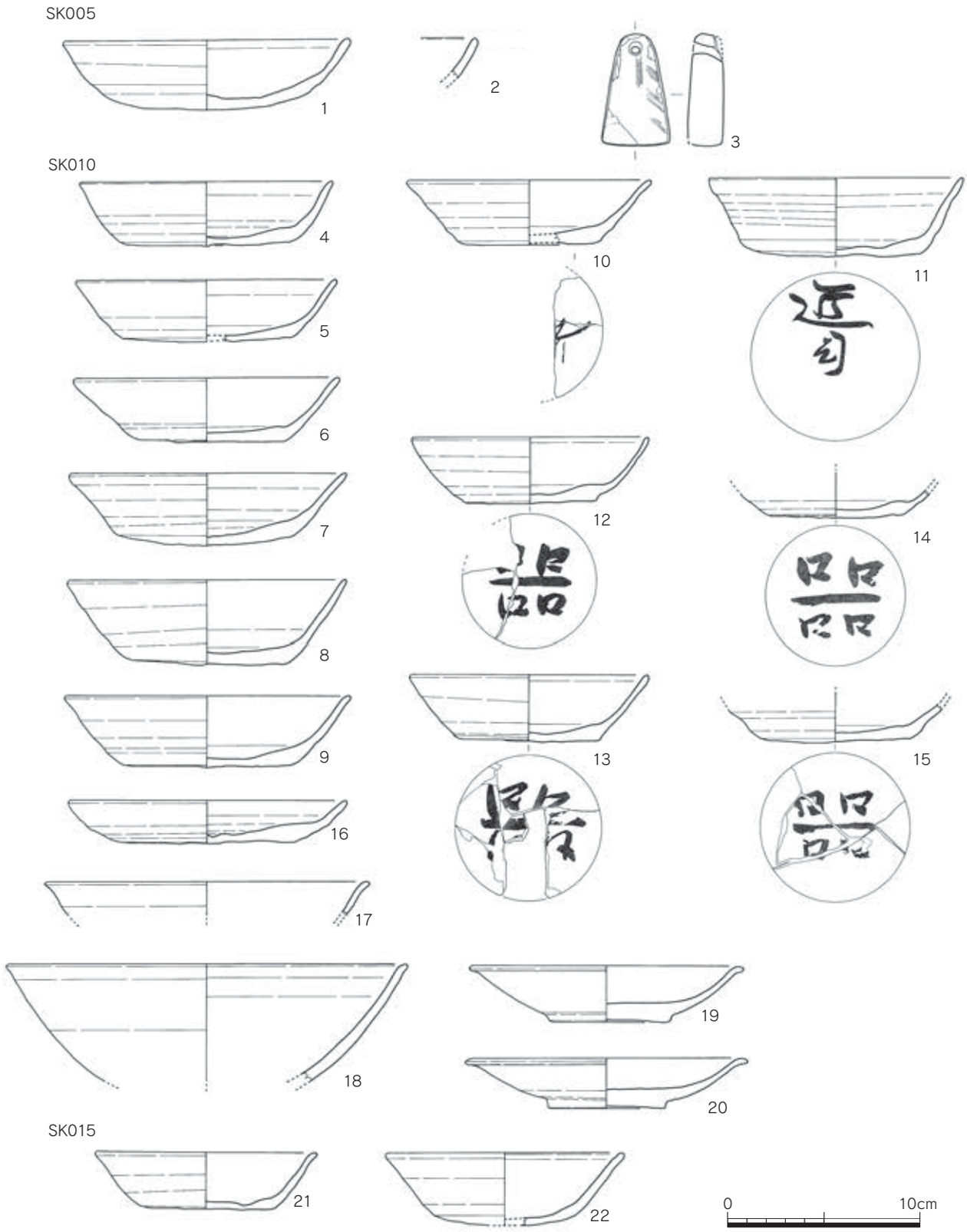



Fig.19　34SK005・010・015 出土遺物実測図（1/3）

大椀ｃ（19）　体部外面は回転ヘラケズリされ、大形椀など特定の器種にはこうした手法を行う事がある。底部中央付近に穿孔がある。底部内外面に炭化物が付着している。

白磁

椀（20）　椀Ⅺ類の口縁で輪花文を持つ。釉は水色味を帯びる。

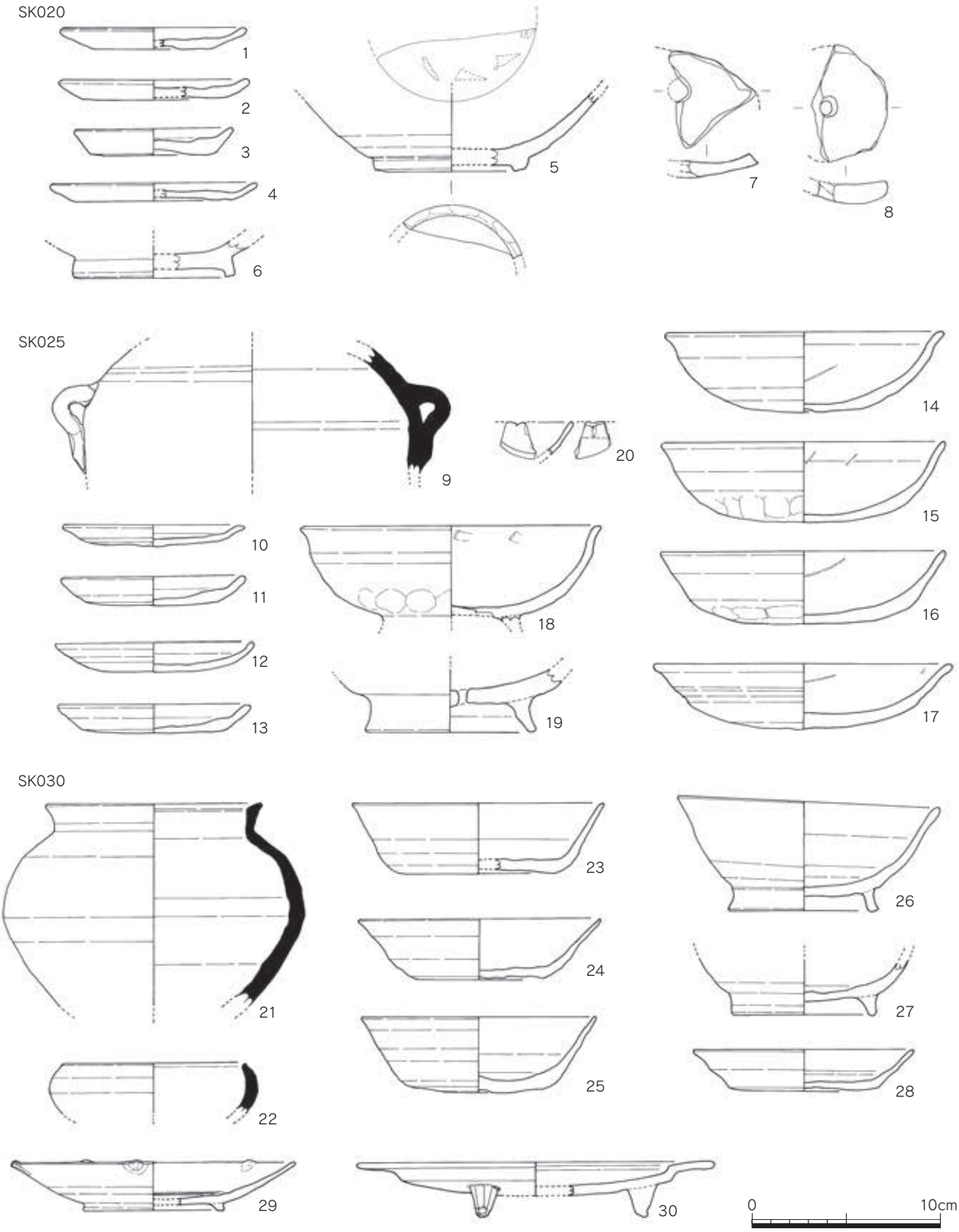



Fig.20　34SK020・025・030 出土遺物実測図（1/3）

SK025 出土土器は全体的にⅪ期 (11 世紀中頃 ) の様相を持ち、白磁も北宋前半に位置する。

**34SK030 出土遺物（Fig.20、Pla.9）**

須恵器

壺（21）　内外面は横ナデ調整で体部外面中位にケズリ痕が残る。a 類か

小壺（22）　小形鉢とも見られる。口縁部端部は僅かに外へ反り、体部上位は強く内湾する。

土師器

坏ａ（23 ～ 25）　底部は回転ヘラ切り後未調整。25 の底部には板状圧痕がある。口径 12.3 ～ 13.2cm、器高 3.2 ～ 4.0cm。

椀ｃ（26、27）　体部下半は弱い丸味をなすがほぼ直線的で、高台部断面は角に近く太目である。底部には板状圧痕がある。

皿ａ（28）　底部は回転ヘラ切り後未調整。口径 11.6cm、器高 2.15cm。

緑釉陶器

皿（29）　口縁は輪花とし五弁に復元される。内面体部と底部境に低い段をつけ高台畳付面に凹線を持つ。胎土は淡灰褐色で須恵質。体部内外面をヘラミガキする。全面施釉で釉は明緑色を呈する。東海系 K90、近江型古式、防長産など意見が分かれるが、時期や硬質の点で東海系が妥当であろう。

三足盤（30）　脚付の段皿で、三脚に復元できる。胎土は明灰色で須恵質に近く硬質である。体部内外面は丁寧なヘラミガキである。脚は 9 面に面取りする。全面施釉で釉は明るい淡緑色を呈す良品である。東海系 K90。

他に防長系の椀または皿、緑彩の小壺等が出土したが、小片のため図化できなかった。山城産は含まれていない。

上記の須恵器は8世紀の混入品と見られる。土師器はⅥA期の形態に近いが法量は小形化し、黄白色系のものが含まれていて、濃橙色系のSK010出土土師器ⅥA期例とは開きがある。ⅥB～Ⅶ期（9世紀第2・3四半期）と見られる。

**34SK045 出土遺物（Fig.21）**

須恵器

蓋 c3（1）　天井部外面はヘラ切り後ケズリか。

坏ｃ（2、3）　底部はヘラ切りされる。

皿ａ（4）　底部はヘラ切りされる。

鉢ｂ（5）　内外面は横ナデ調整である。

土師器

蓋 2（6）　磨滅のため調整は不明瞭である。

大皿ｃ（7）　口縁端部は外に屈折し、上面に平坦面を持つ。磨滅のため調整は不明瞭である。

出土土器には 8 世紀前半～中頃を含むが、7 は須恵器写しの形態であり 8 世紀後半と見られる。

**34SK050 出土遺物（Fig.21）**

土師器

坏ａ（8）　口径 12.7cm、器高 4.3cm。

皿ａ（9）　小片のため径はやや不正確である。

緑釉陶器

椀（10、11）　10 の胎土は茶白色から淡灰褐色で、須恵質に近い。内面見込みに沈線が入る。全体にミガキを施し、釉は淡緑色を呈し全面に施釉する。畳付と内面見込みに重ね焼きの痕跡が残る。蛇ノ目高台で山城産。11 は椀と思われ、胎土は明茶白色で土師質。釉は淡緑色で剥落が目立つ。ミガキは不明確。小片のため径はやや不正確である。防長産。

白磁

椀（12、13）　12 は I-1 類。胎土は淡灰白色で混入物が無く、焼成はやや甘い。釉は黄灰色味でや

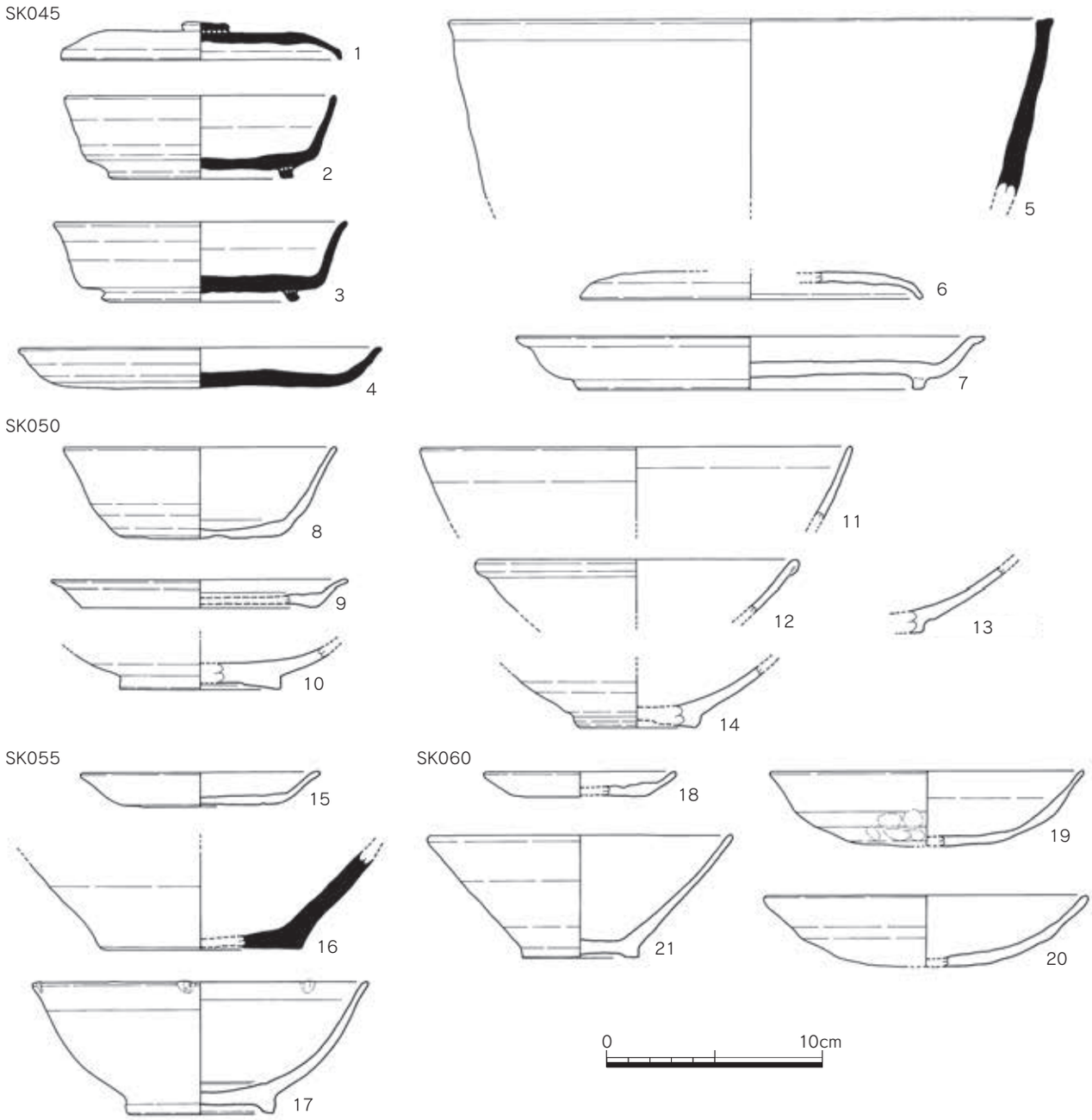



Fig.21　34SK045・050・055・060 出土遺物実測図（1/3）

や厚い。13 はⅠ類。胎土は白色で混入物が無く硬質。釉は 12 に似る。全面施釉後、畳付の釉を掻きとる。

越州窯系青磁

椀（14）　I-1a 類。胎土は赤色味の茶褐色。釉は濃黄緑色で透明度が高く、強い光沢がある。全面施釉後畳付の釉を掻きとる。

出土遺物はⅥ～Ⅶ期の範囲と見られる。

**34SK055 出土遺物（Fig.21、Pla.10）**

土師器

小皿 a（15）　底部はヘラ切りされる。口径 11.3cm、器高 1.5cm。X ～XI期でも可能な法量である。

須恵質土器

鉢（16）　底部端は張出し気味で畿内篠窯産の須恵器の可能性がある。焼成が悪く器表面は剥落する。

条坊 87 次 SE015、Ⅸ～Ⅹ期の出土例（西長尾５号窯式）に近似する（註 9）。

緑釉陶器

椀（17） 胎土は淡灰色で須恵質。口縁部を輪花にする。口縁部と高台を除きヘラミガキするが、底部外面は不明瞭。全面施釉で釉は淡緑色に発色する。山城産（洛西型）。

**34SK060 出土遺物（Fig.21、Pla.10）**

土師器

小皿ａ（18） 底部はヘラ切りされる。口径 8.9cm。

丸底坏ａ（19、20） 底部はヘラ切りと思われる。

初期高麗青磁

椀（21） Ⅰ類。胎土は明灰色で釉は緑灰味に発色する。全面施釉で畳付を露胎とする。

他に高麗無釉陶器、東播系鉢の破片がある。

**34SK065 出土遺物（Fig.22）**

土師器

坏ａ（1）底部はヘラ切りされる。口径 12.5cm、器高 3.8cm。

椀ｃ(2､3) ２の底部内面には径 1.4cm の輪状の印文が１ヶ所見られる。3 は外に開く高い高台を有す。

皿ａ（4） 底部はヘラ切りされる。

小甕（5） 口縁部内外面を横方向ナデ、体部内面をナデで調整する。

中甕ａ（6 ～ 9） 口縁部内面を横ハケ、体部外面を縦ハケで調整した後、横方向のナデを加える。体部内面は６・９がナデ、７・８がケズリで調整される。

黒色土器

椀ｃ（10） Ａ類。内面から口縁部外面にかけてミガキｃを加える。

越州窯系青磁

椀（11） I-3 類。胎土は赤色味の灰褐色、釉は黄緑色に発色する。

上記以外に土師器小皿ａ（X- Ⅺ期）、Ｃ期白磁の小片があり、これは後で切るピットからの混入品である。土器はⅥ～Ⅶ期が中心である。

**34SK066 出土遺物（Fig.22）**

12、13、16、17は、下層出土である。

須恵器

椀（12） 口径 17.2cm。

甕ｂ（13） 外面屈曲部以下には格子叩きの痕跡が残る。

土師器

蓋（14） 口縁部は鈍く鋭利さを欠く。天井部外面を回転ケズリ、体部外面はミガキａ、口縁部は横ナデ調整である。ミガキはかなり粗い。

黒色土器

椀ｃ（15） Ａ類。体部外面を横ナデ、内面はミガキｃで調整する。

緑釉陶器

皿（16） 胎土は明茶白色で土師質。口縁部外面に浅い沈線が入る。内外面はミガキとみられる。淡緑灰色の釉が全体にかかる。防長産。

椀または皿（17） 胎土は明茶白色で須恵質。底部は糸切りされ、高台端面内側に段がつく。ミガキはなく淡緑色の釉が全面にかかる。近江型。

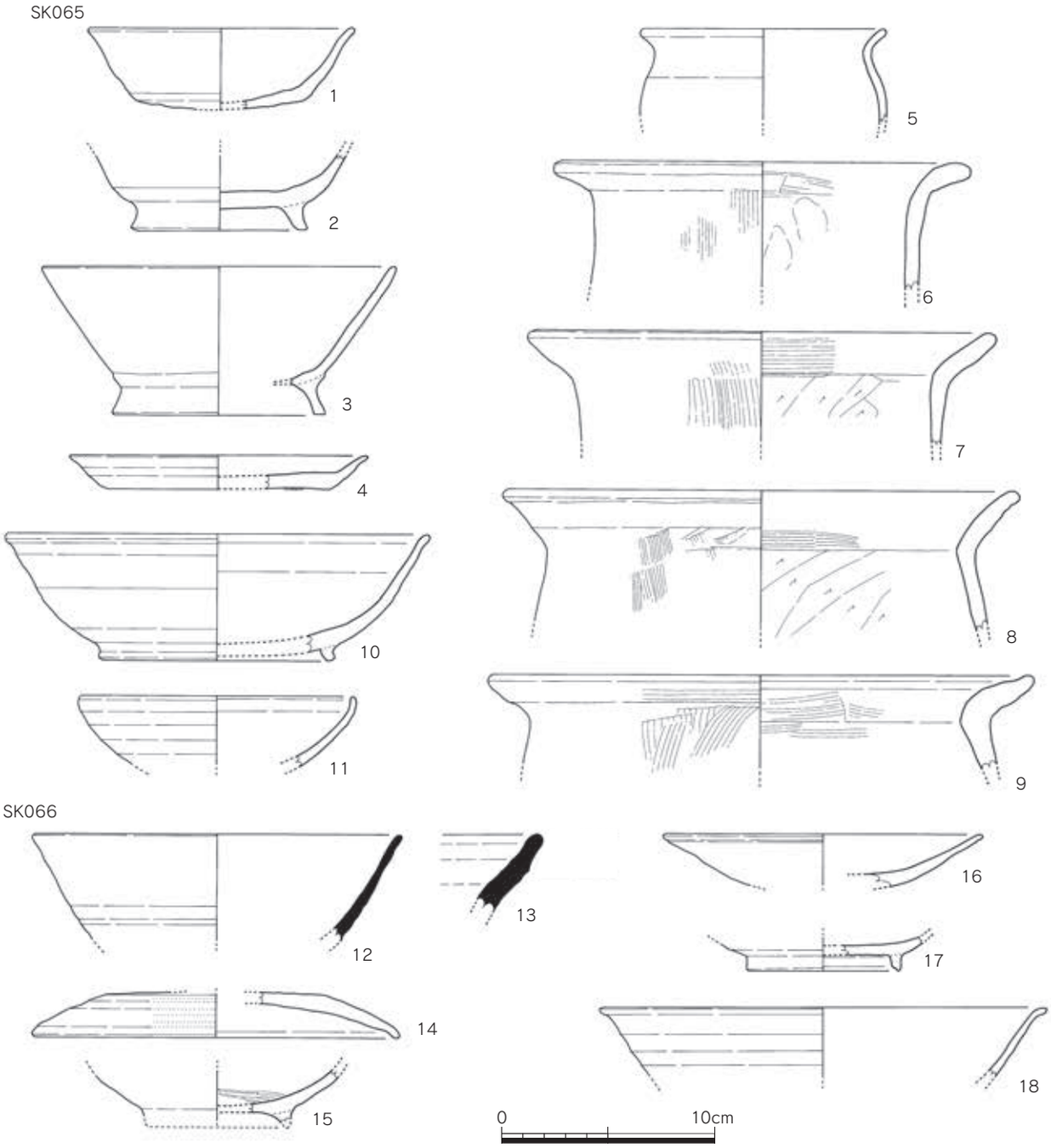



Fig.22　34SK065・066 出土遺物実測図（1/3）

越州窯系青磁

椀（18）　I-2 類。胎土は青灰褐色で硬質。内外面に暗黄緑色の釉がかかる。小片のため径はやや不正確である。

長沙窯系青磁（青釉）椀　下層より口縁部の小片が出土している。SK005 参照。

出土土器は 8 世紀後半が主であるが、最新の遺物は 17 の近江型緑釉陶器であり、これが混入品でないならば遺構は 10 世紀と見られる。

**34SK070 出土遺物（Fig.23・24、Pla.10）**

SK070 と SK070B の 2 つの土坑出土のものであり、時期差はないが以下は分別できない。

土師器

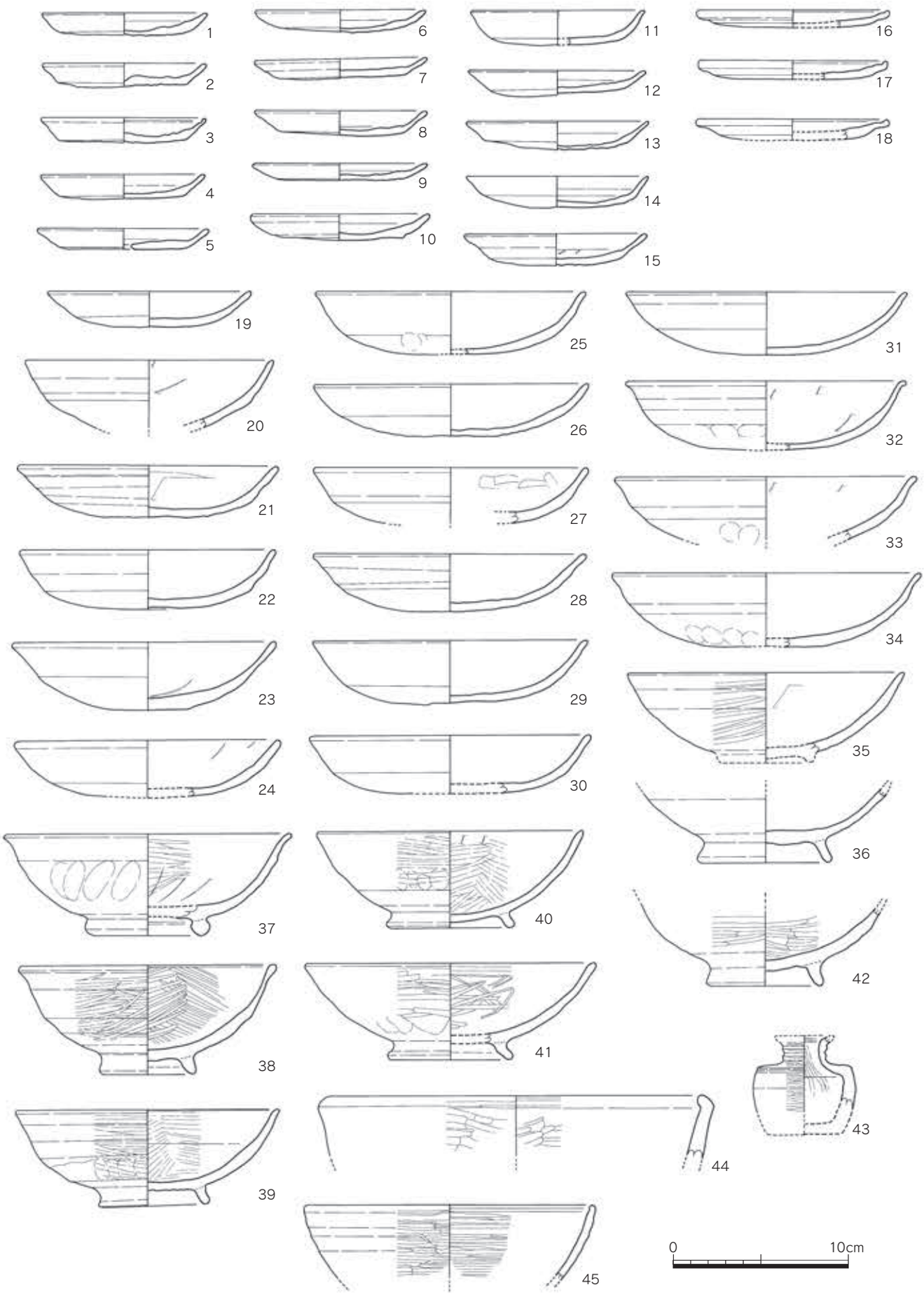



Fig.23　34SK070 出土遺物実測図①（1/3）

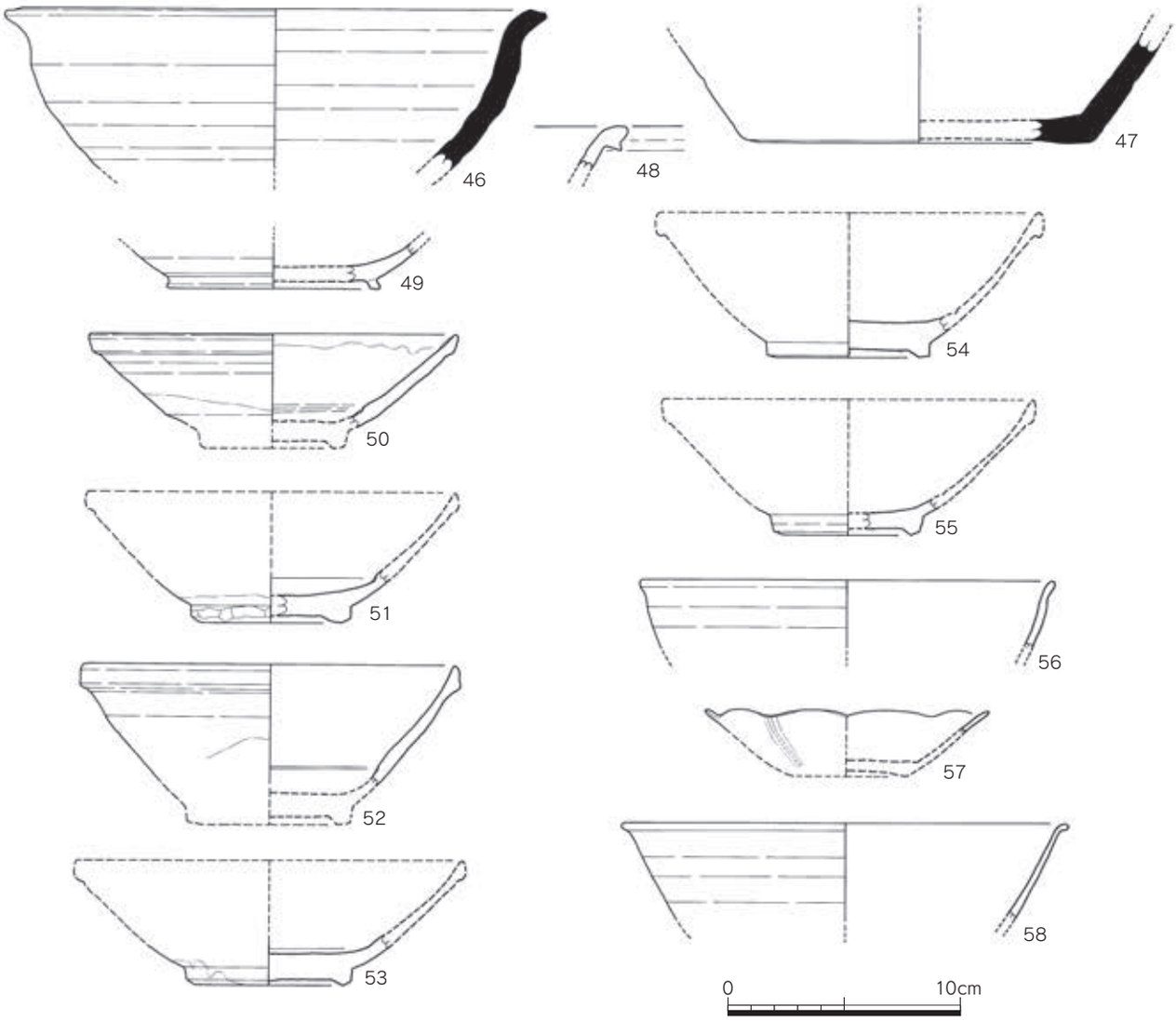



Fig.24　34SK070 出土遺物実測図②（1/3）

小皿ａ（1 ～ 15）　10 の底部は糸切され土師器食器中では糸切りはこの 1 点のみである。他はヘラ切りされる。4 は内面の一部に煤が付着している。15 の内面はミガキｂで調整する。口径 9.4 ～ 10.5cm、器高 1.0 ～ 2.0cm。

小皿 a2（16 ～ 18）　底部はヘラ切りされる。

丸底坏ａ（19 ～ 34）　底部はヘラ切りされる。19 は小形で口径 11.6cm。他は口径 14.2 ～ 17.5cm、器高 3.0 ～ 4.0cm。

椀ｃ（35、36）　底部はヘラ切りされる。35 は内面をミガキｂ、外面をミガキｃで調整する。内面の一部が黒色気味に変色している。

黒色土器

椀ｃ（37 ～ 42）　37 はＡ類。内面はミガキｂの後ミガキｃで調整する。体部外面は指頭圧痕が顕著である。38 ～ 42 はＢ類。38 は内面と体部外面の一部に黒色物質を塗布しており、その部分は光沢がある。

小壺（43）　Ｂ類。口縁部内面から外面にかけて丁寧なミガキｃで調整する。

鉢（44）　Ｂ類。内外面をミガキｃで調整する。小片のため口径はやや不正確である。

瓦器

椀（45）　口縁部内面に沈線を持つ。全体に灰白色～黒灰色を呈す。楠葉産。

須恵質土器

鉢（46）　口縁は強く外反し、内外面は横ナデ調整である。大宰府史跡第 70 次 SK1788（XⅣ期、12 世紀中頃）に類似例がある（註 10）。産地は不明。

鉢（47）　胎土に黒斑を多く含む。東播系。

高麗無釉陶器

甕（48）　口縁部の破片で内外面は灰黒色、断面は暗赤褐色を呈す。胎土は砂粒を含まず緻密。他に胴部の破片が数点ある。

灰釉陶器

椀または皿（49）　体部外面をヘラケズリする。内面に淡緑灰色の釉がかかる。東海 K14 型式。

白磁

椀（50～56）　50～53はⅣ-1b類、54・55はⅣ-1類である。56はⅫ類と思われる。

白磁は他に椀Ⅱ・Ⅴ・Ⅺ類、皿Ⅱ類、Ⅴ-Ⅶ類破片がある。

越州窯系青磁

坏（57）　I-2類。2弁一組の5輪花で、外面にヘラ押圧縦線を伴う。胎土は淡褐灰色、釉は淡灰緑色に発色する。

初期高麗青磁

椀（58）　Ⅲ-2A類。胎土は暗茶灰色で黒色、褐色の小粒子を多く含む。暗灰緑色の釉が内外面にやや厚くかかる。

出土土器類は一部古期の混入品を除き、Ⅻ期（11世紀後半～12世紀初頭）である。

**34SK075 出土遺物（Fig.25）**

土師器

小皿 a（1 ～ 10）　底部はヘラ切りされる。口径 9.8 ～ 11.0cm、器高 1.0 ～ 1.9cm。

小皿 a2（11）　底部はヘラ切りされる。

丸底坏 a（12 ～ 17）　底部はヘラ切りされ、口径 14.0 ～ 16.4cm、器高 3.4 ～ 4.0cm。

坏（18）　体部内外面上半は横ナデ調整、外面に黒色物質を塗布した痕跡がある。6 ～ 7 世紀の坏身か。

把手（19）　胎土はきめが細かく金色の雲母を多く含む。黄褐色を呈す。甕などの把手の可能性がある。

緑釉陶器

皿（20）　蛇ノ目高台。胎土は暗灰色で須恵質。内面見込みに沈線が入る。内面と体部外面にミガキを施す。全面施釉で釉は暗緑灰色に発色する。山城産（妙満寺窯・洛北地域）とされ、洛西型の範疇である。9 世紀の混入品。

**34SK095 出土遺物（Fig.25）**

土師器

小皿 a（21 ～ 26）　底部はヘラ切りされる。口径 9.0 ～ 11.0cm、器高 1.3 ～ 1.8cm。

丸底坏 a（27）　底部はヘラ切りされる。

灰釉陶器

椀（28）　底部は糸切りされる。体部内外面に施釉する。釉は灰白色で、一部は淡緑色味に発色する。東海産東山 HG105、篠岡 S-1、百代寺などの窯型式とされ一致をみない。山茶碗に含める意見がある。

**34SK100**

**34SK100 上層出土遺物（Fig.26、Pla.10）**

坏 a（1 ～ 4）　1 ～ 3 の底部はヘラ切りされる。4 の体部下位は鈍化傾向がある。口径 11.2 ～

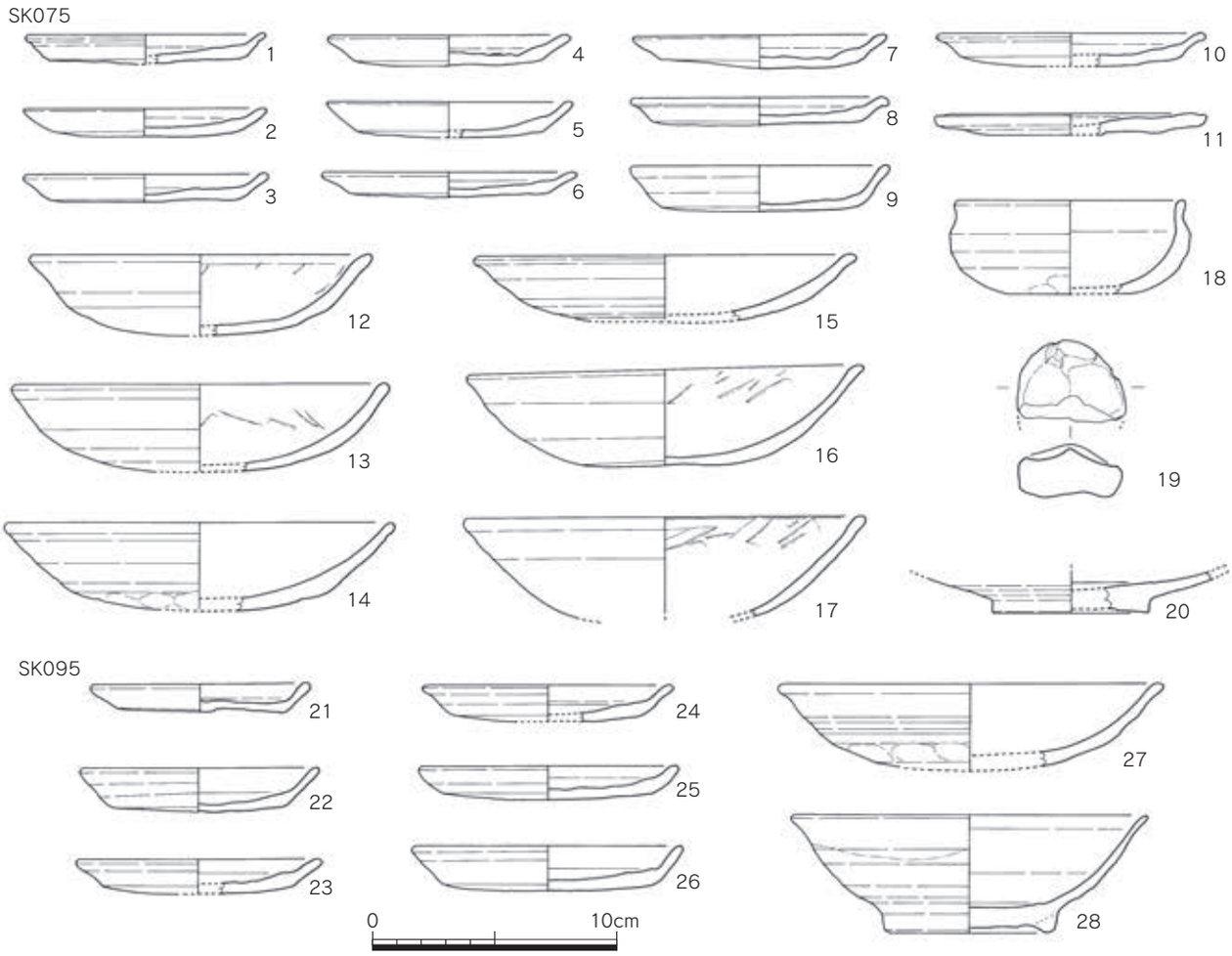



Fig.25　34SK075・095 出土遺物実測図①（1/3）

13.0cm、器高 2.9 ～ 3.7cm。

椀（5）　底部端の上下に太い凹戦を入れ高台とする独特な特徴を持つ。筑後からの搬入品である。

黒色土器（6 ～ 8）

椀 c（6、7）　A 類。6 は体部の丸みが弱い。内面はミガキ c、外面はヨコナデで調整する。両者とも高台の造りに鋭利さが見られる。

小甕（8）　A 類。内面はミガキ c、外面中位までヨコナデ、以下は磨耗している。

越州窯系青磁

椀（9）　I-2 ウ類。やや大振りな器種である。

イスラム陶器（10）

小片が出土している。胎土はきめが細かく軟質で黄白色を呈する。釉は厚く、暗青緑色に発色する。外面に平行調整痕があり、胴部上位から中位の破片と思われる。

**34SK100 下層出土遺物（Fig.26、Pla.10）**

土師器

坏 a（11 ～ 14）　底部はヘラ切りされる。12・14 の体部下位は鈍化傾向がある。口径 11.4 ～ 14.8cm、器高 2.9 ～ 4.2cm。

皿 a（15 ～ 18）　底部はヘラ切りされる。15 は古期の混入品で、側面に墨書があり「吉」と読める。16 は底部内面に刻線がある。

椀 c（19）　体部は直線的で、高台に鋭利さがある。

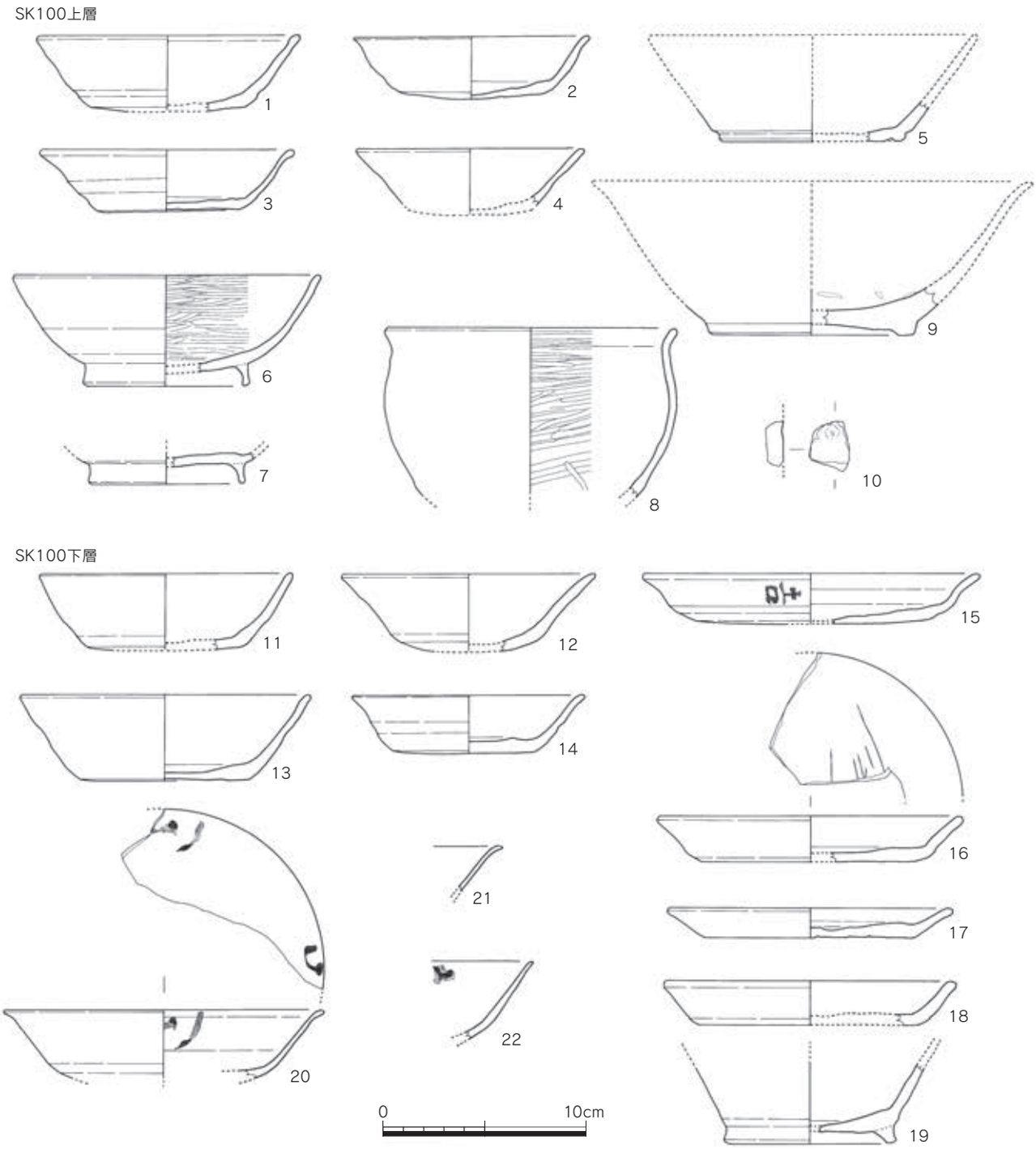



Fig.26　34SK100・100下層出土遺物実測図（1/3）

緑釉陶器

椀（20～22）　浅形椀または皿形で口縁は外反する。20・22の口縁内には緑彩があり4個所に復元される。20の胎土は明茶白色で土師質。一部にミガキが残る。釉は明黄緑色を呈す。21の胎土は明茶白色で土師質。内外面にミガキがある。釉は明黄味の緑白色を呈する。22は20と同様の特徴を有するがミガキの痕跡は不明瞭である。20・22は口縁形に若干差があり、別々に図示したが同一個体の可能性もある。これらは防長産であるがⅥA期に伴う古期の防長産緑釉とくらべて器形や質はやや鈍化した傾向にある。他に山城産の硬質陶器、刷毛塗りの灰釉陶器小片がある。

出土土器については上・下層で時期差はない。型式別に整理するとⅤ-ⅥB期の古期のものは5・15で、これは周辺の重複する遺構から混入した可能性が強く除外して良いと思われる。また最新の様相

は口径の縮小化や体部下位の鈍化した坏a（4・12・14）があるが、Ⅷ期の坏aに比べてまだ器高は高く、この前の段階でよい。よって全体の土器型式はⅦ期(9世紀第3四半期)となる。

金銅製品については後述 86 ～ 87 頁参照。

**34SK105 出土遺物（Fig.27）**

土師器

小皿 a（1 ～ 6）　底部はヘラ切りされる。口径 9.7 ～ 10.6cm、器高 1.3 ～ 1.5cm。

小皿 a2（7）　底部はヘラ切りされる。

丸底坏（8 ～ 10）　底部はヘラ切りされる。8・10 は高台のつく可能性もある。口径 14.8 ～ 15.4cm。

丸底坏 c（11）　高台が付く。

椀 c（12）　外面はミガキ c、内面はミガキ b の痕跡が残る。

甕 b（13）　体部は平行叩きと思われるがナデ消されている。外面の体部上半から口縁部まで煤が付着する。

黒色土器

椀 c(14 ～ 16)　14 は A 類。外面は指頭圧痕が顕著に見られる。内面は磨滅しているがミガキ c か。15・16 は B 類。内外面をミガキ c で調整する。

須恵質土器

椀（17）　淡灰褐色で胎土に白色の砂粒がやや多く混入する。東播系と思われる。

一部はⅪ期、大半はⅫ期に属する。

**34SK106 出土遺物（Fig.27）**

土師器

小皿 a（18 ～ 25）　底部はヘラ切りされる。口径 9.6 ～ 10.7cm、器高 1.2 ～ 1.8cm。

丸底坏 a（26、27）　底部はヘラ切りされる。

椀 c（28）　内外面を幅の広いミガキ c で調整する。

黒色土器

椀 c（29）　B 類。内外面をミガキ c で調整する。

土器はⅫ期に属する。

**34SK108 出土遺物（Fig.28）**

土師器

小鉢 a（1）　長い把手を持つ。口縁部外面及び把手下面に煤が付着する。

緑釉陶器

椀または皿（2）　胎土は土師質でやや粗く、明茶白色から明灰白色を呈する。全体をヘラミガキする。全面施釉で釉は明黄緑色に発色する。内外面にトチンの痕跡が残る。防長産。

**34SK114 出土遺物（Fig.28）**

土師器

椀 c（3）　内面にミガキの痕跡がある。内面の口縁部と底部は黒灰色に変色し、体部には炭化物が付着している。

土製品

土錘（4）　長さ 3.6cm、最大径 1.3cm。

**34SK115 出土遺物（Fig.28）**

土師器

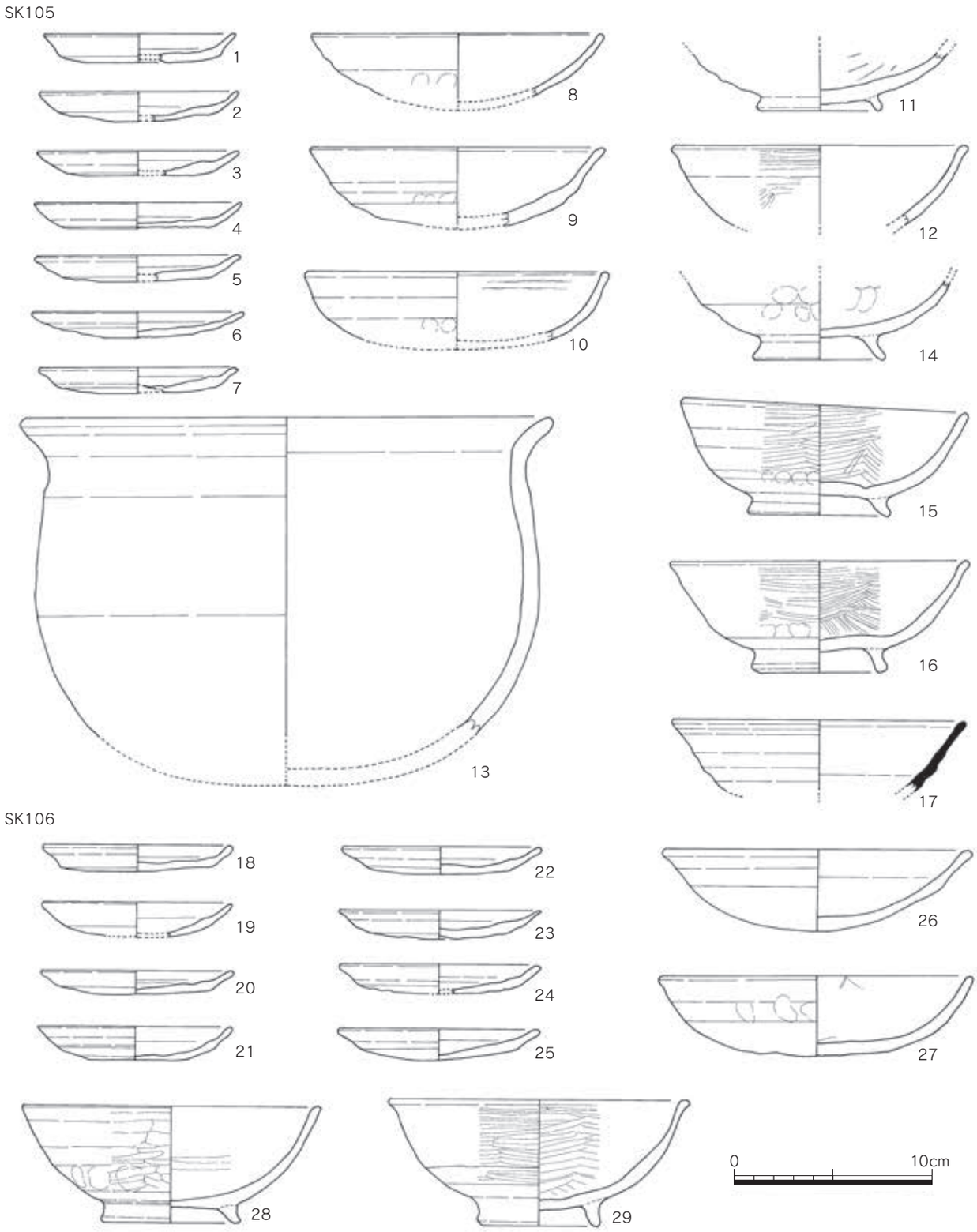



Fig.27　34SK105・106 出土遺物実測図（1/3）

小皿 a（5 ～ 8）　底部はヘラ切りされる。口径 8.8 ～ 9.6cm、器高 1.2 ～ 1.3cm。

丸底坏 a（9、10）　底部はヘラ切りされる。口径 16.3cm 前後。

**34SK120 出土遺物（Fig.28、Pla.10）**

土師器

小皿 a（11 ～ 14）　底部ヘラ切り。口径 9.6 ～ 10.0cm、器高 1.3cm 程度。

丸底坏 a（15 ～ 22）　底部はヘラ切りされる。15・16 は小形で口径 12cm 程度。7 ～ 12 は口径

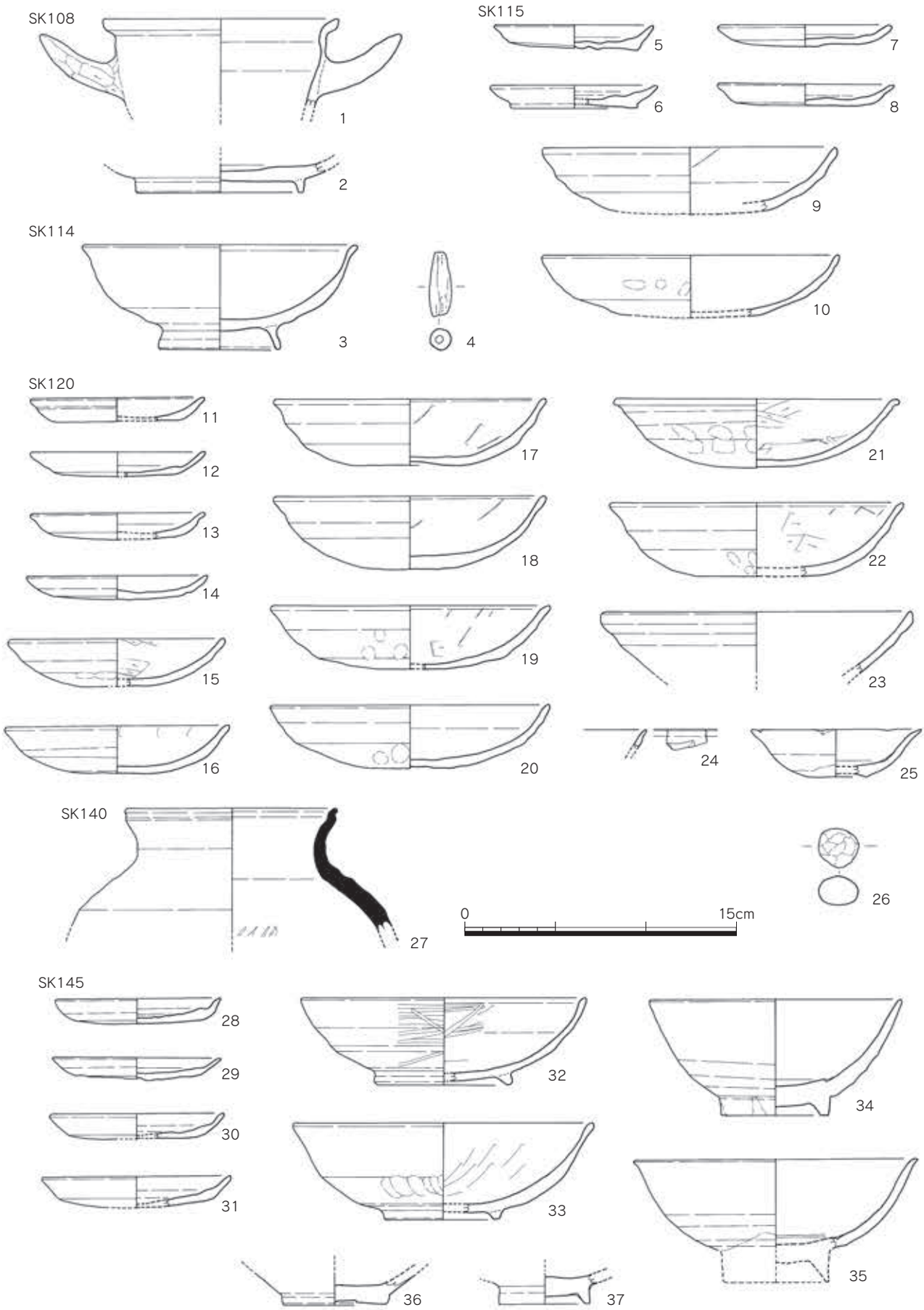



Fig.28　34SK108・114・115・120・140・145 出土遺物実測図（1/3）

15.0 ～ 16.2cm。

白磁

椀（23、24）　23はⅣ類。24は椀Ⅺ-4類口縁で外面には蓮弁文を持つ。

皿（25）　Ⅺ-5類。7輪花に復元できる。胎土は灰白色、釉は淡灰緑色でムラがある。外面体部下位から底部は露胎である。

土製品

瓦玉（26）　色調は淡黄灰色を呈する。表面を粗く削って加工している。

土器には一部Ⅺ期を含むが、他遺構との切合い関係によりⅫ期となる。

**34SK140 出土遺物（Fig.28）**

遺物は少数である。

須恵器

壺（27）　口縁部を上方に屈曲させ、外面には凹線が入る。内外面横ナデ。

**34SK145 出土遺物（Fig.28）**

土師器

小皿ａ（28 ～ 31）　底部はヘラ切りされる。口径 9.0 ～ 10.3cm、器高 1.3 ～ 1.7cm。28 は体部内面の一部に煤が付着している。

椀ｃ（32、33）　32 の内面は丁寧なミガキｂの後やや粗いミガキｃ、外面はミガキｃで調整する。33 は体部内面に丁寧なミガキｂを行う。外面全体に煤が付着する。

白磁

椀（34、35）　34 は V-1a 類、35 は V-2a 類。

越州窯系青磁

椀（36）　I-1a 類。胎土は淡灰色で緻密。全面施釉後畳付の釉を掻き取る。露胎部分に目跡が残る。釉は淡黄緑色に発色する。

初期高麗青磁

椀（37）　Ⅲ-1類。胎土は淡茶灰色で白色粒子を多く含む。全面施釉で畳付に目跡がある。釉は濃緑灰色に発色する。

土器はⅫ期、白磁は C 期で種類は多い。

**34SK160 出土遺物（Fig.29）**

土師器

小皿ａ（1、2）　底部はヘラ切りされる。

丸底坏ａ（3 ～ 6）　底部はヘラ切りされる。内面をミガキｂで調整する。口径 14.3 ～ 15.6cm。

丸底坏ｃまたは椀ｃ（7）　内面をミガキｂで調整する。

**34SK170 出土遺物（Fig.29）**

土師器

小皿ａ（8、9）　8 は底部糸切りで口径 8.6cm。13 世紀の混入品である。9 はヘラ切りで口径 10.0cm。

小皿ｃ（10）　下層出土。口径 12.5cm。

丸底坏ａ（11）　底部はヘラ切りされる。

瓦器

椀ｃ（12）　内外面をミガキｃで調整する。

須恵質土器

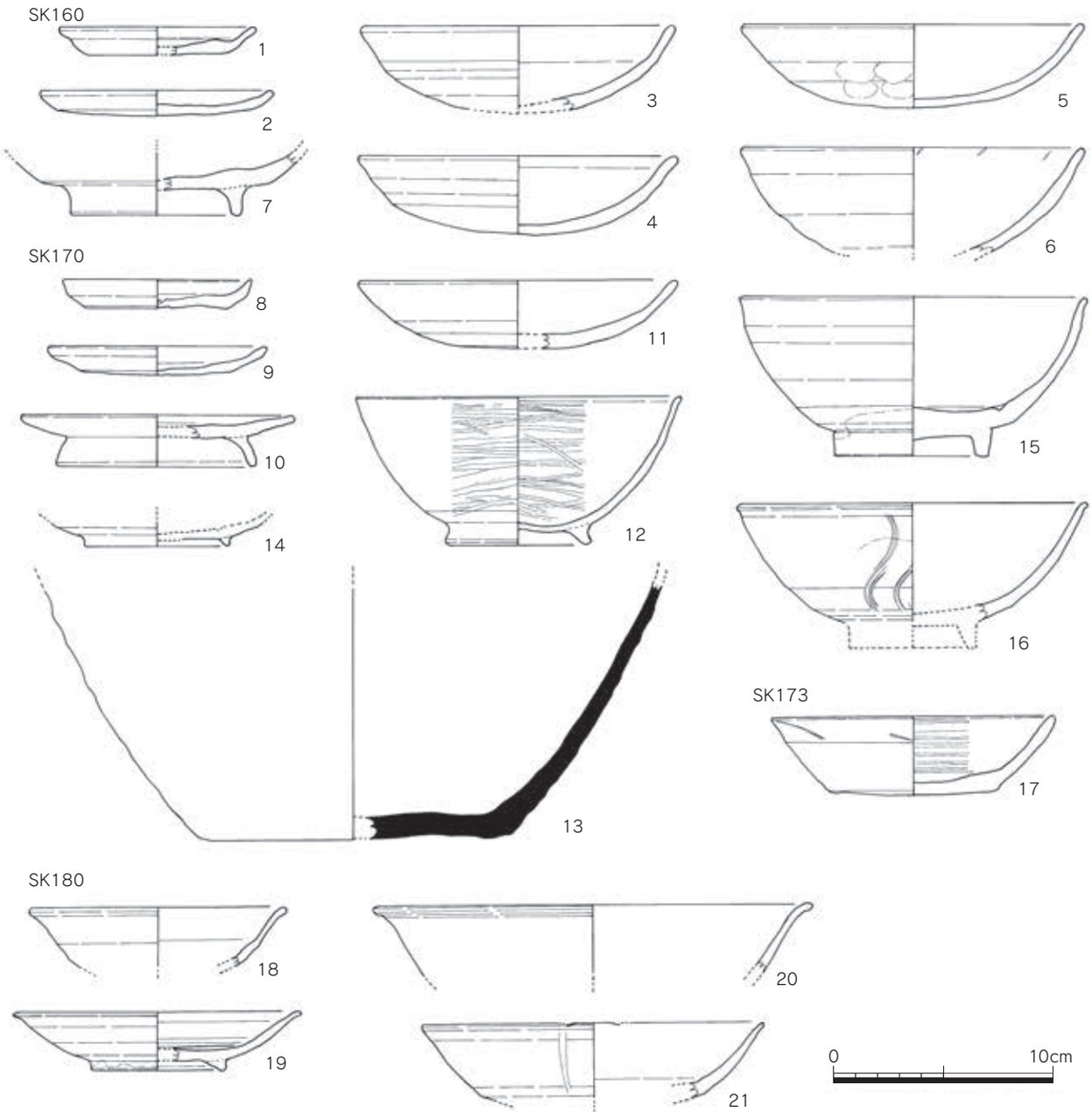



Fig.29　34SK160・170・173・180 出土遺物実測図（1/3）

鉢（13）　東播系。内面に炭化物が少量付着している。

緑釉陶器

皿または椀（14）　内面は器表が剥離しているが、沈線が残る。胎土は土師質で暗灰色を呈する。外面全体をヘラミガキした後、明黄緑色の釉を全面施釉する。

白磁

椀（15、16）　15はⅤ-3a類、16はⅤ-3b類。

**34SK173 出土遺物（Fig.29）**

土師器

坏ｄ（17）　外面底部から口縁部下にかけてヘラケズリを施す。内面はミガキａを施す。遺物は１点のみである。８世紀後半。

**34SK180 出土遺物（Fig.29、Pla.10）**

土師器

坏ａ（18）　口径 11.6cm。Ⅷ期に属するが破片で古期混入品と見られる。

緑釉陶器

皿（19）　胎土は須恵質で明灰色を呈す。底部は糸切り後横ナデ。高台端部に段が付く。底内面部に沈線と浅い段をつけるので段皿と見られる。高台外面から内面にかけて施釉され、釉は濃緑色に発色する。近江型。

越州窯系青磁

椀（20）　I-2 類。胎土は灰白色で緻密。口縁は外反する。内外面に施釉され、釉は濁黄緑色に発色し光沢はない。

皿（21）　I-2b 類。胎土は淡茶褐色で緻密。口縁に輪花があり、その下部にヘラ押圧縦線が入る。体部内面下位には段がつく。内外面に施釉され、釉は黄緑茶色に発色する。

遺構時期推定では土師器は少なく、陶磁器のＡ期新（9 世紀後半～ 10 世紀中頃）に相当する。SK200（Ⅸ期）より後に切るため 10 世紀中頃が妥当だろう。

**34SK190 最上層出土遺物（Fig.30、Pla.11）**

遺構上にピットおよび南側にSK180･200が新しく切るため一部混入品があり、最上層として分けた。大半は 8 世紀後半までのものであるが、下記 1・2 は 11 ～ 12 世紀でピットからの混入品と見られる。

土師器

皿ｃもしくは坏ｃ(1)　底部切り離しはナデ消されているため不明。内面はミガキｂの可能性もあるが、磨滅のため不明確。

黒色土器

椀ｃ（2）　Ｂ類。内外面をミガキｃで調整する。

緑釉陶器

椀（3）　浅形の器形で、口縁部は外反が大きく体部の丸味は少ない。胎土は緻密で土師質。内外面にミガキを施す。全面施釉。釉は明茶白色で一部淡緑色に発色する。防長産で防長古型とみられる。

皿（4）　高台は長細く、端部断面は角形をなし、細い凹線を入れた端正なつくりである。椀の他、蓋の環状ツマミの可能性がある。胎土は明茶白色で土師質。全面施釉で釉は白色に発色し、白釉の可能性がある。これも防長古型とみられる。

白磁

椀（5）　I-1 類。胎土は純白で緻密、釉はやや黄濁している。

**34SK190 出土遺物（Fig.30・31）**

須恵器

蓋 a3（6、7）　口縁部が断面三角形である。7 の天井部外面はヘラ切り後回転ケズリを加える。

蓋 a4（8）　口縁端部が鈍くなる。天井部の削りもなく萎縮化した口縁形で最も後出的な特徴を示す。

蓋４（9）　口縁端部内面に僅かに沈線が巡る。

蓋ｂ（10）　環状のつまみを持つ。

蓋ｃ（11）　やや退化的な宝珠形のつまみを持つ。

坏ａ（12 ～ 14）　底部はヘラ切りされる。

坏ｃ（15、16）　高台は底部端に付く。底部外面にヘラ削り痕はない。

椀ｃ（17）　体部にはやや丸みを有し、内面にミガキａを施す。須恵器にミガキａを用いる例は８世紀後半に少数ある。

土師器

蓋 a4（18）　天井部外面は回転ヘラケズリされる。体部と口縁端部境は不明瞭で断面三角をなさず、

口縁内面に凹線を入れて境とする。

坏ａ（19 ～ 23）　底部はヘラ切りされる。23 は内面にミガキａがあり、椀ｃとも見られる。

坏ｄ（24 ～ 33）　底部外面から体部中・下位まで回転ケズリを加える。25 は内面に、26・27・32・33 は内面から体部外面中位までミガキａを加える。28 ～ 31 はミガキが省略されているが、これは筑後国府などにみられる傾向である。

坏（34）　体部外面中位以下は回転ヘラケズリされ、内外面は手持ちのミガキｃ調整であるが坏ｄに含めてよいと思われる。

椀ｃ（35）　体部下位は回転ヘラケズリされる。ミガキの有無は不明。

皿ａ（36 ～ 42）　36・42 は底部ヘラ切り後回転ヘラケズリか。37・39・41 は底部外面から体部下位まで回転ヘラケズリする。38・40 の底部はヘラ切り後未調整。37・41 は内面に、42 は内外面にミガキａ調整がある。42 は底部外面に墨書があるが字は欠損する。

墨書土器（43、44）　共に底部外面に墨書がある。43 は坏ｄの底部で、底部外面は回転ヘラケズリ、体部外面はミガキａ、内面もミガキａと思われる。文字は欠損する。44 の底部外面は回転ヘラケズリ、内面はミガキａ調整である。墨書は「又」と読めるが字体の一部かもしれない。

甕ａ（45 ～ 49）　45 ～ 47 は小形のものである。49 の器高はやや不正確である。内面下位をハケで調整する。

小鉢ａ（50）　口縁部は内面をハケ、外面を横方向ナデで調整する。体部内面はヘラケズリ、外面は磨滅している。把手は指頭で調整している。

製塩土器

壺（51、52）　51 は内面に平行条線状の押圧痕が残る。口径はやや不正確。52 は内面にごく細かい布目痕を持つ。

出土土器はⅤ期(8世紀第4四半期）が主体であるが、一部、手法略化傾向を示す蓋、坏a、皿aはⅥA期（9世紀第1四半期）までの幅を見ておく必要がある。陶磁器数は僅かに越州窯系青磁椀皿I類破片1と緑釉陶器口縁片1(土師質・軟質）がある。

**34SK200 出土遺物（Fig.32、Pla.11）**

須恵器

甕（1）　口縁端部外面に沈線が入る。内面に自然釉が厚くかかる。

土師器

坏a(2)　底部はヘラ切りされる。口径10.9cm、器高1.85cm。以後小皿aに分化する直前の坏aと見られる。

椀ａ（3）　中形の法量で、底部はヘラ切りされる。体部下位は丸味が強く、上半は直立気味で口縁部が僅かに外反する。口径 12.8cm。

緑釉陶器

小椀（4、5）　口縁と底部は接合しないが同一個体と思われる。口縁は外反が鈍く、体部は丸味を有し、高台端面に凹線を持つが断面は丸く鋭利さが失われている。胎土は明茶白色で土師質。底部外面中央はケズリ、他はミガキを行う。畳付に目土が付着する。全面施釉で、釉は明緑色に発色する。防長産。

白磁

椀（6、7）　I-1a 類。胎土は純白で、釉は６が水色気味、７が灰色気味に発色する。

越州窯系青磁

椀（8～10）　8は椀またはは皿I-2類。9はⅡ-2d類。底部外面に糸切り痕が残る。内面から外面中位まで施釉され、釉は黄緑色から暗緑色に発色し、釉下に化粧土がある。内底に目跡がある。10はI-2

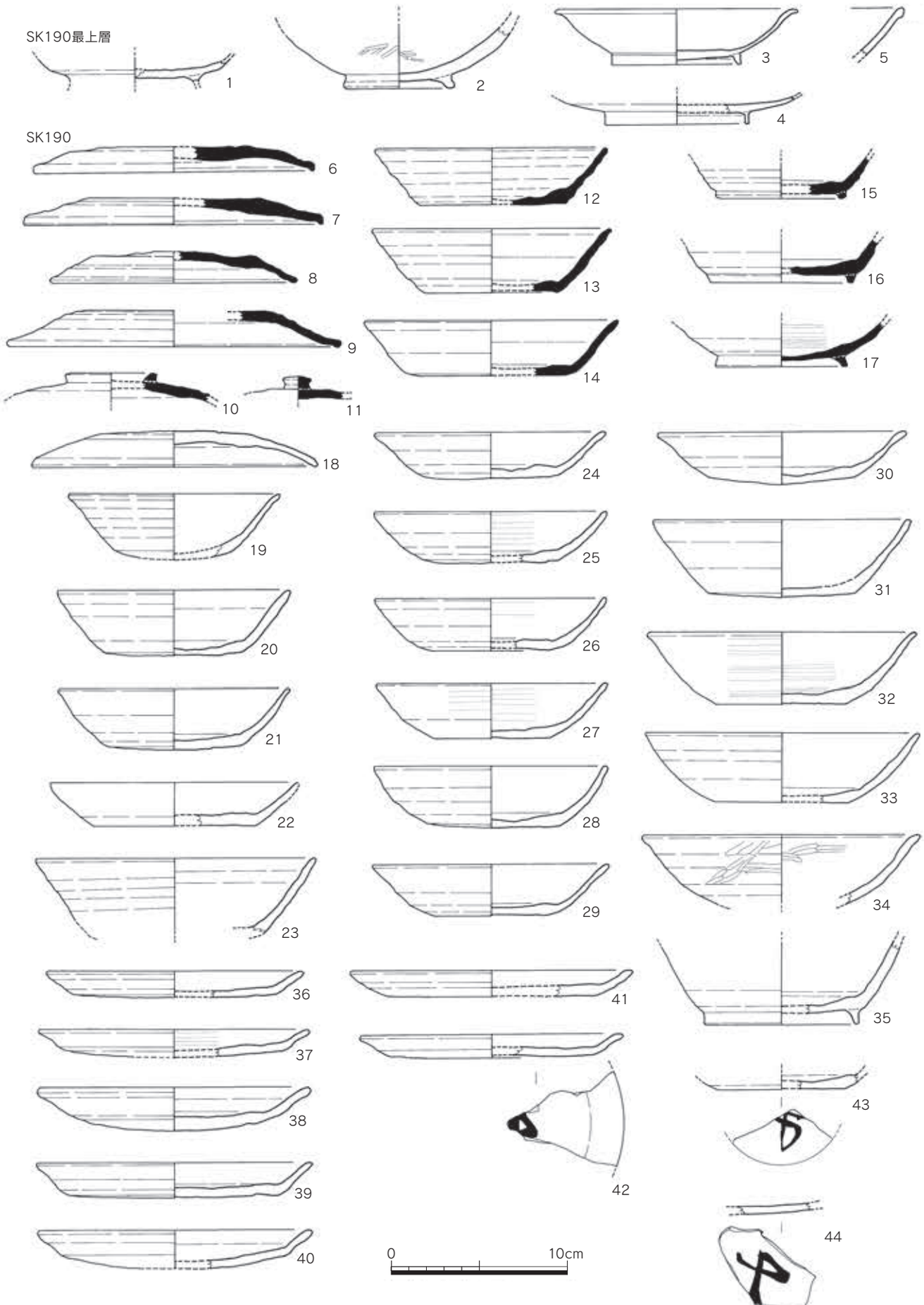



Fig.30　34SK190 出土遺物実測図①（1/3）

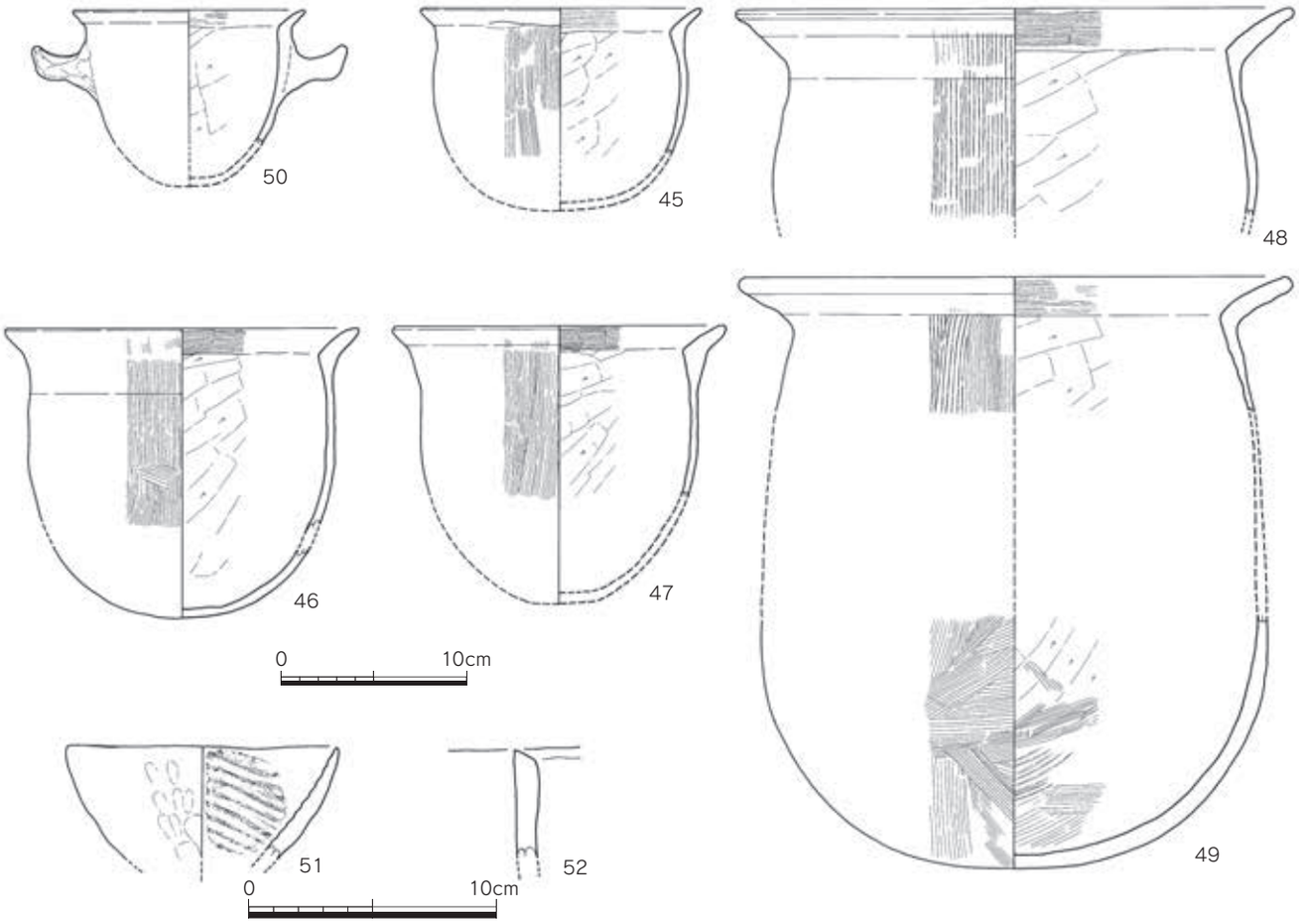



Fig.31　34SK190 出土遺物実測図②（1/4、51・52 は 1/3）

ウ類。口縁を輪花とし、体部にヘラ押圧縦線を持つ。胎土は明茶白色で黒褐色の小班が混入し、I類の中では粗質胎土である。釉は淡黄茶色で全体に細かい貫入が見られる。

図示可能な土師器は上の２点に限られるが、この２つはⅨ期 (10 世紀中頃 ) のセットをなし遺構時期の目安となる。陶磁器はＡ期新の様相を持つ。緑釉陶器は９世紀前半に出る防長古型に比べて全体的に鈍化傾向があり、９世紀後半～ 10 世紀の防長新型に属する。

**34SK205 出土遺物（Fig.32、Pla.10）**

土師器

小皿ａ (11 ～ 20)　19 は不明瞭であるが他の底部はヘラ切りされる。口径 8.7 ～ 11.4cm、器高 1.0 ～ 1.6cm。15 ～ 17 は鈍化した小皿 a2 ともみられる。

小皿ｃ（21）　高台は剥落している。底部はヘラ切りされる。

坏ａ（22）　底部はヘラ切りされる。

丸底坏ａ（23）　底部はヘラ切りされる。口縁部内外面に煤が付着する。

鍋（24）　口縁部をナデ、体部をヘラ状工具によるナデで調整する。外面は黒褐色に変色している。

黒色土器

椀ｃ（25、26）　Ｂ類。25 は内面のミガキが粗い。

瓦器

椀（27）　口縁部内面に沈線を持つ。内外面に幅の狭いミガキを施す。楠葉産。

須恵質土器

鉢（28）　胎土は灰白色で白色砂粒を多量に含む他、大きな砂粒を少量含む。東播系。

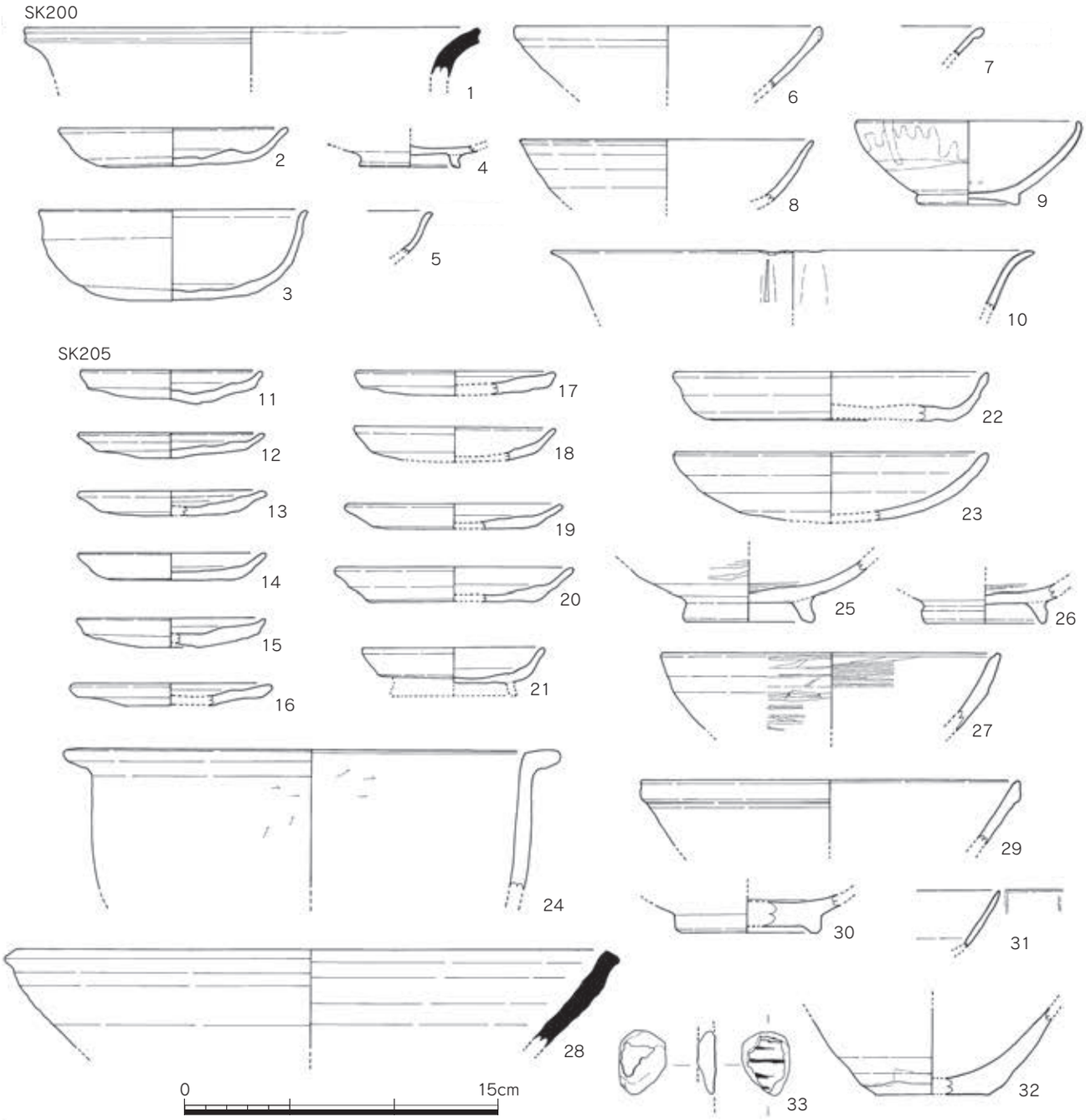



Fig.32　34SK200・205 出土遺物実測図①（1/3、24 は 1/4）

白磁

椀（29～31）　29はⅣ類、30はⅣ-1類。31はⅪ類。

越州窯系青磁

椀（32）　I-5 類。胎土は灰褐色で緻密。外面体部下位から底部を露胎とする。釉は黄灰緑色で光沢はない。底部内面に目跡あり。

イスラム陶器（33）

小片が出土している。胎土はきめが細かく軟質で黄白色を呈する。釉は厚く、暗青緑色に発色する。内面の釉は濁化した水色に発色し、一部は暗銅色を呈する。外面に平行調整痕があり、胴部上位から中位の破片と思われる。

**34SK215 出土遺物（Fig.33・34、Pla.11・12）**

須恵器

蓋３（1）　口縁端部は僅かな断面三角形をなす。天井部外面はヘラ切り後未調整。

蓋４（2）　天井部外面はヘラ切り後未調整。

大皿ａ（3）　底部外面は回転ヘラケズリされる。

壺ｄ（4）　内外面横ナデ調整。

土師器

小皿ｃ（5 ～ 7）　6 の底部はヘラ切りされるが、他は磨滅のため不明。

坏ａ（8 ～ 19）底部はヘラ切りされる。14 は内面に煤が付着している。口径 10.45 ～ 12.35cm、器高 1.7 ～ 3.1cm。器高は 3cm に近いものと 2cm に近い２つに分かれ、前者はⅧ期、後者はⅨ期に属する。また 19 は一段口径が大きく体部中位に屈曲を有し、Ⅹ期に下る可能性がある。

丸底坏ａ（20）　底部はヘラ切りされる。底部端外面に指頭圧痕があるが底部の押出しは弱く底がわずかに丸みを持つ。内面をミガキｂで調整する。Ⅹ - Ⅺ期の可能性がある。

椀ａ（21）　丸底坏ａの可能性がある。内面にミガキｂの痕跡があり、これもⅩ～Ⅺ期とみた方がよいかもしれない。

中椀ｃ（22 ～ 26）　22 ～ 24 は体部の内湾度が弱くⅧ期、25・26 は丸みを持ちⅨ期に大別される。底部はヘラ切りされ、24 は不明である。25 は内面をミガキｂで調整する。口径 11.4 ～ 12.4cm。

椀ｃ（27 ～ 29）　27・28 の体部は丸みを持ちⅨ期である。28・29 の底部はヘラ切り。口径 15.1、15.9cm。他に体部の内湾度が弱いⅧ期型が少数ある。

鉢（30）　全体の器形は不明であるが鉢としておく。底部外面は未調整。体部外面はナデ、内面はミガキｃと思われる。色調は内面が暗橙褐色、外面が淡茶褐色である。

黒色土器

椀ｃ（31、32）　Ａ類。内面をミガキｃで調整する。31 は体部外面を回転ヘラケズリする。

緑釉陶器

小椀（33）　胎土は須恵質に近く、底部は円盤状高台で糸切りされる。ミガキはない。底部周囲を除き明緑色の釉が掛かる。山城産（洛西型）。

皿（34 ～ 36）　胎土は須恵質で灰色系の色調である。34 は椀の可能性もある。削りの輪状高台でミガキはない。底部を除き濃緑色の釉が掛かる。京都近郊篠、前山２・３窯とみる意見がある。35 は全面施釉で内面は淡緑色に発色、外面の釉はほとんど剥落している。東海産か。36 は段皿である。高台断面は角形に近く端面には凹線状の段を持つ。全面施釉で釉は濃緑色に発色する。近江型。

越州窯系青磁

椀（37～45）　37～40はI-2aア類で全面施釉後、畳付の釉を掻き取る。釉は37・38が暗緑茶色、39・40は緑灰色に発色する。41はI-2aウ類で全面施釉。釉は暗緑灰色に発色する。42・43はI-2b類。42は畳付を除き暗緑茶色の釉が掛かる。43は高台を欠しており内外面に施釉され、釉は暗黄緑色に発色する。44はI-2ア類高台で全面施釉後、畳付の釉を掻き取る。釉は濁白褐色を呈す。内面見込みと畳付に細長い目跡が残る。45はⅡ-2b類。胎土は暗茶灰色で褐斑を含む。底部外面及び側面をヘラケズリする。内面と体部外面に施釉され、内面は釉下に化粧土がある。釉は暗黄緑色に発色する。

坏（46）　Ⅱ類で口縁の一部に褐彩を施す。釉は暗緑色を呈する。

水注（47）　Ⅱ類。胎土は暗茶灰色で白色、黒色の砂粒を多く含む。把手を含む内外面に施釉され、釉は明緑灰色に発色する。

上記の土器のうちⅩ - Ⅺ期の要素を持つ３点は混入の可能性もあるが、これを除けば大半はⅧ期 (9

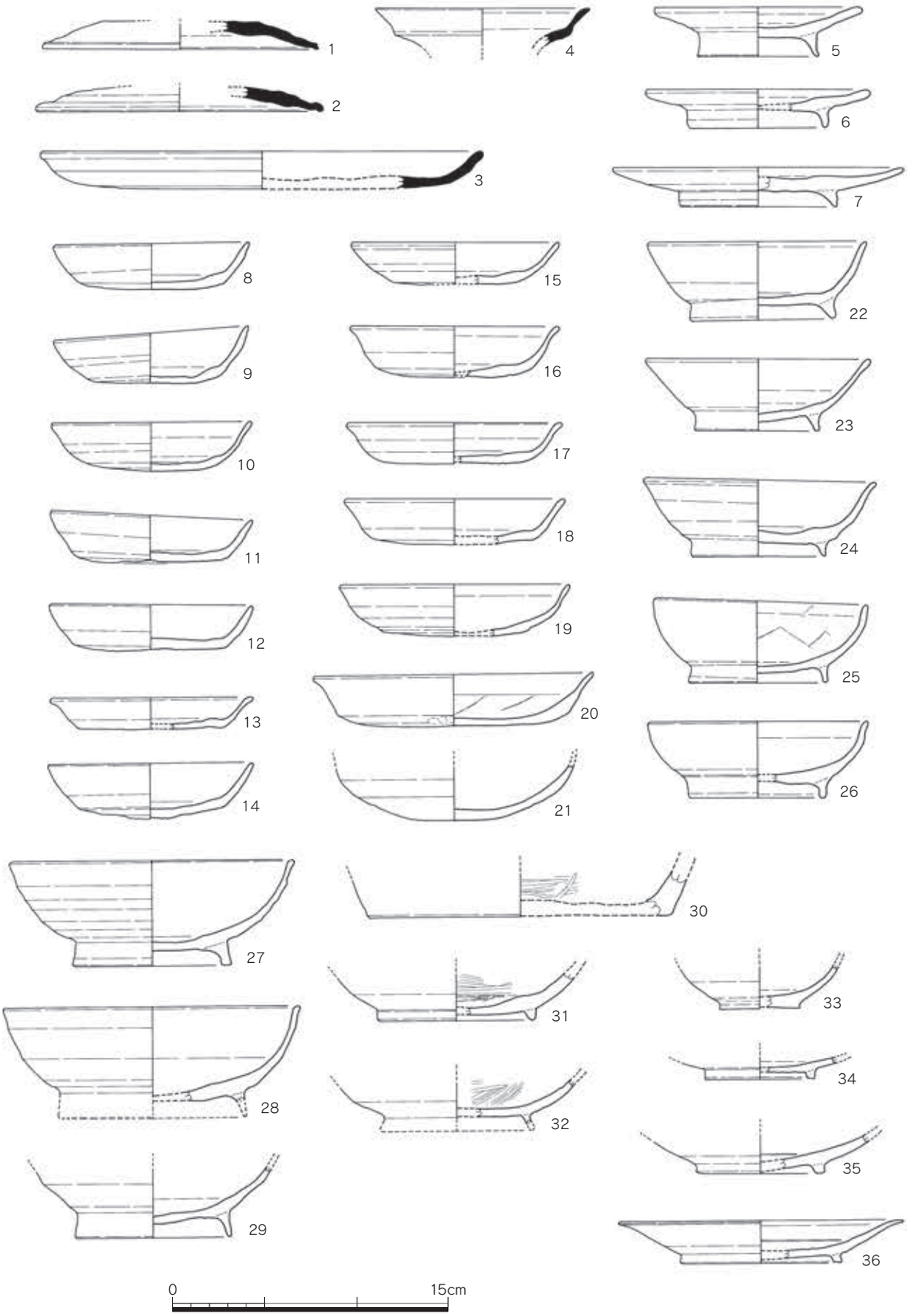



Fig.33　34SK215 出土遺物実測図①（1/3）

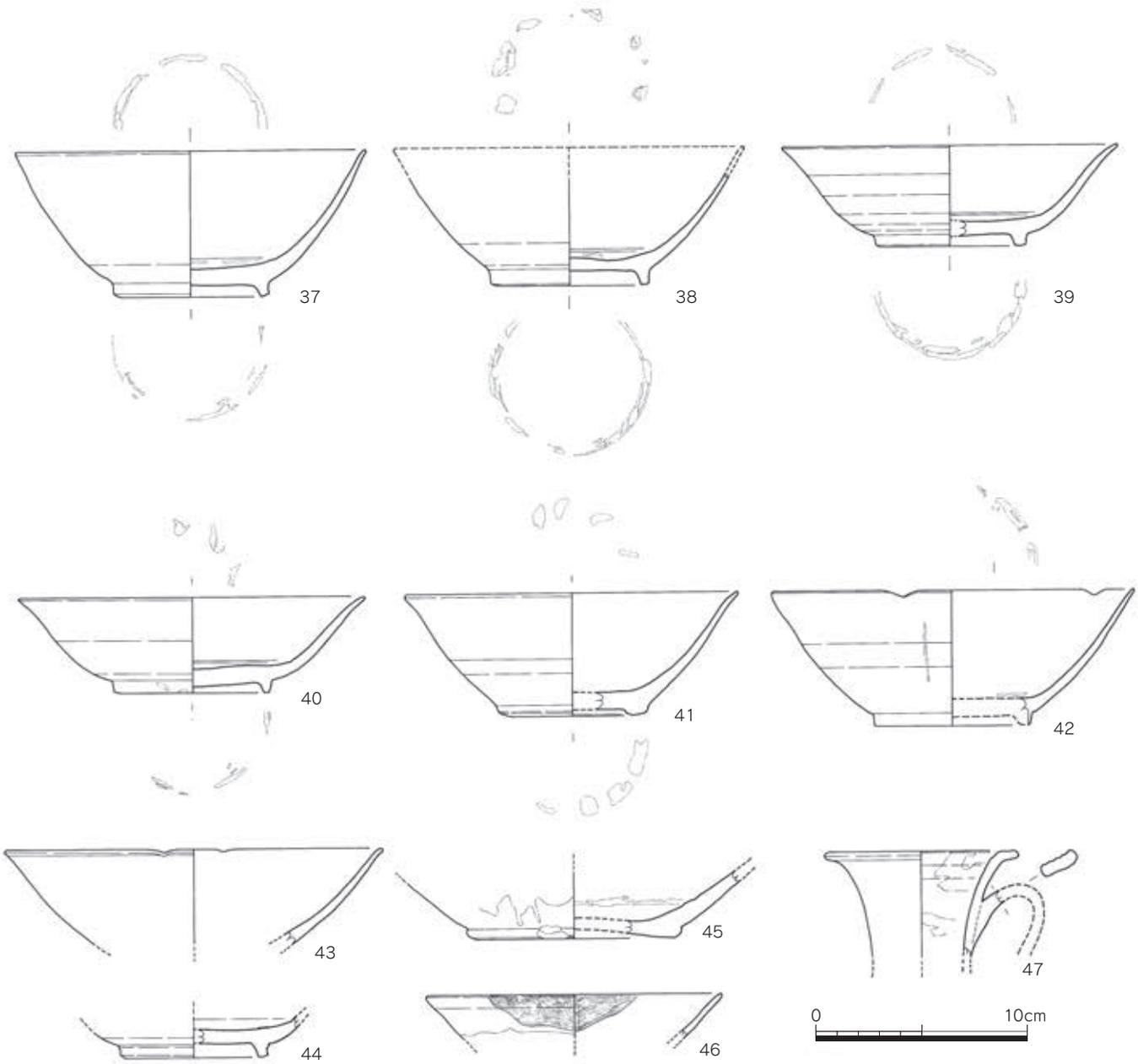



Fig.34　34SK215 出土遺物実測図②（1/3）

世紀第 3 四半期～ 10 世紀前半 ) で、Ⅸ期 (10 世紀中頃 ) を含み、下限はⅨ期となる。

**34SK230 出土遺物（Fig.35）**

須恵器

蓋 4（1、2）　天井部外面はヘラ切り後未調整。

坏 a（3）　ヘラ切り後板状圧痕残す。

坏 c（4、5）　5 の内面底部は器表が平滑でやや黒ずんでいる事から転用硯の可能性もある。

甕 a（6）　体部内面に青海波状、外面に細かい格子目の叩き痕が残る。

土師器

坏 a（7 ～ 10）　底部はヘラ切りされる。8 はヘラ切り後ナデ、その他は未調整。

椀 c（11）　外面は高台を除き回転ヘラケズリされる。

皿 a（12 ～ 16）　底部はヘラ切り後未調整。

皿 c（17）　高台径 12.5cm の大型品である。

小甕ａ（18）　体部内面をヘラケズリ、口縁部内面を横ハケ、体部外面を縦ハケで調整する。

鉢ａ（19）　小さな把手を貼り付ける。内面下位はヘラケズリ、他は横方向ナデで調整する。

白磁

皿（20）　XI類。10 世紀後半～ 11 世紀中頃の混入品である。

8世紀後半の土器は少数あるが、食器の大半はヘラ削りを行わないもので、土器はVIA期(9世紀第1四半期)である。

**34SK234 出土遺物（Fig.35）**

土師器

小皿ａ（21 ～ 24）　底部はヘラ切りされる。口径 10.2 ～ 10.4cm。器高 1.2 ～ 1.5cm。

丸底坏ａ（25）　底部はヘラ切りされる。

黒色土器

椀ｃ（26）　B 類。内面から体部外面にかけてやや幅の広いミガキｃで調整する。

白磁

椀（27、28）　27はIV類。28はXI-5類。薄い直口縁で体部はやや丸みを持つ。底部内面は大きく凹み、見込には体部側に切り込む段を有す。胎土は明白色で釉は灰緑色味に発色する。

越州窯系青磁

椀（29）　I-1a 類。胎土は白灰色。全面施釉後、畳付外端の釉を掻き取る。釉は黄緑色に発色し、表面は白濁している。

蓋（30）　II類。胎土は暗褐色で白色粒子、褐斑を多く含む。外面のみ施釉され、釉は黄茶色に発色する。釉下に化粧土を有する。露胎部分は暗赤褐色に発色する。

硯

猿面硯（31）　須恵器の甕の転用品で側面を研磨している。内面は表面が磨滅しており、墨痕が残る。

**34SK242 出土遺物（Fig.36）**

土師器

小皿ａ（1 ～ 3）　底部ヘラ切り。口径はいずれも 10.0cm、器高は 1.0 ～ 1.5cm。

中甕ａ（4）　口縁部は横ナデ、その下部は板状工具で横ナデし、体部はナデで調整される。外面は黒褐色に変色する。

**34SK260 出土遺物（Fig.36）**

上層は上から切るピットの混入品もあり下層と分けて報告する。

土師器

小甕ａ（5）　体部内面はヘラケズリされる。

黒色土器

椀ｃ（6）　A 類。内面に幅の広いミガキｃを粗雑に加える。9 世紀後半～ 10 世紀の混入品である。

越州窯系青磁

水注（7）　I 類。胎土は灰褐色で緻密。釉は外面及び内面頸部に施され、淡黄緑色に発色する。透明度は高く、細かい貫入が全体に入る。

長沙窯系青磁（青釉）椀　口縁部の小片が出土している。SK005･006 出土品と同一個体と思われる。

**34SK260 下層出土遺物（Fig.36）**

須恵器

甕ａ（8）　内外面は横ナデされる。

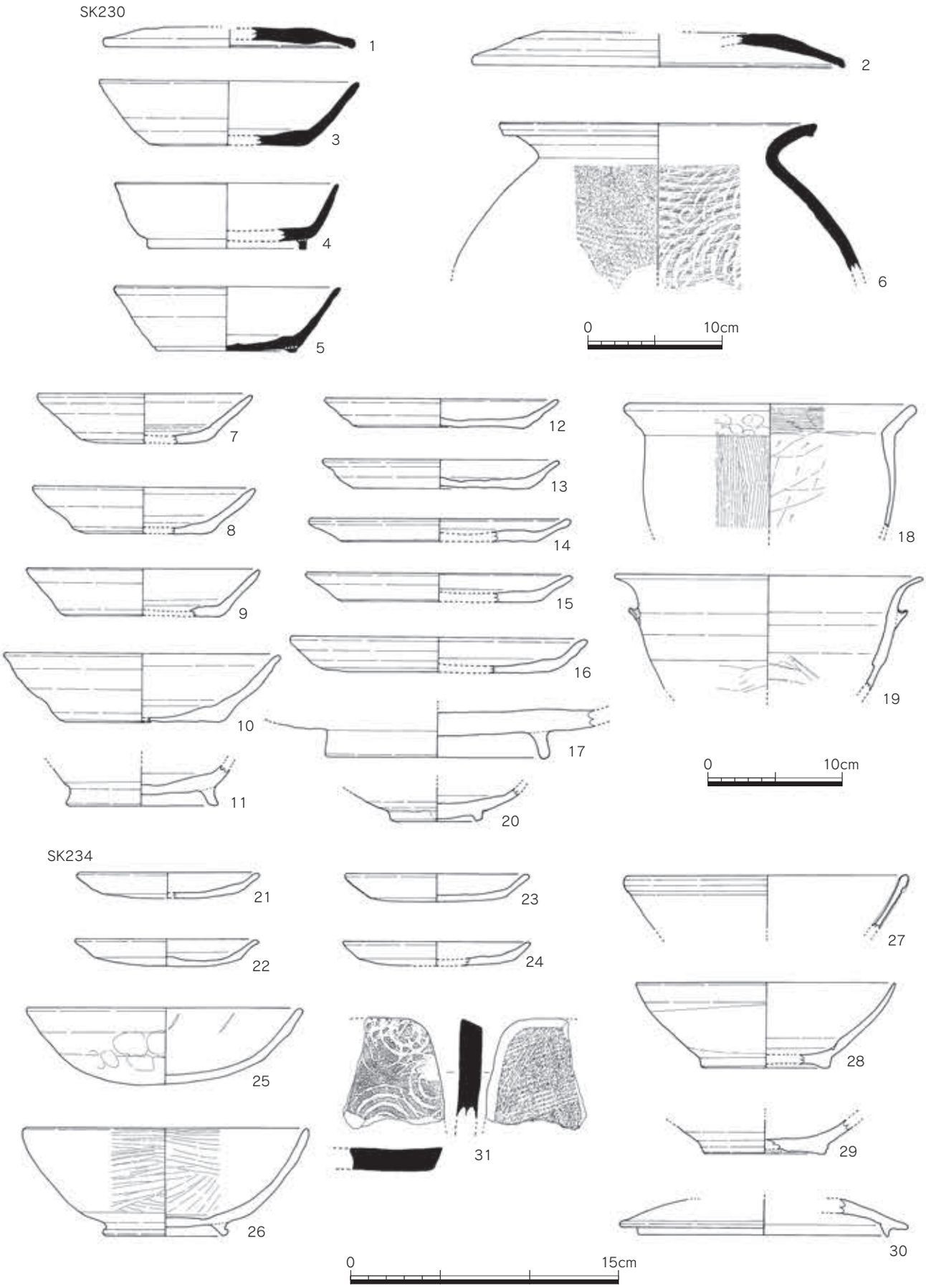



Fig.35　34SK230・234 出土遺物実測図（1/3、6・18・19 は 1/4）

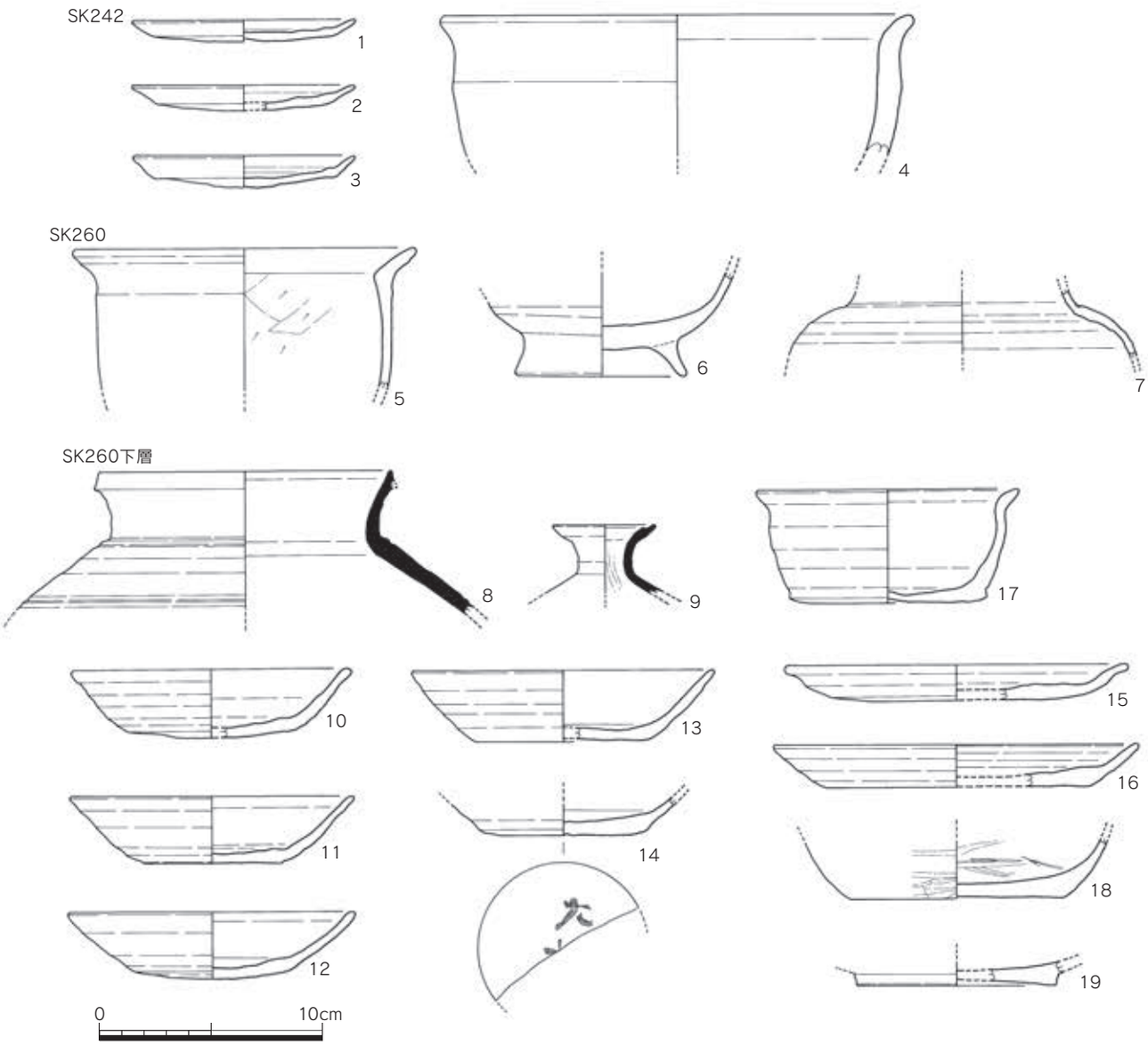



Fig.36　34SK242・260・260 下層出土遺物実測図（1/3）

小壺（9）　口縁部内面に段を持つ。内外面は横ナデされる。

土師器

坏ａ（10 ～ 14）　10 ～ 13 の底部はヘラ切りされる。14 の底部はヘラ切り後回転ケズリか。底部外面に墨書があり「大□」と読める。

皿ａ（15、16）　底部はヘラ切りされ内面にはミガキａの痕跡がある。

小鉢（17）　底部はヘラ切りで内面から体部外面は横ナデされる。

黒色土器

坏（18）　Ａ類。底部外面を除きミガキｃで調整する。

緑釉陶器

椀または皿（19）　胎土は土師質。全面施釉で釉は淡黄緑色に発色する。山城産（洛北型）。

上記はⅤ期のものを含み下限はⅥA期（9世紀第1四半期）である。

**その他の遺構出土遺物**

以下はピット、ピット群などからの出土である。年代推定に有効な土器の抽出と遺構の前後関係を整理した上で年代推定を行っているが、出土土器が少なく安定量に達しない遺構もある。この場合は遺構

の上限年代の１点は定まるが年代が下がる場合も予想され、土坑などの一括性が高い資料よりも年代推定の確実性は一歩低くなる。各遺構の位置はグリッド名で示す。

**34SX001 出土遺物（Fig.37）J4 区**

土師器

中椀 c2（1）　口縁部をわずかに外反させ、体部に丸味を持つ。Ⅸ期。

**34SX002 出土遺物（Fig.37）K1・2 区**

須恵器

坏 c（2）　底部外面はヘラ切り後未調整。7 世紀後半～ 8 世紀後半。

**34SX013 出土遺物（Fig.37）K2 区**

土師器

小皿 a(3 ～ 5)　底部はヘラ切りされる。5 は内面に黒色の付着物がある。口径 9.2 ～ 9.6cm、器高 1.1 ～ 1.2cm。Ⅻ期。

**34SX022 出土遺物（Fig.37）K・L4 区ピット群**

施釉陶器（6）　皿の底部か。胎土は明茶白色で土師質。畳付には凹線を持つ。外面にはヘラミガキの痕跡が残るが内面は不明瞭である。全面施釉で釉は暗白色に発色する。白釉の可能性がある。防長産。

**34SX035 出土遺物（Fig.37）J3 区**

土師器

小皿 a（7）　底部はヘラ切りされる。Ⅻ期。

緑釉陶器

椀または皿（8）　胎土は明茶白色でやや軟質。内面にミガキを加える。全面施釉で釉は淡黄緑色に発色する。山城産（洛北型）。古期混入品。

初期高麗青磁

椀または蓋（9）　椀Ⅲ-3類または蓋Ⅲ類。胎土は黄灰色で混入物を含まない。高台は高く外面下位をヘラで面取りする。全面施釉で畳付先端の釉を掻きとる。畳付と内面見込みに目跡が残る。釉は黄茶色に発色する。C期。

**34SX040 出土遺物（Fig.37）J3 区**

須恵器

蓋 c（10、11）　天井部外面は回転ケズリを加える。

坏 c（12 ～ 14）　底部はヘラ切り後未調整。

皿 a（15）　底部はヘラ切り後未調整。

甕 a（16）　外面に格子叩き、内面に青海波状の当て具痕がわずかに残る。

壺（17、18）　17 は壺の胴部で底部外面を回転ヘラケズリする。18 は壺の底部と思われ、高台は端部を外に跳ね上がる。体部内外面を横ナデする。

土師器

大蓋 3（19）　天井部外面は回転ヘラケズリ、他は口縁部を除きミガキ a で調整する。つまみが付くと思われる。

甕 a（20）　体部外面に煤が付着する。

製塩土器

壺（21、22）　21 は内面全体を工具ナデで調整した後、一部にナデを加える。22 は内面ナデ。

土器群はⅣ・Ⅴ期 (8 世紀後半 ) である。

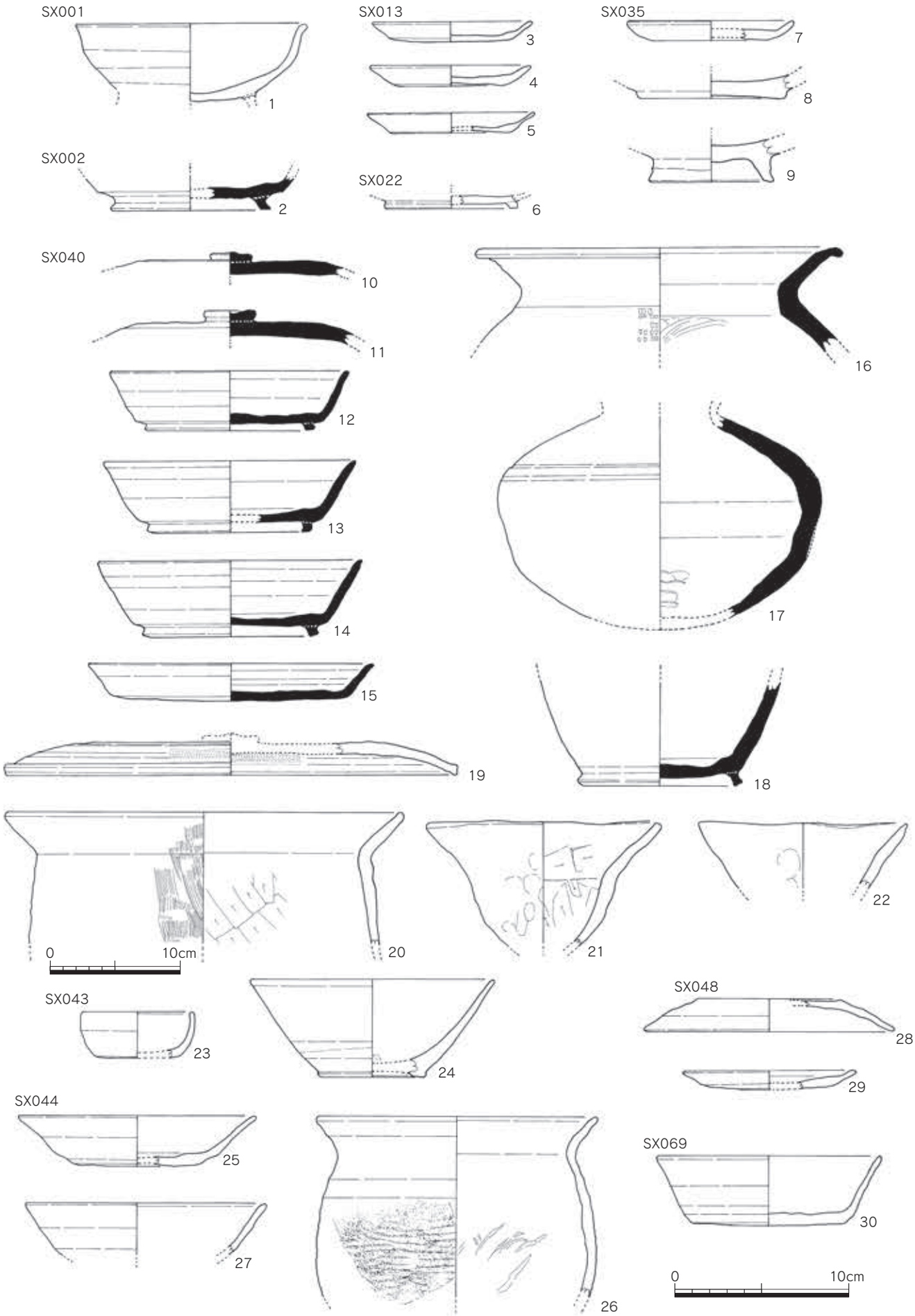



Fig.37　第 34 次調査その他の遺構出土遺物実測図①（1/3、20 は 1/4）

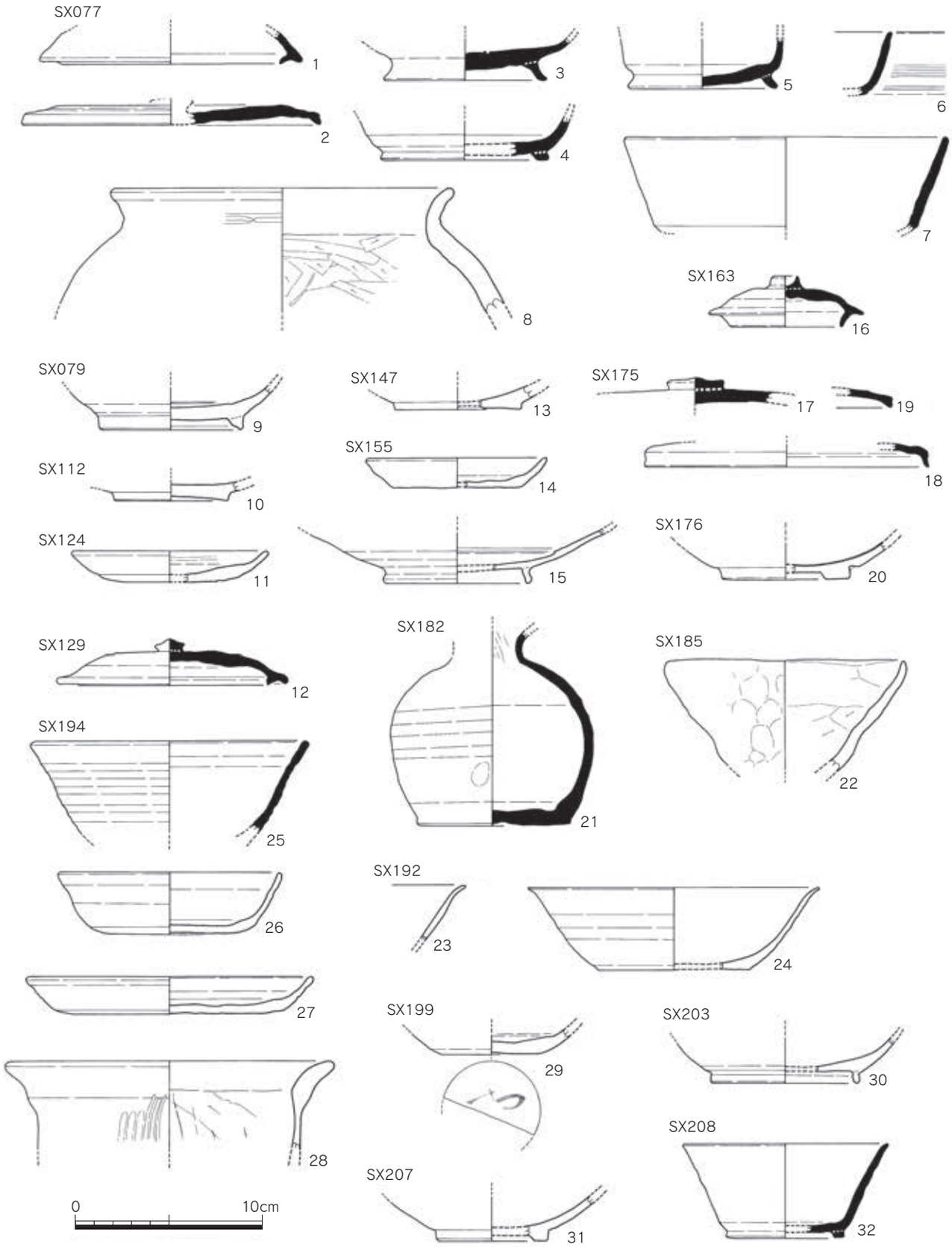



Fig.38　第 34 次調査その他の遺構出土遺物実測図②（1/3）

**34SX043 出土遺物（Fig.37）J3 区**

土師器

坏（23）　小形品。内外面ミガキか。

越州窯系青磁

椀（24） I-1b 類。胎土は淡茶灰色で、内面から外面体部下位まで施釉する。釉は暗緑色に発色する。内面に目跡が残る。A 期古。

**34SX044 出土遺物（Fig.37）J4 区**

土師器

坏 a（25） 底部はヘラ切り後未調整。Ⅵ期か。

製塩土器

甕（26） 外面は平行叩き、内面に当て具痕が残る。口縁部外面が褐色化している。

緑釉陶器

椀(27) 胎土は暗灰色で軟質。内外面ヘラミガキか。釉は淡緑色に発色する。時期の下る防長新型（周防型）か。

**34SX048 出土遺物（Fig.37）I3 区ピット群**

土師器

蓋 a（28） 天井部外面はヘラ切り後未調整。

小皿 a（29） 底部はヘラ切りされる。出土土器では最新のⅫ期。

**34SX069 出土遺物（Fig.37）H3 区**

土師器

坏 a（30） 底部はヘラ切り後未調整。Ⅶ期。

**34SX077 出土遺物（Fig.38）K2・3 区**

須恵器

蓋 1（1） 内外面は横ナデされる。

蓋 c3（2） 天井部外面は回転ヘラケズリされる。

坏 c（3 ～ 6） 3 の高台は高く、外に開く。外面は回転ヘラケズリされる。内面中央に長さ 2cm 程の平行条線があり、ヘラ記号の可能性がある。4 は底部外面から体部下位は回転ヘラケズリされる。5 は小坏 c で底部はヘラ切り後未調整。

大坏（7） 口径 17.3cm。

土師器

甕（8） 体部内面をヘラケズリ、頸部外面を工具ナデする。他はナデ調整。外面から口縁部内面にかけて赤色顔料を塗布した可能性がある。

土器は 7 世紀後半～ 8 世紀までのものに限られる。

**34SX079 出土遺物（Fig.38）K2 区**

緑釉陶器

椀(9) 胎土は明黄茶褐色で土師質。高台内側に段を有す。全面施釉で釉は暗緑色に発色する。近江型。

**34SX112 出土遺物（Fig.38）I4 区**

緑釉陶器

皿（10） 胎土は淡灰色で土師質。内外面ミガキか。全面施釉で釉は明緑白色を呈す。山城産（妙満寺窯か）。

**34SX124 出土遺物（Fig.38）F5 区**

黒色土器

小皿 a（11） B 類。内面から外面体部をミガキ c で調整する。Ⅺ～Ⅻ期か。

**34SX129 出土遺物（Fig.38）G7 区**

須恵器

小蓋c1(12)　天井部外面は回転ヘラケズリされる。7世紀後半のものだが遺構は9世紀初頭以降である。

**34SX147 出土遺物（Fig.38）E4 区**

緑釉陶器

皿（13）　蛇ノ目高台。胎土は明灰色で須恵質。内面にミガキを加える。全面施釉で釉は明緑色に発色する。山城産。他に SK066 と接合した近江型がある。

**34SX155 出土遺物（Fig.38）G3 区**

土師器

小皿ａ（14）　底部はヘラ切りされる。Ⅹ～Ⅺ期か。

灰釉陶器

皿（15）　見込みに段を持つ段皿である。体部外面は回転ケズリされる。体部内外面に施釉され、釉は明灰色に発色する。東海 K90 から O-53 型式まで各意見がある。他に壺高台がある。

**34SX163 出土遺物（Fig.38）F4 区**

須恵器

蓋（16）　小型の蓋で、口径 6.1cm。壺や高坏の蓋と思われる。7 世紀のものであるが遺構は 8 世紀後半以降である。

**34SX175 出土遺物（Fig.38）E2 区**

須恵器

蓋ｃ（17）　天井部外面は回転ヘラケズリされる。

蓋２（18）　内外面ヨコナデ調整。

蓋３（19）　内外面ヨコナデ調整。

土器は 8 世紀までのものに限られる。

**34SX176 出土遺物（Fig.38）I3 区**

白磁

椀（20）　Ⅰ類。胎土は純白できめが細かい。全面施釉後畳付の釉を掻き取る。A 期古。

**34SX182 出土遺物（Fig.38）B8 区**

須恵器

壺（21）　小形の壺。外面体部下位はヘラケズリされる。遺構は 9 ～ 10 世紀か。

**34SX185 出土遺物（Fig.38）A8 区**

製塩土器

壺（22）　内面を工具ナデで調整する。遺構は 8 ～ 9 世紀か。

**34SX192 出土遺物（Fig.38、Pla.12）A8 区**

緑釉陶器

椀（23）　胎土は明茶白色で土師質。内外面ヘラミガキ後に施釉する。防長産。

坏（24）　平底の例は少ない。胎土は明茶白色で土師質。全体にヘラミガキを加え、全面に施釉する。底部端を露胎とし、その部分に目跡が付く。釉は淡緑色に発色する。防長産。SX201･SD210 と接合した。

土器はきわめて少なく8世紀までのものに限られる。SD210はⅥB期下限とみている。

**34SX194 出土遺物（Fig.38）B9 区**

須恵器

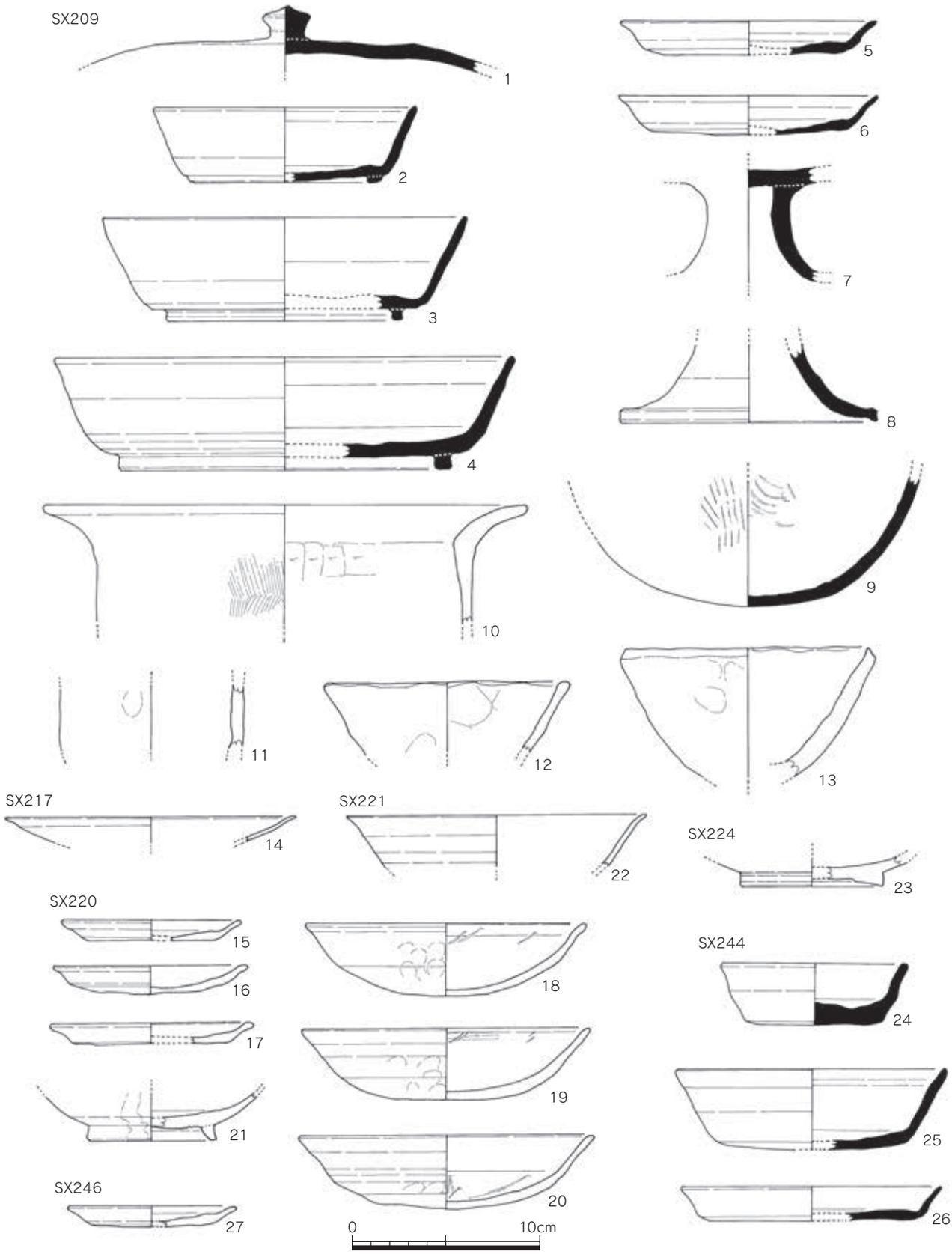



Fig.39　第 34 次調査その他の遺構出土遺物実測図③（1/3）

椀（25）　強い横ナデによる凹凸が顕著である。

土師器

坏ａ（26）　底部はヘラ切り後未調整。

皿ａ（27）　底部はヘラ切り後未調整。

小甕ａ（28）　口径 17.6cm。体部内面をケズリ、外面をハケ、口縁部を横ナデで調整する。

土師器26・27はⅥB～Ⅶ期とみられ、25はこれよりも古い。

**34SX199 出土遺物（Fig.38）C8 区**

土師器

坏ｄ（29）　内面にミガキを加える。底部外面に墨書がある。8 世紀後半。以降は 10 ～ 11 世紀か。

**34SX203 出土遺物（Fig.38）B7 区**

緑釉陶器

椀（30）　胎土は明茶白色で土師質。全体にヘラミガキを加え、全面に施釉する。釉は明緑色に発色する。防長産。

**34SX207 出土遺物（Fig.38）C8 区**

白磁

椀（31）　Ⅰ類。胎土は純白で緻密。体部下位から底部を露胎とする。A 期。

**34SX208 出土遺物（Fig.38）E7 区**

須恵器

小坏ｃ（32）　底部はヘラ切り後未調整。Ⅴ期か。SD090 からの混入品の可能性がある。

**34SX209 出土遺物（Fig.39）E7 区**

須恵器

大蓋ｃ（1）　高い宝珠形つまみが付く。天井部外面を回転ヘラケズリされる。

坏c（2～4）　2は底部ヘラ切り後未調整。4は大坏で体部外面下半は回転ヘラケズリ。口径25.0cm。

皿ａ（5、6）　底部ヘラ切り後未調整。

高坏（7、8）　7 は低脚形で脚部外面を横ナデ後ナデで調整する。8 は内外面とも横ナデ。

甕（9）　外面に平行叩き、内面に青海波状の当て具痕が見られる。

土師器

甕ａ（10）　外面に煤が付着する。

製塩土器

壺（11 ～ 13）　11 は内面に緻密な布目痕が残る。12 の内面はナデ調整と思われる。13 は内面に細かい布目痕がある。

須恵器はⅤ期まで下がらず、全体はⅢ期で一部皿はⅣ期に入る可能性があり、8 世紀中頃を中心とする。

**34SX217 出土遺物（Fig.39）A7 区**

緑釉陶器

皿（14）　口縁部は僅かに外反させ薄く鋭利な感がある。胎土は明茶色で土師質。内外面ヘラミガキで淡緑色の釉がかかる。防長産。土師器はⅥ期の破片がある。

**34SX220 出土遺物（Fig.39）A6 区**

土師器

小皿ａ（15 ～ 17）　底部はヘラ切りされる。口径 9.6 ～ 10.8cm、器高 1.1 ～ 1.55cm。

丸底坏ａ（18 ～ 20）　底部はヘラ切りされる。小皿ａ・丸底坏ａはⅫ期である。

灰釉陶器

椀(21)　体部内外面に明灰白色の釉状のものが薄くかかる。見込みに沈線が入る。東海産丸石２号、篠岡 S-1 型式などの意見がある。

**34SX221 出土遺物（Fig.39）B7 区**

緑釉陶器

椀（22）　胎土は明茶白色で土師質。ヘラミガキで調整し、内外面に明緑色の釉がかかる。防長産。伴出土器はⅥA期までの破片がある。

**34SX224 出土遺物（Fig.39）A7 区**

緑釉陶器

椀または皿(23)　蛇ノ目高台。胎土は暗茶褐色で須恵質。全体にヘラミガキを加える。素地である。山城産で妙満寺窯、大原野窯の意見がある。SK205 と接合。

**34SX244 出土遺物（Fig.39）D7 区**

須恵器

小坏a(24)　底部はヘラ切り後不定方向のハケで調整する。体部は横ナデ、底部内面はナデで調整である。

坏ａ（25）　底部はヘラ切り後未調整。

皿a（26）　底部はヘラ切り後ハケで調整する。他に製塩土器があり、Ⅴ-ⅥA期である。

**34SX246 出土遺物（Fig.39）E6 区**

土師器

小皿ａ（27）　底部はヘラ切りされる。Ⅻ期。

**34SX247 出土遺物（Fig.40）E6 区**

SX255 と同一遺構の可能性あり。記録が欠落する。

土師器

小皿ａ（1）　底部はヘラ切りされる。

丸底坏ａ（2）　底部はヘラ切りされる。内面ミガキｂ。

椀ｃ（3）　内面はミガキｃで調整する。

**34SX249 出土遺物（Fig.40）A4 区**

須恵器

大蓋 c3（4）　天井部外面は回転ヘラケズリされる。Ⅱ～Ⅲ期。

**34SX255 出土遺物（Fig.40）E6 区**

土師器

小皿ａ（5）　底部はヘラ切りされる。

丸底坏ａ（6）　底部はヘラ切りされる。内面ミガキｂ。

椀ｃ（7）　内外面はミガキｃで調整する。

白磁

皿（8）　Ⅺ類。

**34SX257 出土遺物（Fig.40）D4 区**

越州窯系青磁

椀（9）I-1b 類。底部外面を除き濃緑色の釉が掛かる。畳付と内面見込みに目跡が残る。A 期。

**34SX258 出土遺物（Fig.40）D4 区**

土師器

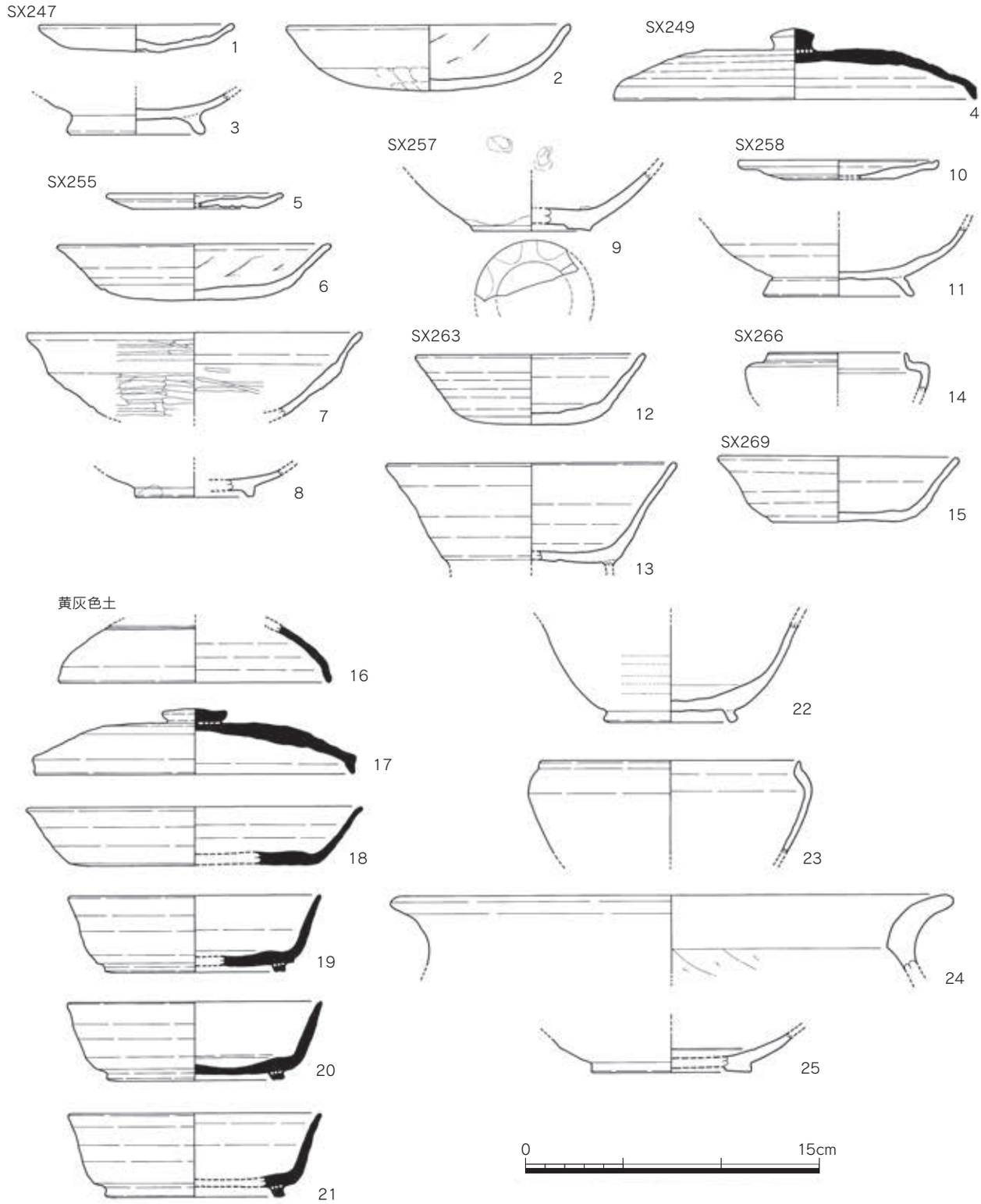



Fig.40　第 34 次調査その他の遺構④、黄灰色土出土遺物実測図（1/3）

小Ⅲ a2（10）底部ヘラ切り。

椀 c（11）　やや高く外に開く高台を有す。摩滅のため調整は不明である。X - XI期。

**34SX263 出土遺物（Fig.40）D3 区**

土師器

坏 a（12）　底部はヘラ切り後未調整。体部下端はやや丸みを持つ。

椀 c（13）　底部はヘラ切り後未調整。Ⅶ期。

**34SX266 出土遺物（Fig.40）D3 区**

土師器

小壺（14）　体部外面はミガキとみられる。Ⅳ・Ⅴ期。

**34SX269 出土遺物（Fig.40）A8 区**

土師器

坏 a（15）　底部はヘラ切り後未調整。体部下方はやや屈曲し鈍い。Ⅶ期。

**土層出土遺物**

**黄灰色土出土遺物（Fig.40）**

上面から切るピットの混入品がごく少数あり、これはⅫ期の土師器小皿 a1 点、同時期の白磁片 1 点、10 世紀頃の土師器である。出土土器の大半は 8 世紀で、A 期の白磁椀 I 類 1 片、山城産（洛北型）の緑釉 1 片がある。

須恵器

坏蓋（16）　7 世紀中葉頃のものである。

蓋 c3（17）　天井部外面は回転ヘラケズリされる。

皿 a（18）　底部はヘラ切り後未調整。

坏 c（19 ～ 21）　底部はヘラ切り後未調整。

土師器

椀 c（22）　体部外面はミガキ a で調整される。

鉢（23）　内外面を横ナデする。

甕（24）　内面はヘラケズリされる。小片のため径はやや不正確である。

緑釉陶器

皿（25）　胎土は明茶白色。外面はケズリ、内面はミガキと思われる。内面に沈線が入る。全面施釉で釉は淡黄緑色を呈す。山城産（洛北型）。

**表土出土遺物（Fig.41 ～ 43、Pla.12）**

須恵器

坏a（1）　底部はヘラ切り後ナデを加える。底部外面に「浄典[人]カ」の墨書がある。[人]は細字のためか不鮮明である。Ⅴ・ⅥA期に属する。

鉢 b（2）　内外面は横ナデ調整。口径 25cm。

土師器

小皿 a（3 ～ 13）　底部はヘラ切りされる。口径は 3 が 8.5cm とやや小さいが、他は 9.6 ～ 10.6cm である。

小皿 a2（14）　底部はヘラ切りされる。

小皿 c（15 ～ 18）　18 は中央に穿孔がある。穿孔は焼成後に内外面から行っている。15 ～ 17 は小皿 a に高台を付けた形であるが 18・19 は皿部の形体が異なる。15 ～ 17 は 11 世紀後半～ 12 世紀前半、18・19 は 10 世紀～ 11 世紀前半のものである。

坏a（20～28）　底部はヘラ切りされる。20は底部外面に「𠮟」の墨書があり、SK010出土品に類似する。ⅥA期。21は底部中央に穿孔がある。21～24は9世紀、25～28は11世紀後半～12世紀前半である。

坏 d（29）　内面から外面体部にミガキ a を施す。8 世紀後半。

丸底坏（29 ～ 35）　底部はヘラ切りされる。口径は 14.8 ～ 16.0cm。

丸底坏 c（36）　外面下半に指頭圧痕が残る。

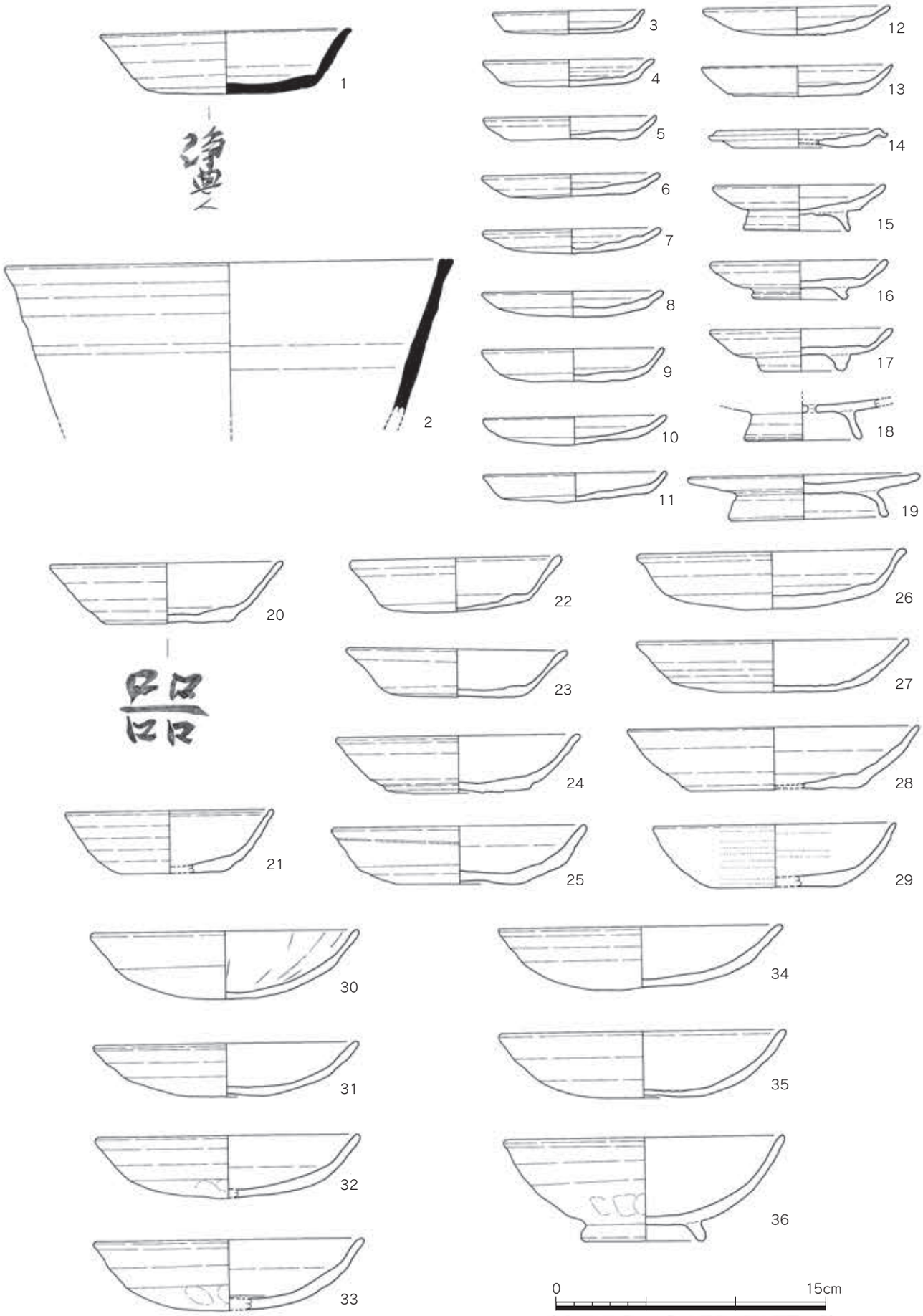



Fig.41　第 34 次調査表土出土遺物実測図①（1/3）

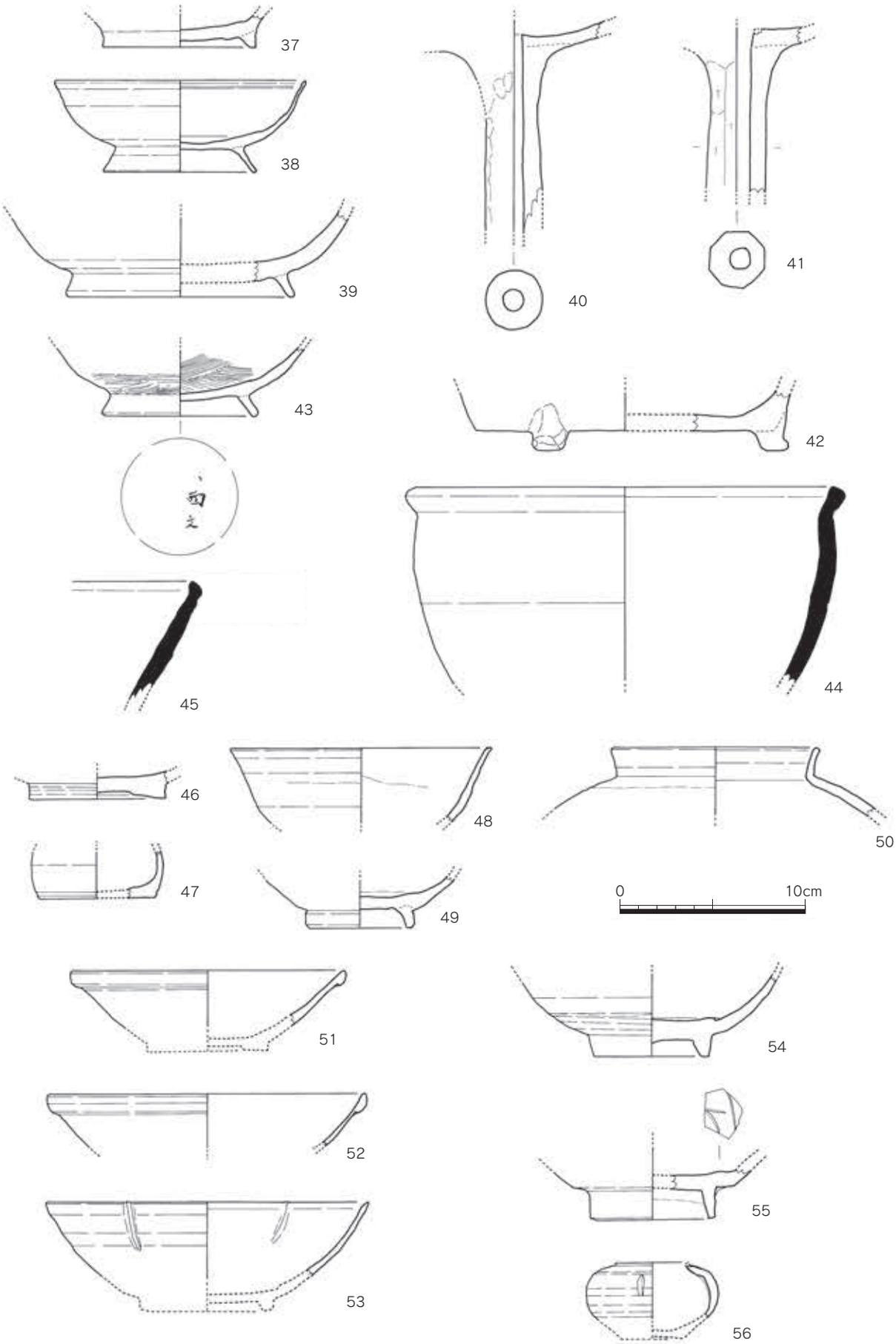



Fig.42　第 34 次調査表土出土遺物実測図②（1/3）

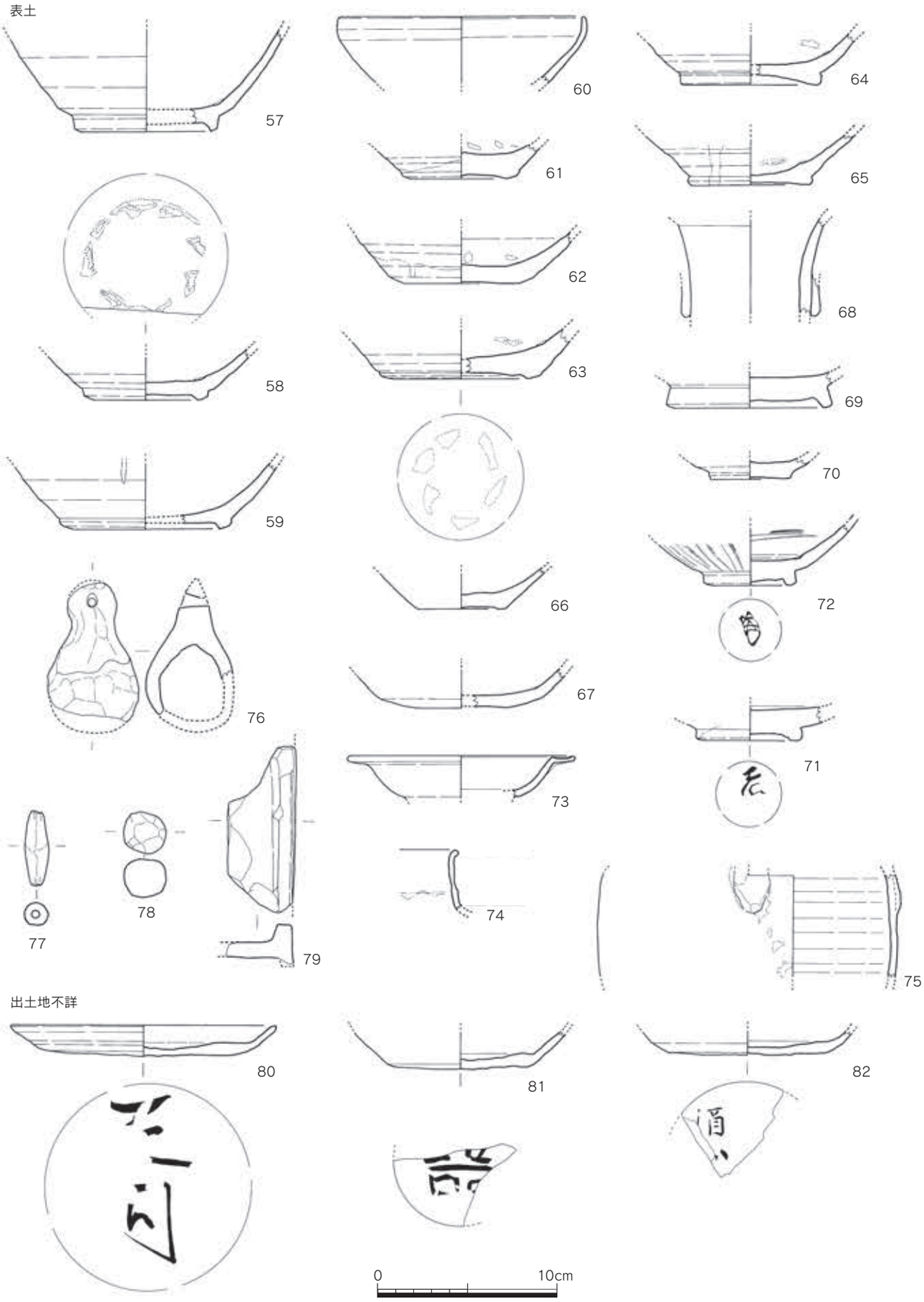



Fig.43　第 34 次調査表土③・出土地不詳遺物実測図（1/3）

椀ｃ（37 ～ 39）　37 の体部は直線的な形態と思われる。38 は内面の一部に漆膜が付着する。Ⅸ期。39 は大形品である。

器台（40、41）　筒形の上下に丸底坏ａを接合する形態で、上下は欠損する。筒形は棒状の芯に粘土を巻き付けて成形するが 40 は指押さえ後ナデ調整され、41 はヘラケズリで面取りを行う。

鉢（42）　短い猫足状の三足が付く鉢で、例は少ないが 11 世紀後半には確認される。

黒色土器

椀ｃ(43)　B 類。内外面に緻密なミガキｃを加えており 9 世紀前半の可能性がある。底部外面に「□西文カ」の墨書がある。

須恵質土器

鉢（44、45）　44 は体部中位以下の内面に当て具の青海波叩き痕が残り、外面は斜めにナデ上げ、他は横ナデを行う。手法上から 8 世紀の須恵器とみられる。45 は東播系。他に図示していないが畿内篠窯産とみられる糸切底の鉢がある。

緑釉陶器

椀または皿（46）　蛇ノ目高台で胎土は明灰茶色、内面にミガキを加える。全面施釉で釉は明緑色を呈す。山城産、妙満寺窯か。

小壺（47）　胎土は黄灰色で硬質。外面全体に施釉され、釉は淡い緑色である。産地は不明である。

灰釉陶器

椀（48、49）　48 は口縁部内外面を露胎とする。釉はかなり薄く、不透明な灰白色を呈する。東濃永田窯や折戸 O-53 型式の各意見がある。49 の底部は糸切され、体部内外面に施釉される。淡緑灰色の薄い釉が斑状に掛かる。丸石 2 号窯型式とされる。

壺（50）　短頸壺で内面から外面口縁部下までは露胎である。釉は厚く、ガラス質で濃いオリーブ色に発色する。東海猿投 K14 型式。

白磁

椀(51 ～ 55)　51 はⅠ-1 類。52 はⅪ -1 類で外面の横ナデ範囲が広く、胎土は灰白色できめが細かい。釉はガラス質で淡緑色味を帯びる。53 はⅪ -5 類でヘラ押圧縦線が入る。54 はⅤ類。55 はⅫ類で内面に片切彫りの文様がある。

小壺（56）　胎土は淡灰白色で緻密、硬質。内外面にやや厚く施釉され、青みのある灰白色に発色する。透明で光沢がある。広東産。

越州窯系青磁

椀（57～65）　57・58はI-2a類。59はI-2b類で体部にヘラ押圧縦線が入る。3点とも全面施釉後畳付の釉を掻きとる。内面見込みと畳付に目跡が付く。60はI-3類。61～63はI-5類。底部外面は露胎で内面見込みと底部外周に目跡が付く。64・65はⅡ-2類。底部外面は露胎である。65の外面には化粧土が垂下している。

坏（66、67）　Ⅰ類。ともに全面施釉で 66 は底部内外面に目跡がある。67 は底部外周の釉を掻きとり、その周囲に目跡が付く。内面にも目跡がある。

水注（68）Ⅰ類の頸部である。内外面に施釉される。把手が一部残る。

壺（69）Ⅰ類の壺とみられる。全面施釉後畳付の釉を掻きとる。釉は暗黄緑色に発色する。

小形品（70）　全面施釉で底部外周の釉を掻き取り、そこに目跡が付く。合子身の可能性がある。

龍泉窯系青磁

椀（71、72）　71の高台形はI又はⅡ類となるが、内面の見込み径は広く、直角方向に４か所の目跡

が残りI類と考えられる。底部外面に墨書がある。72はII-b類で底部外面に墨書があり、花押であろう。

坏（73）　内外とも無文で釉は淡黄緑色を呈し、胎土も明るい黄灰色である。分類同定の点では薄目の釉厚と厚胎の点からはⅣ類に近いが、釉調は良好、つくりは鋭利であり、Ⅲ類のうち傍系の要素を持つⅢ'の可能性がある。高台には特徴が出るが、この欠損は惜しまれる。

長沙窯系陶磁（74、75）　74は水注・壺類の口縁・頸部でかなり薄手、内外の釉色は黄白色に近く下の白化粧土の影響もある。彩文があれば胴部につく事も多いため頸部のみの残片では確認できない。75は水注の耳または把手部分である。破片の範囲では外面に褐釉のみが確認され、黄釉褐彩または褐釉単色であろう。胎土は黄釉のものに近い。その他に褐釉壺または水注の小片で、SK210出土品と同様な胎土で白斑が目立ち、釉は黒色味を帯びるものがある。

土製品

土鈴（76）　手捏ねで作られ、上部には穿孔がある。表面に赤彩らしい痕跡がある。

土錘（77）　長さ4.2cm、最大径1.4cm。

瓦玉（78）　大きさは2.3×2.4cm、厚さ2.2cm。

硯（79）　長方形硯または風字硯か。

**出土地点不詳（Fig.43、Pla.13）**

表土層除去他で出土位置が不明となったものである。

土師器

墨書土器（79～81）　80はⅢａで、底部はヘラ切りされる。墨書はSK010出土の近似例から「道司」と読めるものである。81は坏ａで底部ヘラ切り後未調整。これも器形、墨書ともにSK010のものに近似しており、「嵒」の墨書がある。82は坏またはⅢａで、底部はヘラ切りされ「酒［坏］カ」の墨書がある。これらは赤外線撮影で墨書が鮮明となる。

**第34次調査出土金属製品（Fig.44・45、Pla.13）**

29以外は鉄製品である。出土遺構・土層名は下記にまとめる。

1～6は刀子で、7も刀子の可能性がある。8は鎌とみられるが刃は不明。9～12は鉄鏃である。13は紡錘車。14は細くなる一方側が捻れ状である。15は軸状をなし上方頭部とみられる一端の横断面は円形、下部の細くなった断面は方形である。小形の錐かもしれない。16は何かの軸とみられ、頭部横断面と細い茎部とも断面円形をなす。17は釘と、頭部を環状に曲げた金具が錆びつく。18は2個の部品からなり、それぞれに環をつくり連結している。上の金具は一端を環状に曲げるが、下の金具は棒中央を折って環状に曲げ、その下は両辺を密着した割ピン形となる。両辺を緊縛した痕跡がある。19の断面形は長方形で、一端は円形に張出しここに孔を設ける。20は19と類似する形状で、孔もあるとみられるが錆化が進むため不明。21は環に対して直行する長方形断面部分が延び、先が欠損する。環部分は錆でやや厚くなったとみられ、曲げた接合部は不明である。22の外観は捻れ状となった節状装飾の可能性を持つ。断面略方形で環状をなすが先は欠損するため不明で、17のように一方が棒状になる可能性もある。23は断面方形で「コ」字形をなし先端は薄くなる。24は雲形をなすが上方は薄く蒲鉾形断面となる。装飾的な人為的加工か折れ曲がったものかは不明。25は断面長方形で一方はかなり薄くなるので楔とみられる。26は断面長方形で、27は幅広の断面長方形部分に断面円形の軸状の部分が付く。両方とも破片部分に刃はない。28は円形とみれば径は約10cmで、ごく薄く1～2mm厚の板状をなすがこれは錆の劣化で薄くなった可能性がある。29は瓔珞で広く使われる装飾の一つである。表面は艶のない灰色味で小形の割に重さがあり、銅合金、鉛、銀などの可能性がある。瓔珞の場合には上辺や下辺にに吊り下げ用の孔を通常有するがこれには無い。従って未成品の可能性もある。30・

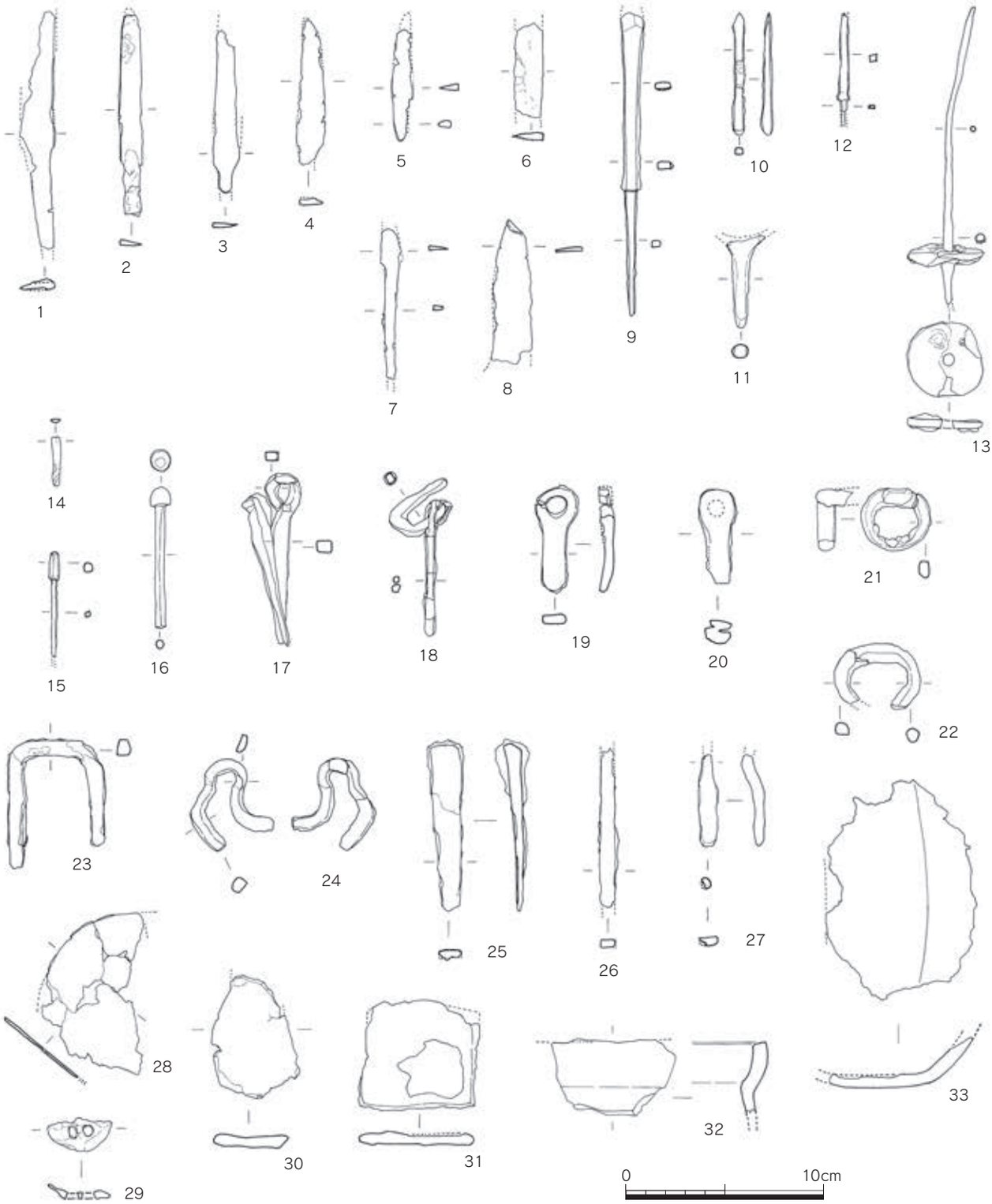



Fig.44　第 34 次調査出土金属製品実測図（1/3）

31 はやや厚い板状なす。32 は端部径 28cm 前後であり、サイズや屈曲からみて鉄鍋等の口縁の可能性がある。ただし逆転して何かの台部となる可能性もある。出土遺構はⅫ期・11 世紀後半～ 12 世紀であり、東日本では 12 世紀に鉄鍋の普及も進むらしいが、西日本でこの時期に確かな例を聞かないため今後の検討となる。一般的には滑石製鍋や土製鍋である。33 は丸底気味の底部であり、31 とともにⅧ - Ⅸ期遺構・9 世紀末～ 10 世紀中頃に出土した大形容器の底とみられ、32 とは時期が異なる。

34（Fig.45）は金銅製品で、眉刷毛などの軸金具と考えられる。長さ 5cm、径 1.1cm で、厚さ 0.5mm

の銅板に毛彫文を入れて管状に曲げ、鍍金する。銅板が重なる部分は段にならないよう平坦に磨り、蝋付けされている。文様は両端と中央に二重界線を入れ、中央の界線を中心とする唐草文を三段配す。余白は魚々子文で埋められ、これは一見疎らに見えるが緑錆で劣化し不鮮明となっているためで、拡大すると錆面にもかなり密に入る事が分かる。材質については、蛍光X線測定結果から主成分は銅であり、ヒ素が検出されたことから朝鮮産かという意見もある。34SK100 上層より出土した。

Fig.45　34SK100 出土金銅製品実測図 (1/1)

上記の中で 17･18･21･22･28 などは馬具の金具一部（喰･引手・喰・立聞・遊環・鏡板）に類似するが、連結しないため自在な動きを必要とする他の用具等にも流用される形であり、一部のみで製品特定は難しいと思われる。28 は鏡板の可能性も考えたが、上の部品連結用の孔は無いため、これも馬具とするには到らない。21・22・28 は線彫など装飾の有無についてX線透視を行ったが文様などは認められない。馬具と仮定した場合は、実用重視の点から強度の点で銅よりも鉄の方が理にかなっているかもしれない。

上の出土年代などについては表土層（10.23.25）、時期不明（20）。8 世紀後半か？（7）、9 世紀前半（5.12.13.16.）、9 世紀後半～ 10 世紀中頃（15.18.19.24,31.33）、大半は 11 世紀後半～ 12 世紀前半（1.2.3.4.6.8.9.10.11.14.17.21.22.26.27.28.29.30.32）である。

各遺物の出土遺構

1・SK170、2・SK070、3・SD078、4・SK145、5・SD210、6・SK234、7・SK066、8・SD102、9・SK145、10・表土層、11・SD071、12・SK260、13・SK260、14・SK070、15・SK200、16・SK260、17・SD078、18・SK215、19・SK215、20・SK032、21・SD110、22・SD078、23・表土層、24・SK215、25・表土層、26・SD225、27・SK070、28・SD078、29・SK205、30・SD084、31・SK215、32・SK114、33・SK215（各遺構番号先頭には34が付く）

**第 34 次調査出土瓦類（Fig.46、Pla.13）**

軒丸瓦（1 ～ 6）　1 は無子葉単弁で表土より出土。2 は有子葉単弁で広い中房に蓮子を不規則に配す。あまり類を見ないタイプである。34SD229 出土。3 は有子葉単弁で外区に珠文を配す。表土より出土。4 は菊花状の有子葉単弁で間弁をもたず、外区に珠文を配す。34SD102 出土。5 は複弁と思われ外区に珠文を配す。表土より出土。6 は外区内縁に珠文、外縁に鋸歯文を配す。34SK230 出土。

軒平瓦（7 ～ 10）　7 は斜格子内に珠文を配す。下外区に珠文を持つ。34SK070 出土。8 は鴻臚館式である。表土より出土した。9・10 は同形と思われ、内区は均整唐草文、上外区に珠文、下外区に鋸歯文を配す。9 は 34SX076、10 は表土より出土。

丸瓦（11）　26 は完形の丸瓦である。全長 34.4cm、玉縁の長さは 4.5cm である。粘土板を型に巻きつけて成形した痕跡が残る。分割面は未調整である。叩きは斜格子で「四王」の文字が入る。34SK066 下層出土。

文字瓦（12 ～ 26）　12 ～ 15 は「平井」で、12 ～ 14 は斜格子が陰文となる。12 は 34SK215、13 は 34SD225、14 は 34SK055 出土、15 は 34SK200 出土。16 も「平井」と思われる。表土より出土。17 ～ 20 は「佐」で 17 は 34SK035、18 は表土、19 は 34SK157、20 は 34SD101 出

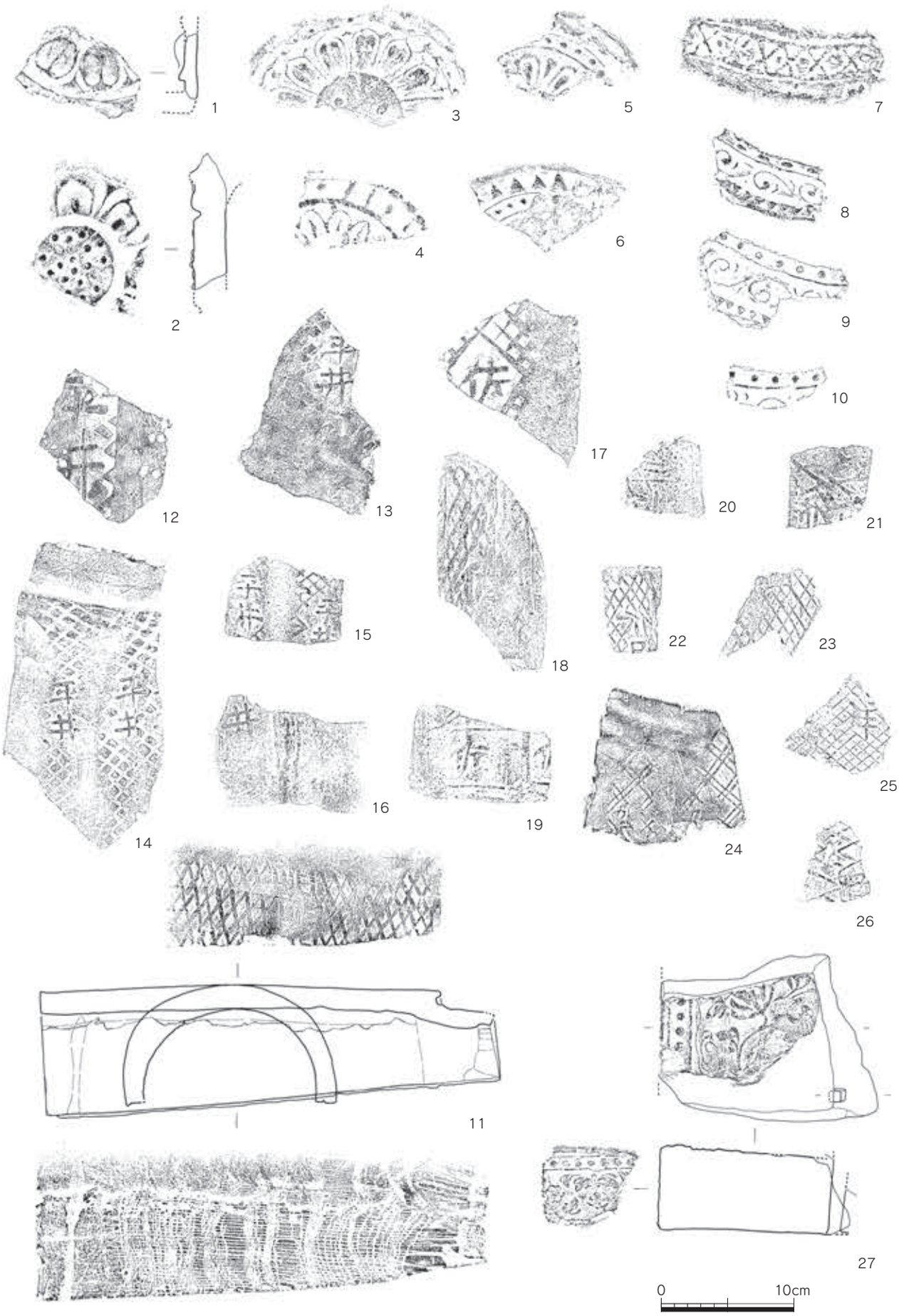



Fig.46　第 34 次調査出土瓦類実測図（1/4）

Fig.47　第 34 次調査出土石製品実測図①（1/2）

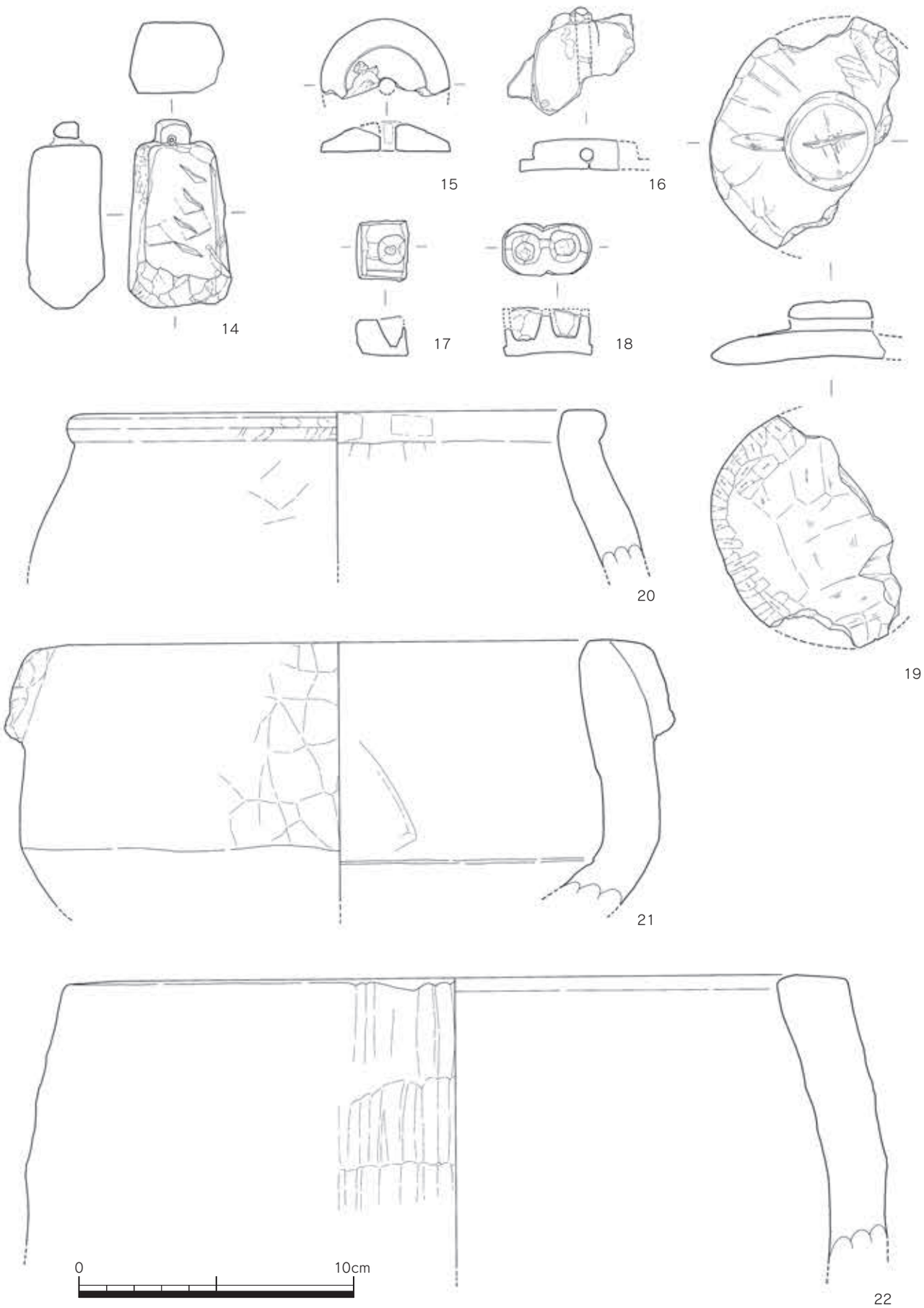



Fig.48　第 34 次調査出土石製品実測図②（1/2）

土。21 は左字の「佐」で表土より出土。22・23 は左字の「佐瓦」と思われる。22 は表土、23 は 34SD178 出土。24 は二重格子で「賀茂瓦」と思われる。表土より出土。25 は左字の「八年」で 34SK156 出土。26 は不明。表土より出土。

文様塼（27） 色調は表面が灰黒色、胎土は灰白色である。厚さ 6.4cm で中心と思われる部分に方形の釘穴がある。上面と側面に文様を持つ。上面は水波文を地文とし、蔓唐草文を描く。外区に珠文を配す。側面は均整唐草文で上外区に珠文を配す。学校院跡などで出土している長方形塼と同形であろう。表土より出土。

**第 34 次調査出土石製品（Fig.47・48、Pla.13）**

石硯（1） 風字硯と思われる。34SD070 出土。

砥石（2 ～ 9） 2 は 34SD078 出土。3 は断面六角で 5 面を使用し、一部に横方向の擦痕が見られる。34SK108 出土。4 は 3 面を使用する。34SK070 出土。5 は 34SD121 出土。6 は上部に穿孔がある。主に 3 面を使用している。34SK170 出土。7 はやや大型である。4 面を使用するが、下面は表面のきめが粗い。34SK205 出土。8 はやや大型で下面を除く 3 面を使用する。34SX220 出土。9 は 1 側面を除く 5 面を使用する。34SK030 出土。

石帯丸鞆（10） 明緑白色で裏面にかがり穴が一対ある。玉の一種ともみられ良質の部類に属する。34SK066 下層出土。

滑石加工品（14 ～ 19） 14 は権状製品である。穿孔した鈕が付く。34SX166 出土。15 は紡錘車で中央の軸穴には鉄錆が付く。34SK030 出土。16 は鉄釘が差し込まれている。34SK215 出土。17・18 は小型の容器で 34SK070 出土。18 は側面の底部際に周縁帯を削り出している。19 は円盤状の体部に穿孔した円形の鈕が付く。表土より出土。

石鍋（20～22） 20は口径20cmで、内傾する体部から口縁部が外反気味に立ち上がる。通例とは異なり鍋か不明。34SX191出土。21は口径20.2cmで縦耳が付く。34SD078出土。22は口径29.2cmで縦耳が付くと思われる。34SX246出土。

第 34 次調査における滑石製石鍋は 11 世紀後半～ 12 世紀前半で、これ以前のものがない。滑石製加工品も同様で、これに滑石小片まで含めてもほぼ上記年代に多い。石鍋のうち縦耳を持つ古型式は 10 世紀に遡るとする意見もあるが、鍋や各種道具など日用的な滑石製品の普及は 11 世紀後半以降とみられる。一部の滑石製品は古く、15 は 9 世紀前半であるが形状は古墳時代の例と大差はない。16 は 9 世紀末～ 10 世紀中頃であるが用途は不明である。

蛤刃石斧（11） 34SD102 出土。

石包丁（12） 表土より出土。

石鏃（13） 先端部を欠損し、現存長 1.5cm、最大幅 1.2cm。黒曜石製。34SX254 出土。

### (5) 小結

**○遺構の考察**

**[1] 条坊制の検証**

奈良時代条坊制の解明は、今回報告する第 34 次調査に至るまで確実な手がかりが得られておらず、条坊線の中心路となる朱雀大路についても明らかではなかった。この調査はその後の条坊制解明への糸口となった点で意義深いが、当時には奈良時代の条坊否定説まで出ていた経緯があり、直ちに条坊肯定の根拠として支持されたわけではない。しかし、まもなく朱雀大路も手掛かりが得られて、太宰府市を超えた南の筑紫野市にまで達する事が確認されるに及び、次第に肯定説も浸透してゆく。次に課題となるのは奈良時代の条坊施工範囲を明らかにする事であり、以後の調査例により追究も深まる現状となっている。これらの内容は、各次報告を参照願いたい（註 11）。

**[2] 右郭一坊路 SF280 について**

奈良時代後半の坊路と側溝が第 34 次調査ほど明瞭な形で検出された事はなく、条坊線の規格を知る手掛かりがここで得られる。なお調査区内では東西方向の条路や側溝はなく、12 条と 13 条の間の内に位置するためと見られる。

**(A) 両面側溝 SD080・090 の時期**

側溝は8世紀後半に埋没している。遺物には8世紀前半も含まれるが、古期溝堆積の遺物に8世紀後半を含むため、8世紀前半開始という点になると可能性に止まる。前記のように下限についてⅥA期・9世紀第1四半期までを考慮しておくが、Ⅴ期として矛盾はない。また、土坑SK100との切り合い関係からⅦ期(9世紀第3四半期)には降らない。この点では溝は8世紀後半開削から比較的短期間で埋没した事になる。

**(B) 溝の機能について**

第 34 次の 8 世紀溝は幅 1m 程度と狭く上面削平を考慮してもたいして深さはない。また底面の勾配は落差がなくほぼ平坦である。地形的には南側の鷺田川へ向けて低くなる微地形であり、常時水が流れていたわけではないから僅かな勾配でも排水目的は十分に機能すると見られ、溝肩線は道路境の確保という規制的意味の方がむしろ強いと思われる。

**(C) 8 世紀後半・9 世紀初頭段階におけるの朱雀大路近接の条坊溝**

既往の調査により条坊の施工は政庁Ⅱ期の造営開始時期である 8 世紀初頭前後には遡る可能性は十分あるが、この期の例は少数のため、一定遺構数が必要となると条坊関連の溝は 8 世紀後半前後が今のところ押さえられる確実なものとなる。また、遺構が片側溝のみでなく両面側溝と路面が検出されていて、時期を 8 世紀まで、9 世紀初頭までといった区分明確さなどの厳格性を重視すれば、条件に一致する遺構はかなり少なくなる。

第 34 次坊路は朱雀大路から近い 1 本目の右郭一坊路であり、離れた条坊縁辺部に対して角度の振れや距離誤差も少ないから、条坊規格の検討には適している。

第 34 次坊路と中軸線を挟み、左郭 1 坊側で検出された遺構として条 168 次 SF200（西溝 SD255、東溝 SD280 を伴う）が参考となる。これは① 8 世紀後半・9 世紀第 1 四半期下限で同一時期に属し、②両面側溝と路面が検出され、③朱雀大路に近接した左右一坊内で、第 34 次と南北間距離が近く、朱雀大路軸振れ角度に応じた東西距離間の誤差が少ないという 3 つの条件に適する。

**(D) 左・右郭の各一坊線、規格性（表 3）**

朱雀大路関連と左右の各一坊については既往の調査例を表3に示す。この中にはⅥB、Ⅶ期さらにⅧ期(9世紀第2・3・4四半期)、また平安前期と報告される例もいくつかある。8世紀後半から9世紀初頭

に限ると該当例は減少するが、報告掲載の遺物などから検討すると、ⅥB・Ⅶ・Ⅷ期土器は上層で少数出土し、破片で完形資料がないなどの場合があるようで、これら新期遺物が排除されるならば混入や埋没状態の溝上部に入り込んだ可能性がある。また9世紀前半・後半の溝に近接して8世紀の古期溝が一部でも遺存した例では、9世紀初頭までには溝や路面が形成された可能性も考慮してよい。

第 34 次調査以降は調査も増加し、朱雀大路と左・右郭の各一坊線については政庁、政庁南前面官衙域も含め、座標値による計算処理も多く行われている（註 12）。これら現状の検討によると、政庁中軸線と朱雀大路中軸線の方位差があり、相互の延長線は通らない。朱雀大路の起点は政庁官衙域よりもさらに南、推定朱雀門起点とする条坊復原案が有力視されているところである。また条坊域では従来から中軸と左郭・右郭一坊に対して各東西幅が異なる点が指摘されており、最新の結果では各東西幅について左郭一坊側 80m、右郭側 100m とした左右非対称の区割り案が従来の数値的歪さを解消する手掛かりとなっている。この朱雀大路中軸起点は、従来の推定位置とは別に西へ約 6m ほど移動しているとしている。

朱雀大路起点、大路幅中点などは現状で直接的には遺構で把握できず、計算値によるため仮想点を設定せざるを得ないが、これは今後の良好な遺構検出によって補正の必要も出て来る。

今回第 34 次検出坊路を加え、上の問題について整理する。関連遺構に限り座標計算処理を一応行ってみたが、数値処理など煩雑となる部分は省き、数値は大まかに m 単位で示した。

(1) 朱雀大路では東溝、西溝の検出位置に片寄りがあり、北部は東溝が主、南部（筑紫野市側）では西溝が主で一部東溝が検出されている。各次の調査地点はそれぞれ南北に離れており、対面する溝はないため大路は計算上の仮想中点となり、北部では第 64 次調査による算出点①、南部では第 219 次と第 200 次からの算出による報告の E 点②が出されている。この①② 2 点間の南北距離は約 573m である。①②を通る北側に仮の推定朱雀門中点（起点）を出すと南門から 248m ③の位置、国土第Ⅱ座標系では（X.56.460.8 ,Y-44.824.8）付近で計算上の点を得る。朱雀大路中軸振れは真北 GN を基準として大体① N-0°24'-E 位となり、政庁中軸の角度② N-0°34'24"-E よりも西偏する。また政庁南門中点から①は 795m、②は 1,368m 南となる。点 E は推定起点からは南へ 1,120m で距離があり朱雀大路中軸方位の割り出しには誤差も少ないと見られる。なおこの仮想中点は朱雀大路幅 38m とされる当初のものであり、その後減じたとされる路幅のものではない。

(2) 左郭一坊線では 4 地点があり、このうち確実な路面中点の算出は第 199 次 SF140、第 168 次 SF200 である。推定朱雀門からそれぞれ南へ 381m、618m である。

(3) 右郭一坊線は 3 地点あるが、確実な路面中点となると今回の第 34 次に限られ、他に第 69 次、第 178 次が一応参考例となる。第 69 次・34 次・178 次は推定朱雀門からの南北距離はそれぞれ南へ 198m・548m・1,023m である。

側溝中点や方位算出は路の割り出しに必要だが、実際の遺構では側溝軸方位のブレや、直線でなく蛇行が認められる。道路中心線が本来の割付基準となる事から見ると、基線から離れた側溝工事は手作業による歪みが出やすいので同一側溝の場合は南北に離れた 2 点位置を計算対象とするのが望ましい。

これまでの計算値による条坊復元では計算精度が高まる反面、上のような誤差を許容する考え方から離れる面も出て来るが、この点は当時の測量精度と誤差範囲の検討も必要な部分である。今回はこの点から、(1) であげた起点を朱雀門仮中点とし、① N-0°24'-E を中軸と仮定した場合に、(1) の側溝中点や (2) (3) の坊路各中点の東西距離位置を見た。各次調査の坊路・側溝は起点から距離が遠くなる南端位置を採用している。また起点を正殿中点、南門中点とする場合や、軸角度を変えた比較計算においても、遺構位置に同様な傾向は示される。

表.1　条坊側溝SD080・090溝底の勾配率

| 遺構番号 | 東西位置 | 各点番号 | 標高m | 各点間距離m | 勾配率 |
|---|---|---|---|---|---|
| SD080 | 北端 | 1 | 30.28 | 0 | |
| | Lライン | 2 | 30.40 | 2.7 | |
| | Kライン | 3 | 30.41 | 3 | |
| | Jライン | 4 | 30.31 | 3 | |
| | Iライン | 5 | 30.33 | 3 | |
| | Hライン | 6 | 30.35 | 3 | |
| | Gライン | 7 | 30.32 | 3 | |
| | Fライン | 8 | 30.29 | 3 | |
| | | 9 | 30.30 | | |
| | | 10 | 30.10 | | |
| | Eライン | 11 | 30.18 | 3 | |
| | Dライン | 12 | 30.12 | 3 | |
| | Cライン | 13 | 30.22 | 3 | |
| | Bライン | 14 | 30.17 | 3 | |
| | 南端 | 15 | 30.16 | | |
| | 南土層 | 16 | 30.20 | 2.8 | |
| | 南北距離計 | | | 35.5 | -0.003 |

| 遺構番号 | 東西位置 | 各点番号 | 標高m | 各点間距離m | 勾配率 |
|---|---|---|---|---|---|
| SD090 | 北端Iライン | 1 | 30.33 | 0 | |
| | Hライン | 2 | 30.39 | 3 | |
| | | 3 | 30.39 | 2.8 | |
| | Fライン南 | 4 | 30.08 | 4.2 | |
| | Eライン | 5 | 30.06 | 2 | |
| | Dライン | 6 | 30.03 | 3 | |
| | Cライン | 7 | 30.08 | 3 | |
| | Bライン | 8 | 30.09 | 3 | |
| | | 9 | 30.08 | 1.4 | |
| | 南土層 | 10 | 30.10 | 0.4 | |
| | 南北距離計 | | | 22.8 | -0.01 |

表.2　第34次調査側溝SD080･090、坊路SF280座標値（国土座標Ⅱ）

| 点No | 遺構各点 S | 古A→新B | 溝位置 肩 | 東西 | 南北 | X座標 | Y座標 | 点No | 溝中点 | Y座標 | 2点間平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | SD | 080A古 | 外肩 | 東 | 最北 | 55,934.70 | -44,925.70 | | | | |
| 2 | SD | 080B新 | 外肩 | 東 | 最北 | 55,934.70 | -44,926.00 | | | | |
| 3 | SD | 080B新 | 内肩 | 西 | 最北 | 55,934.00 | -44,926.80 | 25 | 080AB古新 | -44,926.25 | 1+3平均 |
| 4 | SD | 080A古 | 外肩 | 東 | 北 | 55,930.00 | -44,925.90 | | | | |
| 5 | SD | 080B新 | 外肩 | 東 | 北 | | -44,926.20 | | 080B新 | -44,926.55 | 5+6平均 |
| 6 | SD | 080B新 | 内肩 | 西 | 北 | | -44,926.90 | 26 | 080AB古新 | -44,926.40 | 4+6平均 |
| 7 | SD | 080A古 | 外肩 | 東 | 中 | 55,921.00 | -44,926.30 | | | | |
| 8 | SD | 080B新 | 外肩 | 東 | 中 | | -44,926.30 | | 080B新 | -44,926.80 | |
| 9 | SD | 080B新 | 内肩 | 西 | 中 | | -44,927.30 | 27 | 080AB古新 | -44,926.80 | 7+9平均 |
| 13 | SD | 080A古 | 外肩 | 東 | 南 | 55,907.00 | -44,926.25 | | | | |
| 14 | SD | 080B新 | 外肩 | 東 | 南 | | -44,926.40 | | 080B新 | -44,926.75 | |
| 15 | SD | 080B新 | 内肩 | 西 | 南 | | -44,927.10 | 29 | 080AB古新 | -44,926.625 | 13+15平均 |
| 19 | SD | 080A古 | 外肩 | 東 | 最南 | 55,905.00 | -44,926.25 | | | | |
| 20 | SD | 080B新 | 外肩 | 東 | 最南 | | -44,926.35 | | 080B新 | -44,926.625 | |
| 21 | SD | 080B新 | 内肩 | 西 | 最南 | | -44,926.90 | 31 | 080AB古新 | -44,926.575 | 19+21平均 |
| 10 | SD | 090B新 | 内肩 | 東 | 中 | 55,921.00 | -44,931.05 | | 090B新 | -44,931.125 | |
| 11 | SD | 090B新 | 外肩 | 西 | 中 | | -44,931.20 | | | | |
| 12 | SD | 090A古 | 外肩 | 西 | 中 | | -44,931.40 | 28 | 090AB古新 | -44,931.225 | 10+12平均 |
| 16 | SD | 090B新 | 内肩 | 東 | 南 | 55,907.00 | -44,931.25 | | 090B新 | -44,931.55 | |
| 17 | SD | 090B新 | 外肩 | 西 | 南 | | -44,931.85 | | | | |
| 18 | SD | 090A古 | 外肩 | 西 | 南 | | -44,932.10 | 30 | 090AB古新 | -44,931.675 | 16+18平均 |
| 22 | SD | 090B新 | 内肩 | 東 | 最南 | 55,901.20 | -44,931.25 | | 090B新 | -44,931.55 | |
| 23 | SD | 090B新 | 外肩 | 西 | 最南 | | -44,931.85 | | | | |
| 24 | SD | 090A古 | 外肩 | 西 | 最南 | | -44,932.20 | 32 | 090AB古新 | -44,931.725 | 22+24平均 |

| SF | 280路中点 | | | 南北位置 | X座標 | Y座標 | 2点間平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SF | 080-090 | 外肩 | | 中 | 55,921.00 | -44,928.85 | 7+12平均 |
| SF | 080-090 | 内肩 | | 中 | | -44,929.175 | 9+10平均 |
| SF | 080-090 | 外肩 | | 南 | 55,907.00 | -44,929.175 | 13+18平均 |
| SF | 080-090 | 内肩 | | 南 | | -44,929.175 | 15+16平均 |

### (E) 朱雀大路中軸 N-0°24'-E 軸の場合の各点東西距離

仮朱雀大路中点（中軸）を 0 とし各遺構位置は東側距離 [+] 値、西側距離は [−] 値で示す。

(1) の朱雀大路中点とした仮朱雀門、北部第 64 次算出中点、南部の第 219 次・200 次算出 E 点は東西値 [+ -0m] である（表 3 の 11 列、以下の数値も同列）。

東側溝では第 64 次 [+20m]、その他の点は北部 [+19 ～ 20m]、南部第 219 次は [-18m] である。この中軸振れにおいての東・西溝は大体等間を示す。

(2) 左郭一坊路中点では第 168 次 SF200 は [+84m]、これより北側の第 199 次 SF140 は [+91m] で間隔が開く。

(3) 右郭一坊路中点では第 34 次は [-100m] である。

表.3　第34次調査側溝SD080･090、坊路SF280座標値（国土座標II（X,Y）北へ+X,西へ-Y）

| | (1) 条坊次数等北から順 | (2) S | (3) S遺構番号 | (4) 時期(古 | (5) 時期新(下限) | (6) 遺構別 | (7) 検出部分計測位置 | (8) 任意中点X座標北から順 | (9) 任意中点Y座標 | (10) ↓0°24'正殿･朱雀仮中軸 南北距離m [-]は南 | (11) 東西距離m [-]は西 | 条坊書名[集] ◇は筑紫野市 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◆ | 正殿中点 | | | | | | | 56,856,65 | -44.819.256 | 396 | 3 | |
| ◆ | 南門中点 | | | | | | | 56,708.68 | -44,820.73 | 248 | 2 | |
| ③ ◆ | 朱雀門中点仮 | | | | | | | 56,460.80 | -44,824.838 | 0 | 0 | |
| | 朱雀門礎出土地点 | | | | | | | 56,460.80 | -44,827.81 | -248 | -5 | |
| | | | 朱雀大路 | | | | | | | | | |
| | 181 | SD | 310 | 8c | | 東溝 | 南端中心 | 55,106.90 | -44,808.21 | -354 | 19 | |
| | 181 | SD | 315 | 8c | | 東溝 | 南端中心 | 55,106.90 | -44,806.42 | -354 | 21 | |
| | 142 | SD | 001 | 8c | 9c[V,VIA | 東溝 | 検出中央中心 | 55,22.93 | -44,807.31 | -438 | 21 | 10[37 |
| | 64 | SD | 140 | 8c後半 | | 東溝 | 南端中心 | 55,913.80 | -44,809.05 | -547 | 20 | 22[69 |
| ① ◆ | 64 | SF | | | | 仮中点 | | 55,913.80 | -44,828.608 | -547 | 0 | 22[69 |
| | 133 | SD | 010 | | | 西溝 | 南端中心 | 55,784.10 | -44,847.62 | -677 | -18 | 8[29 |
| | 129 | SD | 001 | | | 西溝 | 南端中心 | 55,469.30 | -44,847.20 | -992 | -15 | [◇75 |
| ◆ | B中点 | SF | | | | 仮中点 | 第129･219次間 | 55,423.27 | -44,830.88 | -1038 | 1 | [◇75 |
| | 219 | SD | 004 | | | 東溝 | 南端中心 | 55,357.61 | -44,814.92 | -1103 | 18 | [◇75 |
| ② ◆ | E中点 | SF | | | | 仮中点 | 第219･200次間 | 55,340.665 | -44,832.56 | -1120 | 0 | [◇75 |
| | 200 | SD | 001 | IV-VI | VIII[上層 | 西溝 | 南端中心 | 55,270.00 | -44,850.70 | -1191 | -18 | [◇75 |
| | 107 | SD | 南北溝 | | | 西溝 | 南端中心 | 55,224.50 | -44,851.80 | -1236 | -18 | [◇75 |
| | 150 | SD | 010 | | | 西溝 | 南端中心 | 55,199.72 | -44,851.31 | -1261 | -18 | [◇75 |
| | | | 左郭一坊 | | | | | | | | | |
| | 199 | SD | 070 | 8c前-後 | VIB,VII | 西? | | | | | | 20[60 |
| ◆ | 199 | SF | 140 | | | 路中点 | 北 | 56,78.744 | -44,736.111 | -381 | 91 | 20[60 |
| ◆ | 168 | SF | 200 | V | | 路中点 | 北側中点 | 55,841.94 | -44,745.418 | -618 | 84 | 22[69 |
| | | | 右郭一坊 | | | | | | | | | |
| | 69 | SD | | 9c? | | | | 56,264.00 | -44,929.00 | -198 | -103 | 太宰府市史 |
| ◆ | 34 | SF | 280 | V | VIA | 路中点 | 中･南平均 | 55,914.00 | -44,929.094 | -548 | -100 | 本書 |
| ◆ | 178 | SF | 115,105 | 平安前期 | | 路交差中点 | 図上 | 55,439.00 | -44,934.00 | -1023 | -102 | 45[123 |

◆計算上の基壇および路面中点

これらの位置の多くは朱雀大路中軸 N-0°24'-E 軸に規定された方眼上（方格地割線上）に適合するが、注意されるのは左右一坊の東西幅が均等でなく、右郭 100m、左郭 84m 前後となる点である。右郭･左郭を等間とする場合、左右 92m であるがこの場合朱雀大路中軸は N°-1'-E 近く東偏する事になり北部の東側溝は [+6m]、南部の西側溝は [-13m] ほどとなり、位置・路幅ともに合わない。なお朱雀大路中軸は確定値ではないから前後の角度値では 0°14'-E ～ 0°34'-E 位の [+ -10'] 範囲にあると見ておき、政庁中軸はこの大きい数値に近くなる。一坊路左右の東西幅については均等ではなく、また起点（推定朱雀門中点）は西へ 6m ほどずれているとする指摘については、その事を補足する結果となる。

8 世紀後半の左右一坊路は政庁 II 期整備からやや下がる時期であり、この段階には朱雀大路中軸線は西へ移動している事となるが、初期計画に対して朱雀大路近郊の整備完了の遅れにより、道路占有面積を減じた施工へと変更した点も考えられる。条坊遺構の時期決定には考古学的時期区分による説明手段として土器編年を使用するが、大宰府の古代土器について見れば、この 1 区分の最少幅は 25 ～ 30 年が限界で、連続した時期区分の境界 1 点が定まるとは限らない。大宰府建設が短期で終了せず、また条坊施工完了までに切れ目のない工事が続いたならば、近い時期の新旧土器の混在はふつうの事でもあるから、調査時のより細かい精度も要求される事となる。初期の条坊施工計画の一定完了は左右の一坊路の時期や朱雀大路南部の時期から、8 世紀後半・9 世紀初頭、下っても 9 世紀前半に想定されるが、以後にも官主導となる大きな計画があったかは不明で、この点についても今後の解明を必要とする。

**[3] 都市の展開と条坊路面の踏襲**

条坊制にかかる公的土地規制は、その後の都市的な発展の際にも継承された一面を残し、今回最も密度の高い 11 世紀後半～ 12 世紀の平安時代後半の遺構は一つの例である。この時代の遺構は官衙やそ

の付属施設、または官人居宅といった様相にはなく、町場的なあり方にも近い。ここで注目されるのは古期坊路の近接位置で溝や廃棄施設などが設けられており、この部分が依然として居住空間とはなっていない事である。短期ながら側溝は繰り返し掘られており、路上表面は残存しないが道路使用頻度が高いために補修工事を頻繁に必要とした可能性もある。古期条坊路が 200 年を経ても道路、空地などの境界部分として認識されていた事は了解できる。8 世紀の条坊路は良好な状態で検出される例が少ないが、11 世紀後半～ 12 世紀の溝や路面は比較的明瞭で検出例も多い。とくに第 34 次ではこの２つ時期の溝が明確であり、近年の事例増加に先立つ確実な条坊境界の継続を示唆する成果となっている。また間の 9 世紀後半～ 10 世紀末頃は明らかな路面等を残さないが、平安後半の実態からみると 9 ～ 10 世紀についても敷地境をなしていた可能性は高い。遺構の残存は比較的良好で、この理由のひとつにはこの地域は河川などの氾濫、災害の影響も少ない安定的な居住地であったという土地条件がある。他の観世音寺南側の一帯、例えば条坊第 71 次調査では 10 世紀末頃の御笠川の河川氾濫によって旧地形の消失個所もあり、ここでは失われた地形の上に 11 世紀後半～ 12 世紀の集落が新たに形成され、11 世紀後半～ 12 世紀の都市形成力の活性化が認められている。この点は第 34 次の新期遺構にも共通する。

**[4]　9 世紀前半の祭祀関連土坑 SK010 について**

後述の墨書土器がまとまって出土し、祭祀関連の特異な遺構である。SK010 は南北に細長く浅い土坑である。遺構面より上の層には古期の生活面はなく、重機によって直接遺構面までを出している。遺構面の手作業による清掃時に SK010 内の浅い上部にあった土師器、緑釉陶器は次々に取上げられたため、残念ながらこれらの出土状態については詳細が不明である。土師器が２枚ほど上向きに重なった状態の最終時の記憶が片隅に残るのみとなっている。出土土器の大半は本来完器に近いものと見られるが、遺構面の覆土除去の際に破損したものも多く破損面は新しい。土師器の他、緑釉陶器の完形皿 2 点（山城産洛北型）、破片に椀 2 点（山城産洛北型 1、防長産 1）がある。破片の 2 点は SK010 の前と見られる SX010A ピットからの混入品と見られる。緑釉の完形皿 2 点には墨書はないが、内外、とくに外面には直径 2mm 位の多数の小孔がある。これは自然風化たとえば器体にしみ込んだ水の氷化による破裂が原因とする意見があり、軟質陶器のため埋納前にも相当使用し傷んでいた可能性がある。その他、人為的な孔や、容器に付いた魚肉汁などの蟻被害なども想定したがこの点は確かめようがない。上記は古代祭祀行為の復元に有用であるが、各器物の出土状態が不明な点で無念の感を持つ。

**○遺物の考察**

**[1]　出土遺物の国際色と畿内との交流**

今回の出土遺物は 8 世紀から 12 世紀前半までを主としており、この間の大宰府と畿内を対比できる資料も豊富で、遺構の性格を推察する上でも興味深いものを出している。一例としてあげれば平安京近郊や東海で生産された国産施釉陶器も出土は多く、中央の平安京との年代整合性や高級食器の需要形態に対して、地方に限らず汎日本的な実態解明に有用となる。貴重な貿易品である中国産陶磁器は大宰府ではとくに珍しいものではないが、中国唐・五代、北宋前半、北宋後半にかけて一定量が出土し、出土陶磁の大半は 12 世紀前半までのもので時代間の断絶が今回の遺跡には見られない。さらに西アジア産の初期イスラム青緑釉陶器は国内における初の出土確認例であり、9 ～ 10 世紀に日本が中国、西アジアの国際交易網の一端にあったという点も重要な点である。以下、これらの注目される遺物について項目別に補足する。

**[2]　初期イスラム陶器について**

〈A〉初期イスラム陶器の出土例

① 第 34 次調査出土の初期イスラム陶器

日本における初期イスラム陶器発見の契機となったのは、1982 年、この第 34 次調査において出土した小さな 3 片の陶器片である。その独特な青く厚い釉と、平安期の遺構から出土した古い時代のものであるという点から、中国陶磁とは異なるものと考えたが、それ以上の判断はつかなかった。1985 年に数名の陶磁器専門家に見せた際、イスラム陶器の可能性があるという意見が出たが断定するには到らず、1986 年 5 月 18 日に到って初めて、三上次男氏によって初期イスラム陶器と認定されることとなった。この例を発端として、量としては少ないものの、北部九州の数遺跡で追加例が発見されている。これに加え、筆者らが行った東南アジアの調査においても出土例が確認され、例外的とみなされがちだったイスラム陶器について、東西アジアの交流を追求する上での基準資料として再評価を行う例となった。

イスラム陶器は 3 点出土し、それぞれ別遺構からの出土である。34SK100 が古く、SK205、SD084 は SK100 よりも年代が新しい。

a、34SK100 土坑出土（Fig.26-10、Pla.10）Ⅶ期、9 世紀後半（第 3 四半期）。

b、34SK205 土坑出土（Fig.32-33、Pla.10）11 世紀後半～ 12 世紀前半。

c、34SD084 溝出土（Fig.11-34、Pla.10）11 世紀後半～ 12 世紀前半。

3 点のイスラム陶器は 2cm 角前後の小破片で、a、b は外面に平行調整痕があり胴部上位から中位、c は一端が厚くなり胴部下位の部分と見られる。内面の釉について a は剥落し、b、c は濁化した水色の発色で部分的に暗銅色を呈する。これらは小片のため全体の形状については別に参考例をあげた (Fig.49・50)。器肉の厚さからみて青緑釉壺の大・中形品と見られる。34SK100 出土品はイスラム陶器の出土年代の上限を確定できる有力資料で、この当時は出土例として最も古い例であったが、近年、奈良西大寺の調査でさらに古く 8 世紀後半に遡る例が確認された（註 13）。

大宰府内で第 34 次調査以後のイスラム陶器確認例は下記の地点がある。各資料の写真、図の詳細は以前まとめた論考を参照願いたい（註 14）。

② 大宰府条坊跡第 19 次調査（左郭五条五坊推定地）

2 点出土。この資料は第 34 次調査よりも 1 年ほど前に発掘したもので、産地不明の輸入緑釉陶器と報告していた。三上氏によって断定された第 34 次調査イスラム陶器を契機にして、1986 年 11 月 27 日、再び三上氏に第 19 次調査の 2 点について鑑定をお願いしたところ、90% の確率で 10 世紀のイスラム陶器であるとの意見を得た。これは通有の特徴と異なり、釉は茶色味を帯びており、緑釉の劣化したものに近く釉色は大きく異る。灰色土層、SK045 から各 1 点出土した。12 世紀前半～中頃の出土である。

③ 大宰府条坊跡第 81 次調査（右郭十二条二坊推定地）

5 点出土。第 81 次調査は第 34 次調査の西側隣地である。SX200、SX230、SX103、SE240、茶褐色土から各 1 点ずつ出土した。出土遺構はⅫ期 (11 世紀後半～ 12 世紀前半 ) である。第 34 次、81 次調査合わせて 8 点のイスラム陶器があり、50m の範囲内に集中した出土状況を示す事も特筆される。

④ 大宰府条坊跡第 149 次調査（左郭五条五坊推定地）

包含層出土。この資料は第 19 次調査出土の 1 点と特徴が近く、同一個体の可能性が大きい。調査地も第 19 次調査の南に隣接している。

⑤ 大宰府条坊跡第 194 次調査（右郭十八条五坊推定地）

1 点出土。SD001 溝上面 (暗茶色粘土層) 出土。11 世紀後半～ 12 世紀前半 (12 世紀中頃～後半か)。

⑥ 大宰府条坊跡第 225 次調査（左郭九条八坊推定地）

SE023灰色砂出土。壺肩部とされる比較的大きな破片。報告された図を見る限りでは伴出遺物はⅩⅣ-ⅩⅤ期(12世紀中頃～後半)、陶磁はD期。報告は11世紀後半～12世紀前半、C期とするがこれは正しく

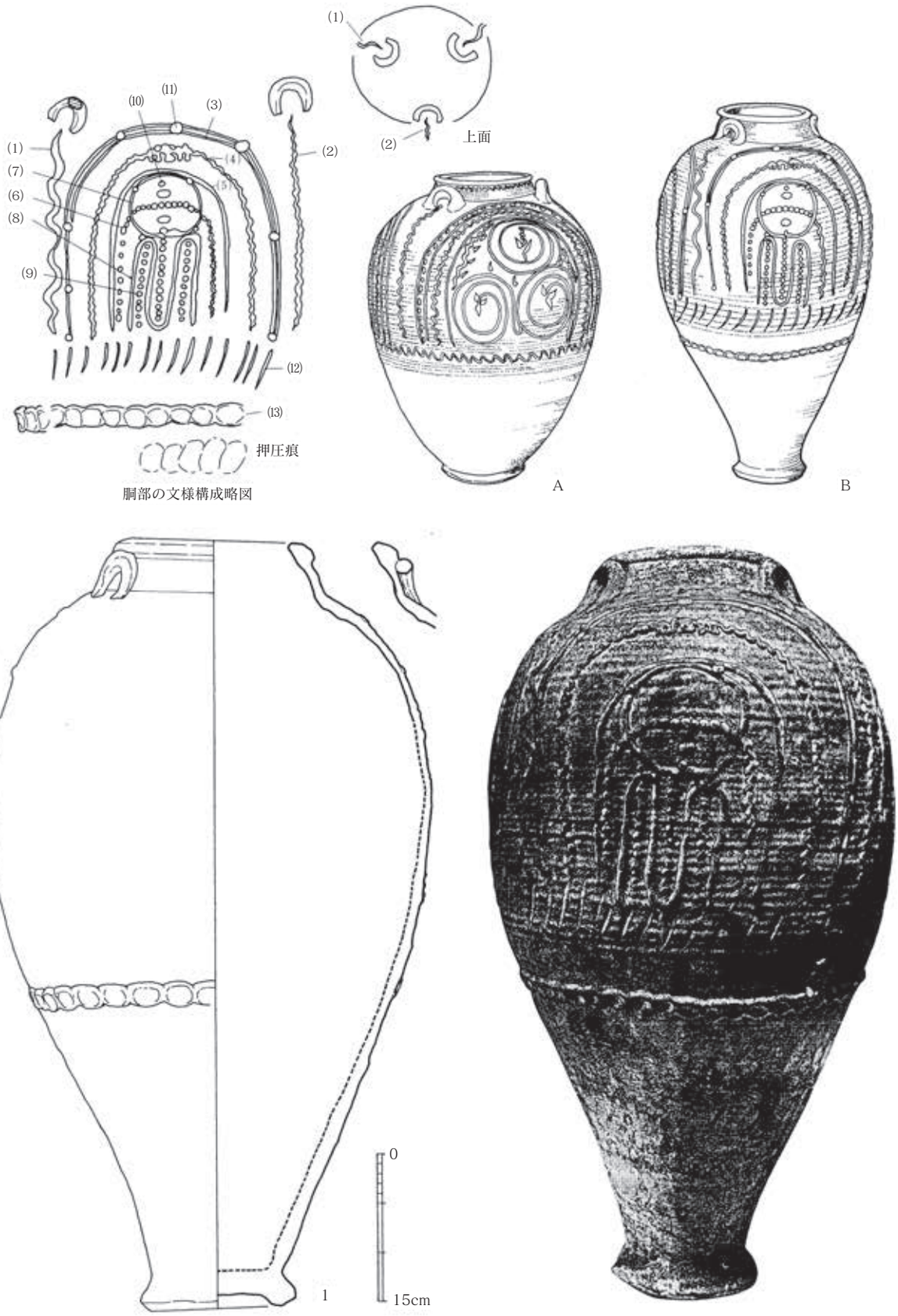



Fig.49　初期イスラム陶器(写真『ペルシャ陶器七千年の歩み』1978より)

ない。また埋没は13世紀後半だが、報告ではXVII-XIX期(13世紀前後～14世紀初頭)、F期となりこれも訂正を要する。イスラム陶器はSE023に切られたSE031からの混入とも見られる。SE031はX期(10世紀後半～11世紀前半)とされるが、これもIX期(10世紀中頃)に上限が可能である（註15）。

大宰府における出土状況をまとめると、出土地は以下の３個所に大別される。

1、観世音寺に近接した南前面部（第 19、149、225 次調査)。

2、朱雀大路から西側の推定右郭一、二坊で、菅原道真の配流された謫所と伝承される榎社の南方 100m の位置（第 34、81 次調査)。

3、政庁から南南西へ 1.2km 離れた大宰府の西市推定地周辺（第 194 次調査)。

上記の他、観世音寺内の調査出土品ではイスラムの可能性として報告される１点がある（註 16)。これは上記の青緑釉壺の例とは全く異なるもので、濃い橙色の軟質胎土に白化粧し、貼付文に緑釉を掛けた陶器片でイスラムの可能性の他、中国華南産の可能性も強いためここでは除外する。

これらは古代有力寺院の近く、上級官人の居住地、市場の近くという性格づけができ、都市の中では貴重な貿易品が出土しても納得できるような位置にある。出土遺構を見る限りこれ以上の肉付けは難しいが、第 34 次調査の井戸 34SK100 の例は金銅製品を共伴している点で注目できる内容である。

次に大宰府以外の例を上げておく。

⑦ 鴻臚館跡（福岡県福岡市） 1994 年までの出土総数は 43 点でイスラム陶器出土量は国内で最も多い。またペルシャガラス器が出土し、イスラム陶器とともに搬入された可能性が高い。

⑧ 多々良込田遺跡（福岡県福岡市） 第６次試掘調査で１点が出土（山崎 1985)。報告書刊行後にイスラム陶器と確認できたもので、以後写真にて紹介された。また鴻臚館跡に類似したガラス器が出土している。

⑨ 博多遺跡群（福岡県福岡市）では 1）築港線１次調査、2）築港線２次調査、3）築港線３次調査、4）築港線５次調査、5）箱崎遺跡などの例がある。

⑩ 筑後国府跡（福岡県久留米市）４箇所（第 69、86、122、140 次）の調査で出土しており、さらに近年１箇所（第 274 次）が追加される（註 17)。

⑪ 原の辻遺跡（長崎県壱岐郡石田町）

さらに近年の追加出土例として下記のほか京都近郊で１点の例がある。

⑫ 長崎県大村市竹松遺跡 SD03（2016 年発掘調査中）（註 18）

⑬ 奈良県奈良市旧西大寺境内 SD01（Fig.50）土器・須恵器型式の検討や木簡、墨書土器など共伴資料は良好で下限は８世紀後半とされ、イスラム陶器の確実な年代として一気に年代を遡らせる例となる。34 片１個体分出土。口縁部を除く全体の形状がわかる（註 19)。

⑭ 京都府久御山町佐山遺跡。これは筆者未確認で、佐々木達夫氏によればイスラム陶器としている。出土内容他詳細については不明である。

〈B〉イスラム陶器の使用階層

これまでの例で見ると、まず分布について、北からほぼ直線的に壱岐、鴻臚館、大宰府、筑後国府という範囲に限定されている点で、大宰府を中心に最も近接位置にある国府と官衙周辺に搾られるといえる。近年は長崎、奈良にも分布が確実となったが出土分布からみ

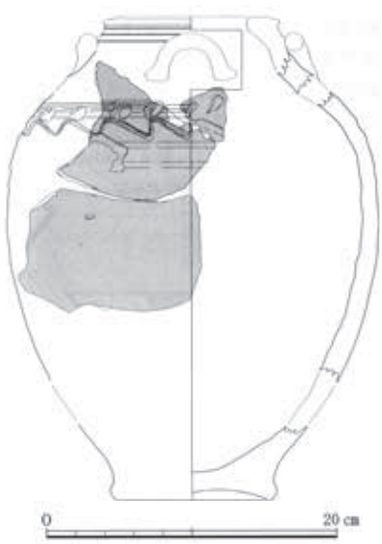



Fig.50 旧西大寺境内出土
イスラム陶器
（奈良市教委・註 13 より）

れば、現状でもやはり出土例や点数は大宰府を中心とする点は違いない。西大寺例は別として、大宰府の実質的な運営者とこれに関係の深い近隣の国司クラスの人物が需要層の中心として浮上してくる。消費された場の問題として国司クラスの館（筑後国府）、府の外交施設（鴻臚館）、寺院外周辺地（観世音寺周辺）などであり、「蕃客・帰化・饗宴」という接待に関する公務を担う鴻臚館は他の事例とは別な意味づけも必要で、他は有力者の私邸、居宅と見られる傾向がある。道真公の謫所が「府の南館」であった事は知られるが、第 34 次調査地はその推定地近くであり、館＝私邸での使用がうかがわれる。さらにここでイスラム陶器と伴出した金銅製品が眉刷毛と見ており、これは日常生活場所を指しているとも言える。観世音寺周辺のイスラム陶器については、寺域外であり無理に寺院に結びつける必要はなく、こうした条坊内の一等地に有力者の私邸があったと考える事もまた可能である。

〈C〉初期イスラム陶器の年代について

当時は国内では第 34 次調査例が 9 世紀第 3 四半期となる最も古い例であったが、西大寺の例によって、一気に 100 年程遡ることになった。これは共伴遺物に基づく年代根拠も確実な資料で、国際的にも指標としてよく、同時に日本考古学が高い水準にある証明となる。海外の報告では、共伴するのは唐末・五代の中国初期貿易陶磁か、北宋陶磁器かと言った点で年代を判断する傾向があり、検討レベルがやや巨視的に傾く。初期イスラム陶器の年代初現の問題では西大寺例に一歩譲るとしても、第 34 次調査例は初期イスラム陶器が 9 世紀第 3 四半期にも貿易品として日本へ運ばれたという事実や、使用階層に言及できる点は大きな成果である点は変わりはない。

**[3]　国産緑釉・灰釉施釉陶器の出土傾向**

第 34 次調査では古代の国産施釉陶器が多く、その産地は東海、山城（京都近郊）、防長、近江など広域・多産地傾向を示す点で注目される。こうしたあり方は一般集落とは異なる階層の存在を肯定するものである。

九州では周知のとおり大量に緑釉・灰釉陶器が出土する事は少なく、古代全般にわたって貿易陶磁が優位を占めている。しかし、貿易陶磁器編年の優位性をことさら強調するつもりはなく、むしろ生産内容の究明も進んでいる国産施釉陶器の方が年代追求に適していると了解している。

国産施釉陶器は広域流通品として遠隔地まで運ばれ、生産地年代と消費地年代、あるいは各地域間の消費年代の同時性について追跡が可能である。この点では中国陶磁よりも全国的基準となりえる資料であり、精度の高い年代位置づけが要求される。

消費地年代については、各地の在地土器編年研究に基づく成果が着々と進んでいて、とくに施釉陶器の大量消費地である平安京を中心にした畿内編年は一つの基準となっている。しかし各地域では、在地土器編年の精度が上がると同時に、畿内との年代の整合性について一部に食い違いも生じている。

大宰府では緑釉・灰釉陶器の産地、型式、年代比定という基礎的な研究については、過去あまり重要視される事はなかったが、第 34 次調査では基礎資料も得られている。平安京などとの比較のためにはまず施釉陶器の分類を統一的に扱う必要があり、畿内、東海の研究者から協力を得て、型式同定を確かなものとした。しかし一部については研究者の意見の相違も出ており、専門的分類における難点についても知るところとなった。

(1) 大宰府土器編年型式の一部細分化と整理

国産施釉陶器は土器に比べて絶対量が限られるため、年代推定には大宰府土器編年型式との共伴関係を基軸とする。筆者は1992年に、従来のⅥ型式（9世紀前半）をⅥAとⅥBに細分する（註20）。この結果、下記の大宰府における9世紀編年は⇒印右側の年代に改めている。注意点としてⅦ型式を9世紀第3四半期に下げている。現在のところⅥB資料は大宰府に限らず、筑後、肥前、肥後、豊前、豊後、

日向にも確認できるが大宰府で良好な標識遺構とランク付けできるものが少ない。

ⅥA型式（SE400標式・9世紀初頭・前半⇒9世紀第1四半期）

ⅥB（9世紀第2四半期）

Ⅶ型式（SK1800 標式・9 世紀中頃前後⇒ 9 世紀第 3 四半期）

Ⅷ型式（SK678 標式・9 世紀後半～ 10 世紀前半⇒ 9 世紀第 4 四半期～ 10 世紀前半）

この土器型式変更や大宰府・九州各地の施釉陶器出土傾向、貿易陶磁編年並行関係については（註21）に総括しており、参照願いたい。

(2) 施釉陶器について

大宰府条坊跡第 34 次調査の施釉陶器出土リストは（表 4）にあげておく。このうち大宰府土器型式と共伴状態が良好な施釉型式例をあげる。（<）は量的に優位な型式を示す。

１．条34SD230〈ⅥA〉原始灰釉硯。緑釉。

２．条34SK190〈ⅥA下限〉緑釉・防長産（古）型式。

３．条34SK010〈ⅥA〉緑釉・山城産（洛北型)、防長産。

４．条34SD210〈ⅥA＞ⅥB下限〉緑釉・山城産（洛西型)、緑釉素地・山城産（洛西型)、防長産。

５．条34SK030〈ⅥB＜Ⅶ〉緑釉・東海K90ないしK90古（三足盤）。東海K90ないし防長、近江型Ia古の別意見（輪花皿)。

６．条 34SK100 上層〈Ⅶ〉緑釉･緑彩皿（または浅形碗）防長産。在地土器から 9 世紀後半である。以前の報告ではⅦ～Ⅷ期までの幅としている（註 22)。

７．条 34SK215〈Ⅷ＞Ⅸ〉近江型（1 古タイプ)、小椀（篠窯または前山 2.3 号窯並行か）

８．条 34SK200〈10c 中頃～後半〉緑釉小椀、防長産（新)。

９．条 34SK095〈Ⅻ〉灰釉小椀。百代寺～ H105。

上記資料で平安京との比較を行うと、まず一致をみるのは３・の緑釉皿、山城産（洛北型）は平城宮SE311B、SD650A出土の類例があり、平城宮SE311Bは9世紀初頭・前半の平城の基準資料で矛盾はない。５・緑釉K90も一致する。他の大宰府遺構例でもK90古はⅥB期出土開始と見られる。

４・緑釉（円盤高台皿）１点は山城産（洛西型)、緑釉素地も洛西型とされ、大原野古窯 9 世紀中頃（洛西地域)、または妙満寺窯（洛北地域）9 世紀中後半とされる。年代は平安京とは一致せず大宰府の方が古い出土となる。

７・この遺構の緑釉小椀の出土時期は平安京に並行するが、条34SD210出土と同質ながら形態は一段古い型式と見ている例を上げておく。これは条坊第19次SD070溝、および条坊第149次SX085（溝SDSD090上層）出土品で硬質の洛西型・小碗である。上記の溝は隣接地で検出されており、同一遺構と見られⅥA期である。ただし第149次例は溝埋没上層のため下限はⅥB期とされる。洛西型・小碗の出現時期は大宰府の方が古く、この点は畿内と合わない。

６・関連として平安京における防長産緑釉の出土例をあげる。京都市、藤原良相邸（西三条第）検出の池 250 で防長産緑釉碗が出土している。釉色の違いを除けば 34SK100（Ⅶ期）と近い特徴を持つ。池 250 は平安京Ⅱ中（870 ～ 900 年頃）の土器が主体で一段古いⅡ古を若干含むとされる（註 23)。平尾政幸氏（京都市埋蔵文化財研究所）によれば 9 世紀後半の 860 年から 880 年間に大半は収まる資料であるとされる。稀少例ではあるが平安京における防長産緑釉陶器を通じて、平安京Ⅱ古と大宰府Ⅶ期の年代並行関係の参考となるため取り上げた。

これは大宰府Ⅶ期（9世紀第3四半期）との間に上限年代のズレが若干生じるが、年代幅の中では一部重なる部分もあるという事になる。近年の追加資料として、大宰府条坊第269次調査、SX100（広

# 表.4　第34次調査国産施釉陶器出土一覧表

| 土層遺構 | 時期 | 種別 | 器種他 | ↓接合資料 △数 | ↓接合資料 緑釉 | ↓接合資料 灰釉 | 緑釉計 | 灰釉 | 緑釉型式 | 灰釉型式 | 緑・灰釉合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SX　6 | | 灰釉陶器 | 破片(1) | | | | | 1 | | | 1 |
| SX　9 | | 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SK　10 | ⅥA　▼ | 緑釉陶器 | 椀[京1,土師質、直口縁(1)・外反口縁,防長古(1)]、皿[軟質]‹京1洛北 | | | | 2 | | 京1,防長 | | 2 |
| | | | 栗栖野、平城605A・311B;›[2]、破片[土師質,大半防長](5) | | | | 7 | | | | 7 |
| SX　10A | ⅥA | 緑釉陶器 | 椀[土師質・外反](1)、破片[土師質](1) | | | | 2 | | | | 2 |
| | | 灰釉陶器 | 椀?(1) | | | | | 1 | | K14? | 1 |
| SX　10B | | 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SX　14 | | 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SK　15 | Ⅶ | 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SX　22 | | 緑釉陶器 | 白釉?[防長古,土師質](1) | | | | 1 | | 防長古 | | 1 |
| SK　25 | Ⅺ | 緑釉陶器 | 破片[土師質](3) | | | | 3 | | | | 3 |
| SK　30 | ⅥB-Ⅶ　▼ | 緑釉陶器 | 三足盤 ‹前・K90›[1]、輪花皿‹・K90?[1] | | | | 2 | | K90古、K90? | | 2 |
| | | | 破片(7) | | | | 7 | | | | 7 |
| SX　31 | | 灰釉陶器 | 壺?(1) | | | | | 1 | | | 1 |
| SX　33 | | 緑釉陶器 | 椀[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SX　34 | | 灰釉陶器 | 椀?[S-95椀と接合]、山茶椀‹11c後›(1△1) | | | 1 | | 0 | | 山茶椀 | 0 |
| SX　35 | Ⅻ | 緑釉陶器 | 円盤高台[土師質、やや大型](1) | | | | 1 | | 京1 | | 1 |
| SX　39 | | 緑釉陶器 | 香炉身?[須恵質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SX　41 | | 緑釉陶器 | 破片[軟質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SX　42 | | 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SX　43 | | 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SX　44 | Ⅵ? | 緑釉陶器 | 椀[土師質](1) | | | | 1 | | 防長新? | | 1 |
| SK　45 | Ⅳ | 灰釉陶器 | 破片(1) | | | | | 1 | | | 1 |
| SX　49 | | 灰釉陶器 | 底部(1) | | | | | 1 | | | 1 |
| SK　50 | Ⅵ-Ⅶ　▽ | 緑釉陶器 | 蛇ノ目高台[京2,須恵質、表土と接合](1) | | | | 1 | | 京2 | | 1 |
| | | | 破片(5)・椀?[S-59と接合](1) | | | | 6 | | 防長 | | 6 |
| SX　51 | | 灰釉陶器 | 壺?(1) | | | | | 1 | | | 1 |
| SK　55 | Ⅹ-Ⅺ | 緑釉陶器 | 輪花椀[須恵質、S-146と接合]‹京2›[1△1]、 | | | | 1 | | 京2 | | 1 |
| | | | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SX　59 | | 緑釉陶器 | 椀[土師質、S-50と接合](1△1) | | 1 | | 0 | | | | 0 |
| SK　60 | Ⅻ | 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SK　65 | Ⅵ-Ⅶ | 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SK　66 | 10c[Ⅴ-Ⅵ | 緑釉陶器 | 口縁[土師質](2)、破片[有段、須恵質](1) | | | | 3 | | | | 3 |
| SK　66最下層 | | 緑釉陶器 | 皿[土師質](1)、高台[S-147と接合]‹近江×東海›(1) | | | | 2 | | 京2,近江×東海 | | 2 |
| | | | 破片[土師質](1)・[須恵質](1) | | | | 2 | | | | 2 |
| SK　70 | | 緑釉陶器 | 破片[土師質](2) | | | | 2 | | | | 2 |
| | | 灰釉陶器 | 壺?(1)、椀‹K14新?›(1)、片(1) | | | | | 3 | | K14新? | 3 |
| SD　71 | Ⅻ | 緑釉陶器 | 小椀[土師質](1) | | | | 1 | | 防長×近江 | | 1 |
| SX　72 | | 緑釉陶器 | 椀×皿底部[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SX　73 | | 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SK　75 | Ⅻ | 緑釉陶器 | 皿[須恵質]‹京2›(1) | | | | 1 | | 京2 | | 1 |
| SD　78 | Ⅻ.ⅩⅢ　▽ | 灰釉陶器 | 椀‹丸石2号、第5段階›(1) | | | | | 1 | | 丸石2×H72 | 1 |
| SX　79 | 10c後? | 緑釉陶器 | 高台[土師質、表土と接合]‹近江›(1) | | | | 1 | | 近江 | | 1 |
| SD　83 | | 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SD　91 | | 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SD　93 | 中世? | 緑釉陶器 | 破片[須恵質(1)、土師質(1)] | | | | 2 | | | | 2 |
| | | 灰釉陶器 | 壺?(1) | | | | | 1 | | | 1 |
| SK　95 | Ⅻ　▽ | 灰釉陶器 | 山茶椀[S-34と接合]‹百代寺×H105›(1) | | | | | 1 | | 百代寺×H105 | 1 |
| SK　100 | Ⅶ　▼ | 緑釉陶器 | 椀?[下層と同一?軟質・淡肌色、防長中](1) | | | | 1 | | 防長中 | | 1 |
| | | 灰釉陶器 | 破片[ハケ塗り?](1) | | | | | 1 | | | 1 |
| SK　100下層 | Ⅶ　▼ | 緑釉陶器 | 浅椀[土師質,緑彩]‹防長中›[2]、椀[防長中](1) | | | | 3 | | 防長中 | | 3 |
| | | | 壺?[硬、淡茶灰色](1)、破片[硬、淡茶灰色(1) | | | | 2 | | 京? | | 2 |
| SD　101 | Ⅻ | 灰釉陶器 | 皿?(1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SD　102 | Ⅻ.ⅩⅢ | 灰釉陶器 | 壺?(1) | | | | | 1 | | | 1 |
| SK　108 | 9c? | 緑釉陶器 | 皿?[土師質](1) | | | | 1 | | 防長古? | | 1 |
| SX　109 | | 緑釉陶器 | 皿?[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SD　110 | Ⅺ.Ⅻ | 灰釉陶器 | 椀(1) | | | | | 1 | | H105×S-1 | 1 |
| SX　112 | 9c? | 緑釉陶器 | 皿[円盤高台]‹京2›(1) | | | | 1 | | 京2 | | 1 |
| SX　117 | | 緑釉陶器 | 皿[土師質](1) | | | | 1 | | 京1 | | 1 |
| SK　120 | Ⅻ | 緑釉陶器 | 破片(1) | | | | 1 | | | | 1 |
| | | 灰釉陶器 | 壺?(2) | | | | | 1 | | | 1 |
| SX　141 | | 緑釉陶器 | 角高台(1) | | | | 1 | | 東海 | | 1 |
| SK　145 | Ⅻ | 緑釉陶器 | 皿[S-210と接合]‹京2›(1△1) | | 1 | | 0 | | 京2 | | 0 |
| SX　146 | | 緑釉陶器 | 皿?[須恵質](1)、椀[S-55と接合](1△1)、破片[土師質](1) | | 1 | | 2 | | | | 2 |
| SX　147 | 10c後? | 緑釉陶器 | 高台[蛇ノ目,須恵質](1)、底部[土師質(1△1)[S-66下層接合]‹近江×東海› | | 1 | | 1 | | 京2,近江×東海 | | 1 |
| | | | 破片[土師質](1)、 | | | | 1 | | | | 1 |
| SX　152 | | 緑釉陶器 | 壺b?[須恵器か?](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SX　155 | 10.11c | 灰釉陶器 | 段皿(1)、壺?(1) | | | | | 2 | | K90×O53 | 2 |
| SK　160 | Ⅻ | 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SX　161 | | 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SX　169 | | 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SK　170 | Ⅻ | 緑釉陶器 | 皿[土師質](1)、口縁部[土師質、沈線](1) | | | | 2 | | 防長 | | 2 |
| SD　178 | A | 緑釉陶器 | 椀×皿[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SK　180 | Ⅸ | 緑釉陶器 | 段皿[須恵質]‹近江›(1)、破片[土師質、防長](1) | | | | 2 | | 近江、防長 | | 2 |
| SK　181 | | 緑釉陶器 | 直口縁[須恵質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SX　182 | 9-10c? | 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SX　187 | | 灰釉陶器 | 椀?(1) | | | | | 1 | | | 1 |
| SK　190 | Ⅴ-ⅥA | 緑釉陶器 | 直口縁[土師質](1) | | | | 1 | | 京1×防長 | | 1 |
| SK　190最上層 | ▽ | 緑釉陶器 | 椀[土師質]‹防長古›(1)、椀×皿×蓋[防長古](1) | | | | 2 | | 防長古 | | 2 |
| SX　191 | | 緑釉陶器 | 口縁部[土師質](1) | | | | 1 | | 京×防長 | | 1 |
| SX　192 | | 緑釉陶器 | 外反口縁[土師質](1)、坏[土師質、S-201・210と接合](1△1) | | 1 | | 1 | | 防長 | | 1 |
| SK　200 | 10c　▽ | 緑釉陶器 | 小椀[土師質,防長新](1)、高台[土師質、小椀]‹防長新›(1)、 | | | | 2 | | 防長新 | | 2 |
| | 中・後 | | 破片(1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SX　201 | | 緑釉陶器 | 坏[土師質、S-192・210と接合](1△1) | | 1 | | 0 | | 防長 | | 0 |
| SX　203 | | 緑釉陶器 | 椀[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SK　205 | Ⅻ | 緑釉陶器 | 蛇ノ目高台[須恵質、素地、S-224と接合(1△1) | | 1 | | 0 | | | | 0 |
| SX　206 | | 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SD　210 | ⅥA-B　▼ | 緑釉陶器 | 皿[須恵質、S-145と接合]‹京都2›(1)、 | | | | 1 | | 京2 | | 1 |
| | | | 皿[無釉・素地]‹京都2›(1)、口縁部[須恵質](1)、 | | | | 2 | | 京2 | | 2 |
| | | | 坏[土師質、S-192・201と接合]‹防長›(1)、破片[防長](1) | | | | 2 | | 防長 | | 2 |
| | | 灰釉陶器 | 硯(1△1)[原始灰釉、SD230‹ⅥA›接合] | | 1 | | 0 | | | 原始灰釉 | 0 |

| 土層<br>遺構 | 時期 | 種別 | 器種他 | ↓接合資料<br>△数 | 緑釉 | 灰釉 | 緑釉<br>計 | 灰釉 | 緑釉型式 | 灰釉型式 | 緑・灰<br>釉合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SX 211 | | 緑釉陶器 | 耳皿?[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SK 215 | Ⅷ›Ⅸ ▼ | 緑釉陶器 | 小椀?[京都1×2,土師質](1)、皿[須恵質]‹近江›(1)、 | | | | 2 | | 近江,京1 | | 2 |
| | | | 皿[硬質、淡黄灰](1)、 | | | | 1 | | | | 1 |
| | | | 皿[硬質(1)、暗灰]‹京都3・前山2・3号›(1)、破片[土師質](2) | | | | 3 | | 京3,防長 | | 3 |
| | | 灰釉陶器 | 壺?(1) | | | | | 1 | | | 1 |
| SX 217 | ⅥA | 緑釉陶器 | 皿[土師質、薄手](1) | | | | 1 | | 京1×防長古? | | 1 |
| SX 220 | Ⅺ-Ⅻ ▽ | 灰釉陶器 | 椀[S-231と接合]‹丸石2›(1) | | | | | 1 | | 丸石2 | 1 |
| SX 221 | ⅥA? | 緑釉陶器 | 外反口縁[土師質](1) | | | | 1 | | 防長古×京1 | | 1 |
| SX 224 | | 緑釉陶器 | 蛇ノ目高台[須恵質、素地、S-205(11c)と接合]‹京都2›(1) | | | | 1 | | 京2 | | 1 |
| SD 228 | Ⅻ | 灰釉陶器 | 破片(1) | | | | | 1 | | | 1 |
| SD 229 | Ⅻ | 緑釉陶器 | 皿[底部,土師質,京都1](1)、外反口縁[土師質](1) | | | | 2 | | 京1 | | 2 |
| | | 灰釉陶器 | 破片(1) | | | | | 1 | | | 1 |
| SK 230 | ⅥA | 灰釉陶器 | 円面硯片(1)[S-210接合] | | | | | 1 | | | 1 |
| | △B | 緑釉陶器 | 外反口縁[須恵質](1)、破片[土師質](2) | | | | 3 | | | | 3 |
| SD 231 | 14c前 | 灰釉陶器 | 椀[S-220と接合]((1△1))、壺?(1)、甕?(1) | | | 1 | | 2 | | | 2 |
| SD 232 | Ⅻ | 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| | | 灰釉陶器 | 壺?(1) | | | | | 1 | | | 1 |
| SD 238 | | 緑釉陶器 | 口縁部[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SD 240 | Ⅻ | 灰釉陶器 | 広口瓶[表土と接合](1) | | | | | 1 | | O-53? | 1 |
| SX 251 | | 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| SX 256 | | 緑釉陶器 | 底部[土師質](1) | | | | 1 | | 京1 | | 1 |
| SK 260下層 | ⅥA | 緑釉陶器 | 円盤高台[土師質](1) | | | | 1 | | 京1 | | 1 |
| 表土 | | 緑釉陶器 | 皿[土師質](2)、外反口縁[須恵質(1)・土師質(3)] | | | | 6 | | | | 6 |
| | | | 直口縁[須恵質(1)・土師質(2)]、底部‹近江10c後半›[S-79と接合][1△1] | | 1 | | 3 | | 近江 | | 3 |
| | | | 蛇ノ目高台[須恵質S50接合(1△1)・土師質(1)]、須恵質(2)・土師質(1) | | 1 | | 4 | | 京1・2,近江 | | 4 |
| | | | 小壺[土師質]破片(1)、他片[須恵質(1)・土師質(15)] | | | | 17 | | 東海? | | 17 |
| | | 灰釉陶器 | 椀(1)、椀‹丸石2›(1) | | | | | 2 | | 丸石2 | 2 |
| | | | 壺(1)、広口壺[S-240と接合(1△1)]、甕(1)、破片[突帯](1),椀片(9),口縁(1) | | | 1 | | 12 | | K14 | 12 |
| Z(出土位置不明) | | | 破片[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| F4黄灰色土 | | 緑釉陶器 | 皿[土師質](1) | | | | 1 | | | | 1 |
| | | | 点数計 | | 10 | 3 | 159 | 42 | | | 201 |
| | | | | | | | 79 | 21 | | | 100% |

凡例
▼▽標識となる施釉陶器例
△1：接合点数減（マイナス数）,古い遺構に帰属（混入除外）,同時期では良好な遺構に含む。他遺構との接合数は帰属遺構または帰属不明ならば一方の遺構に含める。
京都近郊窯：京1[洛北型],京2[洛西型,妙満寺(北・大原野(西)・篠含む]。京3[篠・前山]。防長は古・中・新。洛北・防長区別難では[京1×防]とする。

い窪み状の遺構）は同じくⅦ期で、ここからまとまった防長産緑釉の浅形碗がまとまって出土しているが、これも池250出土の緑釉と近い特徴を持つ。これらⅦ期の緑釉はⅥB期以前とⅧ期以降に伴う緑釉の中間的特徴を持つ。条坊269次SX100伴出緑釉に山城産（洛西型）碗・皿、東海K90がある。

９・東海 H105、S-1、百代寺など型式判定の割れる例であるが年代的に矛盾はない。

ほぼ東海産に限定される灰釉陶器は緑釉に比べ数はきわめて少ない。しかし原始灰釉、9 世紀初頭の黒笹 K-14 窯式から 11 世紀後半～ 12 世紀前半の百代寺、東山 H-105 窯式山茶碗に至る各時期、各型式は畿内と整合し、施釉陶器の変遷過程についての大方の了解は得られる。

以上、畿内中央との比較では完全な一致を見ない点もあり、また大宰府では施釉陶器年代確定の絶対数も少ないため、確実性の高い資料の積上げを今後も要する。

緑釉陶器は平安京を中心とした都市的生活用品の発展過程を表出する一つと理解される。防長産の量産型緑釉陶器は畿内に一歩遅れて出現するとされるが、畿内に遅れず早くから生産開始した可能性があり、九州内に分布を持つ点では大宰府への供給を主な目的としたものと解される。また九州内における京都近郊、東海、近江におよぶ多産地製品の一定量出土も大宰府の特色であり、これは居住官人層などの中央志向的な生活の一端を示すものであろう。

### [4]　墨書土器について（表 5、Pla.8・9・12・13）

出土した墨書土器のうち 12･13 世紀の青磁に記された花押らしい 2 例を除けば、殆どはⅤ、Ⅵ期（8 世紀末、9 世紀前半）の須恵器、土師器である。

特に注目されるのは34SK010の祭祀関連遺構例で、完品を含むⅥA期のまとまった土師器と山城産（洛北型）緑釉皿の完品2点がある。土師器13点の坏aのうち半数以上の8点に墨書があり、明確な字体のものとして「器」の字と似た「器」4点､「器」の破片と見られる2点､「道司」１点があり、他1点は破片であり不明である。

34SK010 はきわめて浅い土坑のため、表土掘削の際に遺構から遊離したと見られる遺物もある。表

土その他の出土土器には上の墨書「器」と似た例２点、「道司」１点がある（Fig.41・43）。これは筆跡も上のものと似ている点で、本来はSK010に伴っていた可能性がある。他の墨書では須恵器に「浄典［人］カ」、「玉名カ［　］」、「大［　］」、土師器に「［酒［坏］カ」、「吉」、黒色土器Ｂに「、］西文カ」がある。黒色土器Ｂの黒色器面に墨書をする例はあまり見ないが字体は整っている。黒色土器Ｂは９世紀後半頃に下るが、他の土器型式はSK010と同じⅥＡ期（一部はⅤ期も可能）である点も注意される。「器」の特長として、底部外面の中央部に太く大きく記されており、はじめからこの１つのみを意識して書き付けた感がある。また「道司」も同様な点がある。他の文字の字体は比較的整っており、上のものに比べて小さく、また墨書の開始位置が中央ではなく底部端寄りであるものが多い事も一つの特長である。34SD080出土須恵器は中央に一字「金」と記される。これは湿らせた状態で鮮明となる。

「器」の墨書例をあまりみないが、観世音寺出土例が３点ある（註24）。３点は須恵器でⅤ-Ⅵ期・８世紀後半～９世紀初頭に属し、(1) 大70SK1774出土「福器」、(2) 大70SD1830出土「福器」、(3) 同出土「器」（断片）である。この書体は34SK010と同様で「器」中間の部分「大」は「一」となる。(1) (2) は「福器」の２字からみて「器」（うつわ）とするのが適切である。ところが34SK010例は「器」一字のみであり、「土器」にわざわざ「器」と記す必然性がないものである。別の土器墨書「道司」と「器」の同時使用による組合せでは「道司器」の意味づけはできるが、別に「器」一字の目的としては呪符記号的な扱いを想定する。呪符木簡や土器に書き付けた例として、「急急如律令」などの語句とともに「日」や「口」に似た文字を並べて用いた例があり、意味は不明だが呪符の記号の一種と解されている。「道司」

表.5　第34次調査出土墨書土器一覧

| 遺構 | 種別 | 器種 | 記入部位 | 墨書開始位置 | 字大きさ | 字数 | [ ]文字不明 | Fig番号 | | 遺構年代・期 | 遺物年代・期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SD080 | 須恵器 | 坏a | 底部外面 | 中央? | 中 | | [　] | 10 | 12 | Ⅴ・ⅥA | Ⅴ・ⅥA |
| SD080 | 須恵器 | 坏c | 底部外面 | 中央 | 中 | 1 | [金] | 10 | 13 | Ⅴ・ⅥA | Ⅴ・ⅥA |
| SD083 | 土師器 | Ⅲa | 底部外面 | 中央? | | | [　] | | | | |
| SD090 | 土師器 | 片 | 底部外面 | | | | [　] | | | | |
| SD097 | 須恵器 | 坏×Ⅲ片 | 底部外面 | | 太 | | [　] | | | | |
| SX189 | 土師器 | 片 | | | | | | | | SK190混入か | |
| SD245 | 須恵器 | Ⅲa | 底部外面 | 端 | 小 | 3 | [玉名カ[　]] | 18 | 35 | 8世紀後半Ⅴ? | Ⅴ? |
| SK010 | 土師器 | 坏a | 底部外面 | 中央 | 大 | 1 | [器]カ | 19 | 5 | ⅥA | ⅥA |
| SK010 | 土師器 | 坏a | 底部外面 | 中央 | 大 | 1 | [器]カ | 19 | 9 | ⅥA | ⅥA |
| SK010 | 土師器 | 坏a | 底部外面 | | | | [　] | 19 | 10 | ⅥA | ⅥA |
| SK010 | 土師器 | 坏a | 底部外面 | 端 | 中 | 2 | [道司] | 19 | 11 | ⅥA | ⅥA |
| SK010 | 土師器 | 坏a | 底部外面 | 中央 | 大 | 1 | [器] | 19 | 12 | ⅥA | ⅥA |
| SK010 | 土師器 | 坏a | 底部外面 | 中央 | 大 | 1 | [器] | 19 | 13 | ⅥA | ⅥA |
| SK010 | 土師器 | 坏a | 底部外面 | 中央 | 大 | 1 | [器] | 19 | 14 | ⅥA | ⅥA |
| SK010 | 土師器 | 坏a | 底部外面 | 中央 | 大 | 1 | [器] | 19 | 15 | ⅥA | ⅥA |
| SK100 | 土師器 | Ⅲa | 底部内面 | | | | 釘彫刻線[5本平行線 | 26 | 16 | Ⅶ | Ⅵ・Ⅶ |
| SK100 | 土師器 | Ⅲa | 体部外面 | 横向 | 小 | 1 | [吉]（きち） | 26 | 15 | Ⅶ | Ⅴ・Ⅵ |
| SK190 | 土師器 | 坏a | 底部外面 | 中央? | 中 | | [　] | 30 | 43 | Ⅴ・ⅥA | Ⅴ・ⅥA |
| SK190 | 土師器 | 坏×Ⅲa | 底部外面 | 中央? | 中 | | [又]カor[器]の一部 | 30 | 42 | Ⅴ・ⅥA | Ⅴ・ⅥA |
| SK190 | 土師器 | 坏×Ⅲa | 底部外面 | 中央? | 中 | | [又]カ | 30 | 44 | Ⅴ・ⅥA | Ⅴ・ⅥA |
| SK260 | 土師器 | 坏a | 底部外面 | 中央 | 中 | 2 | [大[　] | 36 | 14 | ⅥA | ⅥA |
| SX199 | 土師器 | 坏d | 底部外面 | 中央 | 中 | | [　] | 38 | 29 | 10世紀? | Ⅴ |
| 表土 | 須恵器 | 坏a | 底部外面 | 端 | 中 | 3 | [浄典[人]カ | 41 | 1 | 遊離 | ⅥA |
| 表土 | 土師器 | 坏a | 底部外面 | 中央 | 大 | 1 | [器] | 41 | 20 | 遊離 | ⅥA |
| 表土 | 黒色土器B | 椀c | 底部外面 | 中央 | 小 | 3 | [、]西文](酒カ | 42 | 43 | 遊離 | 9世紀後半 |
| 不明Z | 土師器 | 坏×Ⅲa | 底部外面 | 端 | 小 | 2 | [酒[坏]カ? | 43 | 82 | 遊離 | ⅥA |
| 不明Z | 土師器 | 坏a | 底部外面 | 中央 | 大 | 1 | [器] | 43 | 81 | 遊離 | ⅥA |
| 不明Z | 土師器 | Ⅲa | 底部外面 | 端 | 中 | 2 | [道司](道]下部欠 | 43 | 80 | 遊離 | ⅥA |
| 表土 | 龍泉窯系青磁 | 椀 | 底部外面 | 中央 | 小 | 1 | 花押? | 43 | 72 | 遊離 | 13世紀 |
| 表土 | 龍泉窯系青磁 | 椀 | 底部外面 | 中央 | 小 | 1 | 花押? | 43 | 71 | 遊離 | 12-13世紀 |

の「司」などは役所などの付属機関を指す場合がある。「道」の意味は不明で、この字を用いる役所名なども知りえないが、仮に「道士」や「道師」の「司」とみれば、道教などに通じる司祭者との関連やその施設を意味する可能性も出て来る。「浄典 [ 人 ] カ」も上の関連に含めてもよいかもしれない。

「玉名カ [　]」については「玉名郷」など地名を示すと見られ、下方やや右にづれて字があるのは確かであるが殆ど消えている。「、] 西文カ」については鮮明な墨の残り部分を見ているが、上方一字は「、] 部分のみとなり不明。また「文」の上には冠のつく可能性もある。

養老職員令によると大宰府は地方官衙にしては官職制も整備されており、長官たる大宰府帥の次に、位階は低いが諸の祭詞の事を掌る主神（かみのつかさ）１名、さらに下位には地の相の吉凶を見わける事を掌る陰陽師１名も置かれていた事がわかるが、これは古来からの道教思想を残す一面も示している。都城制による整備の中で、官衙に限らず、官の付属施設や居宅地などにも祭祀が行われた事は推定されるが、今回の調査はこうした都城内の生活風習を示す例であろう。

文字解読は当市文化財課の井上信正が行い、細井浩志氏（活水女子大学）からは有益な意見も頂いた。

**[5]　金銅製眉刷毛の珍しい出土例（Fig.45、Pla.13）**

34SK100 出土のものは平安前半（9 世紀第 3 四半期）に遡り、小形品ながら優美な彫金装飾である。

本例は眉刷毛とみたが刷毛の部分は残存せず、軸の部分のみとなる。また針筒とする意見もある。朝鮮には本出土例と酷似する例があり針筒とするが、逆にこれも眉刷毛軸とした方がよいかもしれない。中国法門寺塔下部で出土した鎮壇具には確実な針筒がある（Fig.51, 註 25）。形状は一端が細く、上の形とは合わない。針筒は他の鋏などの用具一式と鎖で連なり、僧侶の身だしなみ用具一式とされる。朝鮮例は魚々子文の地に唐草を配していて本出土品と酷似するため、本例が渡来品か国産品かは今後追究すべき点もある。

34SK100 は前述したように形状の整った掘方からみて井戸の可能性もある。井戸枠などは検出されていないが、木枠が腐朽した事も考えられる。金銅製品は土坑の上層で出土しているが、比較的高い身分の人の所持品ならば、落し物、紛失などの偶発面だけでなく、井戸の放棄に伴う祭祀目的の行為も一つの考えである。

平安以前に遡る眉刷毛の確実な例は知られていないが、鎌倉期以降の伝世品の例には、手箱に収めた化粧用具の一具として確認される。これは実用的調度品でありながら神社の祭神への奉献神宝という性格も判明する点は注意され、上記の祭祀行為の推定も現実味を持つ。下記の神社伝来の漆手箱は国宝で

中国法門寺塔下部出土針筒
（新潟県立近代美術館図録・註 25 より）

（韓国中央博物館図録・註 25 より）

Fig.51　針筒・眉刷毛関連資料

ある（註 26）。

1・手箱・梅文様、内容品、眉作 1 本、銀、長さ 9.0cm、三嶋大社、国宝、鎌倉時代、13 世紀。

2・熊野速玉大社古神宝、手箱・桐文様、内容品、眉作 1 本、銀、長さ 9.5cm、熊野速玉大社蔵、国宝、室町時代、14 世紀。足利義満らの奉納（明徳元年、1390）

3・熊野阿須賀神社伝来古神宝、手箱・松椿文様、内容品、眉作 2 本、銀、長さ 9.6 ～ 10.6cm、京都国立博物館所蔵、国宝、室町時代、14 世紀。

4・橘唐草文散蒔絵婚礼化粧道具、江戸後期（上流武家）（註 27）

5・筒状製品（眉刷毛の軸）鎌倉市内遺跡出土品（註 28）

眉化粧については日本書記や古事記の記実の一部、奈良時代の絵画資料から推察されており、古くは中国の唐風化粧の影響を受け、平安時代には日本独自の国風化粧が行われたとされる（註 29）。都城の建設など政策面における唐の制度の影響は大きく、当時の上層階級には広く唐風文化の受容も行われたと考えられ、第 34 次出土例はその一端を示すものとも見られよう。

**[6]　9 世紀土器の傾向分析**

(A) 9 世紀土器の一般的傾向及び南部九州の傾向

ⅥA期の土器について一応補足しておくと、奈良時代まで続いてきた体部下位にヘラ削りや磨きを行う手法はなくなり、底部は篦きりのままで、横ナデで仕上げの省力化された食器となる。体部は直線的に外方へ開く形態となり、底部端と体部境は丸味をなさず角張った鋭利な形をなす。ただ色調は橙色や赤茶味をなしており、奈良的な傾向の延長上にある。Ⅶ期には形態は同じ傾向を残すが底部端は鈍化し始めるものが目立つ。器面は黄灰色や淡灰色など白っぽい色調に変わり、法量は小形化する。こうした傾向は大宰府に限らず、筑後、肥前、肥後にも認められる。また薩摩や大隅に近い日向南部ではⅦ期以後、9世紀後半～10世紀前半にかけても色調は橙色や赤茶味をなす場合が多く、鈍化傾向は認められるが形態的には9世紀前半の体部直線化の傾向が根強く保持される。ⅥB期は法量や色調においてⅥAとⅦ期の古期、新期の中間的傾向を持つものであるが、須恵器の貯蔵具を除く食器は撤退し、土師器が完全に優勢となるため法量規格の検討は須恵器よりも土師器が重点となる。

(B)　統計分析の応用と注意点

法量変化の点では筆者が 1990 年に作成した土師器坏、皿の統計的研究があり（註 30）、この時点までの九州歴史資料館、福岡県、及び太宰府市が行った調査例について型式的統合化を行った。以後 25 年を経過しているが、この型式編年に錯誤はなく今回も準用する。土師器坏、皿は平安時代以降においてもごく一般的な食器であり、社会階層の上下を問わず広く使われた。こうした汎用器物は遺跡の性格・場を問わず、遺構年代判定に一定標準となるものであるから、土器属性と年代についての一般性について繰り返し検証されるべきである。

標本数では統計上 30 個以上が望ましいが、短期一括性となると出土条件を満たす遺構も限られる。次に前提条件として、標本とする土器は外観・手法特長から見て、同一工人（集団）の製作による一定要件内に入るものが望ましい。他地域からの搬入品も含む統計数値化は意味希薄となる。底部や手法で新古判断が可能でも、口径は法量計算上は重視される部分であり、これを欠するものは計算の個数には含めない。

95% 確率の設定、即ち全個数の 95% がどの範囲数値内に集中するかを統計計算によって求める。ばらつきの度合となる標準偏差は標本 30 個以上が望ましいが、単純型式という条件にかなう遺構例も限られており、30 個未満の例も使用する。30 個未満では偏差値はやや緩い定数値となる。95% 確率における偏差値定数は標本 30 個以上では 1.96、また 30 個未満では 2.042 とする定数が使われる。

標本が５点以内の場合は注意が必要で、95% 範囲は実際の標本数値を超えた値となる事も多く意味がない。この場合は実際の＜最小値 - 平均値 - 最大値＞に止めておく方がよい。また確率を 90% 以下とするならば､その集中範囲幅は当然広くなるため各型式間の数値重複部分も多くなるため 95% 確率（土器が95%以内に集中するという根拠値）に固定する｡計算段階ではcm単位の小数点以下２位（mm以下）までは出し、最終値では四捨五入で mm までの数値とする。坏ａ統計値は以下のようになる。単位は cm で、数値順は標本最小値＜ 95% 確率の最少値 - 全個体平均値 -95% 確率の最大値＞標本最大値の５つの値順に記す。

(C)　34SK010 ＜Ⅵ A 期＞基準土器統計と型式的有効性

ⅥA期単一型式においては良好な出土例も少なく、今回のSK010は土師器一般器種の坏、皿の法量検討に有用な指標となる。SK010は地鎮に伴うためその行為からして一過的な埋納となり、一括性が高く、また単一型式となる点で良好な資料である。SK010の坏aは13点中10点の口径が得られ、これは完器に近いものが多く、最低でも口径の1/3以上は残り全体の計測精度は良い。統計では以下の数値となる。

口径、13.5 ＜ 13.1-13.7-14.2 ＞ 15.0

器高、3.3 ＜ 3.4-3.7-3.9 ＞ 4.4

底径、7.0 ＜ 7.8-8.3-8.7 ＞ 9.3

中央の３つの数値内＜　＞が 95% 確率で求めた範囲となり、とくに特徴の出る口径でみれば 13.1 から 14.2cm 間、平均では 13.7cm にこの坏ａ土器（母集団）の規格性があるという事になる。

従来Ⅵ・Ⅶ期編年となる標識遺構の数値を下記にあげるがこれ以外に近年報告では良好な例もあるとみられ、この点は今後の検討としたい。Ⅵ期は後にA古期、B新期として二分し、提示したⅥB期の遺構例では統計量には個数が不足するため、個別遺構の平均値に止まる。筑後国府他、大宰府以外では坏aが一定量出土したⅥB期遺構が認められるが、個別数値表がない場合は計算できない。報告図で個々の数値を求めて統計計算を行う手もあるが、やや不確定な点は避けられない。

(D)　９世紀代の比較資料（表６）

条269次SX100（大形土坑）はⅦ期の土器を主体とする例でⅥB期を一部含むと見られる（註31）。この資料は坏・皿以外の器種構成が分かり、とくに防長産緑釉陶器が多く伴出した点で注目される（本文101頁）。前記したように平安京Ⅱ古と大宰府Ⅶ期の年代幅は異なるが部分的には重なる時期があり、並行関係検討のうえでは注意すべき資料となる。

Ⅴ-ⅥA期2例,およびⅥA期3例、計5例の口径は平均13.1-13.7cmであり、さらにこの5例の平均値を計算すると13.3cm。95%集中内の最少、最大値の4例平均値は最少12.9cm、最大は13.8cmとなる。ⅥA期の母集団（土師器坏aの口径規格）が12.9-13.9cmの範囲内に多数入るという点が導き出される。器高は平均3.5cm前後で、3cm以上が大半を占める。直線的な体部の形態や法量はⅤ期との差はなく、単体出土の場合は見分けがつかない。1型式間を置いてⅥ-Ⅶ及びⅦ期の計5例の平均値を見ると95%集中内の最少、最大値の平均値は最少11.8cm、最大12.7cm、平均値は12.3cmとなる。この値はⅥA期と比べて約1cm小形化した顕著な法量落差となる。器高では統計平均2.8cm前後で3cm未満が大半となる。

条269SX100出土土器では、坏aの法量個数は34点で、口径・器高・底径が揃う個体数は約半数の16点である。ここでは坏の他に皿a数が10点（有効法量数は7点）あり、ⅥA期の皿aよりも小形傾向を示す点は坏aと同様である。

坏ａ（条 269SX100）

表.6　ⅥA-Ⅷ期土師器坏a統計値

| | | 坏a | 口径比較 | | | | | 器高比較 | | | | | 伴出遺物 | | | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 遺構名 | 時期 | 標本数 | 最少 | 最少 | 95%確率 平均 | 95%確率 最大 | 最大 | 最少 | 最少 | 95%確率 平均 | 95%確率 最大 | 最大 | 貿易陶磁 編年 | 国産陶器 緑釉 | 国産陶器 灰釉 | |
| 大43SE1081 | Ⅴ | 3 | 12.7 | | 13.3 | | 13.8 | | | | | | A古 | | | 1 |
| 筑前国分寺6SK053 | Ⅴ-ⅥA | 19 | 12.6 | 13.0 | 13.1 | 13.2 | 13.5 | 3.1 | 3.4 | 3.6 | 3.8 | 4.4 | - | | | 7 |
| 大46SE1340 | Ⅴ-ⅥA | 3 | 13.0 | - | 13.2 | - | 13.6 | 3.4 | - | 3.6 | - | 3.9 | A古 | | | 2 |
| ●条34SK010 | ⅥA | 10 | 12.5 | 13.1 | 13.7 | 14.2 | 15.0 | 3.3 | 3.4 | 3.7 | 3.9 | 4.4 | - | 洛北,防長(古 | ○ | |
| 大18SE400 | ⅥA | 7 | 12.2 | 12.5 | 13.1 | 13.7 | 14.4 | 2.8 | 3.0 | 3.2 | 3.4 | 3.7 | - | | | 3 |
| 宮ノ本1次2号墓 | ⅥA | 6 | 12.3 | 12.8 | 13.5 | 14.2 | 14.6 | 3.2 | 3.4 | 3.7 | 4.0 | 4.2 | - | | | 8 |
| | 5例平均 | | 12.5 | 12.9 | 13.3 | 13.8 | 14.2 | 3.2 | 3.3 | 3.6 | 3.8 | 4.1 | | | | |
| 条200SK253 | ⅥA | 8 | 12.5 | 13.0 | 13.4 | 13.8 | 15.0 | 3.3 | 3.5 | 3.7 | 3.9 | 4.4 | A | K90古,洛西,防長 | | 9 |
| 大88SE2556 | ⅥB | 5 | 12.3 | 12.5 | 13.0 | 13.5 | 13.6 | 3.7 | 3.9 | 4.2 | 4.5 | 4.5 | A古 | | | 4 |
| 陣ノ尾2次1号墳奥室覆土 | ⅥB | 4 | 12.6 | - | 12.9 | - | 13.3 | 3.5 | - | 3.7 | - | 3.8 | - | | | 13 |
| 大121濁茶色土 | ⅥB | 4 | 12.5 | - | 12.6 | - | 12.6 | 3.7 | - | 3.9 | - | 4.0 | | | 原始灰釉 | 5 |
| | 3例平均 | | 12.5 | | 12.8 | | 13.2 | 3.6 | | 3.9 | | 4.1 | | | | |
| 南条坊6ME13区下層 | Ⅵ-Ⅶ | 8 | 12.0 | 12.2 | 12.5 | 12.8 | 12.9 | 2.4 | 2.8 | 3.1 | 3.4 | 3.65 | - | | | 14 |
| 筑前国分寺6SK045 | Ⅶ | 9 | 11.4 | 11.7 | 12.1 | 12.5 | 13.4 | 2.5 | 3.1 | 3.4 | 3.7 | 3.7 | - | | | 7 |
| 大121SX3655 | Ⅶ | 94 | 10.2 | 12.0 | 12.2 | 12.4 | 14.0 | 2.8 | 3.6 | 3.7 | 3.8 | 4.9 | | | | 5 |
| 大70SK1800 | Ⅶ | 109 | 10.9 | 11.8 | 11.9 | 12.0 | 12.7 | 2.7 | 3.2 | 3.3 | 3.3 | 3.7 | A古・新 | 洛西 | | 6 |
| 条269SX100 | ⅥB-Ⅶ | 16 | 11.4 | 11.7 | 12.2 | 12.7 | 14.2 | 2.7 | 3.2 | 3.4 | 3.6 | 4.2 | | 防長(中 | K90新 | 11 |
| ●条34SK100 | Ⅶ | 7 | 11.6 | 11.8 | 12.6 | 13.5 | 14.8 | 2.9 | 3.1 | 3.5 | 3.9 | 4.2 | A | 防長(中 | 破片 | |
| | 6例平均 | | 11.3 | 11.9 | 12.3 | 12.7 | 13.7 | 2.7 | 3.2 | 3.4 | 3.6 | 4.1 | | | | |
| 参考値 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 筑後国分寺59-1SK2817 | ⅥB-Ⅶ | 21 | 12.2 | | 12.7位が多 | | 13.6 | 3.1 | | | | 4.4 | A古 | 防長(中 | | 15 |
| 大35SK678 | Ⅷ | 15 | 10.6 | 11.2 | 11.4 | 11.6 | 12.1 | 2.5 | 2.7 | 2.8 | 2.9 | 3.4 | A | | | 10 |
| 条24SK115 | Ⅷ | 20 | 10.8 | 11.5 | 11.7 | 11.9 | 12.4 | 2.4 | 2.7 | 2.8 | 2.9 | 3.2 | | | | 12 |
| 条5SD010 | Ⅷ | 5 | 11.6 | 11.6 | 11.9 | 12.2 | 12.2 | 2.6 | 2.6 | 2.9 | 3.2 | 3.4 | A | 破片 | S4 | 13 |
| 君畑18号墓 | Ⅷ | 9 | 10.3 | 10.9 | 11.2 | 11.5 | 11.7 | 2.3 | 2.4 | 2.6 | 2.8 | 3.0 | | | | 14 |
| | 4例平均 | | 10.8 | 11.3 | 11.6 | 11.8 | 12.1 | 2.5 | 2.6 | 2.8 | 3.0 | 3.3 | | | | |

(凡例)
大；大宰府史跡
条；大宰府条坊跡
●今次数報告

(文献)
1 九州歴史資料館1977『大宰府史跡,昭和51年度発掘調査概報』
2 九州歴史資料館1978『大宰府史跡昭和52年度発掘調査概報』
3 横田賢次郎「大宰府出土の土師器に関する覚え書き3」『九州歴史資料館研究論集5』1979
4 九州歴史資料館1985『大宰府史跡昭和59年度発掘調査概報』
5 九州歴史資料館1991『大宰府史跡平成2年度発掘調査概報』
6 九州歴史資料館1982『大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報』
7 福岡県教育委員会1978『筑前国分寺--昭和52年度発掘調査概報』
8 太宰府町教育委員会「宮ノ本遺跡」『太宰府町の文化財3』1980
9 筑紫野市教育委員会「大宰府条坊跡第200次発掘調査」『筑紫野市文化財調査報告書75』2003
10 九州歴史資料館1975『大宰府史跡昭和49年度発掘調査概報』
11 太宰府市教育委員会2015「大宰府条坊跡46」『太宰府市の文化財　第127集』
12 太宰府町教育委員会1984「大宰府条坊跡Ⅲ」『太宰府町の文化財　第8集』（条17～28次）
13 太宰府町教育委員会1982「大宰府条坊跡(1)」『太宰府町の文化財 第5集』
14 前川威洋ほか『福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告2～9』福岡県教育委員会1975～1980
15 櫻井康治ほか『筑後国府跡、国分寺跡(昭和59年度)』『久留米市文化財調査報告書44』1985

口径　　11.4 < 11.7-12.2-12.7 > 14.2

器高　　2.7 < 3.2-3.4-3.6 > 4.2

底径　　5.4 < 6.5-6.9-7.3 > 8.2

Ⅲａ（条 269SX100）

口径　　12.1 < 12.4-13.2-13.9 > 15

器高　　1.2 < 1.4-1.8-2.1 > 2.5

底径　　8.7 < 8.9-9.7-10.5 > 11.8

この間のⅥＢ期の３例の平均では、平均口径 12.8cm である。

なお今回報告の34SK100（Ⅶ期）の坏a平均口径はやや大きくⅥB期の数値に近いが、12cm未満を含む点ではⅦ期となる。また土器色調もⅦ期以降に通有な白っぽい色調である。

9世紀代の坏法量については、ⅥA期・9世紀第1四半期→ⅥB期・9世紀第2四半期→Ⅶ期・9世紀第3四半期の年代下降順に、具体的な統計値をあげて型式序列を見たが、これは9世紀代の遺構年代推定に有効な基礎数値部分となる。

量産形坏ａのⅤ期からⅧ期について、外観と法量値の区別観点を大ざっぱに上げたが、これを型式

同定の目安にし、次に型式精度を高める統計計算や器種構成の検討を行う事を要する。

これらの型式は連続したもので、近接型式間の区別に対する難度も出て来る。短期の埋納、一括廃棄など好条件の遺構例は少なく、埋没期間の幅を持つ遺構では連続する２型式混在の場合も多いが、下の①②③要点とともに他の器種構成を同時把握する事で精度を高める事ができる。

①土器色調

赤味（茶褐色・橙色など）の色調はⅥ期まで、灰白味（黄灰・淡灰色など）はⅦ期以降。

②形態の鋭利さから鈍化傾向

底部平坦、体部直線的で底部端に鋭利さを持つのはⅥ期まで、底部端と体部下位の境が鈍化するのはⅧ期以降。間のⅦ期には鈍化するものが出始める。

①口径・器高の変化

口径13.3cm前後はⅤ・Ⅵ共通、Ⅶ期は12.3cm、Ⅷ期は11.6cm前後となる。Ⅶ期以前の器高は3cmを超すが、Ⅷ期以後は3cm未満となる。ⅥB期はⅥA期とⅦ期の中間口径であり、土器色調では赤味傾向が残るが、Ⅶ期に連なる淡色化傾向も出て来る。

**[7]　貿易陶磁の検討**

貿易陶磁や国産施釉陶器は広域に共通資料が分布するため、土器などの地域限定的な個別色に止まらず地域を超えたな比較も可能となる。本書冒頭に提示する大宰府編年の土器型式・国産施釉陶器・貿易陶磁３つを含む区分は 1998 年に国産施釉陶器型式を追加した段階の案であり、かなり時間を経ているが今日でも時期区分の変更はない。第 34 次調査出土の貿易陶磁については出土品のうち注目すべきものをあげ、編年案の一助としておく。

A 期（8 世紀第 4 四半期～ 10 世紀中頃）

A 期は古相、新相に分かれ、Ⅵ期までは古相、Ⅶ期では古相・新相両者の組み合わせからなり、以後新相の陶磁器が主となる。

長沙窯系製品、生産地報告では多様な釉がある。磁器とするか陶器とするか区別が明確でない場合がある。中国では磁器は一定区別し、曖昧かつ包括的な磁器に類する質として「青釉」「白釉」などを使用するものと見られ、長沙窯陶磁はこうした半磁器的な品質を指す。第34次SD210（ⅥA～ⅥB）では暗茶褐の単色釉の壺がある。この器形は日本に例も多い黄釉褐彩水注とは異なるものと見られる。他に単釉で黒褐釉に近い水注胴部片（表土出土）がある。この褐釉単色例では器形全体の知れるものとして福岡市徳永遺跡出土のⅥ～Ⅶ期と推定される水注がある（Fig.52）（註32）。褐釉の場合はやや暗い灰黄味の胎土に特徴があり、胎土に白斑が目立つ例が多く、化粧土は掛からない。徳永例も同様である。大宰府条坊では他の地点でも褐釉壺・水注例を確認しており全国的には少ないがA期古に褐釉壺、水注が追加される。

Fig.52　福岡市徳永遺跡出土長沙窯水注（福岡市博物館）

B 期

この期の土器はⅩ・Ⅺ期に相当する。第 34 次では遺構数も少ないが、一般的に B 期標識磁器の例は限られる。白磁Ⅺ類は表 7 にあげた遺構出土例がある。Ⅺ期 (11 世紀中頃 ) の 2 例は B 期範囲内であり他は次の C 期にも続けて出土する。また C 期白磁は B 期に出土しないため編年的に問題は生じない。

C 期

B 期に後続する新型式の福建・広東産白磁が主体となる時期である。この期には数量に目立つほどの量はないが朝鮮半島産の初期高麗青磁や無釉硬質陶器が出土し始める。中国産青磁は初期タイプの龍泉・同安窯系 0 類、さらに少数の耀州窯系青磁が標識となるが、初期高麗青磁の数がやや多いため、中国青磁に対する補完的な傾向を持つと見られる。第 34 次の遺構出土の高麗青磁・無釉陶器はⅫ期に属し B 期にまで遡るものはない（表 8）。

以上の要点は従来の土器型式に準じた貿易陶磁編年にも矛盾のない点となる。

**[8]　貿易陶磁と階層性について**

遺構のみで居住者の階層性を導きだす事は実際に難しい場合がある。第 34 次についてみれば 8 世紀後半～ 10 世紀の建物は不明で、遺構からこの点を一歩進める手だてがない。そこで貿易陶磁数量による検討を行う。第 34 次のみの計量に限ると判別できない点が生じるため、条坊 200 次の陶磁数量と比較する。

条坊第 200 次（筑紫野市調査）は右郭 1 坊 17-18 条間の敷地であり、第 34 次とは同じ朱雀大路から近接する右郭 1 坊内となる。第 34 次の 13 条位置に対して第 200 次は条坊南端に近いが、それぞれ右郭 1 坊という土地の一等条件は共通し居住する階層ランクを導く手掛かりとする。陶磁器の年代幅範囲は等しく、第 34 次と異なる点として、第 200 次ではやや規模の大きい南北棟の掘立柱建物が検出されていて、この敷地における主要な施設と目され、大方 9 世紀後半～ 11 世紀後半の間に位置する。

陶磁器の計量化については、分類特定が困難な破片でも緩い範疇に帰属させる事ができる場合があり、表 9 の [×][ - ] の印は、該当時期以外は排除されるため一定精度がある。この部分の鑑定内容が弱いと不明資料が増え、遺跡の中心的年代について正しい結果が出ない。出土全点数を単に集計するだけでは意味も少ないので、表には各時期別、陶磁の種類や器種別、一般器種に対して高価となる例は壺・水注など（ランク A･B）、価格は高価とは言えないが内容物に付加価値を想定できる一般陶器（ランク C･C 期以降が主）、遺跡調査面積単位の陶磁取得率などを反映させている。取得率は 1 点出土に対して占める土地面積に還元する（表 9）。これからすると以下の点が導き出され、ここではとくに古期の条坊地割に関する A 期（8 世紀後半～ 10 世紀中頃）に限り主な傾向を出す。

①陶磁点数・これは実際の資料数で条 34 次は 306 点、条 200 次は 60 点。

面積に対する取得率・条 34 次の 2 ㎡に対して条 200 次は 45 ㎡で条 34 次は 20 倍強の高い取得

表.7　第34次調査 白磁XI類出土遺構一覧

| 遺構番号 | 器種 | 部位 | 分類（点数） | 時期〈期〉 |
|---|---|---|---|---|
| SK 025 | 椀 | 口縁 | XI(1)、XI[輪花](1) | XI |
| SX 026 | 椀 | | XI(1) | 平安? |
| SK 070 | 椀 | 口縁 | XI(1)、XI-5[タテヘラ](2) | Ⅻ |
| SD 078 | 椀 | 口縁 | XI-4(1) | Ⅻ・XⅢ |
| SD 110 | 椀×Ⅲ | 口縁 | XI-5(1) | XI・Ⅻ |
| SK 120 | Ⅲ | 口縁 | XI-5(1) | Ⅻ |
| SK 120 | 椀 | 口縁 | XI-4(1) | Ⅻ |
| SD 121 | 椀 | 口縁 | XI-4(1) | Ⅻ |
| SK 205 | Ⅲ | 口縁 | XI-3(1) | Ⅻ |
| SD 228 | 椀 | 高台 | XI(1) | XI |
| SD 229 | Ⅲ | 口縁 | XI?(1) | Ⅻ |
| SK 230 | Ⅲ | 高台 | XI(1)[混入] | VIA |
| SK 234 | 椀 | 全体 | XI(1) | Ⅻ |
| SD 240 | 椀 | 口縁 | XI-4(1) | Ⅻ |
| SK 225 | Ⅲ | 高台 | XI | Ⅻ |

表.8　第34次調査 高麗陶磁出土遺構一覧

| 遺構番号 | 青磁 | 無釉陶器 | 時期〈期〉 |
|---|---|---|---|
| SK 020 | 破片I? | | XⅢ-XⅣ |
| SX 035 | 椀；(1) | | Ⅻ |
| SX 056 | 椀；Ⅲ-2A?[S-70と接合](1) | | 平安 |
| SK 060 | 椀；I[表土と接合](1) | 破片(1) | Ⅻ |
| SK 070 | 椀；Ⅲ-2A?[S-56と接合](1) | 甕破片(2) | Ⅻ |
| SD 071 | 坏他；破片高麗?(1) | | Ⅻ |
| SD 078 | 坏他；破片Ⅲ?[S-110と接合](1) | | Ⅻ・XⅢ |
| SD 084 | 坏他；破片Ⅲ?[S-110と接合](1) | 甕 | Ⅻ |
| SK 095 | 椀；I(1) | | Ⅻ |
| SD 101 | 椀；I?(1) | | Ⅻ |
| SD 102 | 坏他；高麗?(1) | | Ⅻ、XⅢ |
| SK 105 | 坏他；破片高麗?(1) | ○ | Ⅻ |
| SD 110 | 坏他；破片Ⅲ?[S-78と接合](1) | | XI・Ⅻ |
| SK 120 | 坏他；破片高麗?(1) | | Ⅻ |
| SK 145 | 椀；I[S-84と接合][1]、Ⅲ-1(1) | | Ⅻ |
| SX 181 | 坏他；破片Ⅲ-A(1) | | Ⅻ |
| SD 225 | 椀；I-1?(1) | | Ⅻ |
| SD 229 | 坏他；破片I(1)・?(1) | | Ⅻ |
| SD 238 | | 甕 | Ⅻ |

を示す。

②高級陶磁のランク AB 取得数・条 34 次は 32 点、条 200 次は 9 点。

面積に対する取得率・条 34 次は 1 点 18 ㎡に対して条 200 次は 1 点 5.5 ㎡。

③国産施釉陶器点数・これは出土品の多くはＡ期と見られるのでそのままの数値を使用する。

条 34 次は 189 点、条 200 次は 65 点。

面積に対する取得率・条 34 次は 1 点 3 ㎡に対して、条 200 次は 1 点 45 ㎡。条 34 次は 14 倍高い取得を示す。

以下要約すると

②の点では条 200 次が一見優位な数値比率となるが、実数値では条 34 次に及ぶところではない。また条 200 次の遺物量は多くはないが、中国産の初期貿易陶磁（浙江省越州窯・福建省系青磁、北方の白磁、湖南省長沙窯）と国産の灰釉・緑釉陶器（東海、京都、防長産）から構成されており、当時の優位な階層が用いた高級食器の類が一式揃う。水注、合子、香炉といった一種の贅沢品とみられる器物もある。

高級陶磁の内容は条 34 次、条 200 次とも大きく差はない。これはＡ期段階には必ずしも高級陶磁が階層に応じた歪な所有状態となっていないという点を暗示させるから、この種については比較的均等な種類の取得が考えられる。次に①③では面積尺度を当てはめると、同じ宅地面積でも陶磁保有の絶対数には極端な差が生じる事となる。この部分が一つの階層差を示唆すると考えて良い。条 34 次は政庁に近く位置的にも 200 次より優位な階層の居住地と見られるから、この点でも納得できる事となる。

**[9]　黒色土器 B 類の塗布例について（Fig.53）**

黒色土器は事前に篦で磨きあげられた土師器の器面に、燻し焼により炭素を器面に吸着させ、黒漆や金属光沢に近い質感を出したものとされ、この光沢質感は焼成時の反応で得られた効果とするのが一般的な解釈である。第 34 次では黒色光沢化に際して明らかな塗布の境線と見られる例が 3 点あり、例を聞かないため取り上げた。出土遺構は SD078.SK070.SK234 からそれぞれ出土した黒色土器で、内外面を黒色化したＢ類の椀ｃ(有高台椀)である。塗布線境はいずれも体部外面中位よりやや下の位置で、境線から上方は光沢が強く、境線下から高台部にかけては光沢はない。SD078 例ではこの点が明瞭である。これは細かく篦磨きされた磨き 1 本単位内でも磨きとクロスする明瞭な境線を残すため、単に焼成時の差ともできない点がある。通常重ね焼きによる光沢差はあるが、この場合の境はぼやけている

表.9　右郭1坊宅地における陶磁量の比較

| 時期→ | 調査面積㎡↓ | 貿易陶磁(時期別 A | A×B | B | B×C | C | C>D | C×D | D | C-F | E-G | その他 | 不明 | 計 | (ランクAB A | B | C | CD | D |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 条34次 | 570 | 309 | 6 | 30 | 3 | 409 | 104 | 115 | 15 | 7 | 16 | 1 | 32 | 1047 | 32 | 7 | 3 | 3 | 0 |
| % | | 29.6 | 0.6 | 2.9 | 0.3 | 39.2 | 10.0 | 11.0 | 1.4 | 0.7 | 1.5 | 0.1 | 3.1 | 100.0 | 3.1 | 0.7 | 0.3 | 0.3 | |
| 1点出土面積 | ㎡ | 2 | 95 | 19 | 190 | 1 | 5 | 5 | 38 | 81 | 36 | 570 | 18 | 1 | 18 | 81 | 190 | 190 | |
| 条200次 | 2700 | 60 | 0 | 2 | 0 | 86 | 7 | 2 | 3 | 0 | 0 | 0 | 9 | 169 | 9 | 0 | 4 | 2 | — |
| % | | 35.5 | | 1.2 | | 50.9 | 4.1 | 1.2 | 1.8 | | | | 5.3 | 100.0 | 5.5 | | 2.4 | 1.2 | |
| 1点出土面積 | ㎡ | 45 | | 1350 | | 31 | 386 | 1350 | 900 | | | | | 16 | 300 | | 675 | 1350 | |

| C-F | E-G | その他 | 不明 | 計 | (ランクC A | B | C | CD | D | C-F | E-G | その他 | 不明 | 計 | 灰釉 | 緑釉 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 1 | 1 | 1 | 50 | 0 | 0 | 12 | 7 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 24 | 42 | 159 | 201 |
| 0.2 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 4.8 | | | 1.2 | 0.7 | | 0.5 | | | | 2.3 | 20.9 | 79.1 | 100 |
| 285 | 570 | 570 | 570 | 11 | | | 48 | 81 | | 114 | | | | 24 | 14 | 4 | 3 |
| — | — | — | — | 15 | 1 | | | — | — | — | — | — | — | 1 | 6 | 59 | 65 |
| | | | | 9.1 | 0.6 | | | | | | | | | 0.6 | 9.2 | 90.8 | 100 |
| | | | | 180 | 2700 | | | | | | | | | 2700 | 450 | 46 | 42 |

例が多い。塗布剤使用とする場合には、鋳造技術でよく用いられる鋳型面にクロミを塗布する例が想起されるが、半透明塗布剤などでも可能と思われ判断はつかない。またこれが焼成前、焼成後なのか不明で、通常は焼成前と考えられが、焼成後であれば光沢化不良製品の手直しとなる。今後の検討を要する。SD078 例はⅫ - ⅩⅢ期、他はⅫ期である。

**[10]　白色土器と緑釉陶器素地**

大宰府ではこの種の出土報告も少ないので取り上げる。SD084 には白色土器と見られる高台付椀 c があり、同じ時期の土師器椀とは丁寧な磨き手法、形態、色調で差別化ができるほか、緑釉陶器素地の可能性もある。後者ならば貼付高台からみて防長産の可能性がある。また周防国府では白色土器の出土報告もある（註 33）。畿内では白色土器が 9 世紀前半以降出土し、削出し高台などの特徴は山城産緑釉に近い。以後増加傾向にあるが全体量からは少ない比率であり、形骸化しつつ 12 世紀まで続くようである。白色土器と緑釉素地の区別化は相当難しい点が残る。大宰府出土の緑釉素地の可能性として大宰府史跡第 94 次 SX2747（時期不詳）の報告がある（註 34）。

白色土器については観世音寺周辺の条 199SE010 で第 34 次のものと近い形態の椀があり、ⅩⅣ期 (12 世紀中頃 ) と報告される（註 35）。条坊 71 次の 11-12 世紀層から出土した白色土器は上記とは異なり小形、形骸化した非日常器種と見られる坏皿で、これは緑釉素地とは言えない（註 36）。九州一円ではきわめて数は限られるが白色土器の例はあり、人によっては白磁模倣とするものが含まれる。これらは大体Ⅻ期前後と推されるが、正確な情報を得ていないためここでは割愛する。

第 34 次調査では、上とは別に畿内、山城産（洛西型）の明らかな緑釉素地が 2 点出土しており、遠隔地に出土する事は稀な例となるが、この事実からみれば防長産の緑釉素地が大宰府に出ても違和感はなく、今後注意すべき点であろう。

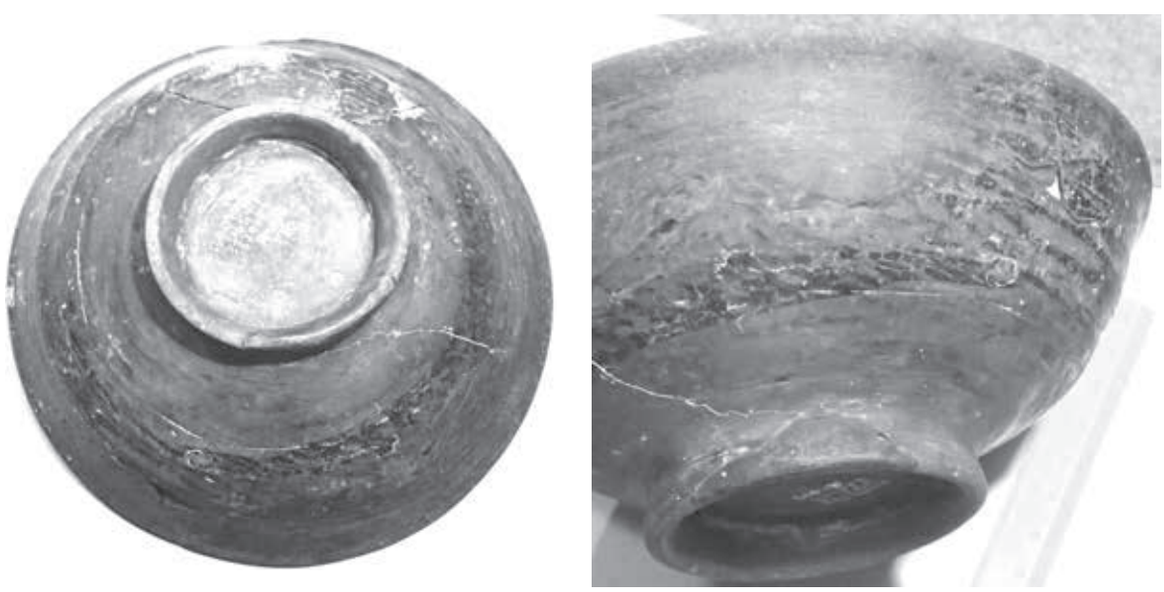


Fig.53　黒色土器 B 類の塗布状況（34SD078 出土）

(註)

1、太宰府市教育委員会 1983「大宰府条坊跡Ⅱ」『太宰府市の文化財第 7 集』(条 16 次は 6AYN-B 地域)

2、場所は西鉄大牟田線の西側近接地で現在は撤去されている。森田勉氏(故人・九州歴史資料館)の確認による。

3、西日本新聞記事。1986 年 3 月 7 日付朝刊「アラー　イスラム陶器片、大宰府から出土」

4、三上次男 1987『陶磁貿易史』上、三上次男著作集 1 (P.357 付記)

5、第 34 次調査以降周辺部で多くの調査が行われた。条 168・267・277 次調査は、左槨 14・15 条一坊・二坊にまたがる広い面積が調査され、条坊路交差点や奈良時代から平安後期に及ぶ路側溝がほぼ同じ位置で検出されており、第 34 次調査結果を裏付ける成果となる。

・太宰府市教育委員会 2014「大宰府条坊跡 44- 推定客館跡の調査概要報告書」『太宰府市の文化財第 122 集』

6、山本信夫 1991「統計上の土器－歴史時代土師器編年研究に寄せて－」『乙益重隆先生古稀記念論文集』

・山本信夫・山村信榮 1997「中世食器の地域性　九州・南西諸島」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 71 集

7、椀以外には高足坏(馬上坏)の可能性もある。

・韓国文化公報部・文化財管理局編 1988『新安海底遺物総合篇』

8、太宰府市教育委員会 1980「宮ノ本遺跡」『太宰府町の文化財第 3 集』(宮ノ本遺跡 2 号墓)

・山本信夫 1997「宮ノ本遺跡買地券と墳墓の検討」『古代の碑』国立歴史民俗博物館

9、太宰府市教育委員会 1996「大宰府条坊跡 IX」『太宰府市の文化財第 30 集』

10、九州歴史資料館 1982『大宰府史跡昭和 56 年度発掘調査概報』

11、下記に各次報告と論文を示す。

・太宰府市教育委員会 1998「大宰府条坊跡 X」『太宰府市の文化財第 37 集』

・狭川真一 1990「大宰府条坊の復原 - 発掘調査成果からの試案」『条里制研究』第 6 号

・太宰府市教育委員会 2004「大宰府条坊跡 22」『太宰府市の文化財第 69 集』

・井上信正 1997「大宰府条坊の区割りについて - 発掘成果からの試案」『条里制研究』第 13 号

・中島恒次郎 2008「居住空間史としての大宰府条坊論」『九州とアジアの考古学』九州大学考古学研究室 50 周年記念論文集

・太宰府市教育委員会 2015「大宰府条坊跡 45」『太宰府市の文化財第 123 集』

・筑紫野市教育委員会 2003「大宰府条坊跡第 200 次発掘調査」『筑紫野市文化財調査報告書 75』

・九州歴史資料館 2010「大宰府政庁周辺官衙跡 I- 政庁前面広場地区」

12、前掲註 11 参照。

13、奈良市教育委員会 2013「西大寺旧境内発掘調査報告書 1- 西大寺旧境内第 25 次調査(本編)」『奈良市埋蔵文化財調査研究報告第 3 冊』

14、各遺跡の資料と文献については以下に詳細がある。

・山本信夫 2002「日本・アジア海域における 9 ～ 10 世紀の貿易陶磁とイスラム陶器」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 94 集

15、太宰府市教育委員会・玉川文化財研究所 2004「大宰府条坊跡 26- 第 225 次調査」『太宰府市の文化財第 76 集』平成 16 年 [p57, 図 30, 図版 14

16、九州歴史資料館 2007「観世音寺 - 遺物編 1」

17、筑後国府第 274 次調査、朝日新聞 2013.9.25 記事、筆者実見。

18、長崎県教育委員会、川畑敏則氏調査、2014 年筆者実見。

19、前掲書註 13)

20、山本信夫 1992「古代の土器研究 --- 律令的土器様式の西・東」『古代の土器研究会第 1 回シンポジウム』奈良国立文化財研究所

21、山本信夫 1994「北部九州の施釉陶器 -8 ～ 12 世紀の大宰府を中心に -」『古代の土器研究会　第３回シンポジウム　律令的土器様式の西・東３ー施釉陶器の生産と消費ー』奈良国立文化財研究所

・山本信夫 1999「研究ノート・大宰府出土施釉陶器の編年について - 九州の緑釉・灰釉陶器の基礎資料集成 -」『国立歴史民俗博物館研究報告　第 82 集』

22、前掲書註 21）

23、財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013「平安京右京三条一坊六・七町跡 - 西三条第（百花亭）跡」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-9』（藤原良相邸）

24、九州歴史資料館 2007「観世音寺 - 遺物編 2」

25、韓国中央博物館 1995「八馬　理氏所有寄贈工芸品、特別展示」

・新潟県立近代美術館 1999「唐皇帝からの贈り物」展図録（中国法門寺）

26、奈良国立博物館 1976「古神宝 - 神々にささげた工芸の美」平成元年

27、村田孝子・津田紀代ほか「日本の化粧 - 道具と心模様」「ポーラ文化研究所コレクション -2」ポーラ文化研究所 1989

28、小松大秀「日本の美術 4-No245 化粧道具」1989

29、前掲書註 27)

30、前掲書註 6)

31、太宰府市教育委員会 2015「大宰府条坊跡 46」『太宰府市の文化財　第 127 集』

32、福岡市教育委員会 1991「徳永遺跡 - 国道 202 号線今宿バイパス関係埋蔵文化財調査 II」『福岡市埋文報第 242 集』

33、杉原和恵 2003「防長」「古代の土器研究、平安時代の緑釉陶器 - 生産地の様相を中心に -」古代の土器研究会第 7 回シンポジウム資料 2003 古代の土器研究会）

34、九州歴史資料館 1986『大宰府史跡昭和 60 年度発掘調査概報』

35、太宰府市教育委員会 2002「大宰府条坊跡 20」『太宰府市の文化財第 60 集』

36、条坊第 71 次調査は未報告、1988 年太宰府市調査、左郭六条六坊推定地所在で観世音寺南側の条坊地域。上層は 13 ～ 14 世紀の鋳造工房を中心とした遺構があり、下層は 11 世紀中・後半～ 12 世紀前半の集落関連遺構がある。下層には大量の土器が出土しており、注目すべき遺物には、12 世紀前半の紀年銘と使用者名を刻字した滑石製温石（完形品）がある。これは石鍋の再加工品でなく温石専用品としてつくられたとみられる。

Fig.54　第 34 次調査遺構略測図（1/150）

## 表.10　第34次調査遺構一覧表

●標識となる土器群

| S-番号 | 遺構番号 | 遺構種別 | 遺構の新旧関係<br>古→新、切合不明⇔ | 貿易陶磁区分<br>[×D]確定D無 | 国産▼緑釉,<br>▽灰釉<br>(-)該当遺物無 | 土器型式 | 標識<br>遺構 | 年代 | 地区 | 遺物備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 34SX001 | ピット | | - | - | Ⅸ | | 10c中頃 | J4 | 少数 |
| 2 | 34SX002 | 土坑？ | | - | - | | | 7c後～8c後 | K1・2 | 少数 |
| 3 | | ピット群 | 2→3 | - | - | | | 平安 | K1 | 少数 |
| 4 | | ピット | 2→3 | - | - | | | 11-12c? | K1 | 少数 |
| 5 | 34SK005 | 土坑 | | A | - | Ⅻ | | 11c後-12c初頭 | K2・3 | |
| 6 | | ピット | 2→6 | - | ▽ | | | 平安 | K1 | 少数 |
| 7 | | ピット | 8→7 | - | - | | | 11-12c? | K1 | 少数 |
| 8 | | ピット | 8→7 | - | - | | | - | K1 | |
| 9 | | ピット | | - | - | | | 平安 | J4 | |
| 10A | 34SX010A | ピット | 10B同一 | - | ▼▽ | | | 9c初 | J2 | |
| 10B | 34SX010B | ピット | 10A同一 | - | - | | | 9c初 | J2 | |
| 10C | 34SX275 | ピット | 10AB→10→10C[275] | - | - | | | | J3 | 9c入る |
| 10 | 34SK010 | 長い土坑 | 10AB→10→10C[275] | - | ▼ | ⅥA | ● | 9c初 | J2・3 | |
| 11 | | ピット | 2→11 | - | - | | | - | K2 | |
| 12 | | ピット群 | | - | - | | | - | K2 | |
| 13 | 34SX013 | ピット | | - | - | Ⅻ | | 11c後-12c初頭 | K2 | |
| 14 | | ピット | | A | ▼ | | | 平安 | J2 | |
| 15 | 34SK015 | 土坑 | | - | ▼ | Ⅶ | | 9c後 | K1・J1 | |
| 16 | | ピット | 16→5 | - | - | Ⅻ以前 | | 8c後? | K2 | |
| 17 | | ピット | 17→5 | - | - | Ⅻ以前 | | 平安 | K3 | |
| 18 | | ピット | | - | - | | | 平安9c? | K3 | |
| 19 | | ピット | 43→19 | - | - | | | | K3 | |
| 20 | 34SK020 | 土坑 | | A・B・C | - | ⅩⅢ-ⅩⅣ | | 12c前～中 | K4 | |
| 21 | | ピット群 | 77→21 | - | - | | | 平安? | K3 | |
| 22 | 34SX022 | ピット群 | | - | ▼ | | | 平安? | K4・L4 | |
| 23 | | ピット群 | | C×D? | - | | | 平安? | K4・L4 | |
| 24 | | ピット群 | - | A | - | | | | J1 | |
| 25 | 34SK025 | 土坑 | 25→35 | A・B | ▼ | Ⅺ | ● | 11中 | J2,I2 | |
| 26 | | ピット | 26→24 | B | - | | | 平安 | J1 | 少数 |
| 27 | | ピット | 10→27 | - | - | | | | J2 | |
| 28 | | ピット | 10→28 | - | - | | | | J2 | |
| 29 | | ピット | | - | - | | | 11-12c前 | J2 | 少数 |
| 30 | 34SK030 | 土坑 | 51→30? | A・C(混入) | ▼▽ | ⅥB-Ⅶ | ● | 9c2・3/4 | I4 | |
| 31 | | ピット群 | | - | - | | | | J2 | |
| 32 | 34SK032 | 土坑 | | - | - | 不詳 | | | J2 | |
| 33 | | ピット | 33→35 | - | ▼ | Ⅻ以前 | | 平安 | I3 | |
| 34 | | ピット群 | | C | ▽ | | | | J4 | 8-11c含む |
| 35 | 34SX035 | 土坑か | 25→35 | C | ▼ | Ⅻ | | 11c後-12c初頭 | J3 | |
| 36 | | ピット | | - | - | | | 平安 | J4 | |
| 37 | | ピット群 | | - | - | | | 平安 | K4 | |
| 38 | | ピット | 38→20 | - | - | | | 平安? | K4 | 少数 |
| 39 | 34SX039 | ピット | 20→39 | - | ▼ | | | 平安? | K3 | 少数 |
| 40 | 34SX040 | ピット | 40→35 | - | - | Ⅳ・Ⅴ | | 8c後 | J3 | |
| 41 | | ピット群 | | - | ▼ | | | 平安 | J3 | 平,11c前含む |
| 42 | | ピット | | - | ▼ | | | - | J3 | |
| 43 | 34SX043 | ピット | 43→41 | A・C? | ▼ | Ⅵ-Ⅶ | | 9c? | J3 | |
| 44 | 34SX044 | ピット | | - | ▼ | Ⅵ? | | 9c? | I4 | |
| 45 | 34SK045 | 土坑 | 45→46・34 | - | ▽ | Ⅳ | | 8c後 | J4 | 8ｃ前・中多 |
| 46 | | ピット群 | 45・108→46 | - | - | | | 平安 | I4 | |
| 47 | | ピット群 | | - | - | | | 平安 | I4 | |
| 48 | 34SX048 | ピット群 | | - | - | | | 平安 | I3 | Ⅵ,Ⅷ,XⅡ複数ピット<br>土器混在 |
| 49 | | ピット群 | | A | ▽ | | | | I2 | |
| 50 | 34SK050 | 土坑 | 59→50→57 | A | ▼ | Ⅵ-Ⅶ | | 9c2・3/4 | H3 | |
| 51 | | ピット | 51→30? | - | ▽ | ⅥB-Ⅶ以前 | | 平安 | I4 | |
| 52 | | ピット群 | 53→35 | - | - | Ⅻ以前 | | 平安 | J3 | |
| 53 | | ピット群 | 53→25 | A | - | Ⅺ以前 | | 平安 | J3 | |
| 54 | | ピット群 | | | | | | | I1 | |
| 55 | 34SK055 | 土坑 | 66→64・55,(S-66と同?) | - | ▼ | Ⅹ-Ⅺ | | 10c後-11c中 | H1 | |
| 56 | | ピット群 | 56→30/56→101 | A・C | - | | | 平安 | H4 | |
| 57 | | ピット | 50→57 | - | - | | | 平安 | H4 | |
| 58 | | ピット群 | - | - | - | | | - | H4 | |
| 59 | | ピット群 | 59→50 | - | ▼ | | | 平安 | H3 | |
| 60 | 34SK060 | 土坑 | 65→60 | C | ▼ | Ⅻ | | 11c後-12c初頭 | H2 | |
| 61 | | ピット群 | - | - | - | | | - | H3 | |
| 62 | | ピット | 62→65/63⇔62? | - | - | | | 平安 | H3 | |
| 63 | | ピット | 63→65 | - | - | | | 9c? | H3 | |
| 64 | | ピット群 | 66→64 | - | - | | | 平安 | H2 | |
| 65 | 34SK065 | 長方土坑 | 65→60/62.63.72→65 | A・[C混入 | ▼ | Ⅵ-Ⅶ主 | | 9c後～10c | H2 | X-Ⅺ混入 |
| 66 | 34SK066 | 土坑 | 66→64·55,(55のウラゴメ?) | A | ▼ | Ⅹ-Ⅺ以前 | | 平安 | H2 | 66下層10c,<br>8c後-9c初多 |
| 67 | | ピット群 | 67→60 | - | - | Ⅻ以前 | | 平安 | H3 | |
| 68 | 34SX068 | ピット | 68→63→62,(68・63同一?) | - | - | Ⅶ | | 9c後 | H3 | |
| 69 | 34SX069 | ピット | | - | - | Ⅶ | | 9c後 | H2 | |
| 70 | 34SK070 | 土坑 | 71→75→70/106→70,(70と70B,<br>2つ重複切合不明 | A・B・C | ▼▽ | Ⅻ＞ⅩⅢ | ● | 11c後-12c前 | J5 | 小皿a(糸切)1混入か |
| 71 | 34SD071 | 溝 | 71→75→70/71→78? | A・C | ▼ | Ⅻ | | 11c後-12c初頭 | 5ライン | |
| 72 | | ピット群 | 72→65 | - | ▼ | | | 平安 | H2 | |
| 73 | | ピット群 | 173→73 | - | ▼ | | | 平安 | G2 | |
| 74 | | ピット群 | 74→46 | - | - | | | - | I4 | |
| 75 | 34SK075 | 土坑 | 71→75→70 | A・C | ▼ | Ⅻ | ● | 11c後-12c初頭 | J4 | |
| 76 | | ピット | 76→38→20 | - | - | ⅩⅢ-ⅩⅣ以前 | | - | K4 | |
| 77 | 34SX077 | 凹み | 77→2・18・21 | - | - | Ⅰ-Ⅲ | | 8c | K2・3 | |
| 78 | 34SD078 | 溝 | 106→78→71?/78→182/<br>110→95→78→70 | A・B・C | ▽ | Ⅻ＞ⅩⅢ | ● | 11c後-12c前 | 5ライン | 糸(1)あり,大半XⅡ,<br>黒B一部XI |
| 79 | 34SX079 | ピット | 77→79,(位置不明) | - | ▼ | | | 10c後～11c前 | K2 | ▼近江のみ |

●標識となる土器群

| S-番号 | 遺構番号 | 遺構種別 | 遺構の新旧関係 | 貿易陶磁区分 | 国産▼緑釉,▽灰釉 | 土器型式 | 標識遺構 | 年代 | 地区 | 遺物備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 古→新、切合不明⇔ | [×D]確定D無 | (-)該当遺物無 | | | | | |
| 80(80B) | 34SD080 | 溝 | 80→83/80→98 | - | - | V・VIA下限 | ● | 8c後-9c初 | 6ライン | 7c後半～II.<br>IIIまであり |
| 81 | | ピット | 81→77→2・16・12・13・14 | - | - | | | 7c後～8c? | K2 | |
| 82 | 34SD082 | 溝 | 106→78→82 | A・C・D | - | | | 12c中-後 | 5ライン | |
| 83 | 34SD083 | 溝 | 84と一連か | A | ▼ | 11cか | | 11c? | 6ライン | 8c大半 |
| 84 | 34SD084 | 溝 | 240と同か/91→84 | A・B・C | ▼ | XI-XII | ● | 11c後-12c初頭 | 6ライン | 一部X-XI |
| 85(80A) | 34SD085 | 溝 | 85(80A)→80B | - | - | V・VIA下限 | | 8c後-9c初 | 6ライン | |
| 86 | | ピット | | - | - | | | 11c後 | L6 | |
| 87 | | ピット群 | 87→34・75/87⇔45? | - | - | XII 以前 (IV 以前? | | 平安? | J4 | |
| 88 | | ピット | 88→71 | - | - | XII以前 | | 平安 | L4 | |
| 89 | | ピット | 89→78・71 | - | - | XII以前 | | 平安 | L5 | |
| 90 | 34SD090 | 溝 | 90→100/90→125 | - | - | V・VIA下限 | | 8c後-9c初 | 7ライン | II・III多い,<br>一部7c中・後あり |
| 91 | 34SD091 | 溝 | 96→91→84 | A・B・C | ▼ | XII | | 11c後-12c初 | J6 | |
| 92 | | ピット | 92→90 | C? | - | V・VIA以前 | | 平安初? | H7 | |
| 93 | 34SD093 | 溝 | 82と対?,(231と同? | A・C | ▼▽ | XII以後 | | 12cまで(14c前? | 7ライン | 坏片糸,陶器鉢Iあり |
| 94 | 34SK094 | ピット | 94→93 | C | - | XII | | 11c後-12c初 | H7 | |
| 95 | 34SK095 | 土坑 | 95→101,95→78→102 | C | ▽ | XII | ● | 11c後-12c初 | H5 | 78の土器一部混じる |
| 96 | 34SD096 | 小溝 | 96→91 | C×D | - | XII以前 | | 平安 | I6 | |
| 97 | 34SD097 | 小溝 | 80→97 | - | - | | | 9c前? | H5 | 遺物は8cのみ |
| 98 | 34SD098 | 小溝 | | - | - | - | | 9c前? | H5 | 遺物は8cのみ |
| 99 | 34SD099 | 小溝 | 113→99 | - | - | - | | 9c前? | I～K5 | 遺物は8cのみ |
| 100 | 34SK100 | 土坑 | 90→100 | A | ▼▽ | VII | ● | 9c3/4 | F7 | V・VI一部 |
| 101 | 34SD101 | 小溝 | 101→102/56→101 | A・B・C | ▽ | XI＜XII | | 11c後-12c初 | H5 | IX-X少数 |
| 102 | 34SD102 | 小溝 | 95.134→102/101→102,(78同一か | A・C・[×D] | ▽ | XII＞XIII | ● | 11c後-12c前 | H5 | 糸1、白磁皿II×III2 |
| 103 | | ピット | 103→93 | C | - | | | 11c後-12c | H7 | |
| 104 | | S-102壁面の黄色土 | | - | - | | | 7c後半？ | H5 | |
| 105 | 34SK105 | 長土坑 | 105→78 | C[×D] | - | XII | | 11c後-12c初 | I5 | XI一部 |
| 106 | 34SK106 | 土坑 | 106→78, 106→70 | A | - | XII | | 11c後-12c初 | I5 | |
| 107 | | ピット群 | 107→99 | - | - | | | | I5 | |
| 108 | 34SK108 | 土坑 | 108→71→78/108→95,30? | A | ▼ | 9c? | | 9c? | I5 | 9c大半、11c小IIIa71から混入? |
| 109 | | ピット | 108→109 | A | - | | | 11c? | I5 | |
| 110 | 34SD110 | 溝 | 110→95→102,110→120,(228の掘直し?) | A・B・C[×D] | ▽ | XI＜XII | ● | 11c中-12初 | F-H5 | XIややあり |
| 111 | | ピット群 | 111→74・108? | - | - | | | 平安 | I4 | |
| 112 | 34SX112 | ピット | 112→74,71 | - | ▼ | XII以前 | | 平安 | I4 | 少数 |
| 113 | 34SD113 | 小溝 | 113→99/113⇔98 | - | - | | | 9c前? | I5 | |
| 114 | 34SK114 | 土坑 | 121→114 | C | - | XI-XII | | 11c中-12c初 | E5 | 少数 |
| 115 | 34SK115 | 土坑 | 101→115/117→115 | C[×D] | - | XII | | 11c後-12c初頭 | F4 | |
| 116 | | ピット群 | | - | - | | | - | F5 | |
| 117 | 34SX117 | ピット | 117→121/117→115 | - | ▼ | XII以前 | | 平安 | G4 | |
| 118 | | ピット群 | - | A | - | | | 11c | G4 | |
| 119 | | ピット群 | 119一部→145 | C? | - | | | 平安 | G4 | |
| 120 | 34SK120 | 長土坑 | 110→120,122→120・114 | A・B・C[×D] | ▼▽ | XII | ● | 11c後-12c初頭 | F5 | XI期含む |
| 121 | 34SD121 | 小溝 | 111→101?/121→115・114 | A・B・C | - | XI＜XII | ● | 11c後-12c初頭 | F・G5 | 下層に11c前半の坏a含む |
| 122 | | 小溝 | 122→120・114 | - | - | XII以前 | | 平安 | F5 | 丸坏片 |
| 123 | | ピット | | - | - | | | | E5 | |
| 124 | 34SX124 | 土坑？ | 124→110→120 | - | - | XI-XIIか | | 11c中-12c初頭 | F5 | 少数 |
| 125 | 34SD125 | L字小溝 | 127→125 | - | - | XII | | 11c後-12c初頭 | F7 | 8c混入多 |
| 126 | | ピット群 | 80→126/240→126 | C | - | | | 平安 | F5・6 | |
| 127 | | 土坑 | 127→125/127→93 | - | - | XII以前 | | 平安 | F6 | |
| 128 | | 土坑 | 130→128 | - | - | VI・VIII | | 9c4/4-10c1/3 | G7 | |
| 129 | 34SX129 | ピット | 130→129 | - | - | | | 9c～ | G7 | 7c後半,遺構は9c |
| 130 | 34SD130 | 溝 | 130→90,(90の古期肩) | A | - | V | | 8c後 | 7ライン | |
| 131 | | ピット群 | | - | - | | | 9～10c | G7 | |
| 132 | 34SK132 | 土坑 | | - | - | | | | F8 | 8cに平安若干 |
| 133 | | ピット | 133→93 | - | - | | | 9c | G6 | |
| 134 | | ピット | 134→102 | - | - | | | - | G5 | |
| 135 | | ピット | 135→98/80⇔135 | - | - | | | | G6 | |
| 136 | | 土坑 | 50→136 | - | - | | | 平安 | H3 | 11-12c前混入? |
| 137 | | ピット群 | | C | - | | | | G4 | |
| 138 | 34SD138 | 小溝[東西 | 138→121,155→138,(切合から11c中頃前後) | A? | - | | | 11c中頃前後 | G4 | VII(1)少数 |
| 139 | | 溝 | 139→98・86 | - | - | | | | H5・6 | 85と同じか |
| 140 | 34SK140 | 土坑？ | 140→85(V)→80 | - | - | V以前 | | 8c | I5 | 少数 |
| 141 | | ピット | | - | ▼ | | | | I2 | |
| 142 | | ピット群 | 142→136 | C | - | | | 平安 | H3 | |
| 143 | | ピット | 143→58・136 | - | - | | | 平安 | H3 | |
| 144 | | ピット | | - | - | | | | G5 | |
| 145 | 34SK145 | 土坑 | 163→145 | A・B・C[×D] | ▼ | XII | | 11c後-12c初頭 | F4 | C多 |
| 146 | 34SX146 | ピット群 | | C | ▼ | | | | F4 | 7c後～11c土器 |
| 147 | 34SX147 | ピット | | - | ▼ | 10c後? | | 平安 | E4 | 少数 |
| 148 | | ピット | | - | - | | | 平安 | G3 | |
| 149 | | ピット | 149→148 | - | - | XI-XII | | 11c中-12c初頭 | F3 | |
| 150 | | 土坑 | 150→155・156・154 | - | - | XI以前 | | 平安 | G3 | |
| 151 | | ピット | 173→151 | - | - | | | 9c | G2 | |
| 152 | | ピット | | - | ▼ | | | | G2 | |
| 153 | | ピット | 153→145 | - | - | | | | G4 | 8c多 |
| 154 | | ピット群 | 150→154 | - | - | | | | G3 | |
| 155 | 34SX155 | 凹み | 155→138・148・157 | A | ▽ | X-XI | | 10-11c前か | G3 | 小IIIa上層混入？<br>VII～IXあり |

●標識となる土器群

| S-番号 | 遺構番号 | 遺構種別 | 遺構の新旧関係<br>古→新、切合不明⇔ | 貿易陶磁区分<br>[×D]確定D無 | 国産▼緑釉,<br>▽灰釉<br>(-)該当遺物無 | 土器型式 | 標識遺構 | 年代 | 地区 | 遺物備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 156 | | 土坑 | 155⇔156? | A | - | Ⅻ | | 11c後-12c初頭 | G2 | |
| 157 | 34SK157 | 土坑 | 155→157 | A | - | Ⅺ以後 | | | F3 | |
| 158 | | ピット | 155⇔158? | - | - | | | | G3 | |
| 159 | | ピット群 | | - | - | | | 11c後-12c前 | F2 | |
| 160 | 34SK160 | 土坑 | 170→160 | C[×D] | ▼ | Ⅻ＞XⅢ | | 11c後-12c前 | E3 | 糸切り1混入か |
| 161 | | ピット群 | 161→138 | - | ▼ | | | 平安 | G4 | |
| 162 | | ピット | 163→162 | - | - | | | 平安 | F4 | |
| 163 | 34SX163 | ピット | 163→145 | C×D | - | Ⅻ以前 | | 平安 | F4 | |
| 164 | | ピット群 | 167一部→164 | A | - | | | | F3 | |
| 165 | 34SK165 | 土坑 | | C | - | Ⅻ | | 11c後-12c前 | E2 | |
| 166 | | ピット | | - | - | | | | F4 | |
| 167 | | ピット | 167→164一部 | - | - | | | | F3 | |
| 168 | | ピット | 168→164 | - | - | | | | E4 | |
| 169 | | ピット | | - | - | | | | E3 | |
| 170 | 34SK170 | 土坑 | 170→160 | A・C[×D] | ▼ | Ⅻ | | 11c後-12c初頭 | E3 | 13c小皿糸切り(1)混入 |
| 171 | | ピット群 | 171→170 | - | - | | | | E3 | |
| 172 | | ピット群 | | - | - | | | | E2 | |
| 173 | 34SK173 | 土坑 | 173→73・151 | - | - | | | 8c後か? | G2 | 坏d[1]のみ |
| 174 | | ピット | 175→174 | - | - | | | | E2 | |
| 175 | 34SX175 | 溝? | 175→172 | - | - | | | 8cか? | E2 | 土器は8cまで |
| 176 | 34SX176 | ピット | 176⇔30? | A | - | | | | I3 | |
| 177 | | ピット | - | - | - | Ⅻ | | 11c後-12c初頭 | H3 | |
| 178 | 34SD178 | 小溝[東西 | 178→180 | A・C(1)混入 | ▼ | Ⅸ | | 10中 | B8・9 | 8c末～9c大半 |
| 179 | | 土坑 | | - | - | | | | A8 | |
| 180 | 34SK180 | 土坑 | 200→180,(200は10c中-後) | A新 | ▼ | Ⅸ? | | | B8 | 小皿糸切り1は<br>明らかに混入 |
| 181 | | ピット | 182→181 | C | ▼ | Ⅻ | | 11c後-12c初頭 | B8 | |
| 182 | 34SX182 | 凹み | 182→181.178/182→200 | - | ▼ | | | 9-10c? | B8 | |
| 183 | | ピット | | - | - | | | | A9 | |
| 184 | | ピット群 | | - | - | | | | A9 | |
| 185 | | ピット | | - | - | | | 8～9c? | A8 | |
| 186 | | ピット群 | | - | - | | | | A8 | |
| 187 | | ピット | | A | ▽ | | | 平安 | B9 | |
| 188 | | ピット | 196一部→188 | A | - | | | | B8 | |
| 189 | | ピット | 190→198 | A | - | | | | C8 | 190からの古期混入か |
| 190最上層 | 34SK190 | 土坑 | 190→200 | A古 | ▼ | | | 8c大半 | C8 | 最上層に200遺物混入 |
| 190 | 34SK190 | 土坑 | 190→200 | A古 | ▼ | Ⅴ主体.ⅥA | ● | 8c末～9c初 | C8 | ⅥA下限,椀c一部混入 |
| 191 | | ピット群 | 190→191 | - | ▼ | | | 9c? | C8 | 8c多,190からの<br>古期混入 |
| 192 | 34SX192 | ピット | | - | ▼ | | | | A8 | 210はⅥB下限 |
| 193 | | ピット | 193→182 | - | - | | | 9c? | A8 | 黒A小甕？ |
| 194 | 34SX194 | ピット | 194→178 | A | - | ⅥB-Ⅶか | | 9c | B9 | 少数 |
| 195 | | ピット群 | | - | - | | | 平安 | C8 | |
| 196 | | ピット群 | | - | - | | | 平安 | B9 | |
| 197 | | ピット | | - | - | | | 9c | B9 | 一部混入 |
| 198 | | ピット群 | | A | - | | | ～11c | B・C9 | |
| 199 | 34SX199 | ピット | | - | - | | | 10～11c? | C8 | 遺構は土器より<br>新10-11c? |
| 200 | 34SK200 | 土坑 | 190→200→180 | A・D(1)混 | ▼ | Ⅸ | | 10～11c? | B8 | D混入? |
| 201 | 34SX201 | ピット | 210→201 | - | ▼ | | | 平安 | B7 | |
| 202 | | ピット | 202→210 | - | - | | | | A7 | |
| 203 | 34SX203 | ピット | | - | - | | | | B7 | |
| 204 | | ピット群 | | C×D | - | | | 平安 | B8 | |
| 205 | 34SK205 | 土坑 | 215→205 | A・B・C | - | Ⅻ | ● | 11c後-12c初頭 | D8 | |
| 206 | | ピット | 206→179 | - | ▼ | | | 平安 | A8 | |
| 207 | 34SX207 | ピット | | A | - | | | 平安 | C8 | |
| 208 | 34SX208 | ピット | 90→208 | - | - | | | 平安 | E7 | 8c土器は90から<br>混入品か |
| 209 | 34SX209 | ピット | 209→208→215 | - | - | Ⅲ(-Ⅳ) | | 8c中・後 | E7 | Ⅲ中心8c中 |
| 210 | 34SD210 | 溝 | 130→90→210/235→210 | A | ▼ | ⅥB下限・<br>ⅥA多 | ● | 9c前 | A7～ | |
| 211 | | ピット | 210→211 | - | ▼ | | | 9c前以後 | D7 | |
| 212 | | ピット群 | 208.209→212 | - | - | | | 平安 | E8 | 8c多い |
| 213 | | ピット群 | | - | - | | | 平安 | D8 | |
| 214 | | ピット | 214→190 | - | - | | | 8-9c初? | C8 | |
| 215 | 34SK215 | 土坑 | 215→205 | ▲A越多,C(1)<br>混入[205から | ▼▽ | Ⅷ＞Ⅸ | ● | 9c末～10c中 | D8 | X-XI(3)混入,<br>7c後須恵含む |
| 216 | | ピット群 | 90→216一部 | - | - | | | | C7・8 | |
| 217 | 34SX217 | ピット | 217→218 | - | ▼ | ⅥA | | | A7 | 少数 |
| 218 | | ピット | 217→218 | - | - | | | 平安 | A7 | |
| 219 | | ピット | | - | - | | | | A7 | |
| 220 | 34SX220 | 土坑? | 220→231 | A・C | ▽ | Ⅺ・Ⅻ | | 11c中～12c初 | A6 | |
| 221 | 34SX221 | ピット | | - | ▼ | ⅥA? | | 8c後～9c | B7 | |
| 222 | | ピット群 | 90→222 | A | - | | | 平安 | B7 | |
| 223 | | ピット群 | | - | - | | | 平安 | A7 | |
| 224 | 34SX224 | ピット | | - | ▼ | | | 9c後～10c | A7 | 有効土器無し |
| 225 | 34SD225 | 溝 | 228→225? | A・B・C[高麗<br>I[×D] | | Ⅻ | ● | 11c後-12c初頭 | A～ 5 | |
| 226 | | ピット | 210→226 | - | - | | | | E7 | |
| 227 | | ピット | 227→205 | - | - | Ⅻ以前 | | 平安 | D8 | |
| 228 | 34SD228 | 溝 | 228→120←110に連続同一? | A・B | ▽ | Ⅺ | | 11c中 | A～E5ライン | 土器少数,110より古くⅪ |
| 229 | 34SD229 | 溝 | | A・B・C[×D] | ▼▽ | Ⅻ | ● | 11c後-12c初頭 | A～ 6ライン | |
| 230 | 34SK230 | 土坑 | 230→238 | | ▼▽ | ⅥA | ● | 9c初 | C4 | |
| 231 | 34SD231 | 溝 | 232→231,(93と一連?) | A・C・E・G | ▽ | 14c前 | | 14ｃ前 | A～ 6ライン | △龍泉Ⅱ-b,Ⅳ |
| 232 | 34SD232 | 溝 | 210→232→231,(71,121同一?) | A・C | ▼▽ | Ⅻ | | 11c後-12c初頭 | A～ 6ライン | |
| 233 | | ピット | 233→225 | - | - | | | - | A・B5 | |
| 234 | 34SK234 | 長い土坑 | 234→229・231 | A・B.・C | - | Ⅻ | | 11c後-12c初頭 | B・C6 | |

●標識となる土器群

| S-番号 | 遺構番号 | 遺構種別 | 遺構の新旧関係 | 貿易陶磁区分 | 国産▼緑釉,▽灰釉 | 土器型式 | 標識遺構 | 年代 | 地区 | 遺物備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 古→新、切合不明⇔ | [×D]確定D無 | (-)該当遺物無 | | | | | |
| 235 | 34SD235 | 窪み | 235→210/235→232・240,(坊路280の部分整地? | A | - | ⅥA? | | 9c初? | A～ 6 | 土器少数 |
| 236 | 34SK236 | 浅い土坑 | | - | - | Ⅻ | | 11c後-12c初頭 | C5 | |
| 237 | 34SD237 | 溝 | 225→237 | A・C | - | | | 12c | A～C･5ライン | 坏a糸切あり |
| 238 | 34SD238 | 溝 | 225→241⇔238,(241との切合不明? | A・C | ▼ | Ⅻ | | 11c後-12c初頭 | C5～ | |
| 239 | | 溝 | 239→228 | - | - | | | - | D5～ | |
| 240 | 34SD240 | 溝 | 240(84同一?) →231,126 | A・B・C[×D] | ▽ | XI-Ⅻ | ● | 11c中-12c初頭 | D6～ | 一部XI |
| 241 | 34SK241 | 土坑 | 241⇔238,(114と同一か | - | - | | | 11c後-12c初頭 | D5～ | |
| 242 | 34SK242 | 土坑 | 242→225 | A・C | - | Ⅻ | | 11c後-12c初頭 | B5 | |
| 243 | | 凹み | | - | - | | | | E・F8 | |
| 244 | 34SX244 | ピット | 90→244 | - | - | Ⅴ.ⅥA以後 | | 9c初以後 | D7 | 90からの古期混入か |
| 245 | 34SD245 | 浅い溝 | 245[080A]→228・229 | - | - | Ⅴ.ⅥA | | 8c後・9c初 | C～5ライン | 土器少数 |
| 246 | 34SX246 | ピット | | C | - | Ⅻ | | 11c後-12c前 | E6 | 土器少数 |
| 247 | 34SX247 | ピット | 略図になし,(255と同じか | - | - | Ⅻ | | 11c後-12c前 | E6 | 土器少数 |
| 248 | | ピット | | - | - | | | 11c後-12c前 | A4 | 土器少数 |
| 249 | 34SX249 | ピット | | A | - | | | 平安 | A4 | Ⅱ-Ⅲあり |
| 250 | | ピット | | A・C? | - | | | 平安 | B4 | |
| 251 | | ピット群 | | A | ▼ | | | 平安 | A4 | |
| 252 | | ピット群 | | A | - | | | 平安 | B4 | |
| 253 | | ピット | 253→248 | D | - | | | 12c | B5 | |
| 254 | | ピット | | - | - | | | - | A4 | |
| 255 | 34SX255 | ピット | 247と同じか | B・D? | - | Ⅻ | | 11c後-12c前 | E6 | 土器少数 |
| 256 | | ピット群 | | A | ▼ | | | 平安 | C4 | |
| 257 | | ピット | 230→257 | A | - | | | 平安 | D4 | |
| 258 | | ピット | | - | - | X-XI | | 10c中～11c | D4 | |
| 259 | | ピット | | - | - | XI-Ⅻ | | 11c中-12c前 | D4 | 大半8c後 |
| 260 | 34SK260 | 土坑 | 260→256/230→264→260 | A | - | ⅥAか | | 9c初 | C4 | 土器少数,一部9c後10c |
| 260下層 | 34SK260 | | 230→264→260 | - | ▼ | V(下限ⅥA) | | 9c初 | C4 | V含む |
| 261 | | ピット群 | | A | - | | | 平安 | D・E4 | |
| 262 | | ピット | | A | - | | | 平安 | E5 | |
| 263 | 34SX263 | ピット | 263→261/263→170 | - | - | Ⅶ | | 9c3/4 | D3 | |
| 264 | 34SK264 | ピット | 230→264→260 | - | - | Ⅴ.ⅥA | | 8c後～9c初 | C4 | |
| 265 | | | | - | - | | | - | | |
| 266 | 34SX266 | ピット | | C(2)混入？ | - | Ⅻ以前 | | 8c後? | D3 | |
| 267 | | ピット | 267→210 | - | - | | | 9c前 | A7 | |
| 268 | | ピット | 268→210 | - | - | | | 9c前 | C7 | |
| 269 | 34SX269 | ピット | | - | - | Ⅶ | | 9c3/4 | A8 | |
| 270 | | ピット | | - | - | | | - | A8 | |
| 271 | | ピット | | - | - | | | - | B8 | |
| 272 | | ピット | 272→187 | - | - | | | 平安 | B8 | |
| 273 | | ピット | | - | - | | | | A9 | |
| 274 | 34SX274 | ピット群 | 黄灰土下のピット | - | - | | | 8c後-9c前? | A8.9,B8.9 | 遺物なし |
| 275 | | | ←10C変更 | - | - | | | | | |
| 280 | 34SF280 | 坊路 | | - | - | Ⅴ.ⅥA | | 8c後～9c初 | 6ライン | 080,090側溝時期 |
| 黄灰色土 | | 整地か | 90に一部かぶる | A・C(3)混入 | ▼ | 9c前半までか? | | 大半8c | A8.9,B8.9 | 下限ⅥB-Ⅶ坏a底(2) |

# 表.11　第34次調査　出土遺物一覧表

S-1

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、坏 |
| 土師器 | 中椀c2‹IX›(1)、甕 |
| 瓦類 | 破片 |

S-2

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋2、坏a[ヘラ]、坏c‹7c後›、甕 |
| 土師器 | 甕a |

S-3

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、甕b |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]、甕 |
| 黒色土器B類 | 椀 |

S-4

| | |
|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a |

S-5

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]、坏、丸底坏a、盤、甕、竈 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(2) |
| 長沙窯系 | [青釉]椀[S-66下層(1)、S-260(1)と同一か](1) |
| 瓦質土器 | 擂 |

S-6

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 坏 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 灰釉陶器 | 破片(1) |

S-7

| | |
|---|---|
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]、坏 |
| 黒色土器B類 | 破片 |

S-8

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 破片 |

S-9

| | |
|---|---|
| 土師器 | 椀c、甕 |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) |

S-10

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏a、坏c、高坏、鉢?、甕 |
| 土師器 | 坏a[13][うち8点「器」「道司」他墨書あり]、皿a[1]、甕a |
| 緑釉陶器 | 椀[京1、土師質、直口縁(1)・外反口縁,防長古(1)]、<br>皿[土師質]‹京1、土師質洛北、›[2]、破片[土師質,大半防長](5) |

S-10A下層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a |
| 土師器 | 蓋3、皿a、甕a |

S-10A

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、坏、坏c、甕 |
| 土師器 | 坏、坏a、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 緑釉陶器 | 椀[土師質・外反](1)、破片[土師質](1) |
| 灰釉陶器 | 椀?(1)[K14?] |
| 瓦類 | 破片 |

S-10B

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、蓋1 |
| 土師器 | 坏a、坏c |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) |

S-10C(S-275)

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏a、甕a |
| 黒色土器A類 | 破片、鉢?[鉄鉢形か] |

S-11

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c |
| 土師器 | 破片 |
| 瓦類 | 破片 |

S-12

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 甕 |
| 黒色土器B類 | 破片 |

S-13

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]、坏、小甕 |
| 製塩土器 | 焼塩壺I |
| 黒色土器B類 | 椀 |

S-14

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 |
| 土師器 | 坏、椀c |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質,香炉蓋?](1) |

S-15

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、甕 |
| 土師器 | 坏a[2]、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) |

S-16

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、坏、甕 |
| 土師器 | 坏、坏d、甕、竈、 |

S-17

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c[体部外面ケズリ]、甕 |
| 土師器 | 皿a、鉢? |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-18

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏‹平安›、椀c、皿a、甕a |
| 黒色土器A類 | 破片 |

S-19

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 坏c、甕 |

S-20

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ[3]、少数イト]、小皿a2(1)、丸底坏a、高坏、椀c<br>盤?、鉢、獣脚、甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀、椀c、鉢? |
| 越州窯系青磁 | 椀；I-2aエ(1)、II-2(2)、椀I2×III(1)<br>坏；I[S-70と接合](1△1)　　壺；壺? |
| 高麗青磁 | 坏他；破片I? |
| 白磁 | 椀；IV(1) |
| 中国陶器 | 壺；壺I[A-a' 1](1) |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 金属製品 | 鉄釘 |
| 石製品 | 軽石 |
| 土製品 | 鞴羽口、紡錘車[土師転用][2] |

S-21

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、坏 |
| 土師器 | 皿a、甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 瓦類 | 平瓦、丸瓦 |

S-22

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c3、蓋3、壺b、甕　8c～9cのもの多い |
| 土師器 | 坏、椀c、甕、小甕　8c～9cのもの多い |
| 製塩土器 | 焼塩壺II-b |
| 緑釉陶器 | 白釉?[防長古,土師質](1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-23

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]‹XI～XII›、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 白磁 | 椀；VIII?(1) |

S-24?

| | |
|---|---|
| 土師器 | 小皿a、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀；I-1b×[I-5](1),椀皿片(1) |

S-24

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]、坏a |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀皿I(2) |
| 瓦類 | 丸瓦 |

S-25

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏c、耳壺、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ][4]、小皿d、丸底坏a[4][端部外反多い]、器台脚部、<br>椀c[ミガキb]、大椀?[底部穿孔]、盤?、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(4) |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](3) |
| 白磁 | 椀；XI(1)、XI[輪花,水色](1) |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 金属製品 | 鉄釘(2) |
| 石製品 | 石鍋片(1) |
| 土製品 | 生産用具? |

S-26

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、甕 |
| 土師器 | 坏‹VII?胎土灰褐色のものあり› |
| 白磁 | 椀；XI(1) |

S-27

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏、甕 |
| 金属製品 | 鉄 |

S-28

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏? |
| 土師器 | 坏、大形 |
| 黒色土器B類 | 破片 |

S-29

| | |
|---|---|
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]、坏 |
| 黒色土器B類 | 小皿a、椀 |
| 土製品 | 生産用具? |

S-30

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、蓋3、坏c、皿a、小鉢、短頸壺、甕 |
| 土師器 | 坏a、椀c、甕a、甕b1、把手、竈 |
| 製塩土器 | 煎熬土器?(2) |
| 黒色土器A類 | 椀c　多い |
| 越州窯系青磁 | 椀;I(2) |
| 青磁(未分類) | 破片[内面釉なし、壺類か?](1) |
| 緑釉陶器 | 三足盤‹前・K90›[1]、輪花皿‹・K90?[1]、破片(7) |
| 白磁 | 椀;I(1)、Ⅳ(1)[混入] |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 金属製品 | 鉄釘(1) |
| 石製品 | 砥石?(3) |

S-31

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 破片 |
| 黒色土器A類 | 椀c、破片 |
| 灰釉陶器 | 壺?(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 土製品 | 生産用具片(1) |

S-32

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c |
| 土師器 | 椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 瓦類 | 無文塼? |
| 金属製品 | 鉄器片 |

S-33

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋2 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]、坏a[ヘラ]、盤? |
| 緑釉陶器 | 椀[土師質](1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-34

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、甕 |
| 土師器 | 椀c、甕、甕b |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 灰釉陶器 | 椀?[S-95椀と接合]、山茶椀‹11c後›(1△1) |
| 白磁 | 椀;Ⅳ-1b[表土と接合](1) |

S-35

| | |
|---|---|
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]‹Ⅻ›、坏a‹Ⅶ›(1)、竈? |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 緑釉陶器 | 円盤高台[土師質、やや大型](1) |
| 白磁 | 皿;Ⅵ(1) |
| 高麗青磁 | 椀;(1) |
| 瓦類 | 文字瓦 |

S-36

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 坏a‹SKⅧ～Ⅸ›、椀、甕a |
| 製塩土器 | 煎熬土器 |
| 黒色土器A類 | 椀 |

S-37

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏 |
| 土師器 | 坏a |

S-38

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 破片 |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-39

| | |
|---|---|
| 土師器 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 緑釉陶器 | 香炉身?[須恵質](1) |
| その他 | 鉄器片 |

S-40

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、坏c、皿a、壺b甕、 |
| 土師器 | 蓋3、坏、椀c、甕a、 |
| 製塩土器 | 煎熬土器(1)、焼塩壺I(1)・IIb(3) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-41

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏c、壺、甕 |
| 土師器 | 小皿a、坏a、甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 緑釉陶器 | 破片[軟質](1) |
| その他 | 生産用具(1) |

S-42

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 小壺?、甕 |
| 土師器 | 甕、甕a |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) |

S-43

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、甕 |
| 土師器 | 坏a‹9c?› 、小鉢[1] |
| 越州窯系青磁 | 椀;I-1b(1)、(2) |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) |
| 白磁 | 椀;Ⅳ?(1) |
| 金属製品 | 鉄 |

S-44

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 坏a‹Ⅶ›、甕a |
| 製塩土器 | 煎熬土器(1) |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 緑釉陶器 | 椀[土師質](1) |

S-45

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c3、蓋3、坏c[2]、皿a[1]、鉢b、甕　大半8c後 |
| 土師器 | 蓋2[1]、坏a、坏a[混入?]、椀c、皿c、甕、甕a、把手、竈　大半8c後 |
| 製塩土器 | 焼塩壺II-b(2) |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 灰釉陶器 | 破片(1) |
| その他 | 土製品:生産用具片(1) |

S-46

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 坏c、壺c、甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 瓦類 | 丸瓦 |

S-47

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕 |
| 土師器 | 小椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-48

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 小坏c、甕 |
| 土師器 | 蓋a?[ⅥA?][1]、小皿a[ヘラ]‹Ⅻ›、坏d、中椀c[内ヘラ描き]‹Ⅷ›、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 金属製品 | 鉄釘(1)、鉄器(1) |

S-49

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、坏c、皿a、甕 |
| 土師器 | 丸底坏c、鉢?、甕 |
| 製塩土器 | 焼塩壺 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 越州窯系青磁 | 椀;椀×皿II(1) |
| 灰釉陶器 | 底部片(1) |
| 金属製品 | 鉄釘(1) |
| 土製品 | 生産用具片(1) |

S-50

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、坏、坏a、甕 |
| 土師器 | 坏a[1]、坏×椀[混入?](1)、椀c、皿a‹ⅥA›、甕a、小甕a |
| 製塩土器 | 煎熬土器(1)、焼塩壺I(1) |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀;I-1a(1) |
| 緑釉陶器 | 蛇ノ目高台[京2,須恵質、表土と接合](1)、破片(5)、椀?[S-59と接合] (2) |
| 白磁 | 椀;I-1a[S-109と接合](2) |
| 金属製品 | 鉄釘(2) |
| 石製品 | 滑石鍋片(1) |

S-51

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 坏a、坏c、鉢‹8c›、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 灰釉陶器 | 壺?(1) |

S-52

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c |
| 土師器 | 小皿a‹X～XI›、坏a、甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |

S-53

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏、甕a、甕b |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 越州窯系青磁 | 椀;I(2) |

S-55

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏c、壺a、甕 |
| 土師器 | 小皿a‹IX-X›(1)、坏、椀c、甕b |
| 黒色土器A類 | 椀c、口縁部、甕 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 須恵質土器 | 鉢[瓦質?篠×東播系?](1) |
| 緑釉陶器 | 輪花椀[須恵質、S-146と接合]‹京2›[1△1]、破片[土師質](1) |
| 瓦類 | 丸瓦、平瓦、文字瓦(丸)I-5「平井」 |
| 石製品 | 滑石鍋(1) |
| 土製品 | 生産関係品? |

S-56

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、坏a、坏c、甕 |
| 土師器 | 坏、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 壺;II?[大形](1) |
| 高麗青磁 | 椀;Ⅲ-2A?[S-70と接合](1△1) |

S-57

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、坏 |
| 土師器 | 坏c、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀 |

S-58

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏a、坏c、皿a、甕 |
| 土師器 | 高坏、盤?甕a |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 金属製品 | 鉄 |

S-59

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 坏c、甕 |
| 黒色土器A類 | 小甕 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 緑釉陶器 | 椀[土師質、S-50と接合](1△1) |

S-60

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 小皿a [ヘラ](1)、小皿a2(1)、坏a‹古い›(2)、丸底坏a、丸底坏c |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 高麗青磁 | 椀；I[表土と接合](1)<br>坏他；破片高麗?×越Ⅲ?(1)･高麗?×越I?(1) |
| 須恵質土器 | 東播鉢(1) |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) |
| 白磁 | 椀；不明(2) |
| 高麗陶器 | [無釉]破片(1) |
| 土製品 | 生産用具? |

S-61

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 破片 |

S-62

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、甕 |
| 土師器 | 甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |

S-63

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 坏a‹ⅥA?›、甕a |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-64

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 坏a[Ⅷ]、甕a |
| 黒色土器A類 | 椀c、甕 |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 金属製品 | 鉄釘 |

S-65

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、蓋1[変形]、蓋3、坏a、坏c、壺、甕、把手 |
| 土師器 | 小皿a片‹Ⅹ～XI›[混入?]、坏a‹ⅥI›、椀a?、椀c、皿a、小鉢、甕、甕a、小甕a |
| 黒色土器A類 | 椀c[1] |
| 越州窯系青磁 | 椀；I-3[表土と同一か](1) |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) |
| 白磁 | 椀；II-1(2)、Ⅵ-1a(1)[混入か] |
| 瓦類 | 平瓦、丸瓦 |
| 金属製品 | 鉱滓(1) |

S-66

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋‹7c›、高坏、甕 |
| 土師器 | 坏a･d‹8c後›、椀c、盤?c、甕、小甕a、大甕a、中甕a |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(1)、I-2[外反](1) |
| 緑釉陶器 | 口縁[土師質](2)、破片[有段、須恵質](1) |
| 瓦類 | 丸瓦、平瓦 |
| 金属製品 | 鉄釘 |
| 石製品 | 滑石鍋、滑石加工品、サヌカイト |

S-66最下層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏?、甕　　8cのもの混入 |
| 土師器 | 蓋3、坏a、椀c、甕a、甕b、把手　　8cのもの混入 |
| 黒色土器A類 | 椀、椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(1) |
| 長沙窯系 | 椀；[青釉、黄茶色気味、S-260･S-5と同一か](1) |
| 緑釉陶器 | 皿[土師質](1)、高台[S-147と接合]‹近江×東海›(1)<br>破片[土師質](1)･[須恵質](1) |
| 瓦類 | 丸瓦[文字XⅧ「四王」分類表とはやや異なる「四王」字] |
| 石製品 | 石帯(1) |

S-67

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c |

S-68

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕 |
| 土師器 | 坏×蓋?[ミガキa]、甕a、 |

S-69

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏a‹ⅥI› |

S-70

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、鉢、甕、甕?底部 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ][15]、小皿a[イト](全体の中で一片のみ)、<br>小皿[底に穿孔]、小皿a2[4]、丸底坏a[15]、丸底坏c、椀c[ミガキc][2]、<br>器台、盤、甕、甕b1 |
| 黒色土器A類 | 椀c[1] |
| 黒色土器B類 | 椀c[5]、鉢(1)、小壺(1) |
| 瓦器 | 椀[楠葉、口縁内に沈線] |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(10)、II(3)、II-2aｳ[1]、I-2b(1)、椀×皿×坏(1)<br>坏；I[S-20と接合](1)　　壺；小壺?I(1) |
| 高麗青磁 | 椀；Ⅲ-2A?[S-56と接合](1)　　坏他；破片高麗?(1) |
| 須恵質土器 | 東播椀?(1) |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](2) |
| 灰釉陶器 | 壺?(1)、椀‹K14新?›(1)、片(1) |
| 白磁 | 椀;II-I(1)、II-2(1)、II-3×4(1)、II-1?[乳白色の釉](1)、<br>II(2)、Ⅳ-1a(1)、Ⅳ-1b[S-105と接合](5)、Ⅳ-1(2)、<br>Ⅳ(6)、V(1)、XI(1)、XI-5[タテヘラ](2)<br>Ⅳ-1b?×Ⅶ?[内底段1](2)、Ⅳ～Ⅷ(6)、XⅢ(2)、XⅡ(1)<br>皿；V～Ⅶ(1)、II-1a(4)、II×Ⅲ(1)<br>他；鉢[目跡?掻取り有り?](1) |
| 青白磁 | 破片(1) |
| 高麗陶器 | [無釉]甕破片(2) |
| 瓦類 | 埼、平瓦、軒平瓦 |
| 金属製品 | 鉄釘(5)、鉄刀子?(1)、鉄器(3) |
| 石製品 | 風子硯?、滑石鍋片(8)、加工品(2)、砥石(1)、軽石(1) |
| 土製品 | 生産用具(4) |

S-71

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、蓋2、蓋3、坏、壺、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]、丸底坏a[ヘラ]、丸底坏c、椀‹ⅥA?›、<br>小椀a[赤褐色が残る]、盤×鉢、甕、小甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(2) |
| 高麗青磁 | 坏他；破片高麗?(1) |
| 緑釉陶器 | 小椀[土師質](1) |
| 白磁 | 椀；分類不詳(1) 、椀×皿(1) |
| 瓦類 | 丸瓦、平瓦、埼 |
| 金属製品 | 鉄刀子?(1)、鉄鏃(1) |

S-72

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、壺、甕 |
| 土師器 | 坏a、皿a、甕a |
| 黒色土器A類 | 甕 |
| 緑釉陶器 | 椀×皿底部[土師質](1) |

S-73

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏c、壺×甕[口縁外面自然釉]、甕 |
| 土師器 | 坏、甕 |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) |

S-74

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、蓋c |
| 土師器 | 坏、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀 |

S-75

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ](10)、小皿a2(1)、坏a×中椀c‹IX?›、丸底坏a[6]、椀c、<br>破片[イト(1)、混入?]、盤?、小壺(1)、甕b、竈、 |
| 製塩土器 | 焼塩壺?(1) |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(2)、I-5(1) |
| 緑釉陶器 | 皿[須恵質]‹京2›(1) |
| 白磁 | 椀；II?(1)　　皿；II-1(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 土製品 | 土製模造鏡?[スタンプ形](1) |

S-76

| | |
|---|---|
| 土師器 | 破片 |
| 瓦類 | 軒平瓦[鴻臚館Ⅲ類、朱付着] |

S-77

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1(3)、蓋3(1)、坏a、坏c(1)、小坏c(3)、大坏(1)、高坏脚、大形皿、甕 |
| 土師器 | 坏a[混入か]、皿a、壺(1)、甕a、把手 |

S-78

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 平瓶 、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ、イト(1)のみ、底穿孔]、丸底坏a‹XII大半›(6)、椀c、<br>鉢×盤,把手、甕b |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 椀c(1) |
| 瓦器 | 椀[楠葉、口縁内沈線] |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(1)、II(1)、I-3(1)　　坏；I(1) |
| 高麗青磁 | 坏他；破片Ⅲ?[S-110と接合](1△1) |
| 須恵質土器 | 椀[東播、イト切] |
| 灰釉陶器 | 椀‹丸石2号、第5段階›(1) |
| 白磁 | 椀；II-1(1)、II-1×3(1)、II(2)、Ⅳ(5)、Ⅳ～Ⅷ(3)、XI-4(1)、XⅢ(2) |
| 瓦類 | 平瓦、丸瓦、平瓦[文字II-2] |
| 金属製品 | 鉄刀子?(1)、鉄円盤?(1)、不明鉄器(1),釘+ピン状(1) |
| 石製品 | 滑石鍋(1)、滑石片(4)、砥石?(1) |
| 土製品 | 鞴羽口(2) |

S-79

| | |
|---|---|
| 緑釉陶器 | 高台[土師質、表土と接合]‹近江›(1) |

S-80

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋a、蓋b、蓋c、蓋3、蓋4、大蓋c3、坏a‹V･Ⅵ›、坏c‹II･Ⅲ･Ⅳ›、<br>坏a[墨書]1、坏c[墨書[金]1、坏c×椀c‹V･Ⅵ›、椀a、椀c、<br>高坏、皿a、皿×椀c、壺d×f(1)、鉢b、<br>壺a、壺b、壺e(1)、壺f?、甕、大甕a、中甕a、小甕a、円面硯(1) |
| 土師器 | 蓋c、坏a、坏c[ミガキa]、坏d、坏c×皿c×椀c、椀c‹V.Ⅵ›<br>皿a[ミガキ有、無]、高坏b(2)、椀‹飛鳥V×平城I›、坏a多数<br>椀c･坏a[上層のまじり]‹Ⅵ～Ⅷ、11c後半›、<br>椀×鉢(1)、小壺?[混入](1)、甕a、中･小甕a、竈×甕a2、把手、竈 |
| 製塩土器 | 煎熬土器(3)、焼塩壺I(3)･IIb?(1) |
| 黒色土器A類 | 椀片(2) |
| 黒色土器B類 | 破片[混入?](1) |
| 瓦類 | 軒丸瓦[鴻臚館式]、丸瓦[スリケシ]、平瓦[縄・斜格子] |
| 石製品 | 石鍋[混入](1)、滑石製紡錘車[穿孔部に鉄さび残る](1) |

S-81

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、蓋1、坏 |
| 土師器 | 甕 |

S-82

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 破片[ヘラ] |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀；II-2b×e(1) |
| 龍泉窯系青磁 | 椀；I(1) |
| 白磁 | 椀；Ⅳ(1)、Ⅳ～Ⅷ(1)、V×Ⅷ(1)　　皿；II(1) |
| 中国陶器 | 他；C' [四耳XIIか?](1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-83

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、高坏、甕　8cのもの大半 |
| 土師器 | 坏a、丸底坏c?(1)・丸底坏[混入?](2)、高坏、坏a?[墨書]、甕a<br>8cのもの大半 |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(1) |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) |
| 金属製品 | 鉄器(1) |

S-84

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 小皿a[13][粘土紐(1)あり]、小皿a2、坏a[1]、丸底坏a[4]、椀c[2]、<br>白色系椀c[1],鉢、小壺、甕 |
| 黒色土器B類 | 小皿a[1]、椀c[3] |
| 瓦器 | 椀c[楠葉](1) |
| 越州窯系青磁 | 壺；水注Ⅲ[底部] |
| 須恵質土器 | 椀[東播]、鉢 |
| 白磁 | 椀；I-1a(1)、Ⅳ-1a(1)、V-3a[S-145、表土と接合](1△1)<br>Ⅱ[S-229と接合](1△1) |
| 高麗青磁 | 椀；I[S-145と接合][1△1] |
| 高麗陶器 | [無釉]甕 |
| イスラム陶器 | 破片(1) |
| 金属製品 | 鉄板状(1) |
| 土製品 | 鞴羽口(1) |

S-85

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c1、蓋2、蓋3、蓋4?[1]、坏c[2]、甕[2] |
| 土師器 | 坏d、高坏、甕a[1]、小甕a |
| 黒色土器A類 | 破片 |

S-85下層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a<7c後入>、甕　大半小片・8c |
| 土師器 | 坏d　大半小片・8c |

S-86

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 小皿a<Ⅺ>(2)、丸底坏 |
| 黒色土器B類 | 椀c |

S-87

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、皿a、甕 |
| 土師器 | 坏a<平安?>、甕 |

S-88

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a<7c?>、甕 |
| 土師器 | 蓋c、坏?[ミガキa]、甕、把手 |
| 黒色土器A類 | 椀 |

S-89

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 皿c?、甕 |
| 土師器 | 坏? |

S-90

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋2、蓋3、壺蓋、坏a、坏c、小坏c、高坏、椀、皿a、小鉢b、坏[線刻](1)<br>壺a、壺f?、短頸壺、甕a、甕<Ⅵ?のものあり>、把手付甕 |
| 土師器 | 小皿a[混入]、坏、坏a、坏c[ミガキ,Ⅲ期?][2]、坏d 、坏×皿[墨書]、高坏、<br>高坏b、皿a[ミガキ]、鉢b?、小壺、甕a、小甕a、把手 |
| 製塩土器 | 焼塩壺I(8)・Ⅱb(2) |
| 黒色土器A類 | 片[混入] |
| 黒色土器B類 | 片[混入] |
| 瓦類 | 平瓦[粗斜格子]、丸瓦 |
| 金属製品 | 鉄釘?(1) |

S-91

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 丸底坏a<Ⅻ>(3)、甕a、甕b2、把手 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(2)　壺；水注?I×Ⅲ(1) |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) |
| 白磁 | 椀；Ⅳ(1)、Ⅳ～V?(1) |
| 石製品 | 滑石片(1) |
| 土製品 | 坩堝(1) |

S-92

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、蓋3 |
| 土師器 | 坏a、椀c、甕 |
| 白磁 | 椀；Ⅱ?(1) |

S-93

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 坏a[イト切、少数]、高坏、椀c<8c後>、皿a、盤、竈 |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(1) |
| 緑釉陶器 | 破片[須恵質(1)、土師質(1)] |
| 灰釉陶器 | 壺?(1) |
| 白磁 | 椀；Ⅱ-1(2)、Ⅳ(4)、V-2b(1)、Ⅳ～Ⅷ(1)、V-2a(1)、<br>V-3a(1)、Ⅻ(2)、有段(2)<br>皿；Ⅱ-1a(1)、Ⅱ-1(1)、Ⅵ-1(1) |
| 中国陶器 | 鉢；I(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 金属製品 | 鉄片(1) |

S-94

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ、口径小]、丸底坏a[体部に穿孔]、甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 白磁 | 椀；Ⅱ-1(1)、V-2(2)、Ⅱ(1)　皿；Ⅱ-1a(1)、Ⅳ?(1) |
| 瓦類 | 丸瓦、平瓦 |
| 金属製品 | 鉄釘(1) |

S-95

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ][16]、丸底坏a[1] |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 瓦器 | 椀c |
| 高麗青磁 | 椀；I(1) |
| 灰釉陶器 | 山茶椀[S-34と接合]<百代寺×H105>(1) |
| 白磁 | 椀；I?(1)、Ⅱ-1(1)、Ⅱ(1)　皿；Ⅵ-2×Ⅶ-b(1)、Ⅵ(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-96

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 白磁 | 椀；椀×皿(1) |

S-97

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、蓋3、坏a、坏c、坏皿[墨書](1)、壺?、甕 |
| 土師器 | 坏a、坏d、椀、甕a、竈 |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-98

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c3、坏c、皿a、甕、 |
| 土師器 | 坏d、椀c[ミガキ]、皿?、甕b<平安> |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-99

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 坏a、坏c、甕 |
| 黒色土器A類 | c破片 |

S-100

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c4、蓋1、蓋3、大蓋3、坏a、坏c、高坏、皿、皿a、鉢×壺、壺、甕a、甕b(2)? |
| 土師器 | 坏a、坏a<Ⅷ?>[3]、坏a×椀[多数]、椀c[筑後タイプ有り](1)、<br>皿a、皿c、大形鉢×甕(7)、甕[ハケ]、小甕a、把手 |
| 製塩土器 | 煎熬土器(1)、焼塩壺I(2)・Ⅱb(1) |
| 黒色土器A類 | 坏a[大形]、椀c[1]、大椀c[高台高い]、小甕 |
| 黒色土器B類 | 椀[混入] |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(2)、I-2ウ(1) |
| 緑釉陶器 | 椀?[下層と同一?軟質・淡肌色、防長中](1) |
| 灰釉陶器 | 破片[ハケ塗り?](1) |
| イスラム陶器 | ルリ釉[S84、S-205と同一](1) |
| 瓦類 | 平瓦、丸瓦、平瓦[斜格子タタキあらい] |
| 金属製品 | 金銅製眉刷毛[1] |

S-100下層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1・3・4、坏a<7c後>・<8c後半～9c初>・c、壺、壺d、甕、甕b? |
| 土師器 | 蓋4、坏a[4]、坏d、高坏、椀<SEⅦA型が多い>、椀c[3]、皿a[Ⅵ混入品、<br>墨書[吉][1]、不明大形品、甕a、小甕a・中甕a、竈 |
| 製塩土器 | 煎熬土器(12)、焼塩壺I?(3)・I×Ⅱ(1) |
| 黒色土器A類 | 椀c(5)、小甕a[1](7) |
| 越州窯系青磁 | 椀；I[見込みに段、坏I-2・皿I-2・椀I-2bアなど](1) |
| 緑釉陶器 | 浅椀[土師質,緑彩]<防長中>[2]、椀[防長中](1)<br>壺?[硬、淡茶灰色](1)、破片[硬、淡茶灰色(1) |
| 瓦類 | 平瓦、丸瓦、格子タタキあり |
| 金属製品 | 鉄釘(2) |

S-101

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋2、坏c、壺e、壺d?、甕 |
| 土師器 | 小皿a<Ⅺ>[2]、小皿a2、丸底坏a[2]、椀c[ミガキc](3)・<IX-X>(1)、<br>皿a<8～9c>、甕<8～9c>、小把手(1) |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀、小甕 |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(3)、I-2ア?(1)、Ⅱ(1)、Ⅲ(1) |
| 高麗青磁 | 椀；I?(1) |
| 青磁（未分類） | 青磁破片(1) |
| 灰釉陶器 | 皿?(1) |
| 白磁 | 椀；V-3a(1)、Ⅳ(4)、Ⅳ～Ⅷ(3)、段I[ⅣIbかⅦ](2)、<br>Ⅱ(3)、段2(2)、V～Ⅷ(1)<br>皿；Ⅱ×Ⅲ(1)、V-1?(1) |
| 中国陶器 | 他；破片A' -a1(1) |
| 瓦類 | 平瓦、文字Ⅱ-5 |
| 石製品 | 滑石片(5) |

S-102

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 壺d、甕 |
| 土師器 | 小皿[ヘラ[9]、イト[1]<IX～Ⅻ>、丸底坏a(8)、椀c、甕a |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(4)、I-5?(1) |
| 高麗青磁 | 坏他；高麗?(1) |
| 青磁（未分類） | 青磁壺?×合子?(1) |
| 灰釉陶器 | 壺?(1) |
| 白磁 | 椀；Ⅱ(1)、Ⅳ-1b(1)、Ⅳ(6)、V-2(1)、V-1×Ⅷ-2(1)、<br>V-2b[S-145と接合](1)、Ⅳ～Ⅷ(4)、段I[Ⅳ×Ⅶ?](2)、V-1(2)<br>皿；Ⅱ×Ⅲ-2(1)、Ⅵ(1)<br>壺他；壺(1) |
| 中国陶器 | 他；破片A' [黄色味](1) |
| 高麗陶器 | [無釉]壺 |
| 瓦類 | 単弁軒丸瓦[M-027] |
| 金属製品 | 鉄釘(1)、鉄鎌?(1) |
| 石製品 | 滑石片(2)、磨製石斧 |

S-103

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c |
| 白磁 | 椀；Ⅳ×V?(1) |

S-104

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a |

S-105

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、坏c、皿a、壺、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]‹Ⅺ～Ⅻ›·a2(1)、坏a、丸底坏a、椀c[ミガキc](3)、鉢 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀c(2) |
| 高麗青磁 | 坏他；破片高麗?(1) |
| 須恵質土器 | 椀(1) |
| 白磁 | 椀；Ⅳ(1)、Ⅳ-1b(1)、Ⅴ-1(1)、Ⅳ～Ⅷ(1)、<br>段1[Ⅳ-1b?](1)、Ⅱ(1)、段[Ⅴ×Ⅶ?](1) |
| 高麗陶器 | [無釉] |
| 瓦類 | 丸瓦 |
| 金属製品 | 鉄片(1) |
| 石製品 | 滑石加工品(1) |

S-106

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕(転用硯) |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ][16]、丸底坏a[2]、椀c[ミガキc][1] |
| 黒色土器B類 | 椀c[1] |
| 越州窯系青磁 | 椀；I-5?(1) |
| 金属製品 | 鉄釘(2) |

S-107

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕 |
| 土師器 | 坏a、甕a |

S-108

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、坏c、甕　　大半9c |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ、混入?]、坏a、坏a?‹11c›、小鉢a、甕　大半9c |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 緑釉陶器 | 皿?[土師質](1) |
| 金属製品 | 鉄釘 |
| 石製品 | 断面六角砥石片(1) |

S-109

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c3、甕 |
| 土師器 | 小皿a、甕a |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 緑釉陶器 | 皿?[土師質](1) |
| 白磁 | 椀；I[S-50と接合](1△1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-110

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、坏a、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ][2]、小皿a2[1]、破片[坏a Ⅷ×小皿a X]、坏a[1]、<br>丸底坏a、丸底坏c、丸底坏(1)[穿孔]、小丸底坏a[2][ミガキb]、椀c‹8c後›、<br>椀c、小壺[1]、甕、把手 |
| 黒色土器A類 | 椀c、椀c[1][A×B]、小甕[1] |
| 黒色土器B類 | 椀c[1] |
| 越州窯系青磁 | 椀；I-2(2)、I(2)、I?(1)、I?×龍?(1)<br>皿；I-1×2(1) |
| 高麗青磁 | 坏他；破片Ⅲ?[S-78と接合](1) |
| 灰釉陶器 | 椀(1) |
| 白磁 | 椀；Ⅳ-1b(1)、Ⅳ(3)、Ⅴ-2(1)、Ⅳ～Ⅷ(4)、Ⅱ(1)、<br>Ⅴ-3a(1)、段1(1)、椀×皿Ⅺ-5(1)<br>皿；Ⅱ-1a(1) |
| 瓦類 | 丸瓦、平瓦 |
| 金属製品 | 鉄釘(1)、環状鉄器(1) |
| 石製品 | 滑石石鍋(2)、加工品(1) |
| 土製品 | 不明土製品(1) |

S-111

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 蓋c、坏a、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-112

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 坏a、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 緑釉陶器 | 皿[円盤高台]‹京2›(1) |

S-113

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏c、甕 |
| 土師器 | 蓋3、甕、把手 |
| 土製品 | 生産関係?(1) |

S-114

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 壺b、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]‹Ⅺ～Ⅻ›、丸底坏a‹Ⅻ›、丸底坏c、椀c‹Ⅺ～Ⅻ›、小甕a |
| 黒色土器B類 | 椀C |
| 白磁 | 椀；Ⅳ(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 金属製品 | 鉄釘(1)、鉄鍋×台(1) |
| 土製品 | 土錘 |

S-115

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、坏c、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]、丸底坏a‹Ⅻ›、椀c、盤?甕a |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 白磁 | 椀；Ⅳ～Ⅷ(1)、Ⅱ(1)　　皿；Ⅱ-1a(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 土製品 | 生産用具?(1) |

S-116

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c3 |
| 土師器 | 小皿a、丸底坏a、器台、甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀 |

S-117

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 破片、竈? |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 緑釉陶器 | 皿[土師質](1) |

S-118

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]、甕 |
| 越州窯系青磁 | 鉢他；不明(1) |

S-119

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、坏c、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ](1)‹Ⅺ～Ⅻ›、甕a |
| 製塩土器 | 焼塩壺I(1) |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 白磁 | 椀；段2(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-120

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]‹Ⅻ›[3]、丸底坏a‹Ⅺ、Ⅻ›[5]、小丸底坏a‹Ⅻ›[2]<br>丸底坏c、盤? |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(2)、I?(2)　　鉢他；破片越I?×高I?(1) |
| 高麗青磁 | 坏他；破片高麗?(1) |
| 緑釉陶器 | 破片(1) |
| 灰釉陶器 | 壺?(2) |
| 白磁 | 椀；V-3a(1)、Ⅳ(3)、Ⅳ～Ⅷ(3)、Ⅺ-4(1)、<br>段2[Ⅳ-1b?](3)、Ⅳ?(1)、Ⅱ-1?(1)、<br>Ⅳ-1b(2)[うち(1)は表土・S-229と接合]、XⅢ(1)<br>皿；Ⅺ-5(1)、Ⅲ?(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 金属製品 | 鉄釘(3) |
| 石製品 | 軽石(1)、滑石石鍋(1)、滑石片(1) |
| 土製品 | 土玉(1)、鞴羽口(1) |

S-121

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、皿a、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]、丸底坏a、丸底坏c、椀c、椀c[ミガキc][2]、皿a、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 小皿a、椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(1) |
| 白磁 | 椀；Ⅱ(1)、Ⅳ-1a[表土と接合](1)、Ⅳ(3)、Ⅳ～Ⅷ(6)、Ⅴ～Ⅷ(1)、<br>段2[Ⅳ-1bかⅦ](1)、XⅡ[S-145・表土と接合](1)、Ⅱ-5(1)、Ⅺ-4(1)<br>皿；Ⅶ-1a(1)、Ⅱ-1a(2)、Ⅱ-1a?(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 金属製品 | 鉄釘?(1)、鉄(1) |
| 石製品 | 滑石石鍋(3)、砥石(1)、黒耀石剥片(1) |

S-122

| | |
|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a |

S-123

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋?、壺?、甕、 |
| 土師器 | 甕 |

S-124

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 坏a |
| 黒色土器B類 | 小皿a[1]、椀c |

S-125

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、壺b、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ][2]、坏a(1)[搬入?]、丸底坏a[2]、椀c、把手 |
| 製塩土器 | 煎熬土器(1) |
| 黒色土器A類 | 椀c |

S-126

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ][1]‹Ⅻ›、丸底坏a、椀c、盤? |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 瓦器 | 椀[口縁内面に沈線] |
| 白磁 | 椀；Ⅳ～Ⅷ(1)　　皿；Ⅱ-1a(1) |

S-127

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 壺、甕 |
| 土師器 | 小皿a、坏c、甕 |

S-128

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 坏a‹Ⅵ・Ⅷ›、甕 |

S-129

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c1[1] |
| 土師器 | 破片 |

S-130

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、坏c[1]‹7c後タイプ›、皿[1]、壺?[1]　　大半小片・8c |
| 土師器 | 坏d、高坏、甕a　　大半小片・8c |
| 製塩土器 | 焼塩壺I(1) |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(1) |

S-131

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 坏a‹9～10c› |
| 黒色土器A類 | 椀c |

S-132

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、壺、甕 |
| 土師器 | 坏、坏c、甕a |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-133

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏a、椀c |

S-135

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏c、甕 |
| 土師器 | 大甕a |

S-136

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3[退化]、甕 |
| 土師器 | 蓋?、小皿a[ヘラやや多いが混入?]、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 瓦器 | 椀 |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-137

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 高坏 |
| 土師器 | 小皿、坏 |
| 白磁 | 椀;Ⅳ(1) |
| 石製品 | 滑石片 |

S-138

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、皿、高坏、甕 |
| 土師器 | 坏、坏a<Ⅵ>、小甕 |
| 越州窯系青磁 | 椀;I?(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-139

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3、甕 |
| 土師器 | 坏a[新しい?]、坏[内面付着物]、竈 |

S-140

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、皿?、壺、甕 |
| 土師器 | 坏、甕a |
| 製塩土器 | 煎煮土器(1) |
| 瓦類 | 格子 |

S-141

| | |
|---|---|
| 緑釉陶器 | 角高台(1) |

S-142

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c4、坏、壺?、甕? |
| 土師器 | 坏a、甕a |
| 白磁 | 椀;Ⅳ～Ⅷ(1)　皿;Ⅳ×Ⅶ(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-143

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、甕 |
| 土師器 | 坏a<8c後>、甕 |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-144

| | |
|---|---|
| 土師器 | 破片 |

S-145

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c2、坏c、坏a、高坏、甕、壺 |
| 土師器 | 蓋[ミガキ?]、小皿a[ヘラ]<Ⅻ>、坏a、丸底坏a<Ⅻ>、丸底坏c、<br>椀c[ミガキC、外反・直]、盤?、甕[ハケ]、甕a、把手 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 瓦器 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀;I-1a(1)、I?(1)、I(1)<br>壺;壺Ⅲ?(1)、水注Ⅲ?[注口](1) |
| 高麗青磁 | 椀;I[S-84と接合][1]、Ⅲ-1(1) |
| 青磁(未分類) | 不明(1) |
| 緑釉陶器 | 皿[S-210と接合]<京2>(1△1) |
| 白磁 | 椀;I(1)、II-1(4)、II(7)、Ⅳ(5)、Ⅳ(1)、V-1a[表土と接合](2)、<br>V-2(6)、V-2b[S-102と接合][1]、V-3b(1)、V(1)、Ⅳ～Ⅷ(10)、<br>Ⅻ[表土S-121と接合](1△1)、Ⅻ(1)、Ⅴ段2(1)、 Ⅵ-1b(2)<br>皿;II-1a(2)、V-2[1]、V～Ⅵ(1)、不明(1)<br>他;壺?II?(1) |
| 金属製品 | 鉄釘(1)、鉄釘長大(1)、鉄刀子?(1)、鉱滓(1)、鉄鏃 |
| 石製品 | 滑石片(10) |
| 土製品 | 生産用具?(3) |

S-146

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 小皿a、椀[ミガキa] |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 緑釉陶器 | 皿?[須恵質](1)、椀[S-55と接合](1△1)、破片[土師質](1) |
| 白磁 | 椀;II-1(1)、V-3b(1)、Ⅳ～Ⅷ(2)　皿;II-1a(1) |
| 石製品 | 砥石?(1) |

S-147

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏a |
| 緑釉陶器 | 高台[蛇ノ目、須恵質](1)、底部[土師質(1△1)[S-66下層接合]<近江×東海>、<br>破片[土師質](1)、 |

S-148

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、壺、甕 |
| 土師器 | 坏a、坏c |
| 黒色土器A類 | 椀? |

S-149

| | |
|---|---|
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]<Ⅺ～Ⅻ>、丸底坏a |

S-150

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏c、壺、甕 |
| 土師器 | 坏c、甕 |
| 製塩土器 | 焼塩壺II(1) |

S-151

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c |
| 土師器 | 坏a、甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |

S-152

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 |
| 土師器 | 甕、破片 |
| 緑釉陶器 | 壺b?[須恵器か?](1) |

S-153

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 坏、椀、甕a |

S-154

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 坏、甕 |

S-155

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、蓋c3、坏c、鉢b、鉢b×壺、甕　8cのもの多い |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]<Ⅺ～Ⅻ>、坏a<ⅥI～IX?>、椀、甕a、把手　8cのもの多い |
| 製塩土器 | 煎煮土器(2) |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀;I-1(1)、I×高麗I?(1) |
| 灰釉陶器 | 段皿(1)、壺?(1) |
| 瓦類 | 丸瓦 |
| 金属製品 | 鉄(2) |

S-156

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、壺a?、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]<Ⅻ>、椀c、丸底坏a、丸底坏c?、甕 |
| 越州窯系青磁 | 椀;I(1) |
| 瓦類 | 平瓦、平瓦[文字XⅦ「八年」] |
| 金属製品 | 鉱滓(1) |

S-157

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c3、甕 |
| 土師器 | 小皿a、椀c、甕、把手 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀;I(1) |
| 瓦類 | 平瓦、文字II-5 |

S-159

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、坏a、皿a、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]、坏a |
| 黒色土器B類 | 破片 |

S-160

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、坏c、甕、甕[口縁部波状文] |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ][2]・[イト(1)、混入か?]、丸底坏a[4]<Ⅻ>、椀c、<br>椀c[ミガキc]、椀×丸底坏c、高坏[古い]、甕 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 瓦器 | 椀 |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) |
| 白磁 | 椀;V-2(1)、Ⅳ～Ⅷ(3)、V(1)、段I(1)<br>皿;II-1a[1]、V-2(1) |
| 中国陶器 | 鉢;鉢?[内面にEに似た黄褐釉、胎土緻密](1) |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 石製品 | 破片(2) |
| 土製品 | 鞴羽口(1) |

S-161

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏、甕b1 |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) |
| 金属製品 | 鉄器片(1) |

S-162

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 坏c、甕 |

S-163

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋 |
| 土師器 | 小皿a、8cの坏d? |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 白磁 | 椀;内面クシ目(1) |

S-164

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕 |
| 土師器 | 坏、甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 越州窯系青磁 | 椀;I(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-165

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]<Ⅻ>、丸底坏a、丸底坏c |
| 黒色土器A類 | 椀、椀c |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 白磁 | 椀;Ⅳ(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 石製品 | 滑石鍋片(1)、滑石加工品(1) |
| 土製品 | 生産用具?(1) |

S-166

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏、皿 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 石製品 | 滑石製権[1] |

S-167

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、蓋2、蓋4に近い蓋3、坏、壺、甕 |
| 土師器 | 甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |

S-168

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 皿、甕 |
| 土師器 | 破片 |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 金属製品 | 鉄(1) |

S-169

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏 |
| 土師器 | 破片 |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) |

S-170

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c3、坏c、壺、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]‹Ⅻ›・[イト(1)・混入?]、坏、高坏‹8c›、椀、<br>丸底坏a[1]‹Ⅻ›、盤、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀、小甕 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 瓦器 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(3)、II-2(1) |
| 須恵質土器 | 鉢[底部] |
| 緑釉陶器 | 皿[土師質](1)、口縁部[土師質、沈線](1) |
| 白磁 | 椀；II(3)、Ⅳ(3)、V-1a(1)、V-1(1)、V-2b[1]、<br>Ⅳ～Ⅷ(5)、V-3b(1)、V-3a[S-84、表土と接合](1)<br>皿；Ⅲ-2?(1)、II-1a(1)、II-1a?(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 金属製品 | 鉄刀子?(1)、鉄釘(1)、鉄釘?(1) |
| 石製品 | 滑石片(1)、上部穿孔砥石(1) |

S-170下層

| | |
|---|---|
| 土師器 | 小皿c(1)、甕、竈 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(1) |
| 白磁 | 皿；V-2(1) |

S-172

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋2、坏c、壺、甕 |
| 土師器 | 坏、椀c、甕 |
| 金属製品 | 鉄器片(1) |

S-173

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏d‹8c› |

S-174

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、坏c、甕 |
| 土師器 | 椀、甕 |

S-175

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、蓋2、蓋3、小蓋a、坏、甕 |
| 土師器 | 坏、甕a |

S-176

| | |
|---|---|
| 白磁 | 椀；I-1(1) |

S-177

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋I |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]‹Ⅻ›、甕×盤? |

S-178

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕　大半は8c末～9cのもの |
| 土師器 | 坏a‹Ⅶ›、中椀c、中椀c2‹Ⅸ›、皿a、甕a<br>大半は8c末～9cのもの |
| 黒色土器A類 | 椀、椀c |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(3)、II-2d[表土S-200と接合](1△1)<br>坏；I-2A[表土と接合][1] |
| 緑釉陶器 | 椀×皿[土師質](1) |
| 白磁 | 椀；Ⅳ～Ⅷ?[混入か?](1) |
| 瓦類 | 文字II-7a(1) |
| 石製品 | 黒曜石片(1) |
| 土製品 | 生産関連?(1) |

S-179

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c3、甕 |
| 土師器 | 坏 |
| 黒色土器A類 | 椀c |

S-180

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋c2、蓋c3、坏c、甕 |
| 土師器 | 小皿a[イト、混入?]、坏、坏a[Ⅷ]、椀c、甕a、甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀；I-2b[浅椀×坏I2](1)、I-2(1)、II[口縁玉縁状](1)<br>壺；壺類II(1) |
| 緑釉陶器 | 段皿[須恵質]‹近江›(1)、破片[土師質、防長](1) |
| 瓦類 | 平瓦、丸瓦 |
| 石製品 | 滑石鍋片(1) |

S-181

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、甕 |
| 土師器 | 小皿a、丸底坏a |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 高麗青磁 | 坏他；破片Ⅲ-A(1) |
| 緑釉陶器 | 直口縁[須恵質](1) |
| 瓦類 | 丸瓦、平瓦 |

S-182

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、蓋3、坏a、坏c、大皿a、小壺、甕a |
| 土師器 | 坏a、高坏、椀c、甕a |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-183

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋[V型] |
| 土師器 | 皿c? |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-184

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋2、坏c、瓶?、甕 |
| 土師器 | 蓋c、椀c、小甕a |
| 黒色土器A類 | 椀c |

S-185

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 坏、甕a |
| 製塩土器 | 焼塩壺I(1)・I?(1)・IIb(1) |

S-186

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |

S-187

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c[輪状つまみ] |
| 土師器 | 坏a[底部回転ケズリ] |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(1) |
| 灰釉陶器 | 椀?(1) |

S-188

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 坏a、皿a |
| 越州窯系青磁 | 壺；水注?II(1) |

S-189

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 皿a、椀c[ミガキa]、甕、中甕、破片[墨書] |
| 越州窯系青磁 | 椀；I-4(1) |

S-190

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋a、蓋c、蓋b、蓋3、坏a[3]、坏c[3]、皿a、高坏、鉢b、壺、甕 |
| 土師器 | 蓋3、坏a[9]、坏c、坏d[7]、高坏?、椀[ミガキあり]、椀c[混入]、<br>椀、皿a[墨書](3)、皿a、小鉢、小鉢a(1)、甕a(1)、小甕a(1)、竈?(1) |
| 製塩土器 | 焼塩壺I(3)・IIb(1) |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 越州窯系青磁 | 椀；椀×皿I(1) |
| 緑釉陶器 | 直口縁[土師質](1) |
| 白磁 | 椀；I-1a(1) |
| 石製品 | 軽石(1)、滑石(1)、剥片(1)[一部研磨痕あり] |

S-190最上層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c3、坏a、坏c、皿、壺[底部]、甕 |
| 土師器 | 小皿a[混入]、坏a、坏d、高坏?脚、椀c、皿a、甕a、甕b1、甕b2、把手 |
| 製塩土器 | 焼塩壺I類 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 椀c‹11～12c代› |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(2)、II(1) 、椀×皿I(1) |
| 緑釉陶器 | 椀[土師質]‹防長古›(1)、椀×皿×蓋[防長古](1) |
| 白磁 | 椀；I-1(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 土製品 | 生産用具(1)、鞴羽口(1) |

S-191

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、甕　8c後のものが多い |
| 土師器 | 坏a、坏d、椀c、皿a、甕a　8c後のものが多い |
| 黒色土器A類 | 鉢 |
| 緑釉陶器 | 口縁部[土師質](1) |
| 石製品 | 滑石[甕状の口縁] |

S-192

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、壺、甕　8c |
| 土師器 | 坏、甕[ハケ]　8c |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 緑釉陶器 | 外反口縁[土師質](1)、坏[土師質、S-201・210と接合](1△1) |

S-193

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、坏c、甕 |
| 土師器 | 坏a、皿a、甕a、竈 |
| 黒色土器A類 | 小甕? |

S-194

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏c、坏、鉢? |
| 土師器 | 蓋3、坏a‹Ⅵ›、皿a、高坏、甕a |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 土製品 | 生産用具片(13) |

S-195

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、坏c、長頸壺、甕 |
| 土師器 | 坏a‹Ⅶ›、坏d、甕、小甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 石製品 | 砥石 |

S-196

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋I、坏 |
| 土師器 | 坏a、甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 石製品 | 軽石(1) |

S-197

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、坏c |
| 土師器 | 蓋3、坏a‹ⅥA›・d、甕 |
| 瓦類 | 破片 |

S-198

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 小皿a、坏a、椀、甕a |
| 越州窯系青磁 | 椀；I-5[化粧土なし、体部下半釉なし](1) |

S-199

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、甕 |
| 土師器 | 小皿a、小皿a2、皿a、甕、坏(1)[墨書] |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-200

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c3、坏c、鉢?、小壺、甕(1) |
| 土師器 | 坏a(1)<Ⅸ>、坏a、椀a?[手持ちヘラミガキ]・c、中椀、<br>丸椀a<Ⅸ～Ⅹ>、甕<7c>、甕b1　　ⅥA位のが多い |
| 製塩土器 | 煎熬土器(1)、焼塩壺I(2) |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀；I-2?(1)、I-2(2)、I-2×皿I-2(1)、<br>II-2d[表土、S-178と接合](1)、II(1)、<br>II?[胎土黒斑、化粧土なし](1)、大椀I2bA[輪花、タテ線](2) |
| 緑釉陶器 | 小椀[土師質、防長新](1)、高台[土師質、小椀]<防長新>(1)、破片(1) |
| 白磁 | 椀；V-4c[混入?](1)、I-1a(3) |
| 瓦類 | 平瓦、丸瓦、丸瓦[文字I-7a「平井」] |
| 金属製品 | 鉄錐?(1)、鉱滓片(3) |
| 石製品 | 滑石片(1)、サヌカイト(1)、玉状製品(1) |

S-201

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、甕 |
| 土師器 | 甕a |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 緑釉陶器 | 坏[土師質、S-192・210と接合](1△1) |
| 金属製品 | 鉄釘(1) |

S-202

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋×高坏 |

S-203

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 破片 |
| 緑釉陶器 | 椀[土師質](1) |

S-204

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、高坏、皿a、甕 |
| 土師器 | 坏a、甕 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 白磁 | 椀；Ⅳ～Ⅷ(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-205

| | |
|---|---|
| 土師器 | 小皿a[7]、小皿a2?[3]、小皿c[1]、坏a[1]、丸底坏a[1]、皿a[1] |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀c[2] |
| 瓦器 | 椀[楠葉][1] |
| 越州窯系青磁 | 椀；I-5(1)　　壺；I(1) |
| 白磁 | 皿；XI-3(1) |
| 緑釉陶器 | 蛇ノ目高台[須恵質、素地、S-224と接合(1△1) |
| 須恵質土器 | 鉢[東播?] |
| 石製品 | 砥石(1) |
| イスラム陶器 | 破片(1) |
| 金属製品 | 鉛?瓔珞(1) |
| 土製品 | 坩堝(1) |

S-206

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 坏a |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質(1) |
| 土製品 | 生産用具?(1) |

S-207

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕 |
| 土師器 | 坏a[ヘラ]<Ⅶ?> |
| 白磁 | 椀；I高台(2)[1はI-4?] |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-208

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、小坏c(1)、甕、円面硯(1) |
| 土師器 | 大坏d、甕 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-209

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c[1]、坏c[2]、大坏c[1]、高坏[2]、皿a[2]、壺[1]、甕 |
| 土師器 | 蓋c、蓋2、蓋3、坏、盤、鍋[1]、甕a[1]、甕a2、甕 |
| 製塩土器 | 煎熬土器(4)、焼塩壺I(6)・IIb(2) |

S-210

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3[1]、坏a、坏c[2]、坏a[ヘラ]、高坏[2]、皿a[2]、小鉢a、脚付鉢<br>鉢b、壺[1]、甕、把手　　全体古い |
| 土師器 | 坏a[ヘラ][3]、坏d、椀c[高台高く太い]、皿a[2]、壺[1]、<br>小甕[ミガキ有]、甕a[2]・b[古い要素有]、竈、把手　　全体古い |
| 製塩土器 | 焼塩壺I[1]・IIb?(3) |
| 黒色土器A類 | 鉄鉢形鉢[1] |
| 越州窯系青磁 | 椀；I-1a(1)、大椀II(1) |
| 長沙窯系陶磁 | 壺[褐釉][S-261に類似品(1)あり][1] |
| 緑釉陶器 | 皿[須恵質、S-145と接合]<京都2>(1)、<br>皿[無釉・素地]<京都2>(1)、口縁部[須恵質](1)、<br>坏[土師質、S-192・201と接合]<防長>(1)、破片[防長](1) |
| 灰釉陶器 | 硯(1△1)[原始灰釉、脚部、SD230<ⅥA>接合] |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 金属製品 | 鉄釘 |

S-211

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、甕 |
| 土師器 | 坏a、甕a |
| 緑釉陶器 | 耳皿?[土師質](1) |

S-212

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋2、蓋3、蓋c、坏a、坏c、高坏[1]、甕　　8cのもの多い |
| 土師器 | 蓋3、高坏、坏、椀c<平安>、甕a[1]、竈　　8cのもの多い |
| 製塩土器 | 焼塩壺I(1) |
| 黒色土器B類 | 椀 |

S-213

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、蓋3、坏a、坏c |
| 土師器 | 甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |

S-214

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、坏、甕 |
| 土師器 | 坏a、甕 |

S-215

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3[1]、蓋4[1]、坏a、椀、大皿a[1]、壺[1]、壺d[1]、甕[平行タタキ]、<br>甕、把手付甕　　7c後半～末を含む、8c後半～9c初あり |
| 土師器 | 小皿c[3]、坏a(13)<Ⅷ・Ⅸ>、坏a[1]<X?>、坏c、丸底坏a×丸椀a[1]<X-XI>、<br>丸底坏タイプの平底椀[混入か][1]<X-XI>、<br>椀c2[3][Ⅷ・Ⅸ,ほとんど外反しない]、脚付椀?(1)、鉢?[1][ミガキc]、<br>中椀c1、中椀2[外反しない[5][Ⅷ・Ⅸ]、甕a、甕b1、甕b2 |
| 製塩土器 | 甕×大型鉢(10) |
| 黒色土器A類 | 椀c[2]、大椀c |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 越州泉窯系青磁 | 椀；I-2aウ[1]、I-2aア[5][表土と接合(1)、<br>S-229と接合(1)、浅作り(2)]、I-2b[2]、<br>I(口16・体12)、II-2b(1)、椀×皿II(1)<br>壺他；水注II(2)　　坏II[褐彩](1) |
| 緑釉陶器 | 小椀?[京都1×2,土師質](1)、皿[須恵質]<近江>(1)、<br>皿[硬質、淡黄灰色](1)、<br>皿[硬質(1)、暗灰色]<京都3・前山2・3号>(1)、破片[土師質](2) |
| 灰釉陶器 | 壺?(1) |
| 白磁 | 椀；I(1)　　皿；Ⅵ(1)[混入] |
| 瓦類 | 平瓦、丸瓦、文字瓦[I-6](1) |
| 金属製品 | 鉄(4)、鉄釘(14)、鉄金具[3]、板状鉄器及び大形容器底(2) |
| 石製品 | 滑石鍋片(4)、ツマミ状滑石[穿孔部分に釘残る](1) |
| 土製品 | スサ入り(1) |

S-216

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、壺 |
| 土師器 | 坏c、甕、把手 |
| 黒色土器B類 | 椀、椀c |

S-217

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 坏a<SEⅥA>、甕a |
| 緑釉陶器 | 皿[土師質、薄手](1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-218

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、蓋3 |
| 土師器 | 坏a[穿孔アリ]、甕b、甕a、竈 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-219

| | |
|---|---|
| 土師器 | 甕a<8c後～9c> |

S-220

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]<XI～XII>、丸底坏a[外反しない]<XI?> |
| 越州窯系青磁 | 椀；I-5(1) |
| 白磁 | 椀；Ⅳ(1) |
| 灰釉陶器 | 椀[S-231と接合]<丸石2>(1) |
| 石製品 | 砥石(1) |

S-221

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏c、皿a |
| 土師器 | 坏a[ミガキなし]<ⅥA>、高坏、甕、把手 |
| 緑釉陶器 | 外反口縁[土師質] (1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-222

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a |
| 土師器 | 坏、甕 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(1) |

S-223

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏c、甕 |
| 土師器 | 坏a?、皿a、甕 |

S-224

| | |
|---|---|
| 土師器 | 甕、坏 |
| 緑釉陶器 | 蛇ノ目高台[須恵質、素地、S-205(11c)と接合]<京都2>(1) |

S-225

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、坏c、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ](10)、小皿a2(2)、丸底坏a[ヘラ](10)、小丸底坏a(1)、<br>丸底坏c、器台脚部、椀c、盤、鍋、甕、竈 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 瓦器 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(1)<br>壺；水注[注口]I(1)、壺?II(1)　　鉢他；合子III[1] |
| 高麗青磁 | 椀；I-1?(1) |
| 白磁 | 椀；Ⅳ-1b(1)、Ⅳ(1)、V-1(1)、V-2(1)　　皿；Ⅸ(1) |
| 瓦類 | 平瓦、丸瓦[文字I-5「平井」] |
| 金属製品 | 鉄釘(1) |
| 石製品 | 滑石鍋(1)[鉄釘2本貫通状態で残存]、滑石片(1) |

S-226

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片、甕 |
| 土師器 | 坏d<ⅥA> |

S-227

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏c、椀 |
| 土師器 | 坏d、甕、甕a |

S-228

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋I、蓋3、坏c、平瓶、壺、甕 |
| 土師器 | 小皿a2[1]、丸底坏a[1]<XI>、坏a、椀c[1][高い高台]<br>皿a、皿b?[1]、甕、竈、把手 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀;I(1) |
| 灰釉陶器 | 破片(1) |
| 白磁 | 椀;XI(1) |
| 瓦類 | 平瓦・丸瓦 |

S-229

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、蓋3、坏c、鉢、壺類、甕a、転用硯[甕] |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ][5]<大半XII>、坏a<VIII>、丸底坏a[11]<大半XII>、<br>器台脚部(1)、椀c、大椀c?、甕a |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 瓦器 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀;I-2イ(1)、I-2ア[S-215と接合](2△1)、I-2b(1)、<br>I-5(1)、II[S-234と接合](1)、坏I(1)<br>壺;水注×壺II(2)、[瓜割形、褐彩](1) |
| 高麗青磁 | 坏他;破片I(1)・?(1) |
| 須恵質土器 | 椀[イト切][1]、鉢[東播][1] |
| 緑釉陶器 | 皿[底部,土師質,京都I](1)、外反口縁[土師質](1) |
| 灰釉陶器 | 破片(1) |
| 白磁 | 椀;II-1(1)、IV-1b[S-120表土と接合](2△1)、IV-1a(2)、<br>IV(7)、V-1(1)、V[表土と接合](1)、V[外面ヘラ](1)、<br>IV～VIII(10)、XII b(1)、II(2)[1点はS-84と接合(1)]<br>皿;II-1a(3)、II-1(1)、II-1a?(2)、XI?(1)、VI(1)、V～VIII(1) |
| 中国陶器 | 壺;?A-ab(1)、四耳壺III[底部、外面釉なし、大形](1) |
| 瓦類 | 丸瓦、平瓦、軒丸瓦[単弁蓮華文、新種] |
| 金属製品 | 鉄釘(2) |
| 石製品 | 滑石片(2) |
| 土製品 | 硯?[二面硯](1) |

S-230

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋[2]、坏a[1]、坏c[2]、壺c?、壺、甕a |
| 土師器 | 蓋3、蓋4、坏a[4]、坏c、坏d、椀c[1]、皿a[5]、大皿c、鉢a[1]<br>小甕a[1]、甕a[1]、竈、把手 |
| 製塩土器 | 焼塩壺I(2) |
| 灰釉陶器 | 円面硯片(1)[S-210接合] |
| 緑釉陶器 | 外反口縁[須恵質](1)、破片[土師質](2) |
| 白磁 | 皿;XI(1)[混入] |
| 瓦類 | 軒丸瓦[M-008か、老司系] |
| 土製品 | 生産用具?(4) |

S-231

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 小皿a[イト・ヘラ]、丸底坏a、高坏<8～9c>、甕(1) |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀c、小皿a[1] |
| 瓦器 | 椀片 |
| 越州窯系青磁 | 椀;I(1)、II(1) |
| 龍泉窯系青磁 | 椀;II-b(1)、IV(1) |
| 青磁(未分類) | 椀[内沈線・ヘラ描き、外雷文??](1) |
| 灰釉陶器 | 椀[S-220と接合]((1△1))、壺?(1)、甕?(1) |
| 白磁 | 椀;II(1)、IV-1b[表土と接合](1)、IV(4)、V-1(2)、V-2(1)、有段IV-1b(1)<br>皿;VI-1b(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 金属製品 | 鉄釘(3) |
| 石製品 | 滑石鍋片(1) |

S-232

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c3、坏c、甕、把手付甕 |
| 土師器 | 小皿a[8][ヘラ]<XI、XII>、坏a[古い]、丸底坏a[2]<XII>、<br>小椀c2<IX>、甕 |
| 製塩土器 | 焼塩壺I(1)・IIb(1) |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀;I(3)、I-5[表土と接合](1) |
| 青磁(未分類) | 不明破片(1) |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) |
| 灰釉陶器 | 壺?(1) |
| 白磁 | 椀;IV(1)、段2(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 金属製品 | 鉄釘(1) |
| 石製品 | 滑石鍋片(2) |

S-234

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋I、坏c、甕、甕(猿面硯に転用) |
| 土師器 | 小皿a[4][ヘラ]、丸底坏a、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀c(1) |
| 越州窯系青磁 | 椀;I-1a(1)、II[1片はS-229と接合(1)](2△1)<br>鉢他;蓋II(1) |
| 白磁 | 椀;IV(2)、IV～VIII(2)、XI(1) |
| 瓦類 | 丸瓦、平瓦 |
| 金属製品 | 鉄器(1)、刀子、鉱滓(1) |
| 石製品 | 滑石鍋片(3) |

S-234?

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ]、丸底坏a、椀c |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀;I-1b(1)、I-2イ(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-235

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c3、坏c、甕 |
| 土師器 | 坏a、坏d、椀c?、皿a(1)、甕、甕a、竈 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀;I-1a(1)、I(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 土製品 | 生産用具(1) |

S-236

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 小皿a[1][ヘラ]、丸底坏a、甕a |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-237

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 小皿a、坏a[イト]、丸底坏a[1]、椀c[1]、甕 |
| 越州窯系青磁 | 椀;I(1) |
| 白磁 | 椀;IV-1a(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-238

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 小皿a[4][ヘラ]、丸底坏a[1]、椀c[黒A?]、中椀c、甕a |
| 越州窯系青磁 | 椀;I(1)、II(1) |
| 緑釉陶器 | 口縁部[土師質](1) |
| 白磁 | 椀;IV(1)、V-1a(1)　皿;II-1a(1) |
| 高麗陶器 | [無釉]甕 |
| 瓦類 | 丸瓦 |
| 石製品 | 滑石鍋片(1) |

S-240

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c3、甕 |
| 土師器 | 小皿a[6][ヘラ]、丸底坏a[9]、器台脚部、椀c、甕、甕b |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀;I(2)、II-2e?(1) |
| 灰釉陶器 | 広口瓶[表土と接合](1) |
| 白磁 | 椀;IV-1a(1)、IV-1b(1)、XI-4(1)、II-3(1) |
| 金属製品 | 鉄釘(1) |

S-241

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、坏a、甕 |
| 土師器 | 小皿[ヘラ]、坏c、丸底坏a、甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 石製品 | 滑石鍋片 |

S-241下層

| | |
|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a[2]、甕 |
| 黒色土器B類 | 椀 |

S-242

| | |
|---|---|
| 土師器 | 小皿a[3][ヘラ]、丸底坏a、椀c、甕[1] |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀;I(1) |
| 白磁 | 椀;I(1)、IV(1) |

S-243

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 坏d |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-244

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a[1]・c、小坏a[1]、皿a[1]、甕 |
| 土師器 | 蓋3 |
| 製塩土器 | 焼塩壺I(2)・IIb(2) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-245

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、蓋3、坏c、皿a[1][墨書・「玉名」]、脚、鉢?、甕、甕b[1]、把手、<br>円面硯(1) |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ・混入品か]、坏、甕 |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-246

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、鉢、甕 |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ] |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 瓦器 | 破片 |
| 白磁 | 椀;II(1) |
| 石製品 | 滑石鍋片(1) |

S-247

| | |
|---|---|
| 土師器 | 小皿a[1][ヘラ]、丸底坏a[1]、椀c[1]、甕 |
| 黒色土器B類 | 椀 |

S-248

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 丸底坏a |
| 黒色土器B類 | 破片 |

S-249

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c2[1] |
| 土師器 | 甕 |
| 越州窯系青磁 | 椀;I(1) |

S-250

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 椀c<VII>、甕　やや新しい破片少量 |
| 越州窯系青磁 | 椀;I(1) |
| 白磁 | 椀;II?(1) |

S-251

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、甕 |
| 土師器 | 坏a、甕、竈 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 皿c |
| 越州窯系青磁 | 椀;I-2ア(1) |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) |

S-252

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、坏、坏c、甕 |
| 土師器 | 皿a、坏、高坏、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀;I(1) |
| 石製品 | 滑石鍋片 |

S-253

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 破片 |
| 同安窯系青磁 | 椀;II?(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-254

| | |
|---|---|
| 石製品 | 石鏃[1] |

S-255

| | |
|---|---|
| 土師器 | 小皿a2[1]、丸底坏a[1][ヘラ]、椀c?[1][ミガキc] |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀;椀Ⅲ?×皿Ⅲ-1(1) |
| 白磁 | 皿;Ⅸ-3?[青白磁?](1) |

S-256

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、坏c、甕 |
| 土師器 | 蓋c、坏d、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀;椀×皿I(1) |
| 緑釉陶器 | 底部[土師質](1) |
| 瓦類 | 平瓦、丸瓦 |

S-257

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 椀c |
| 土師器 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 椀;I-1b(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-258

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 小皿a、小皿a2[1]、中椀c[1] |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 石製品 | 滑石片(1) |

S-259

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、甕 |
| 土師器 | 小皿a<Ⅺ～Ⅻ>、坏a·d<大半8c後> |
| 黒色土器A類 | 椀c |

S-260

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、蓋3、皿a、坏c、壺、甕 |
| 土師器 | 蓋3、蓋c、坏a、坏c、坏d、皿a、甕a[1]、把手 |
| 黒色土器A類 | 椀c<Ⅶ>、小甕a |
| 越州窯系青磁 | 壺;水注I(1) |
| 長沙窯系陶磁 | 椀[青釉][S-5・66下層と同一個体か](1) |
| 金属製品 | 鉄鏃(1)、鉄製紡錘車(1)、金具(1) |

S-260下層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3～4、坏a、坏c、坏[1](転用硯)、瓶[1]、壺[1]、小壺、甕 |
| 土師器 | 坏a、坏c、坏d[1]、坏a(1)[墨書「大」]、皿a[2]、皿b?、小鉢[1]、甕a(1)、竈、把手 |
| 製塩土器 | 煎熬土器(1)、焼塩壺I(1) |
| 黒色土器A類 | 椀、鉢?、坏d[1] |
| 緑釉陶器 | 円盤高台[土師質、京1](1) |

S-261

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、坏c、甕 |
| 土師器 | 坏、坏a、坏c、甕 |
| 黒色土器A類 | 坏c、椀c |
| 長沙窯系陶磁 | 壺[褐釉、S-210と似る](1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

S-262

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 破片 |
| 越州窯系青磁 | 鉢他;不明口縁[外反](1) |

S-263

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 坏a[1]、坏c、中椀c[1]、小甕 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 金属製品 | 鉄釘(1) |

S-264

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、坏、甕 |
| 土師器 | 蓋4(ミガキa)、坏a、坏d、椀c、小甕a |
| 黒色土器A類 | 椀c |

S-266

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕、皿a |
| 土師器 | 甕、坏、小壺 |
| 白磁 | 椀;II(1)　壺他;不明破片(1) |
| 瓦類 | 丸瓦 |
| 金属製品 | 鉄刀子?(1) |

S-267

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、坏c、長頸壺、甕 |
| 土師器 | 坏c、坏a、甕 |

S-268

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、坏c、甕 |
| 土師器 | 坏a、甕a |

S-269

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏a[1]<Ⅶ> |

S-270

| | |
|---|---|
| 土師器 | 甕 |

S-271

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 破片 |

S-272

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏 |
| 土師器 | 皿a、甕 |
| 金属製品 | 鉄釘?(1) |

S-273

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、破片　少量ながら奈良のもののみ |
| 土師器 | 甕　少量ながら奈良のもののみ |

表土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、蓋2、坏a、坏c、小坏a、高坏、小鉢、鉢a、鉢b、壺b、壺d、壺e<br>坏a[墨書・浄典](1)、甕[体部と突帯]、甕a、甕b |
| 土師器 | 小皿a[ヘラ、イト]、小皿a2、小皿c[底部穿孔]、坏a、坏d、坏a[墨書・器]<br>丸底坏a、丸底坏c、高坏、器台、椀c、盤[無高台]、鉢、甕a、中甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c、A×B甕 |
| 黒色土器B類 | 椀c[墨書・西文]、皿a |
| 越州窯系青磁 | 椀;I-2a(3)、I-2b(2)、I-2(6)、<br>I-3×4[1点はS-65と同一か](2△1)、I(19)、I-2aア[S-215接合](1△1)、<br>II-2b×c(2)、II-2d[S-178、S-200と接合](2△1)、<br>II-2e(1)、I-5[1点はS-232と接合](12△1)、<br>II(3)、II?(1)、合子身?I底部[円盤状](1)<br>皿;I-2?(1)<br>坏;I-2[S-178と接合](1△1)、I(1)<br>壺;水注I(3)、水注Ⅲ(1)、壺?II(1)、<br>鉢他;鉢?I(1) |
| 長沙窯系 | 水注[黄釉](1)、[褐釉](1)、水注:褐釉[化粧土あり][1]、 |
| 龍泉窯系青磁 | 椀;I-1(4)、IIb[墨書・花押][1](4)、II(1)、I[墨書・花押](1)、<br>I?(5)、Ⅲ-2(2)、Ⅲ(1)<br>他器;坏Ⅲ'-3a(1)、Ⅲ-3×4(1)、龍泉?(6) |
| 同安窯系青磁 | 椀;I-1b(1)、?(2) |
| 高麗青磁 | 椀;I-2B[S-60と接合](1△1)、越?皿?Ⅲ?(1)<br>坏他;破片(4) |
| 青磁(未分類) | 不明・椀?(1) |
| 須恵質土器 | 椀 |
| 瓦質土器 | 火舎? |
| 緑釉陶器 | 皿[土師質](2)、外反口縁[須恵質(1)・土師質(3)]<br>直口縁[須恵質(1)・土師質(2)]、底部<近江10c後半>[S-79と接合][1△1]<br>蛇ノ目高台[須恵質S50接合(1△1)・土師質(1)]、須恵質(2)・土師質(1)<br>小壺[土師質]破片(1)、他片[須恵質(1)・土師質(15)] |
| 灰釉陶器 | 椀(1)、椀<丸石2>(1)<br>壺(1)、広口壺[S-240と接合(1△1)]、甕(1)、破片[突帯](1)、椀片(9)、口縁(1) |
| 国産陶器 | 近世陶器(1)、古唐津椀×皿(1)、近世?破片[暗緑色](2)、常滑??(1) |
| 国産磁器 | 近世?(1) |
| 白磁 | 椀;I(4)、I-4×XI-1(3)、I-4×XI'-1(1)、XI-5(1)、XI(1)、XI?(1)、<br>II-1[S34,231接合](9△2)、II-1×3(4)、II(17)、II?(1)、Ⅳ-1a(10)、<br>Ⅳ-1b[S-120+229接合](11△1)、Ⅳ-1[S-121接合](9△1)、Ⅳ(31)、<br>Ⅳ?(1)、Ⅳ～Ⅷ(43)、V-1a[S-145接合](10△1)、V-2a(3)、V-2b(4)、<br>V-2b×3b(1)、V-3a[S-84+170]接合(4△1)、<br>V-4(1)、V[S-229接合](9△1)、V?(1)、Ⅷ(1)、<br>Ⅷ-1×3×V-4×Ⅵ-1(1)、有段(8)、<br>内クシ目(3)、XⅢ(4)、XⅢ(5)、不詳(11)<br>皿;II-1a(4)、II-1(4)、II-1a×Ⅲ-2(8)、Ⅵ(4)、I?(1)、<br>Ⅳ?(1)、Ⅸ-1(1)、Ⅸ(1)、Ⅲ-2×椀Ⅵ～Ⅶ?(1)、　Ⅳ×V2(1)<br>壺他;小壺XI(1)、水注×小壺(1)、合子(1)　不明(2) |
| 染付(輸入) | 壺?(1) |
| 中国陶器 | 壺;A-b1(壺I?)[1]、A-a'(1)、壺E'(2)、四耳壺:?Ⅲ-2(1)、Ⅲ-1[1]<br>他;盤I～II(1)　破片:A'-a1?(1)、C'(1) |
| 高麗陶器 | [無釉]甕(1) |
| 瓦類 | 軍弁軒丸瓦Ⅲ・M028・M019、文字(丸)<br>瓦I-5・II-1・II-6・II-7a・Ⅲ-2a・XⅧ、<br>軒平瓦:鴻臚館I-2・Ⅲ、長方埠、無文埠、丸瓦、平瓦 |
| 金属製品 | 鉄釘(9)、刀子状(2)、鉄(8)、楔?(1)、鉱滓(2)、鏃(1) |
| 石製品 | 滑石鍋片(37)、滑石蓋状品(1)、砥石(2)、石包丁?(1)、黒曜石(1)、軽石(1)、<br>不明(7) |
| 土製品 | 竈、土鈴(1)、土錘(1)、玉状製品(1)、生産用具(2)、硯 |

出土位置不明

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 鉢、壺 |
| 土師器 | 小皿a、坏a、盤、甕、墨書坏a、皿a、[道司,酒,器] |
| 越州窯系青磁 | 椀;I-5(1)、I(2)、II(1) |
| 龍泉窯系青磁 | 他;Ⅲ[瓶の口か?](1) |
| 緑釉陶器 | 破片[土師質](1) |
| 白磁 | 椀;XI?(1)、Ⅳ-1(1)、Ⅳ[S-145と接合](3△1)、V-4a(1)、V(1)、<br>Ⅳ～Ⅷ(1)、有段Ⅳ×V×Ⅵ?(1) |
| 青白磁 | 破片(1) |
| 高麗陶器 | [無釉]破片(1) |
| 金属製品 | 鉄釘(1) |
| 石製品 | 砥石(1)、滑石鍋片(3) |

F4黄灰色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、蓋c2、蓋1、蓋2、蓋3、坏a、蓋c[3]、高坏、皿a、大形皿<br>壺、壺b、鉢、甕a　大半8c |
| 土師器 | 小皿a<11c混入>、高坏、椀c、皿、皿b、壺、甕a、小甕a、把手　大半8c |
| 製塩土器 | 焼塩壺I(1) |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 緑釉陶器 | 皿[土師質](1) |
| 白磁 | I(1)、Ⅳ～Ⅷ[混入](1) |
| 長沙窯系 | 椀[青釉](1) |
| 瓦類 | 平瓦 |
| 金属製品 | 鉄(2) |
| その他 | 弥生土器 |

# 表12.　第34次調査　土器供膳具計測表

S-1

| 種別 | 器種 | 切離 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 内底ナデ | 板状圧痕 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 中椀c2 | | R-001 | Fig.37-1 | 13.3 | | | | |

S-2

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏c | | R-001 | Fig.37-2 | | | 8.9 | | |

S-5

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-001 | Fig.19-1 | 15.1 | 3.7 | | | |

S-10　(+)中央一部のみ,(-)不明

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 皿a | ヘラ | R-004 | Fig.19-16 | 14.8 | 2.3 | 9.6 | × | × |
| | 坏a | ヘラ | R-006 | Fig.19-12 | 12.5 | 3.5 | 7.0 | — | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-012 | Fig.19-13 | 12.6 | 3.6 | 7.7 | × | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-011 | Fig.19-10 | 12.8 | 3.4 | 7.6 | — | × |
| | 坏a | ヘラ | R-003 | Fig.19-4 | 13.4 | 3.4 | 8.7 | ○* | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-010 | Fig.19-5 | 13.7 | 3.3 | 8.9 | ○* | × |
| | 坏a | ヘラ | R-013 | Fig.19-11 | 13.7 | 4.1 | 8.8 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-002 | Fig.19-6 | 13.9 | 3.4 | 7.9 | — | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-005 | Fig.19-7 | 14.5 | 3.8 | 9.3 | — | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-001 | Fig.19-8 | 14.6 | 4.4 | 8.0 | — | × |
| | 坏a | ヘラ | R-007 | Fig.19-9 | 15.0 | 3.8 | 8.8 | — | × |
| | 坏a | ヘラ | R-008 | Fig.19-14 | | | 7.3 | — | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-009 | Fig.19-15 | | | 7.8 | — | ○ |

S-13

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | R-001 | Fig.37-3 | 9.2 | 1.2 | 7.0 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.37-4 | 9.2 | 1.3 | 6.5 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-003 | Fig.37-5 | 9.6 | 1.2 | 7.0 | | |

S-15

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a | ヘラ | R-001 | Fig.19-21 | 11.5 | 3.1 | 7.0 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-002 | Fig.19-22 | 12.5 | 3.8 | 7.3 | | ○ |

S-20

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | イト | R-008 | Fig.20-3 | 8.4 | 1.4 | 6.7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.20-1 | 10.0 | 1.2 | 6.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-001 | Fig.20-2 | 10.1 | 1.1 | 7.6 | ○ | |
| | 小皿a | イト | R-003 | Fig.20-4 | 11.0 | 1.0 | 7.0 | ○ | × |

S-25

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-008 | Fig.20-14 | 14.8 | 4.3 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-009 | Fig.20-15 | 15.0 | 4.3 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-006 | Fig.20-16 | 15.1 | 3.8 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-007 | Fig.20-17 | 15.8 | 3.7 | | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-004 | Fig.20-10 | 9.7 | 1.2 | 6.7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-005 | Fig.20-11 | 9.8 | 1.5 | 7.0 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-003 | Fig.20-13 | 10.2 | 1.5 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.20-12 | 10.4 | 1.4 | 8.5 | ○ | ○ |
| | 椀c | | R-001 | Fig.20-18 | 15.9 | | | | |
| | 大椀c | | R-011 | Fig.20-19 | | | 9.0 | | |

S-29

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | R-001 | | 10.3 | 1.7 | 6.5 | ○ | × |

S-30

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a | ヘラ | R-005 | Fig.20-23 | 12.1 | 3.7 | 8 | | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-006 | Fig.20-25 | 12.8 | 4 | | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-004 | Fig.20-24 | 12.7 | 3.2 | 6.5 | | × |
| | 皿a | ヘラ | R-003 | Fig.20-28 | 12.4 | 2.1 | 8.2 | ○ | × |
| | 椀c | | R-007 | Fig.20-26 | 13.9 | 5.8 | 7.7 | ○ | ○ |
| | 椀c | | R-008 | Fig.20-27 | | | 7.3 | | |

S-35

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a | ヘラ | a-1 | | 11.9 | 4.2 | 6.5 | | × |
| | 小皿a | ヘラ | R-003 | Fig.37-7 | 9.6 | 1.2 | 6.7 | ○ | |

S-40

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋c | | R-008 | Fig.37-10 | | | | | |
| | 蓋c | | R-009 | Fig.37-11 | | | | | |
| | 皿a | | R-005 | Fig.37-15 | 16.4 | 2.2 | 13.4 | ○ | |
| | 坏c | | R-003 | Fig.37-12 | 13.8 | 3.4 | 9.8 | ○ | |
| | 坏c | | R-004 | Fig.37-13 | 14.5 | 4.1 | 9.5 | ○ | |
| | 坏c | | R-002 | Fig.37-14 | 15.2 | 4.4 | 10.2 | ○ | |
| 土師器 | 大蓋c | | R-001 | Fig.37-19 | 26 | | | | |

S-43

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏 | | R-002 | Fig.37-23 | 5 | 2.6 | 3.4 | ○ | |

S-44

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a | ヘラ | R-003 | Fig.37-25 | 13.6 | 2.9 | 7.4 | | |

S-45

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋c | | R-004 | Fig.21-1 | 12.9 | 1.8 | | | |
| | 皿a | | R-003 | Fig.21-4 | 16.8 | 1.9 | 14 | ○ | |
| | 坏c | | R-002 | Fig.21-3 | 13.6 | 3.8 | 9.1 | ○ | |
| | 坏c | | R-001 | Fig.21-2 | 13.6 | 3.9 | 8.6 | ○ | |
| 土師器 | 蓋2 | | R-006 | Fig.21-6 | 15.8 | 1.3 | | | |
| | 大皿c | | R-007 | Fig.21-7 | 21.4 | 2.5 | 15.7 | | |

S-48

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 蓋a | | R-001 | Fig.37-28 | 14.4 | 1.8 | 8.3 | | × |
| | 小皿a | | R-002 | Fig.37-29 | 10 | 1.1 | 7.8 | | ○ |
| | 中椀c | | R-003 | | | | 8.8 | ○ | ○ |

S-50

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a | ヘラ？ | R-003 | Fig.21-8 | 12.7 | 4.2 | 7.5 | ○ | × |
| | 皿a | イト | R-007 | Fig.21-9 | 13.6 | 1.3 | 11 | ○ | |

S-55

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.21-15 | 11.3 | 1.5 | 7.2 | | × |

S-60

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ？ | R-002 | Fig.21-19 | 14.5 | 3.5 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ？ | R-003 | Fig.21-20 | 15 | 3.2 | | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-004 | Fig.21-18 | 8.9 | 1.2 | 6.3 | ○ | |

S-63

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏c | | R-001 | | 11.1 | 3.5 | 7.8 | ○ | |

S-65

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 皿a | ヘラ | R-010 | Fig.22-4 | 14 | 1.6 | 10.2 | | |
| | 椀c | ヘラ | R-007 | Fig.22-2 | | | 8.2 | | ○ |
| | 椀c1 | | R-008 | Fig.22-3 | 16.6 | 6.9 | 10 | | |
| | 坏a | ヘラ | R-001 | Fig.22-1 | 12.4 | 3.7 | 7.8 | | |
| 黒色土器A | 椀c | | R-009 | Fig.22-10 | 19.9 | 6 | 11 | | |

S-66下層

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒色土器A | 椀c | | R-008 | Fig.22-15 | | | 6.8 | | |
| 須恵器 | 坏？ | | R-009 | Fig.22-12 | 17.2 | 5.1 | | | |
| 土師器 | 蓋3 | | R-003 | Fig.22-14 | 17.2 | | | | |

S-69

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a | | R-001 | Fig.37-30 | 13 | 4 | 8.9 | | × |

S-70

| 種別 | 器種 | 切離 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 内底ナデ | 板状圧痕 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-031 | Fig.23-20 | 14.2 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-016 | Fig.23-22 | 14.6 | 3.5 | | | ○ |
| | 丸底坏a | | a-27 | | 14.6 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-012 | Fig.23-21 | 14.8 | 3 | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-018 | Fig.23-23 | 15 | 3.9 | | | × |
| | 丸底坏a | | a-29 | | 15 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-025 | Fig.23-24 | 15.1 | | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-029 | | 15.4 | 3.5 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-024 | Fig.23-25 | 15.4 | 3.7 | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-026 | Fig.23-26 | 15.6 | 3.1 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-015 | Fig.23-28 | 15.6 | 3.4 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-017 | Fig.23-29 | 15.6 | 3.6 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-021 | Fig.23-27 | 15.6 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-028 | | 15.6 | | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-027 | | 15.8 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-019 | Fig.23-31 | 16 | 3.6 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-033 | | 16 | 3.9 | | | ○ |
| | 丸底坏a | | R-108 | Fig.23-32 | 16 | 4 | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-032 | | 16 | | | | |
| | 丸底坏a | | a-24 | | 16 | | | | |
| | 丸底坏a | | a-31 | | 16 | | | | |
| | 丸底坏a | | a-32 | | 16 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-023 | Fig.23-30 | 16.1 | 3.2 | | | |
| | 丸底坏a | | a-25 | | 16.4 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-030 | | 16.6 | 3.5 | | | |
| | 丸底坏a | | a-28 | | 16.6 | | | | |
| | 丸底坏a | | a-23 | | 16.8 | 3.6 | | | |
| | 丸底坏a | | a-26 | | 17 | 3.3 | | | |
| | 丸底坏a | | a-22 | | 17 | 3.7 | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-022 | Fig.23-33 | 17.2 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-020 | Fig.23-34 | 17.5 | | | | ○ |
| | 丸底坏a | | a-30 | | 19? | | | | |
| | 小丸底坏a | | R-038 | | 11.5 | 2.2 | | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-082 | | 8.6 | 1.5 | 7.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | a-65 | | 8.8 | 1 | 6.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-055 | | 9 | 1.3 | 7.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-062 | | 9.3 | 1.3 | 7.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-064 | | 9.4 | 1.3 | 7.9 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-035 | | 9.4 | 1.4 | 8.3 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-036 | | 9.4 | 1.4 | 7.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-037 | | 9.4 | 1.4 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-076 | | 9.6 | 1.1 | 7.8 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-067 | | 9.6 | 1.2 | 7.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-057 | | 9.6 | 1.4 | 7.4 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-086 | | 9.6 | 1.5 | 6.7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-058 | | 9.6 | 1.7 | 7.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-047 | | 9.7 | 1 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-074 | | 9.8 | 0.9 | 6.6 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-040 | | 9.8 | 1 | 7.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-077 | | 9.8 | 1.1 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-050 | | 9.8 | 1.2 | 7.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-053 | | 9.8 | 1.2 | 7.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-051 | | 9.8 | 1.3 | 7.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | a-64 | | 9.8 | 1.3 | 6.8 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-044 | Fig.23-8 | 9.8 | 1.4 | 7.1 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | a-60 | | 9.8 | 1.4 | 6.8 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-084 | | 9.8 | 1.5 | 7.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-041 | Fig.23-6 | 9.8 | 13 | 6.9 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-085 | | 9.9 | 1.3 | 7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-068 | Fig.23-11 | 9.9 | 1.9 | 7.6 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-043 | Fig.23-9 | 10 | 1 | 7.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-091 | | 10 | 1.1 | 8.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-079 | | 10 | 1.2 | 8.4 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-059 | | 10 | 1.3 | 7.4 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-072 | | 10 | 1.4 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-078 | | 10 | 1.4 | 7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-088 | | 10 | 1.5 | 7.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-089 | | 10 | 1.6 | 7.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-010 | | 10 | 2 | 7.5 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-056 | | 10 | | 7.6 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | a-62 | | 10 | | 8 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-060 | | 10.1 | 1.1 | 8.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-048 | | 10.1 | 1.3 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-039 | Fig.23-12 | 10.1 | 1.4 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-080 | | 10.1 | 1.4 | 6.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | a-63 | | 10.2 | 1.1 | 8 | | |
| | 小皿a | ヘラ | a-66 | | 10.2 | 1.2 | 7.8 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-054 | | 10.2 | 1.3 | 7.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-083 | | 10.2 | 1.3 | 8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-073 | | 10.2 | 1.5 | 8.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-049 | | 10.3 | 1.2 | 7.2 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-046 | | 10.3 | 1.3 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | イト | R-011 | Fig.23-10 | 10.3 | 1.8 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-045 | | 10.4 | 1.3 | 8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-042 | Fig.23-13 | 10.4 | 1.6 | 8.1 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-034 | Fig.23-14 | 10.4 | 1.9 | 8.9 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-066 | | 10.5 | 1.4 | 7.5 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-109 | Fig.23-15 | 10.5 | 1.8 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-063 | | 10.6 | 1.3 | 7.8 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-081 | | 10.6 | 1.4 | 8.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-052 | | 10.6 | 1.5 | 9 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-087 | | 11 | 1.2 | 7.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-065 | | 11.2 | 1.2 | 9.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-090 | | 11.2 | 1.2 | 9.2 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-075 | | 11.2 | 1.6 | 8.4 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-061 | | 12 | 1.2 | 9 | ○ | |
| | 小皿a2 | ヘラ | R-070 | Fig.23-18 | 11 | 1.2 | 8.5 | ○ | |
| | 小皿a2 | ヘラ | R-071 | Fig.23-16 | 11.2 | 1 | 9.6 | ○ | |
| | 小皿a2 | ヘラ | R-069 | Fig.23-17 | 11.3 | 1.1 | 8.5 | ○ | |
| | 椀c | | R-014 | Fig.23-35 | 16.2 | | | | |
| | 椀c | | R-013 | Fig.23-36 | | | 7.6 | | |

S-70

| 種別 | 器種 | 切離 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 内底ナデ | 板状圧痕 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒色土器B | 椀c | ヘラ | R-006 | Fig.23-39 | 13.9 | 5.5 | 6.4 | | |
| | 椀c | ヘラ？ | R-005 | Fig.23-40 | 15.2 | 5.4 | 7 | | |
| | 椀c | | R-007 | Fig.23-38 | 15.4 | 6.1 | 6.3 | | |
| | 椀c | | R-008 | Fig.23-37 | 16.5 | 5.8 | 7.2 | | |
| | 椀c | | R-103 | Fig.23-41 | 16.6 | 5.5 | 7.2 | | |
| | 椀c | | R-104 | Fig.23-42 | | | 6.6 | | |
| 瓦器 | 椀c | | R-009 | Fig.23-45 | 16.6 | | | | |

S-71

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-004 | Fig.9-5 | 15.1 | 4.2 | | | × |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-005 | Fig.9-6 | 15.2 | 4.2 | | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-007 | Fig.9-1 | 10 | 1 | 7.4 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-006 | Fig.9-2 | 10.2 | 1.3 | 8.5 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-009 | Fig.9-3 | 10.8 | 1.1 | 8.4 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-008 | Fig.9-4 | 11 | 1.5 | 8.7 | ○ | ○ |
| | 小椀a | ヘラ | R-003 | Fig.9-7 | 7.8 | 2.5 | 4.9 | | |
| 黒色土器A | 椀c | ヘラ | R-002 | Fig.9-9 | 15.8 | 5.5 | 7.1 | | |

S-75

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-006 | Fig.25-12 | 14 | 3.5 | | | |
| | 丸底坏a | | R-008 | Fig.25-13 | 15.4 | 3.6 | | | |
| | 丸底坏a | | R-009 | Fig.25-15 | 15.6 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-007 | Fig.25-14 | 15.8 | 3.7 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-005 | Fig.25-16 | 16.2 | 4 | | | ○ |
| | 丸底坏a | | R-010 | Fig.25-17 | 16.4 | | | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.25-2 | 9.9 | 1.2 | 7.5 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-013 | Fig.25-3 | 10 | 1.2 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-017 | Fig.25-1 | 10 | 1.2 | 8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-015 | Fig.25-4 | 10 | 1.4 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-011 | Fig.25-5 | 10 | 1.5 | 7.7 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-014 | Fig.25-6 | 10.4 | 1.1 | 8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-003 | Fig.25-8 | 10.4 | 1.2 | 8.5 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-012 | Fig.25-7 | 10.5 | 1.4 | 8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-016 | Fig.25-9 | 10.6 | 1.9 | 8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-018 | Fig.25-10 | 11 | 1.3 | 9 | | |
| | 小皿a2 | | R-019 | Fig.25-11 | 11 | 0.9 | 7 | | ○ |

S-77

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋1 | | R-002 | Fig.38-1 | 11.6 | | | | |
| | 蓋c3 | | R-001 | Fig.38-2 | 16 | | | | |
| | 大坏 | | R-004 | Fig.38-7 | 17.3 | | | | |
| | 坏c | | R-003 | Fig.38-3 | | | 8.7 | | |
| | 坏c | | R-005 | Fig.38-5 | | | 8 | | |
| | 坏c | | R-006 | Fig.38-4 | | | 9 | | |

S-78

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-007 | Fig.9-21 | 12.8 | 2.6 | | | ○ |
| | 丸底坏a | | R-015 | | 14.8 | 2.8 | | | ○ |
| | 丸底坏a | | R-017 | | 15 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-014 | Fig.9-27 | 15 | 3.8 | | | × |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-006 | Fig.9-23 | 15.2 | 3.7 | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-035 | Fig.9-22 | 15.2 | | | | |
| | 丸底坏a | | R-016 | | 15.2 | | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-011 | Fig.9-24 | 15.6 | 3.6 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-012 | Fig.9-26 | 15.8 | 3.5 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-013 | Fig.9-25 | 16 | 3.8 | | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-022 | Fig.9-11 | 9.4 | 1.4 | 7.3 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-020 | Fig.9-12 | 9.8 | 1.7 | 7.3 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-028 | Fig.9-17 | 9.8 | 1.7 | 7.8 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-019 | Fig.9-13 | 9.9 | 1.4 | 7.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-025 | Fig.9-16 | 10 | 1.45 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-018 | Fig.9-14 | 10 | 1.5 | 8.05 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-010 | Fig.9-15 | 10.1 | 1.35 | 8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-009 | Fig.9-18 | 10.1 | 1.5 | 7.6 | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-021 | Fig.9-19 | 10.4 | 1.3 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-008 | Fig.9-20 | 10.5 | 1.9 | 8.05 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-023 | | 10.2 | 1.4 | 7.2 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-024 | | 11 | 1.2 | 8.6 | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-026 | | 9 | 1.1 | 7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-027 | | 9.6 | 1.1 | 7.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-029 | | 10.6 | 1.2 | 7.8 | | ○ |
| 黒色土器B | 椀c | | R-005 | Fig.9-29 | 15.4 | 6.1 | 6.5 | | |

S-80

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋c3 | | R-018 | Fig.10-4 | 14.8 | | | | |
| | 蓋3 | | R-017 | Fig.10-7 | 15.2 | | | | |
| | 蓋 | | R-016 | Fig.10-8 | 15.3 | | | | |
| | 蓋c3 | | R-015 | Fig.10-5 | 15.6 | | | | |
| | 蓋c3 | | R-029 | Fig.10-6 | 20 | | | | |
| | 皿a | | R-011 | Fig.10-14 | 20.2 | 2.8 | 17.6 | ○ | × |
| | 大皿c | | R-010 | Fig.10-15 | 26 | 4.1 | 20.4 | ○ | × |
| | 壺蓋c | | R-021 | Fig.10-9 | 16.4 | | | | |
| | 坏a | | R-008 | Fig.10-10 | 12.4 | 3.1 | 7 | ○ | × |
| | 坏a | | R-007 | Fig.10-11 | 15.2 | 4.6 | 9.8 | ○ | × |
| | 坏a | | R-009 | | | | 12.4 | ○ | × |
| | 坏c | ヘラ | R-028 | Fig.10-13 | 15.2 | 5.4 | 8.8 | | |
| | 坏c | | R-012 | | | | 8.6 | ○ | × |
| 土師器 | 皿a | ヘラ | R-033 | Fig.10-24 | 16.5 | 2.1 | 12.5 | | |
| | 椀c1 | | R-006 | Fig.10-23 | | | 8.8 | ○ | × |
| | 坏 | ヘラ | R-003 | Fig.10-17 | 15.1 | | | | |
| | 坏 | | R-004 | Fig.10-18 | 15.6 | | | | |
| | 坏a | | R-027 | Fig.10-20 | 16 | 3.2 | 9 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-032 | Fig.10-19 | 16 | 4 | 9.1 | | × |
| | 坏a | | R-002 | | 16.3 | 4 | 7.8 | ○ | × |
| | 坏c | ヘラ | R-001 | Fig.10-22 | | | 9.4 | ○ | × |
| | 坏c | ヘラ | R-026 | Fig.10-21 | | | 8.8 | ○ | × |
| | 高坏 | | R-005 | Fig.10-25 | | | 15 | | |

S-83

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a | ヘラ | R-002 | | 15 | 3 | 9.6 | | |

S-85

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏c | ヘラ | R-002 | Fig.12-2 | 11.9 | 3.6 | 8.6 | ○ | × |
| | 坏c | ヘラ | R-003 | Fig.12-3 | 16 | 4.5 | 9.9 | ○ | × |
| | 蓋4？ | | R-004 | Fig.12-1 | 13.8 | 0.9 | | | |

S-86

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | R-001 | | 10.8 | 1.1 | 7.4 | | |

S-84

| 種別 | 器種 | 切離 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 内底ナデ | 板状圧痕 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | | R-024 | | 14.8 | 3.1 | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-017 | Fig.11-16 | 15 | 3.5 | | | ○ |
| | 丸底坏a | | R-020 | | 15 | 4 | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-018 | Fig.11-17 | 15.2 | 3.3 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-012 | Fig.11-19 | 15.4 | 3.25 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-011 | Fig.11-11 | 15.6 | 3.6 | | | ○ |
| | 丸底坏a | | R-022 | | 16 | | | | |
| | 丸底坏a | | R-021 | | 16.2 | | | | |
| | 丸底坏a | | R-023 | | 17 | 3 | | | |
| | 丸底坏a | | R-019 | | 17 | | | | |
| | 小皿a | | R-033 | | 8.7 | 1.4 | 6.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-031 | Fig.11-1 | 9.4 | 1.85 | 6.9 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-006 | Fig.11-2 | 9.5 | 1.1 | 8.1 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | R-040 | | 9.6 | 1.2 | 7.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | R-038 | | 9.8 | 1 | 7.6 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-027 | Fig.11-3 | 9.8 | 1.1 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | R-036 | | 9.9 | 1.3 | 8.2 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-028 | Fig.11-4 | 9.9 | 1.4 | 8.3 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | R-039 | | 10 | 1 | 8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-032 | Fig.11-7 | 10.1 | 1.3 | 7.4 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-029 | Fig.11-8 | 10.1 | 1.35 | 7.65 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-007 | Fig.11-9 | 10.1 | 1.4 | 7.9 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-008 | Fig.11-6 | 10.1 | 1.7 | 6.7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-030 | Fig.11-5 | 10.2 | 1.2 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | R-037 | | 10.2 | 1.3 | 8.4 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-034 | Fig.11-34 | 10.3 | 1.4 | 7.3 | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-026 | Fig.11-11 | 10.3 | 1.45 | 8.1 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-035 | Fig.11-13 | 11 | 1.4 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-009 | Fig.11-12 | 10.4 | 1.8 | 6.9 | ○ | ○ |
| | 小皿a2 | ヘラ | R-010 | Fig.11-14 | 10.2 | 1.1 | 7.7 | | |
| | 小皿a2 | ヘラ? | R-043 | Fig.11-15 | 11.2 | | 9.6 | ○ | |
| | 椀c | | R-014 | Fig.11-21 | 16.2 | 6.25 | 7 | | |
| | 椀c2 | | R-013 | Fig.11-22 | 15.4 | 5.65 | 6.3 | | |
| | 椀c2 | | R-025 | Fig.11-20 | 15.4 | 5.8 | 6.5 | | |
| | 椀c2 | ヘラ | R-014 | | 16 | 6.25 | 7 | | |
| 黒色土器B | 小皿a | ヘラ | R-005 | Fig.11-25 | 10.5 | 2 | 8 | | |
| | 椀c | | R-042 | Fig.11-27 | 15.2 | | | | |
| | 椀c2 | | R-004 | Fig.11-26 | 15 | 6.2 | 5.6 | | |
| 瓦器 | 椀 | | R-044 | Fig.11-28 | 14.6 | | | | |
| 須恵質土器 | 椀 | イト？ | R-045 | Fig.11-29 | | | 6 | | |

S-90

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 壺蓋c | | R-014 | | 14.4 | 3 | | | |
| | 坏c | | R-010 | | 12 | 3.5 | 7.2 | ○ | × |
| | 坏c | | R-008 | | 13.1 | 4 | 4 | ○ | × |
| | 坏c | | R-007 | | 13.6 | 4.2 | 8.3 | ○ | × |
| | 坏c | | R-009 | | 14 | 4.5 | 9.4 | ○ | × |
| 土師器 | 高坏 | | R-003 | Fig.12-15 | | | 9 | | |
| | 坏c | ヘラ | R-021 | Fig.12-13 | 11.5 | | 10? | ○ | × |
| | 坏c | ヘラ | R-006 | Fig.12-12 | 15.2 | 3.5 | 10.8 | ○ | |
| | 坏c | | R-022 | | | | 11.4 | ○ | |
| | 坏d | ヘラ | R-005 | Fig.12-14 | 15.8 | 3.5 | 8 | ○ | × |

S-91

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | | R-002 | | 14.7 | | | | |
| | 丸底坏a | | R-003 | | 14.7 | | | | |
| | 丸底坏a | | R-001 | | 15.1 | 3.2 | | | ○ |

S-94

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ？ | R-001 | | 15.4 | 3.4 | | | |

S-95

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-008 | Fig.25-27 | 15.8 | | | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.25-21 | 9 | 1.2 | 7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-003 | Fig.25-22 | 9.8 | 1.8 | 7.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-007 | Fig.25-23 | 10 | 1.4 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-006 | Fig.25-24 | 10.2 | 1.4 | 7.7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-004 | Fig.25-25 | 10.6 | 1.4 | 8.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-005 | Fig.25-26 | 11 | 1.9 | 8.4 | ○ | ○ |

S-100

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋c4 | | R-005 | | 12.6 | 1.9 | | ○ | × |
| | 坏a | | R-011 | | 14 | 4.35 | 7.5 | ○ | × |
| 土師器 | 椀c | | R-009 | Fig.26-5 | | | 9.1 | | |
| | 坏a | | R-004 | Fig.26-4 | 11.2 | | | | |
| | 坏a | ヘラ | R-003 | Fig.26-2 | 11.6 | 2.9 | 7.3 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-001 | Fig.26-3 | 12.4 | 3 | 7 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-002 | Fig.26-1 | 13 | 3.7 | 7 | ○ | |
| 黒色土器A | 椀c | | R-006 | Fig.26-6 | 15.1 | 5.5 | 8.2 | | |
| | 椀c | | R-007 | | | | 14 | | |
| | 椀c | | R-014 | Fig.26-7 | | | 7.7 | | |

S-100下層

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋4 | | R-017 | | 15 | | | | |
| 土師器 | 蓋4 | | R-014 | | 17 | | | | |
| | 皿a | ヘラ | R-004 | Fig.26-17 | 14 | 1.5 | 10.4 | ○ | |
| | 皿a | | R-005 | Fig.26-18 | 14.4 | 2.2 | 10.7 | | |
| | 皿a | ヘラ | R-006 | Fig.26-16 | 15 | 2.3 | 10.5 | ○ | |
| | 皿a | | R-016 | Fig.26-15 | 16.6 | 2.5 | 11.3 | ○ | × |
| | 椀×皿 | | R-013 | | | | 10.2 | | |
| | 椀c | ヘラ | R-011 | Fig.26-19 | | | 8.4 | ○ | |
| | 椀c | | R-012 | | | | 9 | ○ | |
| | 坏a | ヘラ | R-007 | Fig.26-14 | 11.4 | 2.9 | 6.7 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-008 | Fig.26-11 | 12.4 | 3.8 | 8 | | |
| | 坏a | ヘラ | R-010 | Fig.26-12 | 12.8 | 3.8 | 6.8 | | |
| | 坏a | ヘラ | R-009 | Fig.26-13 | 14.8 | 4.2 | 8.4 | ○ | ○ |

S-101

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-012 | Fig.12-24 | 15.3 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-013 | Fig.12-23 | 16.8 | | | | |
| | 丸底坏a | | R-014 | | 13.4 | | | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.12-19 | 8.9 | 1.3 | 6.8 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-007 | Fig.12-20 | 10 | 1.4 | 7.2 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-011 | Fig.12-21 | 10.2 | 1.8 | 7.2 | | × |
| | 小皿a | ヘラ | R-010 | | 10.2 | 1.3 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-009 | | 9.8 | 1.3 | 7.2 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-008 | | 10.8 | 1.5 | 8.3 | | |
| | 小皿a2 | ヘラ | R-003 | Fig.12-22 | 11.1 | 1.1 | 8.1 | ○ | |
| | 椀c | | R-004 | | 15.8 | | | | ○ |
| | 椀c | | R-006 | | 16.2 | | | | |
| | 椀c | | R-005 | Fig.12-25 | 16.6 | | | | |
| 黒色土器B | 椀c | | R-016 | Fig.12-26 | | | 7.3 | | |

S-102

| 種別 | 器種 | 切離 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 内底ナデ | 板状圧痕 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-024 | Fig.13-11 | 13 | 2.8 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-009 | Fig.13-12 | 14.6 | 3.6 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-011 | Fig.13-14 | 15.4 | 3.8 | | | ○ |
| | 丸底坏a | | R-026 | Fig.13-13 | 15.4 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-010 | Fig.13-15 | 15.6 | 3.4 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-012 | Fig.13-16 | 15.6 | 3.65 | | | × |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-008 | Fig.13-17 | 16 | 3.7 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-007 | Fig.13-18 | 16.2 | 3.5 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-013 | Fig.13-19 | 16.4 | | | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-014 | Fig.13-1 | 9 | 1.2 | 6.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-020 | Fig.13-2 | 9 | 1.3 | 6.6 | | |
| | 小皿a | ヘラ | a-13 | | 9.6 | 1.3 | 6.8 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | a-12 | | 9.6 | 1.5 | 7.2 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | a-15 | | 9.8 | 1.3 | 7.5 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-015 | Fig.13-4 | 9.8 | 1.7 | 6.6 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-018 | Fig.13-5 | 10 | 1 | 8.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-023 | Fig.13-3 | 10 | 1.2 | 6.5 | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-019 | Fig.13-6 | 10 | 1.3 | 7.15 | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | a-14 | | 10 | 1.3 | 7.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-022 | Fig.13-7 | 10 | 1.35 | 8.1 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-016 | Fig.13-8 | 10 | 1.5 | 8.15 | ○ | ○ |
| | 小皿a | イト | R-017 | Fig.13-9 | 10.2 | 1.45 | 7.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-021 | Fig.13-10 | 10.2 | 1.5 | 7.75 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | a-011 | | 10.4 | 1.4 | 7.9 | ○ | |
| | 椀c | ヘラ? | R-027 | | | 6.8 | | | × |

S-110

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-012 | Fig.14-9 | 14.5 | 3.8 | | | × |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-014 | Fig.14-10 | 14.6 | 3.6 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-013 | Fig.14-11 | 14.8 | 3.8 | | | × |
| | 丸底坏a | | R-022 | | 14.8 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-009 | Fig.14-12 | 14.9 | 3.5 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-011 | Fig.14-13 | 15 | 3.6 | | | ○ |
| | 丸底坏a | | R-020 | | 15 | | | | |
| | 丸底坏a | | R-026 | | 15 | | | | |
| | 丸底坏a | | R-024 | | 15.1 | 4.4 | | | |
| | 丸底坏a | | R-023 | | 15.2 | 3.5 | | | ○ |
| | 丸底坏a | | R-027 | | 15.2 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-018 | | 15.4 | | | | |
| | 丸底坏a | | R-021 | | 15.4 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-017 | | 15.6 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-015 | Fig.14-14 | 15.8 | 4 | | | × |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-008 | Fig.14-16 | 15.8 | 4 | | | × |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-016 | Fig.14-15 | 15.8 | | | | |
| | 丸底坏a | | R-025 | | 16 | | | | |
| | 丸底坏a | | R-019 | | 16.4 | 3.5 | | | ○ |
| | 小丸底坏a | | R-006 | Fig.14-8 | 11.3 | 2.6 | | | ○ |
| | 小丸底坏a×c | | a-16 | | 9.8 | | | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-030 | Fig.14-1 | 9.5 | 1.2 | 6.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | a-15 | | 9.6 | | 7.6 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-036 | | 9.8 | 1 | 7.6 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-031 | | 9.8 | 1.1 | 7.6 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-032 | Fig.14-2 | 9.8 | 1.6 | 7.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | a-13 | | 10 | 1.3 | 6.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-033 | | 10 | 1.8 | 7.4 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-035 | Fig.14-3 | 10.2 | 1 | 7.1 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-029 | | 10.2 | 1.4 | 7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | a-12 | | 10.2 | 1.5 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-004 | Fig.14-4 | 10.5 | 1.8 | 8.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-007 | Fig.14-5 | 10.6 | 1.9 | 7.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-034 | | 10.7 | 1.4 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | a-14 | | 11 | 1 | 8.4 | ○ | |
| | 小皿a2 | ヘラ | R-028 | Fig.14-6 | 11.2 | | 9.2 | | |
| | 坏a | ヘラ | R-005 | Fig.14-7 | 11.8 | 2 | 9.2 | ○ | ○ |
| 黒色土器A×B | 椀c | ヘラ | R-002 | Fig.14-18 | 15 | | | | |
| 黒色土器B | 椀c | ヘラ | R-003 | Fig.14-19 | 14.65 | | | | |

S-114

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | a-1 | | 15.4 | 2.6 | | | |
| | 小皿a | ヘラ | a-1 | | 10.6 | 1.5 | 8.3 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | a-2 | | 10.6 | | 8.2 | ○ | |
| | 椀c | | R-001 | Fig.28-3 | 15.1 | 5.7 | 6.8 | | × |

S-115

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-006 | Fig.28-9 | 16.2 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-005 | Fig.28-10 | 16.4 | | | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.28-5 | 8.8 | 1.3 | 7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-003 | Fig.28-6 | 9.2 | 1.2 | 6.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-004 | Fig.28-8 | 9.6 | 1.3 | 7.7 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-001 | Fig.28-7 | 9.7 | 1.3 | 9 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | a-6 | | 10.4 | | 8 | | |
| | 小皿a | ヘラ | a-5 | | 10.6 | | 8.4 | ○ | ○ |

S-124

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒色土器B | 小皿a | | R-001 | Fig.38-11 | 10.6 | 1.7 | 7.7 | | |

S-125

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | | R-003 | Fig.15-25 | 14 | | | | ○ |
| | 丸底坏a | | R-002 | Fig.15-24 | 14.4 | 3.8 | | | ○ |
| | 小皿a | | R-005 | Fig.15-21 | 9.8 | 1.35 | 7.2 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-004 | Fig.15-22 | 10.2 | 1.5 | 8 | ○ | × |
| | 坏a | | R-001 | Fig.15-23 | 11.8 | 3.75 | | | |

S-126

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | a-1 | | 9.5 | 1.4 | 7.3 | | |

S-128

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a | ヘラ | a-1 | | 12 | 3.2 | 6.9 | | |

S-129

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋c1 | | R-001 | Fig.38-12 | 10.2 | 2.6 | | | |

S-130(S-90A)

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 皿a | ヘラ | R-001 | Fig.12-8 | 14.8 | 1.5 | 12.1 | | |
| | 坏c | | R-003 | Fig.12-7 | | | 11.2 | | |

S-132

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏c | ヘラ | R-001 | | | | 9.6 | ○ | × |

S-133

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a | ヘラ | R-001 | | 15 | 3.9 | 10.6 | | × |

S-138

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a | ヘラ | R-001 | | 12.9 | 3.9 | 6.9 | | × |

S-104

| 種別 | 器種 | 切離 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 内底ナデ | 板状圧痕 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏c | ヘラ | R-001 | | 14.7 | 5.6 | 10.25 | ○ | × |

S-105

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-005 | Fig.27-8 | 14.8 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-003 | Fig.27-9 | 15 | 4.2 | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-004 | Fig.27-10 | 15.4 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | a-4 | | 15.4 | | | | |
| | 丸底坏c | ヘラ | a-2 | | 14.8 | 3.9 | | | |
| | 丸底坏c | ヘラ | R-006 | Fig.27-11 | | | 6.3 | | × |
| | 小皿a | | a-9 | | 9.2 | 1.2 | 6.9 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-011 | Fig.27-1 | 9.7 | 1.45 | 8.1 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | a-11 | | 10 | 1.1 | 7.7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-009 | Fig.27-2 | 10 | 1.5 | 8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | a-10 | | 10 | | 7.7 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-015 | Fig.27-3 | 10.2 | 1.25 | 7.25 | × | × |
| | 小皿a | ヘラ | R-010 | Fig.27-4 | 10.4 | 1.2 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-013 | Fig.27-5 | 10.4 | 1.3 | 7.6 | ○ | |
| | 小皿a | | a-8 | | 10.4 | 1.3 | 8 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-012 | Fig.27-6 | 10.6 | 1.3 | 8.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | a-12 | | 12 | 1.7 | 9.1 | ○ | |
| | 小皿a2 | ヘラ | R-014 | Fig.27-7 | 10 | 1.3 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 椀c | | R-008 | Fig.27-12 | 15 | | | | |
| 黒色土器A | 椀c | ヘラ | R-007 | Fig.27-14 | | | 6.6 | | ○ |
| 黒色土器B | 椀c | | R-002 | Fig.27-15 | 14.2 | 5.5 | 7.2 | | ○ |
| | 椀c | | R-001 | Fig.27-16 | 15.2 | 5.6 | 6.8 | | ○ |

S-106

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-013 | Fig.27-26 | 15.6 | 4.1 | | | × |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-014 | Fig.27-27 | 15.8 | 4 | | | ○ |
| | 丸底坏a | | a-3 | | 15.8 | | | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-010 | | 9.2 | 1.3 | 6.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-005 | Fig.27-18 | 9.5 | 1.4 | 7.5 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-006 | Fig.27-19 | 9.5 | | 7.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-011 | | 9.6 | 1.3 | 6.7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-003 | Fig.27-20 | 9.7 | 1.2 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.27-21 | 9.9 | 1.8 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-004 | Fig.27-22 | 10 | 1.4 | 7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-009 | Fig.27-23 | 10.2 | 1.3 | 7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-012 | | 10.2 | 1.5 | 7.3 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-008 | Fig.27-24 | 10.2 | 1.5 | 8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-007 | Fig.27-25 | 10.2 | 1.6 | 8 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | a-13 | | 10.2 | 1.6 | 8.1 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | a-12 | | 11 | 1.4 | 8 | ○ | ○ |
| | 椀c | | R-016 | Fig.27-28 | 15 | 5.9 | 7.1 | | ○ |
| 黒色土器B | 椀c | | R-001 | Fig.27-29 | 15.2 | 6.35 | 6.2 | | |

S-119

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | | R-001 | | 9.9 | 1.4 | 6.2 | | |

S-120

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ? | R-011 | Fig.28-17 | 15 | 3.7 | | | × |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-009 | Fig.28-18 | 15 | 4 | | | × |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-010 | Fig.28-20 | 15.4 | 3.5 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-013 | Fig.28-19 | 15.4 | 3.6 | | | ○ |
| | 丸底坏a | | a-9 | | 15.6 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-002 | Fig.28-21 | 15.7 | 3.9 | | | × |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-012 | Fig.28-22 | 16.2 | 4.05 | | | |
| | 小丸底坏a | ヘラ | R-004 | Fig.28-15 | 12 | 2.6 | | | × |
| | 小丸底坏a | ヘラ | R-003 | Fig.28-16 | 12.4 | 2.6 | | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-007 | Fig.28-11 | 9.6 | 1.3 | 7.2 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-008 | Fig.28-12 | 9.6 | 1.4 | 7.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-006 | Fig.28-13 | 9.6 | | 8.1 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-005 | Fig.28-14 | 10 | 1.4 | 7.6 | | × |
| | 小皿a | | a-5 | | 10.4 | 1 | 8.2 | | ○ |
| | 小皿a | | a-6 | | 10.4 | 1.5 | 7.4 | | |

S-121

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-013 | Fig.15-6 | 14 | | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-008 | Fig.15-7 | 14.6 | 3.3 | | | ○ |
| | 丸底坏a | | R-015 | | 14.6 | | | | |
| | 丸底坏a | | R-017 | | 14.6 | | | | |
| | 丸底坏a | | R-014 | | 15.2 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-009 | Fig.15-8 | 15.4 | 3.3 | | | |
| | 丸底坏a | | R-010 | | 15.4 | 4 | | | |
| | 丸底坏a | | R-011 | | 15.6 | 2.9 | | | |
| | 丸底坏a | | R-012 | | 15.6 | | | | |
| | 丸底坏a | | R-016 | | 16 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-007 | Fig.15-9 | 16.2 | 4 | | | × |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-003 | Fig.15-10 | 16.3 | 4.75 | | | ○ |
| | 小皿a | | R-019 | | 8.8 | 1.4 | 6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | a-17 | | 9.6 | 1 | 7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-004 | Fig.15-1 | 9.6 | 1.4 | 7.4 | ○ | × |
| | 小皿a | ヘラ | R-020 | Fig.15-2 | 9.7 | 1.5 | 8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | R-028 | | 9.8 | 1.3 | 7.3 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | a-15 | | 9.8 | 1.4 | 7.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | a-16 | | 10 | 1.5 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | R-026 | | 10.2 | 1.3 | 7.8 | | |
| | 小皿a | | R-027 | | 10.2 | 1.6 | 8 | ○ | |
| | 小皿a | | R-021 | | 10.3 | 1.3 | 7.9 | | |
| | 小皿a | | a-18 | | 10.4 | 1 | 8 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-025 | Fig.15-3 | 10.4 | 1.2 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | R-018 | | 10.4 | 1.3 | 7.8 | ○ | |
| | 小皿a | | R-029 | | 10.4 | 1.3 | 7.7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | R-030 | | 10.6 | 1.6 | 7.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | R-022 | | 10.8 | 1.2 | 8.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-023 | Fig.15-4 | 11.2 | 1.3 | 8.9 | ○ | ○ |
| | 小皿a2 | | R-024 | Fig.15-5 | 11.2 | 0.9 | 8.7 | | |
| | 椀c | | R-005 | Fig.15-11 | 16.4 | | | | |
| | 椀c | ヘラ? | R-006 | Fig.15-12 | | | 6.5 | | ○ |
| 黒色土器B | 小皿a | | R-002 | Fig.15-15 | 10.4 | 1.4 | 8.3 | | ○ |

S-145

| 種別 | 器種 | 切離 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 内底ナデ | 板状圧痕 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏c | | R-019 | | 14.4 | 4.8 | 9.4 | | |
| 土師器 | 丸底坏a | | R-008 | | 14.2 | | | | |
| | 小皿a | ヘラ | a-8 | | 9 | 1.1 | 6.7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.28-28 | 9 | 1.5 | 7.25 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-003 | Fig.28-29 | 9.3 | 1.4 | 7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-014 | | 9.4 | 1 | 7.2 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-012 | Fig.28-30 | 9.4 | 1.4 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-011 | | 9.6 | 1.5 | 7.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-013 | | 9.8 | 1.2 | 6.6 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-010 | Fig.28-31 | 10.3 | 1.6 | 8.5 | | |
| | 椀c | ヘラ | R-006 | Fig.28-32 | 15.6 | 4.8 | | | |
| | 椀c | ヘラ | R-005 | | 15.8 | | | | |
| | 椀c | | R-009 | | 16 | | | | |
| | 椀c | | R-007 | | 16.4 | | | | |
| | 椀c | | R-004 | Fig.28-33 | 16.5 | 5.8 | 6.4 | | |

S-149

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | R-001 | | 9.8 | 1.6 | 7.8 | ○ | |

S-151

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a | ヘラ | R-001 | | 15.6 | 3.3 | 9.45 | ○ | × |

S-155

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | | a-2 | | 9.2 | 1.1 | 6.4 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-003 | Fig.38-14 | 9.6 | 1.6 | 6.85 | | |
| | 坏a | | a-1 | | 11 | | | | |

S-156

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | a-1 | | 9.2 | 1.1 | 6.4 | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-001 | | 9.7 | 1.5 | 7.2 | ○ | ○ |

S-160

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-004 | Fig.29-3 | 14.3 | 4 | | | × |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-002 | Fig.29-4 | 14.7 | 3.6 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-001 | Fig.29-5 | 15.5 | 3.8 | | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-005 | Fig.29-1 | 9 | 1.3 | 6.5 | | |
| | 小皿a | イト | R-007 | | 9 | 1.4 | 7.1 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-006 | Fig.29-2 | 10.6 | 1.3 | 8.8 | ○ | ○ |
| | 椀c | | R-003 | Fig.29-6 | 15.6 | | | | |
| | 坏c | | R-008 | Fig.29-7 | | | 7.8 | | |

S-163

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 小蓋c1 | | R-001 | Fig.38-16 | 6.1 | 2.6 | | | |

S-165

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | R-001 | | 9 | 1.7 | 6.7 | | ○ |

S-170

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | | R-009 | Fig.29-11 | | 3.3 | | | ○? |
| | 小皿a | イト | R-004 | Fig.29-8 | 8.6 | 1.2 | 6.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-003 | Fig.29-9 | 10 | 1.3 | 6.8 | ○ | ○ |

S-170下層

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿c | | R-001 | Fig.29-10 | 12.5 | 2.3 | 9.2 | | |

S-173

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏d | | R-001 | Fig.29-17 | 13 | 3.6 | 7.4 | ○ | × |

S-175

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋2 | | R-002 | Fig.38-18 | 15.2 | | | | |

S-178

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 皿a | ヘラ | R-003 | Fig.15-29 | 12.8 | 1.7 | 10.1 | | × |
| | 中椀c2 | | R-002 | Fig.15-28 | 12.2 | | | ○? | |

S-180

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a | | R-004 | Fig.29-18 | 11.6 | | | | |

S-181

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | | a-1 | | 14.4 | | | | |

S-190最上層

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒色土器B | 椀c | | R-004 | Fig.30-2 | | | 6.3 | | |

S-190

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋a | ヘラ | R-022 | Fig.30-8 | 14.6 | 1.8 | | | |
| | 蓋a | ヘラ | R-024 | Fig.30-6 | 16.1 | 1.5 | | ○ | |
| | 蓋a | ヘラ | R-023 | Fig.30-7 | 17 | 1.5 | | ○ | |
| | 蓋a | | R-025 | Fig.30-9 | 17.2 | | | | |
| | 坏a | ヘラ | R-018 | Fig.30-12 | 13.15 | 3.3 | 8.6 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-016 | Fig.30-13 | 13.6 | 3.6 | 7.75 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-017 | Fig.30-14 | 13.8 | 3.3 | 8.6 | ○ | × |
| | 坏c | ヘラ | R-019 | Fig.30-16 | | | 8.1 | ○ | × |
| | 坏c | ヘラ | R-020 | Fig.30-15 | | | 7.4 | ○ | × |
| | 坏c | ヘラ | R-021 | Fig.30-17 | | | 7.4 | ○ | × |
| | 坏c | ヘラ | R-028 | | | | 8.6 | ○ | × |
| 土師器 | 蓋a | | R-032 | Fig.30-18 | 16.2 | 2.1 | 8.6 | ○ | × |
| | 皿a | ヘラ | R-013 | Fig.30-36 | 14.7 | 1.6 | 11.5 | ○ | × |
| | 皿a | ヘラ | R-050 | Fig.30-42 | 15 | 1.4 | 11.4 | ○ | × |
| | 皿a | ヘラ | R-015 | Fig.30-37 | 15.4 | 1.6 | 12.2 | × | × |
| | 皿a | ヘラ | R-041 | Fig.30-38 | 15.6 | 2.5 | 11 | ○ | × |
| | 皿a | ヘラ | R-045 | Fig.30-40 | 15.7 | 2.2 | 12.3 | ○ | × |
| | 皿a | ヘラ | R-014 | Fig.30-39 | 15.8 | 2 | 12 | ○ | × |
| | 皿a | | R-049 | Fig.30-41 | 16 | 1.6 | 11.8 | ○ | × |
| | 皿a | ヘラ | a- | | 16 | 1.9 | 13.5 | ○ | × |
| | 皿a | | a-1 | | 16.5 | 1.8 | 13.1 | ○ | |
| | 椀 | | R-040 | Fig.30-34 | 15.9 | 3.9 | | | |
| | 椀c | | R-043 | Fig.30-35 | | | 8.8 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-031 | Fig.30-19 | 11.9 | | 6.7 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-010 | Fig.30-24 | 13.1 | 2.7 | 6.7 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-038 | Fig.30-21 | 13.2 | 3.5 | 7.5 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-007 | Fig.30-20 | 13.2 | 3.7 | 7.8 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-012 | | 13.3 | 3.2 | 7.2 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-033 | Fig.30-29 | 13.4 | 3 | 6.4 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-042 | Fig.30-22 | 14 | 2.5 | 9.1 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-034 | Fig.30-30 | 14.2 | 3.1 | 8.2 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-044 | Fig.30-31 | 14.7 | 4.4 | 8.3 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | a- | | 15.3 | 3.6 | 8.1 | ○ | × |
| | 坏a | | R-036 | Fig.30-23 | 15.8 | | 9.8 | | × |
| | 坏a | ヘラ | R-037 | Fig.30-43 | | | 7.1 | ○ | × |
| | 坏d | | R-048 | Fig.30-25 | 13.2 | 3 | 7.7 | | ○ |
| | 坏d | | R-053 | Fig.30-26 | 13.2 | 3 | 6.4 | | |
| | 坏d | ヘラ | R-039 | Fig.30-27 | 13.2 | 3.1 | 6.6 | × | × |
| | 坏d | ヘラ | R-009 | Fig.30-28 | 13.4 | 3.4 | 7.5 | ○ | × |
| | 坏d | ヘラ | R-030 | Fig.30-32 | 15.3 | 4.1 | 7.4 | ○ | ○ |
| | 坏d | ヘラ | R-047 | Fig.30-33 | 15.6 | 4 | 7.5 | | × |

S-191

| 種別 | 器種 | 切離 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 内底ナデ | 板状圧痕 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 皿a | ヘラ | R-004 | | 15 | 1.6 | 10.9 | | |
| | 皿a | ヘラ | R-003 | | 15.9 | 2 | 12.1 | | |
| | 坏a | ヘラ | R-002 | | 15.8 | 3.6 | 7.3 | | |

S-194

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏 | | R-004 | Fig.38-25 | 15 | | | | |
| 土師器 | 皿a | ヘラ | R-002 | Fig.38-27 | 15.6 | 2 | 12.3 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-001 | Fig.38-26 | 12 | 3.3 | 8.75 | ○ | ○ |

S-200

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底椀a | | R-006 | Fig.32-3 | 12.8 | 4.4 | | ○ | × |
| | 坏a | | R-005 | Fig.32-2 | 10.9 | 1.85 | 7.4 | ○ | ○ |

S-205

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-011 | Fig.32-23 | 15 | | | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.32-11 | 8.7 | 1.4 | 8.05 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-007 | Fig.32-12 | 9 | 1.3 | 7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-010 | Fig.32-13 | 9 | 1.1 | 6.45 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-008 | Fig.32-14 | 9 | 1.3 | 6.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-004 | Fig.32-15 | 9 | 1.3 | 7.9 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-006 | Fig.32-16 | 9.6 | 1 | 9 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-005 | Fig.32-17 | 9.6 | 1.1 | 8.8 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-020 | Fig.32-18 | 9.6 | | 7.6 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-009 | Fig.32-19 | 10.4 | 1.1 | 7.3 | ○ | |
| | 小皿c | ヘラ | R-001 | Fig.32-21 | 8.8 | 1.8 | | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ? | R-021 | Fig.32-20 | 11.4 | 1.6 | 8.4 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-003 | Fig.32-22 | 15 | 2.2 | 11.75 | ○ | |
| 黒色土器B | 椀c | | R-018 | Fig.32-26 | | | 6 | | × |
| | 椀c | | R-019 | Fig.32-25 | | | 6.3 | | × |
| 瓦器 | 椀 | | R-017 | Fig.32-27 | 16.2 | | | | |

S-208

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 小坏c | ヘラ? | R-001 | Fig.38-32 | 11 | 5 | 6.4 | × | × |

S-209

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋 | | R-008 | | 12 | 1.5 | | | |
| | 高坏 | | R-009 | Fig.39-8 | | | 13.5 | | |
| | 皿a | ヘラ | R-006 | Fig.39-5 | 13.6 | 1.8 | 11 | | |
| | 皿a | ヘラ | R-005 | Fig.39-6 | 13.8 | 2.1 | 10.6 | | |
| | 大坏c | ヘラ | R-002 | Fig.39-4 | 25 | 6 | 17.9 | | |
| | 坏c | ヘラ | R-004 | Fig.39-2 | 14 | 4.05 | 10.15 | | |
| | 坏c | | R-007 | Fig.39-3 | 19.4 | 5.5 | 12.6 | | |

S-210

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 皿a | ヘラ | R-009 | | 14.2 | 1.8 | 11.8 | ○ | × |
| | 皿a | ヘラ | R-006 | Fig.16-6 | 15.3 | 1.6 | 11.7 | ○ | |
| | 坏a | ヘラ | R-014 | Fig.16-2 | 13 | 2.4 | 7.7 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-007 | Fig.16-3 | 13.9 | 3.9 | 6.4 | ○ | |
| | 坏a | ヘラ | R-013 | Fig.16-4 | 15.2 | 3.7 | 9 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-008 | Fig.16-5 | 16 | 3.7 | 9.1 | ○ | |

S-212

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 高坏 | | R-004 | | 22.2 | | | | |
| | 大蓋 | | R-001 | | 27.3 | | | | |

S-215

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 | ヘラ | R-051 | Fig.33-1 | 15 | | | | |
| | 蓋4 | ヘラ | R-052 | Fig.33-2 | 15.6 | | | | |
| | 皿a | | R-050 | Fig.33-3 | 24 | 2.1 | 18.4 | ○ | |
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-025 | Fig.33-20 | 15 | 2.8 | 12.6 | | ○ |
| | 小皿c | | R-037 | Fig.33-5 | 11.2 | 2.6 | 6.6 | ○ | |
| | 小皿c | | R-036 | Fig.33-6 | 11.9 | 2.1 | 7.2 | ○ | |
| | 小皿c | ヘラ | R-035 | Fig.33-7 | 15.7 | 2.15 | 8.55 | ○ | ○ |
| | 椀c | ヘラ | R-027 | Fig.33-22 | 11.7 | 4.3 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 椀c | ヘラ | R-029 | Fig.33-23 | 12 | 4 | 6.9 | ○ | |
| | 椀c | | R-028 | Fig.33-24 | 12.4 | 4.3 | 7.2 | ○ | ○ |
| | 椀c | | R-031 | | 15.4 | | | | |
| | 椀c | ヘラ | R-046 | Fig.33-29 | | | 8.5 | | × |
| | 椀c2 | ヘラ | R-033 | Fig.33-25 | 11.4 | 4.6 | 7.5 | | × |
| | 椀c2 | ヘラ | R-030 | Fig.33-26 | 11.85 | 4.25 | 7.2 | | × |
| | 椀c2 | | R-034 | Fig.33-27 | 15.1 | 5.8 | 8.7 | ○ | ○ |
| | 椀c2 | ヘラ | R-032 | Fig.33-28 | 15.9 | 5.2 | 11 | ○ | |
| | 坏a | ヘラ | R-016 | Fig.33-9 | 10.4 | 3.1 | 6.8 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-024 | Fig.33-8 | 10.45 | 2.6 | 7.9 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-020 | Fig.33-10 | 10.7 | 2.8 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-023 | Fig.33-11 | 10.8 | 2.8 | 7.9 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-014 | Fig.33-12 | 10.9 | 2.55 | 8.3 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-047 | Fig.33-13 | 11 | 1.7 | 8 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-015 | Fig.33-14 | 11 | 3.1 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-018 | Fig.33-15 | 11.2 | 2.4 | 6.6 | × | × |
| | 坏a | ヘラ | R-022 | Fig.33-16 | 11.2 | 2.8 | 8.4 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-021 | Fig.33-17 | 11.4 | 2.3 | 7.2 | ○ | ○ |
| | 坏a | | R-019 | | 11.4 | 2.8 | 6.6 | | |
| | 坏a | | R-026 | | 11.6 | 2.3 | 6.6 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-048 | Fig.33-18 | 12 | | 8.6 | | |
| | 坏a | ヘラ | R-017 | Fig.33-19 | 12.35 | 2.9 | 8.2 | ○ | ○ |
| 黒色土器A | 椀c | ヘラ? | R-044 | Fig.33-31 | | | 8.6 | | × |
| | 椀c | | R-045 | Fig.33-32 | | | | | × |

S-220

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-003 | Fig.39-18 | 15 | 3.8 | | | ○ |
| | 丸底坏a | | R-006 | | 15 | | | | |
| | 丸底坏a | | R-005 | | 15.2 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-004 | Fig.39-19 | 15.4 | 3.7 | | ○ | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-002 | Fig.39-20 | 15.7 | 3.9 | | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-009 | Fig.39-15 | 9.6 | 1.1 | 7.4 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-007 | Fig.39-16 | 10.35 | 1.6 | 7.75 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-008 | Fig.39-17 | 10.8 | 1.1 | 8.4 | | |

S-225

| 種別 | 器種 | 切離 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 内底ナデ | 板状圧痕 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | | R-020 | | 13.9 | | | × | |
| | 丸底坏a | | R-016 | | 14 | 3.1 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | | R-019 | | 14.2 | 3.4 | | × | × |
| | 丸底坏a | | R-018 | | 14.2 | 3.7 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-005 | Fig.16-28 | 14.4 | 4 | | × | × |
| | 丸底坏a | | R-009 | | 14.6 | 3.5 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-003 | Fig.16-29 | 14.9 | 3.25 | | × | × |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-002 | Fig.16-31 | 15.2 | 3.9 | | × | × |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-006 | Fig.16-33 | 15.4 | 4 | | × | × |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-007 | Fig.16-34 | 15.5 | 3.8 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | | R-012 | | 15.6 | | | × | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-011 | Fig.16-36 | 15.8 | 3.8 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | | R-015 | | 15.9 | 3.5 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-004 | Fig.16-35 | 15.9 | 3.7 | | × | × |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-008 | Fig.16-32 | 16 | 3.2 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | | R-017 | | 16 | 3.7 | | × | × |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-010 | Fig.16-30 | 16 | 3.9 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | | R-014 | | 16 | | | × | ○ |
| | 丸底坏a | | R-013 | | 17 | 3.9 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | | R-021 | | 17 | | | × | |
| | 小丸底坏a | ヘラ | R-034 | Fig.16-27 | 11.9 | 2.7 | | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-026 | Fig.16-18 | 9.4 | 1.1 | 6.7 | ○ | × |
| | 小皿a | ヘラ | R-024 | Fig.16-17 | 9.4 | 1.4 | 6.6 | ○ | × |
| | 小皿a | ヘラ | R-027 | Fig.16-19 | 9.5 | 1.3 | 7.4 | ○ | × |
| | 小皿a | | R-030 | | 9.6 | 1.3 | 7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-036 | Fig.16-21 | 9.8 | 1.3 | 8.15 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ? | R-031 | Fig.16-20 | 9.9 | 1.4 | 8.4 | ○ | × |
| | 小皿a | | R-029 | | 10 | 1 | 7.6 | ○ | × |
| | 小皿a | ヘラ | R-028 | Fig.16-22 | 10.2 | 1.4 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-035 | Fig.16-23 | 10.3 | 1.6 | 7.6 | | |
| | 小皿a | ヘラ? | R-032 | Fig.16-24 | 10.8 | 0.8 | 9 | ○ | × |
| | 小皿a | ヘラ | R-025 | Fig.16-25 | 11.2 | 1.2 | 8.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a2 | ヘラ | R-033 | | 10.1 | 1.2 | 7 | ○ | ○ |
| | 小皿a2 | ヘラ | R-037 | Fig.16-26 | 10.2 | 1.1 | 7.8 | | |
| | 坏a | | R-023 | | 12.6 | 2.5 | 9.7 | ○ | × |
| | 坏a | | R-022 | | 13 | 2.2 | 8.4 | ○ | × |

S-228

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-001 | Fig.17-2 | 15 | 4.5 | | | ○ |
| | 皿b | | R-005 | | 16 | 2.6 | | | |
| | 小皿a2 | ヘラ | R-003 | Fig.17-1 | 11.4 | 0.8 | 8.75 | | × |
| | 椀c | ヘラ? | R-002 | Fig.17-3 | | | 8.4 | ○ | |

S-229

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | | R-025 | | 12.6 | 3.1 | | | |
| | 丸底坏a | | R-024 | | 13 | | | | |
| | 丸底坏a | | R-016 | Fig.17-13 | 14 | | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-007 | Fig.17-11 | 14.3 | 2.9 | | | × |
| | 丸底坏a | | R-053 | Fig.17-12 | 14.7 | 3.35 | | | |
| | 丸底坏a | | R-020 | | 14.8 | 3.9 | | | ○ |
| | 丸底坏a | | R-008 | | 15 | 3.4 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-011 | Fig.17-15 | 15 | 3.5 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-006 | Fig.17-14 | 15 | 3.5 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-004 | Fig.17-19 | 15.1 | 3.3 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-039 | Fig.17-17 | 15.1 | 3.8 | | | ○ |
| | 丸底坏a | | R-010 | | 15.2 | 3.3 | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-019 | Fig.17-16 | 15.2 | 3.6 | | | × |
| | 丸底坏a | | a-2 | | 15.2 | 3.9 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-005 | Fig.17-18 | 15.3 | 3.5 | | | |
| | 丸底坏a | | R-012 | | 15.6 | 2.6 | | | |
| | 丸底坏a | | R-021 | | 15.6 | 3.5 | | | |
| | 丸底坏a | | R-013 | | 15.6 | | | | ○ |
| | 丸底坏a | | R-018 | | 15.7 | 3.6 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-009 | Fig.17-20 | 15.8 | 3.6 | | | × |
| | 丸底坏a | | R-014 | | 15.8 | | | | |
| | 丸底坏a | | R-015 | | 16 | | | | |
| | 丸底坏a | | R-017 | | 16 | | | | |
| | 小皿a | | R-028 | | 8.6 | 1.1 | 6.3 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-041 | Fig.17-5 | 9 | 1.3 | 6.7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | R-030 | Fig.17-6 | 9.2 | 1.5 | 6.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | a-5 | | 9.3 | 1.4 | 6.5 | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-027 | Fig.17-7 | 9.4 | 1.5 | 7.5 | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-026 | Fig.17-8 | 9.6 | 1.5 | 6.5 | ○ | |
| | 小皿a | | R-031 | | 9.8 | 1.3 | 7.4 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-029 | Fig.17-9 | 9.8 | 1.5 | 7.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-040 | Fig.17-10 | 9.9 | 1.2 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | R-033 | | 10 | 1.4 | 7.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | R-032 | | 10 | 1.5 | 7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | a-1 | | 10.1 | 1.2 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-034 | | 10.8 | 1.2 | 8.2 | ○ | ○ |
| | 椀c | | R-042 | | | | 8.6 | ○ | × |
| | 坏a | | R-038 | | | | 6.2 | ○ | |

S-230

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 | | R-018 | Fig.35-2 | 20.8 | | | | |
| | 蓋4 | | R-028 | Fig.35-1 | 14 | | | | |
| | 坏a | ヘラ | R-024 | Fig.35-3 | 14.5 | 3.6 | 8.8 | ○ | ○ |
| | 坏c | ヘラ | R-017 | Fig.35-4 | 12.4 | 3.7 | 8.8 | ○ | |
| | 坏c | ヘラ | R-016 | Fig.35-5 | 12.6 | 3.6 | 7.8 | ○ | |
| 土師器 | 皿a | ヘラ | R-005 | Fig.35-12 | 13 | 1.6 | 9.8 | ○ | |
| | 皿a | ヘラ | R-013 | Fig.35-14 | 14.6 | 1.25 | 11.05 | ○ | |
| | 皿a | ヘラ | R-011 | Fig.35-15 | 14.8 | 1.55 | 11.4 | ○ | |
| | 皿a | ヘラ | R-006 | Fig.35-13 | 15.4 | 1.5 | 10.6 | ○ | |
| | 皿a | | R-023 | | 15.8 | 1.7 | 11.6 | ○ | ○ |
| | 皿a | ヘラ | R-010 | Fig.35-16 | 16.6 | 1.9 | 13.1 | ○ | |
| | 皿c | | R-014 | Fig.35-17 | | | 12.5 | ○ | |
| | 中椀c | | R-009 | | | | 8 | ○ | × |
| | 中椀c | | R-025 | Fig.35-11 | | | 8.45 | ○ | |
| | 坏a | ヘラ? | R-020 | Fig.35-7 | 12 | 2.7 | 7.1 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-015 | Fig.35-8 | 12.4 | 2.6 | 7.5 | ○ | |
| | 坏a | ヘラ? | R-012 | Fig.35-9 | 13 | | 9.05 | ○ | |
| | 坏a | | R-021 | | 13.2 | 2.9 | 6.8 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-007 | Fig.35-10 | 15.4 | 3.75 | 9.2 | ○ | |
| | 坏a | | R-022 | | | | 8.2 | ○ | × |

S-231

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒色土器B | 小皿a | ヘラ | R-001 | | 10.3 | 1.7 | 7.4 | | ○ |

S-232

| 種別 | 器種 | 切離 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 内底ナデ | 板状圧痕 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | | R-014 | | 15.1 | | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-016 | Fig.18-9 | 16.4 | 4 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-015 | Fig.18-10 | 16.5 | 4 | | | |
| | 小皿a | | R-013 | | 9.4 | 1.4 | 6.4 | | |
| | 小皿a | | R-010 | | 10 | 1.4 | 7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-001 | Fig.18-1 | 10.1 | 2 | 6.9 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | R-009 | | 10.3 | 1.3 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | | R-011 | | 10.4 | 1.3 | 7.8 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-004 | Fig.18-2 | 10.4 | 1.5 | 7.4 | | |
| | 小皿a | | R-012 | | 10.4 | 1.6 | 8 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-006 | Fig.18-3 | 10.4 | 1.7 | 8.4 | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-003 | Fig.18-4 | 10.5 | 1.3 | 7.9 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-008 | Fig.18-5 | 10.5 | 1.3 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-005 | Fig.18-7 | 10.8 | 1.3 | 8.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-007 | Fig.18-6 | 10.8 | 1.3 | 7.7 | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.18-8 | 10.9 | 1.5 | 8.7 | | ○ |
| | 中椀c2 | | R-017 | | 12 | 4.5 | 6.6 | ○ | ○ |

S-234

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-004 | Fig.35-25 | 15.4 | 4.3 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | | R-005 | | 15.6 | | | × | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-016 | | 9.3 | 1.4 | 6.6 | ○ | × |
| | 小皿a | ヘラ | R-013 | | 9.4 | | 7.1 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-017 | | 10.2 | 1.2 | 8.5 | ○ | × |
| | 小皿a | ヘラ | R-009 | Fig.35-22 | 10.2 | 1.5 | 8.1 | ○ | × |
| | 小皿a | ヘラ | R-010 | Fig.35-21 | 10.2 | 1.5 | 7.2 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-008 | Fig.35-23 | 10.2 | 1.6 | 7.5 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-015 | | 10.3 | 1.2 | 8.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-102 | | 10.3 | | 8.2 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-014 | | 10.3 | | 6.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-011 | Fig.35-24 | 11.1 | | 9.5 | ○ | |
| 黒色土器B | 椀c | | R-003 | Fig.35-26 | 15.9 | 6 | 6.9 | | ○ |

S-235

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 皿a | ヘラ | R-001 | Fig.18-13 | 15.3 | 1.5 | 11.3 | | |

S-236

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | | R-001 | | 9.1 | 0.9 | 7 | ○ | ○ |

S-237

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | | R-002 | | 15.3 | 3.2 | | × | |
| | 椀c | | R-001 | | 16.1 | 5.8 | 8.8 | | |

S-238

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-006 | | 15.6 | 3 | | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-003 | | 9 | 1.1 | 6.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-004 | | 9.4 | 1 | 6.5 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | | 10.6 | 1.3 | 8.7 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-001 | | 10.6 | 1.8 | 7.8 | ○ | ○ |
| 土師器×黒色土器A | 椀c | | R-005 | | 15.6 | | | | |

S-240

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-013 | Fig.18-21 | 14.4 | 3.4 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-002 | Fig.18-22 | 14.6 | 3.5 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-007 | Fig.18-23 | 14.6 | 3.6 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-005 | Fig.18-24 | 14.7 | 3.7 | | ○ | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-008 | Fig.18-25 | 15.1 | 4.1 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | | R-014 | | 15.2 | 3.1 | | ○ | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-009 | Fig.18-26 | 15.2 | 4 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-003 | Fig.18-27 | 15.3 | 3.45 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | | R-011 | | 15.4 | 3.1 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-006 | Fig.18-28 | 16.1 | 3.5 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-004 | Fig.18-29 | 16.4 | 4.1 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | | R-012 | | 16.6 | 3.9 | | × | × |
| | 小皿a | ヘラ | R-016 | Fig.18-15 | 9.15 | 1.2 | 7.7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-021 | | 9.6 | 1.3 | 7.6 | ○ | × |
| | 小皿a | ヘラ | R-015 | Fig.18-16 | 9.6 | 1.5 | 6.9 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-018 | Fig.18-17 | 9.8 | 1.4 | 7.7 | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-017 | Fig.18-18 | 9.8 | 1.5 | 8.7 | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-024 | | 9.8 | 1.6 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-031 | | 9.9 | | 7.8 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-028 | | 10 | 1.1 | 7.9 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-020 | Fig.18-19 | 10 | 1.3 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-027 | | 10.2 | 1 | 8 | | × |
| | 小皿a | ヘラ | R-029 | | 10.2 | 1.3 | 8.1 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-026 | | 10.3 | 1.1 | 7.8 | | × |
| | 小皿a | ヘラ | R-030 | | 10.3 | 1.1 | 9.2 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-032 | | 10.4 | 1.3 | 7.2 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-023 | | 10.4 | 1.6 | 7.8 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-022 | | 10.8 | 1.8 | 8.2 | ○ | × |
| | 小皿a | ヘラ | R-019 | Fig.18-20 | 11.1 | 1.5 | 8.9 | | × |
| | 小皿a | ヘラ | R-025 | | 11.1 | 2 | 9.4 | ○ | |
| 黒色土器B | 椀c | | R-035 | Fig.18-30 | 16.4 | 6.3 | 7 | | |

S-241

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | | R-003 | | 8.5 | 1.1 | 6.8 | ○ | |
| | 小皿a | | R-001 | | 10.6 | 1.3 | 8 | ○ | |
| | 椀c | | R-002 | | | | 7.6 | ○ | ○ |
| 黒色土器A | 椀? | | R-004 | | 15 | | | | |

S-241下層

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-001 | | 14 | 3.3 | | | × |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-002 | | 15 | 3.8 | | | ○ |

S-242

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.36-1 | 10 | 1.1 | 8.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-003 | Fig.36-2 | 10 | 1.2 | 7.8 | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-001 | Fig.36-3 | 10 | 1.5 | 7.9 | ○ | ○ |

S-244

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 皿a | ヘラ | R-003 | Fig.39-26 | 14 | 2 | 10.8 | ○ | × |
| | 小坏a | ヘラ | R-002 | Fig.39-24 | 10.1 | 3.2 | 7.3 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-001 | Fig.39-25 | 14.5 | 4.2 | 10.2 | ○ | × |

S-245

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 皿a | ヘラ | R-001 | | | | 10 | ○ | × |

S-246

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.39-27 | 9.2 | 1.3 | 6.1 | ○ | ○ |

S-247

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-002 | Fig.40-2 | 14.6 | 3.4 | | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | a-1 | | 10 | 1.2 | 8 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-001 | Fig.40-1 | 10.1 | 1.5 | 7.7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | a-2 | | 10.4 | 1.2 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 椀c | ヘラ | R-003 | Fig.40-3 | | | 7.2 | | ○ |

S-249

| 種別 | 器種 | 切離 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 内底ナデ | 板状圧痕 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋c2 | | R-001 | Fig.40-4 | 18.5 | 3.7 | | | |

S-255

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-001 | Fig.40-6 | 14 | 2.9 | | | ○ |
| | 小皿a2 | ヘラ | R-003 | Fig.40-5 | 9.1 | 0.9 | 6.6 | ○ | ○ |
| | 椀c | | R-002 | Fig.40-7 | 17.2 | | | | |

S-258

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a2 | ヘラ | R-001 | Fig.40-10 | 10.3 | 1.1 | 5.5 | | × |
| | 椀c | ヘラ | R-002 | Fig.40-11 | | | 7.8 | ○ | |

S-260

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 皿a | | R-013 | | 16.6 | 1.6 | 12.6 | ○ | |
| | 坏 | | R-012 | | 18 | 6.2 | | | |
| 土師器 | 蓋c? | | R-004 | | 18.6 | | | | |
| | 皿a | | R-008 | | 15.5 | 1.7 | 12.2 | | |
| | 中椀c2 | | R-009 | | | | 7.7 | | |
| | 坏a | | R-005 | | 12.4 | | 8.2 | | |
| | 坏a | | R-003 | | 13.4 | 4.4 | 8.8 | | |
| | 坏a | | R-007 | | 14.8 | 3.3 | 8.8 | | |
| | 坏a | | R-006 | | 16 | 3.3 | 8 | | |
| | 坏a | ヘラ | a-1 | | 16.4 | 3 | 10.2 | | |
| 黒色土器A | 椀c | ヘラ | R-002 | Fig.36-6 | | | 7.8 | | |

S-260下層

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋a | | R-011 | | | 1 | | | |
| 土師器 | 皿a | | R-018 | Fig.36-15 | 15.4 | 1.6 | 11.4 | | |
| | 皿a | | R-019 | Fig.36-16 | 16.4 | 1.9 | 11.6 | | |
| | 皿a | | R-010 | | 16.9 | | 14 | | |
| | 皿a | | R-009 | | 19.4 | 1.8 | 13.3 | ○ | × |
| | 皿a | | R-016 | | | 2 | | ○ | × |
| | 皿a | | R-017 | | | | 10.3 | ○ | × |
| | 小鉢 | ヘラ | R-003 | Fig.36-17 | 11.8 | 5.1 | 8.9 | × | ○ |
| | 坏 | | R-015 | | 17 | 4.4 | | | |
| | 坏a | ヘラ | R-008 | Fig.36-10 | 12.6 | 3.1 | 7.5 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-004 | Fig.36-11 | 12.7 | 3 | 6.2 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-005 | Fig.36-12 | 12.9 | 3 | 7 | ○ | |
| | 坏a | ヘラ | R-006 | Fig.36-13 | 13.6 | 3.3 | 7.8 | × | |
| | 坏a | ヘラ | R-014 | Fig.36-14 | | | 7.6 | ○ | × |
| 黒色土器A | 坏 | | R-007 | Fig.36-18 | 13.6 | | 9.5 | | |

S-263

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a | ヘラ | R-001 | Fig.40-12 | 11.8 | 3.7 | 7.1 | ○? | ○ |
| | 椀c | ヘラ | R-002 | Fig.40-13 | 14.9 | 5.1 | 8.9 | | × |

S-269

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a | ヘラ | R-001 | Fig.40-15 | 12.5 | 3.5 | 6.5 | ○ | ○ |

出土地不明

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a | ヘラ | R-003 | Fig.43-80 | 14.8 | 1.8 | 11.4 | | |
| | 坏a | ヘラ | R-002 | Fig.43-81 | | | 7.3 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-001 | Fig.43-82 | | | 9.0 | ○ | |

表土

| 種別 | 器種 | 切離 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | 内底ナデ | 板状圧痕 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏a | | R-027 | Fig.41-1 | 14.0 | 3.5 | 9.5 | ○ | |
| 土師器 | 丸底坏a | ヘラ | R-054 | Fig.41-31 | 14.8 | 3.0 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-051 | Fig.41-32 | 14.8 | 3.5 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-025 | Fig.41-30 | 15.0 | 3.8 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-049 | Fig.41-33 | 15.1 | 4.0 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-026 | Fig.41-34 | 15.9 | 3.5 | | × | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-024 | Fig.41-35 | 16.0 | 3.7 | | | |
| | 丸底坏c | | R-016 | Fig.41-36 | 15.7 | 5.8 | 7.0 | × | × |
| | 小皿a | ヘラ | R-066 | Fig.41-3 | 8.5 | 1.3 | 7.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-060 | Fig.41-4 | 9.6 | 1.6 | 7.8 | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-058 | Fig.41-5 | 9.7 | 1.3 | 7.3 | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-062 | Fig.41-6 | 10.0 | 1.3 | 7.2 | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-067 | Fig.41-7 | 10.0 | 1.4 | 7.5 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-061 | Fig.41-8 | 10.2 | 1.5 | 8.5 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-059 | Fig.41-9 | 10.2 | 1.8 | 8.3 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-057 | Fig.41-10 | 10.3 | 1.6 | 7.7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-063 | Fig.41-11 | 10.3 | 1.7 | 8.5 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-064 | Fig.41-12 | 10.4 | 1.5 | 7.2 | | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-065 | Fig.41-13 | 10.6 | 1.7 | 7.7 | ○ | |
| | 小皿a2 | ヘラ | R-019 | Fig.41-14 | 10.0 | 1.0 | 7.2 | ○ | |
| | 小皿c | ヘラ | R-012 | Fig.41-15 | 9.7 | 2.5 | 6.0 | ○ | |
| | 小皿c | ヘラ | R-010 | Fig.41-16 | 9.9 | 2.2 | 5.4 | | ○ |
| | 小皿c | ヘラ | R-011 | Fig.41-17 | 10.2 | 2.3 | 4.7 | | |
| | 小皿c | | R-056 | Fig.41-19 | 13.0 | 2.5 | 8.9 | ○ | |
| | 小皿c | | R-013 | Fig.41-18 | | | 6.6 | | |
| | 椀c | | R-014 | Fig.42-38 | 13.6 | 5.0 | 8.3 | ○ | ○ |
| | 椀c | | R-055 | Fig.42-39 | | | 12.3 | | |
| | 椀c | | R-015 | Fig.42-37 | | | 8.3 | | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-021 | Fig.41-21 | 11.6 | 3.5 | 5.6 | ○ | × |
| | 坏a | ヘラ | R-022 | Fig.41-22 | 11.8 | 3.0 | 8.3 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-020 | Fig.41-23 | 12.4 | 2.2 | 7.6 | | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-028 | Fig.41-20 | 13.0 | 3.4 | 6.8 | ○ | |
| | 坏a | ヘラ | R-023 | Fig.41-24 | 13.7 | 3.2 | 8.0 | | × |
| | 坏a | ヘラ | R-050 | Fig.41-25 | 14.2 | 3.2 | 7.5 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-052 | Fig.41-26 | 15.0 | 3.7 | 11.8 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-053 | Fig.41-27 | 15.2 | 2.9 | 10.9 | | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-017 | Fig.41-28 | 16.3 | 3.5 | 9.2 | ○ | |
| | 坏d | | R-018 | Fig.41-29 | 13.5 | 3.5 | 6.6 | | |

黄灰色土

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋 | | R-012 | Fig.40-16 | 13.9 | | | | |
| | 蓋c2 | | R-007 | Fig.40-17 | 16.4 | 3.4 | | | |
| | 高坏b | | R-005 | | 23.7 | 2.6+ | 21.9 | | |
| | 皿a | | R-006 | Fig.40-18 | 17.2 | 3.0 | 12.8 | ○ | |
| | 坏c | | R-003 | Fig.40-19 | 13.0 | 3.9 | 9.2 | ○ | |
| | 坏c | | R-002 | Fig.40-20 | 13.0 | 4.0 | 9.1 | ○ | |
| | 坏c | | R-004 | Fig.40-21 | 13.0 | 4.3 | 9.2 | ○ | |
| 土師器 | 椀c | | R-010 | Fig.40-22 | | | 6.8 | | |

## 2、第 53 次調査

### (1) 調査に至る経緯

調査地は太宰府市大字通古賀 ( 現在 . 通古賀 5 丁目 ) 字鶴畑 1071 で、北方 200m には菅原道真の住まいと伝えられる榎社が所在する。

発掘調査は、宅地造成が計画されたことによるもので、1985（昭和 60）年 8 月 1 日から 9 月 14 日にかけて実施した。なお、費用は開発者である二日市興産の負担のもとで実施した。開発対象面積は 645 ㎡で、調査面積は 137 ㎡である。調査は山本信夫が担当した。

### (2) 基本層位（Fig.55）

現況面から深さ 0.7m 程は撹乱層で、その下に厚さ 0.3m の暗茶色土 ( 耕作土 ) が堆積し、それを除去した黒茶色砂や黄色粘土などで遺構が確認できる。

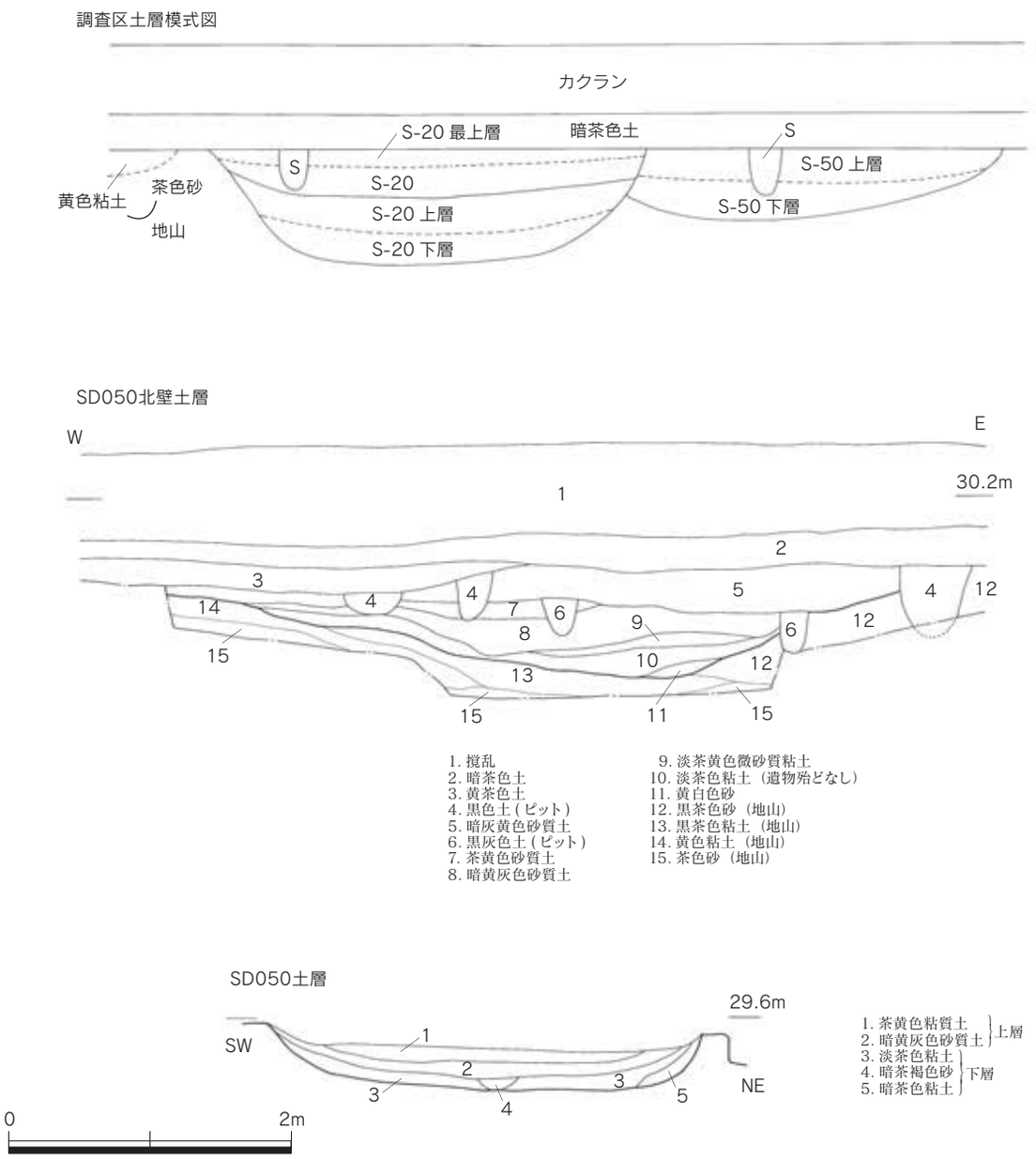



Fig.55　第 53 次調査区・53SD050 土層実測図（1/50）

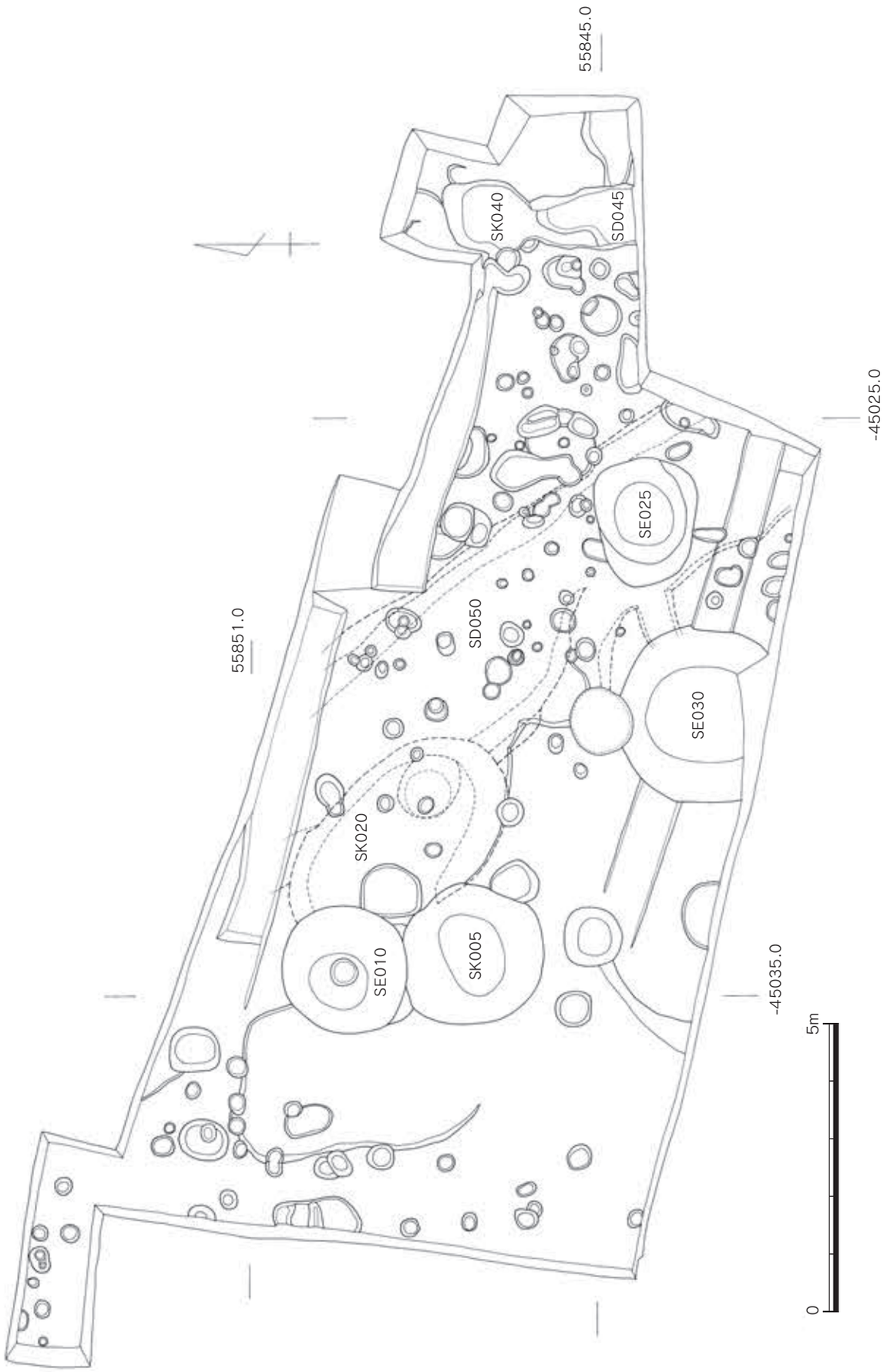



Fig.56　第 53 次調査遺構全体図（1/100）

### (3) 検出遺構

**溝**

**53SD045**

検出時は土坑(S-40・45)が重なり合っている状況で、完掘状況が溝状となる。調査範囲が狭く、2つの遺構を合わせた検出長は4mである。幅0.65～1.3m、深さ0.2m前後の南北溝で、振れはN-0°13′29″-Wである。

**53SD050（Fig.55）**

幅 2.7 ～ 3.2m、深さ 0.3 ～ 0.6m 程の溝で、調査区を斜めに横切り、深さは北側ほど深い。振れはN-35° 44′ 25″ -W である。埋土は上層が茶黄色粘質土と暗黄灰色砂質土、下層が淡茶色粘土、暗茶褐色砂、暗茶色粘土で自然堆積とみられる。

**井戸**

**53SE010（Fig.57）**

掘り方が東西2.22m、南北2.16m、深さ 1.8m の円形の井戸である。底面に径 0.45m 前後、深さ 0.25m の曲物を据えていた痕跡が残り、部分的に曲物の木質が残る。

**53SE025（Fig.57）**

東西2.27m、南北 1.8m、深さ 1.95m の円形状土坑で、井戸枠は残存しないが形状から井戸とみられる。

**53SE030（Fig.57）**

調査区際にあり、東西 3.1m、南北 2.4m 以上、深さ 1.6m の円形土坑で、中央に円形の黒灰色土が確認された。井戸枠は残存しないが形状から井戸とみられる。

**土坑**

**53SK005（Fig.57）**

東西 2.4m、南北 2.4m、深さ 0.8m の円形土坑である。

**53SK020（Fig.57）**

長軸 4.4m、短軸 2.6m、深さ 0.75m 前後の楕円形土坑。底面東側には径 1.1m、深さ 0.65m の円形土坑が掘られている。

### (4) 出土遺物

**溝**

**53SD045 出土遺物（Fig.58）**

土師器

坏（1、2） 内外面とも回転ナデ調整。色調は黄白色を呈する。

**53SD045（SK040）出土遺物（Fig.58、Pla.14）**

土師器

小皿 a（3） 底部切り離しは回転ヘラ切り。

小皿 c（4） 復元口径 12.0cm、器高 1.95cm。

坏（5、6） 5 は体部中位で僅かに屈曲する。

黒色土器

椀 c（7、8） A 類。

椀（9、10） A 類。2 点とも外面に煤が付着する。

灰釉陶器

壺（11） 復元口径 9.6cm。灰色の胎土に、外面と口縁部内面に緑灰色釉が施されている。

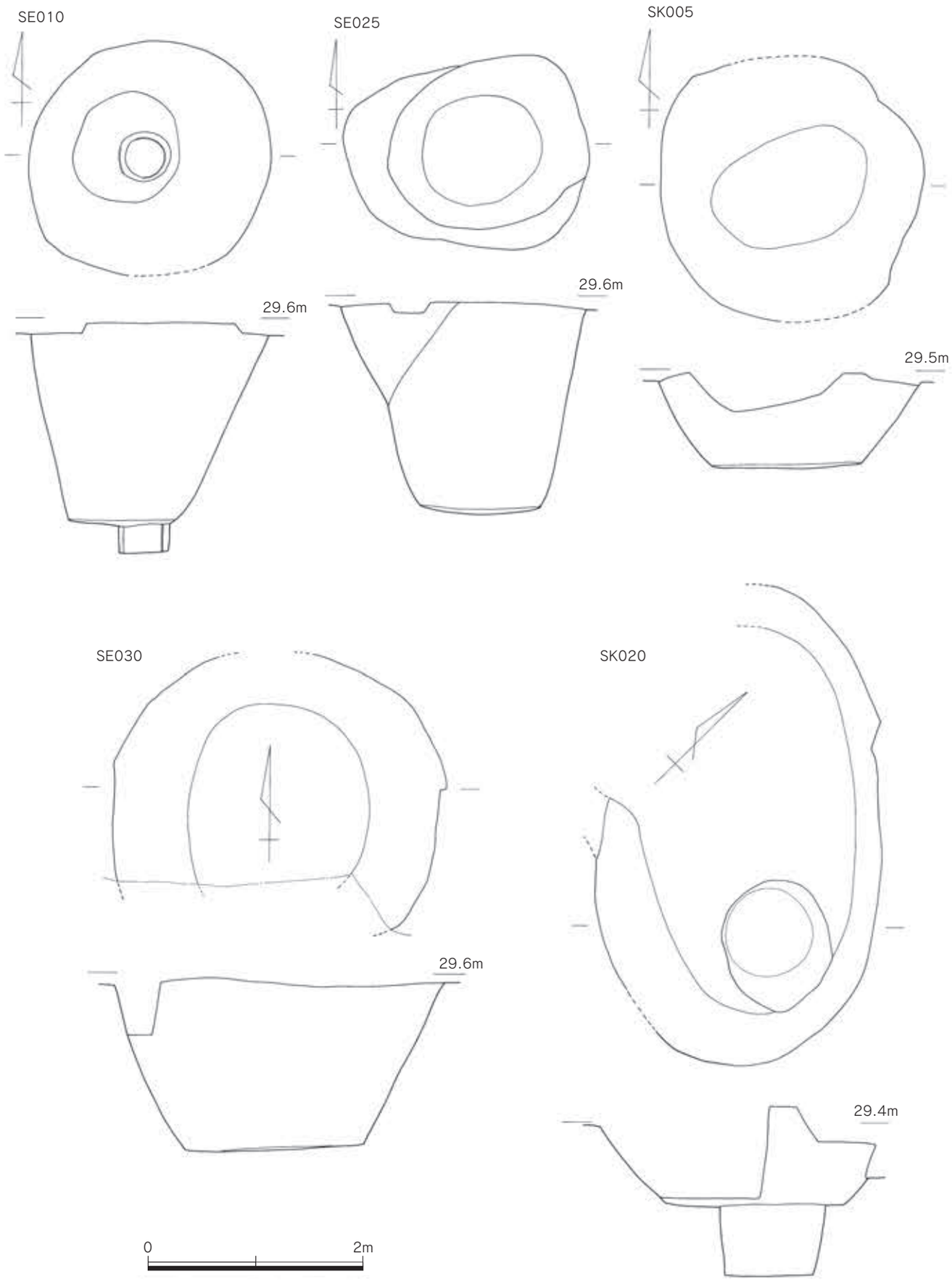



Fig.57　第 53 次調査井戸・土坑実測図（1/50）

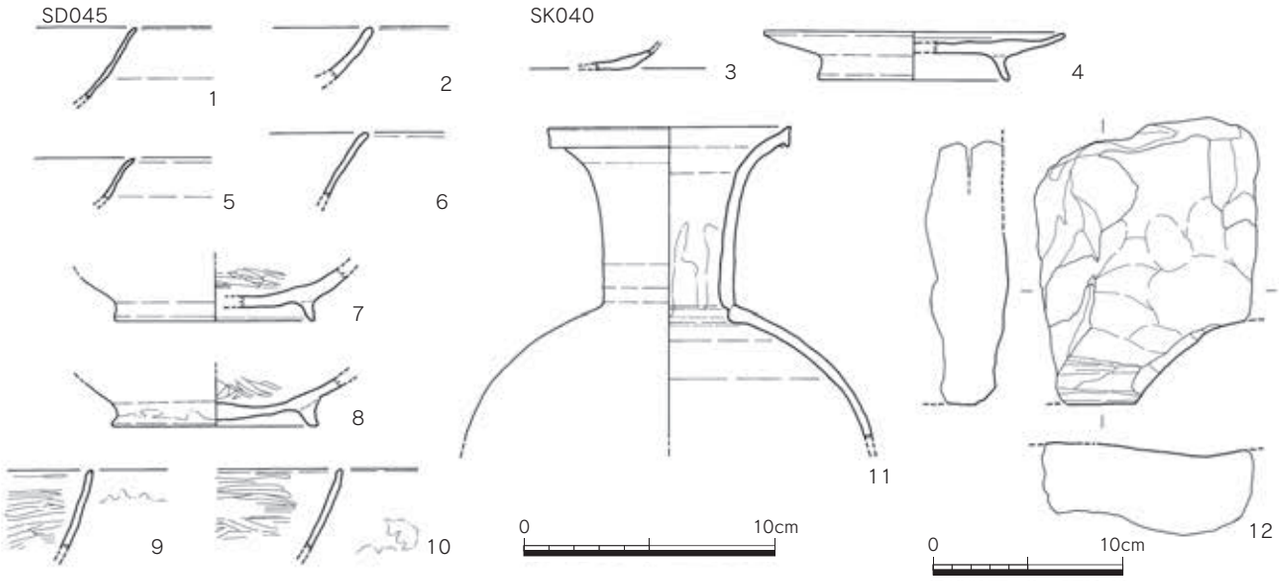



Fig.58　53SD045、SK040 出土遺物実測図（1/3、12 は 1/4）

瓦類

鬼瓦（12）　表面は剥落しているが、丸瓦がはまる半円形の抉り込みの一部が残る。

**53SD050 出土遺物（Fig.59）**

須恵器

蓋 3（1）　胎土は微細な白色砂粒を多く含み、色調は灰色や暗灰色を呈する。

坏 a（2）　復元口径 13.8cm、器高 3.5cm、復元底径 10.3cm。焼成良好で色調は暗灰色を呈する。底部外面は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ調整。

甕（3）　復元口径 13.0cm。内外面回転ナデ調整。色調は灰白色を呈する。

土師器

皿（4）　復元口径 18.8cm、器高 3.15cm、復元底径 15.3cm。胎土は精製され、色調は黄橙色を呈する。底部内外面はナデ、その他は回転ナデ調整。

甕（5 ～ 7）　体部外面はタテハケ、内面ヘラケズリ。色調は橙色を呈する。5 は口縁部が肥厚する。復元口径 13.0cm。7 は口縁部内面がヨコハケ調整。

用途不明品（8）　小片で、直線的な器形で丸味がない。内面はケズリやナデ調整。外面は指頭圧痕の後タテハケ。胎土は白色砂粒を多く含み、色調は明橙色を呈する。

古式土師器

壺（9）　短めの直口縁で、丸い体部である。復元口径は 14.2cm。胎土は精製されているが焼成不良。外面摩滅するが、内面は丁寧なナデ調整。

**53SD050 上層出土遺物（Fig.59）**

須恵器

蓋 1（10）　復元口径 14.8cm。外面上半部にはＹ字のようなヘラ記号を施す。

蓋 3（11、12）　外面上半部は回転ヘラケズリ。11 は復元口径 11.7cm、器高 1.5cm。色調は黒灰色を呈する。12 は復元口径 14.8cm。

坏 a（13）　焼成良好で色調は暗灰色を呈する。底部外面はナデ、その他は回転ナデ調整。

坏 c（14 ～ 16）　復元高台径 6.6 ～ 8.9cm。14･15 は低い高台を貼付する。色調は暗灰色を呈する。

甕（17、18）　17 は復元口径 13.0cm。色調は黒灰色を呈する。内外面ともナデやヨコナデ調整。

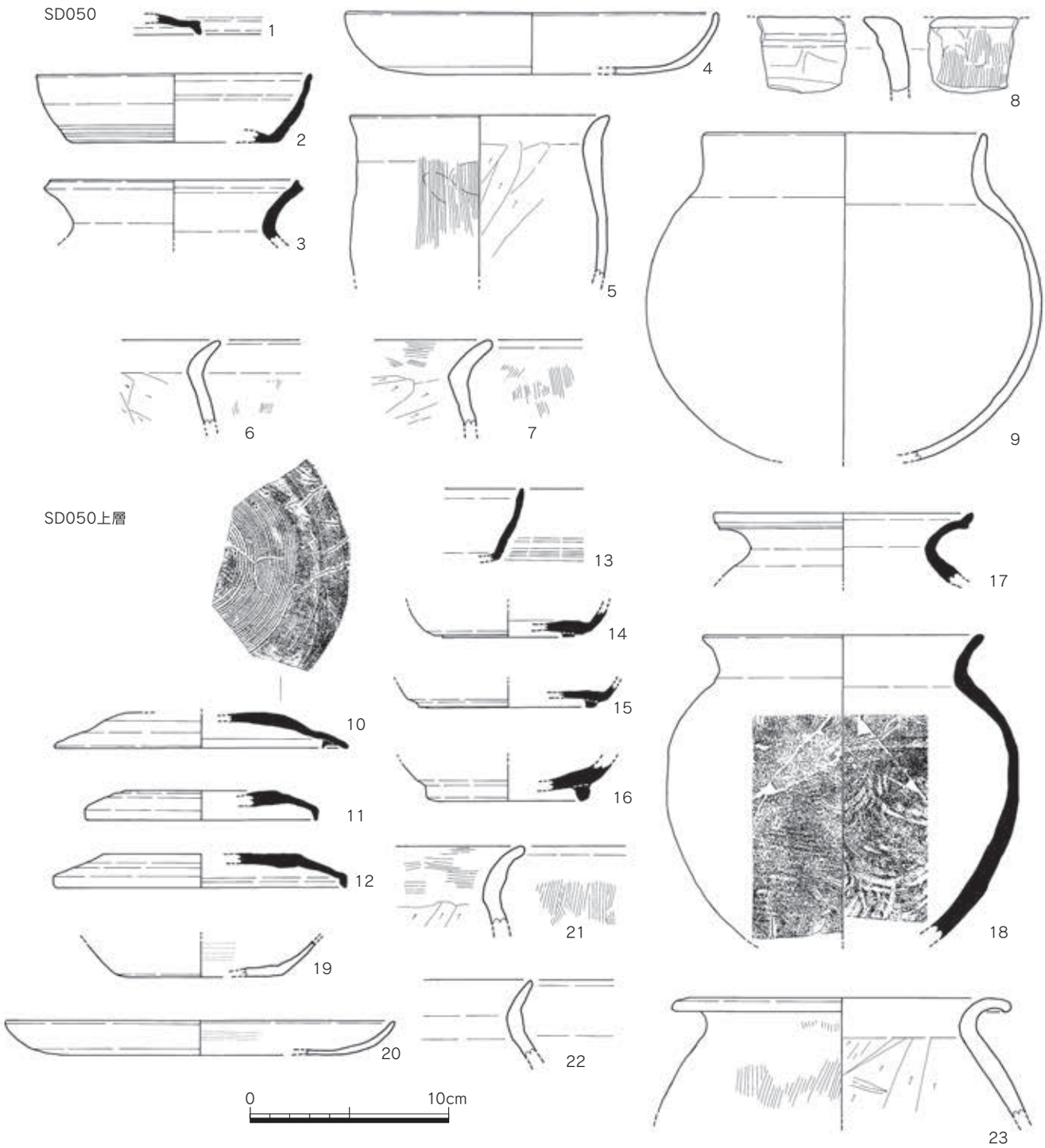



Fig.59　53SD050 出土遺物実測図（1/3）

18 は復元口径 14.1cm。体部外面は平行叩き、内面は同心円の当て具痕が残る。

土師器

坏 d（19）　復元底径 8.2cm。内面はミガキ a、外面下半は回転ヘラケズリ。色調は橙褐色を呈する。

皿 a または高坏（20）　復元口径 19.6cm。全体的に摩滅するが内面にはミガキが僅かに残る。色調は橙黄色を呈する。

甕（21 ～ 23）　21 は体部ヘラケズリ、外面はタテハケ、口縁部内面はヨコハケ調整。22 は体部内面がヘラケズリ、その他はヨコナデ調整。23 は口縁部を大きく曲げている。復元口径 17.0cm。体部

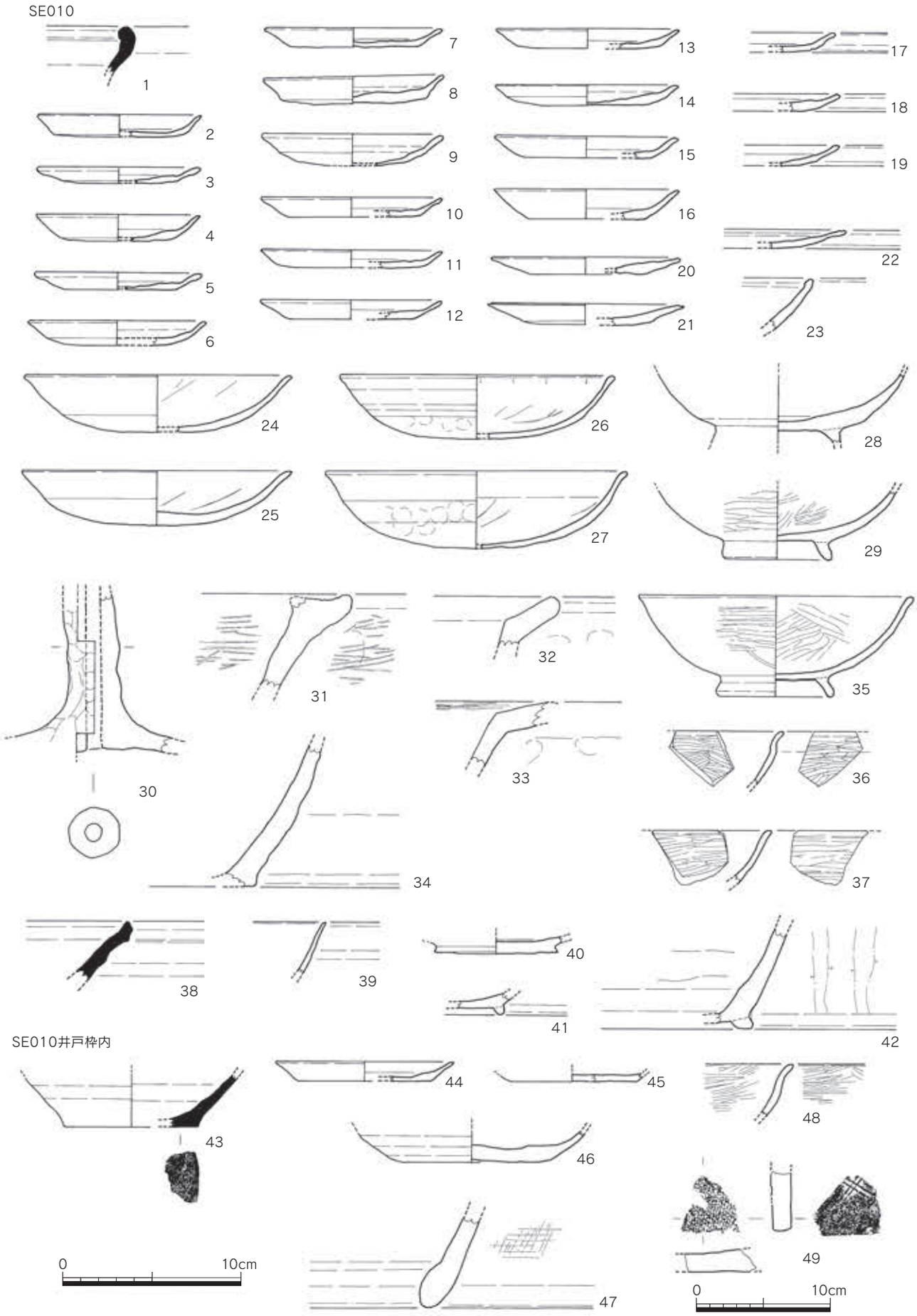



Fig.60　53SE010 出土遺物実測図（1/3、49 は 1/4）

外面はタテハケ、内面はヘラケズリ。焼成良好で色調は黄褐色を呈する。

**井戸**

**53SE010 出土遺物（Fig.60）**

須恵器

鉢（1）口縁部の小片で、内湾し若干肥厚する。色調は白灰色を呈する。内外面とも回転ナデ調整。

土師器

小皿 a（2 ～ 19） 復元口径 9.2 ～ 11.0cm、器高 0.95 ～ 1.75cm、復元底径 6.0 ～ 8.3cm。底部切り離しは回転ヘラ切りで、一部板状圧痕を残す。

小皿 a2（20 ～ 22） 口縁端部内面に僅かに沈線が巡る。底部切り離しは回転ヘラ切り。その他は回転ナデ調整。20 は復元口径 10.6cm、器高 1.0cm、復元底径 6.7cm。21 は復元口径 11.0cm、器高 1.2cm、復元底径 7.7cm。

椀（23） 小片で全形が明確ではないが、口縁端部が僅かに内湾する。胎土は精製され、色調は黄橙色を呈する。

丸底坏 a（24 ～ 27） 復元口径 15.0 ～ 16.9cm、器高 3.1 ～ 4.35cm。底部押し出しで、内面はミガキ b を施し、コテ当て痕が残る。

椀 c（28、29） 28 は内外面ともヨコナデ調整、色調は黄橙色を呈する。29 は復元高台径 6.2cm。内外面ともミガキ c を施す。色調は黄白色や橙色を呈する。

高坏（30） 高坏の脚部で、中は空洞で、外面には指押さえの調整痕が明瞭に残る。

鍋 × 盤（31） 口縁部付近の破片で、鍋もしくは盤とみられる。口縁部付近は外側に 2cm 程張り出している。内外面ともヨコハケ調整。胎土は 0.3cm 以下の砂粒を多く含み、色調は黄橙色を呈する。

鍋（32、33） 2 点とも口縁端部は稜線を付けて外側に屈曲させる。胎土は砂粒を多く含み、内面暗黄橙色、外面黒茶色を呈する。32 は内外面ともナデ調整。33 は口縁端部内面に横方向の工具ナデ調整。

甕（34） 胎土は 0.3cm 以下の砂粒を含み、黄白色や暗黄褐色を呈する。内外面ともナデ調整。

黒色土器

椀 c（35） 復元口径 15.4cm、器高 5.7cm、復元高台径 6.6cm。内外面ミガキ c が残る。B 類。

椀（36、37） 2 点とも B 類で、内外面にミガキ c を施す。36 の外面はやや劣化する。37 は口縁端部を僅かに外反させる。

須恵質土器

鉢（38） 胎土は微細な白色砂粒や黒色粒を多く含み、色調は内面灰色、外面暗灰色を呈する。内外面とも回転ナデ調整。東播系とみられる。

緑釉陶器

椀（39 ～ 41） 39 は胎土が淡黄橙色の土師質で、釉はやや緑色味の黄白色で内外面とも薄く施す。40 は復元底径 7.0cm。外面底部は回転糸切りで、胎土は須恵質で灰色を呈する。釉は濃い緑色で、内外面に薄く施釉する。内面に目跡のような痕跡が残る。41 は胎土が淡橙色で、淡緑白色釉を薄く施すが部分的に剥がれている。防長産。

灰釉陶器

壺（42） 胎土は 0.5cm 以下の黒色粒が多く含み、色調は灰色を呈する。内外面とも施釉され、外面には釉垂れがみられる。釉垂れ部分は釉が厚く緑色を呈する。

**53SE010 井戸枠内出土遺物（Fig.60）**

須恵器

鉢（43）　底部には回転糸切り痕を残す。内面は回転ナデ調整で、やや平滑である。篠窯産。

小皿ａ（44、45）　44 は復元口径 10.0cm、器高 1.1cm、復元底径 7.8cm で、底部切り離しは回転ヘラ切り。45 は復元底径 7.0cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏ａ(46)　復元底径 8.8cm。底部切り離しは回転ヘラ切りで板状圧痕を残す。色調は薄茶色を呈する。

甑（47）　甑の下端部で、内面ナデ調整、外面はハケ調整を行う。色調は薄茶色を呈する。

黒色土器

椀（48）　口縁部を僅かに外反する。内外面に細かいミガキｃを施す。B 類。

瓦類

平瓦（49）　外面は二重格子叩き。

**53SE025 出土遺物（Fig.61）**

須恵器

蓋ｃ（1）　ボタン状のツマミで、残る外面には回転ヘラケズリが残る。

蓋３(2、3)　2 は口縁端部が僅かに摘んだ程度で蓋４に近い。外面上半部は回転ヘラ切り後ナデ調整。内外面とも部分的に暗灰色と淡灰色に分かれ、重ね焼き痕跡とわかる。3 は口縁端部を軽く摘まんだような断面三角形をなす。

大蓋（4）　復元口径23.8cm。外面上半部回転ヘラケズリ、その他は回転ナデで、内面はやや平滑になっている。色調は灰色を呈する。

皿ａ（5）　復元口径 18.6cm、器高 2.1cm、復元底径 14.8cm。底部ヘラ切り後ナデ調整。

坏ａ（6）　復元底部径 7.8cm。直線的な外開きの体部で、底部端に粘土が僅かに付着する。焼成は良好だが、色調は灰白色で、須恵質土器のような仕上がりである。

坏ｃ（7、8）　平坦な底部端に高台を貼付する。7 は丸味のある高台を貼付する。復元高台径 8.6cm。8 は復元高台径 7.0cm。低い断面逆台形の高台を貼付する。

土師器

小皿 a2(9)　復元口径 10.7cm、器高 0.9cm、復元底径 7.1cm。口縁端部内面に僅かに沈線がめぐる。底部ヘラ切りで板状圧痕が残る。

坏ａ（10 ～ 14）　10 は復元口径 9.4cm、器高 2.0cm、復元底径 6.6cm。底部外面はナデ調整。色調は暗黒茶色や黄橙色を呈する。11 は口径 13.0cm、器高 3.0cm、底径 7.5cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。色調は暗黄橙色を呈する。12 ～ 14 は復元底径 6.8 ～ 7.0cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。色調は明橙色や黄白色を呈する。

椀ｃ（15）　丸味のある体部に高台を貼付する。復元高台径 7.8cm。色調は薄茶色を呈する。

甕（16 ～ 18）　16 は直線的な体部で、外面はタテハケで煤が付着する。内面は横方向のナデ調整。17 は体部外面タテハケ、内面ヘラケズリ。18 は口縁部に向かって直線的な体部で、外面タテハケ、内面ヘラケズリで、外面は摩滅が目立つ。色調は橙色を呈する。

製塩土器

焼塩壺（19）　内面布目、外面指頭圧痕が残る。胎土は白色砂粒を多く含み、焼成良好で色調は橙色を呈する。

黒色土器

椀c（20）　復元高台径7.4cm。A類。

小甕（21）　内面ミガキｃで、外面ヨコナデで、煤が付着する。B 類。

緑釉陶器

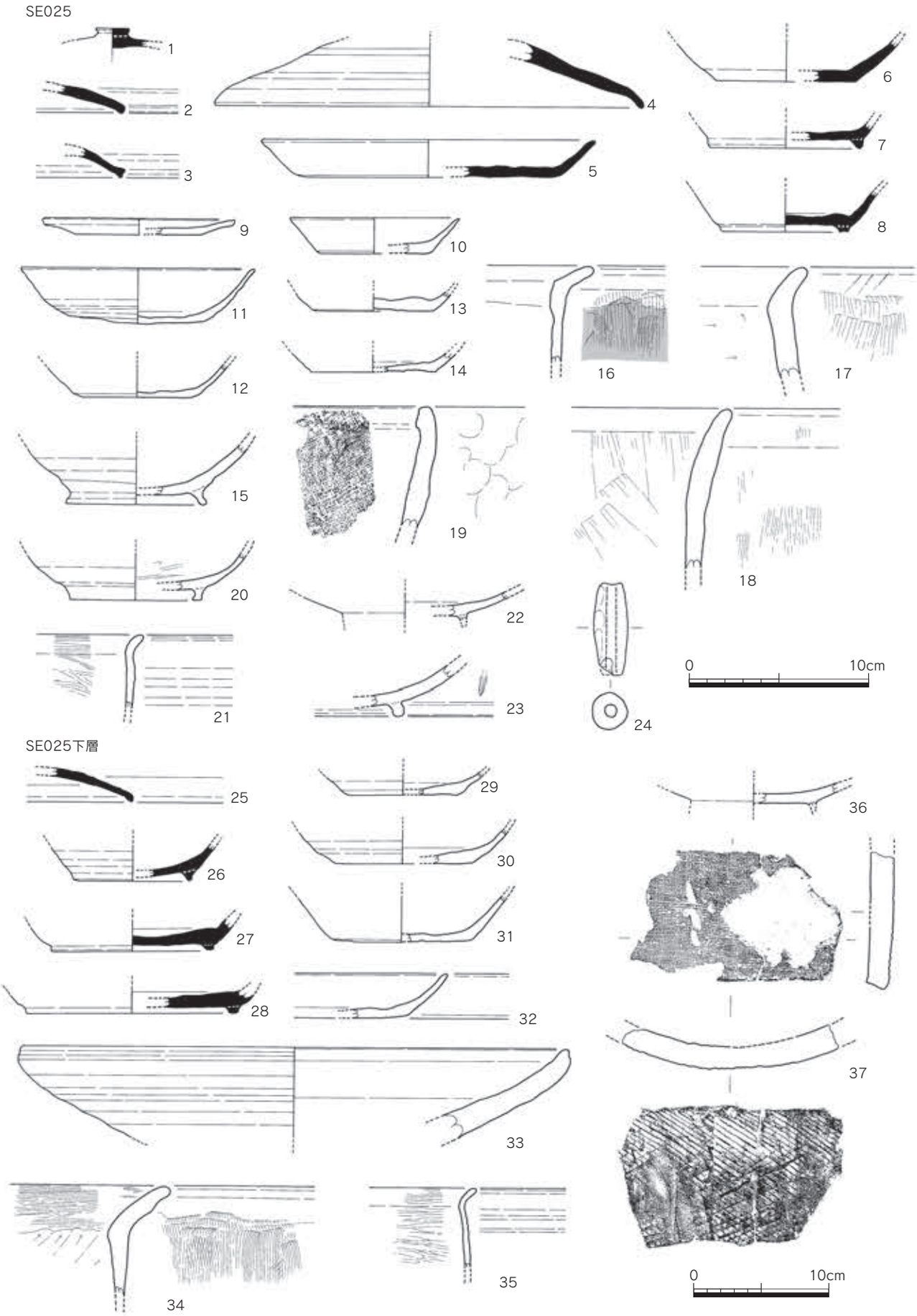



Fig.61　53SE025 出土遺物実測図（1/3、37 は 1/4）

皿（22）　胎土は焼成良好の須恵質で白茶色を呈する。釉は光沢のある薄い緑色で、内面はミガキの後施釉、外面はヨコナデの後施釉する。内外面とも釉の剥落が目立つ。

椀（23）　内外面とも光沢のある薄い緑色釉を施釉する。胎土は須恵質で淡灰色を呈する。丸い体部外面に方形の高台を貼付するが、高台畳付はやや摩滅しており、当初は内側に段を有していたとみられる。また、外面には篦押圧縦線を施す。東海産か。

土製品

土錘（24）　長さ 5.15cm、径は 1.9 ～ 2.1cm。

**53SE025 下層出土遺物（Fig.61）**

須恵器

蓋 3（25）　口縁端部を僅かに摘まむ程度で、蓋 4 に近い状態である。外面上半部はヘラ切り後ナデ調整。その他は回転ナデ。

坏 c（26 ～ 28）　底部端に高台を貼付する。26 は丸味のある体部で、復元高台径 6.6cm。内面は平滑で赤色顔料が残る。27 は低い高台を貼付し、復元高台径 9.0cm。28 は復元高台径 11.8cm。

土師器

坏 a（29 ～ 32）　底部は平坦で、体部との境は若干丸味がある。29 は復元底径 7.0cm。色調は白茶色を呈する。板状圧痕が残る。30 は復元底径 7.6cm。色調は黄橙色を呈する。31 は復元底径 7.8cm。板状圧痕が残る。色調は暗黄橙色を呈する。32 は器高 2.5cm で、色調は白茶色を呈する。

盤（33）　復元口径 30.6cm。胎土は 0.3cm 以下の白色砂粒や茶色粒を含み、色調は白茶色を呈する。体部は直線的に開き、口縁部は僅かに内湾する。内外面とも摩滅し調整不明。

甕（34）　体部外面タテハケ、内面ヘラケズリで煤が付着する。口縁部内面はヨコハケを施す。焼成良好で外面黒色、内面薄茶色を呈する。

黒色土器

小甕（35）　外面回転ナデ調整。内面には細かいミガキ c を施す。A 類。

緑釉陶器

皿（36）　胎土は土師質で白茶色を呈する。内外面にやや白色味を帯びた薄緑色釉を薄く施す。内面は摩滅し釉の剥落が目立つ。防長産。

瓦類

平瓦（37）　凸面は不規則な斜格子叩きを施す。内面布目痕が明瞭に残る。色調は薄茶色や灰色を呈する。

**53SE030 直上出土遺物（Fig.62）**

土師器

皿 c（1）　復元口径 14.1cm、器高 3.75cm、復元高台径 7.9cm。坏部は外開きで全体的に摩滅する。色調は薄茶色を呈する。

緑釉陶器

皿（2）　底部は削り出し高台で復元底径 6.1cm。胎土は明白色の土師質である。薄い緑色釉は内外面に施すが、摩滅し釉の剥落も目立つ。

**53SE030 上層出土遺物（Fig.62）**

須恵器

蓋 3（3、4）　3 は復元口径 13.0cm、器高 1.45cm。外面上半部が回転ヘラ切り後ナデ調整、内面上部はナデ、その他は回転ナデ調整。4 は復元口径 14.6cm。口縁端部内面に僅かな窪みが巡る。焼成

不良で色調は灰黄白色を呈する。内外面とも回転ナデ調整。

蓋 a3（5）　復元口径 18.2cm、器高 2.25cm。口縁端部内面に僅かに窪みが巡る。外面上部は回転ヘラ切り後未調整、内面は上部がナデで、一部若干平滑になる。その他は回転ナデ。色調は灰色を呈する。

蓋 4（6）　内外面回転ナデ調整。色調は青灰色を呈する。

坏 a（7）　復元口径 13.6cm、器高 3.7cm、復元底径 9.0cm。底部外面はヘラ切り後未調整。口縁部内面付近には煤が付着する。焼成良好で色調は淡灰色を呈する。

坏 c（8 ～ 14）　全体として高台を底部端に貼布する。復元高台径 6.2 ～ 9.4cm。色調は灰色や青灰色を呈する。8 はやや高い高台で、体部の器壁は薄い。

壺（15）　小片で口縁部を若干肥厚させる。色調は暗灰色を呈する。

土師器

蓋（16、17）　16 は復元口径 19.0cm。口縁端部内面は僅かに窪みがある。外面上半部は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ調整。色調は灰橙色を呈する。17 は小片で口縁部を折り曲げている。内外面ともミガキ a を施すが摩滅が目立つ。

皿 a（18）　復元口径 13.8cm、器高 1.7cm。外面底部は回転ヘラ切りで板状圧痕が残る。

坏 a（19）　復元底径 7.5cm。体部内外面とも回転ナデ、色調は灰茶色を呈する。

甕（20 ～ 24）　20 は復元口径 27.8cm。口縁部は体部より大きく張り出す。体部外面工具によるナデ、内面ヘラケズリ。21 は焼成良好で色調は赤茶色を呈する。外面タテハケで煤が全体的に付着する。内面ヘラケズリ。22 は外面粗いハケ、内面ヘラケズリ、口縁部はヨコナデ調整。色調は茶赤色を呈する。23 は外面タテハケ、内面は口縁部ヨコハケ、体部はヘラケズリ。24 は復元口径 14.8cm。口縁部内面はヨコハケ、体部は内面ヘラケズリ、外面はタテハケで若干煤が付着する。

黒色土器

坏 a（25）　復元底径 9.0cm。内面ミガキ a で、外面は回転ヘラケズリ。A 類。

椀 c（26）　内外面ともミガキを施すが、内面のみ黒色化する。底部外面に墨書のようなものが残る。

緑釉陶器

椀（27）　須恵質で淡緑色釉を内外面に施す。

鉢（28）　胎土は須恵質で、内面はミガキ、外面は回転ナデの後に灰緑色釉を薄く施釉する。

長沙窯系青磁

椀（29）胎土が黄灰色で、内外面に灰黄茶色釉を施すが、釉は部分的に剥落する。

**53SE030 中央窪み出土遺物（Fig.63）**

須恵器

蓋 3（30、31）　2 点とも口縁端部を僅かに摘まむ程度に仕上げる。色調は灰色を呈する。

坏 a（32）　焼成やや不良で淡灰色を呈する。内外面とも回転ナデ調整。

坏 c（33 ～ 36）　やや貧弱な高台を貼付する。33 は底部端に高台を貼付する。復元高台径 7.0cm。

土師器

皿 a（37、38）　底部切り離しは回転ヘラ切りで板状圧痕を残す。内面底部はナデ、その他は回転ナデ調整。色調は橙色を呈する。37 は復元口径 15.0cm、器高 2.25cm。38 は復元口径 15.6cm、器高 2.05cm。

大皿（39）　口縁端部を折り曲げ、上面に沈線がめぐる。内外面とも回転ナデ調整。砂粒は少なく色調は淡黄灰色を呈する。

坏 a（40 ～ 44）　底部切り離しは回転ヘラ切りで、底部は平坦に仕上げる。色調は黄橙色や暗橙色

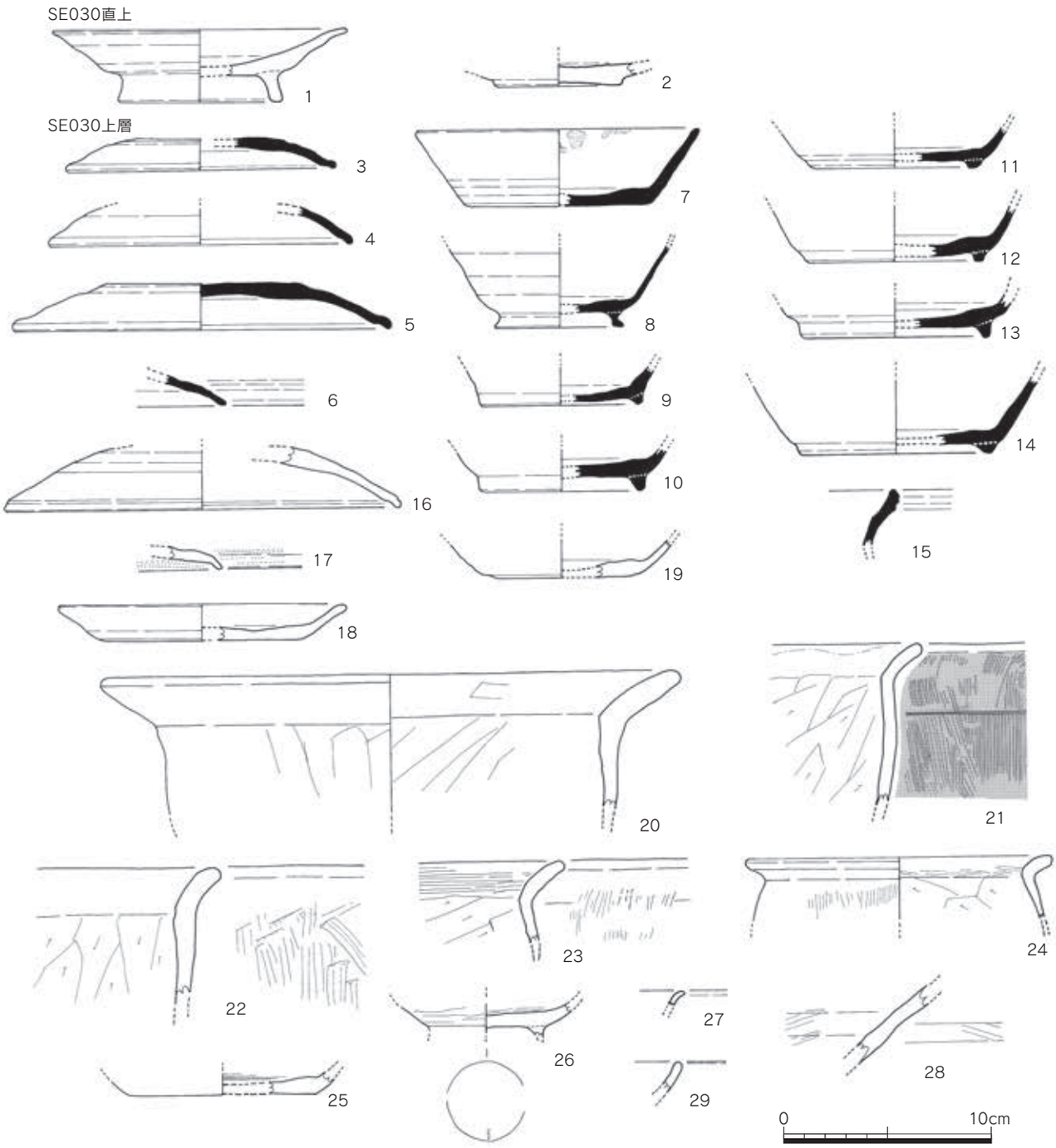



Fig.62　53SE030 出土遺物実測図①（1/3）

を呈する。復元底径 7.2 ～ 8.4cm。41 は内外面に煤が付着する。42・44 は板状圧痕を残す。

甕（45、46）　2 点とも口縁部内面は粗いヨコハケ、体部外面も粗いヨコハケ、内面はヘラケズリ。45 は胎土が 0.5cm 以下の砂粒をやや多く含み、色調は橙茶色を呈する。

金属製品

火打具（47）　形状は三角形で、下端部は巻き込んだ形状をなす。残存幅 7.75×3.4cm、厚さ 0.35cm。鉄製。

鉄釘（48）　両端を欠損する。現存長 7.1cm、幅 1.8×0.9cm。

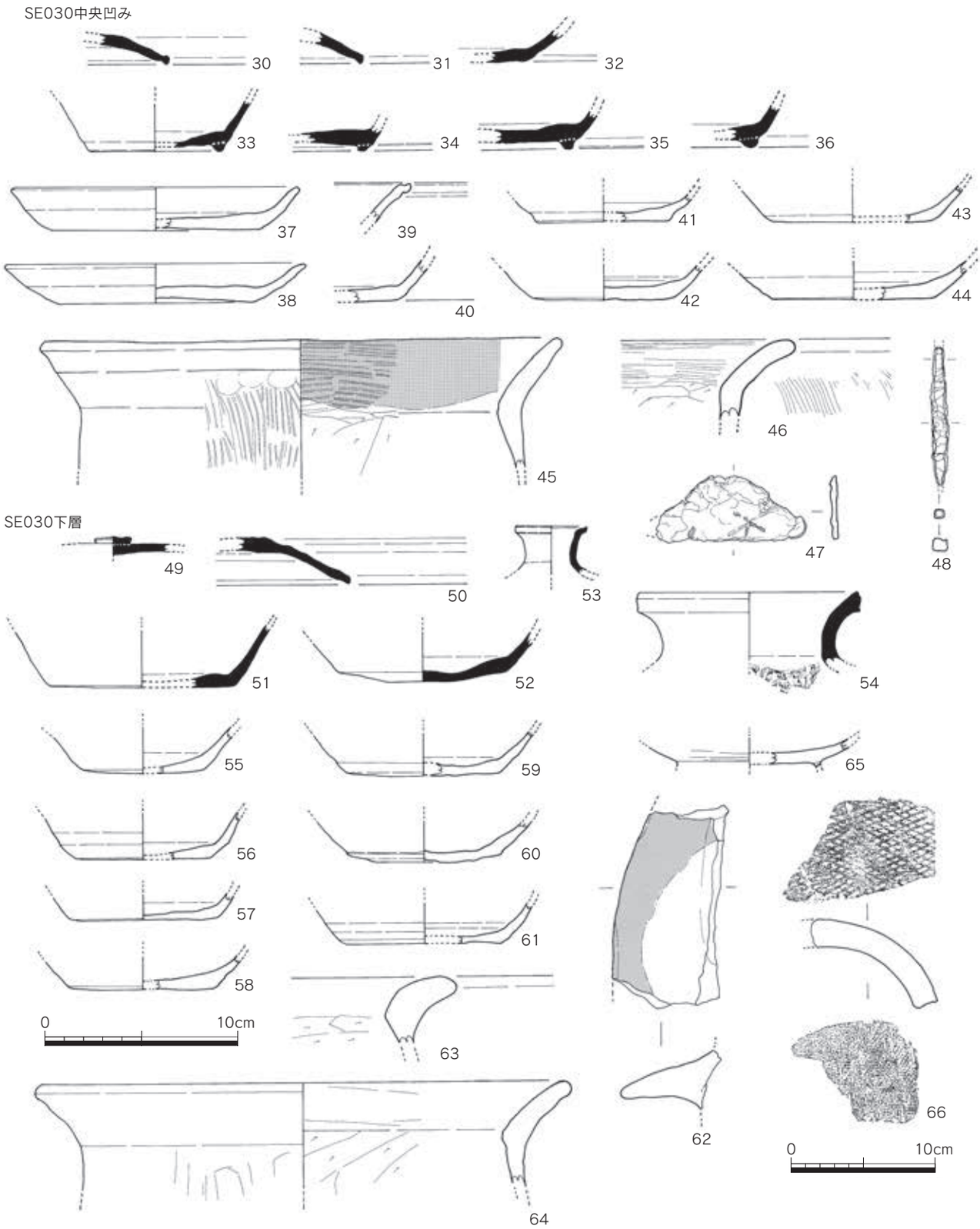



Fig.63　53SE030 出土遺物実測図②（1/3、66 は 1/4）

**53SE030 下層出土遺物（Fig.63）**

須恵器

蓋ｃ（49）　ボタン状のツマミを貼付する。焼成良好で色調は灰色を呈する。

蓋４（50）　口縁端部内面に僅かな窪みが巡る。外面上部はナデか。その他は回転ナデ調整。

坏ａ（51、52）　51 は平坦な底部である。底部外面は回転ヘラ切り後板状圧痕を残す。色調は灰色を呈する。復元底径 9.6cm。52 は若干丸味のある底部で、底部外面は回転ヘラ切り後板状圧痕を残す。内面底部はナデ調整。焼成やや不良で色調は淡灰色を呈する。

壺（53、54）　53 は復元口径 3.75cm。色調は灰黒色で僅かに自然釉が付着する。54 は復元口径 11.6cm。内外面回転ナデ調整。体部内面に当て具痕が残る。還元不良で色調は暗茶色を呈する。

土師器

坏ａ(55 ～ 61)　底部と体部の境は若干丸味があり、底部も若干丸味があるものもある。復元底径 6.3 ～ 8.8cm。色調は淡橙色や淡黄色を呈する。

竈（62）　胎土は 0.5cm 以下の砂粒を多く含み、暗褐色を呈する。器面はヨコナデで煤が付着する。

甕（63、64）　63 は肥厚した口縁部で、内外面はヨコナデ調整。体部内面はヘラケズリ。64 は復元口径 27.8cm。

緑釉陶器

皿（65）　胎土は土師質で淡黄茶色を呈する。釉は淡緑色で透明度が高く光沢がある。内外面とも施釉する。防長産か。

瓦類

丸瓦（66）　凸面は小さな格子叩き。側面はヘラ切り後切断する。焼成良好で色調は灰色を呈する。

**土坑**

**53SK005 出土遺物（Fig.64、Pla.14）**

土師器

小皿ａ（1 ～ 7）　復元口径 9.7 ～ 10.4cm、器高 1.0 ～ 1.8cm、復元底径 6.2 ～ 8.4cm。底部切り離しは回転ヘラ切りの後、ほとんどに板状圧痕を残す。1 の内面には煤のようなものが付着する。

丸底坏ａ（8 ～ 11）　復元口径 15.4 ～ 16.3cm。器高 3.2 ～ 3.8cm。内面はミガキｂで、コテ当て痕が残る。

丸底坏ｃ（12）　復元口径 15.4cm、器高 5.8cm。外面には指頭圧痕、内面にはミガキｂが残る。

鍋（13）　口縁部をＬ字形に外側に屈曲させる。胎土は砂粒を多く含み、内外面ともナデ調整で、口縁部付近は内外面とも煤が厚く付着する。

黒色土器

椀ｃ（14）　口径 15.4cm、器高 5.65cm。内外面とも細かく丁寧なミガキｃを施す。Ｂ類。

山茶碗

小皿（15）　復元口径 9.8cm、器高 2.6cm、復元底径 4.8cm。外面底部は回転糸切り、外面回転ナデ、内面は使用によって平滑である。焼成良好で、胎土は黄灰白色を呈する。

緑釉陶器

椀（16、17）　16 は胎土が土師質で黄茶色を呈する。内外面とも緑白色釉を施すが、ほとんど剥落している。17 は小片のため、器種は若干不明瞭である。内外面に明緑色釉を施すが、残りが悪く濃淡がある。また、外面には砂粒が付着する。

皿（18）　胎土は明白色の土師質で、外面に淡緑色釉、内面に暗灰緑色釉を薄く施す。内外面とも釉

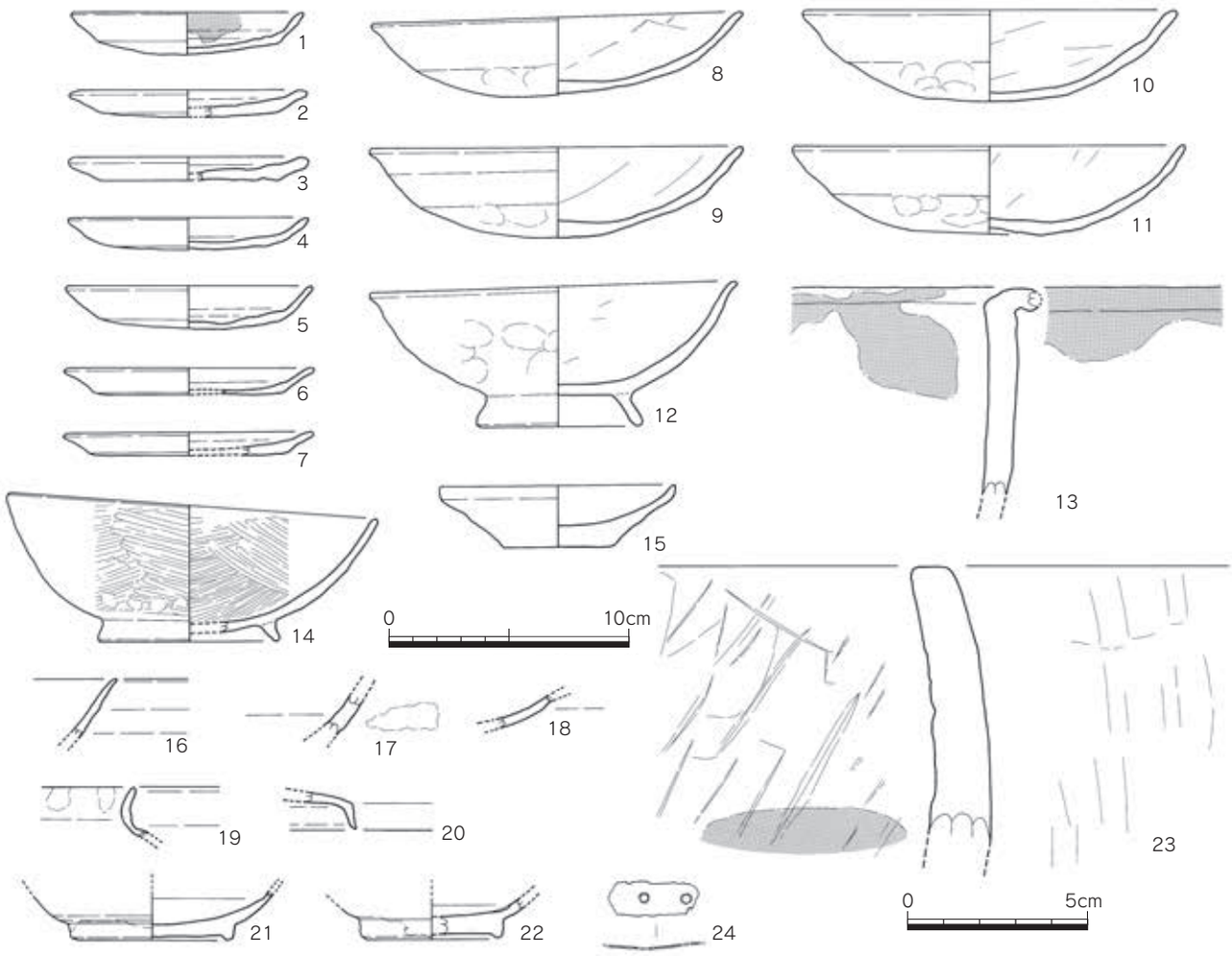



Fig.64　53SK005 出土遺物実測図（1/3、23 は 1/2）

には濃淡がある。

越州窯系青磁

短頸壺（19）　小片だが、形状から短頸壺の口縁部と推測される。胎土は灰茶色で、内外面にオリーブ茶色釉を施す。口縁部内面に目跡のような痕跡が残る。

合子蓋（20）　胎土は茶灰色で、釉は外面のみで、内面は露胎。釉はオリーブ灰色で細かい貫入が入る。

青白磁

椀（21、22）　2 点とも高台以外は淡青色釉を施す。釉は細かい貫入が入る。21 は復元高台径 6.8cm。22 は復元高台径 5.9cm。

石製品

石鍋（23）　外面には縦方向のケズリ、内面は斜め方向の工具痕が残る。厚さは 1.5cm 前後。滑石製。

金属製品

銅製金具（24）　薄い銅板片だが用途は不明である。現存長 3.75cm、現存幅 1.4cm、厚さ 0.05cm。2 ヶ所に径 0.4cm 程の円孔がある。色調は緑青灰色を呈する。

**53SK020 直上出土遺物（Fig.65、Pla.14）**

須恵器

蓋 c3（1）　復元口径 13.4cm、器高 2.95cm。外面は回転ヘラ切り後粗いナデ。その他内外面ナデ調整。

蓋３（２～４）　２は復元口径 14.0cm。口縁端部は内面が僅かに沈線状になるほど軽く摘まむ程度である。３・４は口縁部を断面三角形に仕上げる。

土師器

坏（5）　復元口径 17.8cm、器高 3.6cm、復元底径 13.0cm。胎土は 0.1cm 以下の微細な砂粒を多く含み色調は黄橙色を呈する。内面には縦方向の暗文を施す。

坏ａ（6）　内外面とも摩滅し調整不明。底部は平坦に仕上げる。色調は暗黄灰色や淡赤橙色などを呈する。

甕（7）　体部内面はヘラケズリで、外面には僅かにタテハケが残る。

土製品

土錘（8）　長さ 7.8cm、径 2.1×2.15cm で、中央に 0.8cm の穿孔がある。

**53SK020 最上層出土遺物（Fig.65、Pla.14）**

蓋３（9）　復元口径 14.6cm。現存範囲では内外面とも回転ナデ調整。

坏ｃ（10）　復元高台径 7.4cm。断面方形の高台を貼付する。色調は灰色を呈する。

小壺（11）　体部径約 7.4cm の小壺。内外面とも回転ナデで、色調は暗灰色を呈する。

壺（12）　口縁端部を平坦に仕上げる短頸の壺と推測される。内外面とも回転ナデ調整。

土師器

椀ｃ（13）　若干丸味のある底部に高台を貼付する。復元高台径 7.0cm。

黒色土器

椀ｃ（14）　復元高台径 6.2cm。内面摩滅し調整不明。Ａ類。

灰釉陶器

蓋（15）　復元口径 9.0cm、器高 1.05cm で、色調は灰白色で、内外面に暗緑色釉が点在する。

石製品

権（16）　高さ 4.2cm、最大幅 2.7cm、重さ 27.6g。石材は泥岩系で灰黒色を呈する。

**53SK020 出土遺物（Fig.65・66）**

須恵器

蓋ｃ（17）　ボタン状のツマミを貼付する。外面には回転ヘラケズリ、内面回転ナデ調整。

蓋ｃ3（18、19）　18 は口径 13.8cm、器高 3.35cm。外面上半部は回転ヘラ切り後ナデもしくは摩滅。内面上半部はナデ、それ以外は回転ナデ調整。19 は口径 14.8cm、器高 1.2cm。外面上半部はヘラ切り後簡単なナデ、内面上半部は一方向のナデ、それ以外は回転ナデ調整。

蓋３（20～29）　口縁端部は全体的に僅かに摘まむ程度の仕上がりである。20 は復元口径 15.2cm。21 は復元口径 14.0cm。体部は直線的で、外面上半部は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ調整。22 は端部を軽く曲げたような仕上がりである。外面上半部は回転ヘラ切り後ナデ調整。24 は外面上半部が回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ調整。25 は外面上半部がナデ調整。26 の口縁端部は僅かにつまむ程度で蓋４に近い。

坏ｃ（30～34）　30 は復元口径 12.6cm、器高 4.6cm、復元高台径 8.2cm。体部は若干丸味がある。31 は復元口径 12.6cm、器高 5.2cm、復元高台径 7.6cm。外面下半は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ調整。色調は灰黄色を呈する。32 は底部端に高台を貼付する。復元高台径 7.0cm。33 は復元高台径 11.4cm。35 は低い方形高台を貼付する。復元高台径 9.0cm。底部外面には板状圧痕とみられる痕跡が残る。

大坏ｃ（35）　口径 17.0cm、器高 5.3cm、高台径 12.3cm。やや低い高台を貼付する。内外面とも

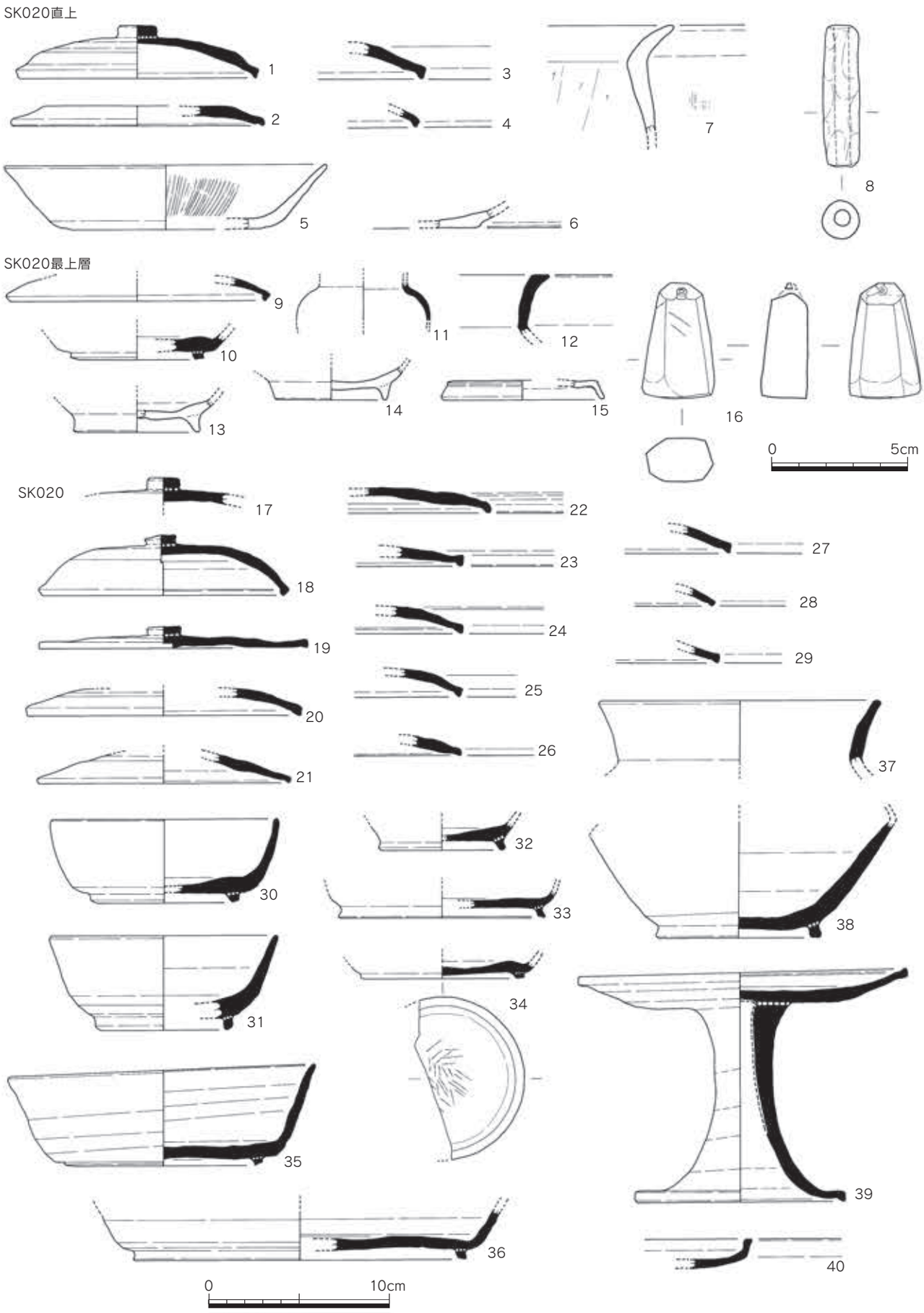



Fig.65　53SK020 出土遺物実測図①（1/3、16 は 1/2）

回転ナデ調整。色調は灰色を呈する。

大皿ｃ（36）　復元高台径 18.4cm。底部内面は不定方向のナデ調整。底部外面は回転ヘラケズリ。

壺（37）　復元口径 15.6cm。内外面回転ナデ調整。色調は暗灰黄色を呈する。

壺ｂ（38）　高台径 9.1cm。内外面とも回転ナデ調整。体部最下部には回転ヘラケズリ。

高坏ｂ（39、40）　39 は復元口径 18.2cm、器高 12.6cm、高台径 11.6cm。坏部は蓋を利用したような形状で、外面は回転ヘラケズリ、内面は不定方向のナデ調整。脚部は内外面とも回転ナデ調整。色調は灰色を呈する。40 は坏部で、内外面とも回転ナデ調整。

土師器

坏ｄ（41、42）　41 は復元底径 5.4cm。底部は回転ヘラケズリ、体部内外面はミガキａを施すが、内外面は摩滅する。色調は橙茶色を呈する。42 は器高 3.0cm。内外面とも摩滅するが、内面にミガキのような痕跡を残す。色調は橙黄色を呈する。

甕（43 ～ 46）　43 は復元口径 34.2cm、体部内面はヘラケズリ、それ以外はヨコナデ調整。胎土は 0.3cm 以下の砂粒を多く含み、色調は暗黄色を呈する。44 は外面が摩滅するが、体部内面はヘラケズリ。45 は内面が粗いヨコハケ、外面はタテハケ調整。46 は体部外面タテハケ、内面ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ調整。

小壺（47）　復元体部径は 10.3cm。胎土は 0.2cm 以下の砂粒を若干含み、色調は黄橙色を呈する。外面は摩滅するが、内面はヨコナデ調整。

竈（48）　移動式竈の庇の部分である。内外面ともヨコナデ調整。一部ハケ目が残る。

製塩土器

焼塩壺（49）　内外面に指頭圧痕が僅かに残り、色調は橙灰色を呈する。小片で明確ではないが焼塩壺と推測される。

**53SK020 上層出土遺物（Fig.66）**

須恵器

蓋３（50）　口縁端部が細い断面三角形を呈する。

蓋４（51）　口縁端部を僅かに曲げ、端部を回転ナデで仕上げている。

坏c（52、53）　52は復元高台径9.2cm。53は復元高台径10.0cm。還元やや不良で暗赤灰色を呈する。

大皿c（54）　復元高台径17.0cm。色調は灰色を呈する。外面底部はナデ、それ以外は回転ナデ調整。

短頸壺（55）　口縁端部は平坦に仕上げる。内外面とも回転ナデ調整。色調は灰黄色を呈する。

壺（56 ～ 60）　56 は復元口径 21.2cm、体部内面は当て具痕を残すが、それ以外は回転ナデ調整。胎土は 0.2cm 以下の白色砂粒を多く含み、色調は黒灰色を呈する。57 は還元やや不良で白灰色を呈する。内外面とも回転ナデ調整。58 は内外面回転ナデ調整。色調は淡橙灰色を呈する。59 は体部内面回転ナデ、外面はカキ目を施す。60 は外面カキ目、それ以外は回転ナデ調整。還元やや不良で色調は淡茶橙色を呈する。

土師器

皿ａ（61、62）　２点とも摩滅し調整不明。色調は暗橙色を呈する。全体的に摩滅し調整不明瞭。61 は器高 1.8cm、62 は器高 1.5cm。

甕（63、64）　63 は復元口径 16.0cm。直線的な体部で口縁部のみ外反させる。胎土は 0.15cm 以下の白色砂粒を多く含み、色調は淡橙黄色を呈する。内外面ともヨコナデ調整。64 は体部外面がタテハケ、内面がヘラケズリ調整。

**53SK020 下層出土遺物（Fig.67）**

須恵器

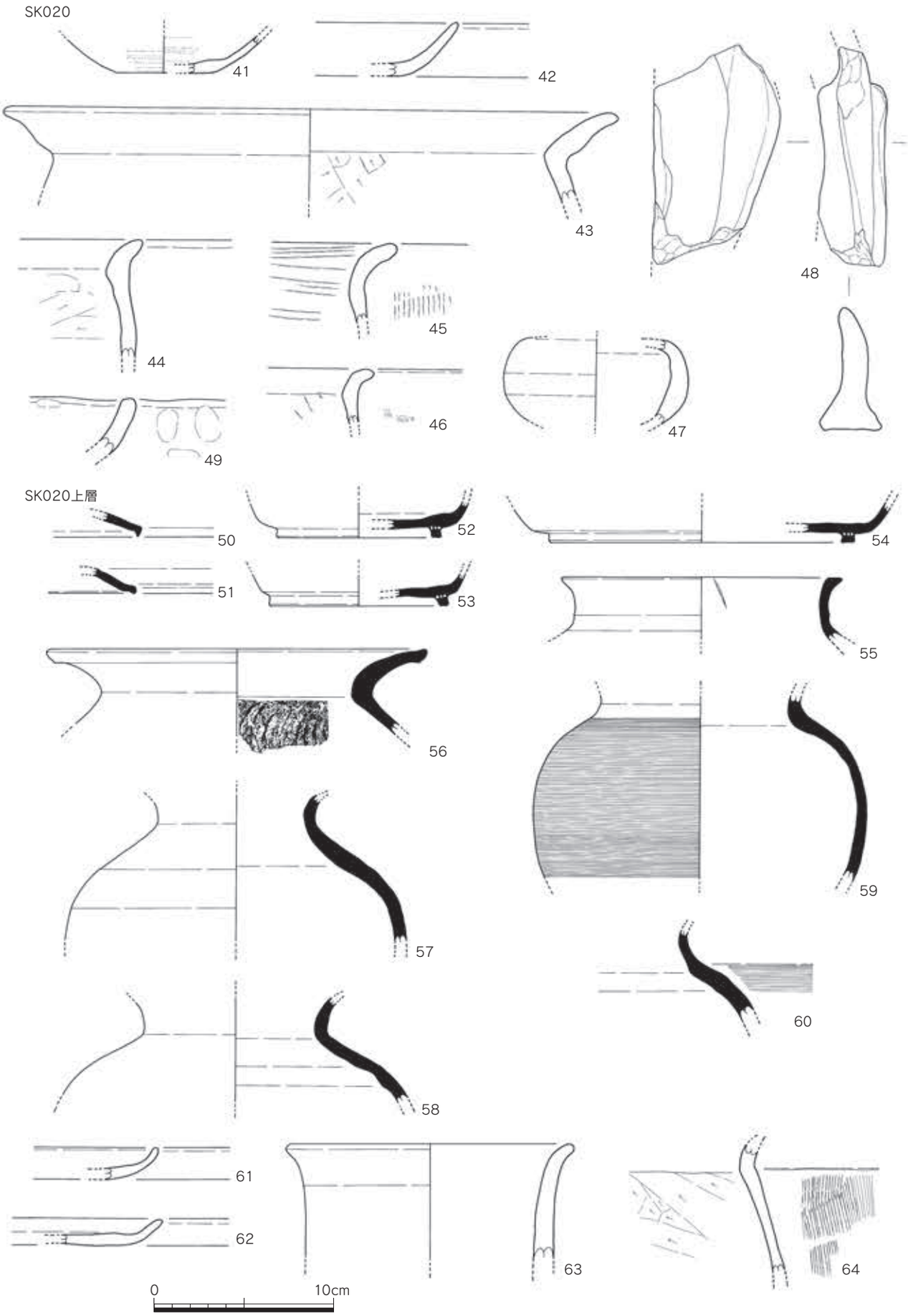



Fig.66　53SK020 出土遺物実測図②（1/3）

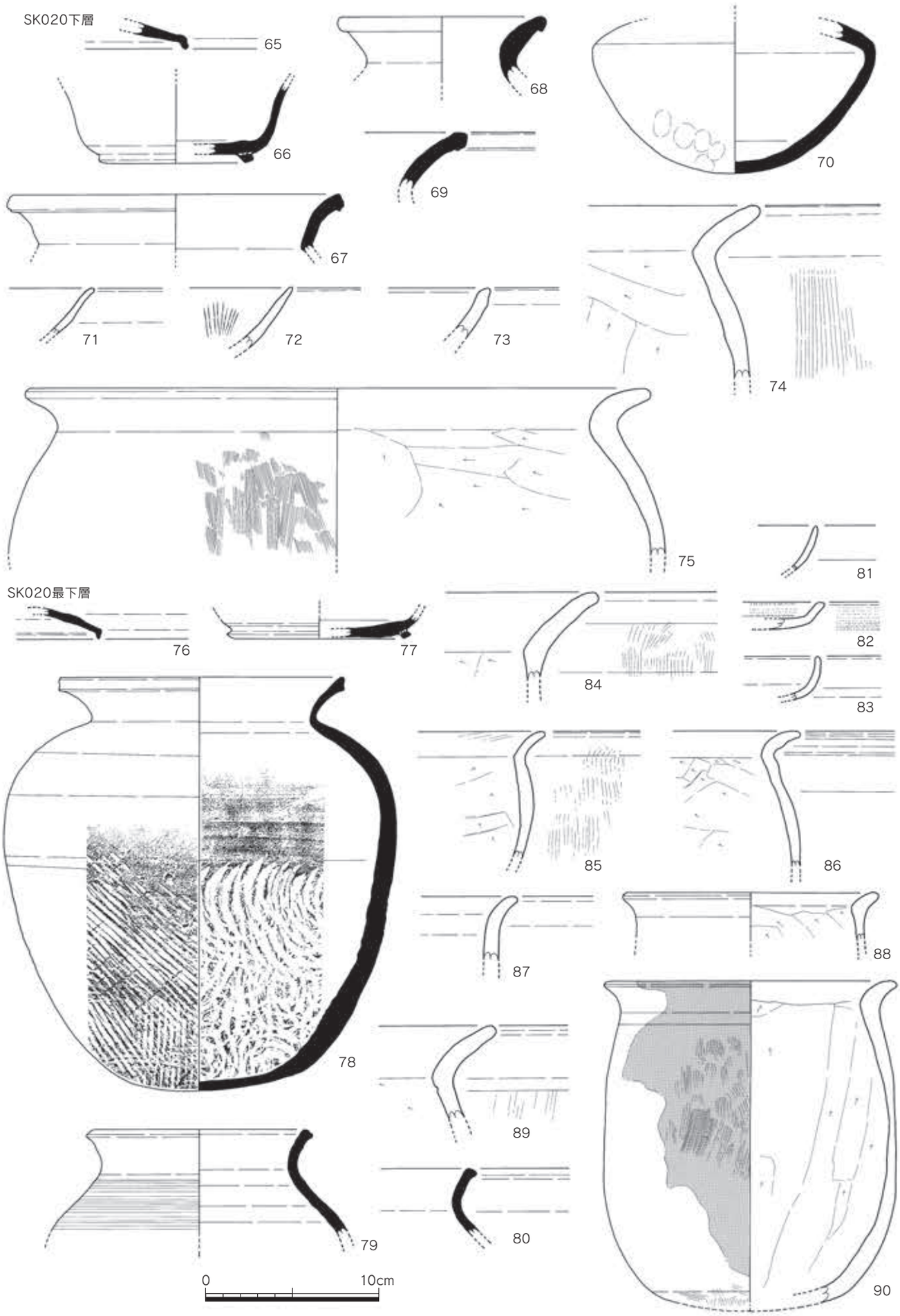



Fig.67　53SK020 出土遺物実測図③（1/3）

蓋２（65）　内外面とも回転ナデ調整。色調は灰色や暗灰色を呈する。

坏ｃ（66）　復元高台径 8.9cm。焼成良好で色調は暗灰色を呈する。

甕（67 ～ 69）　67 は復元口径 19.4cm。胎土は白色砂粒をやや多く含むが精製されている。内外面回転ナデ。68 は復元口径 12.0cm。焼成良好で、外面には部分的に自然釉がみられる。69 の胎土は 0.3cm 以下の白色砂粒を多く含み、焼成は良好で暗灰色を呈する。

壺（70）　体部中位が最大径で屈曲させる。内外面回転ナデだが体部外面下半に指頭圧痕が僅かに残る。色調は黒灰色を呈する。

土師器

坏（71、72）　71 は口縁部付近の破片で、体部中位が若干屈曲している。内外面ヨコナデで色調は橙色を呈する。72 は直線的な体部で、胎土は 0.5cm 以下の砂粒を僅かに含み、色調は橙色を呈する。内面には縦方向の暗文が施されている。

鉢（73）　口縁部の破片で、全形が不明だが鉢状のものと推測される。口縁端部は若干平坦面を作る。胎土は 0.1cm 以下の砂粒をやや含み、焼成良好で色調は橙色を呈する。

甕（74、75）　74 は体部外面がタテハケ、内面はヘラケズリ。75 は復元口径 36.0cm。体部外面は細かいタテハケ、内面はヘラケズリ。色調は橙黄色を呈する。

**53SK020 最下層出土遺物（Fig.67）**

須恵器

蓋３（76）　内外面とも回転ナデ調整。色調はやや暗い灰色を呈する。

坏ｃ（77）　底部ではなく体部下端に高台を貼付する。色調は淡灰白色を呈する。復元高台径 10.6cm。

甕（78）　復元口径 16.4cm、器高 23.9cm、底部は丸味がある。下半は外面叩き目、内面同心円の当て具があり、その後上半部は内外面とも回転ナデ調整。色調は灰色や黒灰色を呈する。

壺（79、80）　２点は形状が類似し、同一個体の可能性がある。79 は復元口径 13.0cm。体部外面はカキ目が施され、口縁部と内面は回転ナデ調整。焼成良好で色調は暗灰色や黒灰色を呈する。80 は内外面とも回転ナデ調整。色調は暗灰色を呈する。

土師器

坏（81）　やや丸味のある体部で、外面下半はヘラケズリ、内面はミガキか。色調は淡橙色を呈する。

皿ａ（82）　内外面にミガキａを施す。胎土は精製され、焼成は良好で色調は橙色を呈する。

皿ｂ（83）　胎土は微細な砂粒を含み、色調は薄茶色を呈する。体部外面下半はヘラケズリか。その他はヨコナデ調整。色調は薄茶色を呈する。

甕（84 ～ 90）　84 は口縁部外面にハケを施し、僅かに煤が付着する。85 は外面摩滅するがタテハケが残る。86 は外面ナデ、体部内面はヘラケズリ。87 は直線的な体部で、口縁部を緩やかに外反させる。88 は復元口径 14.8cm。口縁部は肥厚させる。体部内面はヘラケズリ。89 は摩滅が目立つが、外面タテハケ、内面ヘラケズリ。90 は復元口径 16.8cm、器高約 19cm。肥厚した口縁部を短く曲げ、体部は口縁部より張り出す。体部内面はヘラケズリ、外面はタテハケで煤が付着する。体部外面下半は外面が使用によるのか摩滅が目立つ。

**53SK040 出土遺物（Fig.58、Pla.14）**

土師器

小皿ａ（3）　底部切り離しは回転ヘラ切り。

小皿ｃ（4）　復元口径 12.0cm、器高 1.95cm、復元高台径 7.6cm。

坏（5、6）　５は中位に若干屈曲があり、僅かに口縁部を外反させる。６は直線的に開く体部である。

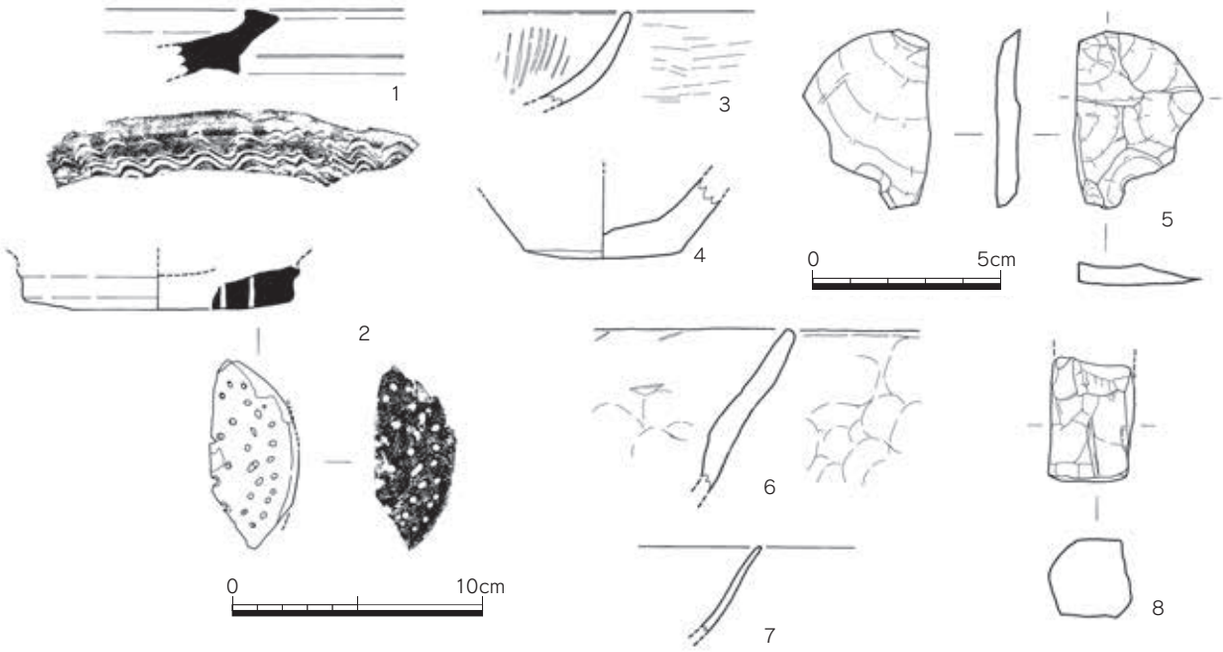



Fig.68　第 53 次調査その他の遺構出土遺物実測図（1/3、7・8 は 1/2）

黒色土器

椀 c（7、8）　2 点とも A 類。7 は復元高台径 8.0cm。8 は復元高台径 8.2cm。

椀（9、10）　2 点とも A 類で、内面には細かいミガキ c を施す。外面には煤が付着する。

灰釉陶器

壺（11）　復元口径 9.6cm。胎土は微細な砂粒を含み、内外面とも回転ナデで、外面には緑灰色釉が薄く施されている。頸部内面には釉垂れがある。

瓦類

鬼瓦（12）　表面は剥落しているが、丸瓦挿入のための抉りが残る。抉り部分はヘラケズリで仕上げる。胎土は 0.2cm 以下の砂粒を多く含み、色調は黄白色を呈する。

**その他の遺構**

**その他の出土遺物（Fig.68）**

須恵器

大甕（1）　二重口縁の大甕で、外面に波状文を施す。還元やや不良で、色調は灰褐色や茶灰色を呈する。S-32 より出土。

擂鉢（2）　復元径 10.8cm で、大きさ 0.2 ～ 0.4cm の孔を多数あけている。焼成良好で色調は灰白色を呈する。S-32 より出土。

土師器

坏（3）　胎土は微細な砂粒を多く含み、外面ミガキ、内面には縦方向の暗文を施す。色調は暗橙色を呈する。S-48 より出土。

弥生土器

甕（4）　底部が若干凸面をなす。内外面とも摩滅し調整不明。

石製品

剥片（5）　大きさは 3.4×4.8cm、厚さ 0.6cm。安山岩製。

**暗茶色土出土遺物（Fig.68）**

製塩土器

焼塩壺（6）　内外面に指頭圧痕が明瞭に残る。色調は明橙色を呈する。

**表土出土遺物（Fig.68）**

緑釉陶器

椀（7）　胎土は須恵質で、色調は黄茶色を呈する。釉は黄緑色で内外面ともミガキの後とても薄く施釉する。

石製品

用途不明石製品（8）　2.1×2.3cm の断面六角形状に加工する。黒灰色の泥岩。

**（5）小結**

調査の結果、調査地の東側ほどピット類を多く検出し、西側は井戸や土坑などの大きな遺構を検出した。

出土遺物については、輸入陶磁器の出土量が少なかった。特に条坊内の調査で多く出土する C 期 (11 世紀後半～ 12 世紀前半 ) の陶磁器がほとんどみられないことから、C 期にかかる遺物が若干みられた SK005 や SE010 も、埋没時に混入した遺物の可能性が高く、それらが使用された時期は B 期と考えた方がよいかもしれない。

また、調査地を斜めに横切る SD050 については、第 54 次調査の SD070 と平行しており、その考察については第 54 次調査のところで合わせて報告するが、最終的に 8 世紀前半～中頃には埋没している。

このようなことから、この調査地では SD050 埋没後の 8 世紀後半頃～ 11 世紀中頃にかけて土地利用されたと推測され、朱雀大路に比較的近い右郭 2 坊路に面してはいるものの、平安後期以降に居住地としての土地利用はなかった可能性が高い。

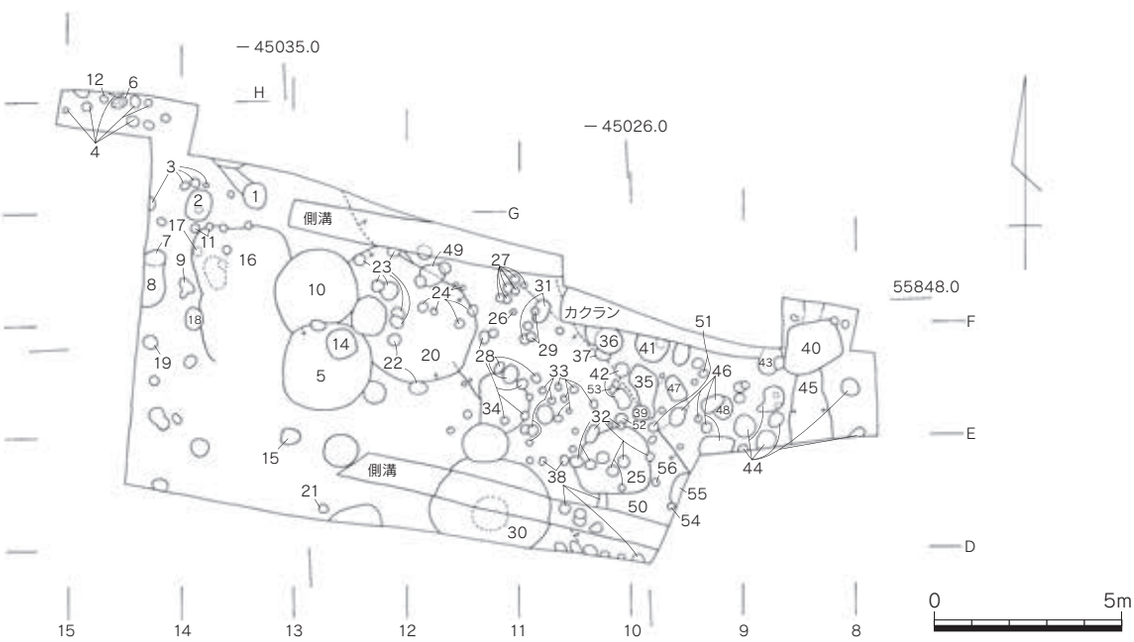



Fig.69　第 53 次調査遺構略測図（1/200）

表.13　第53次調査　遺構一覧表

| S-番号 | 遺構番号 | 種別 | 埋土等 | 時期 | 地区 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | ピット | | 奈良時代 | G13 |
| 2 | | ピット | | 8～9世紀 | G13 |
| 3 | | ピット群 | | 平安前期 | G13・14 |
| 4 | | ピット群 | | 11世紀 | G14 |
| 5 | 53SK005 | 土坑 | S-20→10→5。遺物の半分は8c末～9c初。 | XⅡ期前後 | E12 |
| 6 | | ピット | | 平安時代 | H14 |
| 7 | | ピット | S-7→8 | 古代 | F14 |
| 8 | | 窪み | | 平安時代 | F13 |
| 9 | | 窪み | | 古代 | F13 |
| 10 | 53SE010 | 井戸 | S-20→10→5 | XI～XⅢ期 | F12 |
| 11 | | ピット群 | | 平安時代 | F13 |
| 12 | | ピット | | 平安時代 | H14 |
| 13 | | ピット | S-5→13 | | F12 |
| 14 | | ピット | S-5→13 | 平安後期 | E12 |
| 15 | | ピット | | 平安後期 | E13 |
| 16 | | 窪み | S-16→11 | 平安時代 | F13 |
| 17 | | ピット | S-17→16 | 古代 | F13 |
| 18 | | ピット | S-18→16 | 平安時代 | F13 |
| 19 | | ピット | | 平安時代 | E14 |
| 20 | 53SK020 | 土坑? | S-50→20→10→5 | 8世紀末前後 | EF11･12 |
| 21 | | ピット | | 平安時代 | D12 |
| 22 | | ピット群 | | 平安時代 | E11・12 |
| 23 | | ピット群 | S-20→23 | 古代 | F12 |
| 24 | | ピット群 | S-20→24 | 平安前期？ | F11 |
| 25 | 53SE025 | 井戸 | S-25→32 | 9世紀初～10世紀 | D9・10 |
| 26 | | ピット | | | F11 |
| 27 | | ピット群 | | 11世紀～ | F11 |
| 28 | | ピット群 | | 奈良時代 | E10・11 |
| 29 | | ピット群 | S-31→29 | | E･F10 |
| 30 | 53SE030 | 井戸 | | 9世紀前半 | D10・11 |
| 31 | | ピット群 | S-31→29 | 平安時代？ | E･F10 |
| 32 | | ピット群 | S-25→32 | 平安前期 | D10 |
| 33 | | ピット群 | | 平安前期？ | E10 |
| 34 | | 土坑 | S-34→28 | 奈良時代 | E11 |
| 35 | | 土坑 | S-35→39 | 平安時代 | E9 |
| 36 | | ピット | S-37→36 | 平安時代 | E10 |
| 37 | | ピット | | 古代 | E10 |
| 38 | | ピット群 | | 平安時代 | D10 |
| 39 | | ピット | S-35→39 | 平安時代 | E9 |
| 40 | 53SK040 | 土坑 | S-45→40　S-45の一部か | X期前後 | E8 |
| 41 | | ピット | | 9世紀 | E9 |
| 42 | | ピット群 | | 平安時代 | E10 |
| 43 | | ピット | | 奈良時代？ | E8 |
| 44 | | ピット群 | 黒色土 | | DE8 |
| 45 | 53SD045 | 溝 | S-45→40 | 古代 | E8 |
| 46 | | ピット群 | | 奈良時代？ | E9 |
| 47 | | ピット | | 9世紀 | E9 |
| 48 | | ピット | | | E9 |
| 49 | | ピット | S-49→24 | 平安前期 | F11 |
| 50 | 53SD050 | 溝 | S-50→20→10→5 | 8世紀前半～中頃 | D～G、9～12 |
| 51 | | ピット群 | | 古代 | E9 |
| 52 | | ピット | S-52→32 | 古代 | E10 |
| 53 | | ピット | S-53→42 | | E10 |
| 54 | | ピット | | | D9 |
| 55 | | ピット | S-55→54 | 古代 | D9 |
| 56 | | ピット | | 古代 | D9 |

表.14　第53次調査　条坊関連遺構座標値

| 遺構番号 | 位置 | 遺構中点座標値 | | 南門からの距離 | | 方位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | X | Y | X方向（m） | Y方向（m） | |
| 53SD045 | 53SD045(040)北端中点 | 55847.00 | -45021.48 | -863.645 | -192.118 | N-0°13′29″-W |
| | 53SD045南端中点 | 55844.45 | -45021.47 | -866.195 | -192.082 | |
| 53SD050 | 53SD050北肩北端 | 55849.45 | -45028.73 | -861.268 | -199.391 | N-35°44′25″-W |
| | 53SD050北肩南端 | 55843.85 | -45024.70 | -866.828 | -195.306 | |

## 表 .15　第 53 次調査　出土遺物一覧表

S-1

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、壺 |
| 土師器 | 坏、甕 |
| 石製品 | 丸石 |

S-2

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏c、壺?、破片 |
| 土師器 | 椀c、甕 |

S-3

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、破片 |
| 土師器 | 坏a、甕、破片 |

S-4

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、破片 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、坏、椀c、甕 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 金属製品 | 鉱滓 |

S-5

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、坏、坏a、坏c、甕、小壺、壺 |
| 土師器 | 蓋3、小皿a(ヘラ)、坏a(ヘラ)、丸底坏a、椀、椀c、<br>丸底坏c、高坏b、甕、把手 |
| 製塩土器 | 破片 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 椀、椀c |
| 土師質土器 | 鍋 |
| 緑釉陶器 | 椀、皿、椀？ |
| 山茶椀 | 小皿 |
| 越州窯系青磁 | 短頸壺(1)　合子蓋(1)　越破片I(3) |
| 白磁 | 椀;XI-1(1)　　白磁破片(1) |
| 青白磁 | 椀(2) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子(小))、丸瓦(無文) |
| 石製品 | 石鍋 |
| 土製品 | 土塊 |
| 金属製品 | 銅製金具 |

S-6

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏、破片 |
| 越州窯系青磁 | 合子蓋(1) |

S-7

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕、破片 |
| 土師器 | 蓋、坏、甕、破片 |

S-8

| | |
|---|---|
| 土師器 | 破片 |
| 白磁 | 椀(1) |

S-9

| | |
|---|---|
| 土師器 | 甕 |
| 越州窯系青磁 | 椀: I (1) |
| 金属製品 | 鉱滓 |

S-10

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、蓋c、坏a、坏c、皿a、壺、壺b、壺e?、<br>脚付壺、甕、鉢、破片 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、小皿a2、丸底坏a、坏、坏c、椀c、椀<br>甕、鍋、鍋×盤、器台、高坏、破片 |
| 黒色土器A類 | 椀、椀c |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 須恵質土器 | 鉢(東播系) |
| 緑釉陶器 | 椀、破片 |
| 灰釉陶器 | 壺、破片 |
| 白磁 | 皿;II-1a(1)、II×III(1)　　白磁破片(2) |
| 越州窯系青磁 | 坏;I-1(1)、越破片 I (1) |
| 瓦類 | 平瓦(格子)、丸瓦(格子、無文) |
| 土製品 | 土塊 |

S-10 井戸枠内

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、坏c、甕、壺、壺b、鉢 |
| 土師器 | 小皿a(仆、ヘラ)、小皿c、坏a(ヘラ)、坏d、椀c、甕、甑 |
| 黒色土器B類 | 椀、椀c |
| 緑釉陶器 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 越破片 I (1) |
| 瓦類 | 平瓦(格子、二重格子、無文)、丸瓦(破片) |
| 石製品 | 平玉石 |
| 金属製品 | 鉄釘 |

S-11

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 壺 |
| 土師器 | 坏、坏a(ヘラ) |
| 黒色土器A類 | 破片 |

S-12

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 椀、破片 |
| 土師器 | 坏、坏a(ヘラ)、椀c、甕 |
| 黒色土器B類 | 椀 |

S-14

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、壺? |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、坏a(ヘラ)、丸底坏a、椀、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀II(1) |
| 瓦類 | 平瓦(格子) |
| 金属製品 | 鉄釘 |

S-15

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 坏、皿a、丸底坏a、甕 |
| 越州窯系青磁 | 椀 ; I-1a(1) |

S-16

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏 |
| 土師器 | 坏、坏c、甕、鉢?、破片 |
| 黒色土器B類 | 椀 |

S-17

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋?、甕 |

S-18

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、坏a、甕 |
| 土師器 | 坏、甕、破片 |
| 緑釉陶器 | 椀×皿 |

S-19

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 坏、丸底坏?、椀c、甕類 |

S-20 直上

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋1、蓋3、蓋c3、坏、坏c、甕、壺? |
| 土師器 | 坏、坏a、坏(都城系)、椀c、甕 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |
| 石製品 | 剥片(安山岩) |
| 土製品 | 土錘 |

S-20 最上層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3、蓋c、坏、坏c、椀、甕、小壺、壺 |
| 土師器 | 坏、椀c、甕、把手 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 灰釉陶器 | 蓋 |
| 瓦類 | 丸瓦(格子) |
| 石製品 | 槌、丸石 |

S-20

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋1、蓋3、蓋c3、蓋c、坏c、大皿c、大坏c<br>高坏b、甕、壺、壺b |
| 土師器 | 坏c、坏d、小甕、甕、小壺、把手、カマド、破片 |
| 製塩土器 | 焼塩壺 |
| 弥生土器 | 甕 |
| 瓦類 | 丸瓦(無文) |
| 金属製品 | 鉱滓 |
| 石製品 | 剥片(安山岩) |

S-20 上層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋2、蓋3、蓋c、坏、坏a?、坏c、大皿c<br>壺、短頸壺、甕、横瓶 |
| 土師器 | 坏、坏c、皿a、高坏、甕、破片 |
| 製塩土器 | 破片 |
| 弥生土器 | 丹塗り土器 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |

S-20 下層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋2、蓋3、坏c、甕、大甕、壺、壺b |
| 土師器 | 坏(都城系)、坏d、大皿、甕、鉢、破片 |
| 金属製品 | 鉱滓 |
| 土製品 | 土壁 |

S-20 最下

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、坏c、甕、壺 |
| 土師器 | 坏、坏c、皿a、皿b、高坏?、甕、壺? |
| 弥生土器 | 甕(丹塗り) |
| 金属製品 | 鉱滓、刀子 |
| 石製品 | 剥片(黒曜石) |

S-21

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏 |
| 土師器 | 坏a(ヘラ)、坏a×皿a |
| 越州窯系青磁 | 椀 ; I(1) |

S-22

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕、破片 |
| 土師器 | 甕、破片 |

S-23

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、鉢? |
| 土師器 | 坏、椀、甕、甕? |
| 越州窯系青磁 | 破片I(1) |
| 石製品 | 剥片(黒曜石) |

S-24

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、甕、破片 |
| 土師器 | 坏、坏d、甕 |

S-25

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、蓋c、大蓋、坏a、坏c、皿a、甕、破片 |
| 土師器 | 坏、坏a、椀c、小皿a2、大皿、甕、小鉢、鉢、破片 |
| 製塩土器 | 焼塩壺 |
| 黒色土器A類 | 椀、椀c、甕 |
| 黒色土器B類 | 小甕 |
| 緑釉陶器 | 皿、椀 |
| 越州窯系青磁 | 越破片I(2) |
| 中国陶器 | 破片(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子)、丸瓦(格子、無文) |
| 金属製品 | 鉱滓 |
| 土製品 | 土錘 |

S-25 下層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、坏、坏c、甕、壺? |
| 土師器 | 坏、坏a、坏c、椀c、甕、盤 |
| 黒色土器A類 | 小甕 |
| 越州窯系青磁 | 椀 ; I(3) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |

S-26

| | |
|---|---|
| 金属製品 | 鉄釘 |

S-27

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、甕 |
| 土師器 | 坏、丸底坏a、甕 |

S-28

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、坏、坏c、甕、壺b |
| 土師器 | 蓋3、坏、甕 |
| 越州窯系青磁 | 破片Ⅰ(1) |
| 瓦類 | 平瓦(格子) |

S-29

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、坏c、破片 |
| 土師器 | 坏、坏a、甕 |
| 瓦類 | 破片 |

S-30 上層

| | |
|---|---|
| 土師器 | 皿c、破片 |
| 緑釉陶器 | 皿 |

S-30 上層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋a、蓋、蓋1、蓋3、蓋4、蓋c、坏、坏a、坏c、甕、壺、壺b |
| 土師器 | 蓋、坏a、坏c、皿a、椀c、高坏、甕 |
| 製塩土器 | 破片 |
| 黒色土器A類 | 坏a、椀c、椀 |
| 緑釉陶器 | 鉢？、椀 |
| 長沙窯系青磁 | 椀(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |
| 石製品 | 剥片(安山岩) |

S-30 下層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、蓋c、坏a、坏c、甕、壺、鉢 |
| 土師器 | 坏a(ヘラ)、椀c、甕、カマド |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 緑釉陶器 | 皿 |
| 越州窯系青磁 | 椀I(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目)、丸瓦(格子) |
| 土製品 | 土塊 |

S-30 中央窪み

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、坏a、坏c、甕、壺 |
| 土師器 | 坏a、坏c、皿a、大皿、甕 |
| 越州窯系青磁 | 椀I(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目)、丸瓦(無文) |
| 石製品 | 剥片(黒曜石) |
| 金属製品 | 鉄釘、火打金 |

S-31

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕 |
| 土師器 | 坏、椀c、甕 |

S-32

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋1、蓋3、坏、坏c、甕、大甕、擂鉢 |
| 土師器 | 坏a、坏c、椀c、甕 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目)、丸瓦(無文) |

S-33

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、甕、壺×鉢 |
| 土師器 | 坏、椀c、甕類 |
| 瓦類 | 丸瓦(すり消し縄) |

S-34

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、皿、甕、壺? |
| 土師器 | 坏、坏a、甕 |
| 瓦類 | 平瓦(無文) |

S-35

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c |
| 土師器 | 坏、坏a、甕 |

S-36

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕 |
| 土師器 | 坏a(ヘラ)、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀 |

S-37

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、破片 |
| 土師器 | 坏 |

S-38

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋?、壺b、破片 |
| 土師器 | 坏、坏a、甕、鉢? |

S-39

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏 |
| 土師器 | 坏、甕 |

S-40

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、破片 |
| 土師器 | 小皿c、坏、小皿a、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c、椀 |
| 灰釉陶器 | 壺 |
| 白磁 | 椀:XI-1(1) |
| 越州窯系青磁 | 破片I(1) |
| 瓦類 | 丸瓦(無文)、鬼瓦 |

S-41

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c |

S-42

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏 |
| 土師器 | 坏a(ヘラ)、甕 |

S-43

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、坏c |
| 土師器 | 坏、坏d、甕 |

S-44

| | |
|---|---|
| 土師器 | 椀、甑? |
| 国産陶器 | 破片 |

S-45

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕、破片 |
| 土師器 | 坏、甕 |

S-46

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3、坏、甕 |
| 土師器 | 坏、坏c、甕、カマド? |

S-47

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 坏a(ヘラ)、高坏、甕 |

S-48

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 坏(都城系)、破片 |
| 瓦類 | 丸瓦(無文) |

S-49

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、坏c、甕 |
| 土師器 | 蓋、甕 |

S-50

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏a、高坏×椀、甕、壺、破片 |
| 土師器 | 皿、甕、壺、用途不明品 |
| 古式土師器 | 壺 |

S-50 上層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c1、蓋1、坏、坏a、坏c、椀×高坏、甕、壺、壺b?、破片 |
| 土師器 | 皿a×高坏、坏d、甕、甕×壺、甕? |
| 瓦類 | 平瓦(縄目)、燻し瓦 |

S-51

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏 |
| 土師器 | 坏、甕 |

S-52

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕、破片 |
| 土師器 | 坏c、甕、破片 |

S-53

| | |
|---|---|
| 土師器 | 破片 |

S-54

| | |
|---|---|
| 越州窯系青磁 | 椀；I(1) |

S-55

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕? |
| 土師器 | 蓋、坏 |

S-56

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 坏、甕 |

暗茶色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋c、坏、坏c、高坏、甕、壺×鉢 |
| 土師器 | 坏、坏a、椀c、甕 |
| 製塩土器 | 焼塩壺 |
| 白磁 | 破片(2) |
| 中国陶器 | 破片(1) |
| 瓦類 | 燻し瓦 |
| その他 | 炭 |

暗灰黄色砂質土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、壺×鉢 |
| 土師器 | 甕、破片 |

排土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、坏a、坏c、甕、壺 |
| 土師器 | 坏 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |

2トレ排土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、坏、坏c、甕、壺 |
| 土師器 | 坏、甕 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子、無文) |

試掘3トレ

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、坏、坏c、皿?、壺b |
| 土師器 | 椀c、甕、破片 |
| 製塩土器 | 破片 |

表土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、蓋c、坏a、坏c、皿a、甕、壺、壺b、鉢?、破片(不明品) |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、坏、坏a(ヘラ)、坏c、丸底坏a、丸底坏c、椀c、甕、壺、鉢、器台、把手 |
| 黒色土器A類 | 椀、椀c |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 土師質土器 | 火皿 |
| 瓦質土器 | 破片 |
| 緑釉陶器 | 椀、破片 |
| 白磁 | 椀；I-1×2(1)、II-1(1)、XI-1(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子(小)、無文)、丸瓦(格子(小)) |
| 石製品 | 用途不明石製品 |
| 金属製品 | 鉱滓 |

# 表16．第53次調査　土器供膳具計測表

A：内底ナデ　B：板状圧痕

S-5

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a ヘラ | R-001 | Fig.64-3 | (10.0) | 1.0 | (7.3) | ○ | ○ |
| | 小皿a ヘラ | R-002 | Fig.64-2 | (9.9) | 1.15 | (7.4) | − | − |
| | 小皿a ヘラ | R-003 | Fig.64-7 | (10.4) | 1.0 | (8.4) | ○ | − |
| | 小皿a ヘラ | R-004 | Fig.64-4 | (10.0) | 1.35 | (6.2) | ○ | ○ |
| | 小皿a ヘラ | R-005 | Fig.64-6 | (10.4) | 1.1 | (8.0) | ○ | ○ |
| | 小皿a ヘラ | R-006 | Fig.64-1 | 9.7 | 1.8 | 7.2 | ○ | ○ |
| | 小皿a ヘラ | R-007 | Fig.64-5 | 10.25 | 1.8 | 7.5 | ○ | ○ |
| | 丸底坏a − | R-008 | Fig.64-10 | (15.6) | 3.65+α | | − | − |
| | 丸底坏a ヘラ | R-009 | Fig.64-8 | (15.4) | 3.2 | | − | ○ |
| | 丸底坏a ヘラ | R-010 | Fig.64-9 | (15.5) | 3.8 | | − | ○ |
| | 丸底坏a ヘラ | R-011 | Fig.64-11 | (16.3) | 3.7 | | − | ○ |
| | 丸底坏c | R-013 | Fig.64-12 | (15.4) | 5.8 | 6.9 | | |
| 黒色土器B | 椀c | R-014 | Fig.64-14 | 15.4 | 5.65 | (7.55) | | |

S-10

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | R-001 | Fig.60-15 | (10.4) | 1.25 | (7.4) | ○ | |
| | 小皿a | R-002 | Fig.60-11 | (10.2) | 1.05 | (8.2) | ○ | ○ |
| | 小皿a ヘラ | R-003 | Fig.60-12 | (10.2) | 1.1 | (6.6) | ○ | |
| | 小皿a ヘラ | R-004 | Fig.60-10 | (10.2) | 1.1 | (7.5) | ○ | |
| | 小皿a | R-005 | Fig.60-16 | (10.4) | 1.2 | (6.6) | ○ | |
| | 小皿a ヘラ | R-006 | Fig.60-13 | (10.2) | 1.15 | (7.8) | ○ | |
| | 小皿a ヘラ | R-007 | Fig.60-17 | | 1.1 | | ○ | |
| | 小皿a ヘラ | R-022 | Fig.60-2 | (9.2) | 1.3 | (7.1) | ○ | |
| | 小皿a ヘラ | R-023 | Fig.60-4 | (9.2) | 1.55 | (6.4) | ○ | |
| | 小皿a ヘラ | R-024 | Fig.60-5 | (9.4) | 1.0 | (6.0) | ○ | ○ |
| | 小皿a ヘラ | R-025 | Fig.60-3 | (9.2) | 0.95 | (6.6) | ○ | ○ |
| | 小皿a ヘラ | R-026 | Fig.60-7 | (10.0) | 1.0 | (7.0) | ○ | ○ |
| | 小皿a ヘラ | R-027 | Fig.60-29 | | 1.2+α | | ○ | |
| | 小皿a | R-028 | Fig.60-28 | | 1.0+α | | | |
| | 小皿a ヘラ | R-036 | Fig.60-9 | (10.2) | 1.75 | (8.3) | ○ | ○ |
| | 小皿a ヘラ | R-037 | Fig.60-6 | (10.0) | 1.4 | (8.0) | ○ | |
| | 小皿a ヘラ | R-038 | Fig.60-14 | (10.3) | 1.2 | (7.6) | ○ | ○ |
| | 小皿a ヘラ | R-039 | Fig.60-8 | 10.2 | 1.55 | 8.25 | ○ | ○ |
| | 小皿a2 | R-012 | Fig.60-22 | | 1.1 | | | |
| | 小皿a2 | R-030 | Fig.60-21 | (11.0) | 1.2+α | (7.7) | | |
| | 小皿a2 | R-031 | Fig.60-20 | (10.6) | 1.0 | (6.7) | | |
| | 丸底坏a | R-008 | Fig.60-24 | (15.0) | 3.2 | | | |
| | 丸底坏a ヘラ | R-014 | Fig.60-25 | (15.2) | 3.1 | | ○ | ○ |
| | 丸底坏a ヘラ | R-040 | Fig.60-26 | (15.4) | 3.6 | | | ○ |
| | 丸底坏a ヘラ | R-041 | Fig.60-27 | (16.9) | 4.35 | | | |
| | 椀 | R-029 | Fig.60-23 | | 3.0+α | | | |
| | 椀c | R-032 | Fig.60-29 | | 3.9+α | (6.2) | | |
| | 椀c | R-033 | Fig.60-28 | | 4.0+α | | | |
| 黒色土器B | 椀 | R-009 | Fig.60-37 | | 3.1+α | | | |
| | 椀 | R-010 | Fig.60-36 | | 3.1+α | | | |
| | 椀c | R-034 | Fig.60-35 | (15.4) | 5.7 | (6.6) | | |

S-10井戸内

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a ヘラ | R-001 | Fig.60-46 | | 1.8+α | (8.8) | ○ | ○ |

S-10井戸枠内

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a ヘラ | R-001 | Fig.60-44 | (10.0) | 1.1 | (7.8) | ○ | ○ |
| | 小皿a イト | R-002 | Fig.60-45 | | 0.55+α | (7.0) | ○ | |
| 黒色土器B | 椀 | R-004 | Fig.60-48 | | 3.0+α | | | |

S-20直上

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 | R-002 | Fig.65-2 | (14.0) | 1.1 | | | |
| | 蓋3 | R-003 | Fig.65-3 | | 2.0+α | | | |
| | 蓋3 | R-004 | Fig.65-4 | | 1.0+α | | | |
| | 蓋c3 | R-001 | Fig.65-1 | (13.4) | 2.95 | | | |
| 土師器 | 坏 | R-007 | Fig.65-5 | (17.8) | 3.6 | (13.0) | | |
| | 坏a | R-005 | Fig.65-6 | | 1.0+α | | | |

S-20最上層

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏c | R-003 | Fig.65-10 | | 1.4+α | (7.4) | ○ | |
| | 蓋3 | R-005 | Fig.65-9 | (14.6) | 1.3+α | | | |
| 土師器 | 椀c | R-002 | Fig.65-13 | | 1.8+α | (7.0) | | ○ |
| 黒色土器A | 椀c | R-001 | Fig.65-14 | | 1.9+α | 6.2 | | |

S-20

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏c | R-013 | Fig.65-33 | | 1.5+α | (11.4) | ○ | |
| | 坏c | R-014 | Fig.65-31 | (12.6) | 5.2 | (7.6) | ○? | |
| | 坏c | R-015 | Fig.65-34 | | 0.9+α | (9.0) | ○ | |
| | 坏c | R-029 | Fig.65-30 | (12.6) | 4.6 | (8.2) | ○ | |
| | 坏c | R-030 | Fig.65-32 | | 1.5+α | (7.0) | ○ | |
| | 大坏c ヘラ | R-005 | Fig.65-35 | 17.0 | 5.3 | 12.3 | ○ | |
| | 蓋3 | R-001 | Fig.65-23 | | 1.1+α | | | |
| | 蓋3 ヘラ | R-003 | Fig.65-22 | | 1.4+α | | | ○ |
| | 蓋3 | R-010 | Fig.65-25 | | 1.6+α | | | |
| | 蓋3 | R-016 | Fig.65-20 | (15.2) | 1.5+α | | | |
| | 蓋3 | R-018 | Fig.65-24 | | 1.5+α | | | |
| | 蓋3 | R-019 | Fig.65-27 | | 1.5+α | | | |
| | 蓋3 | R-020 | Fig.65-29 | | 1.0+α | | | |
| | 蓋3 | R-032 | Fig.65-21 | (14.0) | 1.6+α | | | |
| | 蓋3 | R-033 | Fig.65-28 | | 1.0+α | | | |
| | 蓋3 | R-034 | Fig.65-26 | | 1.1+α | | | |
| | 蓋c | R-017 | Fig.65-17 | | 1.3+α | | | |
| | 蓋c3 ヘラ | R-004 | Fig.65-18 | 13.8 | 3.35 | 10.5 | | ○ |
| | 蓋c3 | R-011 | Fig.65-19 | 14.8 | 1.2 | | | |
| | 大皿c ヘラ | R-006 | Fig.65-36 | | 2.8+α | (18.4) | | ○ |
| 土師器 | 坏d ヘラ | R-008 | Fig.66-41 | | 2.1+α | (5.4) | ○ | |
| | 坏d? | R-023 | Fig.66-42 | | 3.0 | | | |

S-20上層

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏c | R-007 | Fig.66-53 | | 1.8+α | (10.0) | ○ | |
| | 坏c | R-008 | Fig.66-52 | | 2.0+α | (7.2) | ○ | |
| | 蓋3 | R-005 | Fig.66-51 | | 1.45+α | | | |
| | 蓋3 | R-006 | Fig.66-50 | | 1.4+α | | | |
| | 大皿c | R-009 | Fig.66-54 | | 1.9+α | (17.0) | | |
| 土師器 | 皿a ヘラ? | R-003 | Fig.66-62 | | 1.5 | | | |
| | 皿a | R-004 | Fig.66-61 | | 1.8 | | | |

S-20下層

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏c | R-010 | Fig.67-66 | | 4.6+α | | | |
| | 蓋2 | R-011 | Fig.67-65 | | 1.5+α | | | |
| 土師器 | 坏 | R-003 | Fig.67-71 | | 2.6+α | | | |
| | 坏 | R-005 | Fig.67-72 | | 3.6+α | | | |

S-20最下層

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 | R-005 | Fig.67-76 | | 1.8+α | | | |
| | 坏c3 | R-013 | Fig.67-77 | | 1.3+α | (10.6) | ○ | |
| 土師器 | 坏 ヘラ? | R-001 | Fig.67-81 | | 2.6+α | | | |
| | 皿a | R-002 | Fig.67-82 | | 1.6+α | | | |
| | 皿b ヘラ? | R-009 | Fig.67-83 | | 2.5+α | | | |

S-25

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏a | R-011 | Fig.61-6 | | 2.35+α | (7.8) | | |
| | 坏c | R-006 | Fig.61-7 | | 1.4+α | (8.6) | | |
| | 坏c ヘラ | R-010 | Fig.61-8 | | 2.25+α | (7.0) | ○ | |
| | 蓋3 | R-007 | Fig.61-2 | | 1.5+α | | | |
| | 蓋3 | R-008 | Fig.61-3 | | 1.65+α | | | |
| | 蓋c | R-009 | Fig.61-1 | | 1.1+α | | | |
| | 大蓋 | R-013 | Fig.61-4 | (23.8) | 3.6+α | | | |
| | 皿a ヘラ | R-014 | Fig.61-5 | (18.6) | 2.1 | 14.8 | ○ | |
| 土師器 | 小皿a2 ヘラ | R-019 | Fig.61-9 | (10.7) | 0.9 | (7.1) | ○ | ○ |
| | 坏a ヘラ | R-001 | Fig.61-11 | 13.0 | 3.0 | 7.5 | ○ | |
| | 坏a ヘラ | R-002 | Fig.61-13 | | 1.1+α | (6.8) | | |
| | 坏a ヘラ | R-003 | Fig.61-12 | | 1.8+α | (7.0) | ○ | ○ |
| | 坏a ヘラ | R-004 | Fig.61-14 | | 1.05+α | (7.0) | ○ | ○ |
| | 坏a | R-005 | Fig.61-10 | (9.4) | 2.0 | (6.6) | | |
| | 椀c | R-020 | Fig.61-15 | | 3.4+α | (7.8) | | |
| 黒色土器A | 椀c | R-022 | Fig.61-20 | | 2.6+α | (7.4) | | |

S-25下層

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏c | R-001 | Fig.61-27 | | 1.8+α | (9.0) | ○ | |
| | 坏c | R-002 | Fig.61-28 | | 1.2+α | (11.8) | ○ | |
| | 坏c | R-003 | Fig.61-26 | | 2.0+α | (6.6) | ○ | |
| | 蓋3 | R-011 | Fig.61-25 | | 1.9+α | | | |
| 土師器 | 坏a | R-004 | Fig.61-30 | | 1.95+α | (7.6) | ○ | |
| | 坏a ヘラ | R-005 | Fig.61-31 | | 2.6+α | (7.8) | ○ | ○ |
| | 坏a ヘラ | R-006 | Fig.61-29 | | 1.3+α | (7.0) | | ○ |
| | 坏a | R-007 | Fig.61-32 | | 2.5+α | | | |

S-30直上

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 皿c | R-001 | Fig.62-1 | (14.1) | 3.75 | (7.9) | ○ | |

S-30上層

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏a ヘラ | R-017 | Fig.62-7 | (13.6) | 3.7 | (9.0) | ○ | − |
| | 坏c ヘラ | R-002 | Fig.62-13 | − | 1.95+α | (9.2) | ○ | − |
| | 坏c ヘラ | R-003 | Fig.62-12 | − | 2.7+α | (8.6) | ○ | − |
| | 坏c ヘラ | R-004 | Fig.62-9 | − | 1.85+α | (7.8) | ○ | ○ |
| | 坏c ヘラ? | R-005 | Fig.62-11 | − | 1.9+α | (8.2) | ○ | − |
| | 坏c − | R-011 | Fig.62-14 | − | 3.6+α | (9.4) | ○ | − |
| | 坏c ヘラ? | R-012 | Fig.62-10 | − | 2.1+α | (7.9) | ○ | − |
| | 坏c | R-016 | Fig.62-8 | − | 3.9+α | (6.2) | | |
| | 蓋3 | R-001 | Fig.62-3 | (13.0) | 1.45+α | | | |
| | 蓋3 | R-013 | Fig.62-4 | (14.6) | 1.8+α | | | |
| | 蓋4 | R-018 | Fig.62-6 | − | 1.5+α | − | | |
| | 蓋a3 | R-019 | Fig.62-5 | (18.2) | 2.25 | | | |
| 土師器 | 坏a ヘラ | R-007 | Fig.62-19 | − | 1.8+α | (7.5) | ○ | − |
| | 蓋 | R-008 | Fig.62-17 | − | 1.15+α | − | | |
| | 蓋 | R-009 | Fig.62-16 | (19.0) | 2.95 | | | |
| | 皿a ヘラ | R-020 | Fig.62-18 | (13.8) | 1.7 | (10.0) | ○ | ○ |
| 黒色土器A | 坏a | R-014 | Fig.62-25 | − | 1.1+α | (9.0) | | |
| | 椀c | R-023 | Fig.62-26 | − | 1.6+α | − | | |

S-30中央凹み

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏a ヘラ | R-006 | Fig.63-32 | − | 1.6+α | − | − | − |
| | 坏c ヘラ | R-007 | Fig.63-34 | − | 1.3+α | − | ○ | − |
| | 坏c − | R-008 | Fig.63-36 | − | 2.25+α | − | ○ | |
| | 坏c − | R-009 | Fig.63-35 | − | 1.95+α | − | ○ | − |
| | 坏c ヘラ | R-010 | Fig.63-33 | − | 2.5+α | − | ○ | − |
| | 蓋3 | R-004 | Fig.63-30 | − | 1.1+α | | | |
| | 蓋3 | R-005 | Fig.63-31 | − | 1.65+α | | | |
| 土師器 | 坏a ヘラ | R-011 | Fig.63-40 | − | 2.1+α | − | ○ | − |
| | 坏a ヘラ | R-012 | Fig.63-43 | − | 2.0+α | (8.3) | − | − |
| | 坏a ヘラ | R-013 | Fig.63-42 | − | 1.9+α | (7.4) | ○ | ○ |
| | 坏a ヘラ | R-014 | Fig.63-44 | − | 2.0+α | (8.4) | ○ | ○ |
| | 坏a ヘラ | R-017 | Fig.63-41 | | 1.4+α | (7.2) | ○ | − |
| | 皿a ヘラ | R-015 | Fig.63-38 | (15.6) | 2.05 | (10.0) | ○ | ○ |
| | 皿a ヘラ | R-016 | Fig.63-37 | (15.0) | 2.25 | (10.8) | ○ | ○ |
| | 大皿 ヘラ | R-003 | Fig.63-39 | − | 2.0+α | − | | |

S-30下層

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏a ヘラ | R-014 | Fig.63-52 | − | 2.6+α | (8.7) | ○ | ○ |
| | 坏a ヘラ | R-015 | Fig.63-51 | − | 2.9+α | (9.6) | − | ○ |
| | 蓋3 | R-013 | Fig.63-50 | − | 2.4+α | − | | |
| | 蓋c | R-012 | Fig.63-49 | − | 0.9+α | − | | |
| 土師器 | 坏a − | R-001 | Fig.63-55 | − | 2.4+α | (6.3) | − | − |
| | 坏a − | R-002 | Fig.63-56 | − | 2.4+α | (7.1) | − | − |
| | 坏a ヘラ | R-003 | Fig.63-59 | − | 2.3+α | (8.0) | ○ | ○ |
| | 坏a ヘラ | R-004 | Fig.63-61 | − | 2.1+α | (8.0) | − | |
| | 坏a ヘラ | R-005 | Fig.63-57 | − | 1.4+α | (7.6) | ○ | ○ |
| | 坏a ヘラ | R-006 | Fig.63-60 | − | 2.2+α | (8.0) | × | − |
| | 坏a ヘラ | R-007 | Fig.63-58 | − | 1.8+α | (7.8) | − | − |

S-40

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | R-004 | Fig.58-3 | | 0.8+α | | | |
| | 小皿c | R-001 | Fig.58-4 | (12.0) | 1.95 | (7.6) | | |
| | 坏 | R-003 | Fig.58-5 | | 1.7+α | | | |
| | 坏 | R-005 | Fig.58-6 | | 2.7+α | | | |
| 黒色土器A | 椀 | R-002 | Fig.58-10 | | 3.4+α | | | |
| | 椀 | R-006 | Fig.58-9 | | 3.2+α | | | |
| | 椀c | R-007 | Fig.58-7 | | 2.15+α | (8.0) | | |
| | 椀c | R-008 | Fig.58-8 | | 2.0+α | (8.2) | | |

S-45

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏 | R-001 | Fig.58-1 | | 2.9+α | | | |
| | 坏 | R-002 | Fig.58-2 | | 2.2+α | | | |

S-48

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏 | R-001 | Fig.68-3 | | 3.8+α | | | |

S-50

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏a | R-001 | Fig.59-2 | (13.8) | 3.5 | (10.3) | | |
| | 蓋3 | R-003 | Fig.59-1 | | 1.1+α | | | |
| 土師器 | 皿 | R-006 | Fig.59-4 | (18.8) | 3.15 | 15.3 | | |

S-50上層

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏a | R-013 | Fig.59-13 | | 3.65+α | | | |
| | 坏c | R-001 | Fig.59-15 | | 1.2+α | (8.9) | | |
| | 坏c | R-002 | Fig.59-14 | | 1.5+α | (6.6) | | |
| | 坏c | R-003 | Fig.59-16 | | 1.9+α | (8.2) | | |
| | 蓋1 | R-008 | Fig.59-10 | (14.8) | 1.8+α | | | |
| | 蓋3 | R-005 | Fig.59-11 | (11.7) | 1.5 | | | |
| | 蓋3 | R-006 | Fig.59-12 | (14.8) | 1.7+α | | | |
| 土師器 | 坏d | R-004 | Fig.59-19 | | 1.9+α | (8.2) | | |
| | 皿a×高坏 | R-012 | Fig.59-20 | (19.6) | 1.75 | (16.8) | | |

## 3、第 54 次調査

### (1) 調査に至る経緯

調査地は、太宰府市大字通古賀 ( 現在 . 通古賀 5 丁目 ) 字鶴畑 1072-1 で、菅原道真の居住地と伝えられている榎社から南に 200m に位置する。

1985（昭和 60）年 6 月 20 日に埋蔵文化財の取り扱いについて問い合わせがあり、専用住宅建設計画が遺構に影響することが考えられたため、1985（昭和 60）年 7 月 29 日から 11 月 8 日にかけて発掘調査を実施した。調査は山本信夫、狭川真一が担当した。開発対象面積は 634 ㎡で、調査面積は 140 ㎡である。

### (2) 基本層位

現地表面から順に、真砂土の盛土が 0.4m、旧表土が 0.05m あり、その下に 0.15m 前後の暗茶色土があり、それを除去すると黄色粘土に遺構が確認される。

### (3) 検出遺構

**建物**

**54SB135（Fig.72）**

東西 2 間 (4.4m)× 南北 2 間 (3.9m) の掘立柱建物跡で、柱間は東西 2.2m、南北 2.0m と 1.9m である。掘り方は径 0.3 ～ 0.46m の円形で、北側の 2 つの掘り方の埋土には礫が検出された。

**54SB140（Fig.72）**

東西 7.5m、南北 3.5m の区画を表す溝（SD009･032)、溝幅は 0.3 ～ 0.5m、深さは 0.15 ～ 0.3m である。埋土は暗茶灰色砂質土である。SK020 に切られている。全体形状から調査担当者は蔵のような建物の基礎の可能性を考えており、土壁も僅かに出土していることから土壁に囲まれた建物の基礎地業と推測される。

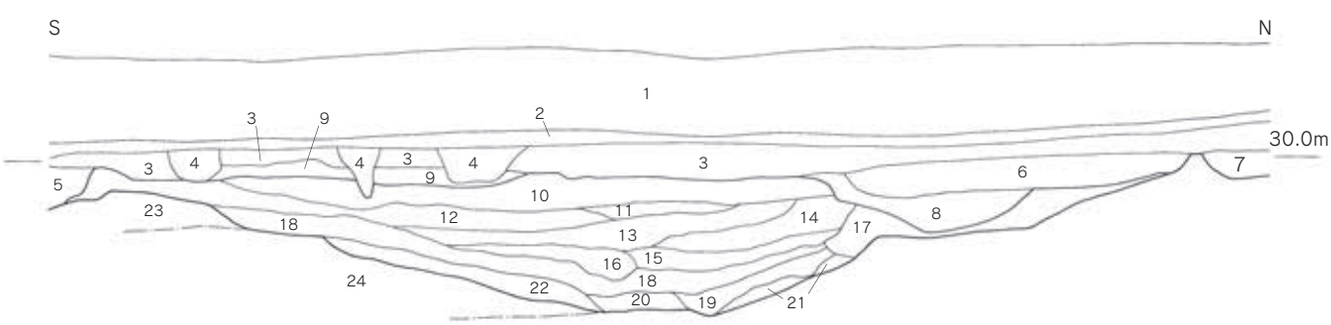
**柵列**

**54SA145（Fig.72）**

3 つのピットが東西に並び、それに対応する柱穴が確認できないため、柵列と判断した。2 間分の柵列は、長さ 5m で、柱間は西から 2.6m と 2.4m である。掘り方の大きさは、径 0.48 ～ 0.7m、深さ 0.4 ～ 0.5m の円形状である。

**溝**

**54SD070（Fig.70）**




1.盛土（真砂土）
2.表土
3.暗茶色土
4.黒色土
5.黒褐色土（S-35埋土）
6.黒灰色土（炭･土器混、S-5埋土）
7.茶灰色粘質土（S-25埋土）
8.暗茶灰色砂質土（S-9埋土）
9.灰黄色土（S-20?）
10.淡灰茶色粘土（土器多く含む）（S-70上層）
11.淡灰茶色粘土（10より粘土質）（S-70上層）
12.黄色ブロック少し含む茶灰色粘質土（S-70下層）
13.黄色ブロックを含む明茶灰色粘土（S-70下層）
14.明茶灰色粘土（S-70下層）
15.黒褐色斑を含む。14層（S-70下層）
16.12に等しいか。土器を含まず（S-70下層）
17.淡茶色粘質土（S-70下層）
18.茶色粘土（黄色ブロック混）(S-70最下層）
19.暗茶色粘質土（S-70最下層）
20.茶色砂質粘土（S-70最下層）
21.黄茶色粘質土（S-70最下層）
22.暗黄灰色微砂質土
23.黄色粘土
24.黄白色微砂質土
25.灰色砂質土
10･11･･･S-70上層
12～17･･･S-70下層（土器ほとんど認めず）
18～22･･･S-70最下層（土器は「無」に近い）
23～25･･･地山
※10～25がS-70の埋土
0
1m

Fig.70　54SD070 土層実測図（1/40）

Fig.71　第 54 次調査遺構全体図（1/100）

調査区内を斜めに横切る溝で、検出長 12.5m 以上、幅 5m、深さ 0.3 ～ 0.8m。振れは N-34°　12′　57″ -W。両側に中段があり、さらに深くなっているが、断面形状は緩い U 字形で、北側ほど深い。埋土は粘質土である。53SD050 と平行しており、埋没時期は若干差はあるが、同時期に存在した溝と推測され、両者の中心間の距離は約 25.5m で、両溝の内側間は約 22m である。

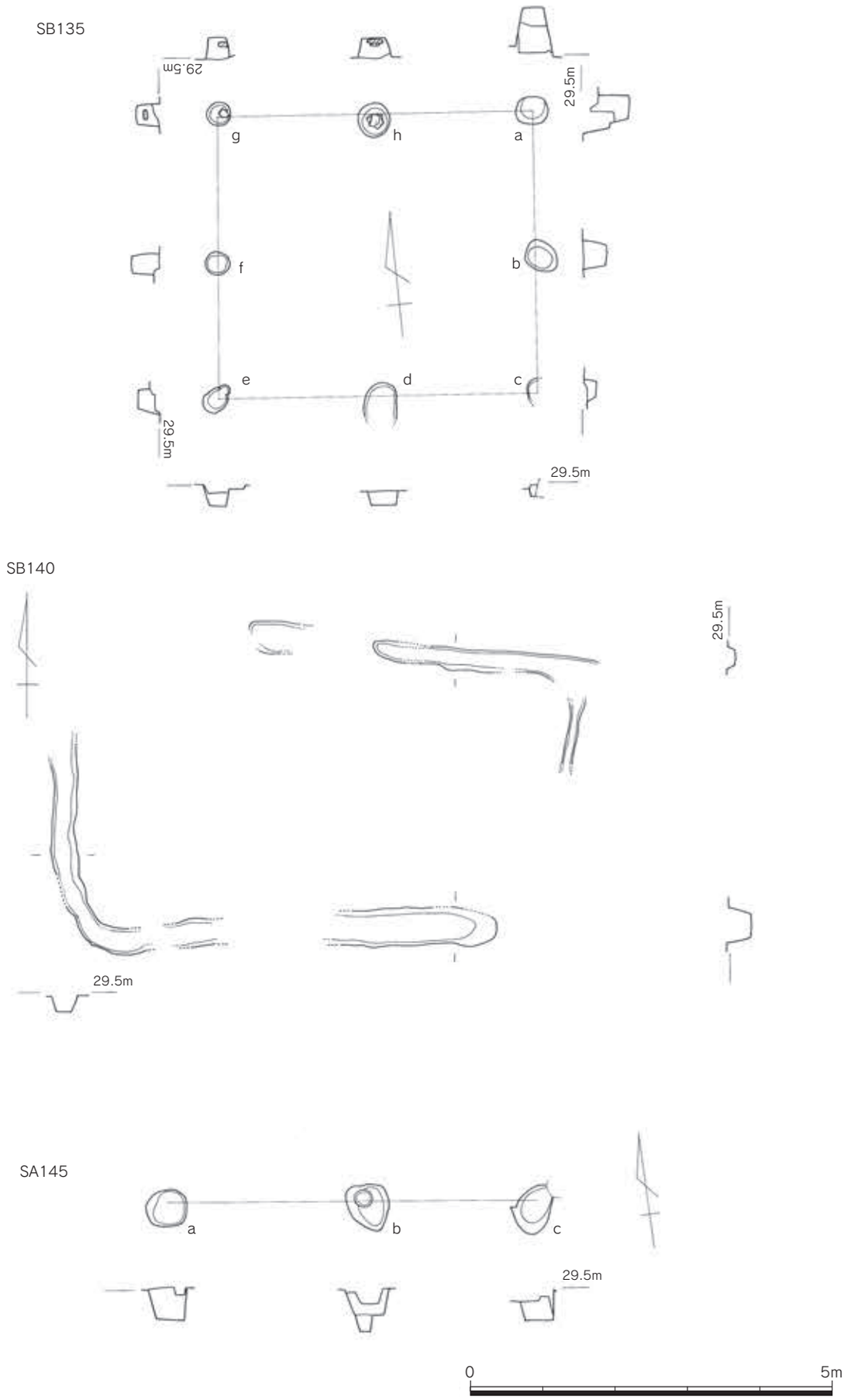



Fig.72　54SB135・140、53SA145 遺構実測図（1/80）

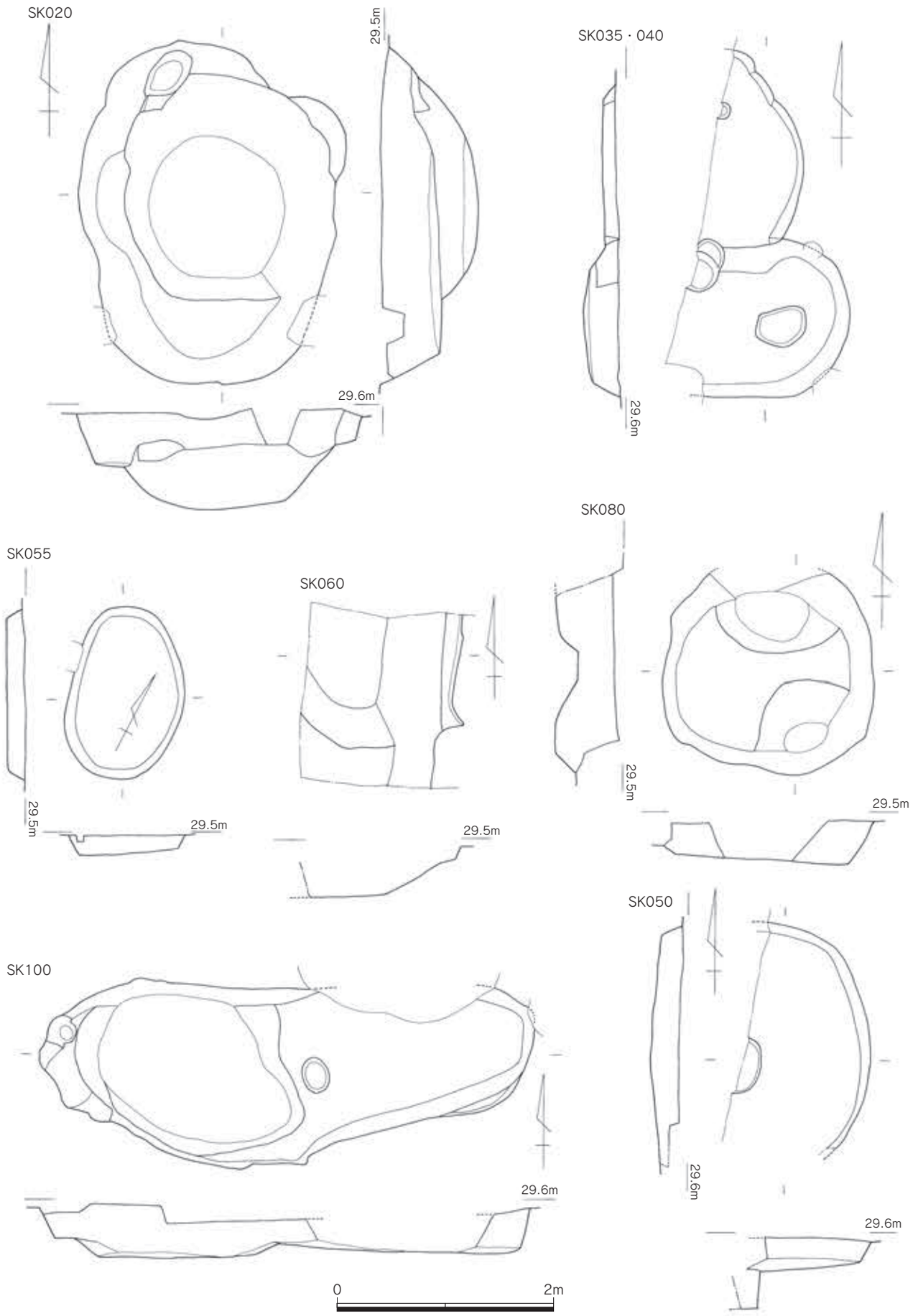



Fig.73　第 54 次調査土坑実測図（1/50）

**土坑**

**54SK020（Fig.73）**

東西 2.58m、南北 3.22m、深さ 0.9m の楕円形の土坑である。深さ 0.3 ～ 0.6m 前後に中段があり、そこから大きさ 1.95m×2.1m の土坑となっている。

**54SK030**

東西 2.5m、南北 1.5m、深さ 0.07m 前後の浅い楕円形土坑である。

**54SK035（Fig.73）**

調査区東端で SK040 を切って検出された東西 0.9m 以上、南北 2.1m、深さ 0.15m の楕円形状の土坑である。

**54SK040（Fig.73）**

調査区東端で検出された東西 1.7m 以上、南北 1.48m、深さ 0.3m の楕円形土坑である。底面に 0.35×0.45m のピットが掘られている。SK035 に切られている。

**54SK050（Fig.73）**

調査区西端にあり、西側は調査区外に続く。南北 2.4m、東西 1.2m 以上、深さ 0.3m の円形状の土坑である。底面には径 0.55m、深さ 0.37m のピットが掘られている。

**54SK055（Fig.73）**

東西 1.05m、南北 1.6m、深さ 0.2m の楕円形土坑で、底面に径 0.23m、深さ 0.08m のピットがある。

**54SK060（Fig.73）**

調査区端のため、土坑ではなく溝となる可能性もある。深さ 0.51m、底面は若干凹凸がある。

**54SK080（Fig.73）**

調査区端で検出された東西 2.0m、南北 1.9m 以上、深さ 0.4m の円形土坑。底面 2 ヶ所に 0.2m 程掘り下げている。

**54SK090**

SK080 に切り込んで掘られた楕円形の土坑で、南北 0.95m、深さ約 0.2m である。

**54SK095**

SK100 に切り込んで掘られ、SK090 に切られた楕円形の土坑である。

**54SK100（Fig.73）**

東西 4.58m、南北 1.68m、深さ 0.47m の長楕円形の土坑で、底面の西側が若干深い。

**その他の遺構**

**54SX005**

東西 2.3m 以上、幅 1.0m、深さ 0.2m 前後の長方形の土坑状の窪みである。

**54SX025**

東西 2.3m 以上、深さ 0.05m 前後の浅い窪みである。

**54SX120**

現存長 5.6m、最大幅 1.9m、深さ 0.1m 程の東西に長く浅い溝状の土坑であるが、西側を SK020、東側を SK100 によって切られている。

**（4）出土遺物**

**建物**

**54SB135**

**54SB135a(S-53) 出土遺物（Fig.74）**

須恵器

蓋３（1 ～ 3）　口縁端部はやや貧弱に整形する。

坏ｃ（4）　胎土は 0.1cm 以下の白色砂粒を多く含み、色調は灰色を呈する。外開きの体部で、底部端に高台を貼付する。

鉢（5）　小片のため明確ではないが、深い体部はやや丸味を帯び、口縁端部は外側に肥厚させる。色調は灰色を呈する。

土師器

皿ｂ（6）　内面ヨコナデ、外面は磨滅するがヘラケズリか。色調は灰橙色を呈する。

**54SB135g(S-63) 出土遺物（Fig.74）**

瓦類

丸瓦（7）　外面は斜格子叩き、内面は布目痕が残る。

**54SB140 出土遺物（Fig.74）**

須恵器

蓋ｃ（8、9）　ボタン状のツマミを貼付する。

蓋１（10）　やや歪んでいるため、傾きはやや正確性に欠ける。端部内面には低い返りを付ける。

蓋３（11、12）　11 は復元口径 13.6cm。外面上半部は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ。12 は復元口径 15.0cm。外面上半部は回転ヘラケズリ、内面上半部は不定方向のナデ調整。

坏ｃ（13）　復元高台径 10.4cm。色調は灰黄色を呈する。

高坏（14）　外面下半は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面底部なナデ調整。色調は淡灰色を呈する。

壺（15）　復元口径 15.0cm。内面は少々灰被りである。外面は褐色を呈し、意図的に施されている可能性がある。

土師器

坏ａ（16）　底径 7.5cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。色調は橙黄色を呈する。

高坏（17）　焼成良好で色調は淡橙色を呈する。内外面ヨコナデ調整。

土製品

土壁（18）　胎土は砂粒をやや含み、色調は黄灰色を呈する。1 面を平坦に仕上げている。

**54SA145**

**54SA145a(S-67) 出土遺物（Fig.74）**

土師器

椀ｃ（19）　内外面磨滅し調整不明。色調は橙色や黄褐色を呈する。

瓦類

平瓦（20）　外面は斜格子叩き。側面はヘラ切り後折り割っている。

**54SA145b(S-92) 出土遺物（Fig.74）**

土師器

坏ａ（21）　復元底径 7.2cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。色調は淡黄白色を呈する。

黒色土器

椀ｃ（22）　Ａ類。復元口径 14.7cm、器高 5.5cm、復元高台径 7.1cm。外面磨滅するが内面にはミガキｃが残る。

**溝**

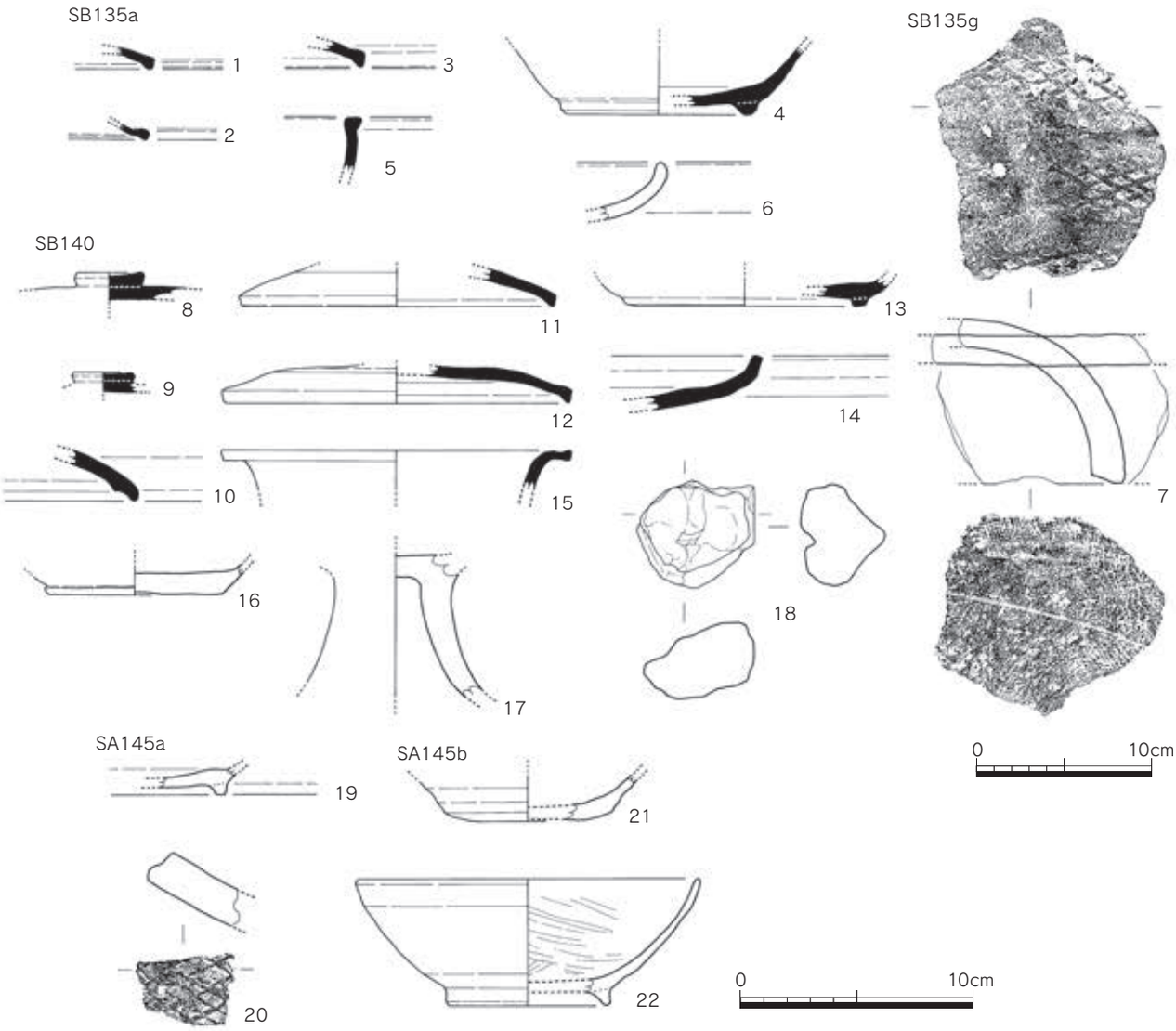



Fig.74　54SB135・140、54SA145 出土遺物実測図（1/3、7・20 は 1/4）

## 54SD070

### 54SD070 最上層出土遺物（Fig.75）

須恵器

壺（1）　胎土は黒色粒を含むが、砂粒は少ない。外面はカキ目で、内面と頸部外面は回転ナデ調整。焼成良好で、色調は灰色を呈する。

### 54SD070 上層出土遺物（Fig.75 ～ 79、Pla.14）

須恵器

蓋 c1（2 ～ 9）　口縁端部内面に返りを付ける。復元口径 14.6 ～ 16.8cm。外面上半部は回転ヘラケズリ、内面上半部はナデ、それ以外は回転ナデ調整である。頂部にはやや扁平の擬宝珠ツマミを貼付する。色調は灰色などを呈する。4 は胎土に砂粒をやや多く含む。7 は還元不良で薄茶色を呈する。

蓋 c（10）　やや摩滅が目立つ。外面上部は回転ヘラケズリか。

蓋 1（11 ～ 20）　口縁端部内面に返りを付ける。外面は残りが良いものは上半部が回転ヘラケズリ、内面上半部はナデ、口縁端部は回転ナデ調整。色調は灰色を呈する。12 の胎土は白色や灰色砂粒をや

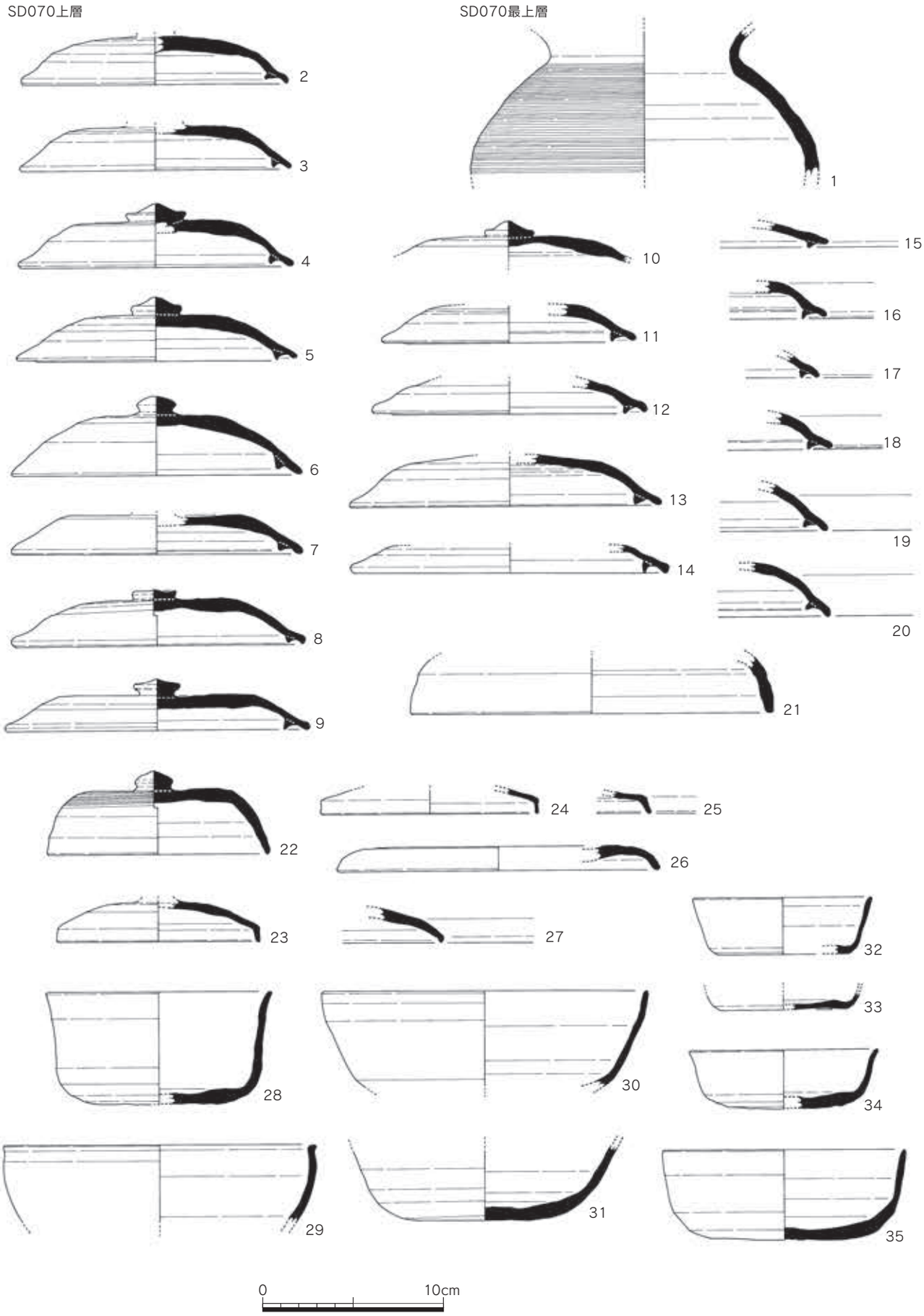



Fig.75　54SD070 出土遺物実測図①（1/3）

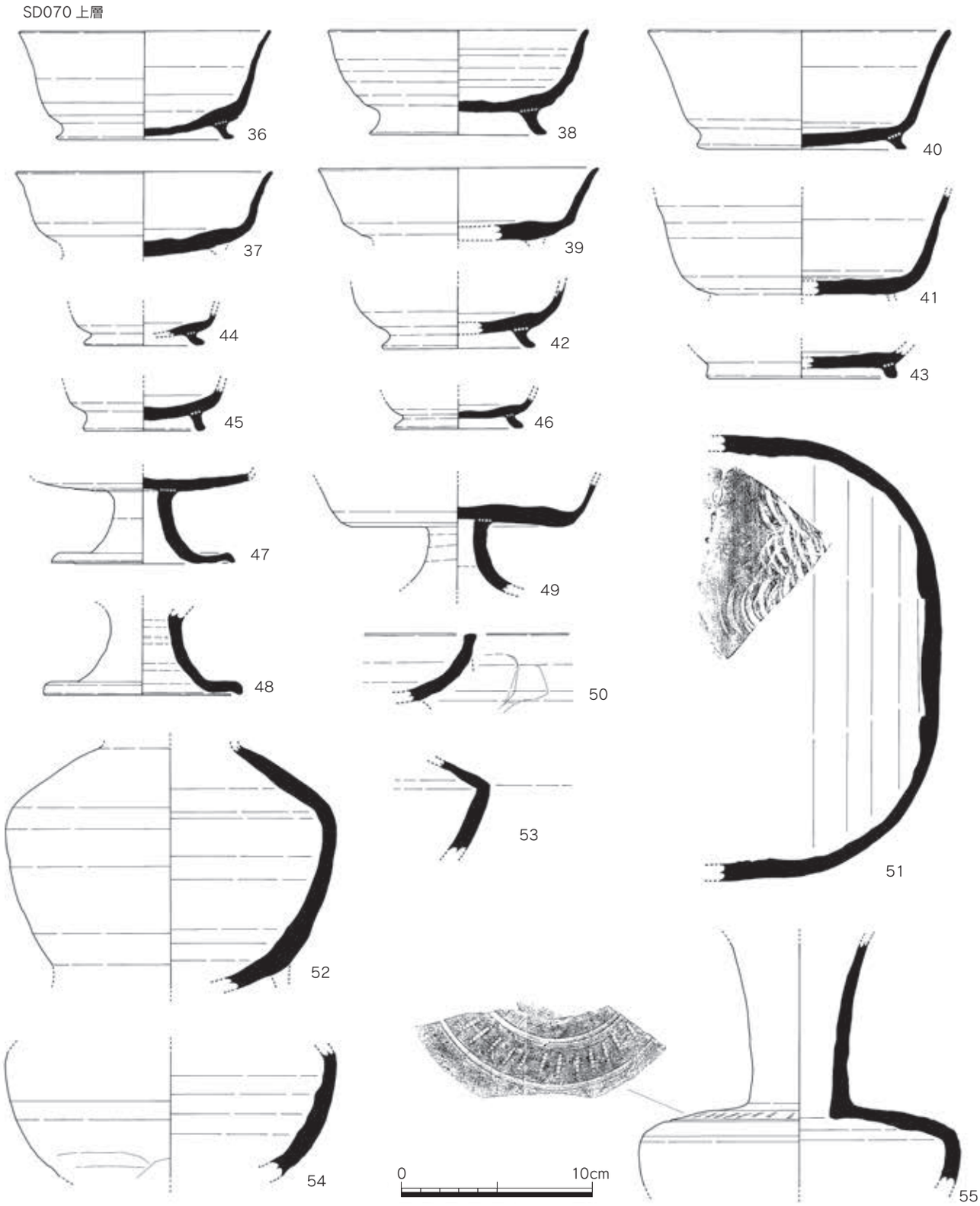



Fig.76　54SD070 出土遺物実測図②（1/3）

や多く含む。13 は還元不良で、色調は薄茶色を呈する。15 は還元不良で淡茶灰色を呈する。

壺蓋（21）　小片であるため、明確ではないが復元口径 20.0cm。内外面とも回転ナデ調整。色調は淡灰色を呈する。

蓋（22）　口径 12.3cm、器高 4.6cm。上面はカキ目だが、ツマミ周囲は回転ヘラケズリである。内面上部はナデ、それ以外は回転ナデ調整。色調は暗青灰色を呈する。

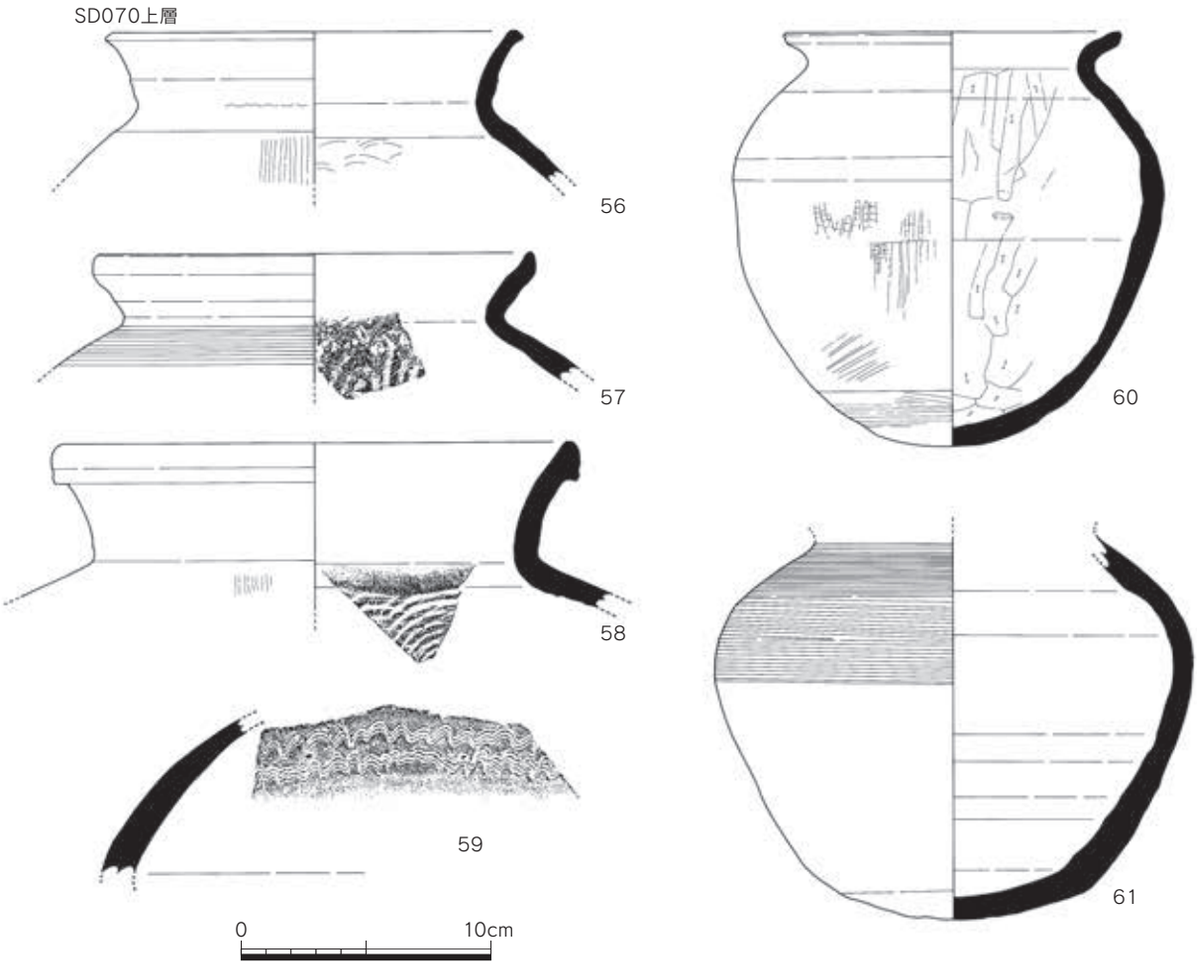



Fig.77　54SD070 出土遺物実測図③（1/3）

蓋 c2（23）　復元口径 11.2cm。外面上半部は回転ヘラケズリ、内面はナデ調整。その他は回転ナデ。

蓋 2（24 ～ 26）　口縁端部を長く曲げる。24 は復元口径 12.0cm。内外面とも回転ナデ調整。25 の外面上部は灰被りである。26 は復元口径 17.8cm。小片で明確ではないが、蓋の可能性を考えた。外面ヨコナデで暗灰色、内面は明灰色を呈する。

蓋 3（27）　口縁端部は断面が貧弱な三角形で、外面上半部は回転ヘラ切り後回転ナデ調整。

椀 a（28）　復元口径 12.5cm、器高 6.2cm。底部外面は回転ヘラケズリ、内面底部はナデ、その他はヨコナデ。胎土は砂粒を多く含み粗い。

椀（29、30）　29 は復元口径 17.2cm。口縁端部を僅かに曲げる。還元不良で薄茶色を呈する。内外面回転ナデ。30 は復元口径 18.0cm。内外面とも回転ナデ、外面下端は回転ヘラケズリか。還元やや不良で、色調は淡茶灰色を呈する。

椀 a もしくは坏 a（31）　胎土は砂粒を少量含み、還元不良で色調は薄茶色を呈する。丸い底部で、外面底部は回転ヘラケズリ、内面底部は不定方向のナデ、それ以外は回転ナデ調整。

小坏 a（32、33）　32 は復元口径 9.8cm、器高 3.1cm、復元底径 7.5cm。内外面とも回転ナデ、外面底部はヘラ切り後ナデ調整。色調は暗灰色を呈する。33 は復元底径 7.0cm。外面底部は回転ヘラ切り後未調整。

坏 a（34、35）　34 は外面底部が回転ヘラ切り、その他は回転ナデ調整。復元口径 10.4cm、器高 3.25cm。焼成良好で、暗青灰色を呈する。35 は復元口径 13.4cm、器高 4.95cm。底部は回転ヘラ切り、内面底部は不定方向のナデ、体部内外面回転ナデ調整。焼成は不良で淡灰色を呈する。

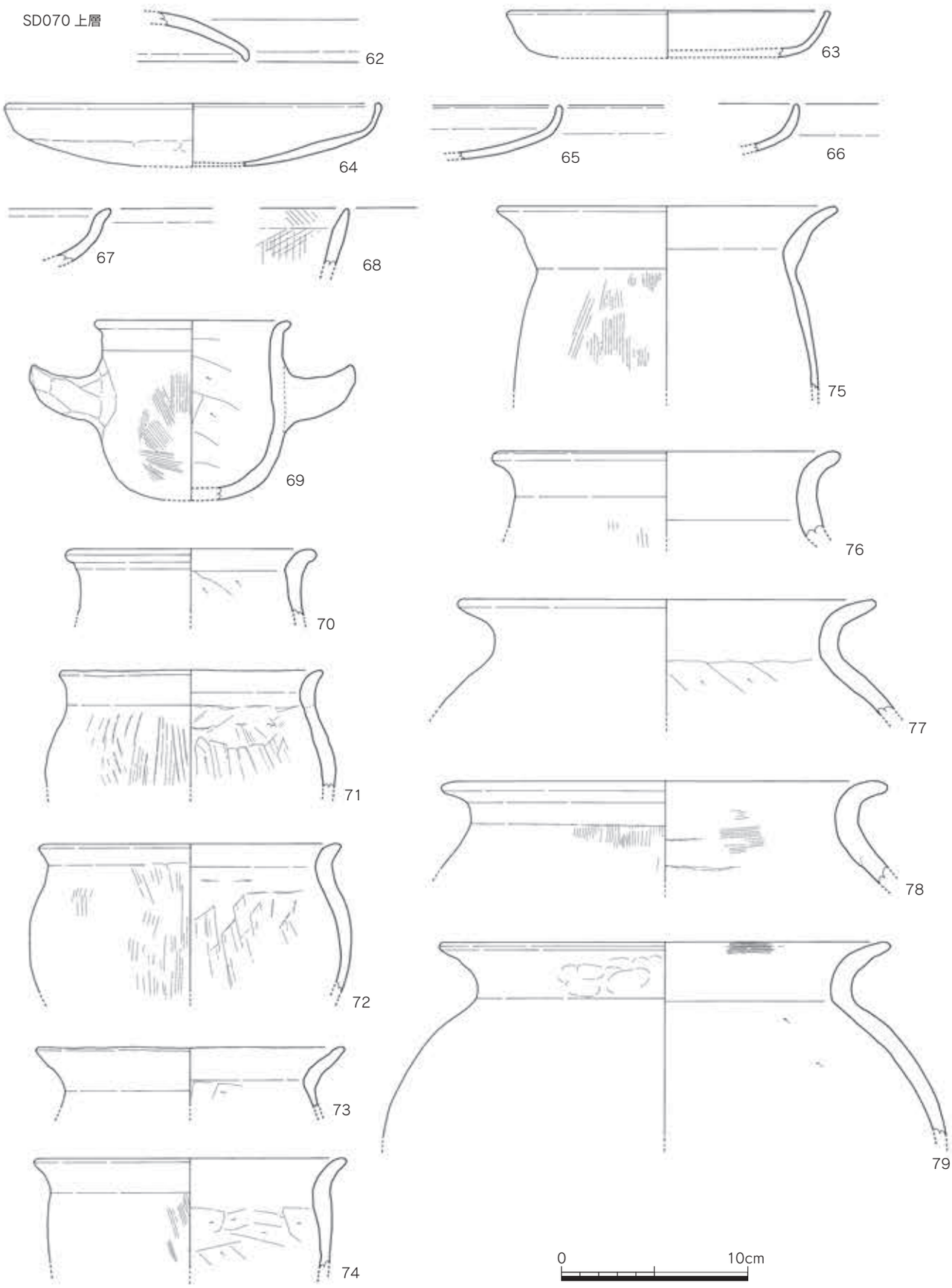



Fig.78　54SD070 出土遺物実測図④（1/3）

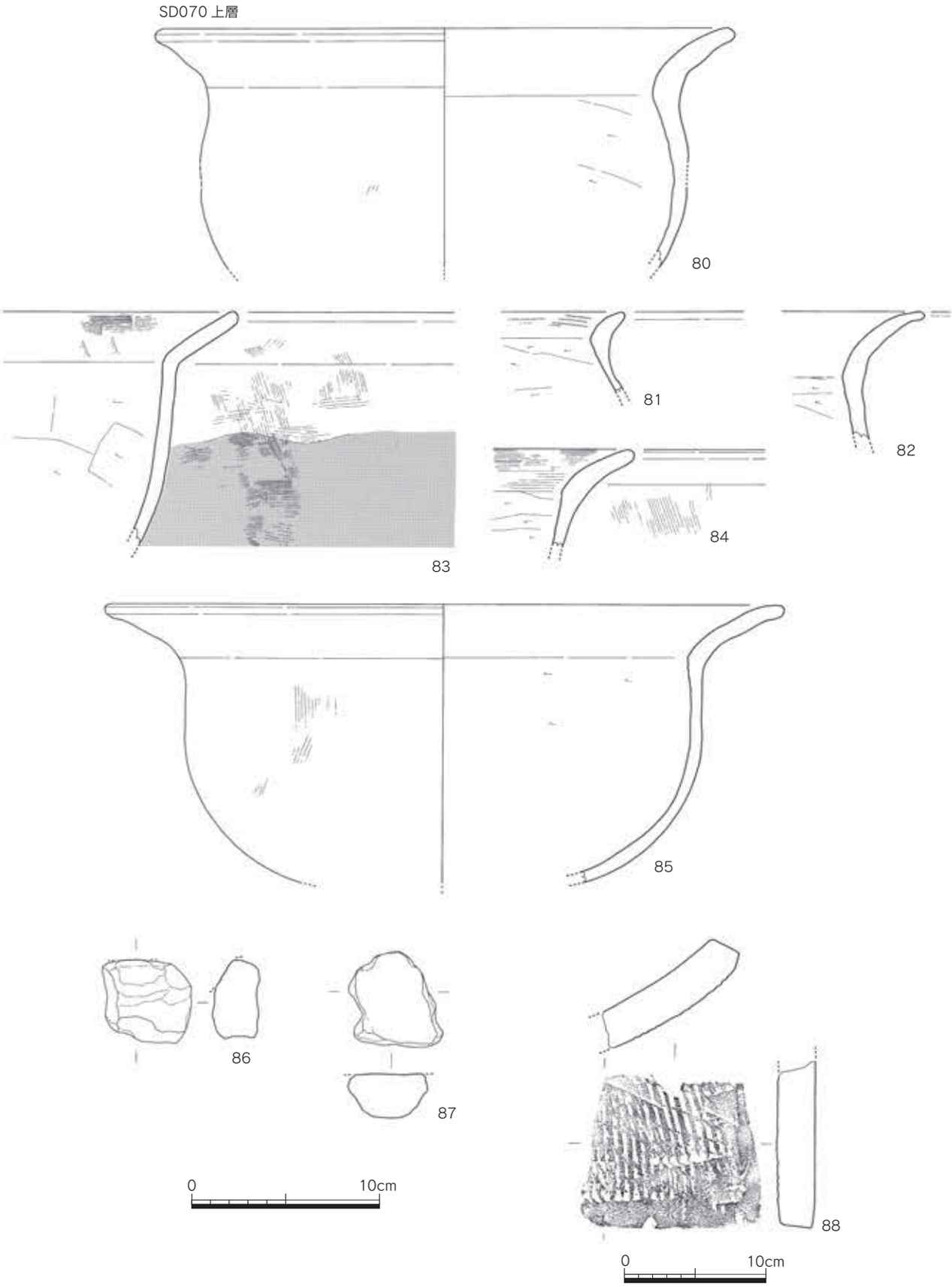



Fig.79　54SD070 出土遺物実測図⑤（1/3、88 は 1/4）

坏ｃ（36 ～ 43）　復元口径 13.2 ～ 15.8cm。体部は僅かに外反しながら立ち上がる。高台が欠落するものもあるが、ハ字形にしっかり踏ん張った高台を貼付する。底部外面はヘラ切り後粗いナデ、体部に近い底部付近には回転ヘラケズリが確認できるものもある。内面底部はナデ調整。焼成は良好で焼きしまっていて、色調は暗灰色を呈する。43 は他に比べ、高台の踏ん張りはなく、低い高台を貼付する。

小坏ｃ（44 ～ 46）　復元高台径は、44 が 6.3cm、45 は 6.4cm、46 は 6.7cm。色調は 45 が還元不良で薄茶色を呈するが、その他は灰色を呈する。

高坏（47、48）　47 の坏部は内面ナデ、外面体部は回転ヘラケズリである。脚部径 9.6cm。48 は復元脚部径 10.4cm。

高坏ａ（49）　坏部は内面ナデ、外面体部は回転ヘラケズリである。

脚付盤（50）　内外面とも回転ナデで、口縁端部上面を平坦に仕上げる。脚部は完全に欠損するが、接合のナデ痕跡が残る。色調は灰色を呈する。

横瓶（51）　内面の一部には同心円の当て具痕が残り、それに対する外面には叩き痕が残る。胎土は白色砂粒を少量含み、色調は外面が淡灰色、内面は淡茶色を呈する。外面回転ナデの後ナデ調整。

壺（52 ～ 54）　52 は頸部と高台を欠損する。内外面とも回転ナデ調整だが、外面は表面が剥落する。53 は内外面とも回転ナデ調整。色調は灰色を呈する。54 は胎土が灰色砂粒をやや多く含み粗い。体部外面下半は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ。

長頸壺（55）　肩部に 2 条の沈線を巡らし、その間にカキ目具で刺突文を巡らす。体部外面下半は回転ヘラケズリである。焼成は良好で、色調は暗青灰色を呈する。

甕（56 ～ 61）　56 は復元口径 16.6cm。体部外面は平行叩き、内面は当て具痕が残る。還元不良で色調は明赤褐色を呈する。57 は復元口径 17.4cm。体部外面はカキ目、内面は当て具痕が残る。焼成は不良で、色調は白灰色を呈する。58 は復元口径 21.0cm。体部外面は叩きで自然釉が掛かる。内面は同心円の当て具痕が残る。59 は外面に 4 本を基本とする波状文を 2 段に施す。60 は口径 13.4cm、器高 16.5cm。底部は丸く安定しない。体部外面は上半部ヨコナデ、下半は平行叩きで、底付近にはハケもしくはカキ目を施す。内面は縦方向のヘラケズリである。色調は淡灰色を呈する。61 は体部上半部がカキ目、下半が回転ヘラケズリの後粗いナデ調整。内面は回転ナデ調整。焼成良好で、色調は灰色を呈する。

土師器

蓋 2（62）　外面上半部は回転ヘラケズリ。口縁端部を僅かに曲げる。色調は薄茶色を呈する。

皿ｂ（63 ～ 66）　63 は復元口径 17.4cm、器高 2.55cm。口縁端部を僅かに内側に曲げる。内外面磨滅し調整不明。色調は赤橙色を呈する。64 は復元口径 20.2cm。胎土は精製され、焼成やや不良で、色調は赤褐色を呈する。内外面磨滅し調整不明。口縁端部を僅かに内側に曲げる。65・66 は口縁端部を丸く仕上げる。内外面とも摩滅し調整不明。色調は薄茶色を呈する。

皿もしくは高坏（67）　口縁端部を外反させる。内外面磨滅するが外面はミガキａか。

椀もしくは鉢（68）　口縁部の小片で全形が不明瞭。口縁部に向かって薄く仕上げる。内面には暗文を施す。胎土は茶色粒を含み、色調は淡橙色を呈する。

小甕（69）　復元口径 10.5cm。両側に把手を貼付する。内面ヘラケズリ、外面ハケ調整が残るが、下方ほど磨滅する。

甕（70 ～ 84）　体部内面は 78 以外ヘラケズリである。体部外面は磨滅しているものもあるが、観察できるものは全てタテハケ調整である。70 は復元口径 13.4cm。71 は復元口径 14.2cm。72 は復元口径 16.2cm。73 は復元口径 16.6cm。胎土には角閃石がやや多く含まれている。74 は復元口

径 16.8cm。75 は復元口径 18.2cm。76 は復元口径 18.7cm。77 は復元口径 22.4cm。78 は復元口径 23.9cm。体部内面にはヨコハケが確認できる。胎土には赤色粒をやや多く含む。79 は復元口径 24.2cm。口縁部内面はヨコハケ、外面には指頭圧のような痕跡が残る。80 は復元口径 33.7cm。体部外面は磨滅するが僅かにハケ目が確認できる。81 は口縁部内面がヨコハケ。胎土には角閃石がやや多く含まれている。83・84 は口縁部内面がヨコハケ。体部に張りがないため鉢かもしれない。83 の外面下半には煤が付着する。

鉢（85） 復元口径 36.0cm。全体的に摩滅するが、内面ヘラケズリ、外面はタテハケが僅かに確認できる。

土製品

トリベ（86） 欠損が目立つが、内面に僅かに面が残る。胎土は 0.2cm 以下の砂粒をやや多く含み、被熱により上部は黒灰色、下半部は淡赤灰色を呈する。

土壁（87） 胎土は砂粒を多く含む。1 面だけ平坦面が作られている。

瓦類

平瓦（88） 凹面は布目の後ケズリ調整、凸面は細長い斜格子叩きである。側面はヘラケズリ調整する。色調は薄茶色を呈する。

**54SD070 下層出土遺物（Fig.80・81、Pla.14）**

須恵器

蓋 a1（1） 外面上部は回転ヘラケズリの後ナデ調整しヘラ記号を施す。色調は暗灰色を呈する。復元口径 11.0cm、器高 2.1cm。

蓋 1（2 ～ 11） 復元口径 13.4 ～ 14.6cm。外面上半部は回転ヘラケズリ、内面上半部はナデ、口縁部はナデ調整。色調は暗灰色や灰色を呈する。2 はツマミが付いていた可能性もある。やや歪んでいて、外面は僅かに灰被りである。4 の外面上部にはヘラ記号のような傷が付いている。7 の外面は残存範囲では回転ナデ調整。11 は歪んでいる。

蓋 2（12、13） 外面上部は回転ヘラケズリ。内面上部はナデ、その他は回転ナデ調整。焼成良好で色調は暗灰色を呈する。

蓋 3（14、15） 口縁端部は断面三角形に仕上げる。外面上半部は回転ヘラケズリ、内面は口縁近くまでナデ調整。色調は暗灰色を呈する。

坏 a（16） 復元口径 15.0cm、器高 2.95cm、復元底径 10.0cm。体部は中位で屈曲している。焼成不良で色調は淡灰色を呈する。

坏 c（17 ～ 23） 17 は高台を欠損するが、外開きの高台を貼付していたものと推測される。体部外面中位には段が付き、その下方はヘラケズリ、底部はヘラ切りとヨコナデ。口径は 12.0cm。18 ～ 22 はしっかりとした高台を貼付する。18 は口縁端部内面には重ね焼きの粘土が付着する。やや焼け歪んでいる。外面下半は回転ヘラケズリ、内面底部はナデ調整。色調は灰白色を呈する。口径 14.2cm。23 は低い高台を貼付する。外面回転ナデ、内面不定方向のナデ、体部は回転ナデ調整。

高坏 a（24 ～ 26） 24 は復元口径 14.8cm。25・26 は低い脚部で、坏部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ調整。脚部はヨコナデ。25 は脚部端部が若干反りあがっているが、端部は真っすぐ仕上げる。脚部径 9.9cm。26 も脚部端部は若干反りあがるが端部を折り曲げる。脚部径 10.6cm。色調は淡灰色を呈する。

短頸壺（27） 復元口径 10.1cm。内外面ヨコナデだが、外面下半は回転ヘラケズリの後ヨコナデか。色調は淡灰色を呈する。

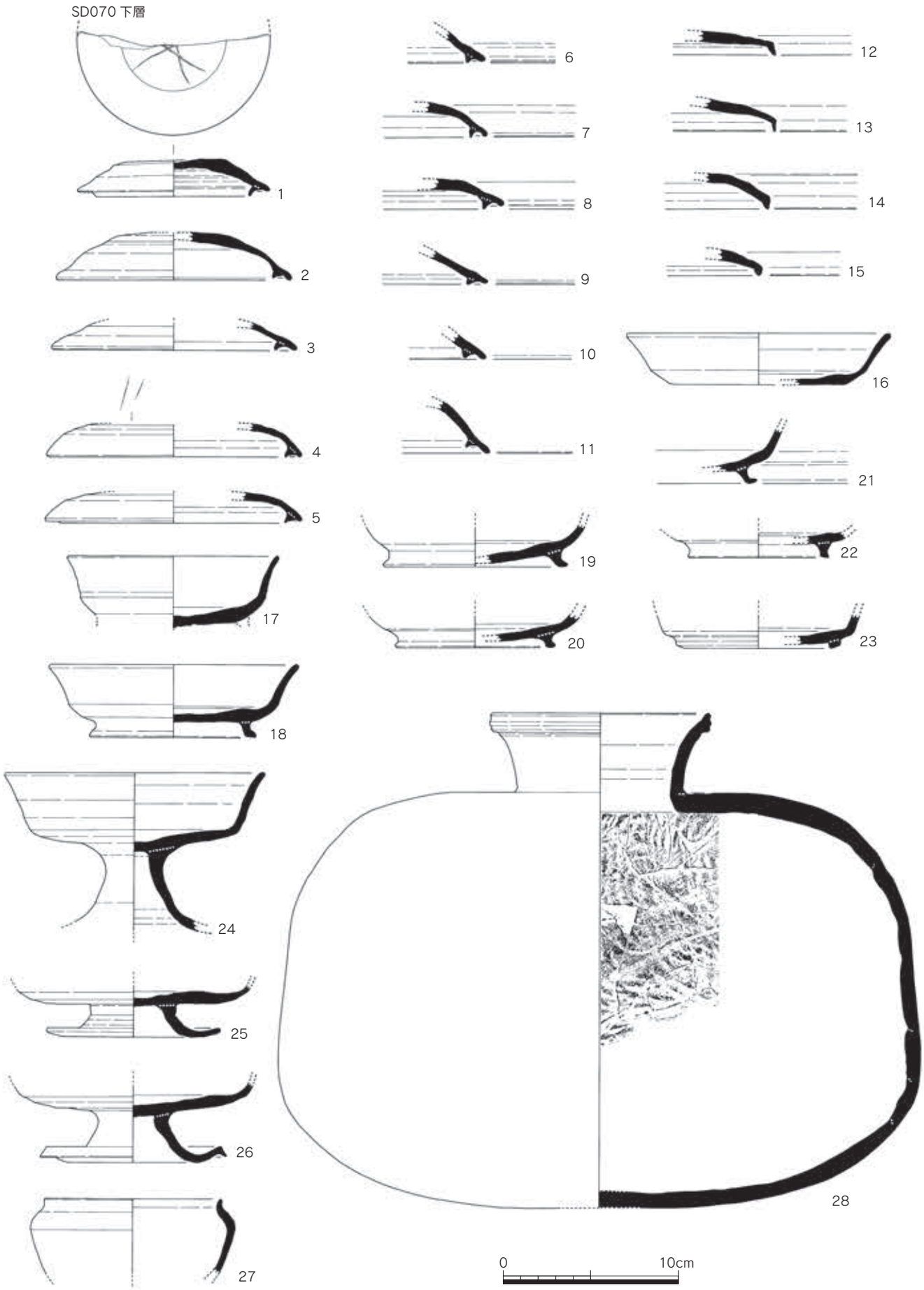



Fig.80　54SD070 出土遺物実測図⑥（1/3）

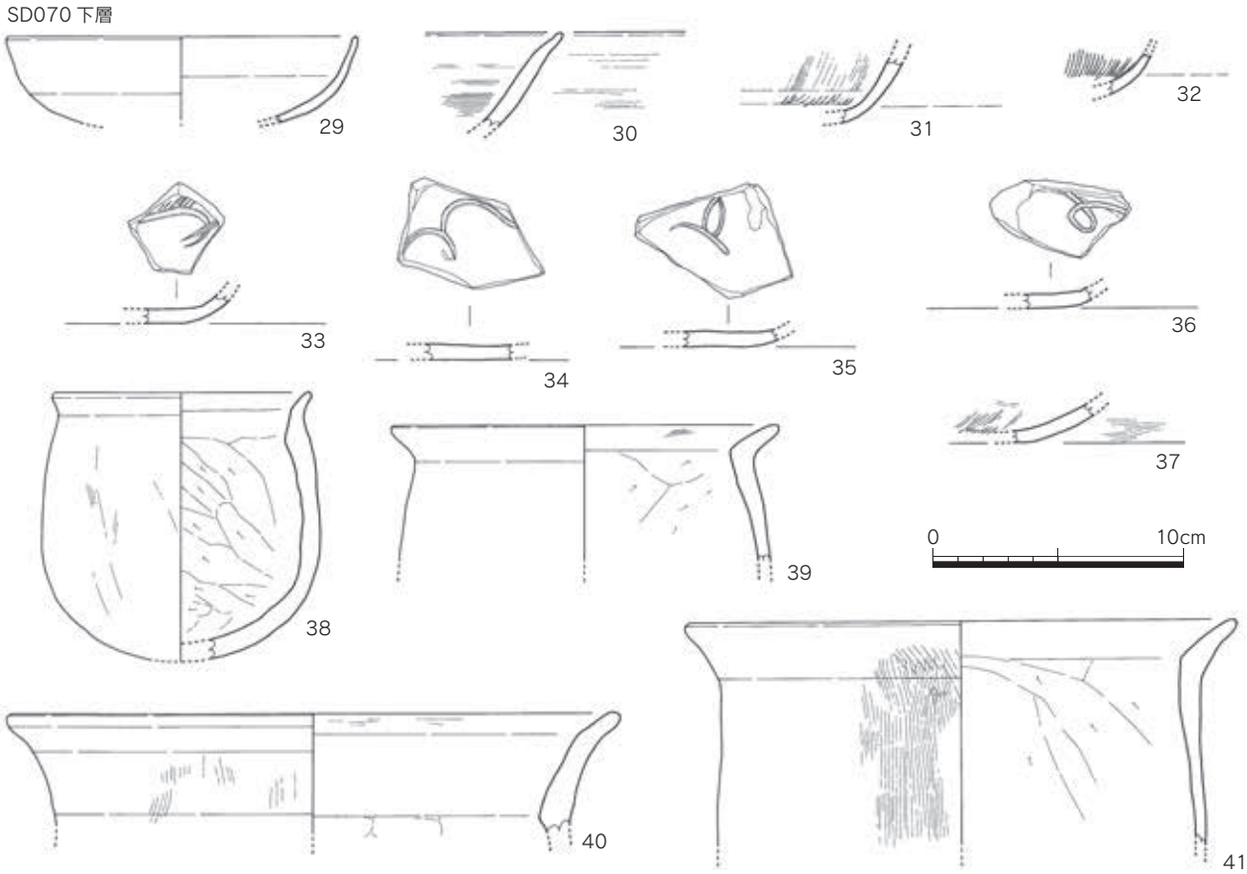



Fig.81　54SD070 出土遺物実測図⑦（1/3）

横瓶（28）　復元口径 12.5cm、器高 28.1cm、胴部幅 36.6cm。外面は回転ナデ、内面には同心円当て具痕が残る。還元やや不良で淡茶灰色を呈する。

土師器

坏（29 ～ 32）　胎土は 0.1cm 以下の微細な砂粒を含み、色調はにぶい橙色を呈する。29 は復元口径 14.0cm。口縁端部内面に僅かな段が巡る。内外面とも摩滅し調整不明。30 は口縁部を薄く仕上げ、端部を僅かに内側に曲げ、僅かな段を巡らす。内外面はミガキの後、内面に放射状の暗文が僅かに確認できる。色調は薄茶色を呈する。31 は外面摩滅するが、内面に放射状の暗文が明瞭に残る。32 は内面に放射状の暗文を施す。外面ミガキか。

坏もしくは皿（33 ～ 37）　胎土は 0.1cm 以下の微細な砂粒を含み、色調はにぶい橙色を呈する。33 ～ 36 は外面摩滅するが、内面にはヨコナデのあと円を描く暗文を施している。小片で接合しなかったが、同一個体の可能性がある。37 は外面ミガキで、内面に放射状に暗文を施す。色調は薄茶色を呈する。

小甕（38、39）　38 は復元口径 10.3cm。内面ヘラケズリ、外面は磨滅するが僅かにタテハケが残る。色調はにぶい橙色を呈する。39 は復元口径 15.4cm。口縁部内面はヨコハケ、体部内面はヘラケズリ、外面磨滅し調整不明。色調は薄茶色を呈する。

甕（40、41）　40 は復元口径 24.4cm。胎土は砂粒のほか雲母を含んでいる。全体的に摩滅するが、口縁部外面タテハケ、内面ヨコハケ、体部内面はヘラケズリする。41 は復元口径 22.0cm。外面タテハケ、内面ヘラケズリである。

**土坑**

**54SK020**

**54SK020 最上層出土遺物（Fig.82）**

須恵器

蓋３（1 ～ 3）　1 は口縁端部をやや長めに曲げる。2・3 は口縁端部を断面三角形に作る。3 の色調は灰白色を呈する。

坏ｃ（4）　断面方形の小さな高台を貼付する。色調は暗灰色を呈する。

土師器

坏ｃ（5）　復元口径 20.0cm、器高 2.9cm、復元高台径 16.4cm。全体的に磨滅し調整不明。色調は黄橙色を呈する。

甕（6、7）　6 はやや肥厚した口縁部で、口縁部はヨコナデ、体部内面ヘラケズリ、外面は粗いタテハケである。7 は外面タテハケ、口縁部内面ヨコハケ、体部内面ヘラケズリを施す。

**54SK020 出土遺物（Fig.82・83）**

須恵器

蓋 c3（8、9）　外面上部は回転ヘラケズリ、8 は復元口径 14.3cm。9 は復元口径 15.1cm。

蓋３（10 ～ 16）　口縁端部は断面三角形である。色調は灰色や暗灰色を呈する。上面まで残る 10・11 には回転ヘラケズリが残る。

壺蓋（17）　復元口径 16.0cm。内外面回転ナデ、外面上部は回転ヘラケズリである。

皿ａ（18）　復元口径 17.0cm、器高 1.95cm。外面底部は回転ヘラ切り後ナデ調整。内面底部はナデ調整。

坏ｃ（19 ～ 26）　断面方形の高台を貼付する。焼成良好で、色調は灰色や暗灰色を呈する。19 ～ 21 は復元口径 12.3 ～ 12.6cm、器高 2.8 ～ 3.65cm。26 は他より大きく復元口径 17.0cm、器高 4.9cm。

高坏（27）　復元口径 13.0cm。内外面とも回転ナデ調整で、内面は灰被りである。

壺ｃ（28）　復元口径 10.0cm。外面下半は回転ヘラケズリで、それ以外は回転ナデ調整。焼成良好で色調は黒灰色を呈する。

土師器

坏ａ（29）　復元底径 8.8cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。色調は淡茶黄色を呈する。

坏ｃ（30 ～ 32）　30 は復元高台径 11.0cm。内外面磨滅し、色調は黄橙色を呈する。31 は復元高台径 12.0cm。内面ミガキか。色調は橙色を呈する。32 は復元高台径 12.0cm。胎土は 0.1cm 以下の白色砂粒をやや含み、色調は橙色を呈する。内外面磨滅し調整不明。

椀ｃ（33）　色調は黄白色を呈する。

甕（34）　復元口径 28.0cm。口縁部はヨコナデ、体部外面はタテハケ、内面はヘラケズリである。胎土は角閃石を含み、色調は淡橙黄色を呈する。

甕もしくは鉢（35）　体部内面はヘラケズリ、外面は細かいタテハケを施す。口縁部はヨコナデ調整。

鉢（36）　復元口径 29.2cm、器高 11.0cm。胎土は 0.3cm 以下の砂粒をやや多く含み、色調は暗黄色を呈する。外面タテハケ、内面はヘラケズリで漆が付着する。

緑釉陶器

椀もしくは皿（37）　焼成良好で須恵質である。高台は削り出しで、内外面ともミガキの後淡緑色釉を施釉する。高台外面には 3 ヶ所目跡が残る。高台径 6.2cm。

**54SK020 下層出土遺物（Fig.83）**

須恵器

蓋 c3（38）　復元口径 14.0cm。ツマミは欠損する。外面上半部は回転ヘラケズリ。

蓋ｃ（39）　扁平なツマミを貼付する。内面は若干研磨されており、転用硯とみられる。

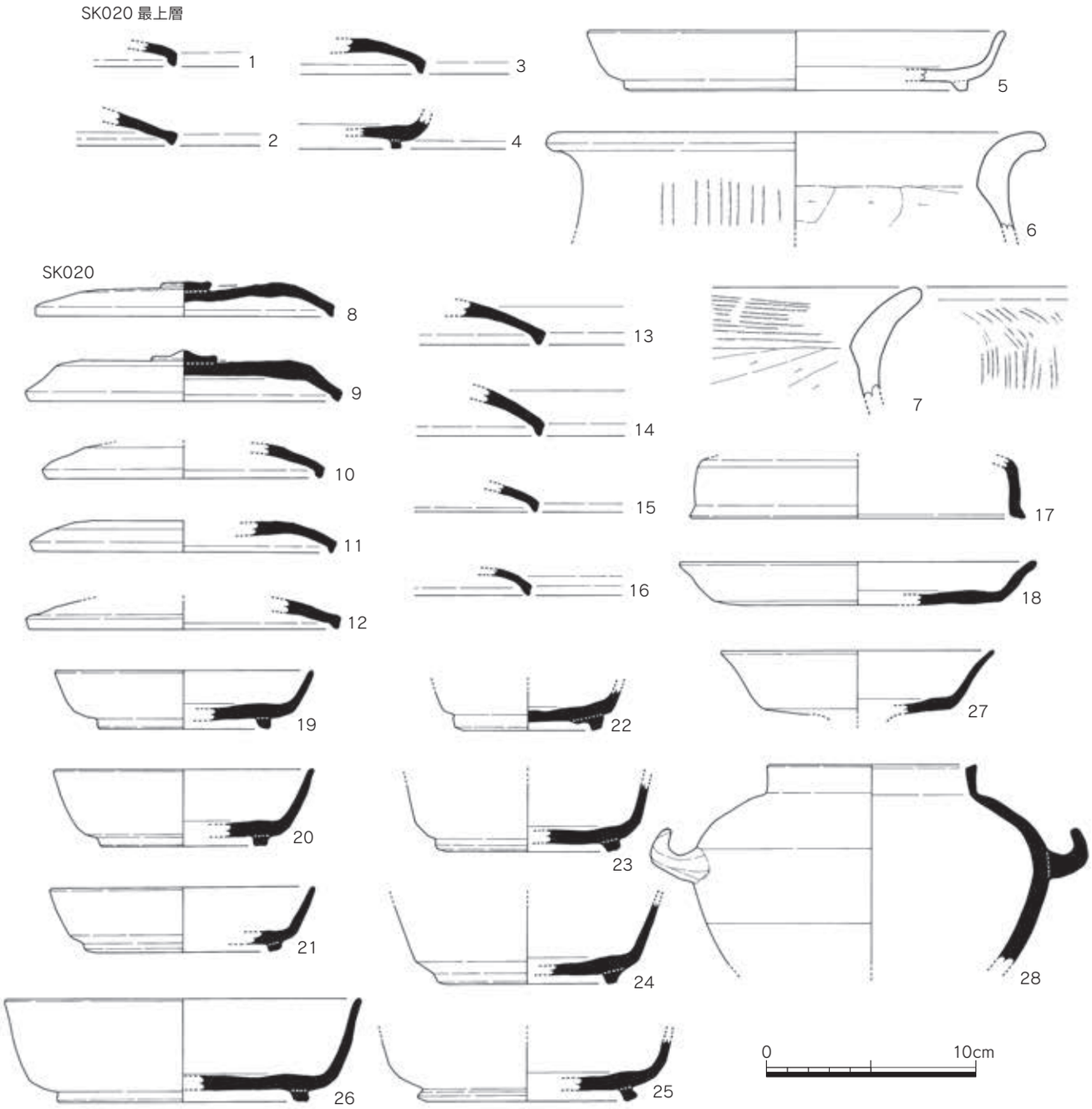



Fig.82　54SK020 出土遺物実測図①（1/3）

蓋 3（40 ～ 42）　口縁端部は僅かに曲げた程度の断面三角形である。

坏 c（43）　高台が欠落する。焼成良好で色調は淡灰色を呈する。

土師器

高坏（44）　脚部で、内外面とも回転ナデ調整。色調は橙黄色を呈する。復元脚部径 12.0cm。

**54SK035 出土遺物（Fig.83）**

土師器

小皿 a（45）　器高 1.4cm。底部切り離しは不明だが、板状圧痕が残る。

椀 c（46）　やや丸味のある底部で、色調は白茶色を呈する。

黒色土器

椀（47）　内面回転ナデ、外面ミガキ調整。A 類。

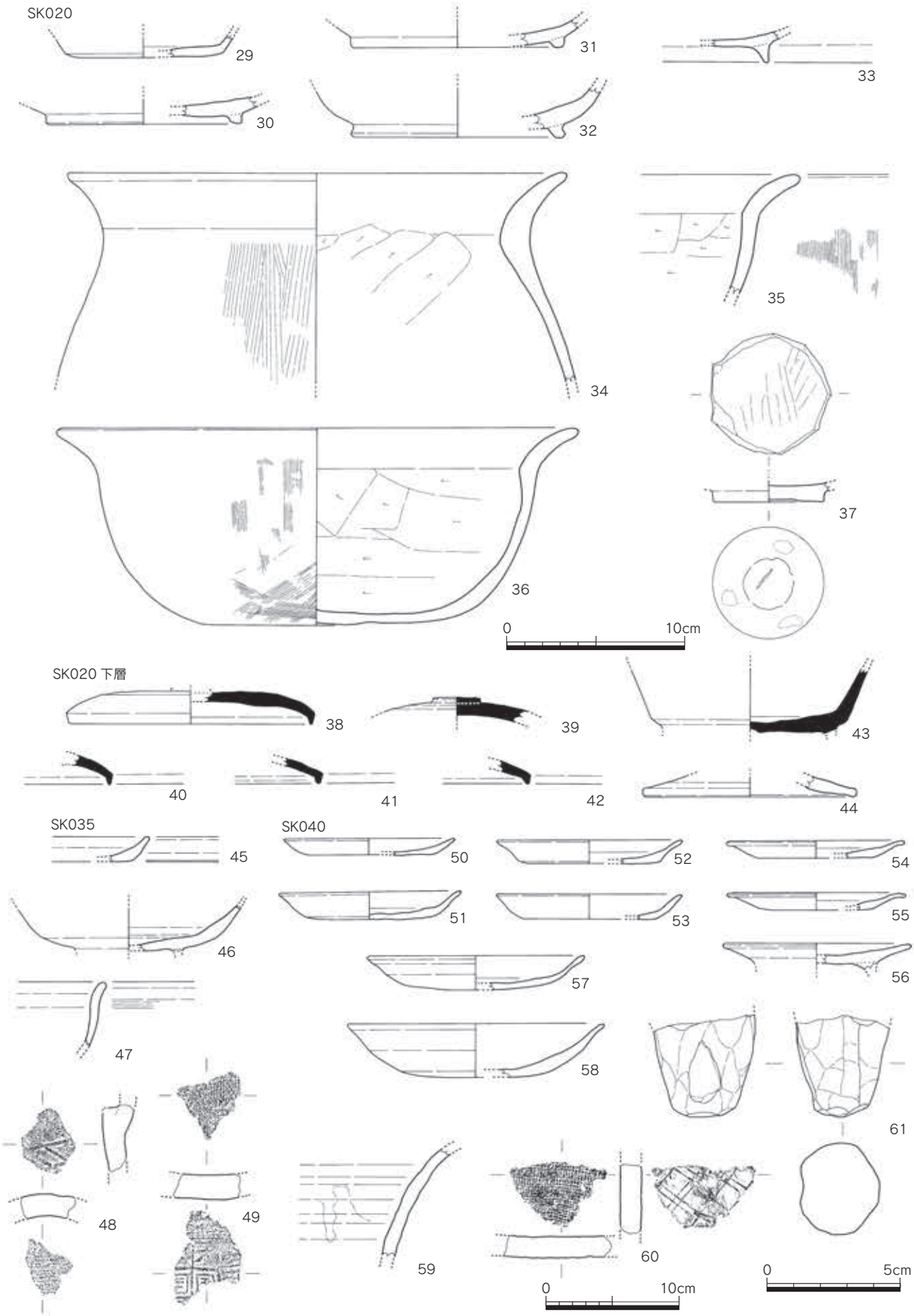



Fig.83　54SK020 ②、54SK035・040 出土遺物実測図（1/3、61 は 1/2、瓦は 1/4）

瓦類

丸瓦（48）　外面にはやや大きめの斜格子叩きを施す。

平瓦（49）　凸面には「大国」の文字叩き。

**54SK040 出土遺物（Fig.83）**

土師器

小皿 a（50 ～ 53）　復元口径 9.6 ～ 10.4cm。全体的に磨滅し調整不明瞭だが、51 は回転ヘラ切りで、板状圧痕を残す。

小皿 a2（54、55）　2 点とも口径 10.0cm で、口縁端部内面に僅かな沈線が巡る。54 の底部は回転ヘラ切りである。

小皿 c（56）　口径 10.6cm。色調は黄橙色を呈する。

丸底坏 a（57、58）　57 は明確にミガキ b が確認できない。復元口径 12.2cm。58 は外面磨滅するが、内面にはミガキ b が確認できる。復元口径 14.4cm。

灰釉陶器

壺（59）　内外面ともヨコナデし、両面とも施釉する。

瓦類

平瓦（60）　凸面は二重格子叩き。凹面は布目である。

石製品

脚（61）　小片のため、明確に言い切れないが、脚部の一部と推測される。側面はケズリで、断面が 7 ～ 8 角形に面取りしている。

**54SK050 出土遺物（Fig.84）**

土師器

小皿 a（1 ～ 6）　復元口径 9.4 ～ 10.4cm。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

丸底坏（7、8）　やや深い体部で、口縁端部を僅かに外反させる。7 は復元口径 16.6cm、内面にコテ当て痕が残る。

鉢（9）　外面ケズリ、内面ナデ調整。胎土は茶色粒を含み、色調は黄橙色を呈する。

黒色土器

小皿 a（10）　復元口径 10.6cm、器高 1.3cm、復元底径 7.4cm。内外面ともミガキ c を施す。B 類。

灰釉陶器

壺（11）　内外面ともヨコナデ後施釉する。内面下方は露胎である。

越州窯系青磁

合子蓋（12）　復元口径 13.4cm。外面には沈線が巡る。内外面とも暗緑灰色釉を施し、平坦に仕上げた口縁端部には目跡が残る。

**54SK055 出土遺物（Fig.84）**

土師器

小皿 a（13 ～ 17）　復元口径 10.0 ～ 10.8cm、器高 1.1 ～ 1.7cm。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

小皿 a2（18 ～ 21）　復元口径 10.6 ～ 10.8cm、器高 1.2 ～ 1.3cm。底部切り離しは回転ヘラ切りで、板状圧痕を残す。口縁端部内面に僅かな沈線が巡る。

小皿 c（22）　復元口径 11.8cm、器高 2.4cm、高台径 6.7cm。

椀 c（23）　復元口径 14.4cm、器高 5.2cm。内面磨滅するが外面は回転ナデ調整。色調は淡橙黄色を呈す。

丸底坏（24）　深い体部で、復元口径 15.0cm。

瓦類

丸瓦（25）　外面は縦長斜格子叩きに「佐」の文字瓦である。

**54SK060**

**54SK075（SK060 最上層）出土遺物（Fig.84）**

土師器

小皿 a（26、27）　復元口径は 9.7cm と 9.8cm。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

丸底坏 a（28）　復元口径 14.0cm。内外面摩滅するが、外面底部は回転ヘラ切り痕が残る。

椀（29）　復元口径 15.0cm。口縁端部を短く外側に曲げる。内外面ともミガキ c。色調は淡黄茶色を呈する。

**54SK060 上層出土遺物（Fig.84）**

須恵器

蓋 3（30、31）　口縁端部は僅かに摘まんだ程度。30 の外面上部は回転ヘラケズリ。色調は灰色を呈する。

土師器

甕（32）　肥厚した口縁部で、体部内面はヘラケズリか。

**54SK060 中層出土遺物（Fig.84）**

須恵器

蓋 3（33）　口縁端部は僅かに摘まんだ程度で、内外面とも回転ナデ調整。

坏 c（34）　体部の厚さに対し、貧弱な高台を貼付する。内面底部はナデ、その他は回転ナデ調整。焼成良好で色調は暗灰色を呈する。

土師器

坏もしくは椀（35）　内外面磨滅し調整不明。色調は黄褐色を呈する。

鉢もしくは壺（36）　胎土は 0.3cm 以下の砂粒をやや含み、色調は橙黄色を呈する。内外面磨滅し調整不明。復元高台径 7.2cm。

**54SK060 下層出土遺物（Fig.84）**

土師器

坏 a（37 ～ 41）　37 は復元口径 12.0cm、器高 3.5cm。色調は黄褐色や暗黄灰色を呈する。底部切り離しは回転ヘラ切り。41 は小片だが丸味があるため丸底坏の可能性もある。

椀 c（42 ～ 45）　高台径 6.6 ～ 8.1cm。42･45 はやや丸味のある体部である。色調は黄褐色を呈する。

緑釉陶器

皿 c（46）　復元高台径 6.0cm。焼成は土師質で内外面に黄緑色釉を薄く施す。防長産。

瓦類

平瓦（47）　やや大きめの格子叩き。側面はヘラ切り後折っている。

**54SK080**

**54SK080 上面（暗茶色土）出土遺物（Fig.85、Pla.14）**

土師器

小皿 a（1 ～ 5）　復元口径 10.2 ～ 11.2cm、器高 1.0 ～ 1.6cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。

小皿 a2（6）　口縁端部内面に僅かに沈線が巡る。復元口径 11.2cm、器高 1.0cm。胎土は白色砂粒をやや多く含む。

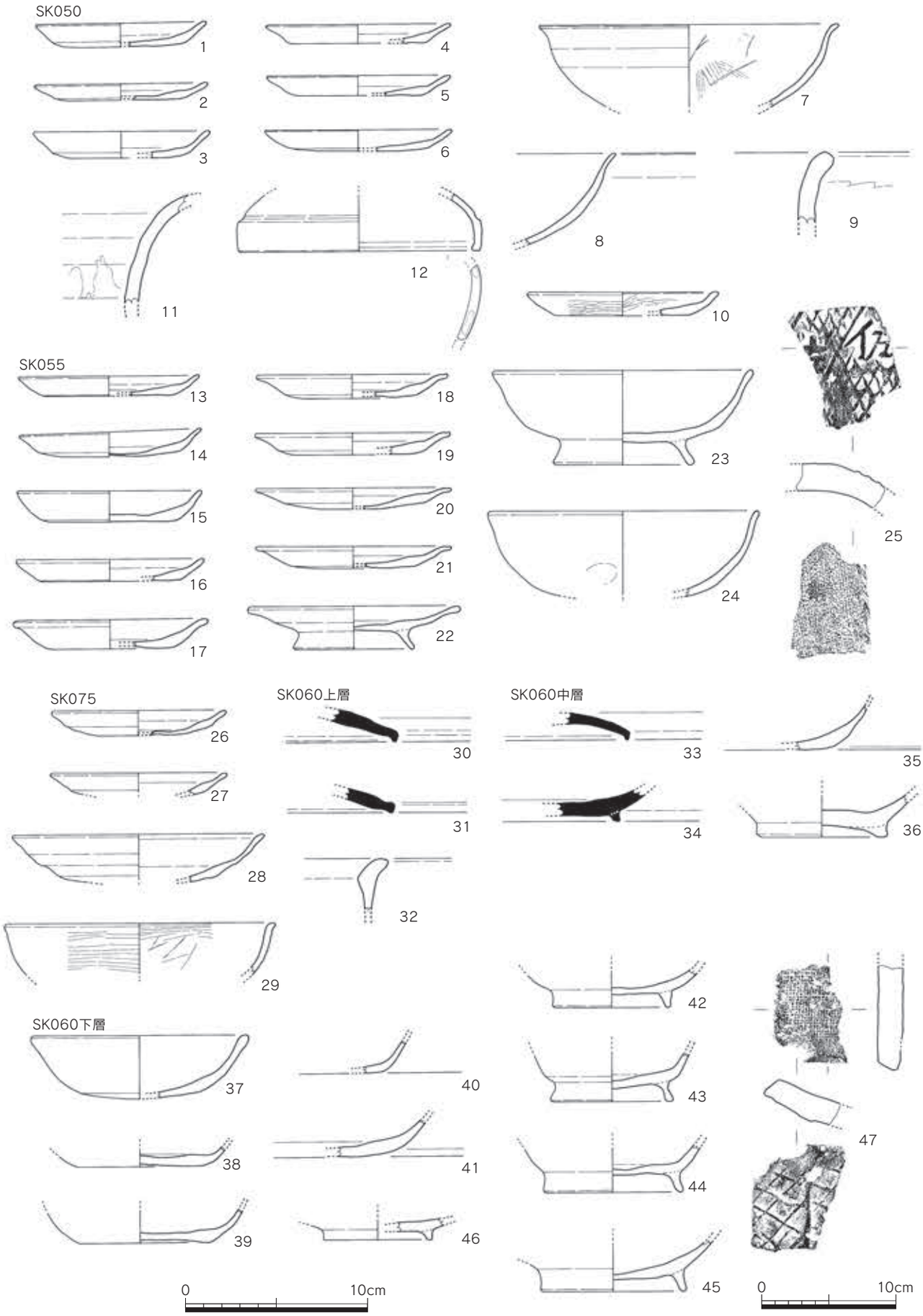



Fig.84　54SK050・055・060・075 出土遺物実測図（1/3、瓦は 1/4）

椀ａ（7）　復元口径 12.4cm、器高 3.5cm。胎土は赤色粒をやや多く含み、色調は淡橙茶色を呈する。内外面は磨滅し調整不明。

椀ｃ（8）　口径 15.6cm。外面下半は回転ヘラケズリ、口縁部な回転ナデ、内面底部はナデ調整。

丸底坏ａ（9 ～ 12）　復元口径 15.0 ～ 15.8cm、器高 2.8 ～ 3.4cm。底部押し出しで外面中位に指頭圧痕が残り、内面はミガキｂでコテ当て痕が残る。10 は底部中央に径 0.6cm 前後の円孔が穿たれている。

丸底坏ｃ（13）　断面三角形の低い高台を貼付する。口径 15.2cm、器高 4.2cm、高台径 5.4cm。体部内面にはミガキｂを施し、コテ当て痕が残る。体部外面下半には指頭圧痕、底部外面には板状圧痕が残る。色調は黄白色を呈する。

甕（14）　体部内面はヘラケズリ、外面は磨滅するが、ハケのような痕跡を残す。

脚付鉢（15）　断面方形状の脚部で、摩滅し調整不明。胎土は砂粒をやや多く含み、淡黄橙色を呈する。

黒色土器

鉢（16）　B 類。口縁端部を丸く仕上げる。磨滅が目立つが端部付近にミガキｃが残る。

灰釉陶器

椀（17）　口縁端部を僅かに曲げ外反させる。胎土は微細な黒色粒を僅かに含み、色調は淡灰色を呈する。内外面回転ナデで、内面は灰緑色釉を薄く施す。

土製品

有孔円盤（18）　縄目叩きの平瓦を加工したもので、円形に加工され、その中央には両側から穿孔している。幅 6.2cm、厚さ 2.1cm。

金属製品

鉄釘（19）　先端部を欠損する。現存長 3.95cm の角釘である。

石製品

砥石（20）　欠損するため全形は不明だが、厚さ 2.3cm の扁平に作り、3 面で細かい研磨痕があり、一部に U 字形の溝や溝状の擦痕がある。茶緑灰色の泥岩製。

石鍋（21）　内外面にケズリ加工される。滑石製。

石鍋二次加工品（22）　滑石製で欠損するので全形は不明だが、方形状に加工されている。内外面にケズリ加工が残る。

**54SK080 出土遺物（Fig.86・87、Pla.14）**

土師器

小皿ａ（1 ～ 13）　復元口径 9.2 ～ 10.6cm、器高 0.9 ～ 1.6cm。底部切り離しは回転ヘラ切りで、板状圧痕を残す。色調は黄白色や橙黄色を呈する。2 は他と違い坏部に深みがない。

小皿 a2（1 ～ 13）　口縁端部内面に僅かに段を付ける。復元口径 10.6 ～ 11.2cm、器高 0.9 ～ 1.3cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。

坏ａ（18）　復元口径 13.0cm、器高 2.3cm。底部切り離しは回転ヘラ切り、体部中位に僅かな屈曲がある。

丸底坏ａ（19 ～ 29）　復元口径 14.5 ～ 16.8cm、器高 2.7 ～ 4.7cm。内面ミガキｂでコテ当て痕を残すものが多い。外面下半は押し出しで指頭圧痕を残す。

丸底坏ｃ（30）　復元口径 15.7cm、器高 4.5cm、高台径 6.8cm。

小壺（31）　胎土は 0.3cm 以下の白色砂粒を多く含み、色調は黄灰色を呈する。内外面摩滅し調整不明瞭。復元底径 12.0cm。

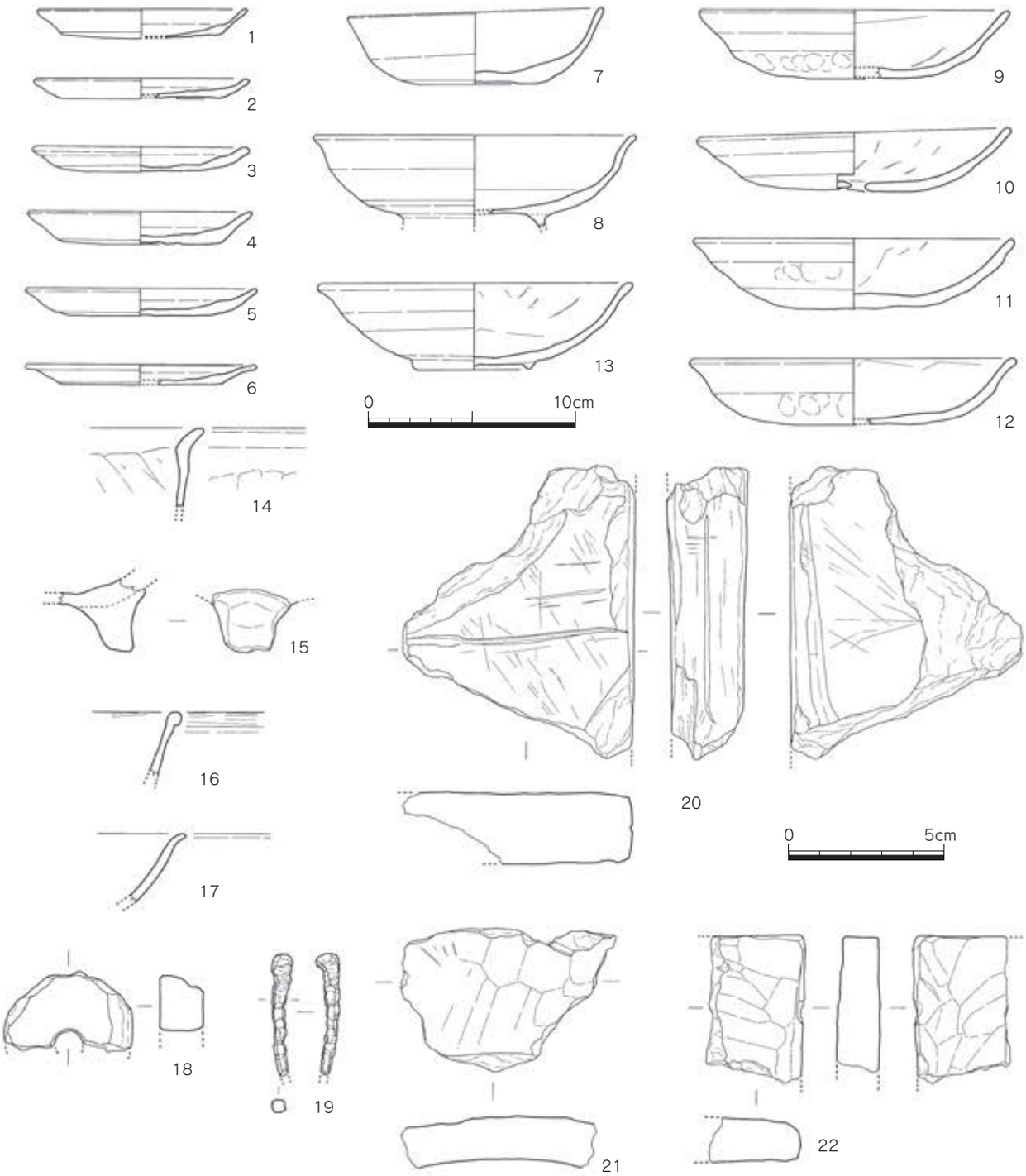



Fig.85　54SK080 上面（暗茶色土）出土遺物実測図（1/3、石製品・金属製品は 1/2）

鉢(32)　口縁部を緩やかに外反させる。外面はヨコナデ、内面は粗いヨコハケである。胎土は 0.2cm 以下の砂粒を多く含み、色調は暗茶褐色や黄褐色を呈する。

甕もしくは鉢（33）　胎土は 0.15cm 以下の砂粒を含み、淡黄色を呈する。内外面ともヨコナデ調整。

黒色土器

椀（34、35）　B 類。34 は復元口径 17.0cm。内外面にミガキ c を施すが、外面は磨滅が目立つ。36 は内外面ミガキ c だが磨滅が目立つ。

椀 c（36）　B 類。高台径 6.7cm。内面底部にはミガキ c の後ヘラ記号を施す。

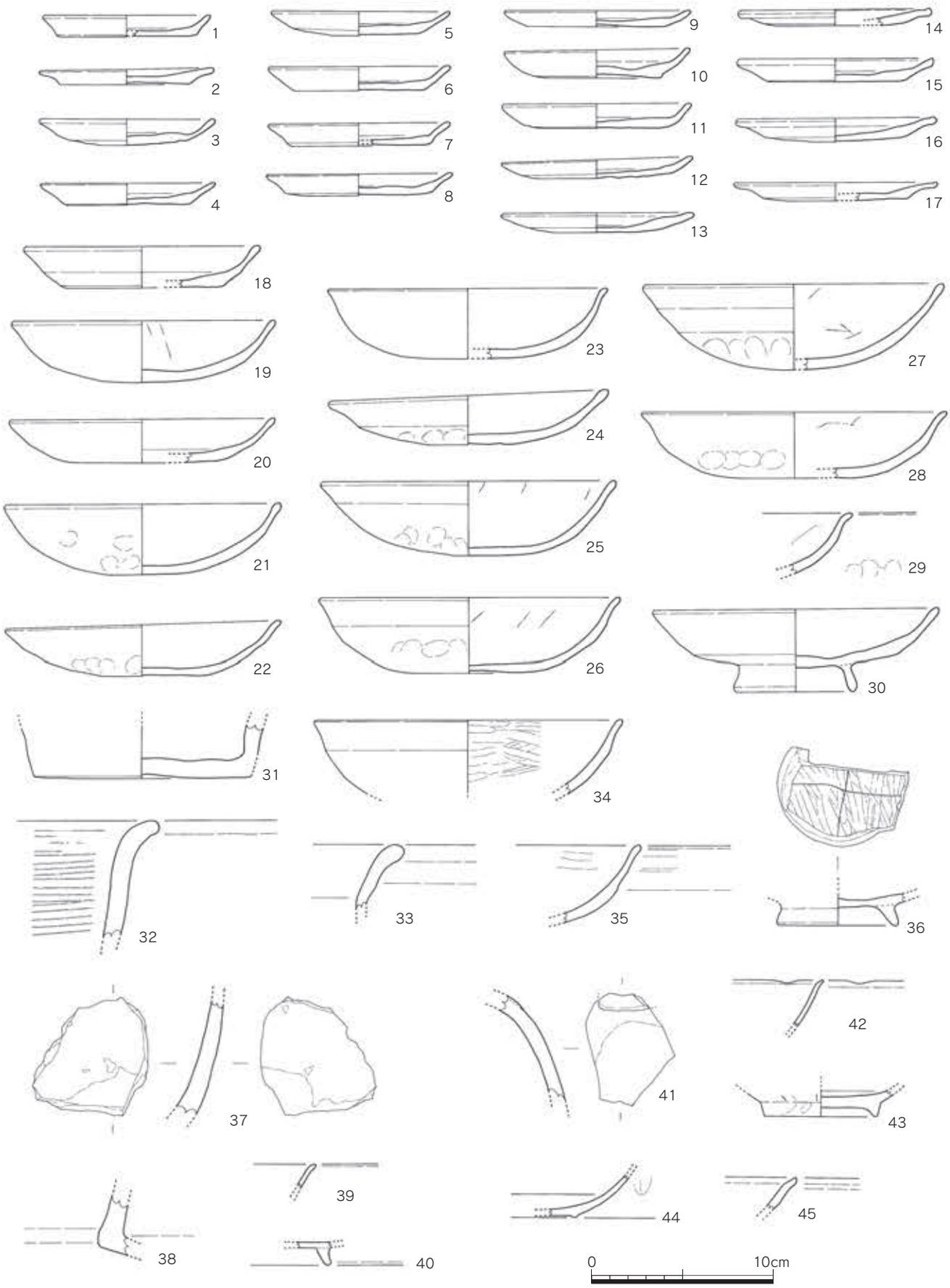



Fig.86　54SK080 出土遺物実測図①（1/3）

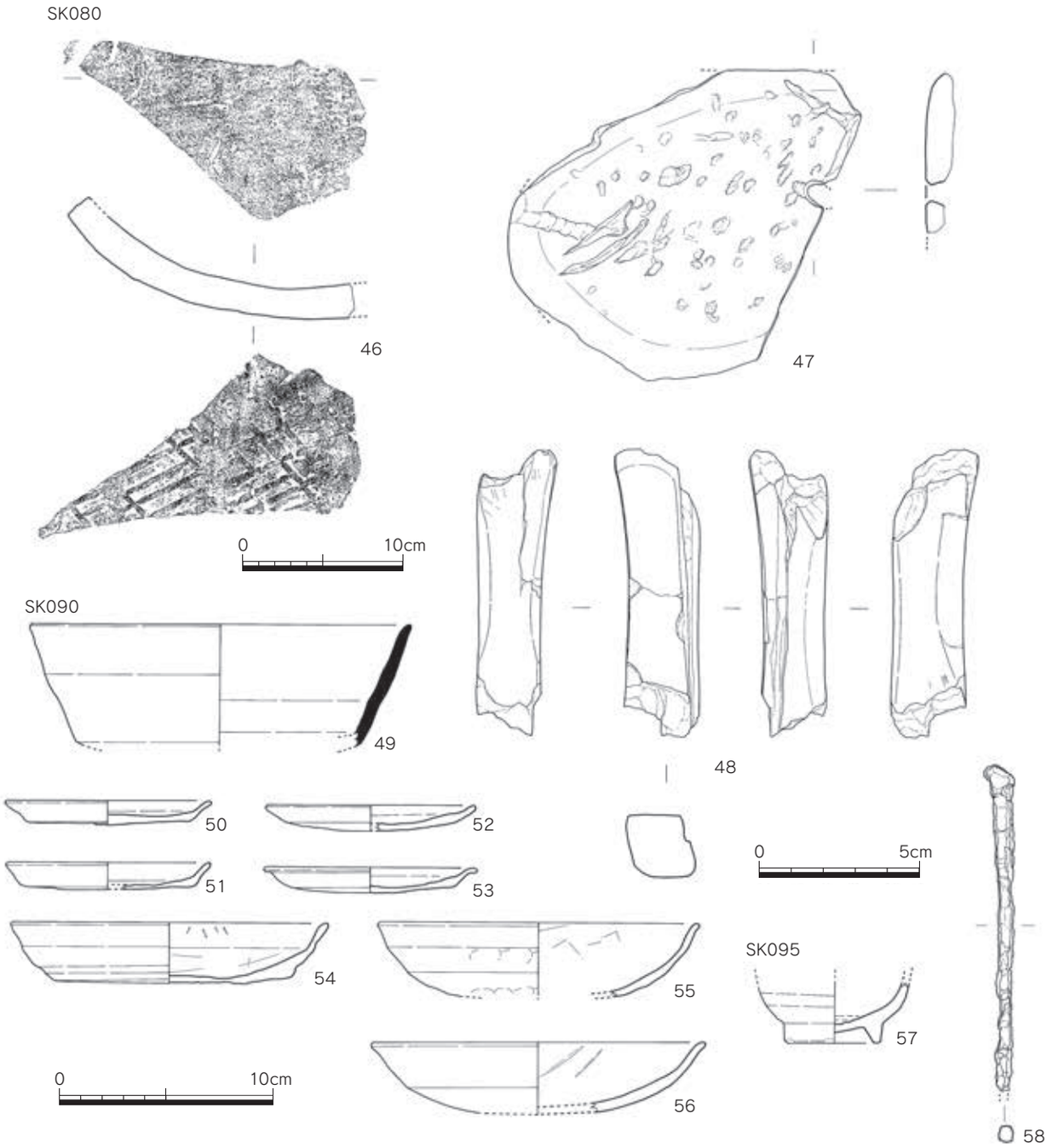



Fig.87　54SK080②、54SK090・095 出土遺物実測図（1/3、47・48・58 は 1/2、46 は 1/4）

灰釉陶器

壺（37）　胎土は灰黄色を呈する。内外面とも回転ナデで、灰色がかった緑色釉が部分的に薄く施す。内面には赤色顔料が点々と残る。

壺もしくは甕（38）　胎土は黒色粒を少量含み、色調は灰色を呈する。外面には緑色がかった釉を薄く施す。内面は回転ナデで、頸部内面には所々釉が付着する。

緑釉陶器

椀（39）　焼成良好で須恵質。内外面に黄色味のある濃緑色釉を施すが、口縁端部下には釉が厚くたまる。

椀もしくは皿（40）　焼成良好で須恵質。内外面に暗緑色釉を薄く施す。

越州窯系青磁

耳壺（41）　胎土は黒色粒を含み、色調は灰茶色を呈する。内外面は灰黄色釉で貫入が入り、外面の一部には茶褐色釉を施す。耳は欠落しているが、その痕跡が残る。II類。

白磁

椀（42、43）　42 は口縁部を僅かに外反させ輪花を施す。43 はXI-5 類。

皿（44、45）　44 はV-2b 類。小さな高台があるが、底部を強くケズリ出したことによるものとみられる。45 はXI-5 類。

瓦類

平瓦（46）　凸面に細長い斜格子叩きを施す。側面はヘラ切り後に割り離している。

石製品

用途不明石製品（47）　径 1cm 程の円孔が穿たれ、表面に小さな穴が多くつけられている。

砥石（48）　両端を欠損。現存長 9.0cm、幅 2.1×1.9cm。4 面使用している。泥岩製。

**54SK090 出土遺物（Fig.87）**

須恵器

椀（49）　復元口径 17.8cm。焼成良好で色調は灰白色を呈する。内外面回転ナデ調整。

土師器

小皿 a（50 ～ 53）　復元口径 9.6 ～ 10.0cm、器高 1.2 ～ 1.3cm。底部切り離しは回転ヘラ切りで、板状圧痕を残す。

坏 a（54）　復元口径 14.8cm、器高 2.9cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。色調は淡橙色を呈する。

丸底坏（55）　復元口径 15.0cm。底部はヘラ切り後押し出しで、内面ミガキ b でコテ当て痕が残る。

丸底坏 a（56）　復元口径 15.6cm。内面ミガキ b でコテ当て痕が残る。

**54SK095 出土遺物（Fig.87、Pla.14）**

越州窯系青磁

小壺（57）　高台径4.5cm。内外面にオリーブ色の釉を施し、高台畳付は釉を拭き取り目跡が残る。I類。

金属製品

鉄釘（58）　先端を欠損するが、現存長 10.2cm、幅 1.0cm の角釘である。

**54SK100 出土遺物（Fig.88、Pla.14）**

須恵器

蓋 1（1）　復元口径 15.6cm。内外面回転ナデ。色調は暗青灰色を呈する。

蓋 c3（2 ～ 4）　2・3 は平坦な器形。2 は内面回転ナデ。3 は復元口径 17.9cm、器高 1.5cm。外面上半部は回転ヘラケズリ、内面は平滑で転用硯とみられる。

蓋3（5～15）　外面上半部は回転ヘラケズリ。口縁端部を断面三角形に仕上げる。5は口径12.1cm、器高1.55cm。外面上部は回転ヘラ切り後未調整で灰被りしている。6は復元口径12.2cm。7は復元口径13.4cm。内面はやや平滑である。9は平坦に仕上げる。復元口径16.0cm。

壺蓋（16）　復元口径17.2cm、器高3.35cm。外面上部は回転ヘラケズリ、内面上部は不定方向のナデ、口縁部は回転ナデ調整。色調は暗灰色を呈する。

皿（17）　器高 1.4cm。

坏 c（18 ～ 22）　18 は復元口径 10.3cm。19 はやや細身の高台を貼付する。底部外面にはヘラ記号のような工具痕が残る。復元口径 11.2cm。20 は復元口径 13.2cm。21 は丸味のある底部端に貧弱な高台を貼付する。22 は復元高台径 9.0cm。

甕（23）　口縁部内外面ヨコナデ、体部は外面叩き、内面当て具痕が残る。焼成良好で灰色を呈する。

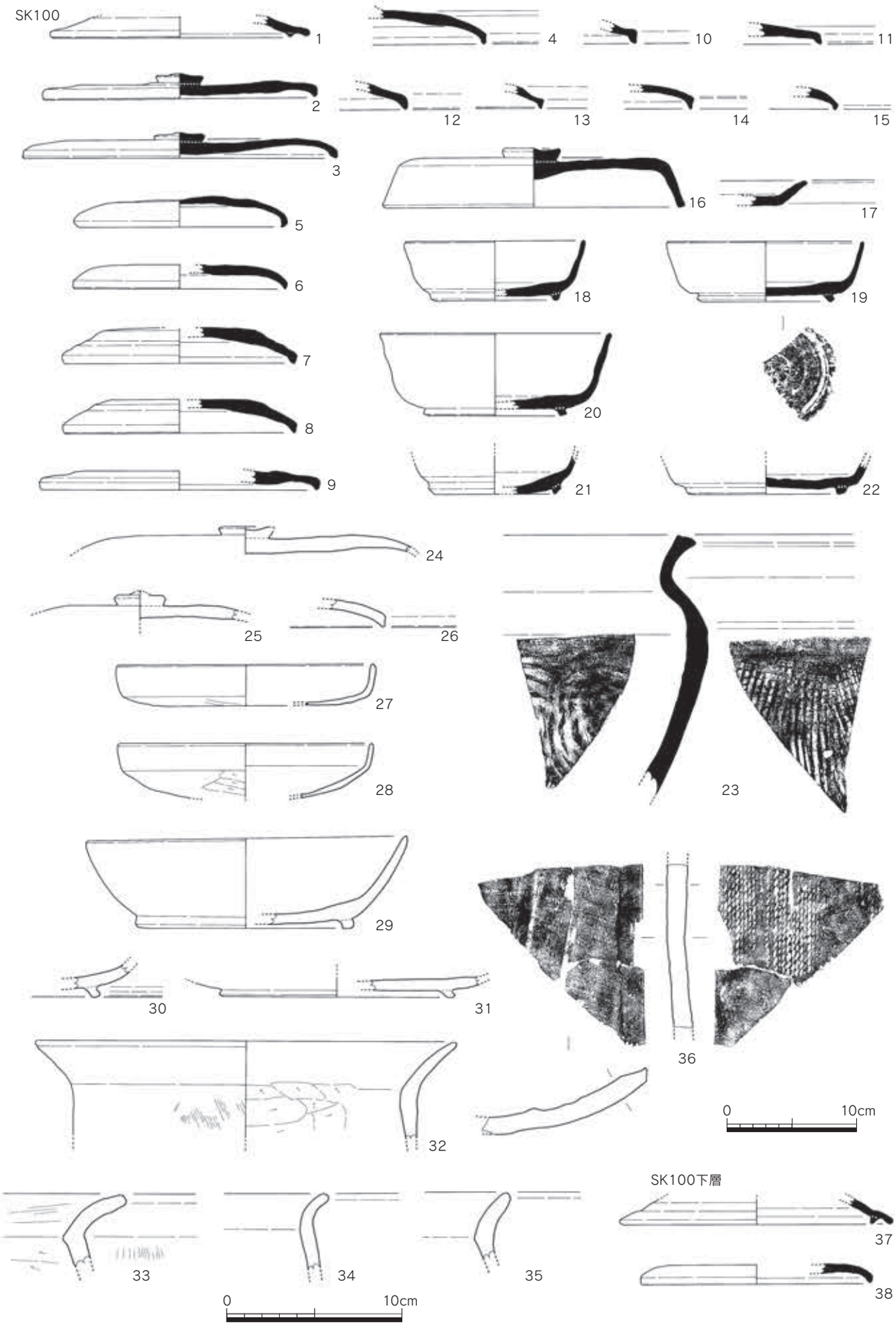



Fig.88　54SK100 出土遺物実測図（1/3、36 は 1/2）

土師器

蓋ｃ（24、25）　24 は内外面摩滅し調整不明。色調は橙色を呈する。25 は外面回転ヘラケズリ、内面ミガキａを施す。

蓋３（26）　内外面摩滅し調整不明。色調は黄橙色を呈する。

皿ｂ（27、28）　胎土は精製され、色調は黄橙色を呈する。底部外面は手持ちヘラケズリ、内面底部は不定方向のナデ調整。27 が 14.6cm。28 が 14.8cm。

椀ｃ（29、30）　29 は口径 18.3cm、器高 5.3cm、高台径 12.4cm。体部は磨滅し調整不明。色調は黄橙色を呈する。30 は黄白色を呈する。

大皿ｃ（31）　復元高台径 13.4cm。内外面摩滅し調整不明。色調は橙色を呈する。

甕（32 ～ 35）　32 は復元口径 24.0cm。胎土は白色砂粒や茶色粒を含み、体部外面はタテハケ、内面ヘラケズリ。33 は体部外面タテハケ、内面ヘラケズリ、口縁部内面ヨコハケ、外面ヨコナデ調整。34 は屈曲なく緩やかに外反する。内外面摩滅し調整不明。35 は胎土に角閃石を多く含む。

瓦類

平瓦（36）　凸面は縄目叩き、凹面布目。側面は２回ヘラケズリし面取りしている。

**54SK100 下層出土遺物（Fig.88）**

須恵器

蓋１（37）　復元口径 15.6cm。

蓋３（38）　復元口径 13.3cm。口縁端部は僅かに曲げ丸く仕上げる。

**その他の遺構**

**54SX005 出土遺物（Fig.89）**

須恵器

甕（1）　焼成良好で、色調は黄灰色と明灰色が交互に混ざった色合いである。内外面ヨコナデ調整。

土師器

坏ａ（2）　底部切り離しは回転ヘラ切りである。復元底径 7.4cm。色調は黄灰色を呈する。

椀ｃ（3）　復元高台径 8.2cm。色調は灰茶色を呈する。

製塩土器

焼塩壺（4）　内面布目、外面ナデ調整。色調は赤茶色を呈する。

石製品

石鍋（5）　厚さは 1.2cm 前後で、端部を丸く仕上げる。外面には煤が付着する。滑石製。

**54SX025 出土遺物（Fig.89）**

須恵器

蓋３(6 ～ 10)　7 ～ 10 の口縁端部は僅かに摘まんだ程度に仕上げる。6 は口縁部をやや長めに曲げる。復元口径 10.6cm。7 は復元口径 12.8cm。外面上半部は回転ヘラケズリ、内面上半部は不定方向のナデ調整。

坏ａ（11）　口径 10.4cm、器高 2.6cm、底径 8.3cm。外面底部は回転ヘラ切り後粗いナデ調整。色調は暗灰色を呈する。

坏ｃ（12）　底部端に高台を貼付する。復元高台径 9.2cm。

**54SX120 出土遺物（Fig.89）**

須恵器

蓋ｃ（13）　ツマミ近くが回転ヘラケズリ、内面は不定方向のナデ調整。色調は灰黄白色を呈する。

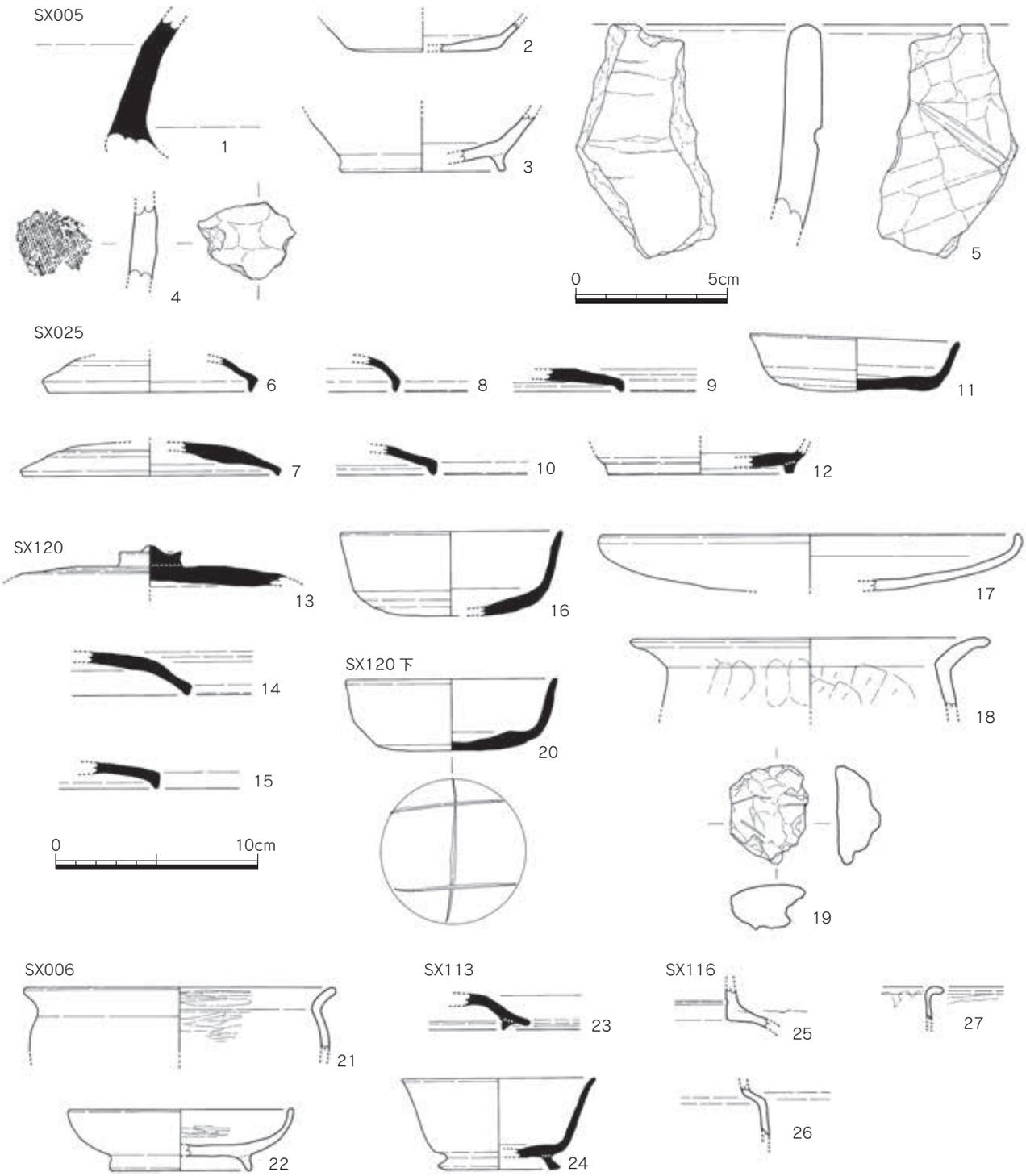



Fig.89　54SX005・025・116・120 ほか出土遺物実測図（1/3、5 は 1/2）

蓋 3（14、15）　外面上半部は回転ヘラケズリ、内面上半部は一方向のナデ、その他は回転ナデ。15 は外面にヘラ記号を施す。

坏 a（16）　16 は復元口径 11.0cm、器高 4.2cm。外面底部は回転ヘラ切りで、底部端付近は回転ヘラケズリ、内面底部は不定方向のナデ調整。還元不良で橙褐色を呈する。

高坏（17）　復元口径 21.0cm。胎土は茶色粒を多く含み、色調は黄橙色を呈する。外面摩滅し、内面ナデ。

甕（18）　復元口径 17.8cm。体部内面ヘラケズリ、外面屈曲部には指頭圧痕が残る。外面は暗褐色を呈する。

土製品

土壁(19)平坦な部分がある。胎土はスサや0.1cm以下の茶色粒を多く含み、色調は明橙色を呈する。

**54SX120下出土遺物（Fig.89）**

須恵器

坏a（20）　復元口径10.4cm、器高3.5cm。外面底部は回転ヘラ切り後ヘラ記号を施す。還元やや不良で黄褐色を呈する。

**54SX006出土遺物（Fig.89）**

黒色土器

小甕（21）　復元口径15.4cm。内面ミガキc、口縁端部外面には煤が付着する。A類。

小皿c（22）　復元口径11.1cm、器高3.0cm、復元高台径7.0cm。外面磨滅するが、内面にはミガキcが残る。B類。

**54SX113出土遺物（Fig.89）**

須恵器

蓋1（23）　外面上部は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ。色調は灰色を呈する。

坏c（24）　復元口径9.6cm、器高4.5cm、復元高台径6.0cm。外開きの踏ん張る高台を貼付する。色調は暗灰色を呈する。

**54SX116出土遺物（Fig.89）**

灰釉陶器

壺（25）　内面ヨコナデ調整で露胎、外面は淡緑灰色釉を薄く施す。

越州窯系青磁

壺（26）　胎土は黄灰色で、内外面とも灰緑色釉を施す。I類。

褐釉陶器

壺（27）　胎土は微細な黒色粒を含み、黄灰茶色で、内外面に黒褐色釉と茶褐色釉を施す。

**その他の出土遺物（Fig.90）**

須恵器

蓋c1（1）　復元口径15.0cm。ツマミは欠損する。外面上部は回転ヘラケズリ、内面上半部はナデ、その他は回転ナデ調整。還元不良で色調は暗赤橙色を呈する。S-74より出土。

灰釉陶器

壺（2）　外面は回転ヘラケズリで施釉するが、高台付近は回転ナデ調整で露胎。内面はヨコナデ調整で露胎。S-10より出土。

瓦類

平瓦（3）　格子叩きに「佐」の左字がみられる。凹面は布目である。S-4より出土。

金属製品

鉄鏃(4)　下部を欠損し、現存長3.0cm、幅1.6cm、厚さ0.9cm。断面菱形状をなす。S-28より出土。

土製品

土壁（5）　胎土は白色砂粒を多く含み、スサが入る。色調は淡橙色を呈する。1面だけ平坦に整形している。S-2より出土。

石製品

石帯丸鞆(6)　黒灰色で、表面は光沢があるが、裏面にはない。縦2.4cm、厚さ0.6cm。S-1より出土。

掻器（7）　端部に小刻みな加工を施し、刃部を作り出している。縦4.85cm、横5.1cm、厚さ1.4cm。

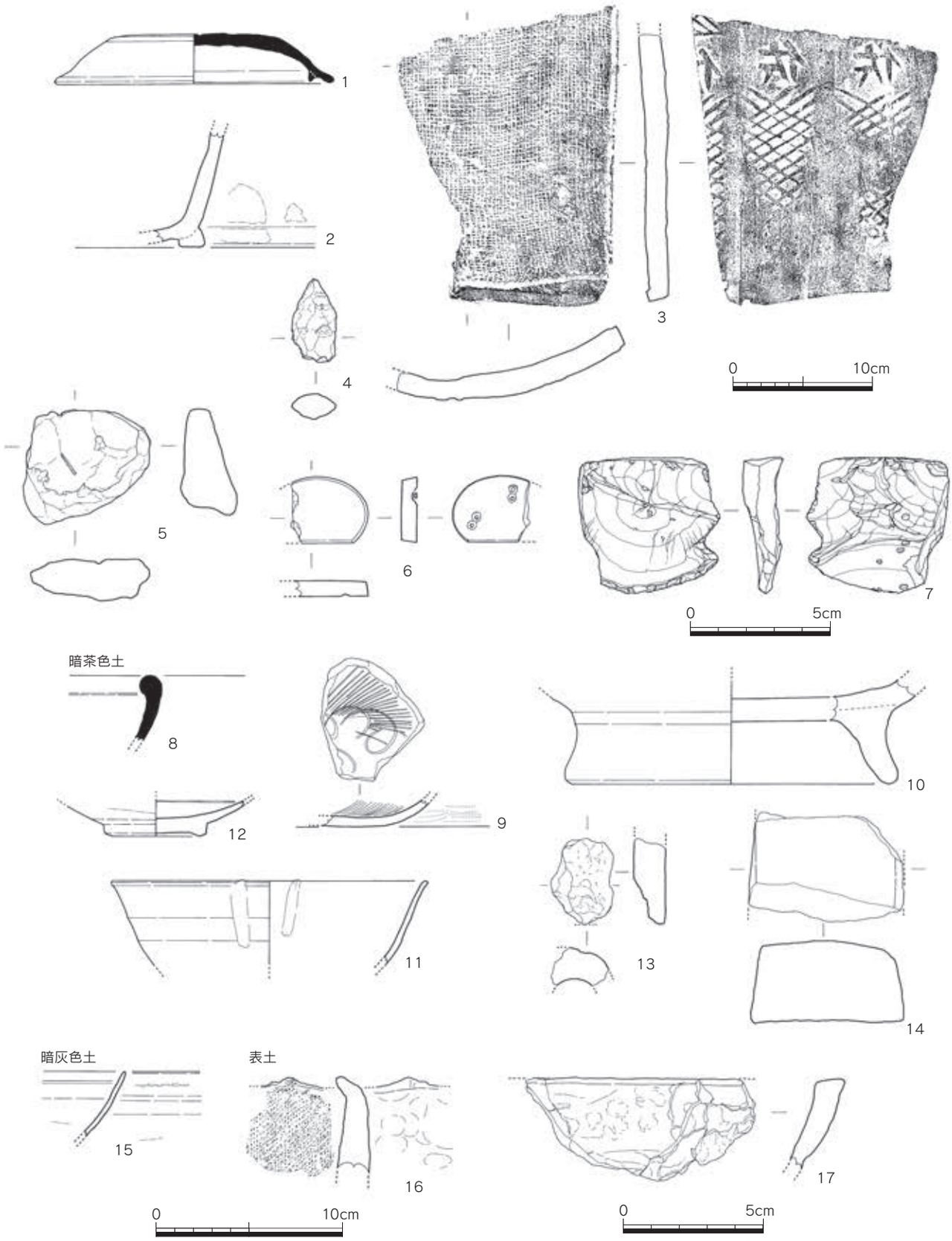



Fig.90　第 54 次調査表土、暗茶色土、その他の出土遺物実測図
（1/3、3 は 1/4、石製品・金属製品は 1/2）

安山岩製。S-32 より出土。

**暗茶色土出土遺物（Fig.90）**

須恵器

鉢（8） 胎土は黒色粒を多く含み、色調は灰色を呈する。口縁端部を肥厚させ丸く仕上げる。内外面回転ナデ調整。篠窯。

土師器

皿（9） 胎土は赤色粒を多く含み、色調は橙赤色を呈する。外面底部はヘラケズリ、外面はミガキ a、内面はミガキの後暗文を施す。

脚付鉢（10） 高く太い高台を貼付し、内外面回転阿で調整。復元高台径 17.8cm。胎土は 0.4cm 以下の砂粒を多く含み、灰橙色を呈する。

灰釉陶器

椀（11） 復元口径 17.0cm。外面に篦押縦線を施す。胎土は淡灰色を呈し、内外面とも薄く施釉する。

白磁

皿（12） XI類。青色味のある白色釉を内外面に施すが、外面下半は露胎。

土製品

鞴羽口（13） 外面は被熱で硬化し、灰色を呈する。

瓦類

塼（14） 胎土は 0.3cm 以下の砂粒をやや多く含み、色調は淡黄灰色を呈する。全面ナデ調整し、1 面だけは板状圧痕が残る。幅 11.1cm、厚さ 5.9cm。

**暗灰色土出土遺物（Fig.90）**

灰釉陶器

椀（15） 胎土は精製され、灰白色を呈する。内外面とも透明釉を施す。内外面とも下半は露胎。

**表土出土遺物（Fig.90）**

製塩土器

焼塩壺（16） 口縁部に向かって薄く仕上げ、外面に指頭圧痕、内面に布目が残る。

金属製品

鍋（17） 鉄製で、錆に覆われるが口縁部がやや厚く、上面を平坦に仕上げる。

### （5）小結

今回の調査では、7 世紀末から 12 世紀前半にかけての遺構が確認された。

時代別の状況をみると、奈良時代の遺構は調査区北側に多くみられる。平安前期～中期にかけては、掘立柱建物や柵列はあるが、小規模なものであり、それ以外に目立った遺構は存在しないため、建物は奈良時代に建築されたものが平安前期に廃絶した可能性が考えられる。平安後期については、大きな土坑が多いが建物は未確認である。調査区全体として、土坑やピットは多いが、溝はなく建物も少ない。宅地の縁辺部分で井戸や土坑、廃棄土坑が検出される事例が多く、調査区のすぐ西隣を井上条坊案の右郭 2 坊路が通ると推定されていることから、明確な道路遺構は確認されていないものの、その存在を想像することができる。

そして、調査区で最も古い遺構である斜行溝（54SD070）については、調査地で同時期の遺構が存在しないため、溝の目的とするものは調査地付近には存在しないと推測される。また、隣接する第 53 次調査で見つかった 53SD050 も斜行し、54SD070 と平行する。2 つの溝の中心間の距離は約 26m、溝の内側距離が約 22m もあり、官道の道幅の約 2 倍もあることから道路とするには検討を要する。し

かし、これらの溝の角度は、それぞれ微妙に異なってはいるものの、およそ水城に対して直交するような角度で、北側延長上は水城東門方向を向いている（完全に東門に向かってはいない）。また、それぞれの溝の埋没時期が異なっていて、北側の 54SD070 が 7 世紀末に埋没しているのに対し、南側の 54SD070 は 8 世紀前半～中頃に埋没しており、条坊が整備される中でも完全に埋め戻されることなく、何らかの痕跡が残されていたことになる。2015 年には約 50m 離れた第 311 次調査でも、53SD050 の延長とみられる溝が検出されており、部分的に掘削されたものではないことがわかってきており、水城西門ルート周辺で確認されている 7 世紀代の官道前道路と同じようなものが東門ルートにも存在した可能性を窺わせるものである。そして、溝の延長に扇屋敷の地名が残る通古賀集落があり、以前から推定されている大宰府政庁が現在地に設置される以前の官衙施設の存在も想像することができる。

また、関連したものとして、現在調査地の北側 50m 付近に、これらの溝と平行するように斜行する市道が、部分的に断絶しているものの約 550m 分確認できる。これは明治 27 年の通古賀の古地図にも記録されており、条坊区画と異なる現在まで残るような何らかの区画や道路が存在したことを傍証している。


参考文献

太宰府市教委『大宰府条坊跡Ⅴ』太宰府市の文化財第 13 集　1989 年

太宰府市教委『大宰府条坊跡 20』太宰府市の文化財第 60 集　2002 年

通古賀区『とおのこが風土記』2003 年

太宰府市教委『大宰府条坊跡 41』太宰府市の文化財第 113 集　2011 年

太宰府市教委『大宰府条坊跡 45』太宰府市の文化財第 123 集　2015 年

Fig.91　53SD050・54SD070 遺構実測図 (1/400)

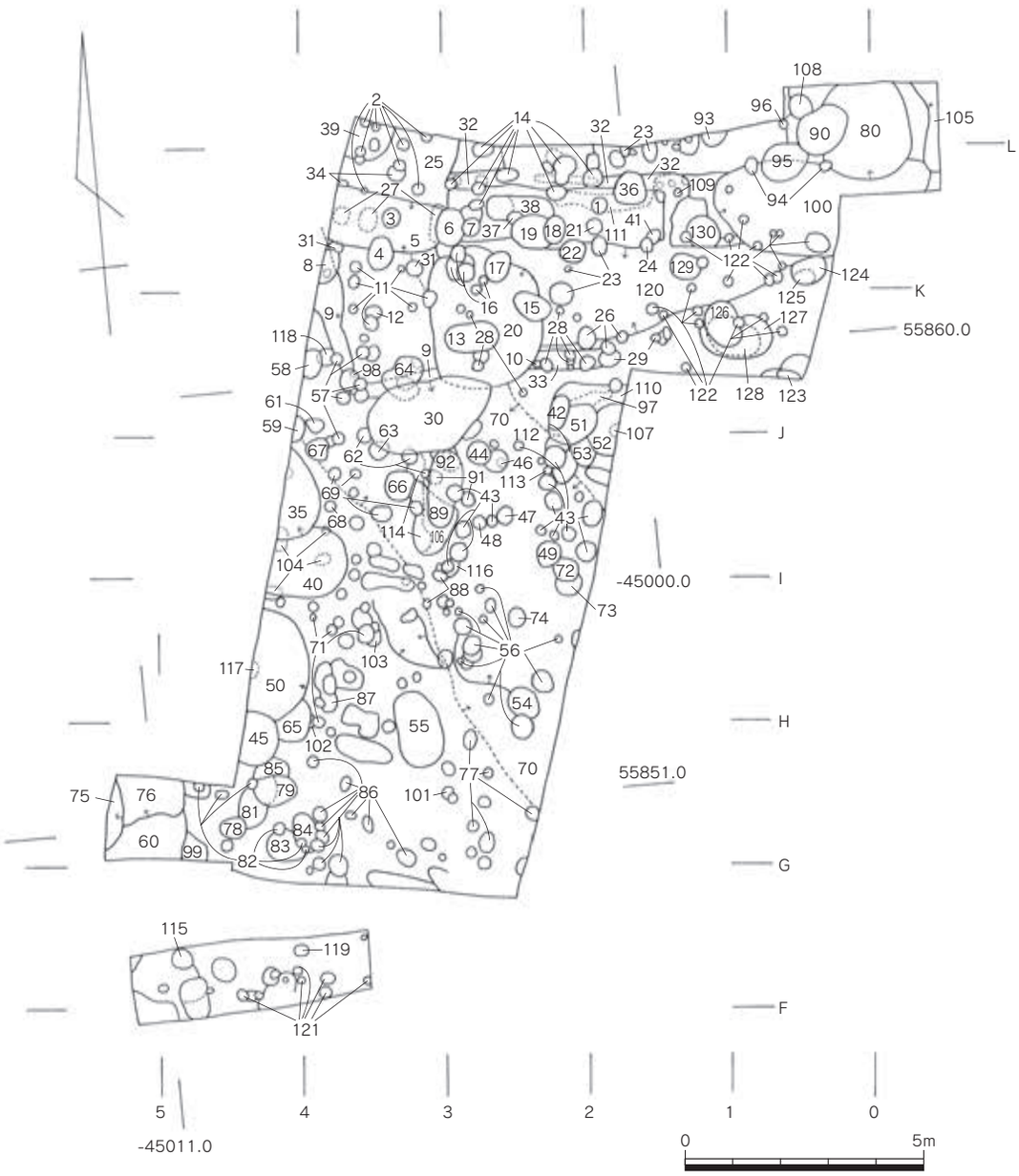



Fig.92　第 54 次調査遺構略測図 (1/150)

表17. 第54次調査　条坊関連遺構座標値

| 遺構番号 | 位置 | 遺構中点座標値 | | 南門からの距離 | | 方位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | X | Y | X方向（m） | Y方向（m） | |
| 54SD070 | 53SD070南肩北端 | 55857.30 | -45007.25 | -853.204 | -177.991 | N-34°12′57″-W |
| | 53SD070南肩南端 | 55851.05 | -45003.00 | -859.411 | -173.679 | |

表18．第54次調査　遺構一覧表

| S-番号 | 遺構番号 | 種別 | 埋土等 | 時期 | 地区 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | ピット | | 平安時代 | K1 |
| 2 | | ピット群 | | 平安時代～ | K･L3 |
| 3 | | ピット | | 11世紀後半～ | K3 |
| 4 | | ピット | | 平安時代 | K3 |
| 5 | 54SX005 | 窪み | S-5→6→7 | 平安前期 | K3 |
| 6 | 54SX006 | ピット | | 平安時代 | K2 |
| 7 | | ピット | | 平安時代 | K2 |
| 8 | | ピット | S-9→8 | 平安後期 | K3 |
| 9 | 54SB140 | 溝 | 建物の基礎か | 8世紀中頃前後 | K3 |
| 10 | | ピット | S-10→28 | | J2 |
| 11 | | ピット群 | S-12→11 | 古代 | JK3 |
| 12 | | ピット | | 古代 | J3 |
| 13 | | ピット | | 平安後期 | J2 |
| 14 | | ピット群 | | 平安後期 | K2 |
| 15 | | ピット | | 平安中～後期 | J2 |
| 16 | | ピット群 | | 平安時代 | K2 |
| 17 | | ピット | | 平安時代 | K2 |
| 18 | | ピット | S-19→18 | 平安後期？ | K2 |
| 19 | | ピット | | 古代 | K2 |
| 20 | 54SK020 | 土坑 | | 8世紀前半～中頃 | J2 |
| 21 | | ピット | | 古代 | K1 |
| 22 | | ピット | | 平安後期 | K2 |
| 23 | | ピット群 | | | K1・2 |
| 24 | | ピット | | 平安時代 | K1 |
| 25 | 54SX025 | 窪み | S-25→2 | 8世紀前半～中頃 | K･L3 |
| 26 | | ピット群 | | 9世紀前半 | J1 |
| 27 | | ピット群 | S-27→5→6 | 古代 | K3 |
| 28 | | ピット群 | | 平安時代 | J2 |
| 29 | | ピット | S-29→26 | 奈良時代？ | J1 |
| 30 | 54SK030 | 土坑 | 浅い。S-20→30 | 平安後期 | J2･3 |
| 31 | | ピット群 | | 9世紀 | K3 |
| 32 | 54SB140 | 溝 | 建物の基礎か　　S-32→14 | 8世紀中頃前後 | K1・2 |
| 33 | | 溝 | S-33→28.26.29　　S-9と32と33は同一遺構？ | 奈良時代 | J1・2 |
| 34 | | ピット | S-25→34 | 古代 | K3 |
| 35 | | 土坑 | S-40→35 | 平安後期 | I3・4 |
| 36 | | ピット | | 古代 | K1 |
| 37 | | ピット | S-38→37→19 | 古代 | K2 |
| 38 | | ピット | | 古代 | K2 |
| 39 | | ピット | S-39→2 | 奈良時代 | K3 |
| 40 | 54SK040 | 土坑 | S-40→35 | XI期前後 | I3・4 |
| 41 | | ピット | S-41→24 | 古代 | K1 |
| 42 | | ピット | | | J2 |
| 43 | | ピット群 | | | I2 |
| 44 | 54SB135 | ピット | 石の礎板。S-46→44 | 平安時代 | I2 |
| 45 | | 土坑 | S-50→45 | 平安後期 | G4 |
| 46 | | ピット | S-46→44 | 9世紀前半？ | I2 |
| 47 | | ピット | | 奈良時代？ | I2 |
| 48 | | ピット | | 古代 | I2 |
| 49 | | ピット | | 奈良時代？ | I2 |
| 50 | 54SK050 | 土坑 | S-50→45 | XI期前後 | H4 |
| 51 | | ピット | S-53→52→51→42 | 奈良時代 | IJ2 |
| 52 | | ピット | | 奈良時代 | J2 |
| 53 | 54SB135 | ピット | | 奈良末～平安前期 | I2 |
| 54 | | ピット | | 奈良時代 | H2 |
| 55 | 54SK055 | 土坑 | | 平安後期 | G･H3 |
| 56 | | ピット群 | 一部SB135柱穴 | 古代 | H2 |
| 57 | | ピット群 | S-9→57 | 平安時代 | J3 |
| 58 | | ピット | | 平安時代 | J3 |
| 59 | | ピット | | 平安時代 | J4 |
| 60 | 54SK060 | 土坑? | S-60→76→75 | 9世紀前半～中頃 | G4・5 |
| 61 | | ピット | | 奈良時代 | J3 |
| 62 | | ピット群 | S-62→30 | 平安後期 | I2 |
| 63 | 54SB135 | ピット | S-63→30 | 平安時代 | I3 |
| 64 | | ピット | S-64→30 | 奈良～平安前期 | J3 |
| 65 | | ピット | S-65→50→45 | 平安後期 | H4 |
| 66 | | ピット | | 平安中期 | I3 |

| S-番号 | 遺構番号 | 種別 | 埋土等 | 時期 | 地区 |
|---|---|---|---|---|---|
| 67 | 54SA145 | ピット | | 平安時代 | I3 |
| 68 | | ピット | | 平安後期 | I3 |
| 69 | | ピット群 | | 平安時代 | I3 |
| 70 | 54SD070 | 溝 | | 7世紀末 | G～K、2・3 |
| 71 | | ピット群 | 一部SB135柱穴 | | H3 |
| 72 | | ピット | S-73→72 | | I2 |
| 73 | | ピット | | 奈良時代 | H2 |
| 74 | | ピット | | 奈良時代 | H2 |
| 75 | | 土坑? | S-75.76は土層の違いか? | 平安時代 | G5 |
| 76 | | 土坑? | S-60→76→75 | 平安後期？ | G5 |
| 77 | | ピット群 | | 平安時代 | G2 |
| 78 | | ピット | | 平安時代 | G4 |
| 79 | | ピット | | 平安時代 | G4 |
| 80 | 54SK080 | 土坑 | | 11世紀後半～12世紀前半 | L0 |
| 81 | | ピット | S-81→78。S-81→79→82 | 平安時代 | G4 |
| 82 | | ピット | | 平安時代 | G4 |
| 83 | | ピット | S-83→82 | 平安時代 | G4 |
| 84 | | ピット | S-84→86.82 | 古代 | G3 |
| 85 | | ピット | S-85→45。S-85→79 | 古代 | G4 |
| 86 | | ピット | | 平安時代 | G3 |
| 87 | | ピット | | 古代 | H3 |
| 88 | | ピット群 | | 平安前期？ | H3 |
| 89 | | ピット | S-89→43 | 平安中期～後期 | I3 |
| 90 | 54SK090 | 土坑 | | 平安後期 | KL0 |
| 91 | | ピット群 | S-91→89 | | I2 |
| 92 | 54SA145 | ピット | S-92→89 | 平安前期 | I2 |
| 93 | | ピット | | 平安時代 | L1 |
| 94 | | ピット群 | S-80→94 | 平安時代 | K0 |
| 95 | 54SK095 | 土坑 | S-95→90。S-80→90 | 平安後期 | K0 |
| 96 | | ピット | | 平安後期 | L0 |
| 97 | | ピット | S-97→51.52 | 奈良時代 | J1 |
| 98 | | ピット | S-9→98か? | 古代 | J3 |
| 99 | | ピット | S-99→60 | 古代 | G4 |
| 100 | 54SK100 | 土坑 | 最下面の窪みをS-100下とした。 | 8世紀前半～中頃 | K0 |
| 101 | | ピット | | | G2 |
| 102 | | ピット | S-102→71.65 | 平安後期 | G3 |
| 103 | | ピット | S-103→71 | | H3 |
| 104 | | ピット | S-104→40 | 平安時代 | I4 |
| 105 | | 土坑 | | 平安前期？ | L99 |
| 106 | | ピット | S-106→89 | 古代 | I3 |
| 107 | | ピット | S-107→52 | 古代 | J1 |
| 108 | | ピット | S-108→90 | 古代 | L0 |
| 109 | | ピット | S-109→32 | 奈良時代？ | K1 |
| 110 | | 土坑 | S-110→97.52.51 | 奈良時代 | J1 |
| 111 | | 小溝 | S-111→1.14.36 | 古代 | K1 |
| 112 | | ピット | S-112→51。S-110→112 | 奈良時代？ | I2 |
| 113 | 54SX113 | ピット | S-112→43 | 古代 | I2 |
| 114 | | 溝 | S-114→88 | 奈良時代 | I3 |
| 115 | | ピット | | 9世紀 | F4 |
| 116 | 54SX116 | ピット | S-116→43 | 古代 | I2 |
| 117 | | ピット | S-117→50 | | H4 |
| 118 | | ピット | S-118→57.58 | 9世紀？ | J3 |
| 119 | | ピット | | | F4 |
| 120 | 54SX120 | 窪み | 底面の窪みをS-120下とする。 | 8世紀前半 | JK・0～2 |
| 121 | | ピット群 | | 古代 | F3･4 |
| 122 | | ピット群 | 11世紀の黒褐色土 | 古代 | J･K0･1 |
| 123 | | ピット | 11世紀の黒褐色土 | 9世紀 | J･O |
| 124 | | ピット | | 平安前期？ | K0 |
| 125 | | ピット | S-124→125 | | K0 |
| 126 | | ピット | S-127→126。S-128→126。S-128→127 | 平安時代 | J0 |
| 127 | | ピット | | 平安時代 | J0 |
| 128 | | ピット | | 平安時代 | J0 |
| 129 | | ピット | S-120→129 | 平安時代 | K1 |
| 130 | | ピット | | 9世紀前半 | K1 |
| 135 | 54SB135 | 掘立柱建物 | S-44.53.56.63.71 | 平安前期 | HI.2・3 |
| 140 | 54SB140 | 建物？ | S-9.32 | 8世紀中頃前後 | JK.1～3 |
| 145 | 54SA145 | 柵列 | S-67.92 | 平安前期 | I2・3 |

# 表19．第54次調査　出土遺物一覧表

S-1

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕、破片 |
| 土師器 | 坏、破片 |
| 灰釉陶器 | 破片 |
| 石製品 | 石帯丸鞆 |

S-2

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、甕 |
| 土師器 | 坏、椀c、甕類、破片 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 土製品 | 土壁 |

S-3

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕 |
| 土師器 | 坏、坏a、丸底坏a、甕類 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 破片 |

S-4

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3、甕、壺 |
| 土師器 | 坏、坏a、甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 瓦類 | 平瓦(格子「佐」) |

S-5

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、坏、坏a、甕、鉢 |
| 土師器 | 坏a(ヘラ)、椀c、甕、破片 |
| 製塩土器 | 焼塩壺 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 緑釉陶器 | 破片 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子)、丸瓦(格子(小)) |
| 石製品 | 石鍋 |

S-6

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、坏a、甕 |
| 土師器 | 坏、坏a、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 小甕 |
| 黒色土器B類 | 小皿c |
| 越州窯系青磁 | 破片I(1) |

S-7

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、甕、破片 |
| 土師器 | 坏、椀c |
| 越州窯系青磁 | 破片I(1) |
| 土製品 | 土塊 |

S-8

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋?、破片 |
| 土師器 | 蓋c、小皿a、坏、甕 |

S-9

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、坏、坏c、甕 |
| 土師器 | 蓋、坏、坏a、椀、高坏、甕 |
| 白磁 | 椀；Ⅳ(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |
| 土製品 | 土壁 |

S-10

| | |
|---|---|
| 土師器 | 甕、破片 |
| 灰釉陶器 | 壺 |

S-11

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、坏c、高坏、甕 |
| 土師器 | 小皿a、坏、甕、破片 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 瓦類 | 破片 |

S-12

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 壺?、破片 |
| 土師器 | 坏c、甕 |

S-13

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3、坏c、高坏、甕、壺、短頸壺 |
| 土師器 | 蓋c、小皿a(ヘラ)、坏、皿c、甕 |
| 製塩土器 | 破片? |
| 白磁 | 皿；Ⅱ×Ⅲ(1) |
| 瓦類 | 平瓦(格子(大))、破片 |
| 金属製品 | 鉱滓 |
| 石製品 | 剥片(安山岩) |

S-14

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、甕、破片 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、坏a(ヘラ)、丸底坏a、椀c、甕 |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 白磁 | 破片(1) |
| 瓦類 | 破片 |
| 石製品 | 剥片(黒曜石) |

S-15

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3、坏c、甕、鉢、破片 |
| 土師器 | 小皿a、皿a、坏、坏a、椀c、甕 |
| 製塩土器 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 瓦類 | 平瓦(格子) |

S-16

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋1、蓋3、坏c、甕 |
| 土師器 | 坏、坏a、椀c、甕、把手、破片 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |

S-17

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、坏c |
| 土師器 | 坏、椀c、甕 |
| 製塩土器 | 焼塩壺 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 白磁 | 破片(3) |

S-18

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、破片 |
| 土師器 | 小皿a、坏、坏a、椀c |
| 黒色土器B類 | 破片 |

S-19

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋×皿、甕、破片 |
| 土師器 | 坏、椀c、甕、破片 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 瓦類 | 破片 |
| 土製品 | 土塊 |

S-20

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋1、蓋3、蓋c3、壺蓋、坏、坏a、坏c、皿a、高坏、高坏a?、甕、壺、壺c |
| 土師器 | 坏、坏a、坏c、皿b、椀c、甕、鉢、把手 |
| 緑釉陶器 | 椀×皿 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |

S-20最上層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋1、蓋2、蓋3、坏c、甕、壺?、高坏脚部 |
| 土師器 | 坏、坏c、坏d、甕 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |
| 金属製品 | 鉱滓 |

S-20下層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c3、蓋3、蓋c、坏c |
| 土師器 | 坏、高坏、甕 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |

S-21

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏a、壺 |
| 土師器 | 坏、坏a、甕、破片 |
| 瓦類 | 瓦玉 |

S-22

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、坏c、椀、甕 |
| 土師器 | 小皿a、坏、坏a、丸底坏a、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 瓦類 | 平瓦(無文) |

S-23

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、甕、破片 |
| 土師器 | 坏、甕 |
| 黒色土器B類 | 椀 |

S-24

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕、破片 |
| 土師器 | 坏a、椀c、甕 |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 白磁 | 椀；Ⅳ(1) |

S-25

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、坏a、坏c、皿a、椀a、甕 |
| 土師器 | 坏、皿a×蓋、甕、壺 |
| 瓦類 | 丸瓦 |
| 石製品 | 平玉石 |

S-26

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋2、坏c |
| 土師器 | 坏、坏a、甕 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |

S-27

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、坏、甕 |
| 土師器 | 坏?、甕 |

S-28

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、坏、高坏?、甕 |
| 土師器 | 小皿、坏、椀c、甕 |
| 黒色土器B類 | 椀、椀c |
| 瓦類 | 丸瓦 |
| 金属製品 | 鉄鏃 |

S-29

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 壺? |
| 土師器 | 甕、竈 |

S-30

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3、坏c、皿a、甕 |
| 土師器 | 小皿a、坏、坏a、丸底坏、椀c、甕 |
| 緑釉陶器 | 破片 |
| 白磁 | 椀；Ⅳ-1a(1)、白磁破片I(2) |
| 越州窯系青磁 | 破片I(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、無文)、瓦玉 |
| 土製品 | 土塊 |
| その他 | 石英 |

S-31

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、坏 |
| 土師器 | 坏、坏a(ヘラ) |
| 黒色土器A類 | 破片 |

S-32

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、蓋c、坏、高坏、甕、壺 |
| 土師器 | 蓋×皿、甕 |
| 石製品 | 掻器(安山岩) |
| 土製品 | 土塊 |

S-33

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、坏、甕、壺 |
| 土師器 | 甕 |

S-34

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、破片 |
| 土師器 | 甕、破片 |

S-35

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 小皿a、坏a、丸底坏?、椀、椀c |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 瓦類 | 平瓦(格子)、丸瓦(格子) |

S-36

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、破片 |
| 土師器 | 甕 |

S-37

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 |
| 土師器 | 破片 |

S-38

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋c3、坏、甕 |
| 土師器 | 坏、甕、破片 |

S-39

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏c、高坏、甕、壺 |
| 土師器 | 坏、甕 |
| 金属製品 | 鉱滓 |

S-40

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、坏c、甕、破片 |
| 土師器 | 小皿a、小皿a2、小皿c、坏a、丸底坏a、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 緑釉陶器 | 椀 |
| 灰釉陶器 | 壺 |
| 白磁 | 椀(1) |
| 瓦類 | 平瓦(二重格子)、丸瓦(格子) |
| 石製品 | 脚?、平玉石 |
| 土製品 | 土塊 |
| その他 | 木炭 |

S-41

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、破片 |
| 土師器 | 破片 |

S-42

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 坏a、坏c、破片 |

S-43

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、坏、坏a、高坏、甕 |
| 土師器 | 坏a、丸底坏a、高坏、椀c、甕、破片 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 緑釉陶器 | 破片 |
| 瓦類 | 丸瓦(縄目) |
| 石製品 | 剥片(黒曜石) |

S-44

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏a、甕、壺、破片 |
| 土師器 | 坏、椀c、甕、破片 |
| 瓦類 | 平瓦(格子) |

S-45

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、甕、破片 |
| 土師器 | 小皿a、椀、甕 |
| 黒色土器B類 | 椀c、破片 |
| 中国陶器 | 破片(1) |
| 瓦類 | 平瓦(無文) |

S-46

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、坏a、坏c |
| 土師器 | 甕、破片 |
| 石製品 | 軽石 |

S-47

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、高坏、壺 |
| 土師器 | 甕、破片 |

S-48

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、破片 |
| 土師器 | 坏、甕 |
| 石製品 | 丸石 |

S-49

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、坏、甕 |
| 土師器 | 坏a、甕、破片 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |

S-50

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋1、甕、壺、破片 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、坏a(ヘラ)、丸底坏a、椀c、甕、鉢 |
| 黒色土器A類 | 椀、椀c |
| 黒色土器B類 | 小皿a |
| 灰釉陶器 | 壺 |
| 白磁 | 椀；破片(1)　皿；V(1)　白磁破片(7) |
| 越州窯系青磁 | 壺Ⅰ(1)　合子蓋（1）　越破片(1) |
| 瓦類 | 平瓦(格子)、丸瓦(格子、無文) |
| 石製品 | 剥片(黒曜石) |

S-51

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、蓋c、坏c |
| 土師器 | 蓋?、皿、皿b、甕、把手?、破片 |
| 金属製品 | 鉱滓 |

S-52

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、坏c、椀a、壺? |
| 土師器 | 蓋、甕、破片 |
| 製塩土器 | 破片 |

S-53

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、坏、坏a、坏c、高坏、破片 |
| 土師器 | 坏、皿b、椀c、甕、破片 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 瓦類 | 平瓦(無文) |

S-54

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 壺? |
| 土師器 | 甕 |

S-55

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、破片 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、小皿a2、小皿c、椀、椀c、丸底坏<br>甕、甕類 |
| 黒色土器A類 | 椀、椀c、破片 |
| 白磁 | 椀；V-1×Ⅷ-2(2) |

S-56

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、坏、坏身(7c) |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、坏a(ヘラ)、椀c、甕、破片 |
| 製塩土器 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 瓦類 | 平瓦(格子) |

S-57

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋c、甕 |
| 土師器 | 坏、坏a、甕、竈? |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |

S-58

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、甕 |
| 土師器 | 小皿a?、坏、椀、甕 |
| 白磁 | 破片(1) |
| 瓦類 | 平瓦(無文) |

S-59

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c |
| 土師器 | 小皿a、坏a?、甕? |
| 黒色土器B類 | 破片 |

S-60上層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、甕 |
| 土師器 | 坏、小甕、破片 |
| 緑釉陶器 | 破片 |
| 瓦類 | 平瓦(格子)、丸瓦(無文) |

S-60中層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏a、坏c、甕 |
| 土師器 | 小皿a、坏×椀、坏a、椀c、甕、鉢×壺 |
| 黒色土器A類 | 椀、椀c |
| 緑釉陶器 | 破片 |
| 瓦類 | 丸瓦(無文) |

S-60下層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏c |
| 土師器 | 坏a、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 緑釉陶器 | 皿c |
| 越州窯系青磁 | 椀；I(1)　坏?I(1) |
| 瓦類 | 平瓦(格子、無文)、丸瓦(格子) |

S-61

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、壺? |
| 土師器 | 甕 |

S-62

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕 |
| 土師器 | 小皿a、坏a、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 破片 |

S-63

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕、破片 |
| 土師器 | 坏 |
| 瓦類 | 丸瓦(格子) |

S-64

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、坏c、甕 |
| 土師器 | 坏、皿b、椀c、甕 |

S-65

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c |
| 土師器 | 小皿a、小皿a2、坏、丸底坏a、椀c |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀；I-1a(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子) |

S-66

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、壺 |
| 土師器 | 椀、椀c、甕 |
| 製塩土器 | 破片 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀 |

S-67

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋?、甕 |
| 土師器 | 椀c、甕類 |
| 瓦類 | 平瓦(格子) |

S-68

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕、破片 |
| 土師器 | 椀c、甕、破片 |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 白磁 | 椀；Ⅳ(1) |

S-69

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、壺 |
| 土師器 | 皿b、椀c、甕 |

S-70最上層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋c、坏、甕、壺 |
| 土師器 | 坏a、甕 |
| 瓦類 | 平瓦(格子) |

S-70上層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋c、蓋c1、蓋2、蓋2?、蓋c2、蓋3、坏、坏a、<br>小坏a、坏a?、坏c、小坏c、椀a、椀、椀a×坏a<br>高坏a、高坏脚、甕、壺蓋、蓋、鉢、横瓶、小壺、壺、<br>長頸壺、脚付盤 |
| 土師器 | 蓋、蓋2、坏、坏c、皿、皿b、皿×高坏、椀×鉢<br>甕、把手付小甕、破片 |
| 製塩土器 | 焼塩壺 |
| 土製品 | トリベ、土壁 |

S-70下層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋2、蓋3、蓋a、蓋c、坏a、坏、坏c、高坏a<br>高坏脚、小壺、短頸壺、横瓶 |
| 土師器 | 坏、坏c、、坏×皿、皿、皿b、甕、小甕、把手、破片 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 緑釉陶器 | 破片 |
| 金属製品 | 鉱滓 |
| 土製品 | 土塊 |

S-71

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |
| 土師器 | 坏、坏a、甕 |
| 製塩土器 | 破片 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | 破片I(1) |

S-72

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 |
| 土師器 | 坏、甕 |
| 黒色土器B類 | 椀c |

S-73

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、坏、甕 |
| 土師器 | 坏、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c |

S-74

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c1 |
| 土師器 | 甕 |

S-75

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕、短頸壺 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、丸底坏a、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀、破片 |
| 黒色土器B類 | 椀、破片 |
| 瓦類 | 丸瓦(格子) |

S-76

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、坏c、高坏、甕、大甕 |
| 土師器 | 小皿a、坏a、丸底坏?、椀、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、無文) |

S-77

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、坏c |
| 土師器 | 坏、椀c、甕 |
| 製塩土器 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀、椀c |
| 白磁 | 椀：I-1(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |

S-78

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、甕、破片 |
| 土師器 | 坏、椀c、甕類 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 破片I(1) |

S-79

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏?、破片 |
| 土師器 | 坏、甕 |
| 白磁 | 椀；Ⅳ(1) |
| 瓦類 | 破片 |

S-80

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3、蓋c、坏、坏c、高坏、甕、壺、破片 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、小皿a2、坏a、丸底坏a、丸底坏c、丸底坏<br>椀、椀c、甕、甕類、鍋?、小壺、器台、把手、<br>甕×鉢、鉢、破片 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀、椀c |
| 緑釉陶器 | 椀×皿、椀 |
| 灰釉陶器 | 壺、壺×甕、破片 |
| 越州窯系青磁 | 椀：I(1)　越破片I(2)、Ⅱ(2)、Ⅲ(1)<br>耳壺(1)、壺I(1)、壺Ⅱ(2) |
| 白磁 | 椀：I-1(1)、Ⅳ(1)、XI-3×5(1)、XI-5(1)<br>輪花(1)　白磁破片(3)<br>皿：Ⅱ-1a(1)、Ⅴ-2b(1)、Ⅵ-2×Ⅶ-b(1)、XI-5(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子、二重格子、無文)、丸瓦(縄消し、格子) |
| 石製品 | 滑石片、剥片(黒曜石)、砥石?、砥石<br>丸石、用途不明品 |
| 土製品 | 土塊 |

暗茶色土(S-80上)

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、坏c、甕、破片 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、丸底坏a、丸底坏c、椀c、小甕、脚付鉢、鍋 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀、椀c、鉢 |
| 灰釉陶器 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀：I-2b(1) |
| 白磁 | 椀：Ⅳ-1a(2)、Ⅳ-1b(1)、Ⅳ(2)、Ⅴ-1a(1)、XI-1(1)<br>内底沈線(1)、広東系(1)、破片(1)<br>皿：広東系(1)、破片(1)　壺(1)　白磁破片(2) |
| 中国陶器 | 壺(1) |
| 肥前系陶磁器 | 皿×椀 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |
| 金属製品 | 鉱滓、鉄釘 |
| 土製品 | 有孔円盤 |
| 石製品 | 砥石、石鍋、板状製品 |

S-81

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 坏a、椀c、甕 |

S-82

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏、坏a×小皿a、甕 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 白磁 | 破片(1) |

S-83

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、坏c、甕 |
| 土師器 | 坏、甕 |

S-84

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏 |
| 土師器 | 椀c、甕? |

S-85

| | |
|---|---|
| 土師器 | 甕類、破片 |
| その他 | 石炭 |

S-86

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、甕、壺 |
| 土師器 | 坏、坏a、椀c、破片 |
| 越州窯系青磁 | 破片I(1) |
| 瓦類 | 丸瓦(無文) |
| 土製品 | 土塊 |

S-87

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、破片 |
| 土師器 | 甕類、破片 |
| 金属製品 | 用途不明鉄製品、鉄鏃×刀子×釘片？ |

S-88

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、坏c |
| 土師器 | 坏、甕 |

S-89

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕、破片 |
| 土師器 | 小皿a、坏、椀c、把手 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 越州窯系青磁 | 破片I(1) |
| 瓦類 | 平瓦(格子) |

S-90

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 椀、高坏、甕、壺、破片 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、小皿a2、坏a(ヘラ)、丸底坏a、丸底坏<br>椀、椀c、甕 |
| 黒色土器B類 | 椀、椀c |
| 灰釉陶器 | 破片 |
| 白磁 | 破片(1) |
| 瓦類 | 平瓦(格子) |
| 石製品 | 剥片(黒曜石) |
| 土製品 | 土塊 |
| 金属製品 | 鉄釘 |

S-91

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、椀?、壺?、破片 |
| 土師器 | 坏a、甕、破片 |
| 越州窯系青磁 | 椀：I(2) |

S-92

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕、壺? |
| 土師器 | 坏a、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀、椀c |
| 瓦類 | 破片 |

S-93

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、壺? |
| 土師器 | 坏、椀c、甕類、盤×鉢 |

S-94

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏、甕類 |

S-95

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、坏a、坏c |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、丸底坏a、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀、椀c、破片 |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 越州窯系青磁 | 小壺I類(1) |
| 瓦類 | 平瓦(格子) |
| 金属製品 | 鉄釘 |

S-96

| | |
|---|---|
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、坏、椀c |

S-97

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、坏c、破片 |
| 土師器 | 蓋c、坏c、甕 |

S-98

| | |
|---|---|
| 土師器 | 甕 |

S-99

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、坏 |
| 土師器 | 甕、破片 |

S-100

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋1、蓋3、蓋a3、蓋c3、壺蓋、坏、坏a?、坏c<br>皿a、皿、高坏、甕、壺 |
| 土師器 | 蓋、蓋c、坏a?、坏c、皿b、大皿c、椀c、甕、破片 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |

S-100下

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3 |

S-101

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏 |
| 土師器 | 坏、破片 |

S-102

| | |
|---|---|
| 土師器 | 丸底坏a |

S-103

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕 |

S-104

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕 |
| 土師器 | 坏a×小皿a |
| 黒色土器B類 | 椀c |

S-105

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3、坏c、壺 |
| 土師器 | 坏、甕 |

S-106

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏c、甕 |
| 土師器 | 坏a、甕 |
| 金属製品 | 鉱滓 |

S-107

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 甕 |

S-108

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕、破片 |
| 土師器 | 甕 |

S-109

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、高坏、破片 |
| 土師器 | 坏、甕 |
| 土製品 | 土塊 |

S-110

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、坏、坏c |
| 土師器 | 蓋、坏、坏c、甕 |

S-110最上層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c3、甕、壺 |
| 土師器 | 皿?、甕 |

S-111

| | |
|---|---|
| 土師器 | 甕 |

S-112

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、破片 |
| 土師器 | 甕、破片 |

S-113

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、坏c |
| 土師器 | 坏 |

S-114

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、蓋c、坏、坏c、高坏 |
| 土師器 | 皿?、甕 |

S-115

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏a、椀c |
| 瓦類 | 平瓦(格子) |

S-116

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏a、坏c、甕 |
| 土師器 | 坏a、甕、破片 |
| 灰釉陶器 | 壺 |
| 越州窯系青磁 | 椀：I-1a(1)　壺(1)　褐釉壺（1） |
| 白磁 | 椀：段②(1)、破片(1) |

S-117

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 |
| 土師器 | 坏、甕 |

S-118

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 坏a、甕 |
| 瓦類 | 破片 |

S-120

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、椀、坏a、甕、破片 |
| 土師器 | 小皿、坏、坏c、皿b、高坏?、甕 |
| 白磁 | 椀；Ⅳ(1) |
| 土製品 | 土塊 |
| 金属製品 | 用途不明鉄製品 |

S-120下

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、甕 |
| 土師器 | 甕類 |
| 土製品 | 土塊 |

S-121

| | |
|---|---|
| 土師器 | 破片 |
| 黒色土器A類 | 椀 |

S-122

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、破片 |
| 土師器 | 坏、坏a、甕、破片 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 白磁 | 口縁内湾（1） |
| 瓦類 | 丸瓦 |
| 土製品 | 焼土塊 |
| その他 | 炭 |

S-123

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、甕、破片 |
| 土師器 | 蓋?、坏a、甕 |
| 白磁 | 破片（1） |
| 瓦類 | 平瓦(格子)、破片(縄目) |

S-124

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、坏、坏c、甕 |
| 土師器 | 坏、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c |

S-125

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏c、甕 |
| 土師器 | 蓋、坏、坏d、甕類 |
| 白磁 | 椀：I-1（1） |
| 土製品 | 土塊 |

S-126

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、蓋c、坏c、甕 |
| 土師器 | 小皿a2、坏d、皿a、椀c、竈? |
| 石製品 | 平玉石 |
| 土製品 | 土塊 |
| 金属製品 | 鉄塊 |

S-127

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕、破片 |
| 土師器 | 坏c、椀c、甕、脚部 |
| 越州窯系青磁 | 破片I(1) |

S-128

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏c、甕 |
| 土師器 | 坏a、丸底坏?、椀c |
| 黒色土器A類 | 椀 |

S-129

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3、坏a、坏c、甕、壺? |
| 土師器 | 坏、甕 |
| 灰釉陶器 | 破片 (1) |
| 越州窯系青磁 | 椀：II(1) |

S-130

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、坏a、坏c |
| 土師器 | 坏、坏a、甕 |
| 越州窯系青磁 | 破片I(1) |
| 石製品 | 剥片(黒曜石、安山岩) |
| 土製品 | 焼土塊 |

暗茶色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋1、蓋2、蓋c、坏、坏c、高坏、高坏b?、皿b、<br>皿b(暗文あり)、甕、壺蓋、小壺、鉢(篠窯)、破片 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、小皿a2、皿、坏、坏a、丸底坏a、椀<br>椀c、甕、器台、把手、盤、脚付鉢、破片 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 灰釉陶器 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 椀；II-b(1) |
| 白磁 | 椀；II-1a(1)、IV(1)、破片(1)<br>皿；XI(1)　白磁破片(1) |
| 龍泉窯系青磁 | 椀；II-b(1)、破片?(1) |
| 須恵質土器 | 鉢? |
| 須恵質(輸入) | 朝鮮系無釉陶器 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子)、丸瓦(格子)、塼 |
| 土製品 | 鞴羽口 |
| 金属製品 | 銅銭 |

灰黄色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、蓋c1、坏a、坏a×高坏、坏c、皿a、<br>皿b、皿b?、壺 |
| 土師器 | 小皿a2、椀c、甕 |

灰茶色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、坏、坏a、高坏、甕、壺 |
| 土師器 | 皿b、椀c、甕 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目)、丸瓦(無文) |

暗灰色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 壺? |
| 土師器 | 小皿a、坏、坏a、椀c |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 灰釉陶器 | 椀 |

表土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋1、蓋3、蓋c、蓋c3、小坏c、坏、坏c、甕、壺 |
| 土師器 | 蓋3、小皿a、小皿a2、坏、坏a(ヘラ)、丸底坏、<br>丸底坏a、椀c、高坏、甕、破片 |
| 製塩土器 | 焼塩壺 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 須恵質土器 | 鉢 |
| 灰釉陶器 | 壺、破片? |
| 越州窯系青磁 | 椀；I割花(1)　破片I(2)、I割花(1)、II(2) |
| 白磁 | 椀；II(1)、IV(6)、IV-2a(1)、VIII-4(1)、破片(7)<br>皿；VI-1b(1)<br>白磁破片(9)、広東系(1)、直口(2)、輪花(1) |
| 龍泉窯系青磁 | 椀；II-b(1) |
| 青白磁 | 破片(1) |
| 黒釉陶器 | 天目椀 |
| 肥前系磁器 | 破片 |
| 国産陶器 | 擂鉢、蓋、破片 |
| 国産磁器 | 皿 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子)、丸瓦(格子)、燻し瓦(平瓦)、破片 |
| 金属製品 | 鉱滓 |
| 石製品 | 砥石?、平玉石 |

出土地不明

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3、蓋c、坏c、坏、甕、壺 |
| 土師器 | 坏、高坏、甕 |
| 製塩土器 | 破片? |
| 金属製品 | 鉱滓 |

# 表20．第54次調査　土器供膳具計測表

A：内底ナデ　B：板状圧痕

S-5

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a | ヘラ | R-001 | Fig.89-2 | | 1.6+α | (7.4) | | |
| | 椀c | | R-002 | Fig.89-1 | | 2.8+α | (8.2) | ○? | |

S-6

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒色土器B | 小皿c | R-001 | Fig.89-22 | (11.1) | 3.0 | (7.0) | | |

S-9（S-140）

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 | | R-003 | Fig.74-11 | | 1.7+α | (13.6) | | |
| | 蓋c | | R-004 | Fig.74-8 | | 1.2+α | | | |
| | 坏c | ヘラ | R-002 | Fig.74-13 | | 1.2+α | (10.4) | | |
| 土師器 | 坏a | ヘラ | R-001 | Fig.74-16 | | 1.3+α | 7.5 | ○? | |

S-20最上層

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 | | R-002 | Fig.82-3 | | 1.7+α | | | |
| | 蓋3 | | R-003 | Fig.82-1 | | 0.9+α | | | |
| | 蓋3 | | R-004 | Fig.82-2 | | 1.6+α | | | |
| | 坏c | | R-001 | Fig.82-4 | | 1.5+α | | ○ | |
| 土師器 | 坏c | | R-005 | Fig.82-5 | (20.0) | 2.9 | (16.4) | ○? | |

S-20

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 | | R-005 | Fig.82-12 | (15.0) | 1.4+α | | | |
| | 蓋3 | | R-006 | Fig.82-15 | | 1.3+α | | | |
| | 蓋3 | | R-007 | Fig.82-16 | | 1.3+α | | | |
| | 蓋3 | | R-021 | Fig.82-10 | | 1.6+α | | | |
| | 蓋3 | | R-022 | Fig.82-11 | (14.6) | 1.5 | | | |
| | 蓋3 | | R-023 | Fig.82-13 | | 2.05+α | | | |
| | 蓋3 | | R-024 | Fig.82-14 | | 2.3+α | | | |
| | 蓋c3 | | R-004 | Fig.82-8 | (14.3) | 1.6 | | | |
| | 蓋c3 | | R-011 | Fig.82-9 | (15.1) | 2.4 | | | |
| | 壺蓋 | | R-012 | Fig.82-17 | (16.0) | 2.9+α | | | |
| | 坏c | ヘラ | R-001 | Fig.82-26 | (17.0) | 4.9 | (12.0) | ○ | |
| | 坏c | ヘラ | R-002 | Fig.82-25 | | 2.9+α | (10.4) | ○ | |
| | 坏c | ヘラ | R-003 | Fig.82-22 | | 1.9+α | (7.0) | ○ | |
| | 坏c | − | R-014 | Fig.82-21 | (12.6) | 3.1 | (9.4) | − | |
| | 坏c | ヘラ | R-026 | Fig.82-23 | | 3.3+α | (8.8) | ○ | |
| | 坏c | ヘラ | R-027 | Fig.82-24 | | 3.8+α | (8.6) | ○ | |
| | 坏c | ヘラ | R-028 | Fig.82-19 | (12.3) | 2.8 | (8.2) | ○ | |
| | 坏c | ヘラ | R-029 | Fig.82-20 | (12.4) | 3.65 | (8.0) | ○ | |
| | 皿a | ヘラ | R-025 | Fig.82-18 | (17.0) | 1.95 | (13.8) | ○ | |
| 土師器 | 坏a | ヘラ | R-018 | Fig.83-29 | | 1.2+α | (8.8) | ○ | |
| | 坏c | − | R-008 | Fig.83-31 | | 1.7+α | (12.0) | − | |
| | 坏c | − | R-019 | Fig.83-30 | | 1.5+α | (11.0) | − | |
| | 坏c | − | R-020 | Fig.83-32 | | 2.8+α | (12.0) | − | |
| | 椀c | − | R-009 | Fig.83-33 | | 1.8+α | | − | |

S-20下層

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 | | R-004 | Fig.83-40 | | 1.7+α | | | |
| | 蓋3 | | R-005 | Fig.83-41 | | 1.5+α | | | |
| | 蓋3 | | R-006 | Fig.83-42 | | 1.3+α | | | |
| | 蓋c | | R-003 | Fig.83-39 | | 1.4+α | | | |
| | 蓋c3 | | R-002 | Fig.83-38 | (14.0) | 1.8+α | | | |
| | 坏c | ヘラ | R-001 | Fig.83-43 | | 3.7+α | | ○ | |

S-25

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 | | R-001 | Fig.89-8 | | 1.75+α | | ○ | |
| | 蓋3 | ヘラ | R-002 | Fig.89-6 | (10.6) | 1.7+α | | | |
| | 蓋3 | | R-003 | Fig.89-10 | | 1.45+α | | | |
| | 蓋3 | ヘラ | R-004 | Fig.89-9 | | 1.1+α | | ○ | |
| | 蓋3 | ヘラ | R-005 | Fig.89-7 | (12.8) | 1.6+α | | ○ | |
| | 坏a | ヘラ | R-007 | Fig.89-11 | 10.4 | 2.6 | 8.3 | ○ | |
| | 坏c | ヘラ | R-006 | Fig.89-12 | | 1.2+α | (9.2) | ○ | |

S-32（S-140）

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋1 | | R-004 | Fig.74-10 | | 2.2+α | | | |
| | 蓋3 | ヘラ | R-003 | Fig.74-12 | (15.0) | 1.6+α | | ○ | |
| | 蓋c | | R-001 | Fig.74-9 | | 0.8+α | | | |

S-35

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | R-001 | Fig.83-45 | | 1.4+α | | | ○ |
| | 椀c | R-002 | Fig.83-46 | | 2.6+α | | ○ | |
| 黒色土器A | 椀 | R-003 | Fig.83-47 | | 3.7+α | | | |

S-40

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | | R-001 | Fig.83-53 | (10.4) | 1.4 | (7.5) | | |
| | 小皿a | | R-002 | Fig.83-52 | (10.4) | 1.3 | (8.0) | ○ | |
| | 小皿a | | R-003 | Fig.83-50 | (9.6) | 0.9 | (6.9) | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-004 | Fig.83-51 | 10.2 | 1.65 | 7.0 | ○ | ○ |
| | 小皿a2 | ヘラ | R-006 | Fig.83-54 | (10.0) | 1.0 | (6.6) | ○ | |
| | 小皿a2 | | R-007 | Fig.83-55 | (10.0) | 0.95 | (6.4) | ○ | |
| | 小皿c | | R-008 | Fig.83-56 | (10.6) | 1.5+α | | | |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-005 | Fig.83-57 | (12.2) | 1.9 | (7.8) | ○ | |
| | 丸底坏a | | R-009 | Fig.83-58 | (14.4) | 3.0 | (8.6) | | |

S-50

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | R-001 | Fig.84-2 | (9.6) | 0.9 | (7.2) | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.84-3 | (9.8) | 1.5 | (7.4) | ○ | |
| | 小皿a | | R-003 | Fig.84-5 | (10.2) | 1.1 | (7.2) | | |
| | 小皿a | | R-004 | Fig.84-4 | (10.2) | 1.1 | (7.4) | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-005 | Fig.84-1 | (9.4) | 1.35 | (7.4) | ○ | ○ |
| | 小皿a | | R-006 | Fig.84-6 | (10.4) | 1.2 | (7.7) | | |
| | 丸底坏 | | R-009 | Fig.84-7 | (16.6) | (4.7+α) | | | |
| | 丸底坏 | | R-010 | Fig.84-8 | | 5.05+α | | | |
| 黒色土器B | 小皿a | | R-007 | Fig.84-10 | (10.6) | 1.3 | (7.4) | | |

S-53（S-135a）

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 | | R-001 | Fig.74-1 | | 0.9+α | | | |
| | 蓋3 | | R-002 | Fig.74-3 | | 1.2+α | | | |
| | 蓋3 | | R-003 | Fig.74-2 | | 0.7+α | | | |
| | 坏c | | R-006 | Fig.74-4 | | 3.0+α | (8.4) | | |
| 土師器 | 皿b | | R-005 | Fig.74-6 | | 2.5+α | | | |

S-55

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | R-004 | Fig.84-13 | (10.0) | 1.1 | (7.3) | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-005 | Fig.84-17 | (10.8) | 1.6 | (7.1) | ○ | ○ |
| | 小皿a | | R-006 | Fig.84-16 | (10.4) | 1.2 | (8.0) | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-007 | Fig.84-15 | (10.2) | 1.7 | (7.6) | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-008 | Fig.84-14 | 10.1 | 1.4 | 7.7 | ○ | ○ |
| | 小皿a2 | ヘラ | R-009 | Fig.84-18 | (10.6) | 1.3 | (7.4) | ○ | ○ |
| | 小皿a2 | ヘラ | R-010 | Fig.84-19 | (10.8) | 1.2 | (8.1) | ○ | ○ |
| | 小皿a2 | ヘラ | R-011 | Fig.84-21 | (10.8) | 1.2 | (7.0) | ○ | ○ |
| | 小皿a2 | ヘラ | R-012 | Fig.84-20 | (10.8) | 1.2 | (7.7) | ○ | ○ |
| | 小皿c | ヘラ | R-003 | Fig.84-22 | (11.8) | 2.4 | 6.7 | ○ | |
| | 丸底坏 | | R-001 | Fig.84-24 | (15.0) | 4.7+α | | | |
| | 椀c | ヘラ | R-002 | Fig.84-23 | (14.4) | 5.2 | (7.8) | | |

S-60上層

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 | | R-002 | Fig.84-30 | | 1.8+α | | | |
| | 蓋3 | | R-003 | Fig.84-31 | | 1.4+α | | | |

S-60中層

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 | | R-004 | Fig.84-33 | | 1.5+α | | | |
| | 坏c | | R-003 | Fig.84-34 | | 1.8+α | | ○ | |
| 土師器 | 坏×椀 | | R-002 | Fig.84-35 | | 2.6+α | | | |

S-60下層

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a | ヘラ | R-006 | Fig.84-39 | | 1.9+α | 7.5 | | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-007 | Fig.84-38 | | 1.1+α | 6.9 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-008 | Fig.84-41 | | 2.1+α | | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-009 | Fig.84-40 | | 1.9+α | | | |
| | 坏a | ヘラ | R-010 | Fig.84-37 | (12.0) | 3.5 | (6.5) | | |
| | 椀c | | R-001 | Fig.84-45 | | 1.8+α | 8.1 | | |
| | 椀c | ヘラ | R-002 | Fig.84-44 | | 2.6+α | 7.7 | | |
| | 椀c | | R-003 | Fig.84-42 | | 2.1+α | 6.6 | ○ | |
| | 椀c | | R-004 | Fig.84-43 | | 2.8+α | (6.8) | | |

S-67（S-145a）

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 椀c | R-001 | Fig.74-19 | | 1.1+α | | | |

S-74

| 種別 | 器種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋c1 | R-001 | Fig.90-1 | (15.0) | 2.9+α | | | |

S-75

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | R-001 | Fig.84-26 | (9.7) | 1.4 | (8.1) | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.84-27 | (9.8) | 1.2 | (7.6) | ○ | − |
| | 坏a | ヘラ | R-003 | Fig.84-28 | (14.0) | 2.65+α | − | − | − |
| | 椀 | | R-004 | Fig.84-29 | (15.0) | 2.85+α | − | | |

S-90

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 椀 | − | R-008 | Fig.87-49 | (17.8) | 5.7+α | − | − | − |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | R-001 | Fig.87-52 | (9.8) | 1.2 | (7.9) | − | − |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.87-51 | (9.6) | 1.3 | (8.2) | ○ | − |
| | 小皿a | ヘラ | R-003 | Fig.87-50 | (9.7) | 1.2 | (7.6) | − | − |
| | 小皿a | ヘラ | R-004 | Fig.87-53 | 10.0 | 1.2 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 坏a | ヘラ | R-007 | Fig.87-54 | (14.8) | 2.9 | 10.8 | − | ○ |
| | 丸底坏 | ヘラ | R-005 | Fig.87-55 | (15.0) | 3.5+α | − | − | − |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-006 | Fig.87-56 | (15.6) | 3.3+α | | − | − |

S-92（S-145b）

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 坏a | ヘラ | R-002 | Fig.74-21 | − | 2.0+α | (7.2) | − | − |
| 黒色土器A | 椀c | − | R-001 | Fig.74-22 | (14.7) | 5.5 | (7.1) | − | − |

S-70上層

| 種別 | 器　種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋c1 | R-009 | Fig.75-5 | 15.5 | 3.5 | | | |
| | 蓋c1　ヘラ | R-010 | Fig.75-9 | (16.8) | 2.8 | | ○ | |
| | 蓋c1 | R-017 | Fig.75-4 | (15.2) | 4.0 | | | |
| | 蓋c1 | R-018 | Fig.75-8 | 16.2 | 3.1 | | | |
| | 蓋c1 | R-031 | Fig.75-2 | (14.6) | 2.7 | | | |
| | 蓋c1 | R-032 | Fig.75-3 | (15.0) | 2.4+α | | | |
| | 蓋c1　ヘラ | R-048 | Fig.75-7 | (16.0) | 2.15+α | | ○ | |
| | 蓋c1　ヘラ | R-075 | Fig.75-6 | (16.0) | 4.35 | | ○ | |
| | 蓋c2　ヘラ | R-047 | Fig.75-23 | (11.2) | 2.3+α | | ○ | |
| | 蓋1 | R-020 | Fig.75-14 | (17.6) | 1.5+α | | | |
| | 蓋1 | R-034 | Fig.75-17 | - | 1.2+α | | | |
| | 蓋1 | R-039 | Fig.75-12 | (15.2) | 1.9+α | | | |
| | 蓋1 | R-040 | Fig.75-16 | - | 2.1+α | | | |
| | 蓋1 | R-042 | Fig.75-18 | - | 2.0+α | | | |
| | 蓋1　ヘラ | R-045 | Fig.75-19 | | 2.55+α | | ○ | |
| | 蓋1　ヘラ | R-046 | Fig.75-20 | | 3.0+α | | ○ | |
| | 蓋1　ヘラ | R-053 | Fig.75-13 | (17.2) | 2.8+α | | ○ | |
| | 蓋1　ヘラ | R-067 | Fig.75-11 | (14.0) | 2.1+α | | ○ | |
| | 蓋1 | R-068 | Fig.75-15 | | 1.35+α | | | |
| | 蓋2 | R-005 | Fig.75-25 | | 1.2+α | | ○ | |
| | 蓋2 | R-076 | Fig.75-24 | (12.0) | 1.4+α | | | |
| | 蓋2? | R-014 | Fig.75-26 | (17.8) | 1.3+α | | | |
| | 蓋3　ヘラ | R-077 | Fig.75-27 | | 1.9+α | | ○ | |
| | 蓋c | R-019 | Fig.75-10 | - | 2.3+α | | | |
| | 蓋 | R-033 | Fig.75-22 | 12.3 | 4.6 | | | |
| | 壺蓋 | R-043 | Fig.75-21 | (20.0) | 3.05+α | | | |
| | 小坏a　ヘラ | R-054 | Fig.75-32 | (9.8) | 3.1 | (7.5) | | |
| | 小坏a　ヘラ | R-078 | Fig.75-33 | | 0.9+α | (7.0) | ○ | |
| | 坏a | R-041 | Fig.75-34 | (10.4) | 3.25 | (7.6) | | |
| | 坏a　ヘラ | R-049 | Fig.75-35 | (13.4) | 4.95 | (12.0) | ○ | |
| | 小坏c | R-055 | Fig.76-46 | | 1.6+α | (6.7) | ○ | |
| | 小坏c | R-056 | Fig.76-45 | | 2.1+α | (6.4) | ○ | ○ |
| | 小坏c | R-079 | Fig.76-44 | | 1.7+α | (6.3) | ○ | |
| | 坏c　ヘラ | R-006 | Fig.76-37 | 13.4 | 4.4+α | | ○ | |
| | 坏c　ヘラ | R-007 | Fig.76-36 | 13.2 | 5.8 | 9.2 | ○ | |
| | 坏c　ヘラ | R-008 | Fig.76-38 | (13.6) | 5.5 | 9.2 | ○ | |
| | 坏c　ヘラ | R-035 | Fig.76-39 | (14.6) | 3.8 | | ○ | × |
| | 坏c　ヘラ | R-064 | Fig.76-41 | | 5.3+α | (10.8) | ○ | |
| | 坏c | R-065 | Fig.76-40 | (15.8) | 6.3 | 10.9 | ○ | |
| | 坏c | R-069 | Fig.76-42 | | 3.3+α | (8.0) | ○ | |
| | 坏c　ヘラ | R-080 | Fig.76-43 | | 1.5+α | (10.0) | ○ | |
| | 椀 | R-021 | Fig.75-30 | (18.0) | 5.3+α | − | | |
| | 椀 | R-062 | Fig.75-29 | (17.2) | 4.35+α | | | |
| | 椀a　ヘラ | R-004 | Fig.75-28 | (12.5) | 6.2 | | ○ | |
| | 椀a×坏a　ヘラ | R-063 | Fig.75-31 | | 3.9+α | (9.0) | ○ | |
| 土師器 | 蓋2 | R-072 | Fig.78-62 | | 2.7+α | | | |
| | 皿 | R-023 | Fig.78-63 | (17.4) | 2.55 | (14.9) | | |
| | 皿b | R-011 | Fig.78-64 | (20.2) | 3.4+α | | | |
| | 皿b | R-057 | Fig.78-65 | | 2.9+α | | | |
| | 皿b | R-061 | Fig.78-66 | | 2.55+α | | | |
| | 皿×高坏 | R-073 | Fig.78-67 | | 2.9+α | | | |
| | 椀×鉢 | R-082 | Fig.78-68 | | 3.1+α | | | |

S-70下層

| 種別 | 器　種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋1 | R-007 | Fig.80-10 | | 1.4+α | | | |
| | 蓋1　ヘラ | R-008 | Fig.80-11 | | 2.9+α | | ○ | |
| | 蓋1　ヘラ | R-009 | Fig.80-2 | (13.4) | 2.7+α | | ○ | |
| | 蓋1 | R-021 | Fig.80-3 | (14.0) | 1.6+α | | | |
| | 蓋1 | R-022 | Fig.80-6 | | 1.9+α | | ○ | |
| | 蓋1 | R-023 | Fig.80-4 | (14.6) | 1.9+α | | | |
| | 蓋1 | R-024 | Fig.80-5 | (14.6) | 1.75+α | | | |
| | 蓋1 | R-033 | Fig.80-7 | | 2.0+α | | ○ | |
| | 蓋1 | R-038 | Fig.80-8 | | 1.75+α | | ○ | |
| | 蓋1 | R-039 | Fig.80-9 | | 1.9+α | | | |
| | 蓋a1　ヘラ | R-037 | Fig.80-1 | (11.0) | 2.1+α | | ○ | |
| | 蓋2　ヘラ | R-010 | Fig.80-12 | | 1.9+α | | ○ | |
| | 蓋2　ヘラ | R-011 | Fig.80-13 | | 1.9+α | | ○ | |
| | 蓋3　ヘラ | R-034 | Fig.80-15 | | 1.5+α | | ○ | |
| | 蓋3　ヘラ | R-035 | Fig.80-14 | | 2.05+α | | ○ | |
| | 坏a　ヘラ | R-040 | Fig.80-16 | (15.0) | 2.95 | (10.0) | ○ | |
| | 坏c　ヘラ | R-001 | Fig.80-18 | 14.2 | 4.2 | 9.5 | ○ | |
| | 坏c　ヘラ | R-002 | Fig.80-17 | 12.0 | 4.0+α | | ○ | |
| | 坏c | R-012 | Fig.80-21 | | 3.1+α | | ○ | |
| | 坏c | R-013 | Fig.80-22 | | 1.4+α | (8.0) | ○ | |
| | 坏c | R-025 | Fig.80-20 | | 1.9+α | | ○ | |
| | 坏c | R-036 | Fig.80-23 | | 1.9+α | (9.3) | ○ | |
| | 坏c | R-041 | Fig.80-19 | | 2.3+α | (10.6) | ○ | |
| 土師器 | 坏 | R-014 | Fig.81-30 | | 3.8+α | | | |
| | 坏 | R-015 | Fig.81-31 | | 2.65+α | | | |
| | 坏 | R-027 | Fig.81-32 | | 2.7+α | | | |
| | 坏 | R-028 | Fig.81-29 | (14.0) | 3.5+α | | | |
| | 坏×皿 | R-016 | Fig.81-36 | | 0.8+α | | | |
| | 坏×皿 | R-017 | Fig.81-33 | | 1.2+α | | | |
| | 坏×皿 | R-018 | Fig.81-37 | | 1.6+α | | | |
| | 坏×皿 | R-019 | Fig.81-34 | | 0.7+α | | | |
| | 坏×皿 | R-020 | Fig.81-35 | | 0.7+α | | | |

S-113

| 種別 | 器　種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋1 | R-002 | Fig.89-23 | | 1.8+α | | | |
| | 坏c | R-001 | Fig.89-24 | (9.6) | 4.5 | (6.0) | | |

暗茶色土

| 種別 | 器　種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 皿 | R-004 | Fig.90-9 | - | 1.4+α | − | | |

暗茶色土(S-80上面)

| 種別 | 器　種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a　ヘラ | R-001 | Fig.85-1 | (10.2) | 1.45 | (7.9) | − | − |
| | 小皿a　ヘラ | R-002 | Fig.85-2 | (10.4) | 1.0 | (7.5) | ○ | ○ |
| | 小皿a　ヘラ | R-003 | Fig.85-4 | 10.85 | 1.6 | 8.0 | − | − |
| | 小皿a　ヘラ | R-004 | Fig.85-5 | (11.2) | 1.3 | (8.1) | × | × |
| | 小皿a　ヘラ | R-005 | Fig.85-3 | 10.5 | 1.2 | 8.5 | − | ○ |
| | 小皿a2　ヘラ | R-006 | Fig.85-6 | (11.2) | 1.0 | (7.9) | ○ | ○ |
| | 丸底坏a　ヘラ | R-010 | Fig.85-10 | 15.2 | 2.8 | | | ○ |
| | 丸底坏a　ヘラ | R-011 | Fig.85-11 | 15.5 | 3.4 | | | ○ |
| | 丸底坏a　ヘラ | R-012 | Fig.85-12 | (15.8) | 3.2 | | | ○ |
| | 丸底坏a　ヘラ | R-013 | Fig.85-9 | (15.0) | 3.35 | | | ○ |
| | 丸底坏c | R-008 | Fig.85-13 | 15.2 | 4.2 | 5.4 | | |
| | 椀a　− | R-007 | Fig.85-7 | (12.4) | 3.5 | 7.1 | − | − |
| | 椀c | R-009 | Fig.85-8 | (15.6) | 4.5+α | | | |

S-80

| 種別 | 器　種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a　ヘラ | R-007 | Fig.86-12 | 10.5 | 1.05 | 8.3 | ○ | ○ |
| | 小皿a　ヘラ | R-008 | Fig.86-2 | 9.6 | 0.9 | 7.2 | | |
| | 小皿a　ヘラ | R-009 | Fig.86-6 | (10.0) | 1.35 | (7.2) | ○ | ○ |
| | 小皿a　ヘラ | R-010 | Fig.86-7 | (10.0) | 1.25 | (8.0) | ○ | |
| | 小皿a　ヘラ | R-023 | Fig.86-11 | 10.4 | 1.4 | 7.4 | ○ | |
| | 小皿a　ヘラ | R-024 | Fig.86-8 | (10.2) | 1.2 | (8.0) | ○ | ○ |
| | 小皿a　ヘラ | R-025 | Fig.86-1 | (9.2) | 1.2 | (7.7) | ○ | |
| | 小皿a　ヘラ | R-032 | Fig.86-10 | 10.2 | 1.6 | 7.1 | ○ | ○ |
| | 小皿a　ヘラ | R-033 | Fig.86-5 | 9.8 | 1.4 | 7.0 | ○ | ○ |
| | 小皿a　ヘラ | R-034 | Fig.86-3 | 9.6 | 1.45 | 6.4 | ○ | ○ |
| | 小皿a　ヘラ | R-035 | Fig.86-9 | (10.2) | 0.9 | (7.6) | ○ | |
| | 小皿a　ヘラ | R-036 | Fig.86-4 | (9.6) | 1.2 | (6.8) | ○ | ○ |
| | 小皿a　ヘラ | R-037 | Fig.86-13 | (10.6) | 1.1 | (7.4) | ○ | ○ |
| | 小皿a2　ヘラ | R-003 | Fig.86-16 | (11.0) | 1.3 | (7.6) | ○ | ○ |
| | 小皿a2　ヘラ | R-006 | Fig.86-14 | (10.6) | 0.9 | (7.4) | | |
| | 小皿a2　ヘラ | R-038 | Fig.86-17 | (11.2) | 1.0 | (8.0) | ○ | |
| | 小皿a2　ヘラ | R-039 | Fig.86-15 | (10.8) | 1.3 | (7.4) | ○ | ○ |
| | 坏a　ヘラ | R-022 | Fig.86-18 | (13.0) | 2.3 | (9.0) | ○ | |
| | 丸底坏 | R-041 | Fig.86-29 | | 3.3+α | | | |
| | 丸底坏a　ヘラ | R-001 | Fig.86-27 | (16.6) | 4.7 | | | |
| | 丸底坏a　ヘラ | R-011 | Fig.86-25 | 16.2 | 4.1 | | | |
| | 丸底坏a　ヘラ | R-012 | Fig.86-19 | 14.5 | 3.4 | | | |
| | 丸底坏a　ヘラ | R-013 | Fig.86-21 | (15.2) | 3.9 | | | |
| | 丸底坏a　ヘラ | R-014 | Fig.86-28 | (16.8) | 3.7 | | | ○ |
| | 丸底坏a　ヘラ | R-015 | Fig.86-23 | (15.4) | 3.9 | | | |
| | 丸底坏a | R-020 | Fig.86-26 | (16.6) | 4.1 | | | |
| | 丸底坏a　ヘラ | R-021 | Fig.86-20 | (14.6) | 2.4 | | ○ | |
| | 丸底坏a　ヘラ | R-042 | Fig.86-22 | 15.2 | 2.8 | | ○ | |
| | 丸底坏a　ヘラ | R-043 | Fig.86-24 | 15.4 | 2.7 | | ○ | |
| | 丸底坏c | R-002 | Fig.86-30 | (15.7) | 4.5 | 6.8 | | |
| 黒色土器B | 椀 | R-004 | Fig.86-34 | (17.0) | 4.1+α | | | |
| | 椀 | R-005 | Fig.86-35 | | 4.3+α | | | |
| | 椀c | R-027 | Fig.86-36 | | 1.8+α | 6.7 | | |

S-100

| 種別 | 器　種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋1 | R-026 | Fig.88-1 | (14.8) | 1.25+α | | | |
| | 蓋3 | R-002 | Fig.88-13 | | 1.3+α | | | |
| | 蓋3 | R-003 | Fig.88-14 | | 1.4+α | | | |
| | 蓋3 | R-005 | Fig.88-11 | | 1.2+α | | | |
| | 蓋3 | R-006 | Fig.88-12 | | 1.5+α | | | |
| | 蓋3 | R-013 | Fig.88-15 | | 1.25+α | | | |
| | 蓋3 | R-020 | Fig.88-6 | (12.2) | 1.4 | | | |
| | 蓋3 | R-021 | Fig.88-8 | (13.3) | 1.9 | | | |
| | 蓋3 | R-027 | Fig.88-9 | (16.0) | 1.05+α | | | |
| | 蓋3 | R-034 | Fig.88-7 | (13.4) | 2.0+α | | | |
| | 蓋3 | R-035 | Fig.88-10 | − | 1.15+α | | | |
| | 蓋a3 | R-008 | Fig.88-5 | (12.1) | 1.55 | | | |
| | 蓋c3 | R-004 | Fig.88-4 | | 2.05+α | | | |
| | 蓋c3 | R-007 | Fig.88-2 | (15.7) | 1.5 | | | |
| | 蓋c3 | R-009 | Fig.88-3 | (17.9) | 1.5 | | | |
| | 壺蓋 | R-019 | Fig.88-16 | (17.2) | 3.35 | | | |
| | 坏c | R-018 | Fig.88-21 | | 2.2+α | (7.5) | | |
| | 坏c | R-022 | Fig.88-19 | (11.2) | 3.4 | (7.8) | | |
| | 坏c　− | R-029 | Fig.88-18 | (10.3) | 3.4 | (7.3) | ○ | − |
| | 坏c　ヘラ | R-030 | Fig.88-20 | (13.2) | 4.7 | (8.1) | ○ | − |
| | 坏c　ヘラ | R-036 | Fig.88-22 | − | 1.75+α | (9.0) | ○ | − |
| | 皿　ヘラ | R-028 | Fig.88-17 | − | 1.4+α | − | − | − |
| 土師器 | 蓋3 | R-012 | Fig.88-26 | | 1.6+α | | | |
| | 蓋c | R-023 | Fig.88-24 | | 1.5+α | | | |
| | 蓋c | R-031 | Fig.88-25 | − | 1.6+α | − | | |
| | 皿b | R-010 | Fig.88-28 | (14.6) | 3.1+α | (14.0) | | |
| | 皿b | R-011 | Fig.88-27 | (14.8) | 2.3 | (14.0) | | |
| | 大皿c | R-016 | Fig.88-31 | | 1.2+α | (13.4) | | |
| | 椀c | R-017 | Fig.88-30 | | 1.9+α | | | |
| | 椀c | R-024 | Fig.88-29 | 18.3 | 5.3 | 12.4 | | |

S-100下層

| 種別 | 器　種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋1 | R-001 | Fig.88-37 | (15.6) | 1.45+α | | | |
| | 蓋3 | R-002 | Fig.88-38 | (13.3) | 1.1 | | | |

S-120

| 種別 | 器　種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 蓋3 | R-001 | Fig.89-14 | | 2.2+α | | | |
| | 蓋3 | R-002 | Fig.89-15 | | 1.3+α | | | |
| | 蓋c | R-004 | Fig.89-13 | | 1.7+α | | | |
| | 坏a | R-003 | Fig.89-16 | (11.0) | 4.2 | (9.6) | | |

S-120下

| 種別 | 器　種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏a | R-001 | Fig.89-20 | (10.4) | 3.5 | (7.3) | | |

## 4、第 74-1 次調査

### (1) 調査に至る経緯

調査地は太宰府市大字通古賀（現在 . 通古賀 5 丁目）字鶴畑 1083-4 で、第 44 次調査の西隣に位置する。

対象地は 1988（昭和 63）年 2 月 17 日、共同住宅建設に対する埋蔵文化財の問い合わせがあった。その後協議し、遺構が破壊される恐れがあったため、事業者である西日本大和ハウス販売 ( 株 ) の費用負担のもと発掘調査を行うこととなった。開発計画は 2 回に分けられていたため、第 1 工事に合わせた発掘調査を 1988（昭和 63）年 7 月 9 日から 7 月 13 日にかけて実施した。開発対象面積は 218 ㎡で、調査面積は 57 ㎡である。調査は山本信夫、緒方俊輔が担当した。

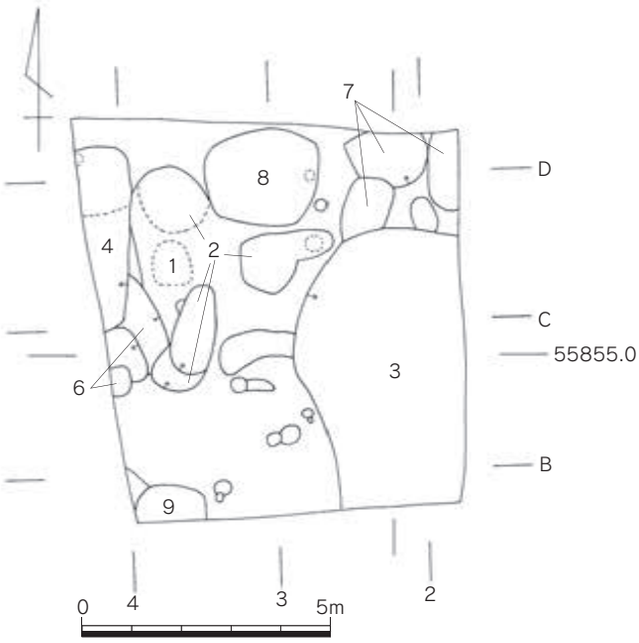


Fig.93　第 74-1 次調査遺構略測図 (1/150)

なお、調査は遺構の検出・掘削を行ったが、ほとんど撹乱で明確に遺構と断言できるものはなかったとし、実測図は作成せず、記録写真のみで終了している。

### (2) 基本層位

調査地一帯は、かつて通古賀集落の後背地の畑地であった。調査地の層位について、詳細な記録が残されていないが、写真を見る限り、やはり水田のような耕作土はなく、畑地もしくは宅地造成の表土があり、それを除去すると黄色粘土の地山があり、そこを遺構面としている。

### (3) 検出遺構

遺構は、S-3 以外は浅い窪みのような穴で、S-3 のみやや深い大きな土坑である。前述したように、調査日誌にほとんど撹乱と記録されている。現在残されている遺物については 、現場で廃棄されたのか近現代の遺物はなく、ほとんど古代の遺物で、遺構を検証するには情報が少ないため、何とも言い難い状況である。

### (4) 出土遺物

遺物は多くはないが、奈良時代～平安時代前期が多い。しかし、それらに混じって僅かに平安後期の遺物が散見される。

**第 74-1 次調査出土遺物（Fig.94、Pla.15）**

土師器

耳皿（1）　内外面とも摩滅し調整不明。色調は淡茶色を呈する。表土より出土。

緑釉陶器

椀 × 皿（2）　復元底径 8.0cm。胎土は乳白色の土師質で、内外面ともとても薄く緑白色釉を施す。S-2 より出土。

瓦類

軒平瓦（3）　凸面は縄目叩き、凹面はナデ調整である。瓦当面は偏行唐草文で、上外区に珠文、下外区に鋸歯文を施す。老司Ⅱ式。焼成は良好で色調は淡灰色を呈する。表土より出土。

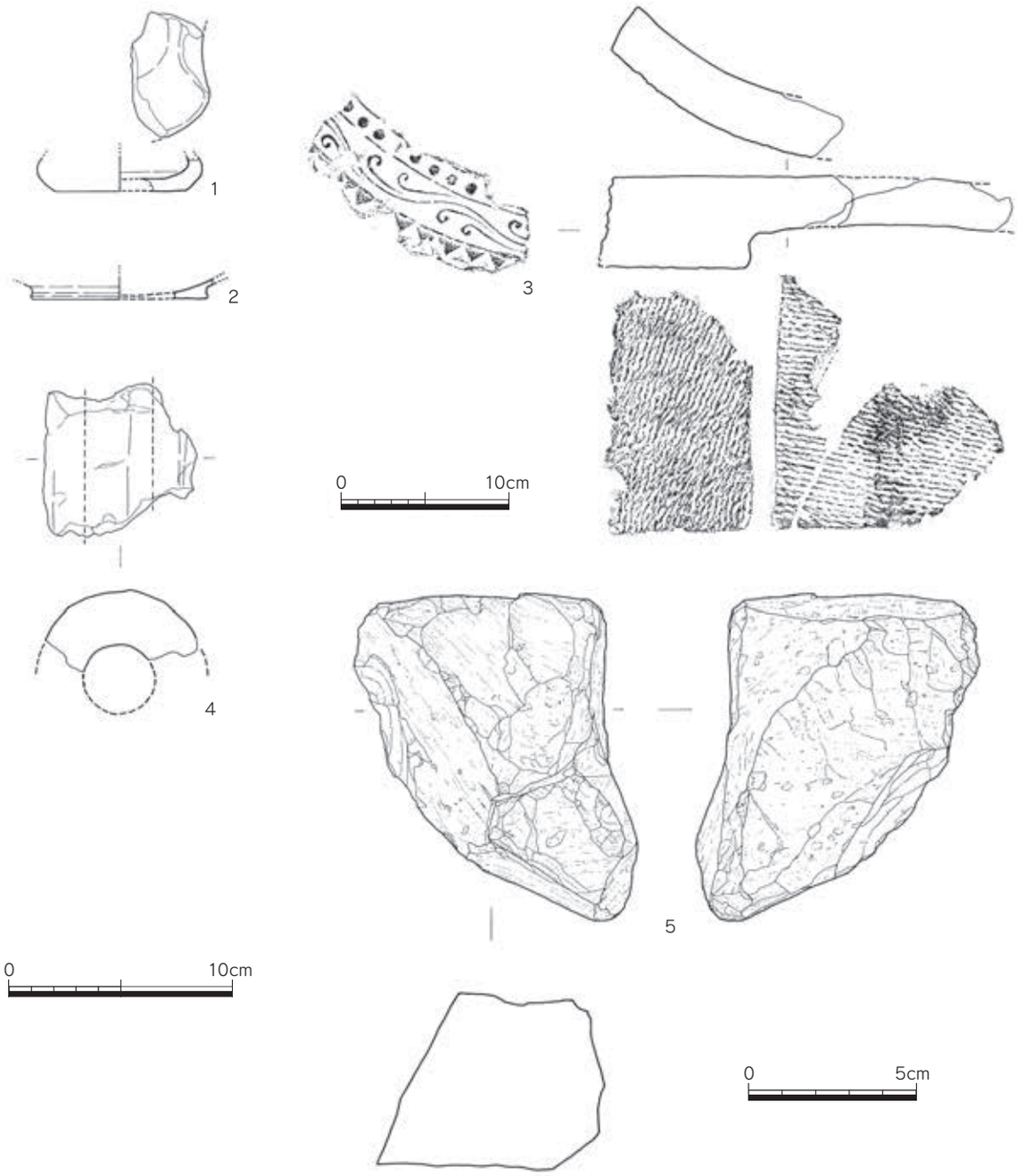



Fig.94　第 74-1 次調査出土遺物実測図 (1/3、3 は 1/4、5 は 1/2)

土製品

鞴羽口（4）　復元径 8cm 程。胎土は白色砂粒を多く含み、表面は薄茶色や白茶色を呈する。S-3 より出土。

石製品

安山岩原石（5）　大きさは 9.8×8.5×5.3cm。S-7 より出土。

**(5) 小結**

遺構状況が良好でなかったが、残された遺物は周辺の調査地と同様であった。調査時の情報不足ゆえに明確なことは言い難いが、撹乱を受けているとはいえ、遺構が残存していなかったということは、条坊の宅地内の空閑地であった可能性が考えられる。

表.21　第74-1次調査　遺構一覧表

| S-番号 | 遺構番号 | 種別 | 埋土等 | 時期 | 地区 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 土坑 | 茶色粘土 | (奈良時代) | D4 |
| 2 | | 土坑 | ④　①追加　黒茶色土 | 近現代※ | D4 |
| 3 | | 撹乱 | 黒茶色土 | 近現代※ | C～D3 |
| 4 | | 土坑 | 黒茶色土 | (平安後期) | C4 |
| 6 | | 窪みorかぶった土層 | 淡茶色土 | (古代) | C4 |
| 7 | | 土坑群 | 淡茶色土、灰色土 | (平安後期) | D2 |
| 8 | | 土坑 | 黒茶色土 | 近現代※ | D3 |
| 9 | | 窪み | 灰色土 | (平安前期？) | B3 |

※は現場の所見として記録されている遺構の時期。
(　)は残されている遺物の時期。

表22．第74-1次調査　出土遺物一覧表

S-1

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏c、破片 |

S-2

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋1、蓋3、坏、坏a、坏c、甕?、破片 |
| 土師器 | 坏a、椀c、甕、破片 |
| 黒色土器A類 | 椀c、破片 |
| 緑釉陶器 | 椀×Ⅲ |

S-3

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、Ⅲ、甕、壺b、破片 |
| 土師器 | 坏、坏a、Ⅲ?、椀c、小甕、甕 |
| 白磁 | 椀；Ⅷ(1)、椀破片(1)　白磁破片(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |
| 土製品 | 鞴羽口 |

S-4

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、坏、坏a、坏c、高坏?、甕 |
| 土師器 | 坏、甕、破片 |
| 国産陶器 | 擂鉢 |
| 白磁 | 椀；XI-1(1)、壺(1)、壺？(1)　白磁破片(4) |
| 龍泉窯系青磁 | 椀；I×II(1)、II-b(1)　龍泉破片(2) |
| 瓦類 | 平瓦(無文)、丸瓦(格子、無文)、瓦玉? |
| 金属製品 | 鉄釘 |
| 石製品 | 滑石 |
| 土製品 | 土塊 |

S-6

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏 |
| 土師器 | 坏a、甕 |

S-7

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、坏c、甕、壺?、鉢? |
| 土師器 | 坏c、高坏、甕、破片 |
| 白磁 | 椀；Ⅳ(1) |
| 龍泉窯系青磁 | 椀；I(1) |
| 瓦類 | 平瓦(格子) |
| 金属製品 | 鉱滓 |
| 石製品 | 安山岩原石、珪化木 |

S-8

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、破片 |
| 土師器 | 破片 |
| 瓦類 | 破片 |

S-9

| | |
|---|---|
| 須恵器 | Ⅲ?、甕 |
| 土師器 | 坏a、甕、破片 |

表土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、坏a、甕、鉢 |
| 土師器 | 坏、耳Ⅲ、Ⅲa、高坏b、甕 |
| 白磁 | 椀；直口(1)、破片(2) |
| 瓦類 | 平瓦(格子、破片)、軒平瓦 |
| 土製品 | 土塊 |
| その他 | 石英 |

## 5、第 74-2 次調査

### (1) 調査に至る経緯

調査地は太宰府市大字通古賀（現在 . 通古賀 5 丁目）字鶴畑 1083-1、1083-6 である。第 74-1 次調査の北側に位置する。

今回の発掘調査も第 74-1 次調査と同じく共同住宅建設に伴うもので、西日本大和ハウス販売 ( 株 ) の費用負担のもとで行った。発掘調査は住宅解体後の第 2 工事に合わせて、1989（平成元）年 5 月 8 日から 5 月 9 日にかけて実施した。開発対象面積は 300.37 ㎡で、調査面積は 28 ㎡で、調査は山本信夫、緒方俊輔が担当した。

### (2) 基本層位

調査地は調査直前まで住宅があった。遺構は現地表から深さ 0.6m 程の黄色粘土の地山で確認できる。

### (3) 検出遺構

**溝**

**74-2SD022**

検出長 4.7m、幅 1m 前後、深さ 0.06m 前後の断面 U 字形の浅い溝である。振れは 1/100 図面から導き出した数値ではあるが、溝の南肩で N-30° 26′ -W であった。遺物が出土していないが、溝底のピット (S-14) の時期が奈良時代であったことから、この溝の最終埋没も奈良時代と推測される。

**井戸**

**74-2SE015（Fig.96）**

調査区端のため、詳細は不明だが、掘り方は径 1.5m、深さ 1m 以上の円形である。埋土中には一辺 0.6m 程の井戸枠痕跡のような落ち込みが確認できる。埋土は黒色粘土である。埋没時期はⅩ～Ⅺ期。

**土坑**

**74-2SK010（Fig.96）**

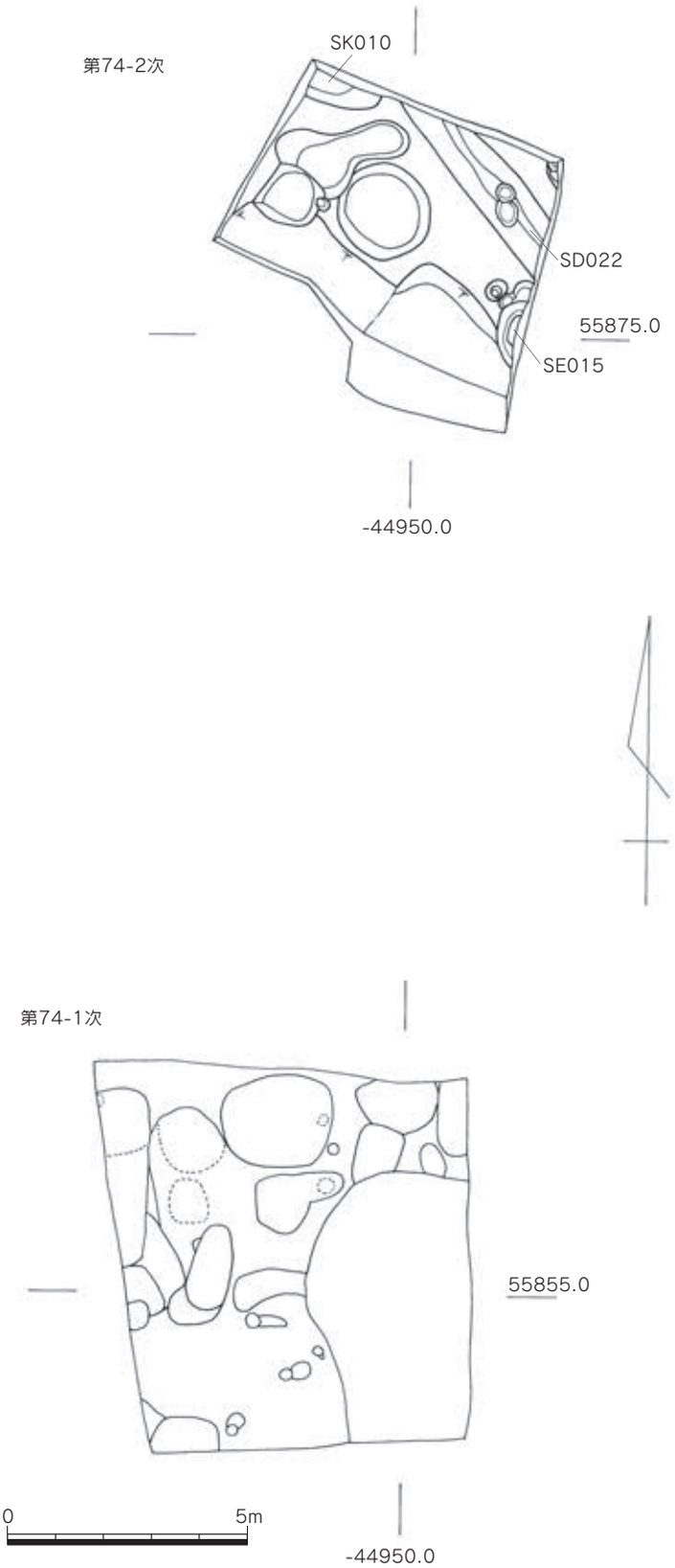



Fig.95　第 74 次調査遺構全体図 (1/150)

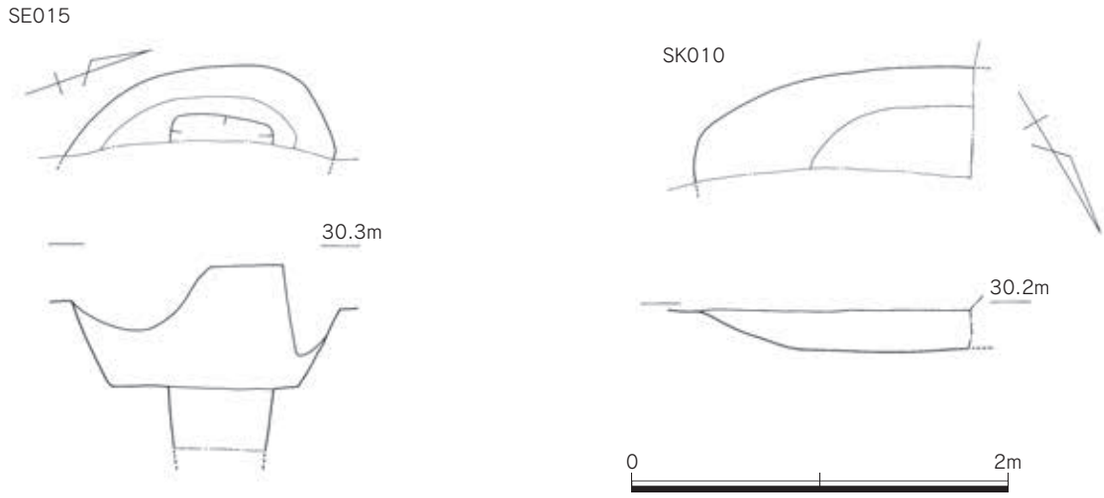



Fig.96　74-2SE015、74-2SK010 遺構実測図 (1/40)

調査区端のため、全形は不明であるが、検出された大きさは東西 1.5m 以上、南北 0.6m 以上、深さ 0.2m で、埋土は黒色土である。

**（4）出土遺物**

**井戸**

**74-2SE015 上層出土遺物（Fig.97）**

土師器

小皿 a（1）　器高 1.2cm。内外面摩滅し調整不明。

瓦質土器

鉢（2）　焼成は良好だが、器面はブツブツに剥落している。色調は淡灰色を呈する。

**74-2SE015 枠内出土遺物（Fig.97、Pla.15）**

須恵器

椀（3）　復元口径 13.2cm、器高 5.5cm、復元底径 5.15cm。胎土は黒色粒子をやや多く含み、色調は灰色を呈する。底部切り離しは回転糸切り。内外面とも回転ナデ調整。内面は墨もしくは煤が付着し黒色化している。篠窯。

土師器

小皿 a（4 ～ 8）　復元口径 9.6 ～ 10.5cm、器高 1.0 ～ 1.35cm、復元底径 7.0 ～ 8.0cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。

丸底坏 a（9 ～ 13）　復元口径 13.6 ～ 15.75cm。底部はヘラ切り後押し出している。口縁端部を若干曲げている。内面にはミガキ b のコテ当て痕が残る。

丸底坏（14）　深い体部で、内面ミガキ b、底部下半は回転ヘラ切り後押し出し。

椀 c（15）　高台径 7.8cm。坏部は内面ミガキ b、外面はナデ調整で指頭圧痕が残る。

甕（16、17）　16 は復元口径 27.3cm。体部外面はタテハケ、内面は縦方向のヘラケズリ。色調は淡橙色を呈する。17 は外面に煤が厚く付着する。

灰釉陶器

壺（18）　胎土は 0.1cm 以下の白色砂粒を含み、色調は淡灰色を呈する。内面は回転ナデ、外面は回転ヘラケズリ後、薄く緑灰色釉を施す。

朝鮮系無釉陶器

壺（19）　内外面回転ナデで、外面には自然釉が掛かる。胎土は断面茶褐色、内外面黒灰色を呈する。

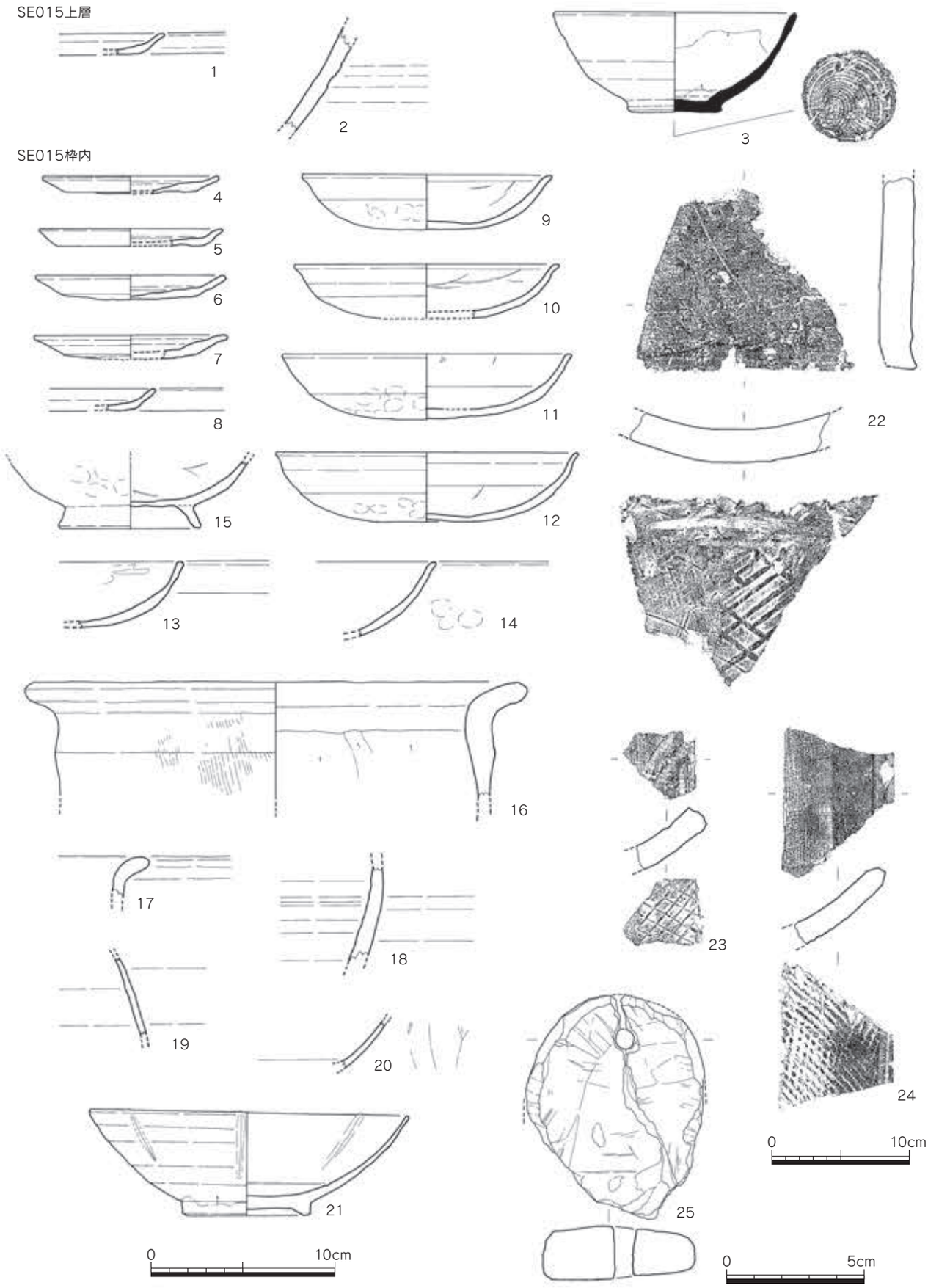



Fig.97　74-2SE015 出土遺物実測図 (1/3、25 は 1/2、瓦は 1/4)

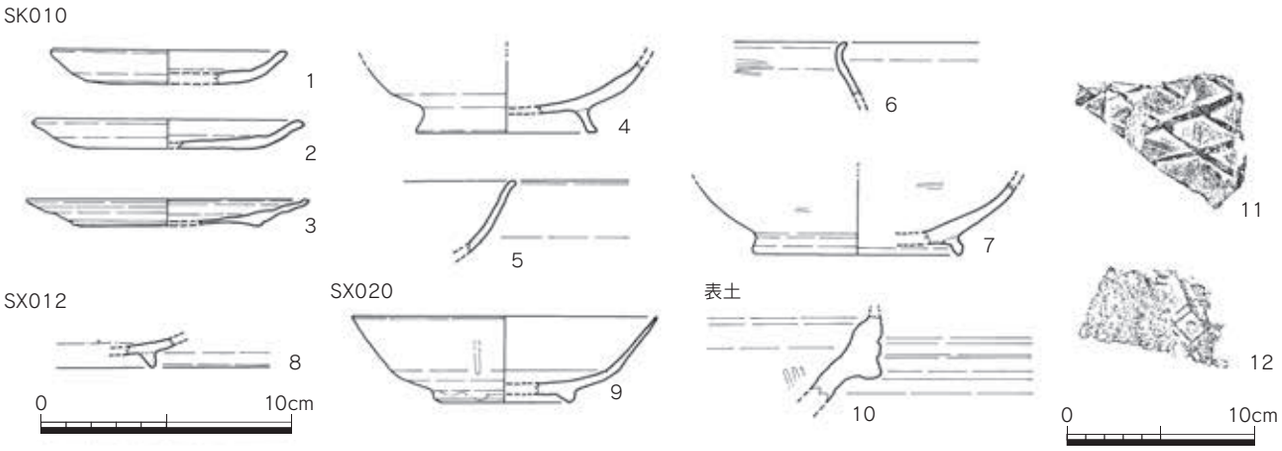



Fig.98　74-2SK010、その他の出土遺物実測図 (1/3、11 は 1/4)

白磁

椀（20、21）　20はXI-4類。内外面にやや青味のある釉を施す。外面には蓮弁文を施す。21はXI-5類。口径17.3cm、器高5.6cm、高台径7.0cm。釉は水色を帯びた白色釉を内外面に施すが、底部外面は露胎である。体部外面に篦押圧縦線を施し、口縁部は輪花を有する。

瓦類

平瓦（22 ～ 24）　22 は不定形な格子叩きを有する。凹面は糸切り痕と布目が残る。23 は格子叩き。24 は側面をヘラケズリ調整する。凸面は縄目叩きが交差し、格子叩きのようになっている。

石製品

石鍋加工品（25）　縦 8.15cm、横 6.5cm、厚さ 2.05cm。楕円形状に加工され、径 0.7cm の円孔が穿たれている。滑石製。

**土坑**

**74-2SK010 出土遺物（Fig.98）**

土師器

小皿 a（1、2）　1 は復元口径 9.4cm、器高 1.4cm、復元底径 6.5cm。底部切り離しは回転ヘラ切りで板状圧痕が残る。2 は復元口径 10.8cm、器高 1.2cm、復元底径 7.6cm。底部切り離しは回転ヘラ切りとみられ、板状圧痕が残る。

小皿 a2（3）　復元口径 11.3cm、器高 1.1cm、復元底径 7.4cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。体部は大きく開き、口縁端部内面に僅かな段が巡る。

椀 c（4）　復元高台径 7.2cm。内外面摩滅し調整不明。

椀（5）　丸味のある体部で、口縁部は僅かに外反する程度である。

黒色土器

壺（6）　口縁端部を僅かに曲げる。全体的に摩滅し、内面のミガキは僅かに残る程度である。A 類。

椀 c（7）　内外面摩滅しミガキ c が僅かに残る程度である。復元高台径 8.4cm。B 類。

**その他の遺構出土遺物（Fig.98、Pla.15）**

灰釉陶器

皿(8)　胎土は淡灰色で、内面に緑灰色釉を薄く施すが、内面底部付近は露胎。外面は回転ナデで露胎。S-12 より出土。

白磁

皿（9）　XI-3類。体部は中位で屈曲させる。内面には沈線がめぐる。外面にヘラ押圧縦線を施す。

内外面には光沢のある透明釉を施すが、底部外面は露胎である。復元口径12.2cm、器高3.45cm、復元高台径5.6cm。SX020より出土。

**表土出土遺物（Fig.98）**

国産陶器

擂鉢（10） 口縁部を肥厚させ、外面に２条の沈線を巡らす。内外面とも回転ナデ調整で、内面には僅かに擂り目が残る。色調は断面が灰色、器面は茶褐色を呈する。備前焼か。

瓦類

平瓦（11） 凸面は大きな格子叩きを有する。

丸瓦（12） 外面は二重格子叩きを有する。

**(5) 小結**

調査範囲が狭いため、詳細を語ることは難しい。奈良時代とX～XI期以降の遺構が展開しているものと考えられる。若干気になるのが、調査区北側を斜めに検出された溝 (SD022) であるが、これは調査区北西で斜めに走る市道の延長上に位置していることである。西側の第 53・54 次調査でも規模は大きいものの、似た振れを持つ溝が検出されており（53SD050 が N-35° 44′ 25″ -W、54SD070 が N-34° 12′ 57″ -W)、この付近に条坊区画と異なる区画や道路が存在した可能性をさらに裏付ける成果を得ることができた。

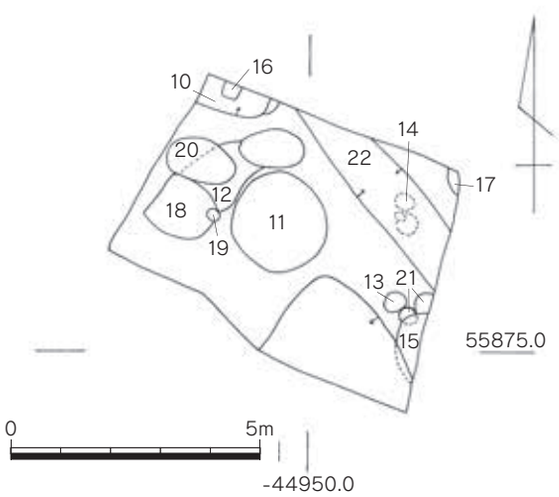



Fig.99 第 74-2 次調査略測図 (1/150)

## 表23．第74-2次調査　遺構一覧表

| S-番号 | 遺構番号 | 種別 | 埋土等 | 時期 | 地区 |
|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 74-2SK010 | 土坑 | 黒色土 | Ⅹ～Ⅺ期頃 | |
| 11 | | 撹乱 | 黄色ブロック混暗茶色土 | 近現代 | |
| 12 | 74-2SX012 | 土坑 | 黄色ブロック混黒灰色土 | Ⅹ期頃 | |
| 13 | | ピット | 灰色粘土 | 奈良時代 | |
| 14 | | ピット | 灰色粘土 | 奈良時代 | |
| 15 | 74-2SE015 | 井戸 | 黒色粘土 | Ⅹ～Ⅺ期 | |
| 16 | | 撹乱 | S-10→16 | 近現代 | |
| 17 | | ピット | 淡茶色粘土 | 奈良時代 | |
| 18 | | 土坑 | 黒色粘土 | | |
| 19 | | ピット | 淡灰色粘土 | 奈良時代 | |
| 20 | 74-2SX020 | 撹乱 | 暗茶色土 | 近現代 | |
| 21 | | ピット | 淡茶色粘土 | 奈良時代 | |
| 22 | 74-2SD022 | 溝 | 浅い。遺物なし | 奈良時代？ | |

## 表24．第74-2次調査　出土遺物一覧表

S-10

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、坏a、高坏、甕 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、小皿a2、坏、坏a、椀c、椀、甕、把手 |
| 黒色土器A類 | 椀c、壺 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 越州窯系青磁 | I破片(1)、壺I(1) |
| 瓦類 | 平瓦(格子) |
| 金属製品 | 鉱滓 |
| 石製品 | 剥片(安山岩) |
| その他 | 炭 |

S-11

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、坏a、甕、破片 |
| 土師器 | 坏、椀c、甕類 |
| 瓦類 | 丸瓦、破片 |
| その他 | 炭 |

S-12

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3、坏、坏c、甕、壺、破片 |
| 土師器 | 蓋、小皿a、坏a(ヘラ)、坏c、丸底坏?、椀、甕類 |
| 黒色土器A類 | 椀、椀c |
| 灰釉陶器 | 皿 |
| 白磁 | 破片(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、無文) |
| 金属製品 | 鉱滓 |
| 石製品 | 平玉石 |
| 土製品 | 土塊 |

S-13

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、坏、甕 |
| 土師器 | 坏、甕 |

S-14

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏 |
| 土師器 | 蓋3、坏a、坏c、甕 |

S-15 上層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、坏c、甕 |
| 土師器 | 蓋、小皿a(ヘラ)、坏、坏c、丸底坏、椀c、甕、竈? |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 瓦質土器 | 鉢 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目)、丸瓦(無文)、桟瓦(現代) |

S-15 枠内

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、椀、甕、甕×壺 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、坏、丸底坏a、丸底坏、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 鉢? |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 灰釉陶器 | 壺 |
| 須恵質(輸入) | 朝鮮系無釉陶器壺 |
| 白磁 | 椀：XI-4(1)、XI-5(1)　白磁破片(1) |
| 越州窯系青磁 | I破片(2) |
| 瓦類 | 平瓦(格子、無文) |
| 金属製品 | 鉱滓 |
| 石製品 | 滑石加工品 |

S-16

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏、甕 |
| 黒色土器B類 | 椀 |

S-17

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕、鉢 |
| 土師器 | 蓋3、甕類 |

S-19

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 大坏 |
| 土師器 | 甕 |

S-20

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、坏c、甕 |
| 土師器 | 蓋3、小皿a(ヘラ)、坏a(ヘラ)、丸底坏a、皿c<br>椀c、甕類 |
| 灰釉陶器 | 壺 |
| 白磁 | 皿：XI-3(1) |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 瓦類 | 丸瓦(格子) |

S-21

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏 |
| 土師器 | 坏、甕 |

表土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、坏a、坏c、甕、壺 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、坏、坏a(ヘラ)、丸底坏?、椀、椀c<br>甕、器台 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 国産陶器 | 捕鉢(備前?) |
| 国産磁器 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 破片II(1) |
| 白磁 | 椀：Ⅳ-1a(1)、Ⅳ-1b×XI(1)、Ⅴ(1)、Ⅷ(1)<br>XI-1･2?(1)　白磁破片(2)、広東系(1) |
| 瓦類 | 平瓦(格子)、丸瓦(格子(大、小)、二重格子) |
| 金属製品 | 鉄釘 |
| 石製品 | 滑石加工品、剥片(安山岩) |

## 6、第 173 次調査

### (1) 調査に至る経緯

調査地は太宰府市通古賀 5 丁目 1003-6 で、鷺田川北岸の旧日田街道沿いに位置する。

1995（平成 7）年 5 月 8 日に共同住宅建築に対する埋蔵文化財の問い合わせがあった。1995（平成 7）年 9 月 27 日に確認調査を行い、深さ 1.3m で遺構を確認したため、1995（平成 7）年 9 月 27 日から 10 月 3 日にかけて発掘調査を実施した。開発対象面積は 562.39 ㎡で、調査面積は 28 ㎡である。調査は髙橋学が担当した。

なお、調査については、測量不足で座標や標高が不明である。よって、方位は地図から割り出したおよその方位であり、遺構面の標高については、周囲の現況標高から推測すれば約 28m である。

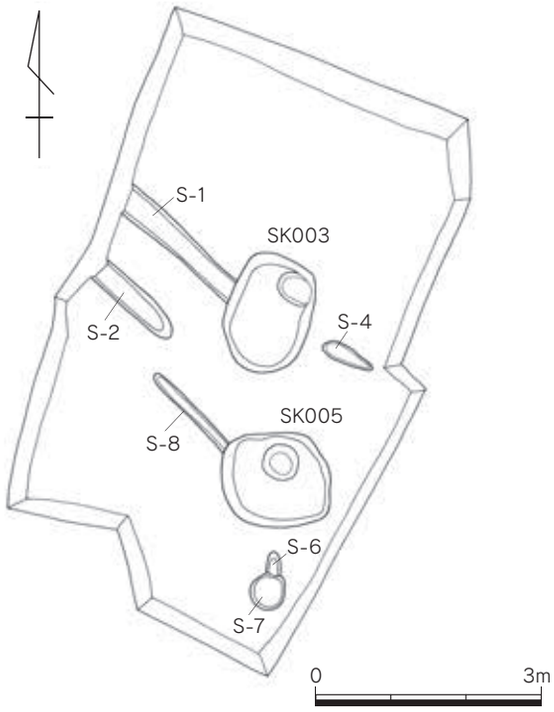


Fig.100　第 173 次調査遺構全体図（1/100）

### (2) 基本層位

調査地の層位は、最上層に瓦やレンガなどを含んだ盛土が厚くあり、その下に宅地前の水田耕作土である暗青灰色粘土層と床土である灰茶色土層があり、その直下の緑灰色シルト層に遺構が確認できる。また、遺構が検出されなかった調査区北側は、砂層と 1 ～ 2cm 程の砂礫層が重なり合う地盤であった。なお、現地表から遺構面までは深さ約 1m である。

### (3) 検出遺構

**土坑**

**173SK003（Fig.101）**

南北 1.55m、東西 1.15m、深さ 0.35m の楕円形の土坑である。埋土は暗灰色砂などの砂層である。

**173SK005（Fig.101）**

南北 1.25m、東西 1.44m、深さ 0.45m の土坑で、底面にはさらに径 0.5m、深さ 0.12m の円形土坑が掘られている。埋土は茶灰色砂や暗灰色砂などの砂層である。

### (4) 出土遺物

**173SK003 暗茶灰色砂出土遺物（Fig.101）**

土師器

小皿 a（1）　器高 1.55cm 程。色調は黄白色を呈する。底部切り離しは不明。

須恵質土器

鉢（2）　色調は淡灰色を呈する。東播系。

越州窯系青磁

合子蓋（3）　復元口径 6.8cm。外面と内面上半部に淡緑灰色釉を施す。内面下半は露胎である。外面上部に周囲より濃い緑灰色釉の文様のようなものがみられる。

白磁

椀（4～6）　4はⅣ類。5はⅤ-4×Ⅷ-3類。6はⅪ-1類か。

**173SK003 暗灰色砂出土遺物（Fig.101）**

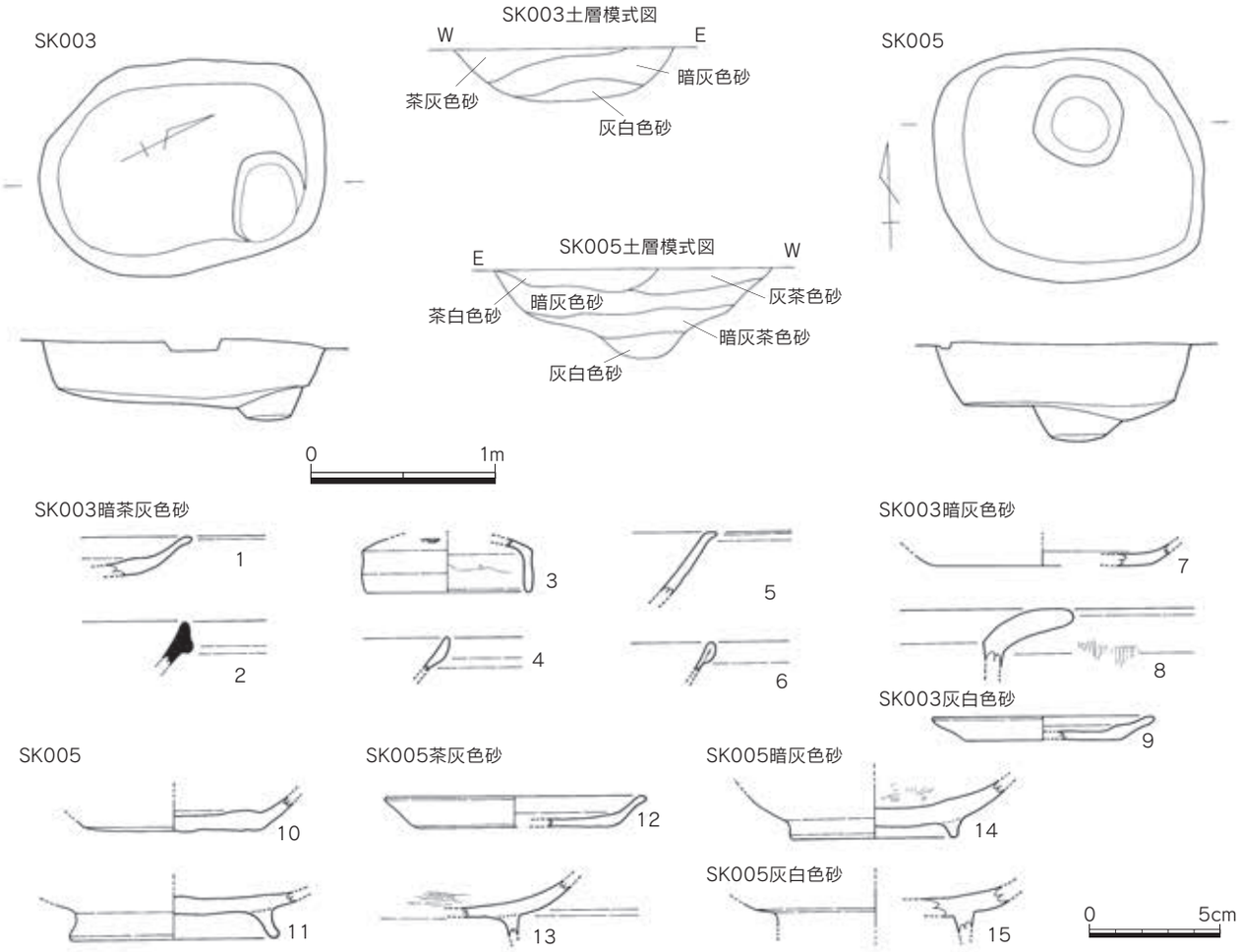



Fig.101　第 173 次調査遺構・出土遺物実測図（遺構は 1/40、遺物は 1/3）

土師器

坏ａもしくは小皿ａ（7）　復元底径 9.0cm。底部切り離しは糸切りか。色調は白茶灰色を呈する。

甕（8）　体部内面ケズリ、外面タテハケ、口縁部は磨滅し調整不明。

**173SK003 灰白色砂出土遺物（Fig.101）**

土師器

小皿ａ（9）　復元口径 9.0cm、器高 1.0cm、復元底径 6.4cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。

**173SK005 出土遺物（Fig.101）**

土師器

坏ａもしくは小皿ａ(10)　復元底径 7.2cm。底部切り離しは回転ヘラ切りか。板状圧痕が僅かに残る。

椀ｃ（11）　復元高台径 8.5cm。色調は暗黄色を呈し、全体的に磨滅する。

**173SK005 茶灰色砂出土遺物（Fig.101）**

土師器

小皿ａ(12)　復元口径 10.6cm、器高 0.8cm、復元底径 8.4cm。底部は板状圧痕が残るが調整不明瞭。

黒色土器

椀ｃ（13）　内面はミガキｃが残るが、外面は磨滅し調整不明瞭。B 類。

**173SK005 暗灰色砂出土遺物（Fig.101）**

黒色土器

椀ｃ（14）　復元高台径 6.8cm。内面にはミガキが僅かに残る。A 類。

### 173SK005 灰白色砂出土遺物（Fig.101）

白磁

椀（15）　Ⅴ類。

### (5) 小結

調査地は鷺田川から 30m と近距離であるため、地盤が砂層で形成されている。また、耕作土直下に遺構面があり、水田となった時点で包含層が残らないほど遺構面は大きく削平を受けていたものと推測される。検出された数条の溝については、鷺田川または旧日田街道に平行していることから、大宰府条坊と直接関係した遺構ではなく、現在の土地区画に沿って掘られた溝であった可能性が高い。また、削平は受けているものの遺構が残されている状況は、遺構全てを消失させる程の氾濫を鷺田川から受けなかったことを物語っている。今回の遺構状況から大宰府条坊について言及することはできないが、鷺田川から遠ざかるほど遺構は良好に残されていることが期待できる結果であった。

表.25　第173次調査　遺構一覧表

| S-番号 | 遺構番号 | 種別 | 埋土等 | 時期 | 地区 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 溝 | 東西方向　淡茶灰色土　S-3→1 | 平安時代～ | |
| 2 | | 溝 | 東西方向　淡茶灰色土 | 平安時代～ | |
| 3 | 173SK003 | 土坑 | | 12世紀～ | |
| 4 | | たまり? | 黄褐色土 | 平安後期 | |
| 5 | 173SK005 | 土坑 | | 古代 | |
| 6 | | 土坑 | 黄褐色土　S-7→6 | 平安時代～ | |
| 7 | | ピット | 暗黄褐色土　S-7→6 | 古代 | |
| 8 | | 溝 | 茶灰色土　　遺物なし | | |

表.26　第173次調査　出土遺物一覧表

S-1

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏 |
| 土師器 | 坏 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 土製品 | 土塊 |

S-2

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏、椀、甕類 |

S-3

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏 |
| 土師器 | 坏、坏a×小皿a(仆)、甕類 |
| 瓦類 | 丸瓦 |

S-3 茶灰色砂

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋 |
| 土師器 | 坏、甕類 |

S-3 暗茶灰色砂

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏a、坏c、甕 |
| 土師器 | 小皿a、坏、甕、甕類 |
| 須恵質土器 | 鉢(東播系) |
| 白磁 | 椀：Ⅳ(1)、Ⅴ-4×Ⅷ-3(1)、Ⅺ-1?(1) |
| 越州窯系青磁 | 合子蓋（1） |
| 弥生土器 | 甕 |
| その他 | 高師小僧 |

S-3 暗灰色砂

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏 |
| 土師器 | 坏、坏a×小皿a、甕 |

S-3 灰白色砂

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、高坏、破片 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、坏、坏d |
| 黒色土器B類 | 椀 |

S-4

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏c、甕類 |

S-5

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕、壺 |
| 土師器 | 坏a×小皿a(ヘラ)、椀c、甕 |
| 白磁 | 椀：内面櫛描(1)、破片(1) |
| 瓦類 | 丸瓦(格子) |
| 金属製品 | 鉱滓 |

S-5 茶灰色砂

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、甕、壺、破片 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、坏、甕類 |
| 黒色土器A類 | 椀c |

S-5 暗灰色砂

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕 |
| 土師器 | 小皿a×坏a、坏、坏d、甕類 |
| 黒色土器A類 | 椀、椀c |
| 瓦類 | 破片(無文) |

S-5 茶白色砂･暗灰色砂

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、坏c、甕 |
| 土師器 | 小皿a×坏a(仆)、坏a |

S-5 灰白色砂

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏、高坏 |
| 白磁 | 椀；Ⅴ(1)、白磁破片(1) |

S-6

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 破片 |
| 土師器 | 坏、椀c |

S-7

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏a(ヘラ)、椀 |
| 黒色土器A類 | 破片 |

地山

| | |
|---|---|
| 土師器 | 坏a×丸底坏a |

## 7、第 305 次調査

### (1) 調査に至る経緯

調査地は太宰府市通古賀 6 丁目 324 番 2 の一部である。2014( 平成 26) 年 6 月頃から、住宅建築に伴い、市道のセットバックの協議が建設課と行われ、調査することとなった。7 月 9 日に確認調査を行い、発掘調査は梅雨の合間をぬって、2014( 平成 26) 年 7 月 14 日～ 7 月 15 日に実施した。発掘調査は南北に分けて行い、北側については堆積状況を確認できたものの、明確に遺構と言えるものはなかった。南側も重機で掘削したものの明確な遺構が確認できなかったため、簡単な記録を行い終了した。開発対象面積は 30 ㎡であったが、調査面積は 5.8 ㎡である。調査は宮崎亮一が担当した。

### (2) 層位

調査直前は住宅地で、狭い市道を挟んで東側には南北水路がある。

北半部は上面から住宅地の盛土、耕作土、床土となり、その下位に灰褐色土とそれに切り込む黄色土と灰茶色土が混ざった土層 ( 黄灰色土で取り上げ ) がある。灰褐色土の下位は暗茶色土で、耕作土の床土のような感じにも見えるが、条坊内で耕作土の下位で遺物を包含するものの、遺構が展開しない土層は包含層が多いことを考えるとこの灰褐色土と暗茶色土は遺物包含層と推測される。そして、その下位は今までと異なり硬化した灰色土が堆積する。その硬化面の下は全て砂層である。

黄灰色土は、土層に含まれる遺物は平安時代のものであるが、立地や上面の耕作土とその床土の直下に位置する状況から、耕作地を造るにあたり、水路側の低い土地を整地したものと推測される。よって、溝状に見える落ち込みは、水路の広がりの西端部分と考えられ、明確な遺構とは言い難い。

黄灰色土が切り込んでいる土層のうち、下位に位置する灰色土は固い地盤で、その上層にはやや暗い灰色土があり、少量の礫と遺物が含まれていた。この 2 層は朱雀大路の路面や通行面の可能性も考えられる。硬化している状況以外に人為的な痕跡がみられず、確認範囲も狭いため、これ以上のことは言えない。また、この硬化について、その下層の茶色砂層も鉄分が沈着したような硬化状況である。ちょうど硬化面を境に上が土、下が砂という状況であることから、堆積する過程の中で硬化した可能性も考えられる。よって、路面と自然現象の両面の可能性を残し、周辺の調査の課題として残しておきたい。

南半部は北側で僅かに捉えていた攪乱がやや広く入り込んでいた。上面から盛土、耕作土、床土の層位は北半部と全く同じで、その下位には暗灰色土と淡灰色土の混合層があり、遺物もみられる。遺構の切り込みはなく、いわゆる包含層に思える。層の厚みから考えると北半部の灰褐色土と同一層と推測される。この包含層の下には黄灰色土と褐色土の混合層がある。厚みとしては 0.1m 前後であるが、その下位の砂層と上位の包含層に挟まれた安定地盤の可能性がある。

北側の硬化面や南側の黄灰色土と褐色土の混合層のレベルが、この調査区の中では比較的安定している面であることから、周辺では耕作土上面から深さ 0.7m 前後 ( 東側道路面から 1m 前後 ) に遺構が確認される可能性が十分考えられる。

### (3) 出土遺物

**黄灰色土出土遺物（Fig.102）**

土師器

丸底坏 a（1）　復元口径 14.6cm。内外面とも磨滅し調整不明。

白磁

椀（2、3）　2はⅣ-1a類。3はⅡ類。部分的に釉が剥げる。

龍泉窯系青磁

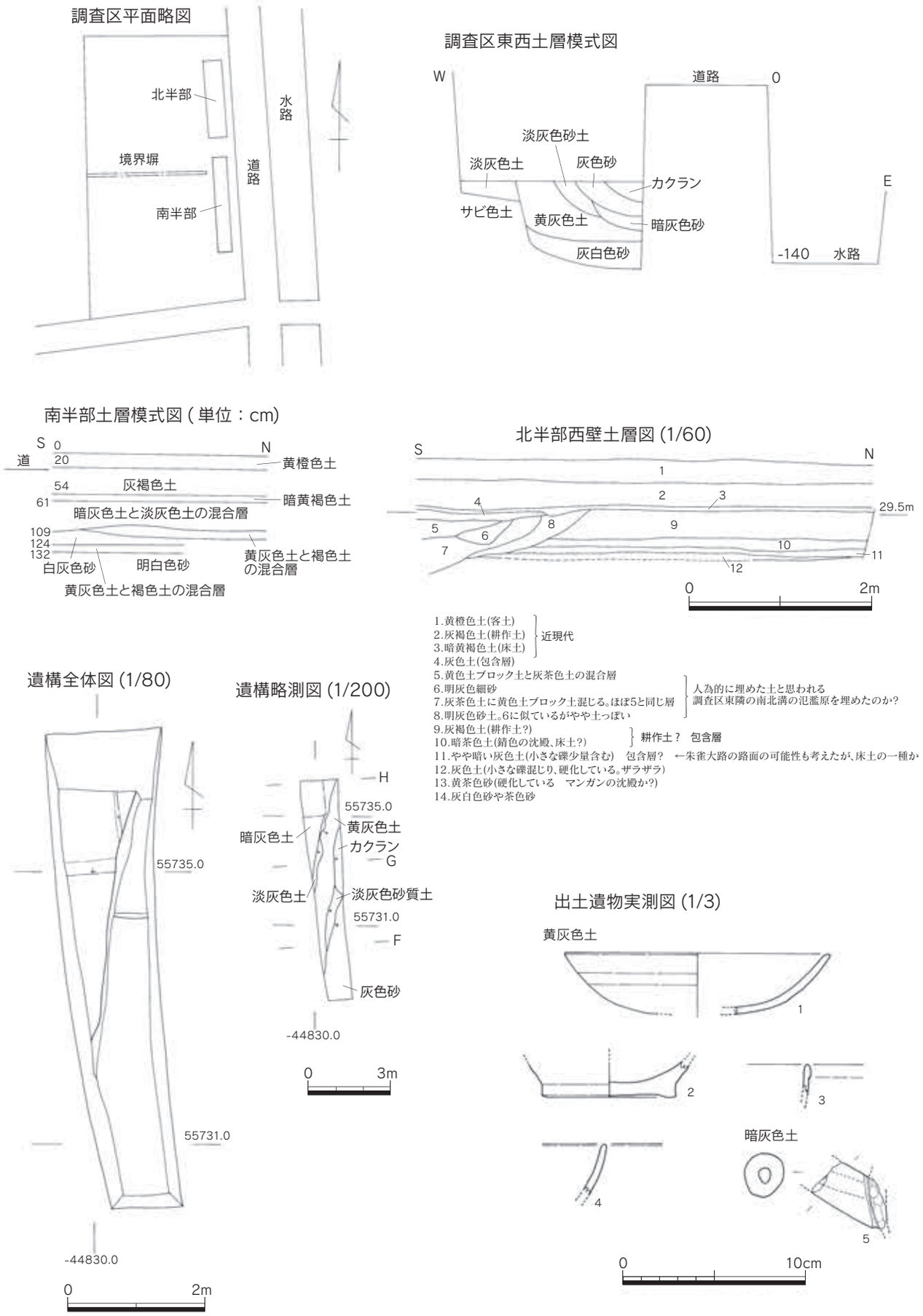



Fig.102　第 305 次調査遺構・出土遺物実測図

椀（4）　I-1 類。

**暗灰色土出土遺物（Fig.102）**

白磁

水注（5）　注口部で、灰白色釉を施すが部分的に剥げる。内面は回転ナデで露胎。広東系。

**（4）小結**

今回の調査では、水路隣接地という立地と狭小な調査範囲のため、包含層を中心とした調査となった。しかし、包含層の下位に朱雀大路の路面の可能性を残す硬化面や水路の影響を免れた安定地盤が確認されたため、水路から離れた西側では朱雀大路をはじめ遺構が残存している可能性が十分考えられ、今後の周辺での調査の参考となる成果を得ることができた。

表.27　第305次調査　出土遺物一覧表

暗灰色砂

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、破片 |
| 土師器 | 坏a(ヘラ)、破片 |
| 黒色土器B類 | 破片 |
| 高麗青磁 | 破片(1) |
| 白磁 | 破片(1)、広東系(1) |
| 金属製品 | 鉱滓 |

暗灰色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕、破片 |
| 土師器 | 坏、破片 |
| 瓦器 | 破片 |
| 白磁 | 壺他；水注(1) |
| 中国陶器 | 破片(1) |
| 瓦類 | 平瓦 |

黄灰色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、甕、破片 |
| 土師器 | 坏、丸底坏?、甕類 |
| 龍泉窯系青磁 | 椀；I-1a(1) |
| 白磁 | 椀；II(1)、II-1(1)、IV-1a(1)、破片(1)<br>白磁破片(2)、広東系(2)、口縁屈曲(2) |
| 瓦類 | 丸瓦(無文) |

表土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、坏c、甕 |
| 土師器 | 坏、椀 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 緑釉陶器 | 破片 |
| 白磁 | 椀；IV-1a(1)、V(1)、VIII(1)、直口縁(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子)、丸瓦(格子、無文) |

## 8、第 308 次調査

### (1) 調査に至る経緯

調査地は、太宰府市通古賀 5 丁目 5 番 1、5 番 4 で、西鉄天神大牟田線の沿線に位置する。

対象地については、2013( 平成 25) 年秋頃から、建築に対する文化財の取り扱いについて問い合わせが始まり、翌年 3 月頃から共同住宅建築を前提した協議が始まった。2014( 平成 26) 年 5 月 23 日、確認調査を実施し、現況 GL-130 ～ 140cm で遺構が確認された。遺構検出面が深かったため、建物の基礎が遺構に影響を及ぼさない計画を求め協議を重ねたが、地盤調査の結果、軟らかい地盤のため、地盤改良が約 150cm は必要と判断されたため、発掘調査を行うこととなった。

発掘調査は 2014( 平成 26) 年 12 月 17 日～ 2015( 平成 27) 年 2 月 16 日に実施した。開発対象面積は 866.64 ㎡で、住宅建築部分のみの調査で、調査面積は北区 168 ㎡、南区 40 ㎡の合計 208 ㎡である。調査は宮崎亮一が担当した。

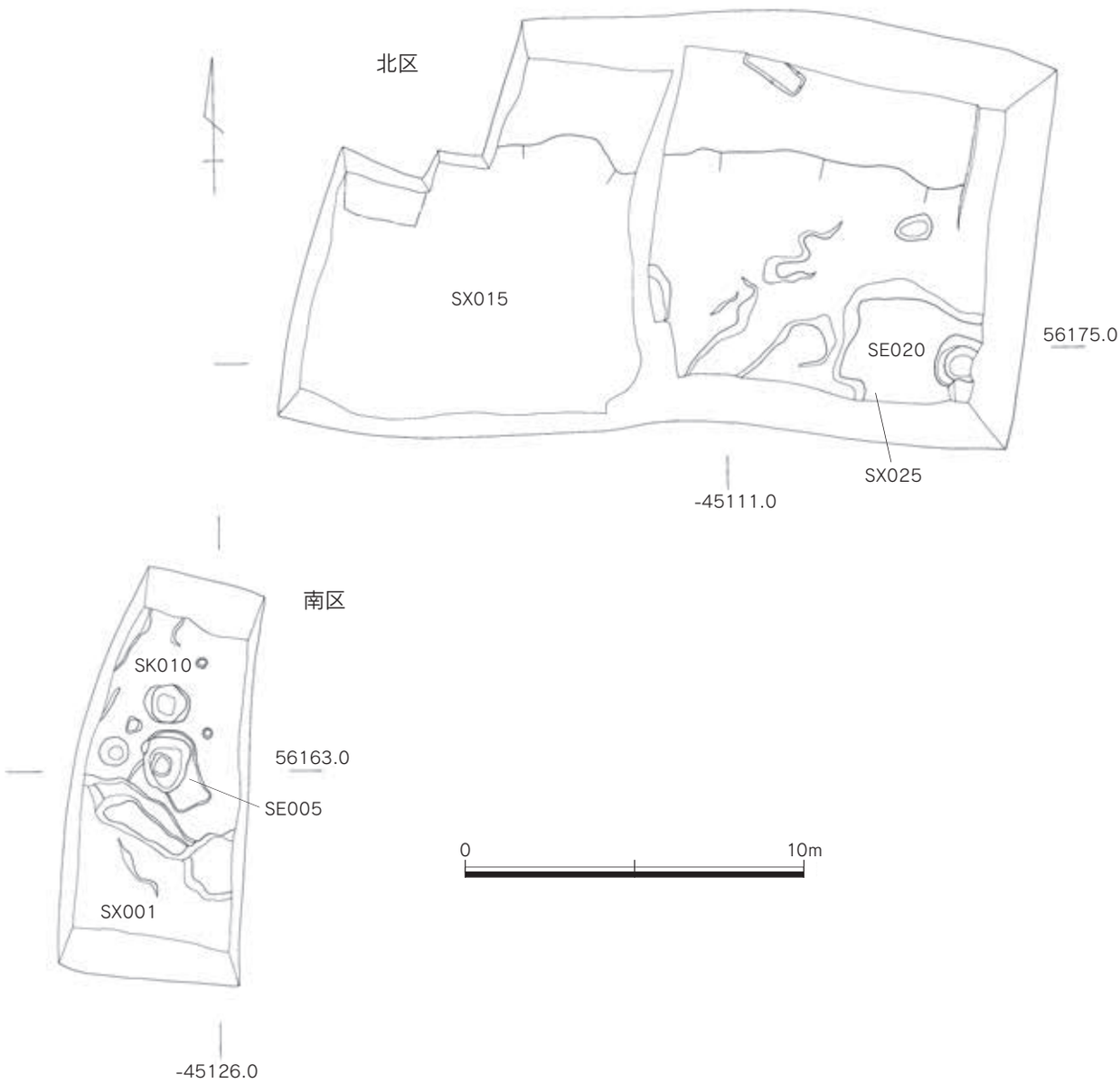



Fig.103　第 308 次調査遺構全体図（1/200）

### (2) 基本層位

調査前は住宅が建ち並んでいた。地盤は締まりのない真砂土が約 0.6 ～ 1m があり、その下に耕作土と包含層が広がる。その下に氾濫原の堆積層 (SX015) が広がっている。氾濫原上面までは西側道路から深さ 1.1 ～ 1.3m で、北側調査区で検出した地山とみられる青味がかった砂質土は、2m 程の深さで確認できた。

### (3) 検出遺構

#### 井戸

#### 308SE005（Fig.105）

東西 1.25m、南北 1.6m、深さ 0.74m の掘り方である。井戸枠そのものの形状は確認できなかったが、中央底面近くには径 0.42m の曲物を据えていたようで、曲物の木質が腐ったような茶色土が輪状に確認できた。出土遺物から最終埋没は 11 世紀後半頃と推測される。裏込め出土の遺物は少量のため明確ではないが、井戸の掘削時期は平安時代前期の可能性も考えられる。

#### 308SE020（Fig.105）

調査区端にあり、上面を氾濫原（SX015）が覆っている。掘り方の大きさは約 1.6m、深さ 0.81m。井戸枠は、部材は残っていないが、0.68×0.75m の方形で、四隅に隅柱の痕跡が僅かに確認できた。中央には二重に曲物を据えている。外側の曲物は、僅かに木質が見られる程で、径 0.59 ～ 0.62m で、高さは 0.12m 程で底面まで達していない。内側の曲物は、木質は遺存していないが、埋土状況から径 0.47m で、それぞれの大きさや調査例から外側が内側の曲物より高い位置に置かれていたものと推測される。

出土遺物から、最終埋没は 11 世紀後半頃と推測される。しかし、裏込め出土の遺物や SX015 の堆積層の前後関係から、井戸の規模は大きくないものの、井戸の掘削時期は平安前期の可能性も考えられる。

#### 土坑

#### 308SK010（Fig.105）

東西 1.34m、南北 1.1m、深さ 0.51m の円形土坑。埋土は暗灰色土である。

#### 流路

#### 308SX001（Fig.104）

南側調査区の南端で検出した流路で、SX025 の明茶色砂の堆積層に切り込み、南側調査区外に広がっている様子が窺える。北側肩は抉られたような状況で、東西ではなく斜めに振れている。有機物の堆積層と砂礫層が波打つような堆積状況が観察できた。この付近は井上条坊案の 10 条路の推定ラインに位置するが、明確に道路とわかるような所見は得られなかった。これは流路が条路を流れながら、周辺を削平していった痕跡である可能性も考えられる。

#### 氾濫原

#### 308SX015（Fig.104）

北側調査区を中心に広がる氾濫原とみられる堆積層。堆積状況から東から西へ流れたものと推測される。

地山とみられる青味の砂質土や白色砂の無遺物層を覆うように有機物層の黒茶色土（黒茶色粘土混じりの淡灰色土）が蛇行し、砂礫層である灰白色砂、細かい砂質の白色細砂層が堆積し、最終堆積として暗い灰褐色の暗灰色土層がみられる。南肩付近では部分的に黒灰色土や褐色砂が堆積している。また、黒茶色土については、下層に甌穴状に入り込んでいる部分が一部確認できる。なお、砂礫層の礫の大きさは、2 ～ 3cm 前後である。

このように細かい砂層や礫層など数層の層位が確認された。SX015 の最下層に位置する黒茶色土は、若干古い遺物が多くみられた以外は、ほぼ同時期の遺物を含んでおり、11 世紀後半～ 12 世紀初頭に

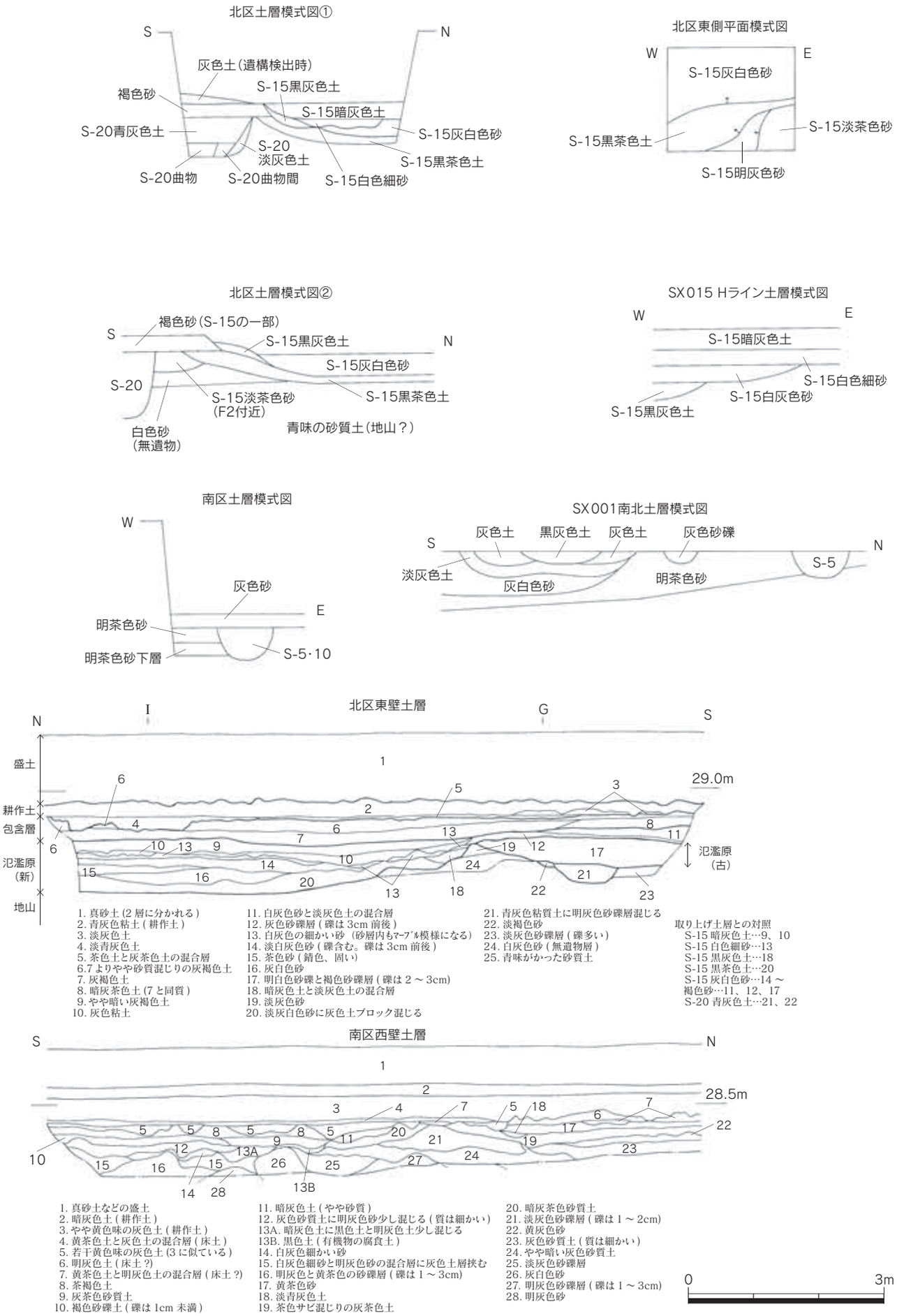



Fig.104　第 308 次調査土層実測図（1/80）・模式図

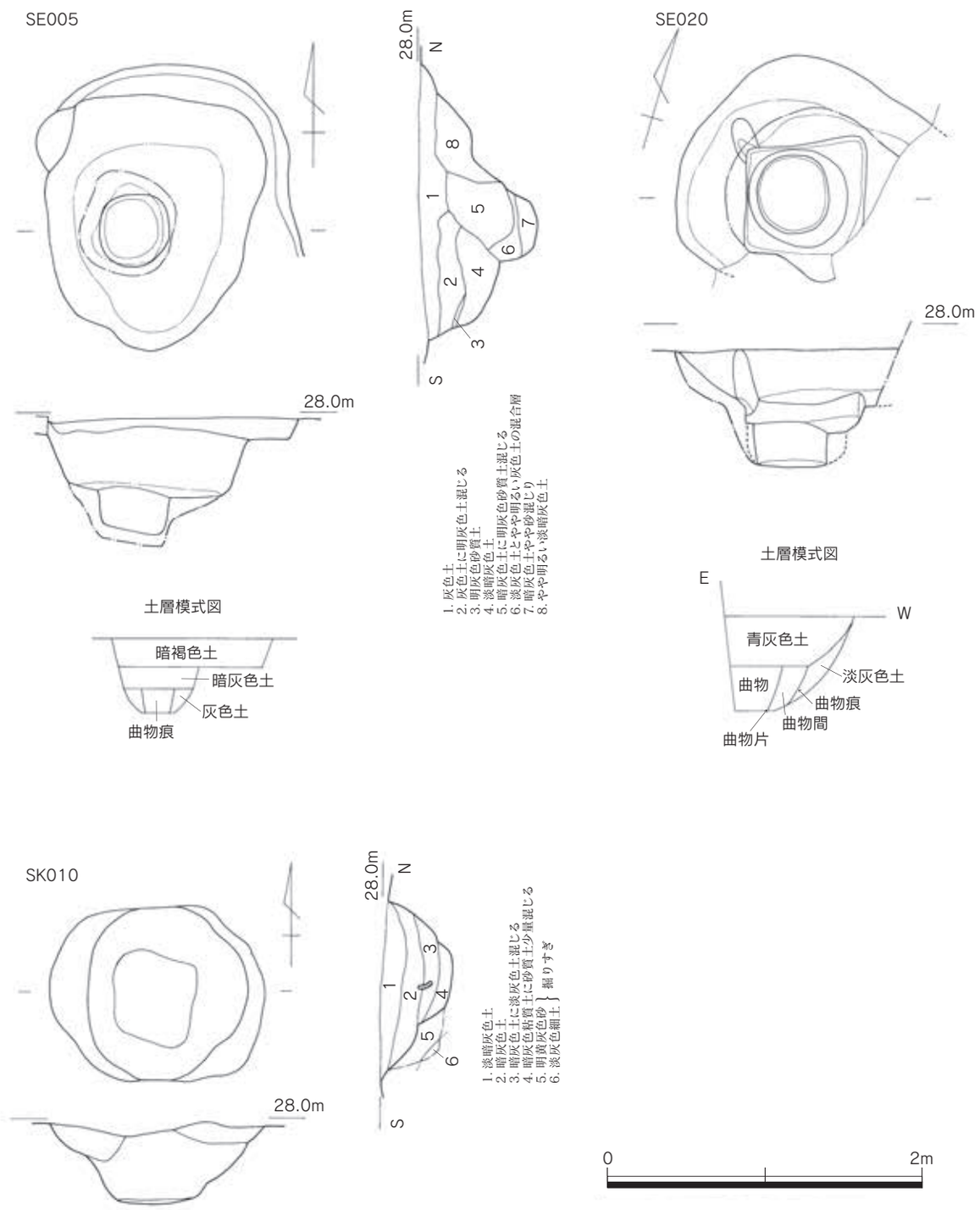



Fig.105　308SE005・020、SK010 遺構実測図（1/40）

頻繁に氾濫が起きていたことを物語っている。氾濫原の堆積層の厚みは 0.8m 前後である。

**308SX025（Fig.104）**

調査地一帯に広がる SX015 の下層にある氾濫原。北区では SX015 の一部として調査していたが、下層に位置する明灰色砂や淡茶色砂が、その層位や出土遺物がその上層と異なることがわかり、SX015 と異なる氾濫原と判断した。南区で確認された明茶色砂や明茶色下層と同一層の可能性が高い。

**（4）出土遺物**

**井戸**

**308SE005 暗灰色土出土遺物（Fig.106）**

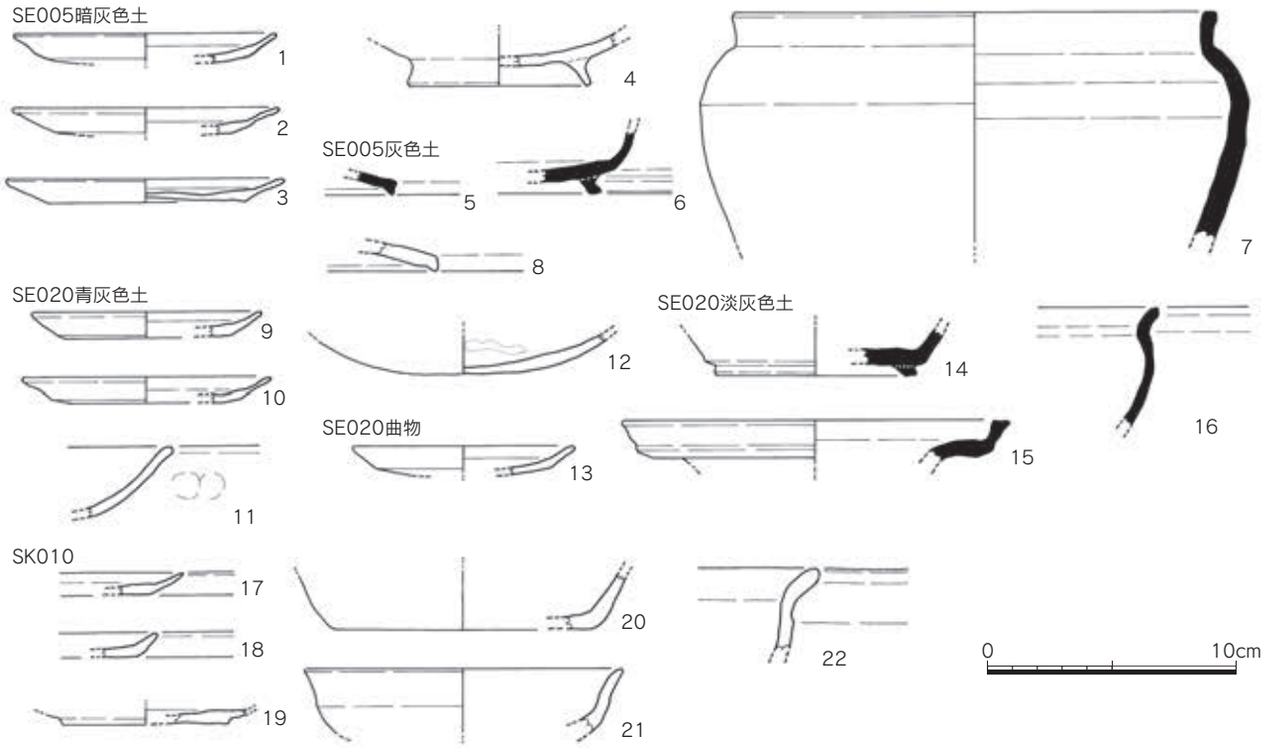



Fig.106　308SE005・020、SK010 出土遺物実測図（1/3）

土師器

小皿 a（1 ～ 3）　復元口径 10.6 ～ 11.2cm、器高 1.0 ～ 1.2cm、復元底径 7.6 ～ 8.2cm。底部が残る 3 の切り離しは回転ヘラ切りで板状圧痕が残る。

黒色土器

椀 c（4）　B 類。復元高台径 7.4cm。内面にミガキ c が残る。

**308SE005 灰色土出土遺物（Fig.106）**

須恵器

蓋 3（5）　外面上部に土器片が付着する。

坏 c（6）　やや丸味のある体部に高台を貼付する。色調は灰色を呈する。

壺（7）　復元口径 19.5cm。体部下半は回転ヘラケズリ、それ以外は回転ナデ。色調は灰色を呈する。

土師器

蓋（8）　内外面とも回転ナデ。色調は淡橙色を呈する。

**308SE020 青灰色土出土遺物（Fig.106）**

土師器

小皿 a(9、10)　9 は復元口径 9.3cm、器高 1.05cm、復元底径 7.2cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。10 は復元口径 10.0cm、器高 1.05cm、復元底径 7.6cm。

丸底坏（11）　口縁部で内面ミガキ b、外面中位には指頭圧痕が残る。

丸底坏 a（12）　底部部分で、内面に黒茶色付着物がみられる。

**308SE020 曲物出土遺物（Fig.106）**

土師器

小皿 a（13）　復元口径 9.0cm、復元底径 7.0cm。底部切り離しは不明だが、板状圧痕が残る。

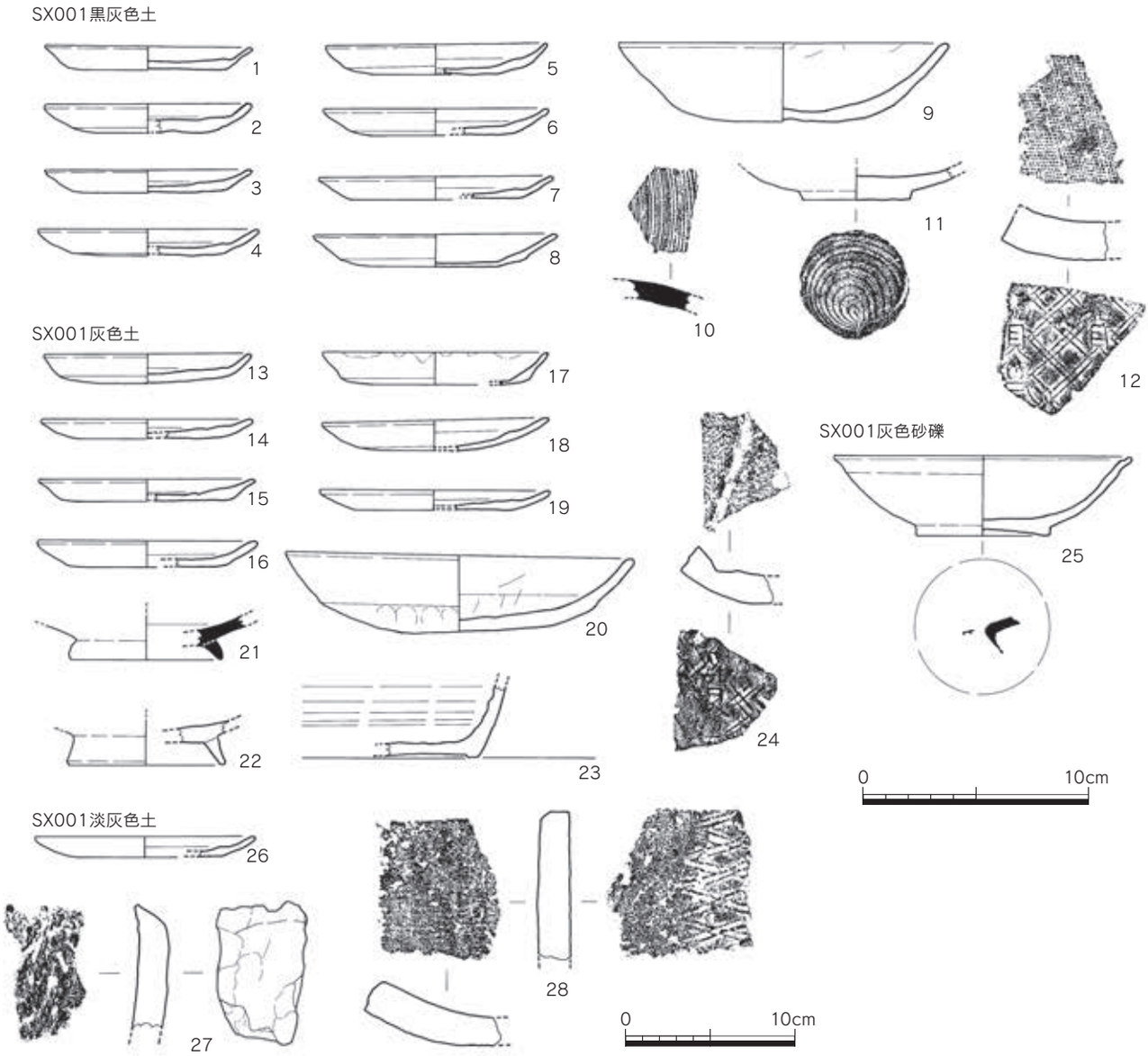



Fig.107　308SX001 出土遺物実測図①（1/3、瓦は 1/4）

**308SE020 淡灰色土出土遺物（Fig.106）**

須恵器

坏 c（14）　復元高台径 8.2cm。

壺（15）　二重口縁をなし、復元口径 15.6cm。内外面とも回転ナデ。色調は灰色を呈する。

壺 × 甕（16）　口縁部を僅かに屈曲外反させる。上半部は回転ナデで、体部下半は回転ヘラケズリ。

**土坑**

**308SK010 出土遺物（Fig.106）**

土師器

小皿 a（17、18）　器高は 0.95cm と 1.0cm。その他調整不明。

小皿 a× 坏 a（19）　底部切り離しは不明瞭で、板状圧痕が残る。復元底径 6.7cm。

坏 a（20）　復元底径は若干不明確だが 10.6cm。

坏（21）　復元口径 12.8cm。体部中位でやや屈曲する。

甕（22）　内外面ともヨコナデ調整。色調は黄灰色を呈する。

**流路**

### 308SX001

#### 308SX001 黒灰色土出土遺物（Fig.107）

土師器

小皿ａ（1 ～ 8）　復元口径 9.1 ～ 10.8cm、器高 1.0 ～ 1.45cm、復元底径 6.6 ～ 8.35cm。底部切り離しは回転ヘラ切りで、板状圧痕が残る。

丸底坏ａ（9）　復元口径 14.6cm、器高 3.5cm。内面ミガキｂでコテ当て痕が残る。外面底部に板状圧痕が残る。

須恵器

壺（10）　壺の肩付近とみられ、外面はカキ目で内面回転ナデ。胎土は僅かに砂粒を含み、焼成は良好で、色調は淡黄色と橙茶色のマーブル模様を呈する。肥後産か。

緑釉陶器

椀（11）　底部外面は回転糸切り。焼成は良好で、須恵質に仕上がり、内外面に淡緑黄色釉を薄く施すが、底部外面は露胎。底径 4.8cm。

瓦類

平瓦（12）　凸面は二重格子叩きに「賀瓦」の文字瓦。焼成良好で色調は暗黄茶色を呈する。

#### 308SX001 灰色土出土遺物（Fig.107）

土師器

小皿ａ（13 ～ 19）　復元口径 9.2 ～ 10.2cm、器高 0.9 ～ 1.45cm、復元底径 6.1 ～ 8.4cm。底部切り離しは全て回転ヘラ切りである。17 の口縁部には煤が付着する。

丸底坏ａ（20）　口径 15.4cm、器高 3.4cm。内面ミガキｂ、外面底部は押し出しで、指頭圧痕が残る。

須恵器

坏ｃ（21）　ハの字形の高台で、復元高台径 6.8cm。色調は淡橙黄色を呈する。

灰釉陶器

椀（22）　やや高い高台を貼付し、復元高台径 7.0cm。内面施釉するが内面底部は露胎である。外面は露胎。

朝鮮系無釉陶器

甕（23）　内面は強いヨコナデ、外面は回転ナデ。外面底部は回転ヘラ切り後未調整。色調は内外面とも暗灰色で、断面は赤茶色や暗灰色を呈する。

瓦類

平瓦（24）　凹面は二重格子叩きに「賀」の文字瓦。側断面はヘラ切りし折っている。

#### 308SX001 灰色砂礫出土遺物（Fig.107、Pla.15）

緑釉陶器

椀（25）　口径 13.2cm、器高 3.55cm、底径 6.0cm。口縁部内面に浅い沈線が巡る。全面に黄緑色釉を施す。底部外面には墨痕が残る。

#### 308SX001 淡灰色土出土遺物（Fig.107）

土師器

小皿ａ（26）　復元口径 9.8cm、器高 0.95cm、復元底径 7.0cm。底部の切り離しは回転ヘラ切りか。

製塩土器

焼塩壺（27）　内面は布目と絞り痕が残り、外面にはナデ痕が残る。胎土は 0.4cm 以下の白色砂粒をやや多く含み、色調は黄橙色や灰橙色を呈する。

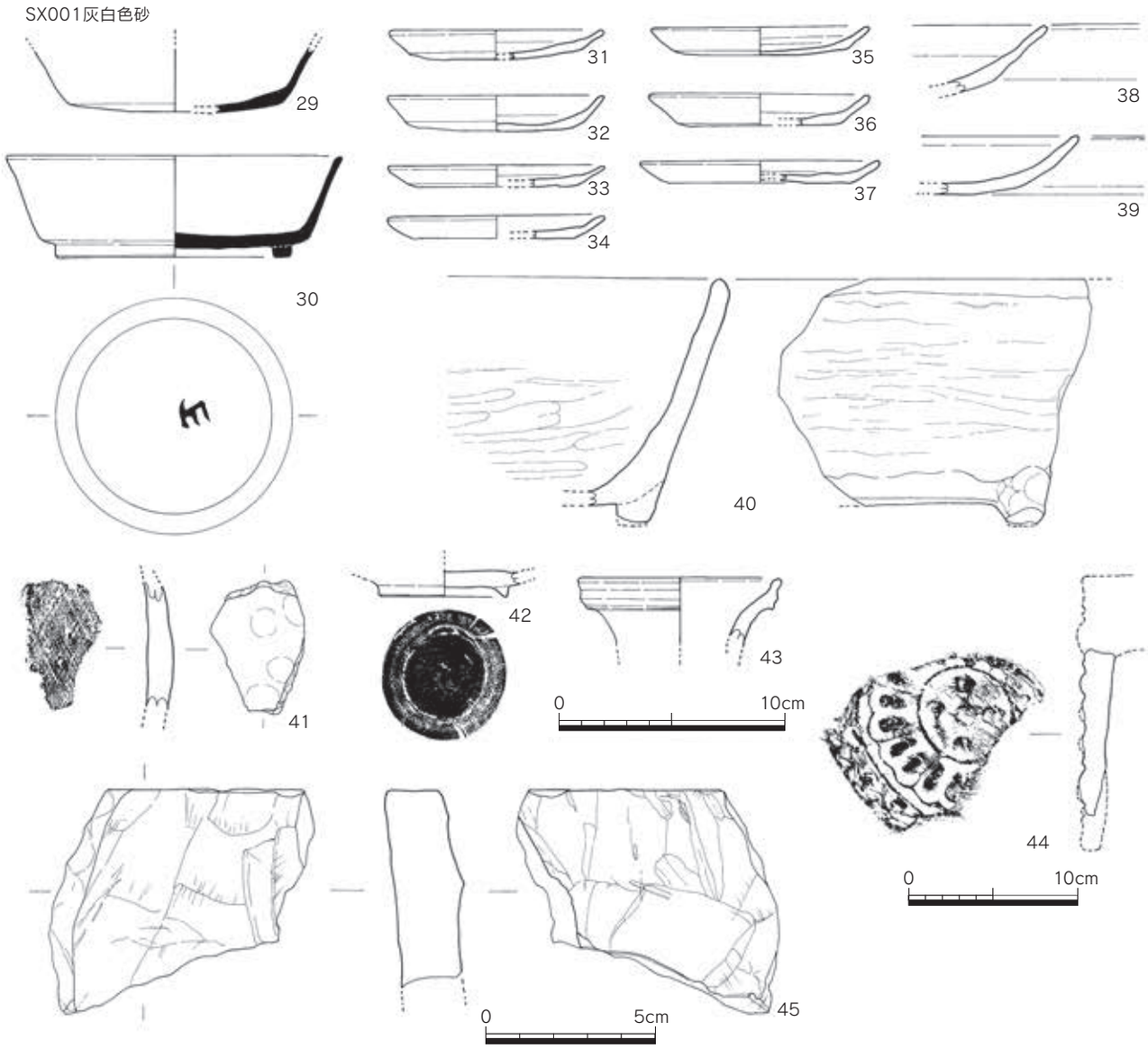



Fig.108　308SX001 出土遺物実測図②（1/3、44 は 1/4、45 は 1/2）

瓦類

平瓦（28）　凸面は横長の二重格子叩きで、凹面は布目が残る。側断面はヘラ切りと切断面が残る。

**308SX001 灰白色砂出土遺物（Fig.108、Pla.15）**

須恵器

坏 a（29）　復元底径 9.4cm。内面には漆が厚く付着する。

坏 c（30）　復元口径 19.8cm、器高 4.5cm、高台径 10.4cm。底部外面には「山」の墨書が残る。

土師器

小皿a（31～37）　復元口径9.5～10.6cm、器高0.9～1.6cm、底径7.1～8.1cm。底部切り離しは、全てヘラケズリで、板状圧痕が残るものもある。内面底部はナデ調整。

丸底坏 a（38、39）　39 には板状圧痕が残る。

土師質土器

脚付鉢（40）　胎土は 0.2cm 程の砂粒をやや多く含み、色調は暗灰色や白灰色を呈する。脚部は僅かに欠損するが、高さ 1cm、径 1.5 ～ 2.2cm 程の逆円錐台形の脚を貼付する。外面はミガキとみられ

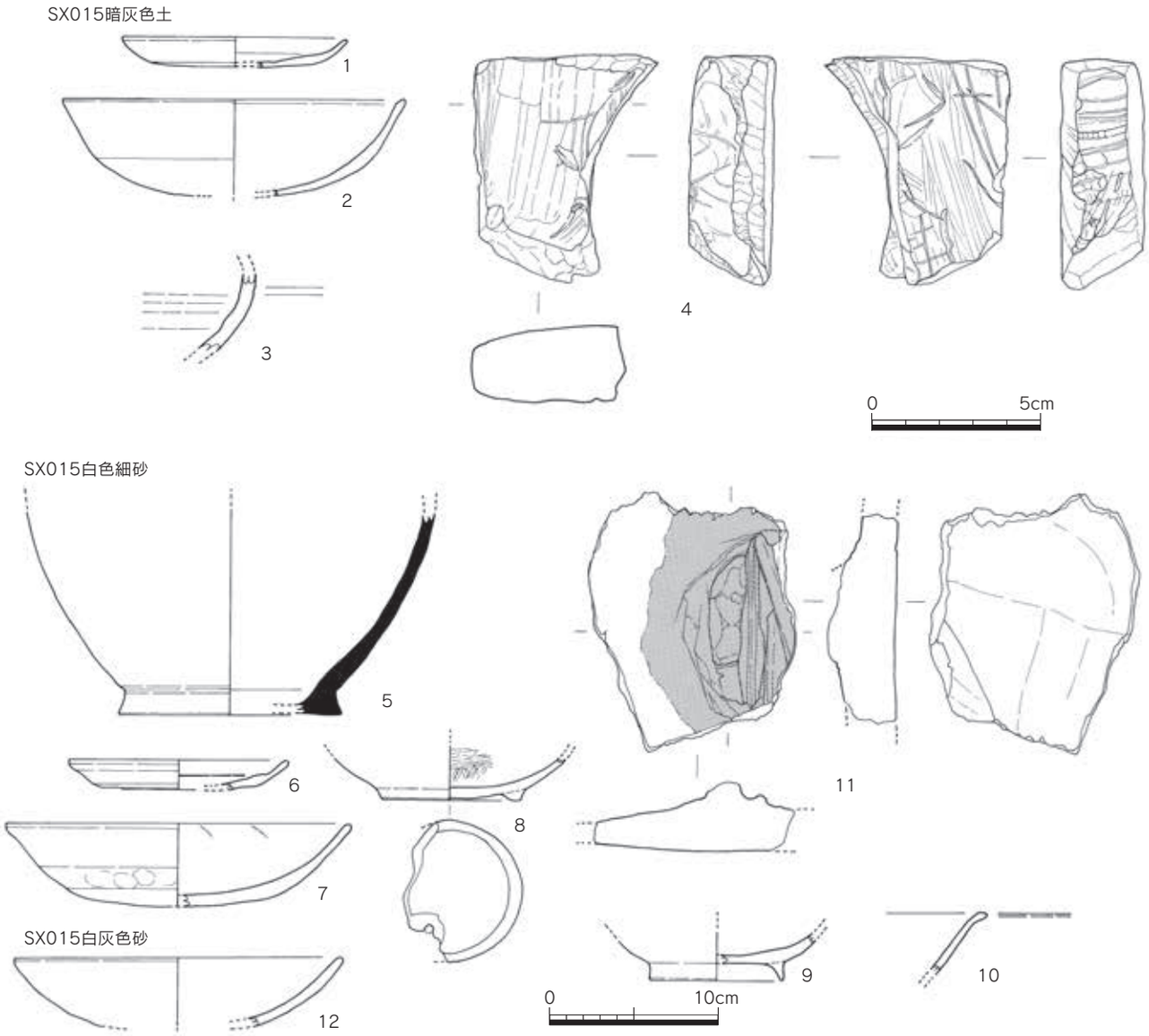



Fig.109　308SX015 暗灰色土・白色細砂・白灰色砂出土遺物実測図（1/3、4・11 は 1/2）

るが摩滅し、横方向の痕跡のみ残る。内面上半部はミガキであろうが摩滅する。下半はナデの後簡単なミガキ c を施す。高さ 10.7cm。

製塩土器

焼塩壺（41）　内面には布目痕、外面は摩滅するが指頭圧痕が残る。色調は淡赤橙色を呈する。

灰釉陶器

椀（42）　断面は三角形の高台を貼付する。高台径 5.6cm。外面は糸切りで、内外面に淡緑灰色釉を薄く施す。内面底部は釉を拭き取っている。高台径 5.6cm。

国産陶器

壺（43）　復元口径 9.0cm。口縁部外面には 2 条の沈線が巡る。胎土は灰茶色で、外面は回転ナデ、内面は茶灰色釉を施す。搬入の須恵器の可能性もあり、明確に国産陶器とも言い難い。

瓦類

軒丸瓦（44）　瓦当面は欠損しているが、中房の蓮子は 1+4、蓮弁は複弁で、その周囲には珠文を施す。

石製品

石鍋（45）　滑石製で、内外面にヘラケズリの加工痕が残る。厚さ 1.8cm 前後である。

**氾濫原**

**308SX015**

**308SX015 暗灰色土出土遺物（Fig.109）**

土師器

小皿 a（1）　復元口径 10.0cm、器高 1.3cm、復元底径 7.4cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。

丸底坏 a（2）　復元口径 15.2cm。内面ミガキ b で、外面底部には板状圧痕が残る。

灰釉陶器

壺（3）　胎土は微細な砂粒があるが精製されている。外面は淡緑灰色釉が施され、内面は強い回転ナデで露胎。

石製品

石鍋二次加工品（4）　大きさは 6.8×5.5cm、厚さ 2.5cm 前後で、形は不定形だが全面細かくケズリ加工されている。滑石製。

**308SX015 白色細砂出土遺物（Fig.109）**

須恵器

壺（5）　張り出した底部を持つ。底部外面はナデ、内外面ともヨコナデ。色調は灰色や暗灰色を呈し、断面は茶褐色を呈する。復元底径 9.9cm。篠窯か。

土師器

小皿 a（6）　復元口径 9.7cm、器高 1.3cm、復元底径 7.5cm。底部切り離しは回転ヘラ切りで、板状圧痕が残る。

丸底坏 a（7）　復元口径 15.4cm、器高 3.7cm。底部押し出しで外面中位に指頭圧痕が残る。内面ミガキ b で、コテ当て痕が残る。

黒色土器

椀 c（8）　低い高台を貼付する。復元高台径 6.2cm。内面ミガキ c を施す。B 類。底部には焼成後に円孔を穿っている。

瓦器

椀 c（9）　復元高台径 6.0cm。全体的に摩滅し調整不明瞭。

緑釉陶器

椀（10）　口縁端部を僅かに外反させる。胎土は精製され、焼成は良好で須恵質となる。内外面とも光沢のある暗緑灰色釉を施す。

石製品

滑石製加工品（11）　欠損も目立つが、内外面ともケズリ加工され、表面は大きさ 5×3.5cm 以上、高さ 0.8cm の突起があり、溝状の切り込みがある。表面には煤が付着する。滑石製。

**308SX015 白灰色砂出土遺物（Fig.109）**

土師器

丸底坏 a（12）　復元口径 14.6cm、内面ミガキ b を施す。

**308SX015 灰白色砂出土遺物（Fig.110）**

須恵器

椀（1）　復元底径 6.8cm。底部切り離しは回転糸切り。色調は灰白色を呈する。篠窯。

鉢（2 ～ 4）　全て篠窯とみられる。1 は復元底径 6.8cm。底部外面は回転糸切り。内外面ともヨコナデ。

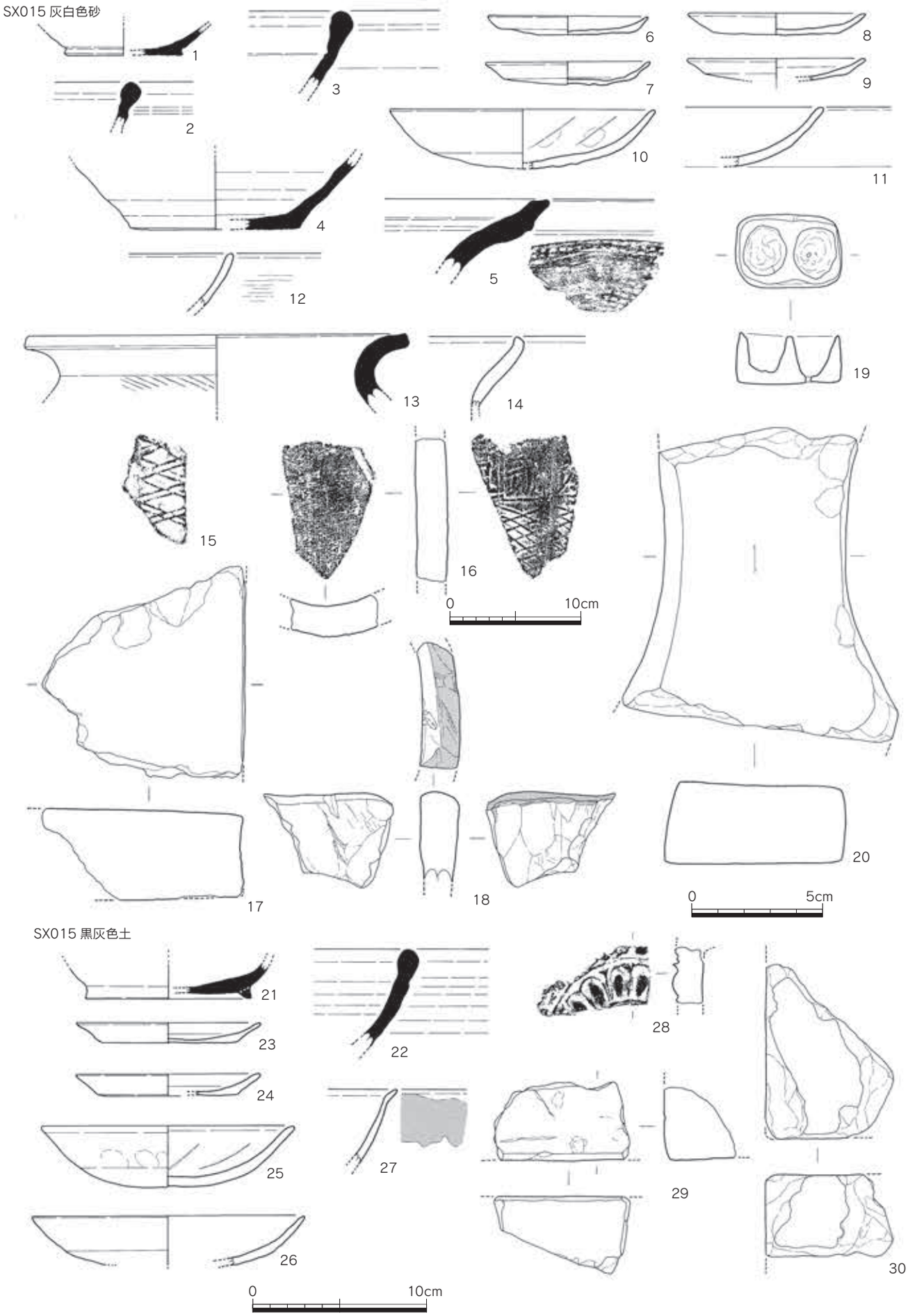



Fig.110　308SX015 灰白色砂・黒灰色土出土遺物実測図（1/3、石製品は 1/2、瓦は 1/4）

色調は白灰色を呈する。2・3は肥厚した口縁部で、内外面とも回転ナデで、色調は白灰色を呈する。4は復元底径9.8cm。底部外面は回転糸切り。内面は使用によりやや摩滅する。色調は白灰色を呈する。

壺(5)　外面頸部は叩きの後ナデ調整。それ以外はヨコナデ。還元やや不良で、色調は白灰色を呈する。

土師器

小皿a（6～9）　復元口径9.2～10.2cm、器高1.1～1.35cm、復元底径7.0～8.3cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。

丸底坏a（10、11）　10は復元口径15.2cm、器高3.4cm。内面ミガキbでコテ当て痕が残り、外面底部には板状圧痕が残る。

瓦器

椀（12）　内外面とも摩滅するがミガキとみられる。色調は白灰色や暗灰色を呈する。

須恵質土器

甕(13)　復元口径22.0cm。頸部外面は叩き痕があり、その後全体的に回転ナデ調整。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を含み、色調は暗灰色を呈する。

灰釉陶器

甕（14）　口縁部内面を僅かにつまみ出している。内外面とも回転ナデ調整。胎土は精製され、焼成は良好で、色調は灰色を呈する。

瓦類

平瓦（15、16）　15は横長の二重格子。厚さ2.1cm。16は格子叩きに「筑」の文字瓦。

無文塼（17）　厚さ5.2cm前後。胎土は0.8cm以下の白色砂粒を多く含み、色調は灰色や白黄茶色を呈する。内外面とも摩滅し調整不明瞭。

石製品

石鍋(18)　口縁部の破片で、内外面にケズリ痕が残り、外面と口縁端部上面に煤が付着する。滑石製。

石製小型容器（19）　滑石製で、全体の大きさは4.0×2.9cm、厚さ1.9cmの隅丸直方体で、径1.65cm、深さ1.5cmの円孔が彫られ、片方は僅かに貫通している。

砥石（20）　片方を欠損し、現存長12.1cm、最大幅10.4cm。4面使用している。

**308SX015 黒灰色土出土遺物（Fig.110）**

須恵器

坏c（21）　断面三角形の外側に踏ん張る高台を貼付する。復元高台径9.5cm。色調は黄白色を呈する。肥後産か。

鉢（22）　肥厚させた口縁部で、内外面とも強いヨコナデ調整。胎土は精製され、色調は淡黄灰色を呈する。篠窯。

土師器

小皿a（23、24）　23は復元口径10.6cm、器高1.15cm、復元底径7.7cm。底部はヘラ切りで板状圧痕が残る。24は復元口径10.8cm、器高1.25cm、復元底径8.0cm。

丸底坏a（25、26）　25は復元口径14.6cm、器高3.5cm。内面はミガキbで、コテ当て痕が残る。26は復元口径15.6cm。

椀（27）　丸味のない体部で、口縁端部を僅かに外反させる。外面には煤が付着する。

瓦類

軒丸瓦（28）　蓮弁は複弁で、その外側に珠文が巡る。

無文塼（29、30）　2点とも断面は灰色で外面のみ黒灰色を呈する。29は厚さ4cm以上。外面はナ

デ調整か。30 は厚さ 4.7cm 以上。表面は摩滅し調整不明。

**308SX015 褐色砂出土遺物（Fig.111・112、Pla.15）**

須恵器

鉢もしくは盤（1）　底部外面は回転糸切りで、復元底径 17.4cm。胎土は 0.2cm 以下の白色砂粒を多く含み、内面は灰褐色、外面は暗灰色を呈する。体部は内外面とも回転ナデ調整。

鉢（2、3）　2 の外面底部は、回転糸切りで板状圧痕が残る。復元底径 9.9cm。内面は使用でやや平滑となる。胎土は 0.2cm 以下の白色砂粒と黒色粒を含み、灰青色を呈する。篠窯。3 は肥厚した口縁部で、胎土は精製され、色調は淡灰黄色を呈する。内外面とも回転ナデ。

壺（4～6）　4は焼成不良で白黄色を呈する。底径6.2cm。5は復元口径3.6cm。色調は暗灰色を呈する。6は口縁部とみられ、外面が二段になる。内外面とも回転ナデ。焼成良好で、色調は灰色を呈する。

土師器

小皿 a（7 ～ 20）　復元口径 8.8 ～ 10.8cm、器高 0.9 ～ 1.35cm、復元底径 6.4 ～ 8.5cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。底部外面に板状圧痕を残すものもある。

坏 a（21）　復元底部径 8.2cm。底部切り離しは回転糸切りである。

椀 c（22、23）　22 は方形状の高台を貼付し、復元高台径 6.8cm。色調は淡黄灰色を呈する。23 は高台径 6.4cm。色調は黄白色を呈する。摩滅するが内面ミガキか。

丸底坏 a（24 ～ 33）　復元口径 13.2 ～ 16.0cm、器高 2.9 ～ 4.2cm。全体的に摩滅が目立つ。30 の底面には径 0.6cm の円孔が穿たれている。

鉢もしくは壺（34）　上げ底の底部で、胎土は 0.05cm 以下の砂粒を含み、内面は黒灰色、外面は淡橙黄色を呈する。調整は摩滅し不明瞭。古代の土器ではないかもしれない。

甕（35）　復元口径 28.6cm。口縁部は稜線を付けずに L 字状に外反させる。外面は横方向の強いヨコナデ、内面はヘラケズリ調整。胎土は砂粒を多く含み、色調は暗茶灰色などを呈する。

石製品

用途不明品（36）　長さ 5.35cm、幅 2.5cm 前後で、中央に径 0.8cm、深さ 1.7cm の孔が彫りこまれているが、貫通してはない。周囲をケズリ加工しているが、用途が不明である。

把手もしくは脚（37）　破片で鍋などの把手もしくは脚部と推測される。径 3cm 前後で、先端部をやや曲げている。全面指頭圧痕が残る。

カマド（38）　移動式竈の庇の下部付近である。胎土は白色砂粒を多く含み、色調は黄橙色を呈する。内外面ともヨコナデ調整で、内面は明確にヨコナデ痕が残る。

灰釉陶器

壺（39）　焼成良好で胎土は黄灰色を呈する。壺の底部で安定した高台を貼付する。復元高台径 15.0cm。高台底面には砂目が付着する。外面は回転ヘラケズリで、体部外面には薄い緑色釉を薄く施釉する。内面底部が一方向のナデで部分的に釉が付着する。体部内面はヨコナデの後薄い緑色釉を施釉する。

緑釉陶器

椀もしくは皿（40）　削り出し高台で、高台径 5.9cm。胎土は須恵質に焼成され、色調は淡灰色を呈する。高台外面以外は光沢のない薄緑灰色釉をうっすら施す。京都産。

椀（41）　底部は回転糸切りで、断面三角形の高台を貼付し、復元高台径 6.4cm。胎土は須恵質に焼成され、淡灰色を呈する。内外面とも暗緑色釉を施す。近江産か。

香炉（42）　口縁端部を内側に曲げて受け部を作る。復元口径 10.1cm。胎土は精製され須恵質で、

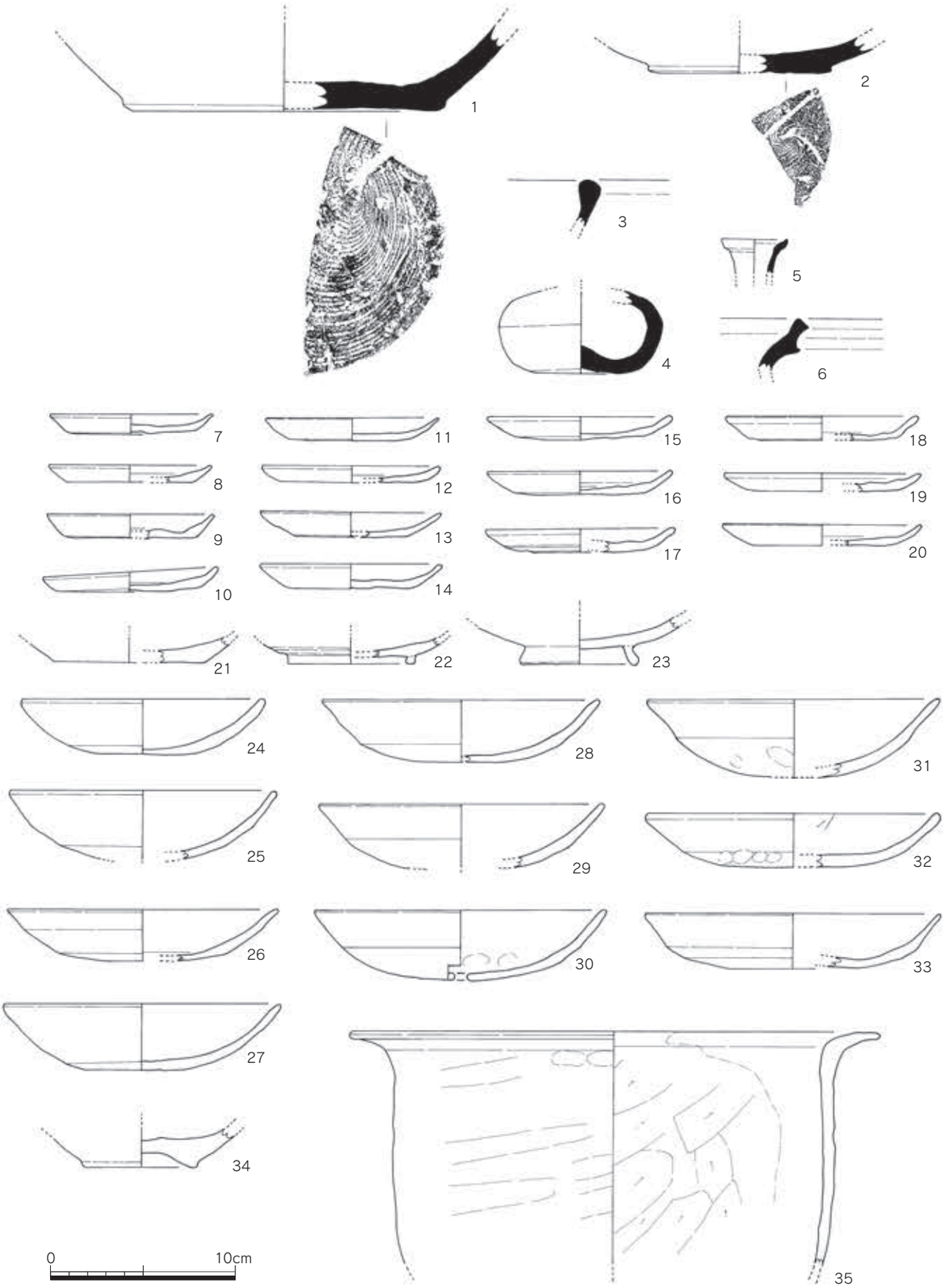



Fig.111　308SX015 褐色砂出土遺物実測図①（1/3）

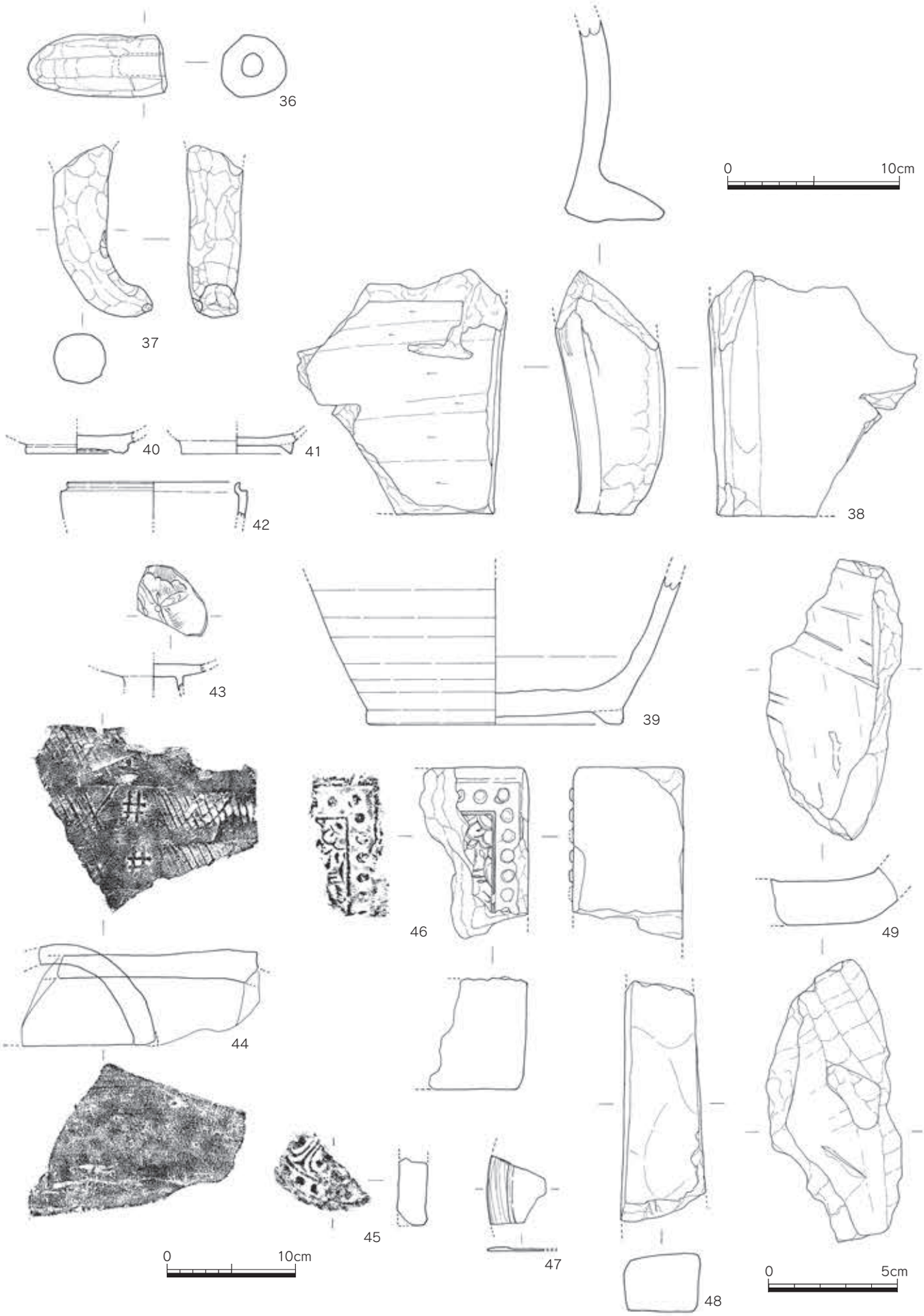



Fig.112　308SX015 褐色砂出土遺物実測図②（1/3、瓦は 1/4、石製品は 1/2）

内外面とも光沢のある暗緑灰色釉を施す。東海産か。

青白磁

椀もしくは皿（43）　細く高い高台を貼付する。内面にはヘラ描き文様が施される。内外面とも淡青緑色釉を薄く施すが、高台内面は露胎である。

瓦類

軒丸瓦（45）　蓮弁は複弁で、周囲に珠文がみられる。

丸瓦（44）　凸面は細長い格子叩きで「井」の文字がみられる。「平井」の一部か。

文様塼（45）　片面のみ文様を施す。厚さは 6.4cm。胎土は 0.2cm 以下の白色砂粒をやや多く含み、色調は淡灰色を呈する。文様面以外はケズリ調整する。文様は周囲に珠文を並べ、その内側の隅に花文を施し、僅かに水波文がみられる。

金属製品

銅鏡（47）　錆がほとんどなく、黒灰色を呈する。厚さは 1mm で、扁平な縁は厚さ 2mm で、表面は削りもしくはミガキのような痕跡が残る。鏡面は光沢がある。小片ゆえに正確ではないが、復元径 20cm 前後と推測される。

砥石（48）　上下欠損し、現存長 9.3cm、幅は 2.2 ～ 3.4cm。4 面使用している。

石鍋（49）　石鍋の底部で、内外面ともケズリ成形している。滑石製。

**308SX015 黒茶色土出土遺物（Fig.113）**

須恵器

壺 e（1）　肩部に方形突帯を巡らす。内外面とも回転ナデ。色調は黄灰色と茶灰色のマーブル模様。

大甕（2）　外面は叩きの後ヨコナデで、口縁外面屈曲部下には波状文を付ける。内面は横方向のナデ調整。色調は内外面とも灰色を呈する。

土師器

小皿 a（3 ～ 7）　復元口径 9.0 ～ 10.0cm、器高 1.0 ～ 1.3cm、復元底径 7.0 ～ 7.8cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。

坏（8）　内外面とも回転ナデだが、外面は強い回転ナデ。色調は黄橙色を呈する。

甕（9 ～ 11）　9 は内面ヘラケズリ、外面摩滅し調整不明。10 は外面タテハケ、口縁部はヨコナデ。11 は外面ヨコハケ、内面横方向のヘラケズリ。

脚付鉢（12）　胎土は 0.6cm 以下の白色砂粒を多く含み、黄白色や明橙色を呈する。外面ヨコナデ、内面は摩滅し調整不明。

土師質土器

火舎（13）　内側に幅 5.4cm の突起が貼付されている。内外面ともヨコナデ。色調は明茶灰色を呈す。

黒色土器

椀（14）　B 類。内外面ともミガキ c が残る。

石製品

砥石（15）　長さは 12.7cm、幅 5.1×3.7cm。全面使用し、一部条痕が残る。暗灰色の堆積岩製。

**308SX025**

**308SX025 明灰色砂出土遺物（Fig.114、Pla.15）**

須恵器

皿 a（1）　復元口径 14.2cm、器高 1.65cm、復元底径 11.2cm。

坏 c（2 ～ 5）　2 は低い高台を貼付する。復元高台径 6.4cm。3 は復元高台径 9.6cm。

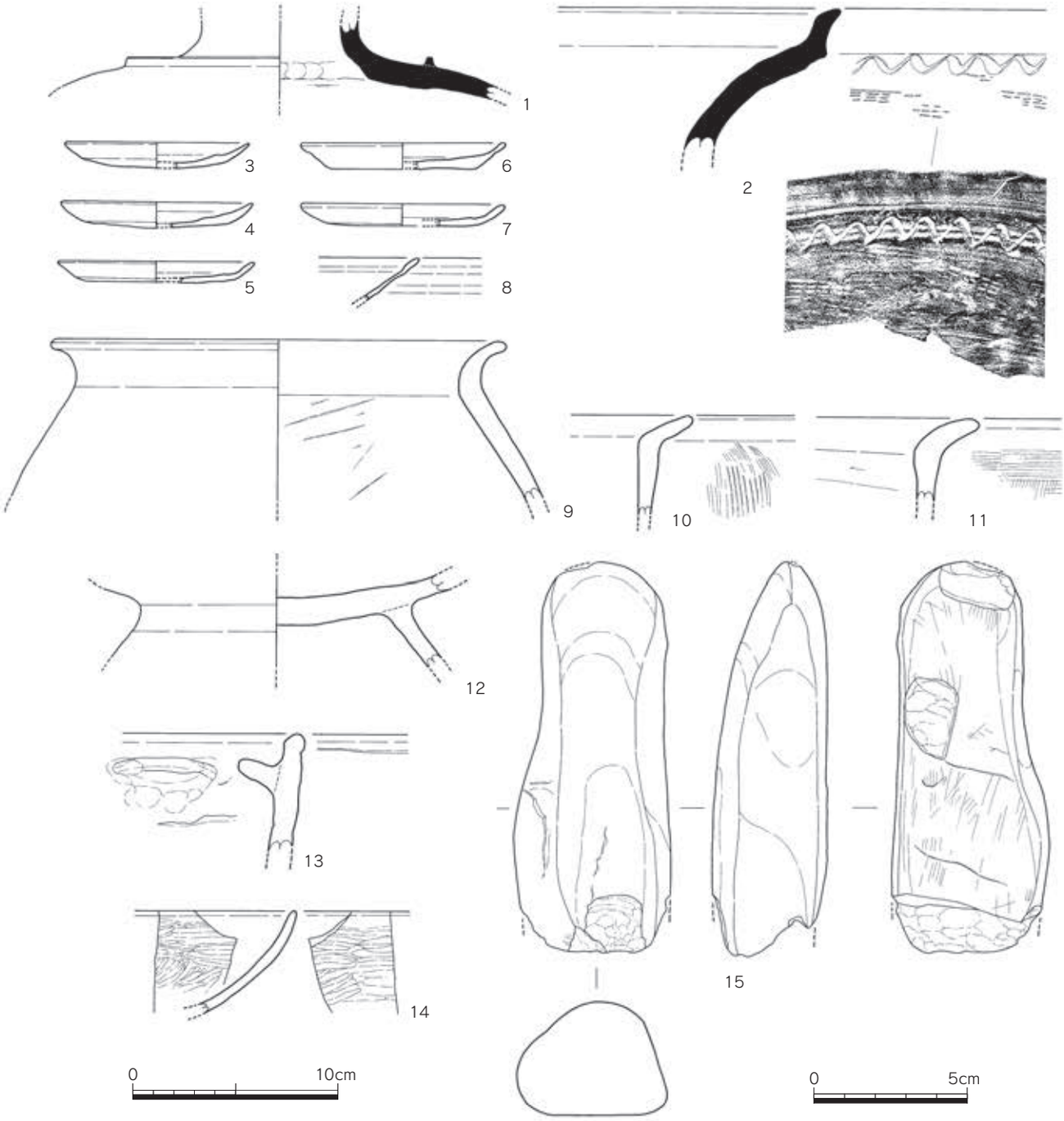



Fig.113　308SX015 黒茶色土出土遺物実測図（1/3、15 は 1/2）

鉢（6）　若干外反しながら立ち上がる直口縁。内外面ともヨコナデ調整。

大甕（7）　外面は叩きの後回転ナデ調整、内面は当て具を回転ナデでナデ消している。

土師器

坏a(8～11)　底部はほぼ平坦で体部との境は僅かに丸味を帯びる。色調は薄茶色や茶灰色を呈する。底部切り離しは回転ヘラ切り。復元底径 6.0 ～ 8.0cm。

坏（12）　復元口径 13.0cm。色調は白茶色を呈する。

高坏（13）　内外面とも摩滅し調整不明。色調は薄茶色を呈する。

甕（14）　口縁部は稜線を付けず曲げ、復元口径 25.0cm。体部外面はタテハケで、口縁部にかけて

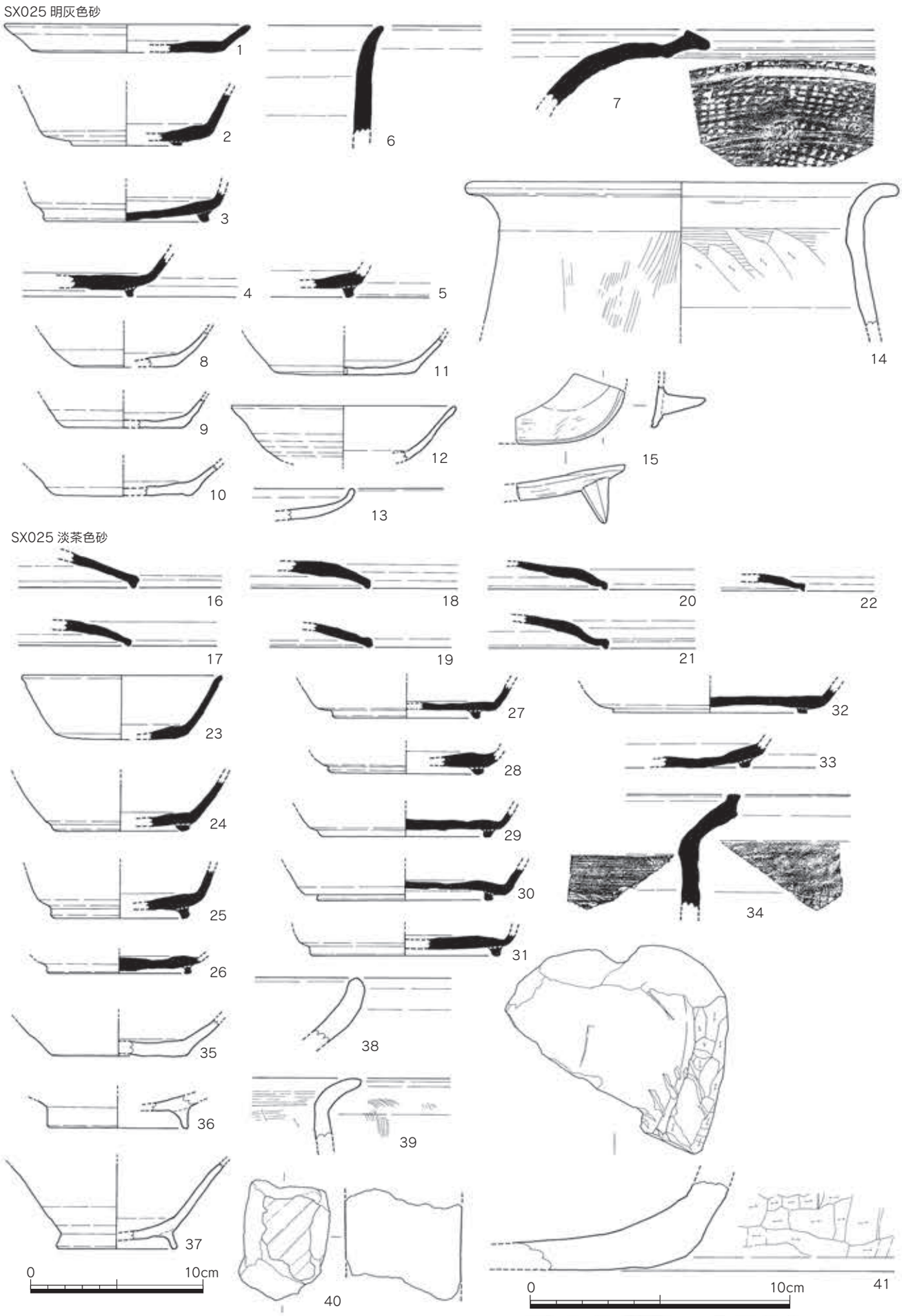



Fig.114　308SX025 明灰色砂・淡茶色砂出土遺物実測図（1/3、石製品は 1/2）

煤が付着する。内面はヨコハケの後ヘラケズリ。口縁部はヨコナデ調整。色調は淡い茶灰色などを呈する。

黒色土器

硯（15）　硯面は使用で若干平滑となり、中央部が僅かであるがさらに窪んでいる。また、硯面の内面縁辺部に浅い沈線が巡る。面取りした角錐状の脚を貼付する。全体的に丁寧な作りで搬入品の可能性が高い。B 類。

**308SX025 淡茶色砂出土遺物（Fig.114）**

須恵器

蓋 3（16 ～ 22）　16 は口縁端部が断面三角形だが、その他は僅かに摘まんだような口縁端部である。18 は外面上半部が回転ヘラケズリだが、その他は確認できる範囲は回転ナデ調整。

坏 a（23）　復元口径 11.6cm、器高 3.7cm、復元底径 7.7cm。色調はやや暗い灰色を呈する。

坏 c（24 ～ 33）　復元高台径 8.1 ～ 11.0cm。全体的にやや低い断面方形が崩れたような高台を貼付する。24 は外開きの体部である。底部は回転ヘラ切り後ナデ、もしくは板状圧痕を残す。

甕（34）　口縁部の破片だが、残る体部は丸味なく直上し、口縁部を外反させる。口縁部は回転ナデだが、外面は格子状の叩き、内面は当て具痕が残る。胎土は精製され、外面灰色を呈する。

土師器

坏 a（35）　若干厚みがあるが坏とみられる。復元底部径 7.8cm。色調は淡茶色を呈する。内外面摩滅し調整不明。

椀 c（36、37）　36 は復元高台径 8.2cm。色調は茶灰色を呈する。27 は底部が丸味のある底部にで、体部はやや外反気味に外開きである。色調は白黄茶色を呈する。復元高台径 7.0cm。

鉢（38）　僅かに内湾する口縁部。胎土は白色砂粒を多く含み、茶色粒も少量含む。内外面とも摩滅し調整不明。破片で全形不明だが鉢とみられる。

甕（39）　内面はケズリの後ヨコハケ、外面タテハケ。

瓦類

無文塼（40）　厚さ 6.9cm。外面はケズリで、胎土は白色砂を多く含み、色調は断面が白灰色で、外面は暗灰色を呈する。

石鍋（41）　石鍋の底部付近で、内外面にヘラケズリ加工され、欠損断面部にもケズリ加工があり、二次加工とみられる。滑石製。

**308SX025 明茶色砂出土遺物（Fig.115）**

須恵器

蓋 3（1 ～ 4）　口縁端部は僅かに摘まむ程度。1 は復元口径 11.8cm。口縁端部内面が僅かに窪む程度に仕上げる。3 は外面上半部が回転ヘラケズリの後ナデ調整。

蓋 4（5）　口縁端部内面が僅かに窪むが端部は丸く仕上げる。内外面とも回転ナデ調整。

坏 a（6）　若干丸味のある底部で、復元底径 7.3cm。

坏 a もしくは皿 a（7）　復元底径 11.6cm。底部外面は回転ヘラケズリで、それ以外は回転ナデ。焼成やや不良で明灰色を呈する。

坏 c（8 ～ 15）　復元高台径 6.1 ～ 10.3cm。9 ～ 12 はやや貧弱な高台で、8・13 ～ 15 はやや低い断面逆台形の高台を底部端に貼付する。8 は復元口径 14.4cm、器高 4.25cm、復元高台径 10.3cm。

壺（16）　復元高台径 9.7cm。内外面とも回転ナデ。

甕（17、18）　17 は復元口径 21.8cm。体部内面に当て具痕がみられる。それ以外は回転ナデ調整。色調は淡灰色を呈する。18 は復元口径 24.0cm。体部外面は叩きのあとヨコハケ、体部内面は当て具

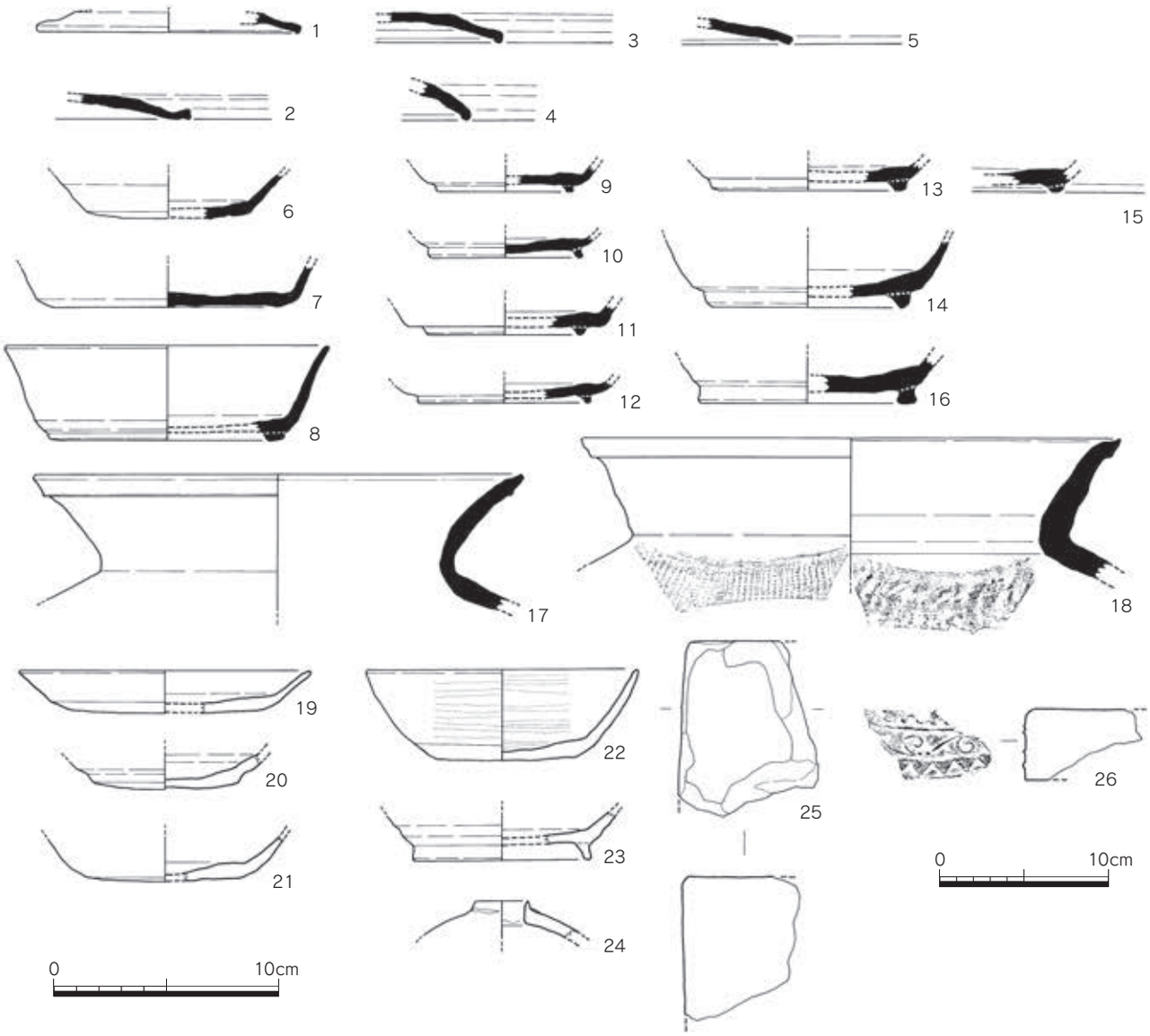



Fig.115　308SX025 明茶色砂出土遺物実測図（1/3、瓦は 1/4）

痕をヨコナデで消している。口縁部は内外面ともヨコナデ。色調は暗灰色を呈する。

土師器

皿 a（19）　小片のため明確ではないが、復元口径 13.0cm、器高 1.9cm、復元底径 10.2cm。色調は灰黄橙色を呈する。

坏 a（20、21）　底部切り離しは回転ヘラ切り。20 は凸レンズ状に張り出した底部を持つ。色調は黄白色を呈する。21 は底部と体部との境が丸味を持つが、底部は平坦である。

坏 d（22）　口径 12.1cm、器高 3.95cm、底径 6.0cm。底部外面は回転ヘラケズリで、それ以外は内外面ともミガキ a を施す。

椀 c（23）　復元高台 8.0cm。色調は黄白色を呈する。

越州窯系青磁

短頸壺（24）　I 類。小片で明確にし難いが、復元口径 2.4cm の僅かに口縁部を作り出した短頸壺と推測した。釉は灰緑色釉で全面に薄く施釉され、鈍い光沢がある。頸部外面付け根には重ね焼き痕とみられる胎土が付着する。

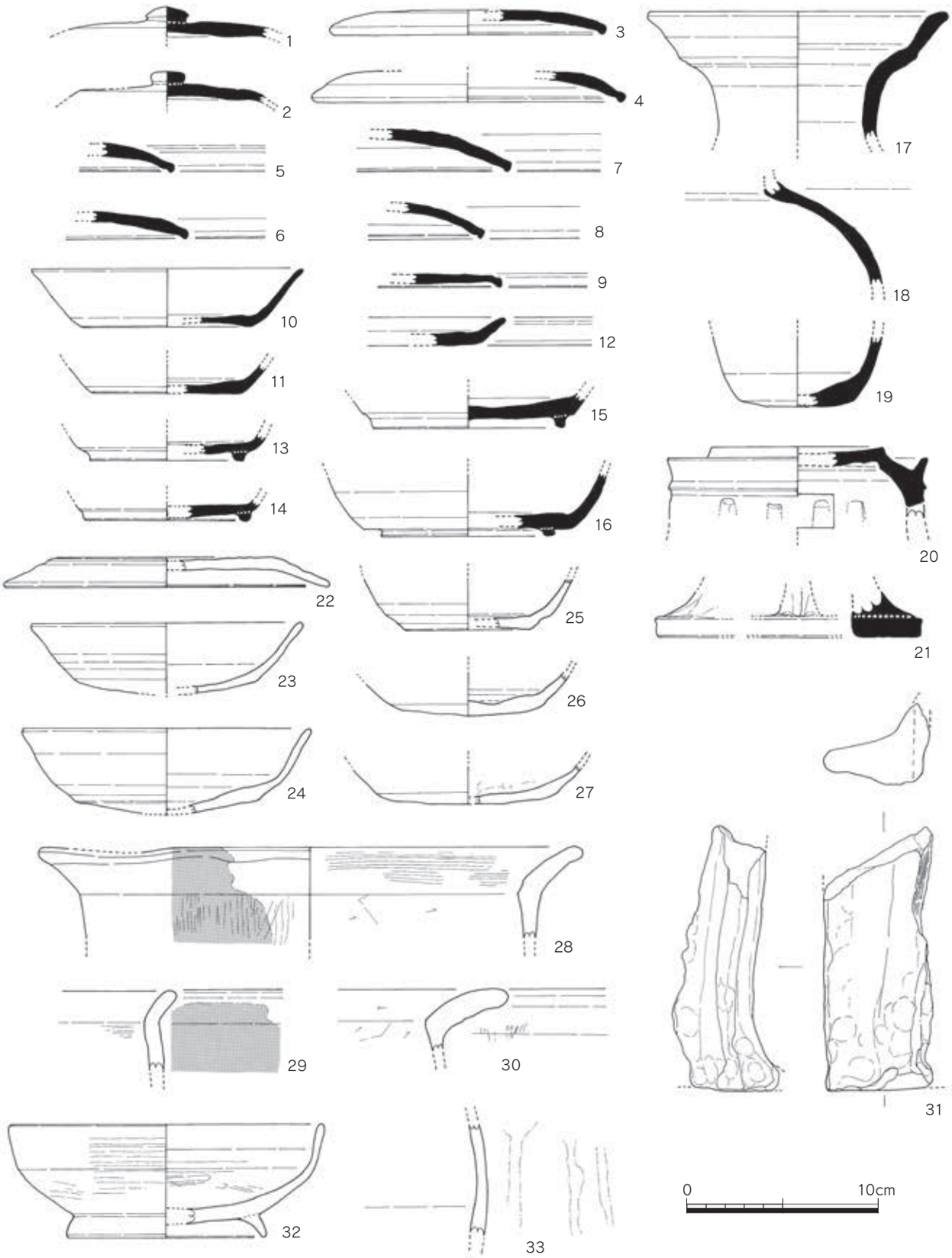



Fig.116　308SX025 明茶色砂下層出土遺物実測図（1/3）

瓦類

塼（25）　焼成不良で、全体的に摩滅する。胎土は 0.5cm 以下の砂粒を多く含み、断面灰黄色、外面黒色を呈する。

軒平瓦（26）　内区は左行の偏行唐草文、上外区に珠文、下外区に鋸歯文を施す。僅かに残る凸面に縄目叩きがみられる。焼成はやや軟質で、色調は淡灰色を呈する。

**308SX025 明茶色砂下層出土遺物（Fig.116）**

須恵器

蓋 c（1、2）　1 は外面回転ヘラケズリ。2 はボタン状のツマミを貼付する。外面上半部回転ヘラ切りの後ナデ調整。

蓋 3（3 ～ 9）　全て小さく摘まんだ口縁端部である。外面上半部は回転ヘラケズリの後ナデ調整。3 は復元口径 14.4cm。4 は復元口径 16.4cm。7 は外面中位に重ね焼き痕が残る。

坏 a（10、11）　外面底部切り離しは回転ヘラ切り後ナデ調整。内面底部はナデ、その他は回転ナデ調整。10 は復元口径 14.2cm、器高 3.05cm、復元底径 9.1cm。色調は灰色を呈する。11 は復元底径 8.0cm。

皿 a（12）　器高 1.45cm。底部は回転ヘラ切りの後ナデ調整。色調は白灰色を呈する。

坏 c（13 ～ 16）　13 ～ 15 は底部端に高台を貼付する。16 は低い高台を貼付する。高台径 8.0 ～ 10.0cm。13 の胎土は白色砂粒を若干多く含む。

壺（17、18）　17 は二重口縁で、復元口径 15.6cm。外面は回転ナデ、内面は灰被りしている。色調は暗灰色を呈する。18 は内外面とも回転ナデ調整で、外面は灰被りで灰茶色を呈する。内面は淡茶色と暗茶色が層状にみえる。肥後産か。

小壺（19）　外面は回転ヘラケズリ、回転ヘラ切りの後ナデ調整。内面底部ナデ、その他は回転ナデ調整。色調は淡茶色を呈する。復元底径 6.0cm。

円面硯（20）　陸部は平滑で擦痕も残る。復元径 13.6cm。脚部には透かし孔がある。

蹄脚硯（21）　底部は中央が開けられ、幅 3.5cm で径 13.9cm。脚部は断面三角形をなす。

土師器

蓋（22）　復元口径 17.0cm、器高 1.55cm。上面は回転ヘラ切りだが、全体的に摩滅する。口縁端部内面には浅い沈線が巡る。色調は淡橙色を呈する。皿の可能性も考えられる。

坏 a（23 ～ 27）　25 以外は丸味のある底部である。底部外面は回転ヘラ切り後ナデ調整。色調は黄茶色や薄茶色などを呈する。復元口径は 23 が 14.2cm、24 が 15.1cm。25 ～ 27 の復元底径 6.8 ～ 9.5cm。

甕（28 ～ 30）　28 は口縁部が若干ゆがむが復元口径 28.4cm。口縁部内面はヨコハケ、体部内面はケズリ、外面はタテハケで、煤が付着する。29 は体部内面がヨコハケ、外面には煤が付着する。30 は摩滅が目立つが、体部内面ケズリ、外面は僅かにタテハケが残る。

カマド（31）　移動式竈の庇下部付近と推測される。胎土は 0.3cm 以下の白色砂粒や茶色粒を含み、色調は黄茶色や白茶色を呈する。内外面ともナデ調整で指頭圧痕が部分的に残る。

黒色土器

椀 c（32）　金属椀のような形状をする。内外面ともミガキが細かく丁寧に施されているようだが、内面は汚れが覆い、ミガキが観察しづらい。復元口径 16.4cm、器高 5.9cm、高台径 10.4cm。B 類。

灰釉陶器

壺（33）　胎土は精製され、焼成は良好で色調は白灰色を呈する。外面には淡い緑灰色釉を薄く施し、釉垂れがある。内面は回転ナデで露胎。

**遺構検出時の出土遺物**

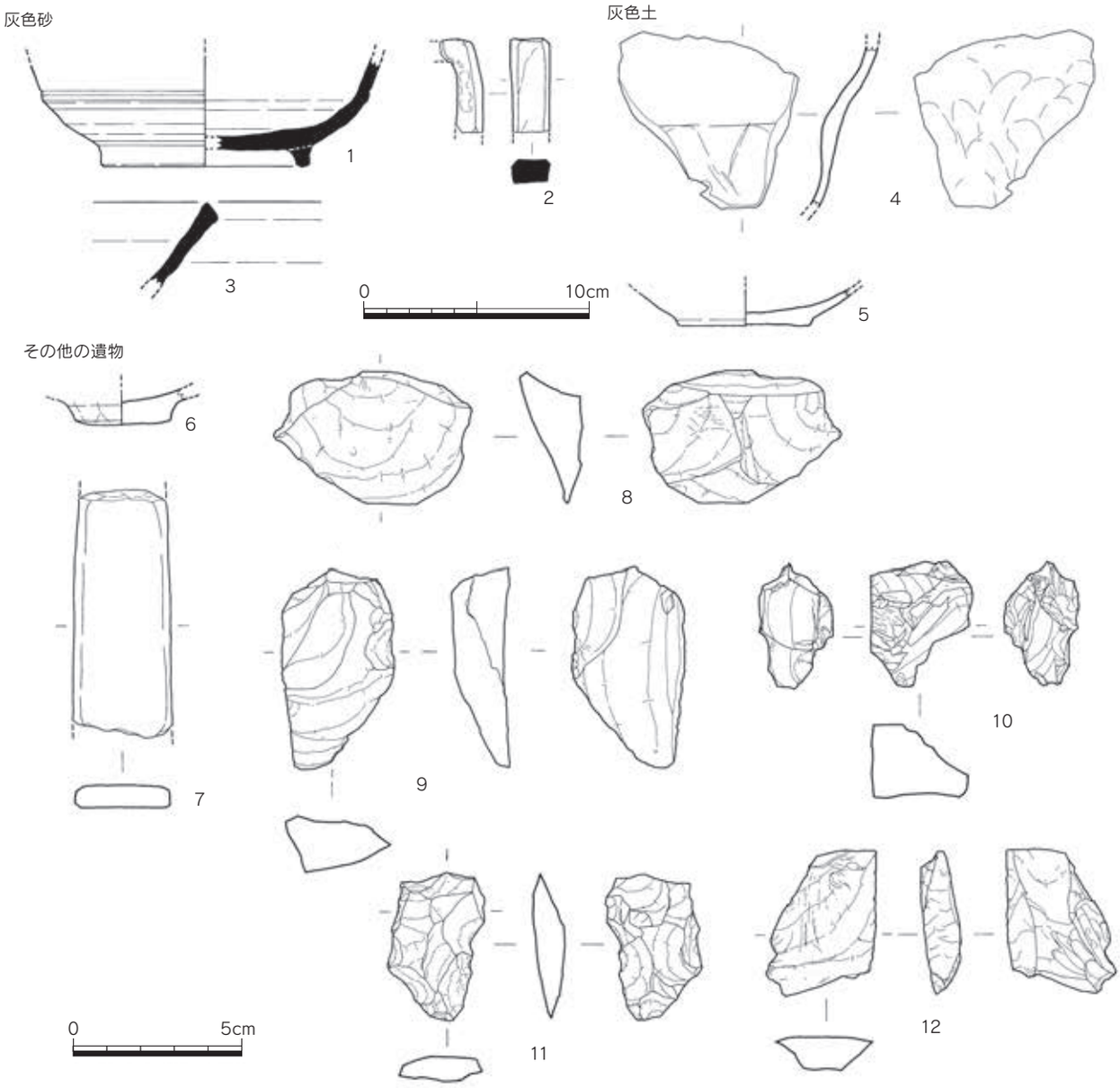



Fig.117　第 308 次調査灰色砂・灰色土・その他の出土遺物実測図（1/3、石製品は 1/2）

**灰色砂出土遺物（Fig.117、Pla.15）**

須恵器

椀 c（1）　鉢のような深い椀とみられ、外面下半に僅かに段が付く。段より下は回転ヘラケズリ、それ以外は回転ナデ調整。胎土は 0.15cm 以下の白色砂粒や黒色粒を含み、焼成良好で、色調は灰色を呈する。復元高台径 9.2cm。肥後産か。

硯（2）　破片のため明確ではないが、硯の脚部と推測される。ヘラケズリで面取りされる。色調は灰色や暗灰色を呈する。

須恵質土器

鉢（3）　口縁部に向かって肥厚する。口縁部はやや暗い灰色、それ以外は灰色を呈する。東播系。

**灰色土出土遺物（Fig.117）**

製塩土器

焼塩壺（4）　中位で若干屈曲部があり、その内面下半はヘラケズリ。外面は指頭圧痕が残る。色調

は橙色を呈する。

緑釉陶器

椀 (5)　復元底径 5.8cm。底部切り離しは回転糸切り。焼成は土師質で、内外面に淡黄緑色釉を施し、斑状に緑色釉がみられる。全体的に剥落が目立つ。

**その他の出土遺物（Fig.117）**

古式土師器

壺（6）　凸レンズ状の底部で、外面には指頭圧痕が残る。胎土は微細な白色砂粒や黒色粒を多く含む。底径 4.3cm。SX015 白色細砂より出土。

石製品

石剣（7）　上下欠損し、現存長 7.3cm、幅 2.6 ～ 3.0cm、厚さ 0.7cm。全面研磨し成形している。堆積岩製。SX015 褐色砂より出土。

剥片（8 ～ 12）　8 は大きさ 4.0×6.0cm、厚さ 1.6cm。安山岩製。SX015 褐色砂より出土。9 は大きさ 5.95×3.4cm、厚さは 1.75cm。安山岩製。SE005 暗褐色土より出土。10 は大きさ 3.7×3.0×2.2cm。チャート製。SX015 褐色砂より出土。11 は大きさ 4.4×2.5cm、厚さは 0.9cm。安山岩製。SX015 灰白色砂より出土。12 は大きさ 4.3×3.3cm、厚さは 1.0cm。安山岩製。SX015 暗灰色土より出土。

### (5) 小結

氾濫原 (SX015) の下の無遺物で地山と考えられる地盤も砂質であるため、調査区一帯は古代以前から氾濫原だったことが窺える。その地山を覆うように 8 世紀後半から 9 世紀前半の遺物を含む氾濫の堆積層 (SX025) がみられる。その後 SE005・020 のような井戸が掘削されているため、居住地として利用されていたと推測される。そして、それを覆い削るように 11 世紀から 12 世紀初頭にかけて、幾度か氾濫が起き、広く堆積が認められるため、その影響による井戸への遺物混入の可能性も考慮すると平安中期から後半の土地利用状況が明確ではない。平安後期の氾濫後は、遺構・遺物とも皆無で、居住地としての利用はなく、昭和まで耕作地などとして利用されていたと推測される。

今回の調査では、想定された井上条坊案の 3 坊路は、氾濫により全く痕跡を確認できなかったものの、流路 (SX001) の存在から、条路が存在していた可能性を見出すことができた。また、現在通古賀集落の北側には、氾濫原が広がっているが、氾濫原が広がる以前も居住空間として利用されていたことがわかった。

表.28　第308次調査　遺構一覧表

| S-番号 | 遺構番号 | 種別 | 埋土等 | 埋没時期 | 地区 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 308SX001 | 流路 | | 11世紀後半～12世紀初頭 | AB9・10 |
| 2 | | 土坑 | 暗灰色土 | 古代 | C9.10 |
| 3 | | ピット | 暗灰色土 | | C9 |
| 4 | | 溝状遺構 | 暗灰色土 | 古代 | D9.C10 |
| 5 | 308SE005 | 井戸 | 暗灰色土 | 11世紀前半頃 | BC9 |
| 6 | | 攪乱 | 電柱の引っ張り基礎 | 現代 | I3 |
| 7 | | ピット | | | D9.C10 |
| 10 | 308SK010 | 土坑 | 暗灰色土 | 11世紀前半前後？ | C9 |
| 15 | 308SX015 | 氾濫原 | 北区全体がS-15。最終堆積が暗灰色土。 | 11世紀後半～12世紀初頭 | F～I・1～8 |
| 20 | 308SE020 | 井戸 | | 11世紀後半頃 | F1 |
| 25 | 308SX025 | 氾濫原 | S-15明灰色砂と淡茶色砂、<br>南区の明茶色砂と明茶色砂下層 | 8世紀末～9世紀前半 | 北区・南区 |
| 褐色砂 | 308SX015 | | S-15の一部 | 11世紀後半～12世紀初頭 | FG.1～5 |

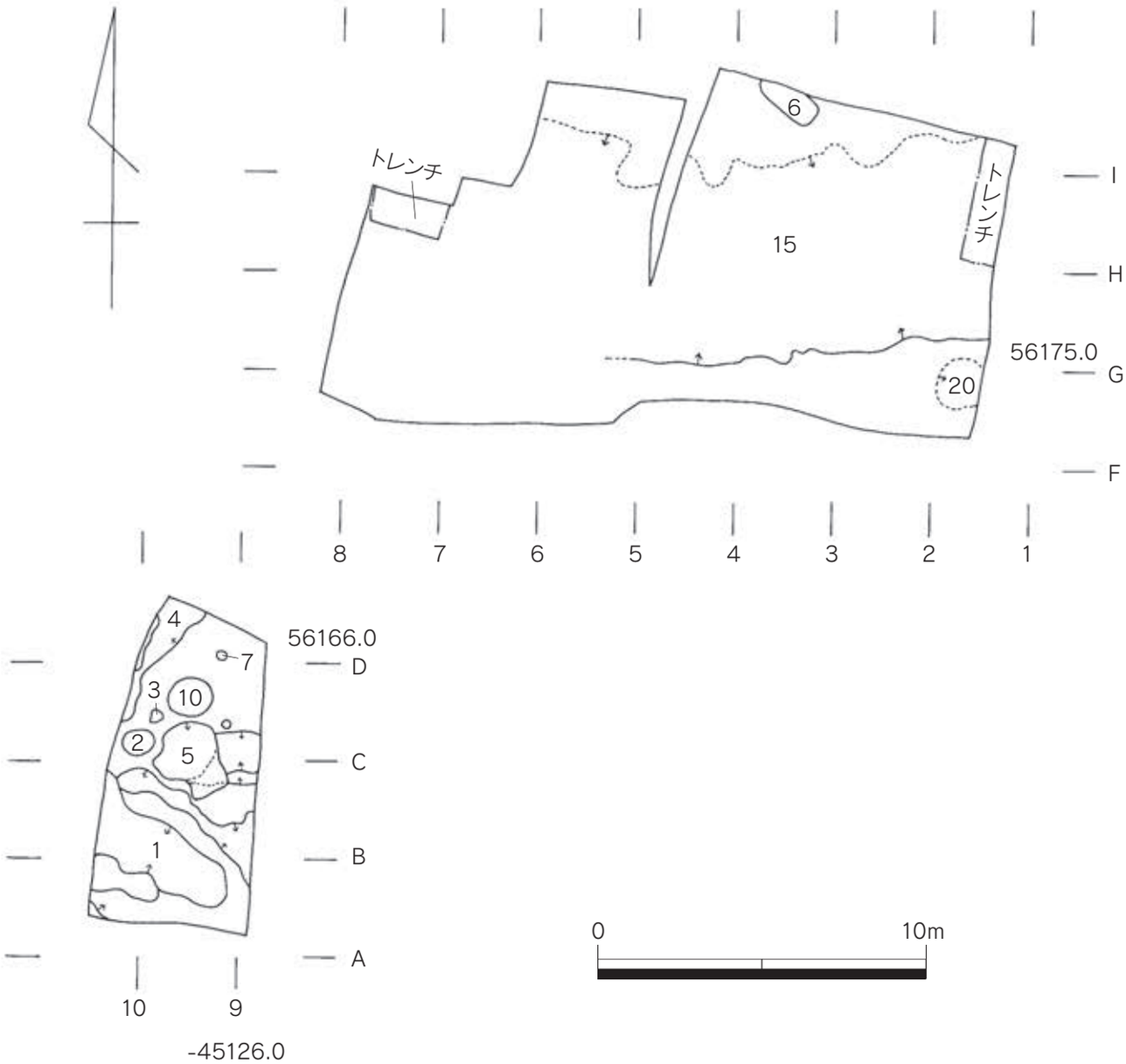



Fig.118　第 308 次調査遺構略測図（1/200）

# 表29．第308次調査　出土遺物一覧表

S-1 黒灰色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏、坏c、甕、壺b、壺？ |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、坏a(ヘラ)、丸底坏a、椀c、甕、甕類、カマド |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀、椀c |
| 緑釉陶器 | 椀、椀c |
| 白磁 | 椀:Ⅱ-1(1)、Ⅳ(2)、Ⅴ-2～4b×c(1) |
| 越州窯系青磁 | 椀:I-2(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子(大)(中)、二重格子) |

S-1 灰色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、坏c、甕 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、丸底坏a、椀、椀c、甕、器台、脚付鉢? |
| 須恵質土器 | 鉢? |
| 須恵質（輸入） | 朝鮮系無釉陶器甕 |
| 白磁 | 椀:Ⅳ(4)、Ⅴ(1)、Ⅴ-2～4(1)、XII-1b(1)、<br>直口縁(1)、椀破片(1)　小壺(1) |
| 越州窯系青磁 | 椀:I-3?(1)　坏：I-3(1) |
| 灰釉陶器 | 椀 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目)、丸瓦(格子) |
| 石製品 | 剥片(安山岩)、砥石? |

S-1 灰色砂礫

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋2?、蓋3、坏、坏c、甕、壺 |
| 土師器 | 坏、椀、椀c、甕、破片 |
| 緑釉陶器 | 椀 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目)、丸瓦 |

S-1 淡灰色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c3、坏、坏c、甕、壺 |
| 土師器 | 蓋、小皿a(ヘラ)、坏a(ヘラ)、丸底坏、椀c、甕類 |
| 瓦類 | 平瓦(二重格子)、丸瓦(無文) |
| 石製品 | 砥石? |

S-1 灰白色砂

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、坏、坏a、坏c、高坏、甕、壺、壺a、壺b |
| 土師器 | 蓋3、小皿a(ヘラ)、坏、坏a(ヘラ)、坏d、皿a、椀c、<br>甕、甕類、脚付鉢、甑 |
| 製塩土器 | 焼塩壺 |
| 黒色土器A類 | 椀c |
| 黒色土器B類 | 椀、椀c |
| 土師質土器 | 脚付鉢 |
| 灰釉陶器 | 椀 |
| 越州窯系青磁 | 破片I(1) |
| 白磁 | 椀：Ⅳ(2)、椀破片(2)　白磁破片(1) |
| 国産陶器 | 壺 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子(中)(大)）、丸瓦(格子)、軒丸瓦 |
| 石製品 | 剥片(安山岩)、丸石、石鍋 |

S-2

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕、破片 |
| 土師器 | 破片 |
| 弥生土器 | 壺? |

S-3

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕 |

S-4

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕、破片 |
| 土師器 | 坏、甕、甕類 |
| 黒色土器A類 | 椀、椀c |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 土製品 | 土塊 |

S-5 暗褐色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、坏、坏c |
| 土師器 | 小皿a、坏、坏a、椀 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |
| 石製品 | 剥片(安山岩) |

S-5 暗灰色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、坏c、甕、小壺、鉢 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、坏、坏c、坏d、甕、甕類 |
| 黒色土器B類 | 椀c、破片 |
| 瓦類 | 平瓦(格子) |

S-5 灰色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏c、壺a |
| 土師器 | 蓋3、甕、破片 |
| 瓦類 | 丸瓦 |

S-6

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏c、甕 |
| 土師器 | 小皿a、坏、椀c |
| 瓦器 | 椀c |
| 白磁 | 破片(1) |
| 瓦類 | 丸瓦(格子、無文) |

S-7

| | |
|---|---|
| 瓦類 | 平瓦(格子) |

S-10

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3、坏a、坏c、壺、把手 |
| 土師器 | 蓋、小皿a、坏a(ヘラ)、椀、小皿a×坏a、坏<br>甕、甕類、脚 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目)、丸瓦(縄目、格子、擦り消し縄目) |

S-15 暗灰色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3、蓋c、坏、坏c、高坏、高坏×壺、<br>甕、壺b、器台 |
| 土師器 | 蓋、小皿a、坏、坏a(ヘラ)、丸底坏a、椀c、甕 |
| 黒色土器A類 | 椀c、破片 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 灰釉陶器 | 壺 |
| 白磁 | 椀：Ⅱ(1)、Ⅱ-1(1)、Ⅳ(3)、Ⅳ-1a(2)、XI-1(1)<br>椀破片(2)　白磁破片(2)　皿：Ⅴ-2a(1) |
| 越州窯系青磁 | 椀：I(1)　越破片I(5) |
| 瓦類 | 平瓦(格子(大))、平瓦(縄目)、丸瓦(格子(小)) |
| 金属製品 | 鉱滓 |
| 石製品 | 剥片(安山岩)、平玉石、滑石加工品 |
| 土製品 | 土塊 |

S-15 白色細砂

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 坏、坏a、坏c、大坏c、甕、壺、壺? |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、坏a、丸底坏、丸底坏a、椀c、甕類、破片 |
| 古式土師器 | 壺 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀c、破片 |
| 瓦器 | 椀c |
| 緑釉陶器 | 椀 |
| 長沙窯系青磁？ | 水注？ |
| 白磁 | 椀：Ⅳ(1)　白磁直口縁破片(2) |
| 須恵質（輸入） | 朝鮮系無釉陶器 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目)、丸瓦(格子(中)、無文) |
| 石製品 | 石鍋 |

S-15 白灰色砂

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3、坏c、甕 |
| 土師器 | 坏、丸底坏、甕類 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 白磁 | 直口縁(1) |
| 瓦類 | 平瓦(格子) |

S-15 黒灰色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3、蓋c、坏、坏a、坏c、高坏、甕、<br>壺、鉢、鉢(篠窯)、把手 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、坏a(ヘラ)、坏c、丸底坏a、椀c、椀、器台 |
| 黒色土器A類 | 破片 |
| 黒色土器B類 | 椀c、破片 |
| 白磁 | 椀：Ⅳ(1)、段①(1)、椀破片(1)　白磁破片(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目)、丸瓦(格子(小)、無文)、軒丸瓦、塼 |
| 石製品 | 剥片(安山岩、黒曜石)、丸石、平玉石 |

S-15 灰白色砂

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、坏蓋、坏、坏a、坏c、皿、椀、高坏、<br>甕、壺、壺b、鉢、鉢? |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、坏、坏a、坏c、丸底坏a、皿a、<br>椀c、高坏、甕、甕類、鉢?、把手 |
| 製塩土器 | 破片 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀、椀c |
| 須恵質土器 | 甕 |
| 瓦質土器 | 壺 |
| 灰釉陶器 | 甕？ |
| 白磁 | 椀：Ⅱ(1)、Ⅱ-5(1)、Ⅳ(13)、Ⅳ-1a(2)、Ⅳ-1b(1)、<br>Ⅴ(2)、Ⅴ-2a(2)、Ⅴ-3a(1)、Ⅴ-1×Ⅷ-2(1)<br>Ⅴ-4×Ⅷ-1×3(2)、XI-1(2)、直口縁(1)、椀破片(14)<br>皿：Ⅱ-1(2)、Ⅱ-1a(1)、Ⅳ-2b(1)、Ⅳ-1a(1)、Ⅳ×Ⅴ(1)<br>Ⅴ×Ⅵ(1)、Ⅶ-b(1)、櫛描(1)、広東系(2)、破片(1)<br>壺(2) |
| 越州窯系青磁 | 椀：I(1)、I-1a(1)、I-2ア(2)、I-2(1)、I-5(2)<br>Ⅱ(1)、Ⅲ-1b(1)<br>水注(1)　越破片I(5)、Ⅱ(1) |
| 長沙窯系青磁 | 水注(1) |
| 高麗青磁 | 椀Ⅲ(1) |
| 中国陶器 | 破片(3) |
| 弥生土器 | 甕 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子、二重格子)、無文塼<br>丸瓦(縄目、格子(小)、無文、擦り消し縄目)、瓦玉 |
| 石製品 | 剥片(黒曜石、安山岩)、滑石製小型容器、滑石片、<br>石鏃、石鏃、砥石、平玉石 |
| 土製品 | 鞴羽口 |

S-15 黒茶色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c3、蓋4、蓋c、坏、坏a、坏c、皿a、高坏、<br>甕、大甕、壺、壺e |
| 土師器 | 蓋3、小皿a(ヘラ)、坏、坏a(ヘラ)、大坏a、皿a、椀c<br>甕、脚付鉢? |
| 黒色土器A類 | 甕、破片 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 土師質土器 | 火舎 |
| 白磁 | 椀；Ⅳ(2)、Ⅳ-1a(1)、椀破片(3)　白磁破片?(1) |
| 越州窯系青磁 | 椀：I(1)　皿：Ⅱ(1) |
| 高麗青磁 | 椀(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子(小))、丸瓦(縄目、格子、無文)、軒丸瓦 |
| 石製品 | 石核(黒曜石)、石鏃、平玉石、砥石 |

S-15 明灰色砂（S-25明灰色砂）

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏a、坏c、皿a、甕、大甕、壺 |
| 土師器 | 坏、坏a(ヘラ)、坏c、椀c、高坏、甕 |
| 黒色土器B類 | 碗 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目)、丸瓦(無文) |
| その他 | 木炭 |

S-15淡茶色砂（S-25淡茶色砂）

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3、坏、坏a、坏c、高坏、甕 |
| 土師器 | 蓋c、坏、坏a、丸底坏a、皿a、椀c、高坏<br>鉢、甕、把手 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 土師質土器 | 鉢？ |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子(小))、丸瓦(格子(小)、破片)、無文塼 |
| 石製品 | 剥片(黒曜石、安山岩)、平玉石、石鏃、石鍋 |

S-20 青灰色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、坏a、甕、壺 |
| 土師器 | 小皿a、坏、坏c、丸底坏a、丸底坏、甕、破片 |
| 黒色土器B類 | 椀 |
| 灰釉陶器 | 破片? |
| 瓦類 | 平瓦(縄目)、丸瓦(格子(中)) |
| 石製品 | 剥片(安山岩) |

S-20 曲物

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋c、甕 |
| 土師器 | 小皿a、坏a、椀c、甕、破片 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |

S-20 曲物問

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、甕、破片 |
| 土師器 | 坏、甕類 |
| 越州窯系青磁 | 椀；I-2ア(1)、II-2(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目) |

S-20 淡灰色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、坏、坏c、甕、壺、壺×甕 |
| 土師器 | 甕類、鉢? |
| 瓦類 | 平瓦(縄目)、丸瓦(無文) |

褐色砂（S-15褐色砂）

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、蓋c、蓋c3、坏、坏a、坏c、皿a、<br>高坏、甕、小壺、壺、鉢(篠)、把手×脚、鉢×盤 |
| 土師器 | 蓋、蓋1、小皿a(ヘラ)、小皿a2、坏、坏a(ヘラ、仆)、<br>丸底坏a、椀c、高坏、甕、鉢、器台、カマド、把手 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀、椀c |
| 須恵質土器 | 鉢 |
| 緑釉陶器 | 椀c、香炉、壺、破片 |
| 灰釉陶器 | 壺 |
| 白磁 | 椀：Ⅳ(13)、Ⅳ-1a(2)、Ⅴ(1)、XI-2?(1)<br>破片(7)、段①(5)<br>皿：II-1a(3)、II-1(1)、Ⅵ-1b(2)、Ⅵ-b(1)、Ⅶ-2a(1)<br>直口縁(4)、白磁破片(14) |
| 青白磁 | 皿×椀（1） |
| 越州窯系青磁 | 椀：I(3)、I-1b(1)、I-2ア(1)、I-2エ(1)、I-5(2)、<br>II-2(1)、II-2a(1)、II-2b(1)<br>壺I(1)　水注I(1)　越破片(10) |
| 高麗青磁 | 椀：Ⅲ-2(1) |
| 中国陶器 | 壺破片(1) |
| 須恵質（輸入） | 朝鮮系無釉陶器 |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子、無文)、丸瓦(格子、無文)、<br>軒丸瓦、文様塼 |
| 金属製品 | 鏡、鉱滓 |
| 石製品 | 剥片(安山岩、黒曜石)、砥石、石鏃、丸石、平玉石、<br>石鍋、石剣？、滑石片、チャート片 |
| 土製品 | 鞴羽口、トリベ、土錘 |

明茶色砂

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋1、蓋3、蓋4、蓋c、坏、坏a、坏c<br>皿a、皿a×坏a、甕、壺、壺b |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、小皿a2、坏a、坏c、坏ｄ、椀c、<br>皿a、甕、カマド |
| 黒色土器A類 | 椀、椀×鉢 |
| 緑釉陶器 | 破片 |
| 白磁 | 椀:Ⅳ(1) |
| 越州窯系青磁 | 椀:I(1)　I類短頸壺(1)　越破片(2) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子(小))、軒平瓦、塼 |
| 石製品 | 剥片(黒曜石) |

明茶色砂下層

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、坏身、坏、坏a、坏c、坏c(漆付)、皿a<br>甕、壺、蹄脚硯、円面硯、小壺？ |
| 土師器 | 蓋、坏、坏a(ヘラ)、坏c、皿a、椀c、高坏、<br>甕、把手、カマド、破片 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 灰釉陶器 | 壺 |
| 白磁 | 破片(1) |
| 越州窯系青磁 | 椀：I-2ア(1)、I-2ウ(1)　II類壺(1)　I類破片(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、無文)、丸瓦(格子、無文) |
| 石製品 | 剥片(黒曜石、安山岩)、丸石、平玉石 |

白色砂

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 甕、破片 |
| 土師器 | 坏 |
| 越州窯系青磁 | 椀：I-2(1) |
| 瓦類 | 破片 |

灰色土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋1、蓋3、蓋b?、蓋c、坏、坏c、皿a、高坏、<br>甕、壺、壺b、壺e |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、坏、坏a(ヘラ)、丸底坏a、椀c、<br>甕、甕類、把手 |
| 製塩土器 | 焼塩壺 |
| 黒色土器A類 | 椀 |
| 黒色土器B類 | 椀、破片 |
| 須恵質土器 | 破片? |
| 緑釉陶器 | 椀 |
| 須恵質（輸入） | 朝鮮系無釉陶器 |
| 白磁 | 椀：Ⅳ-1a(3)、Ⅴ(1)、Ⅴ-1×Ⅷ-2(1)、XI-1(1)<br>段①(1)、破片(4)<br>皿：II-1a(1)、破片(1)　白磁破片(1)、直口縁(1) |
| 越州窯系青磁 | 椀：I-1(1)　越I類破片(1) |
| 長沙窯系青磁 | 壺(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子(小))、丸瓦(無文)、塼 |
| 石製品 | 剥片(安山岩)、平玉石 |
| 土製品 | 鞴羽口 |

灰色砂

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋3、蓋c、坏、坏c、皿a、椀c、甕、壺、壺a、硯 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、坏、坏a、坏a(仆)、丸底坏a、<br>椀c、甕、器台 |
| 黒色土器A類 | 椀、椀c |
| 須恵質土器 | 鉢 |
| 白磁 | 皿:XI-4(1)　白磁破片(2) |
| 越州窯系青磁 | 椀：I-2ア(1)　越I類破片(1)、II類破片(1) |
| 瓦類 | 平瓦、丸瓦(無文)、燻し瓦 |
| 石製品 | 平玉石 |

表土

| | |
|---|---|
| 須恵器 | 蓋、蓋3、坏a、坏c、甕、壺、鉢 |
| 土師器 | 小皿a(ヘラ)、丸底坏、椀c、椀c(漆付)、甕、器台、破片 |
| 黒色土器B類 | 椀c |
| 瓦器 | 破片 |
| 肥前系陶磁器 | 磁器；破片 |
| 国産陶器 | レンガ |
| 須恵質（輸入） | 朝鮮系無釉陶器 |
| 灰釉陶器 | 椀 |
| 白磁 | 椀：II(1)、Ⅳ(1)、Ⅳ-1b(1)、Ⅳ-2a(1)、XII-1b(1)<br>皿：Ⅴ-2×Ⅷ-2(1)　白磁破片(4) |
| 越州窯系青磁 | 椀：I-2ア(1) |
| 瓦類 | 平瓦(縄目、格子(中)(小))<br>丸瓦(格子、二重格子、無文)、瓦破片 |

# 表30．第308次調査　土器供膳具計測表

A：内底ナデ　B：板状圧痕

S-1黒灰色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.107-8 | 10.8 | 1.45 | 8.35 | − | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-003 | Fig.107-5 | 9.8 | 1.35 | 8.3 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-004 | Fig.107-1 | 9.1 | 1.05 | 7.0 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-005 | Fig.107-6 | (10.0) | 1.2 | (7.6) | ○ | − |
| | 小皿a | ヘラ | R-006 | Fig.107-3 | (9.2) | 1.05 | (6.9) | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-007 | Fig.107-2 | (9.2) | 1.3 | (6.6) | ○? | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-008 | Fig.107-4 | (9.8) | 1.2 | (6.7) | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-009 | Fig.107-7 | (10.4) | 1.0 | (7.6) | ○ | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-001 | Fig.107-9 | (14.6) | 3.5 | (6.9) | − | ○ |

S-1灰色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏c | | R-010 | Fig.107-21 | | 2.0+α | (6.8) | | |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | R-001 | Fig.107-13 | 9.2 | 1.35 | 7.7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.107-16 | (9.8) | 1.2 | (7.1) | ○ | − |
| | 小皿a | ヘラ | R-003 | Fig.107-15 | (9.6) | 1.0 | (7.6) | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-004 | Fig.107-17 | (10.0) | 1.45 | (8.4) | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-006 | Fig.107-18 | 10.0 | 1.35 | 6.1 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-007 | Fig.107-19 | (10.2) | 0.9 | (7.0) | ○ | − |
| | 小皿a | ヘラ | R-008 | Fig.107-14 | (9.4) | 0.9 | (6.3) | ○ | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-009 | Fig.107-20 | 15.4 | 3.4 | 12.1 | − | ○ |

S-1淡灰色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ? | R-002 | Fig.107-26 | (9.8) | 0.95 | (7.0) | ○ | − |

S-1灰白色砂

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏a | | R-017 | Fig.108-29 | | 2.9+α | (9.4) | | |
| | 坏c | | R-009 | Fig.108-30 | (14.8) | 4.5 | 10.4 | | |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | R-001 | Fig.108-32 | (9.6) | 1.6 | (7.9) | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-005 | Fig.108-35 | 9.7 | 1.25 | 7.7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-006 | Fig.108-31 | 9.5 | 1.3 | 7.7 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ? | R-007 | Fig.108-36 | (9.8) | 1.4 | (7.8) | ○ | − |
| | 小皿a | ヘラ | R-012 | Fig.108-33 | (9.6) | 0.9 | (7.7) | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-013 | Fig.108-37 | (10.6) | 0.95 | (8.1) | ○ | − |
| | 小皿a | − | R-014 | Fig.108-34 | (9.6) | 0.95 | (7.1) | ○? | − |
| | 丸底坏a | | R-011 | Fig.108-38 | | 2.95+α | | − | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-004 | Fig.108-39 | | 2.6 | | − | ○ |

S-5暗灰色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | | R-001 | Fig.106-1 | (10.6) | 1.2+α | (8.0) | | |
| | 小皿a | | R-002 | Fig.106-2 | (10.8) | 1.1+α | (7.6) | | |
| | 小皿a | | R-003 | Fig.106-3 | (11.2) | 1.0 | (8.2) | | |
| 黒色土器B | 椀 | | R-004 | Fig.106-4 | | 2.2+α | (7.4) | | |

S-5灰色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏c | | R-004 | Fig.106-6 | | 2.65+α | | | |
| | 蓋3 | | R-003 | Fig.106-5 | | 1.0+α | | | |
| 土師器 | 蓋3 | | R-002 | Fig.106-8 | | 1.2+α | | | |

S-10

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | | R-001 | Fig.106-17 | | 0.95 | | | |
| | 小皿a | | R-002 | Fig.106-18 | | 1.0 | | ○ | |
| | 小皿a×坏a | | R-003 | Fig.106-19 | | 0.65+α | (6.7) | ○ | ○ |
| | 坏 | | R-005 | Fig.106-21 | (12.8) | 2.65+α | | ○ | |
| | 坏a | ヘラ | R-004 | Fig.106-20 | | 2.4+α | (10.6) | ○ | |

S-15暗灰色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | | R-001 | Fig.109-1 | | | | | |
| | 丸底坏a | | R-003 | Fig.109-2 | (15.2) | 4.3+α | | | ○ |

S-15白色細砂

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | R-003 | Fig.109-6 | (9.7) | 1.3 | (7.5) | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-001 | Fig.109-7 | (15.4) | 3.7 | | | ○ |
| 黒色土器B | 椀c | | R-009 | Fig.109-8 | | | | | |

S-15白灰色砂

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 丸底坏 | ヘラ? | R-001 | Fig.109-12 | (14.6) | 3.0+α | | | |

S-15灰白色砂

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 椀 | イト | R-007 | Fig.110-1 | | 1.65+α | (6.8) | ○ | |
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | R-004 | Fig.110-8 | (10.2) | 1.25 | (7.0) | ○ | ○ |
| | 小皿a | − | R-005 | Fig.110-6 | (9.2) | 1.1 | (8.0) | ○ | ○ |
| | 小皿a | | R-009 | Fig.110-9 | (10.2) | 1.25+α | 10.0 | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-014 | Fig.110-7 | 9.45 | 1.35 | 7.6 | ○ | ○ |
| | 丸底坏a | | R-011 | Fig.110-10 | (15.2) | 3.4+α | | | |
| | 丸底坏a | | R-020 | Fig.110-11 | | 3.4 | | | |

S-15黒灰色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏c | | R-010 | Fig.110-21 | | 2.0+α | (9.5) | | |
| 土師器 | 小皿a | | R-001 | Fig.110-24 | (10.8) | 1.25 | (8.0) | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.110-23 | (10.6) | 1.15 | (7.7) | ○ | ○ |
| | 丸底坏a | | R-003 | Fig.110-25 | (14.6) | 3.5 | | | |
| | 丸底坏a | | R-009 | Fig.110-26 | (15.6) | 2.9+α | | | |
| | 椀 | | R-004 | Fig.110-27 | | 4.3+α | | | |

褐色砂（S-15褐色砂）

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | ヘラ | R-001 | Fig.111-11 | 9.4 | 1.25 | 6.5 | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.111-18 | (10.4) | 1.3 | (7.8) | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-003 | Fig.111-20 | (10.8) | 1.15 | (7.4) | ○ | ○ |
| | 小皿a | − | R-011 | Fig.111-13 | (9.8) | 1.35 | (6.2) | − | − |
| | 小皿a | ヘラ | R-012 | Fig.111-7 | 8.8 | 1.1 | 6.8 | − | ○ |
| | 小皿a | − | R-020 | Fig.111-19 | (10.6) | 1.0 | (8.2) | ○ | − |
| | 小皿a | − | R-021 | Fig.111-17 | (10.2) | 1.3 | (8.5) | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-023 | Fig.111-12 | (9.6) | 0.9 | (7.4) | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-024 | Fig.111-8 | (8.8) | 0.95 | (6.8) | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-025 | Fig.111-9 | (9.0) | 1.3 | (7.2) | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-026 | Fig.111-16 | (10.0) | 1.25 | (7.2) | ○ | − |
| | 小皿a | ヘラ | R-027 | Fig.111-14 | (9.8) | 1.3 | (7.0) | ○? | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-028 | Fig.111-15 | (10.0) | 1.3 | (7.0) | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-046 | Fig.111-10 | 9.4 | 1.1 | 7.7 | ○ | ○ |
| | 坏a | イト | R-047 | Fig.111-21 | | 1.4+α | (8.2) | | |
| | 丸底坏a | − | R-007 | Fig.111-30 | (15.8) | 3.8 | | − | ○ |
| | 丸底坏a | − | R-008 | Fig.111-31 | (15.8) | 4.2 | | ○ | − |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-022 | Fig.111-27 | (15.0) | 3.6 | | | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-029 | Fig.111-29 | (15.4) | 3.5+α | | − | − |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-030 | Fig.111-26 | (14.6) | 2.8 | | ○ | − |
| | 丸底坏a | − | R-031 | Fig.111-33 | (16.0) | 3.0 | (11.8) | − | − |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-037 | Fig.111-32 | (16.0) | 2.9 | | − | − |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-038 | Fig.111-25 | (14.4) | 3.7+α | | − | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ | R-039 | Fig.111-24 | (13.2) | 3.0 | | − | ○ |
| | 丸底坏a | ヘラ? | R-040 | Fig.111-28 | (15.0) | 3.4 | | − | − |
| | 椀c | | R-044 | Fig.111-23 | | 2.5+α | 6.4 | | |
| | 椀c | | R-045 | Fig.111-22 | | 1.5+α | (6.8) | | |

S-15黒茶色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | − | R-005 | Fig.113-3 | (9.0) | 1.3 | (7.5) | − | − |
| | 小皿a | ヘラ | R-013 | Fig.113-4 | (9.4) | 1.3 | (7.2) | ○ | |
| | 小皿a | | R-014 | Fig.113-5 | (9.6) | 1.0 | (7.8) | | |
| | 小皿a | ヘラ | R-021 | Fig.113-7 | (10.0) | 1.1 | (7.4) | ○ | ○ |
| | 小皿a | ヘラ | R-022 | Fig.113-6 | (10.0) | 1.3 | (7.0) | ○ | ○ |
| | 坏 | | R-006 | Fig.113-8 | | 2.1+α | | | |
| 黒色土器A | 椀 | | R-010 | Fig.113-14 | | 5.0+α | | | |

S-15明灰色砂（S-25明灰色砂）

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏c3 | | R-003 | Fig.114-5 | | 1.65+α | | ○ | |
| | 坏c3 | ヘラ | R-004 | Fig.114-3 | | 2.0+α | (9.6) | ○ | |
| | 坏c3 | | R-005 | Fig.114-4 | | 2.7+α | | ○ | |
| | 坏c3 | ヘラ | R-006 | Fig.114-2 | | 3.2+α | (6.4) | ○ | |
| | 小皿a | ヘラ | R-002 | Fig.114-1 | (14.2) | 1.65 | (11.2) | ○ | |
| 土師器 | 坏 | | R-013 | Fig.114-12 | (13.0) | 3.2+α | | | |
| | 坏a | ヘラ | R-009 | Fig.114-11 | | 2.4+α | (8.0) | ○ | |
| | 坏a | | R-010 | Fig.114-8 | | 2.2+α | (6.0) | | |
| | 坏a | ヘラ | R-011 | Fig.114-9 | | 1.7+α | (7.0) | | |
| | 坏a | ヘラ | R-012 | Fig.114-10 | | 1.9+α | (8.0) | | |

S-15淡茶色砂（S-25淡茶色砂）

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏a | ヘラ | R-006 | Fig.114-23 | (11.6) | 3.7 | (7.7) | ○ | |
| | 坏c3 | | R-007 | Fig.114-28 | | 1.4+α | (9.0) | ○ | |
| | 坏c3 | | R-008 | Fig.114-24 | | 3.0+α | (7.9) | ○ | |
| | 坏c3 | ヘラ | R-009 | Fig.114-31 | | 1.4+α | (11.0) | ○ | |
| | 坏c3 | ヘラ | R-015 | Fig.114-26 | | 1.1+α | (8.4) | ○ | |
| | 坏c3 | ヘラ | R-016 | Fig.114-33 | | 1.5+α | | ○ | |
| | 坏c3 | ヘラ | R-017 | Fig.114-29 | | 1.6+α | (9.8) | ○ | |
| | 坏c3 | ヘラ | R-018 | Fig.114-25 | | 2.9+α | (8.1) | ○ | |
| | 坏c3 | | R-019 | Fig.114-27 | | 2.1+α | (8.6) | ○ | ○ |
| | 坏c3 | ヘラ | R-020 | Fig.114-32 | | 1.7+α | (11.2) | ○ | |
| | 坏c3 | ヘラ | R-021 | Fig.114-30 | | 1.95+α | (10.2) | ○ | ○ |
| | 蓋3 | ヘラ | R-001 | Fig.114-22 | | 1.0+α | | ○ | |
| | 蓋3 | | R-002 | Fig.114-19 | | 1.4+α | | ○ | |
| | 蓋3 | ヘラ | R-003 | Fig.114-18 | | 1.6+α | | ○ | |
| | 蓋3 | ヘラ | R-004 | Fig.114-17 | | 1.5+α | | ○ | |
| | 蓋3 | | R-005 | Fig.114-16 | | 2.1+α | | ○ | |
| | 蓋3 | ヘラ | R-013 | Fig.114-21 | | 1.95+α | | ○ | |
| | 蓋3 | ヘラ | R-014 | Fig.114-20 | | 1.6+α | | ○ | |
| 土師器 | 坏a | | R-024 | Fig.114-35 | | 2.2+α | (7.8) | | |
| | 椀c | | R-010 | Fig.114-36 | | 1.9+α | (8.2) | | |
| | 椀c1 | ヘラ | R-025 | Fig.114-37 | | 5.05+α | (7.0) | | |

S-20青灰色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | | R-002 | Fig.106-10 | (10.0) | 1.05 | (7.6) | ○ | − |
| | 小皿a | ヘラ | R-003 | Fig.106-9 | (9.3) | 1.05 | (7.2) | ○ | − |
| | 丸底坏 | | R-004 | Fig.106-11 | | 2.9+α | | | |
| | 丸底坏a | | R-001 | Fig.106-12 | | 1.65+α | | | |

S-20淡灰色土

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏c | | R-002 | Fig.106-14 | | 1.95+α | (8.2) | | |

S-20曲物

| 種別 | 器種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土師器 | 小皿a | − | R-001 | Fig.106-13 | (9.0) | 1.2+α | (7.0) | ○ | ○ |

明茶色砂（S-25明茶色砂）

| 種別 | 器　種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏a | ヘラ | R-005 | Fig.115-6 | － | 2.0+α | (7.3) | ○ | － |
| | 坏c | － | R-007 | Fig.115-12 | － | 1.0+α | (7.8) | ○ | － |
| | 坏c | － | R-008 | Fig.115-14 | － | 3.0+α | (9.0) | － | － |
| | 坏c | － | R-009 | Fig.115-8 | (14.4) | 4.25 | (10.3) | ○ | － |
| | 坏c | － | R-013 | Fig.115-9 | － | 1.3+α | (6.1) | ○ | × |
| | 坏c | － | R-016 | Fig.115-10 | － | 1.05+α | (6.9) | － | － |
| | 坏c | － | R-017 | Fig.115-11 | － | 1.4+α | (7.0) | － | － |
| | 坏c | － | R-018 | Fig.115-13 | － | 1.3+α | (8.6) | － | － |
| | 坏c | － | R-019 | Fig.115-15 | － | 1.15+α | － | ○ | － |
| | 蓋3 | | R-011 | Fig.115-4 | － | 1.8+α | | | |
| | 蓋3 | | R-020 | Fig.115-1 | (11.8) | 0.95+α | | | |
| | 蓋3 | | R-021 | Fig.115-2 | － | 1.2+α | | | |
| | 蓋3 | | R-022 | Fig.115-3 | － | 1.85+α | | | |
| | 蓋4 | | R-012 | Fig.115-5 | － | 1.2+α | | | |
| | 皿a×坏a | － | R-006 | Fig.115-7 | － | 1.9+α | (11.6) | ○ | × |
| 土師器 | 坏a | ヘラ | R-002 | Fig.115-21 | － | 2.0+α | (6.9) | － | － |
| | 坏a | ヘラ | R-003 | Fig.115-20 | － | 1.7+α | (6.5) | － | － |
| | 坏d | － | R-014 | Fig.115-22 | 12.1 | 3.95 | 6.0 | － | － |
| | 皿a | ヘラ | R-001 | Fig.115-19 | (13.0) | 1.9 | (10.2) | － | － |
| | 椀c | － | R-004 | Fig.115-23 | － | 2.25+α | (8.0) | － | － |

灰色砂

| 種別 | 器　種 | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 椀c | R-002 | Fig.117-1 | | 4.9+α | (9.2) | | |

明茶色砂下層（S-25明茶色砂下層）

| 種別 | 器　種 | | 遺物番号 | 図番号 | 口径 | 器高 | 底径 | A | B |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 須恵器 | 坏a | ヘラ | R-013 | Fig.116-11 | | 1.5+α | (8.0) | ○ | |
| | 坏a | ヘラ | R-014 | Fig.116-10 | (14.2) | 3.05+α | (9.1) | ○ | ○ |
| | 坏c3 | | R-015 | Fig.116-13 | | 1.4+α | (8.0) | ○ | |
| | 坏c3 | ヘラ | R-016 | Fig.116-14 | | 1.0+α | (8.6) | ○ | |
| | 坏c3 | ヘラ | R-022 | Fig.116-16 | | 3.3+α | (9.1) | ○ | |
| | 坏c3 | ヘラ | R-023 | Fig.116-15 | | 1.8+α | (10.0) | ○ | |
| | 蓋3 | ヘラ | R-001 | Fig.116-3 | (14.4) | 1.3 | (9.6) | ○ | |
| | 蓋3 | | R-003 | Fig.116-5 | | 1.5+α | | ○ | |
| | 蓋3 | ヘラ | R-004 | Fig.116-7 | | 2.2+α | | ○ | |
| | 蓋3 | ヘラ | R-008 | Fig.116-8 | | 1.9+α | (6.0) | ○ | |
| | 蓋3 | ヘラ | R-009 | Fig.116-4 | (16.4) | 1.6+α | | ○ | |
| | 蓋3 | ヘラ | R-010 | Fig.116-6 | | 1.4+α | | ○ | |
| | 蓋3 | ヘラ | R-011 | Fig.116-9 | | 0.75+α | | ○ | |
| | 蓋c | ヘラ | R-005 | Fig.116-2 | | 1.65+α | (9.1) | ○ | |
| | 蓋c | ヘラ | R-012 | Fig.116-1 | | 1.65+α | | ○ | |
| | 皿a | ヘラ | R-002 | Fig.116-12 | | 1.45+α | | ○ | |
| 土師器 | 蓋 | ヘラ | R-027 | Fig.116-22 | | | | | |
| | 坏a | ヘラ | R-017 | Fig.116-25 | | 2.7+α | (6.8) | | |
| | 坏a | ヘラ | R-018 | Fig.116-27 | | 2.0+α | (9.5) | | |
| | 坏a | ヘラ | R-025 | Fig.116-23 | (14.2) | 3.6+α | (9.6) | | |
| | 坏a | ヘラ | R-026 | Fig.116-26 | | 2.3+α | 7.9 | | |
| | 坏a | ヘラ | R-028 | Fig.116-24 | (15.1) | 4.5+α | (10.0) | | |
| 黒色土器B | 椀c | | R-033 | Fig.116-32 | (16.4) | 5.9 | (10.4) | | |

## Ⅴ、調査まとめ

今回報告した調査地の主な所見は以下のとおりである。調査の考察については、各調査の項で記述しているとおりである。

・大宰府で条坊痕跡を最初に確認（第 34 次調査）

・イスラム陶器片が 3 点の出土（第 34 次調査）

・7 世紀に掘削されたと推測される斜行溝の検出（第 53・54 次調査）

# 写真図版

写真図版については、主な遺構・遺物の写真を掲載している。
その他の遺構・遺物写真については、附録の CD に収録している。

第 34 次調査区北側全景（南から）

第 34 次調査区南側全景（北から）

第 34 次調査北西部坊路 SF280 他土坑群各期溝（北から）

第 53 次調査全景（上が南、空中写真）

第 53 次調査下層大溝 (SD050) 完掘状況（上が南、空中写真）

第 53・54 次調査全景（上が南、空中写真）

第 54 次調査全景（上が西、空中写真）

第 54 次調査大溝（SD070）完掘状況（南から）

第 74-1 次調査全景（北から）

第 74-2 次調査全景（南から）

第 173 次調査区全景（南から）

第 305 次調査北半部　完掘状況 ( 南から )

第 308 次調査北区東半分全景 ( 西から )

第 308 次調査南区全景 ( 北西から )

34SD078 出土白磁椀(Fig.9-33)

34SD229 出土白磁椀(Fig.17-29)

34SD080 出土須恵器坏 c
(墨書 [ 金 ]) (Fig.10-13)

34SD225 出土越州窯系青磁合子
(Fig.16-39)

34SD178 出土越州窯系青磁坏
(Fig.15-30)

34SD245 出土須恵器皿 a
( 墨書 [ 玉名 ]) (Fig.18-35)

34SD229 出土二面硯
(Fig.17-32)

34SK005 出土土製品権
(Fig.19-3)

34SK010 出土土師器坏 a
(墨書 [ 嵒 ]) (Fig.19-12)

34SK010 出土土師器坏 a・皿 a (Fig.19)

34SK010 出土土師器坏 a
(墨書 [ 嵒 ]) (Fig.19-14)

34SK010 出土土師器坏 a
(墨書) (Fig.19-10)

34SK010 出土土師器坏 a
(墨書 [ 畠 ]) (Fig.19-15)

34SK010 出土緑釉陶器皿
(Fig.19-20)

34SK010 出土土師器坏 a
(墨書 [ 道司 ]) (Fig.19-11)

34SK010 出土土師器坏 a
(墨書 [ 畠 ]) (Fig.19-13)

34SK030 出土緑釉陶器皿
(Fig.20-29)

34SK010 出土緑釉陶器皿
(Fig.19-19)

34SK030 出土緑釉陶器皿
(Fig.20-30)

34SK055 出土緑釉陶器椀
(Fig.21-17)

34SK060 出土初期高麗青磁椀
(Fig.21-21)

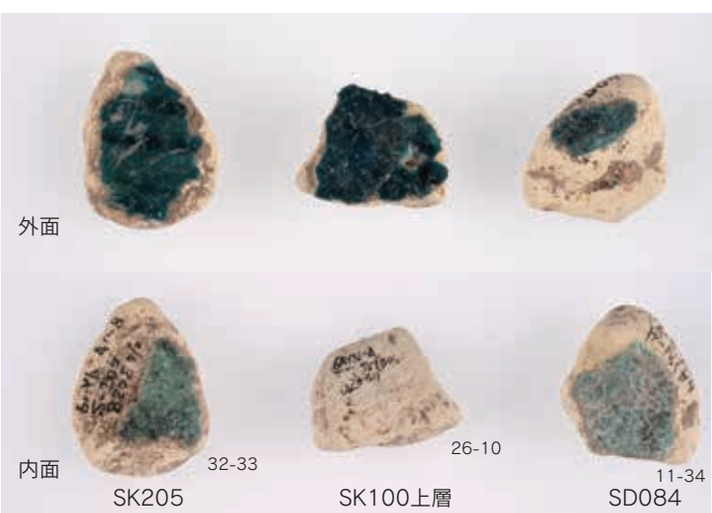
34SK070 出土黒色土器 B 類小壺
(Fig.23-43)

34SK100 下層出土緑釉陶器皿
( 緑彩 )(Fig.26-20)

34SK100 下層出土土師器皿 a
( 墨書 [ 吉 ]) (Fig.26-15)

34SK120 出土白磁皿(Fig.28-25)

34SK180 緑釉陶器皿(Fig.29-19)




第 34 次調査出土イスラム陶器 (Fig.11・26・32)

34SK190 最上層出土緑釉陶器椀
(Fig.30-3)

34SK190 最上層出土緑釉陶器皿
(Fig.30-4)

34SK200 越州窯系青磁椀
(Fig.32-9)

34SK215 出土緑釉陶器皿
(Fig.33-36)

34SK215 出土越州窯系青磁椀
(Fig.34-37)

34SK215 出土越州窯系青磁椀
(Fig.34-38)

34SK215 出土越州窯系青磁椀
(Fig.34-39)

34SK215 出土越州窯系青磁椀
(Fig.34-40)

34SK215 出土越州窯系青磁椀
(Fig.34-41)

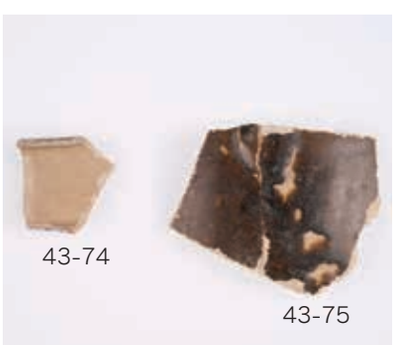
34SK215 出土越州窯系青磁椀
(Fig.34-42)

34SX192 出土緑釉陶器椀
(Fig.38-24)

表土出土須恵器坏 a
(墨書 [ 浄典 [ 人 ] カ)(Fig.41-1)

表土出土土師器坏 a
(墨書 [ 嵒 ]) (Fig.41-20)

表土出土黒色土器椀 c
(墨書 [ 西 or 酒 ]) (Fig.42-43)




表土出土長沙窯系陶磁
(Fig.43)

第34次調査出土地不詳土師器皿a
(墨書[道司]) (Fig.43-80)

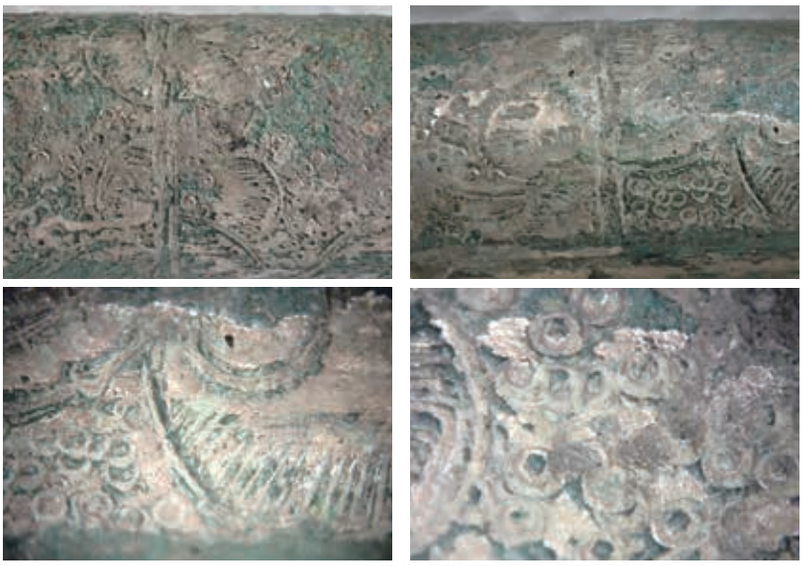
第34次調査出土地不詳土師器坏×皿a
(墨書[酒]カ?) (Fig.43-82)

第34次調査表土出土文様塼
(Fig.46-27)

34SK100 出土金銅製品 (Fig.45-34)

34SK145 出土
鉄鏃 (Fig.44-9)

34SK260 出土鉄製
紡錘車 (Fig.44-13)



34SK100 出土金銅製品詳細 (Fig.45-34)

34SD078 出土鉄製品 (Fig.44)

34SD110出土鉄製品 (Fig.44-21)

34SK205金属製品 (Fig.44-29)

34SK215 出土鉄製品 (Fig.44)

34SX166 出土滑石製品
権 (Fig.48-14)

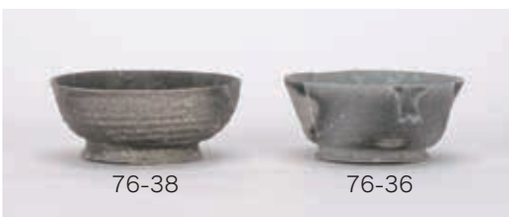
53SK040 出土灰釉陶器壺
(Fig.58-11)

53SK005 出土山茶椀小皿
(Fig.64-15)

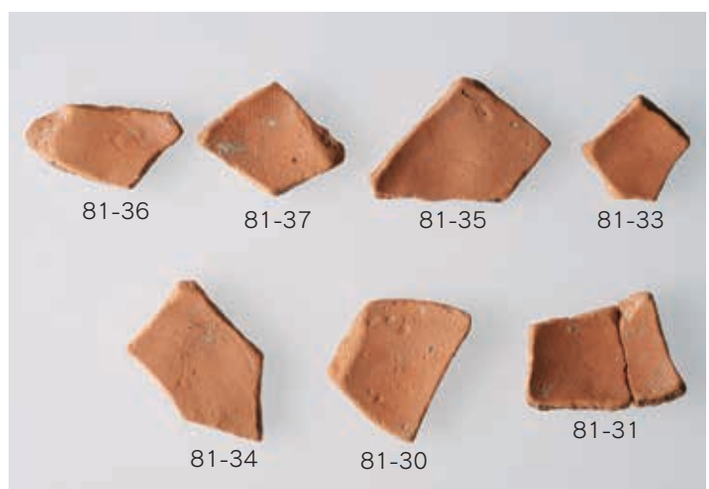
53SK020 直上出土土師器坏
(Fig.65-5)

54SD070 上層出土須恵器蓋 (Fig.75)

53SK020 最上層出土石製権
(Fig.65-16)



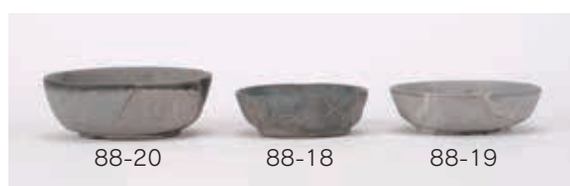

54SD070 上層出土須恵器坏 c(Fig.76)




54SD070 下層出土暗文土器内面 (Fig.81)

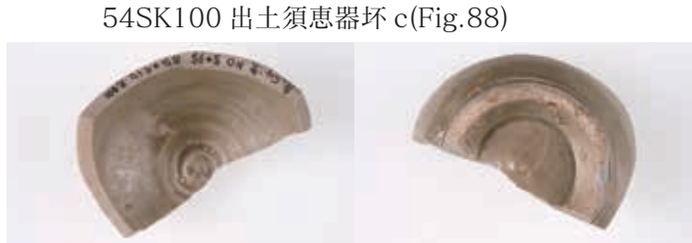
54SD070 下層出土須恵器高坏 (Fig.80)

暗茶色土 (54SK080 上面 ) 出土土師器
(Fig.85)




54SK100 出土須恵器坏 c(Fig.88)

54SK080 出土土師器小皿 a(Fig.86)



54SK095 出土越州窯系青磁壺 (Fig.87-57)

第 74-1 次調査表土出土軒平瓦
(Fig.94-3)

308SX001 灰色砂礫出土
緑釉陶器椀 (Fig.107-25)

308SX015 褐色砂出土文様塼
(Fig.112-46)

74-2SE015 枠内出土須恵器椀
(Fig.97-3)

308SX001 灰白色砂出土
須恵器坏 c(墨書 [ 山 ]) (Fig.108-30)

308SX025 明灰色砂出土
黒色土器 B 類硯 (Fig.114-15)

74-2SE015 枠内出土白磁椀 XI-5
(Fig.97-21)

74-2SX020 出土白磁皿 XI-3 外面
(Fig.98-9)

第308次調査灰色砂出土須恵器椀
(Fig.117-1)

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | だざいふじょうぼうあと |
| 書名 | 大宰府条坊跡　47 |
| 副書名 | 第 34･53･54･74･173･305･308 次調査 |
| シリーズ名 | 太宰府市の文化財 |
| シリーズ番号 | 131 集 |
| 編著者 | 宮崎亮一、山本信夫 |
| 編集機関 | 太宰府市教育委員会 |
| 所在地 | 福岡県太宰府市観世音寺1丁目1番1号 |
| 発行年月日 | 2017(平成 29)年 3 月 31 日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | 条坊<br>【鏡山推定案】 | ふりがな<br>所在地 | コード | | 座標 | | 調査期間 | | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 市町村 | 遺跡番号 | X | Y | 開始 | 終了 | ㎡ | |
| だざいふじょうぼうあと<br>大宰府条坊跡　第 34 次 | 右郭 11 条 1 坊 | とおのこが<br>大字通古賀 | 402214 | 210050-34 | 55915.0 | -44920.0 | 19820519 | 19820909 | 570 | 記録保存調査<br>共同住宅建築 |
| だざいふじょうぼうあと<br>大宰府条坊跡　第 53 次 | 右郭 12 条 2 坊 | とおのこが<br>大字通古賀 | 402214 | 210050-53 | 55845.0 | -45030.0 | 19850801 | 19850914 | 137 | 記録保存調査<br>共同住宅建築 |
| だざいふじょうぼうあと<br>大宰府条坊跡　第 54 次 | 右郭 12 条 2 坊 | とおのこが<br>大字通古賀 | 402214 | 210050-54 | 55860.0 | -45005.0 | 19850729 | 19851108 | 140 | 記録保存調査<br>専用住宅建築 |
| だざいふじょうぼうあと<br>大宰府条坊跡　第 74-1 次 | 右郭 12 条 2 坊 | とおのこが<br>大字通古賀 | 402214 | 210050-74-1 | 55855.0 | -44952.0 | 19880709 | 19880713 | 57 | 記録保存調査<br>共同住宅建築 |
| だざいふじょうぼうあと<br>大宰府条坊跡　第 74-2 次 | 右郭 12 条 2 坊 | とおのこが<br>大字通古賀 | 402214 | 210050-74-2 | 55875.0 | -44950.0 | 19890508 | 19890509 | 28 | 記録保存調査<br>共同住宅建築 |
| だざいふじょうぼうあと<br>大宰府条坊跡　第 173 次 | 右郭 13 条 3 坊 | とおのこが<br>通古賀 5 丁目 | 402214 | 210050-173 | 55748.0 | -45092.0 | 19950927 | 19951003 | 28 | 記録保存調査<br>共同住宅建築 |
| だざいふじょうぼうあと<br>大宰府条坊跡　第 305 次 | 右郭 13 条 1 坊 | とおのこが<br>通古賀 6 丁目 | 402214 | 210050-305 | 55735.0 | -44830.0 | 20140714 | 20140715 | 5.8 | 記録保存調査<br>道路拡幅 |
| だざいふじょうぼうあと<br>大宰府条坊跡　第 308 次 | 右郭 9 条 3 坊 | とおのこが<br>通古賀 5 丁目 | 402214 | 210050-308 | 56175.0 | -45111.0 | 20141217 | 20150216 | 208 | 記録保存調査<br>共同住宅建築 |

| 所収遺跡名 | 遺跡種別 | 時代 | 主要遺構 | 主要遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大宰府条坊跡<br>第 34 次 | 都城 | 奈良、平安 | 溝、土坑 | 輸入陶磁器、墨書土器<br>イスラム陶器、金属製品 | 大宰府条坊最初の確認地点 |
| 大宰府条坊跡<br>第 53 次 | 都城 | 飛鳥、奈良<br>平安 | 井戸、土坑、溝 | 須恵器、土師器、灰釉陶器 | |
| 大宰府条坊跡<br>第 54 次 | 都城 | 飛鳥、奈良<br>平安 | 掘立柱建物、土坑<br>溝 | 須恵器、土師器、都城系土師器<br>石帯 | |
| 大宰府条坊跡<br>第 74-1 次 | 都城 | 奈良、平安 | 土坑 | 土師器、緑釉陶器、軒平瓦 | |
| 大宰府条坊跡<br>第 74-2 次 | 都城 | 奈良、平安 | 井戸、土坑 | 白磁、須恵器、篠窯須恵器<br>土師器 | |
| 大宰府条坊跡<br>第 173 次 | 都城 | 平安 | 土坑 | 土師器、須恵質土器 | |
| 大宰府条坊跡<br>第 305 次 | 都城 | 平安 | 堆積層 | 土師器、白磁 | |
| 大宰府条坊跡<br>第 308 次 | 都城 | 奈良、平安 | 氾濫原、流路 | 須恵器、土師器、文様塼<br>黒色土器硯 | |


太宰府市の文化財　第 131 集

大宰府条坊跡 47

- 第 34・53・54・74・173・305・308 次調査 -

平成 29（2017）年 3 月

編集　太宰府市教育委員会

発行　太宰府市観世音寺 1-1-1

印刷　大成印刷株式会社

福岡市博多区東那珂 3 丁目 6 番 62 号